

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 564 集

しもかわら
下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査

2011

岩手県盛岡広域振興局農政部農村整備室

(財)岩手県文化振興事業団

下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査



12世紀の墓堂と推定される建物跡



P242 柱穴で出土した 12 世紀の土器



SD01 溝で出土した 12 世紀の国産陶器 (557・558)



SK124 土坑で出土した 12 世紀の土器

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、経営体育成基盤整備事業南日詰地区に関連して平成19・20年度に発掘調査された、下川原Ⅰ遺跡と下川原Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、平安時代の竪穴住居や土坑、溝などが数多く見つかかり、当時の集落の存在が明らかとなりました。また、平泉藤原氏が栄えた12世紀代の遺構として、廃棄場、墓域、溝、大形建物跡と想定される柱穴群、かわらけの一括埋納土坑などが見つかっています。下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡の所在する紫波町は、平泉藤原氏の分家である比爪氏の所領であり、比爪氏と藤原氏の関連性、12世紀代の葬送などの研究分野における新たな基礎資料を追加できたものと考えられます。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県盛岡広域振興局農政部農村整備室をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成23年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田 克典

例 言

- 1 本報告書は、岩手県紫波郡紫波町南日詰字八坂 204 ほかに所在する下川原Ⅰ遺跡、南日詰字下川原 118-3 ほかに所在する下川原Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は「経営体育成基盤整備事業南日詰地区」に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県盛岡地方振興局農政部農村整備室（現岩手県盛岡広域振興局農政部農村整備室）との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。なお、費用負担は岩手県教育委員会が岩手県盛岡広域振興局農政部に農家負担分を補助している。
- 3 調査成果の概略は、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 524 集『平成 19 年度発掘調査報告書』及び、同 546 集『平成 20 年度発掘調査報告書』に公表しているが、本書の内容を優先するものとする。
- 4 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡コード番号並びに遺跡略号は、以下の通りである。
下川原Ⅰ遺跡 LE 77 - 2159 / S K W I - 07・08
下川原Ⅱ遺跡 LE 77 - 2198 / S K W II - 08
- 5 調査期間・調査面積・整理期間・担当者は、以下の通りである。
平成 19 年度 平成 19 年 7 月 30 日～10 月 31 日 / 4,437㎡ / 平成 20 年 2 月 1 日～3 月 31 日
米田 寛・吉田泰治
平成 20 年度 平成 20 年 4 月 10 日～11 月 21 日 / 18,047㎡ / 平成 20 年 11 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
川又 晋・八重畑ちか子・小林弘卓
- 6 本報告書の執筆は、Ⅰ-1 が岩手県盛岡広域振興局農政部農村整備室、Ⅰ-2・Ⅲが米田・川又、Ⅱが吉田・米田、Ⅳが米田、Ⅴが川又・八重畑、Ⅶが米田・川又で行った。Ⅵは外部の分析機関が執筆したものに米田・川又が補足した。編集・校正は米田・川又・八重畑が行った。
- 7 出土遺物の鑑定・分析及び業務委託は次の機関に委託した（敬称略）。
国産陶器……………柴垣勇男（愛知淑徳大学教授・静岡大学名誉教授）
井上喜久男（愛知県陶磁資料館）
種子同定……………吉川純子（古代の森研究舎）
土壌理化学分析……………パリノ・サーヴェイ株式会社
土器・陶器胎土分析……………株式会社第四紀地質研究所
プラント・オパール分析……………株式会社火山灰考古学研究所
基準点測量……………北栄調査設計株式会社
航空写真撮影……………東邦航空株式会社
- 8 発掘調査と報告書作成にあたっては、以下の方々に御教示と御協力を頂いた（順不同、敬称略）。
紫波町教育委員会、紫波町郷土史同好会、平泉町教育委員会、平泉文化遺産センター、高橋 誠、八重樫忠郎、及川 司、菅原計二、鈴木江利子、島原弘征、鈴木博之、戸根貴之、井上雅孝、酒井宗孝、狭川真一、工藤雅樹、石崎高臣、高橋與右衛門
- 9 本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I 調査に至る経過

1 調査経緯	1
2 調査経過	
(1) 平成19年度調査	2
(2) 平成20年度調査	2

II 立地と環境

1 遺跡の位置	3
2 地理的環境	3
3 歴史的環境	5
4 基本層序	
(1) 平成19年度調査区	13
(2) 平成20年度調査区	15

III 調査・整理の方法

1 発掘調査の方法	17
2 整理作業の方法	
(1) 遺構	18
(2) 遺物	18
3 記載方法と凡例	
(1) 遺構	19
(2) 遺物	20

IV 平成19年度調査成果

1 概要	
(1) E区概要	23
(2) F区概要	23
(3) G区概要	23
(4) H区概要	24
2 検出遺構	
(1) 竪穴住居跡	25

(2) 中世墓関連遺構	29
(3) 掘立柱建物跡	36
(4) 柱 穴 列	38
(5) 溝 跡	38
(6) 近 世 墓 壙	42
(7) 陥し穴状土坑	43
(8) カマド状土坑	44
(9) 土 坑	44
(10) 柱穴状土坑群	47
(11) 廃 棄 場	52

3 出 土 遺 物

(1) 土師器・須恵器	54
(2) 中 世 土 器	55
(3) 国 産 陶 器	55
(4) 輸 入 磁 器	56
(5) 金 属 製 品	56
(6) 粘 土 塊	57
(7) 縄文土器・土製品	57
(8) 石器・線刻礫	57

V 平成 20 年度調査成果

1 概 要	77
-------	----

2 検 出 遺 構

(1) 豎穴住居跡	78
(2) 豎穴住居状遺構	83
(3) 柱穴状土坑群	85
(4) 掘立柱建物跡	85
(5) 土 坑	86
(6) 陥し穴状土坑	95
(7) 溝 跡	96
(8) 焼 土	103
(9) そ の 他	104

3 出 土 遺 物

(1) 土師器・須恵器	105
(2) 中 世 土 器	106
(3) 陶 磁 器	106
(4) 金 属 製 品	106
(5) 粘土塊(壁土)	107
(6) 縄 文 土 器	107
(7) 石器・石製品	108

VI 自然科学分析

1 目的と方法

- (1) 植物化石同定……………233
- (2) 土壤理化学分析……………233
- (3) 土器・陶器胎土分析……………233
- (4) プラントオパール分析……………233

2 下川原 I 遺跡墓域堆積物の分析

- (1) はじめに……………234
- (2) 結果と考察……………234

3 下川原 I 遺跡 F 区 8 号土坑の内容物について

- (1) はじめに……………234
- (2) 試料……………234
- (3) 分析方法……………235
- (4) 結果……………235
- (5) 考察……………236

4 下川原 I・II 遺跡の土器・陶器胎土分析

- (1) 実験条件……………236
- (2) X線回折試験結果の取扱い……………237
- (3) X線回折試験結果……………238
- (4) 化学分析結果……………239
- (5) まとめ……………240

5 下川原 I 遺跡第 2 次調査のプラントオパール分析

- (1) はじめに……………249
- (2) 試料……………249
- (3) 分析法……………249
- (4) 分析結果……………249
- (5) 考察……………250
- (6) まとめ……………250

6 評価

- (1) 植物化石同定……………253
- (2) 土壤理化学分析……………253
- (3) 土器・陶器の胎土分析……………253
- (4) プラントオパール分析……………254

VII 総括

1 平成 19 年度調査成果

- (1) 概要……………255
- (2) 遺構……………255
- (3) 遺物……………263

2 平成20年度調査成果	
(1) 縄文時代	264
(2) 平安時代前半	265
(3) 平安時代末	266
(4) その他・時期不明	266
(5) 平成3年度調査遺構との関連	266
3 平成19・20年度調査概略	267
報告書抄録	401

図版目次

第1図 遺跡の位置	4	第34図 柱穴状土坑群6	50
第2図 地形分類図	6	第35図 1号廃棄場	53
第3図 周辺の遺跡分布図	8	第36図 土師器・須恵器1～14	58
第4図 明治時代の地籍図	12	第37図 土師器・須恵器15～32	59
第5図 基本層序	14	第38図 土師器・須恵器33～47	60
第6図 凡例図	20	第39図 土師器・須恵器48～64	61
第7図 調査区全体図	21	第40図 土師器・須恵器65～74、 中世土器75～93	62
第8図 平成19年度調査区	22	第41図 中世土器94～129	63
第9図 F区遺構配置図	24	第42図 中世土器130～167	64
第10図 1号竪穴住居跡	25	第43図 陶器168～192	65
第11図 1号竪穴住居跡カマド	26	第44図 陶器193～208	66
第12図 2号竪穴住居跡	27	第45図 磁器209～213・金属製品214～222	67
第13図 2号竪穴住居跡カマド	28	第46図 石器223～232	68
第14図 1号堂跡関連施設(1)	30	第47図 土製品・線刻礫・粘土塊・縄文土器 233～241	69
第15図 1号堂跡関連施設(2)	31	第48図 等高線、基準杭位置図	125
第16図 2号堂跡関連施設	33	第49図 遺構配置図割付	126
第17図 7・8号土坑	35	第50図 遺構配置図1(調査区北側)	127
第18図 3号掘立柱建物跡	36	第51図 遺構配置図2(調査区中央)	128
第19図 4号掘立柱建物跡	37	第52図 遺構配置図3(調査区南側)	129
第20図 2号柱穴列	38	第53図 遺構配置図4・6	130
第21図 1号溝跡	39	第54図 遺構配置図5	131
第22図 2号溝跡	40	第55図 遺構配置図7・9	132
第23図 3号溝跡	41	第56図 遺構配置図8	133
第24図 4・5号溝跡、1号近世墓壙	42	第57図 遺構配置図10・14	134
第25図 1～3号陥し穴状土坑	43	第58図 遺構配置図11	135
第26図 1号カマド状土坑	44	第59図 遺構配置図12	136
第27図 9～12号土坑	45	第60図 遺構配置図13	137
第28図 柱穴状土坑群1(1)	46	第61図 遺構配置図15・16	138
第29図 柱穴状土坑群1(2)	47	第62図 遺構配置図17	139
第30図 柱穴状土坑群2	48	第63図 遺構配置図18・19	140
第31図 柱穴状土坑群3	48	第64図 遺構配置図20・21	141
第32図 柱穴状土坑群4	49		
第33図 柱穴状土坑群5	49		

第 65 図	遺構配置図22・23	142	第110図	S K T 107~112	187
第 66 図	遺構配置図24・25	143	第111図	S K T 113~118	188
第 67 図	遺構配置図26	144	第112図	S K T 119~124	189
第 68 図	遺構配置図27	145	第113図	S D 01・04・06	190
第 69 図	遺構配置図28・29	146	第114図	S D 07・08・10・11・15・16	191
第 70 図	遺構配置図30	147	第115図	S D 12~14・21	192
第 71 図	遺構配置図31・35	148	第116図	S D 17・19・20	193
第 72 図	遺構配置図32	149	第117図	S D 22・23	194
第 73 図	遺構配置図33	150	第118図	S D 24・25・27・28	195
第 74 図	遺構配置図34	151	第119図	S D 30~32	196
第 75 図	S I 02	152	第120図	S D 26・29・33・34	197
第 76 図	S I 03	153	第121図	S D 35~37	198
第 77 図	S I 04	154	第122図	S D 101~103	199
第 78 図	S I 05	155	第123図	S D 104~106	200
第 79 図	S I 05 カマド (1)	156	第124図	S D 108~111	201
第 80 図	S I 05 カマド (2)	157	第125図	S D 112~115	202
第 81 図	S I 06	158	第126図	S N 01~05	203
第 82 図	S I 01・07	159	第127図	S N 06~09	204
第 83 図	S I 103	160	第128図	S N 10~12	205
第 84 図	S I 103 カマド、S I 101	161	第129図	S N 101・102	206
第 85 図	S I 104	162	第130図	S X 01・106	207
第 86 図	S I 105・107	163	第131図	土師器・須恵器 351~366	208
第 87 図	S K I 01~03	164	第132図	土師器・須恵器 367~384・416	209
第 88 図	S K I 101・102	165	第133図	土師器・須恵器 385~392	210
第 89 図	S K I 103・104	166	第134図	土師器・須恵器 393~400・417~420	211
第 90 図	S B 01	167	第135図	土師器・須恵器 401~415	212
第 91 図	B 3 区柱穴群 (1)	168	第136図	土師器・須恵器 421~430・440~442	213
第 92 図	B 3 区柱穴群 (2)	169	第137図	土師器・須恵器 431~435	214
第 93 図	B 3 区柱穴群 (3)	170	第138図	土師器・須恵器 436~439・443~445	215
第 94 図	B 3 区柱穴群 (4)	171	第139図	土師器・須恵器 446~453・455・456	216
第 95 図	B 3 区柱穴群 (5)	172	第140図	土師器・須恵器 454・457・459・461	217
第 96 図	S K 01~03・09~13・16	173	第141図	土師器・須恵器 458・460・462~465	218
第 97 図	S K 14・15・17~23	174	第142図	土師器・須恵器 466~471	219
第 98 図	S K 24~31	175	第143図	土師器・須恵器 753~760	220
第 99 図	S K 32~34	176	第144図	土師器・須恵器 751・752・ 761~772	221
第100図	S K 101・103~105・108・109	177	第145図	土師器・須恵器 773~779	222
第101図	S K 110・111・113・114	178	第146図	土師器・須恵器 780~787	223
第102図	S K 115~120	179	第147図	中世土器 501~515	224
第103図	S K 121~124	180	第148図	中世土器 516~521・801~809	225
第104図	S K 125~130	181	第149図	中世土器 810~834	226
第105図	S K 131~134	182	第150図	陶磁器 551~566・851・852	227
第106図	S K T 01~06	183	第151図	縄文土器 301~306、石器 604・606	228
第107図	S K T 07~12	184	第152図	縄文土器 701~709	229
第108図	S K T 13~17・125	185	第153図	石器・石製品 601~603	
第109図	S K T 101~106	186			

605・607・901	……………	230	第163図	$Fe_2O_3-TiO_2$ 図	……………	248	
第154図	金属製品 651~662	……………	231	第164図	K_2O-CaO 図	……………	248
第155図	金属製品 951~960	……………	232	第165図	S X 01 断面における プラント・オパール分析結果	……………	251
第156図	下川原 I 遺跡より出土した種子	……………	234	第166図	植物珪酸体 (プラント・オパール) の 顕微鏡写真	……………	252
第157図	三角ダイヤグラム位置分類図	……………	247	第167図	餓鬼草紙にみる墳墓形態	……………	258
第158図	菱形ダイヤグラム位置分類図	……………	247	第168図	中世の骨堂	……………	258
第159図	M o - M i - H b 三角ダイヤグラム	……………	247	第169図	下川原 I 遺跡の墓堂想定図	……………	258
第160図	M o - C h 、 M i - H b 菱形ダイヤグラム	……………	247	第170図	東北地方における中世前期の 墓堂発掘調査事例	……………	261
第161図	Q t - P l 図	……………	248				
第162図	$SiO_2-Al_2O_3$ 図	……………	248				

表 目 次

第 1 表	周辺遺跡分布表	……………	10	第14表	20年度遺構外出土遺物一覧	……………	119
第 2 表	19年度柱穴状土坑計測表	……………	51	第15表	20年度遺物観察表 (土師器・須恵器)	……………	120
第 3 表	19年度遺物観察表 (土師器・須恵器・ 中世土器・陶磁器類)	……………	70	第16表	20年度遺物観察表 (中世土器)	……………	123
第 4 表	19年度遺物観察表 (金属製品・石器・ 土製品・縄文土器・粘土塊)	……………	76	第17表	20年度遺物観察表 (陶磁器)	……………	123
第 5 表	20年度遺構観察表 (竪穴住居跡)	……………	109	第18表	20年度遺物観察表 (縄文土器)	……………	124
第 6 表	20年度遺構観察表 (竪穴住居状遺構)	……………	109	第19表	20年度遺物観察表 (石器・石製品)	……………	124
第 7 表	20年度遺構観察表 (掘立柱建物)	……………	109	第20表	20年度遺物観察表 (金属製品)	……………	124
第 8 表	20年度遺構観察表 (土坑)	……………	110	第21表	土壤理化学分析結果	……………	235
第 9 表	20年度遺構観察表 (溝)	……………	111	第22表	胎土性状表	……………	242
第10表	20年度遺構観察表 (陥し穴)	……………	112	第23表	化学分析表	……………	243
第11表	20年度遺構観察表 (焼土)	……………	112	第24表	タイプ分類表	……………	244
第12表	20年度遺構観察表 (その他)	……………	112	第25表	組成分類表	……………	245
第13表	20年度遺構観察表 (柱穴状土坑)	……………	113	第26表	S X 01 断面における プラント・オパール分析結果	……………	251

写真図版目次

写真図版 1	下川原地区遠景 (昭和 23 年米軍撮影)	……………	270	写真図版 13	1~3号陥し穴状土坑、1号カマド状土 坑、9~12号土坑	……………	282
写真図版 2	航空写真	……………	271	写真図版 14	1号廃棄場・その他	……………	283
写真図版 3	調査前現況・基本土層・ 1号竪穴住居跡 (1)	……………	272	写真図版 15	土師器・須恵器 1~14	……………	284
写真図版 4	1号竪穴住居跡 (2)	……………	273	写真図版 16	土師器・須恵器 15~32	……………	285
写真図版 5	2号竪穴住居跡	……………	274	写真図版 17	土師器・須恵器 33~47	……………	286
写真図版 6	1号堂跡	……………	275	写真図版 18	土師器・須恵器 48~66	……………	287
写真図版 7	1号中世墓壇、1~3号土坑	……………	276	写真図版 19	土師器・須恵器 67~74、 中世土器 75~113	……………	288
写真図版 8	4~8号土坑	……………	277	写真図版 20	中世土器 114~151	……………	289
写真図版 9	2号堂跡・6・7号土坑	……………	278	写真図版 21	中世土器 152~167、 陶器 168~190	……………	290
写真図版 10	3・4号掘立柱建物跡	……………	279	写真図版 22	陶器 191~208、磁器 209~213	……………	291
写真図版 11	1~3号溝跡	……………	280	写真図版 23	金属製品 214~222	……………	292
写真図版 12	2号溝跡	……………	281				

写真図版24	石器・土製品・線刻礫・粘土塊・ 縄文土器223~245	293	写真図版68	S K 101・103~105・ 108~110・113	337
写真図版25	遺跡と周辺	294	写真図版69	S K 111	338
写真図版26	調査区全景	295	写真図版70	S K 114~119	339
写真図版27	調査区北側	296	写真図版71	S K 120~123	340
写真図版28	調査区中央	297	写真図版72	S K 124	341
写真図版29	調査区南側	298	写真図版73	S K 125~129	342
写真図版30	A 1・A 2区	299	写真図版74	S K 130・132~134	343
写真図版31	A 3・A 4区	300	写真図版75	S K 131・S N 102	344
写真図版32	B 1~B 3区	301	写真図版76	S N 03~10・12	345
写真図版33	B 4・C 1・D 1区	302	写真図版77	S N 101・S X 106	346
写真図版34	D 2・D 4区	303	写真図版78	S X 01	347
写真図版35	A 5・A 6区	304	写真図版79	S K T 01~04	348
写真図版36	A 7・A 8区	305	写真図版80	S K T 05~08	349
写真図版37	B 5~B 7区	306	写真図版81	S K T 09~12	350
写真図版38	B 7・B 8・C 5区	307	写真図版82	S K T 13~17	351
写真図版39	C 6~C 8区	308	写真図版83	S K T 101~104	352
写真図版40	C 9・C 10区	309	写真図版84	S K T 105~108	353
写真図版41	D 5・D 8・D 9区	310	写真図版85	S K T 109~112	354
写真図版42	S I 02 (1)	311	写真図版86	S K T 113~116	355
写真図版43	S I 02 (2)	312	写真図版87	S K T 117~120	356
写真図版44	S I 03	313	写真図版88	S K T 121~124	357
写真図版45	S I 04	314	写真図版89	S D 01	358
写真図版46	S I 05 (1)	315	写真図版90	S D 04・06~08	359
写真図版47	S I 05 (2)	316	写真図版91	S D 10 (1)	360
写真図版48	S I 05 (3)	317	写真図版92	S D 10 (2)・S D 11	361
写真図版49	S I 01・06	318	写真図版93	S D 12~14	362
写真図版50	S I 06・07	319	写真図版94	S D 16	363
写真図版51	S I 07	320	写真図版95	S D 17	364
写真図版52	S I 101・105	321	写真図版96	S D 17・19・23	365
写真図版53	S I 103 (1)	322	写真図版97	S D 24~27・29	366
写真図版54	S I 103 (2)	323	写真図版98	S D 30~34	367
写真図版55	S I 104	324	写真図版99	S D 36・37	368
写真図版56	S I 107	325	写真図版100	S D 101~104	369
写真図版57	S K I 01~03	326	写真図版101	S D 105・106・108	370
写真図版58	S K I 101	327	写真図版102	S D 109~111	371
写真図版59	S K I 102・103	328	写真図版103	S D 113~115	372
写真図版60	S K I 104	329	写真図版104	土師器・須恵器集合	373
写真図版61	B 3区柱穴群 (1)	330	写真図版105	土師器・須恵器351~366	374
写真図版62	B 3区柱穴群 (2)	331	写真図版106	土師器・須恵器367~385	375
写真図版63	B 3区柱穴群 (3)	332	写真図版107	土師器・須恵器386~395	376
写真図版64	S K 01~04・08~11・16	333	写真図版108	土師器・須恵器396~408	377
写真図版65	S K 12~15・17~20	334	写真図版109	土師器・須恵器409~419	378
写真図版66	S K 22~27	335	写真図版110	土師器・須恵器420~430	379
写真図版67	S K 28~34	336	写真図版111	土師器・須恵器431~437	380

写真図版112	土師器・須恵器438～445……………	381	写真図版123	中世土器801～815……………	392
写真図版113	土師器・須恵器446～454……………	382	写真図版124	中世土器816～834……………	393
写真図版114	土師器・須恵器455～460……………	383	写真図版125	土壁・陶器556・557……………	394
写真図版115	土師器・須恵器461～465……………	384	写真図版126	陶磁器551～555・558～566・ 851・852……………	395
写真図版116	土師器・須恵器466～471……………	385	写真図版127	縄文土器301～306……………	396
写真図版117	土師器・須恵器751～758……………	386	写真図版128	縄文土器701～709……………	397
写真図版118	土師器・須恵器759～772……………	387	写真図版129	石器・石製品601～607・901……………	398
写真図版119	土師器・須恵器773～779……………	388	写真図版130	金属製品651～662……………	399
写真図版120	土師器・須恵器780～787……………	389	写真図版131	金属製品951～960……………	400
写真図版121	中世土器集合……………	390			
写真図版122	中世土器501～521……………	391			

I 調査に至る経過

1 調査経緯

下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡は、「経営体育成基盤整備事業南日詰地区」のほ場整備工事に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本事業地区は、紫波郡紫波町南日詰に位置し、東側を北上川、南側を滝名川、西側を国道4号線に囲まれた約90haの水田地帯である。ほ場の区画整理、用水路のパイプライン化、道路及び排水路の拡幅、新設により、高生産性農業の確立による地域農業の持続的発展及び生活環境の向上に資することを目的として、平成12年度より事業を実施している。

当事業の施工にかかる埋蔵文化財の取扱いについては、盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所から平成10年10月23日付盛農整第1043号「ほ場整備事業における埋蔵文化財の試掘調査について(依頼)」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成10年11月16・17日、12月7～9日に試掘調査を実施し、工事に着手するには下川原遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成10年12月16日付教文第1001号「ほ場整備事業南日詰地区に関する埋蔵文化財の試掘調査について(回答)」により回答してきた。

さらに、発掘区域を確定させるため、盛岡地方振興局農政部農村整備室から平成18年9月28日付盛地農整第470号「経営体育成基盤整備事業実施計画における埋蔵文化財の試掘調査について(依頼)」により岩手県教育委員会に対して追加試掘調査の依頼を行った。

追加試掘調査依頼を受けた岩手県教育委員会は平成18年10月5・6・10日に試掘調査を実施し、発掘調査が必要となる範囲を平成18年11月2日付教生第1043号「埋蔵文化財の試掘調査について(回答)」により当農村整備室へ回答してきた。

その結果をふまえて当農村整備室は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成20年4月1日付で財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

なお、岩手県盛岡地方振興局農政部農村整備室は、岩手県広域振興局再編に伴い、平成22年度より岩手県盛岡広域振興局農政部農村整備室として事業継続がなされている。

(岩手県盛岡広域振興局農政部農村整備室)

2 調査経過

(1) 平成19年度調査

発掘調査は、平成19年7月30日から開始した。平成19年度調査区は、4,437㎡(本調査面積2,447㎡、確認調査面積1,990㎡)で下川原地区の北部に位置する。9月17・18日には、北上川の洪水によって遺跡全域が冠水し大きな被害を被った。9月26日には現地公開を行い、周辺住民の方々を中心に約30名の参加があった。現地公開の様子は、12世紀代の墓関連遺構について新聞で大きく取り上げられた。調査中は、ほ場整備事業が遺跡範囲外において断続的に行われていたが、その進展状況と住民の麦作付け時期、遺跡調査の目途等の要素が重なり、10月9日に2,616.5㎡の部分終了確認検査を受けた。10月29日にすべての調査区の終了確認検査を受け、10月30日に野外調査を終了し、撤収した。

(米田)

(2) 平成20年度調査

平成20年4月10日、資材搬入、調査開始。当初の調査体制は調査員2名、登録作業員24名。調査区と周辺には小麦の作付が開始されていた。4月16日、東側のA2～A4区からバックホーによる表土除去を開始する。

5月21日、西側C5～C9区表土除去開始。5月29日、A5～A7区表土除去開始。

6月13日、中央B2・B3区表土除去開始。6月16日、山王海土地改良区職員現場視察(参加者15名)。6月20日、部分終了確認(1回目、対象A2～A7・C5～C9区)、航空写真撮影(1回目)。

7月8日、D3・D4区表土除去開始。小麦の収穫が終わる。7月15日、B2・B3区のU字溝撤去開始。7月17日、甘木地区住民説明会(参加者30名)。B4～B6・D5区表土除去開始。

8月11日、B1区表土除去開始。8月20日、A1区表土除去開始。8月27日、D1・D2区表土除去開始。

9月3日、八坂神社例大祭。9月4日、C1区表土除去開始。9月10日、B7・D6・D7区表土除去開始。9月24日、B8・D8区表土除去開始。協議により、次年度の調査予定範囲だったA9・C9区以南の調査を平成20年度中に行うことが決定される。

10月3日、作業員1名追加(計25名)。10月10日、現地公開(参加者72名)。14日、航空写真撮影(2回目)。16日、調査員1名追加、作業員5名追加(計30名)。A8～A10区表土除去開始。10月22日、部分終了確認(2回目、対象A1・B1～B8・C1・C4・D1～D8区)。28日、バックホーによる表土除去終了。

11月11日、部分終了確認(3回目、対象A8～A10・C10・D9区)。11月20日、降雪の中、最後の埋め戻し作業が終了。11月21日、資材撤収し調査終了。

(川又)

Ⅱ 立地と環境

1 遺跡の位置

下川原Ⅰ遺跡、下川原Ⅱ遺跡は岩手県紫波町に所在する。紫波町は東と南を花巻市、北を矢巾町と盛岡市、西を雫石町と接し、総面積 238.32km²、人口 34,172 人（平成 22 年度集計）を有する。

紫波町は古くから街道沿いの宿場町として、また、稲作の盛んな土地として栄えた。町域は岩手県を南北に流れる北上川に二分される。北上川は有史以来たびたび洪水を引き起こし、紫波町にもその都度、被害をもたらしてきた。一方で北上川の氾濫は広大な氾濫平野を作り出し、平野部には人口の密集地や水田・畑作地帯が形成されている。町内の 2 級河川は、北上川に向かってほぼ東西方向に流れる。このうち北上川以西からは滝名川、太田川などが流れ、その流域には扇状地や段丘が発達している。

本書で報告する 2 遺跡は、現在紫波町役場が所在する紫波町日詰字西裏から約 4 km 南東に位置し、北上川西岸の氾濫平野部に所在する。遺跡は西側を流れる滝名川と、東側を流れる北上川の合流点付近に位置し、水田や畑が広がっている。昭和 23 年撮影の米軍空中写真（写真図版 1）からは、当ても現在とほぼ同じ状況の田園風景が広がっていたことが確認できる。なお、各遺跡の所在する住所および地番は以下の通りである。

下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡の現況は大半が水田・畑地で、宅地は限定的である。下川原Ⅰ遺跡範囲内に八坂神社があり、神社を囲む杉林が田園風景のなかで一際目立った存在である。第二次大戦後には数回にわたるほ場整備によって水田・畑地の区画整備や水路・農道整備が行われて現在に至る。

眺望環境として、北に岩手山、東に早池峰山、西には東北新幹線を臨むことができる。

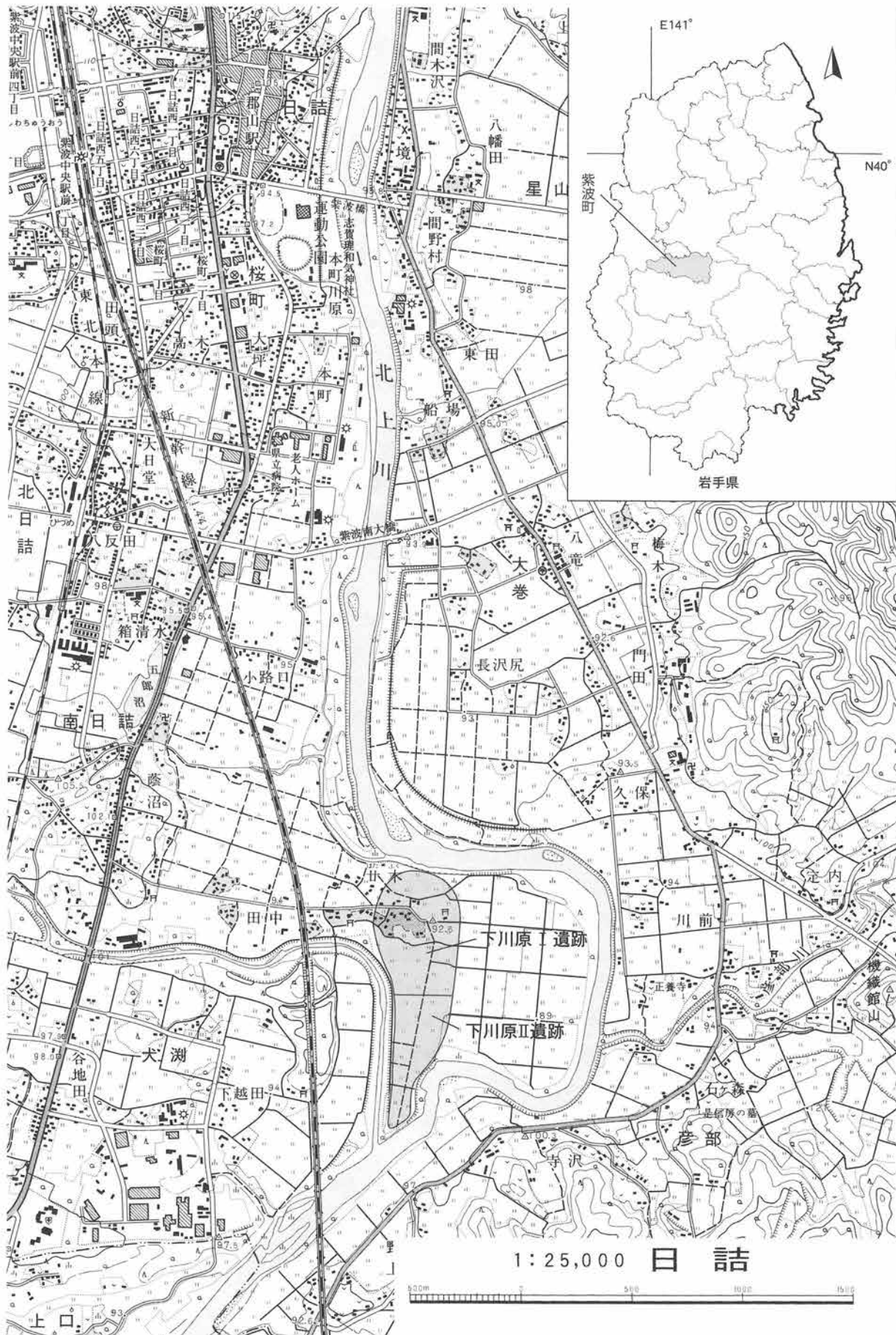
2 地理的環境

遺跡周辺の地質や段丘については、『南日詰遺跡発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004）において記載しているものと一致するため、これを以下に再録する。

紫波町は北上川中流域北部に位置し、北上川以西には広汎な段丘群が発達している。これは奥羽山脈に源を発する滝名川、太田川などの支流によって形成された大小の扇状地や旧河原が段丘化したものである。これらの段丘は中川久夫ほか（1963）によって、石鳥谷段丘（上位段丘）、二枚橋段丘（中位段丘）、都南段丘（低位段丘）の 3 つに区分されている（中川ほか 1963）。

上位段丘は、西部山地東縁の山麓部に断片的に分布するほか、北上川河谷平野の中央、日詰付近にも孤立的に見られる。日詰付近でこの段丘は 3 m 以上の砂・粘土を伴う礫層と、これを覆う厚さ 1 m 前後の火山灰層で構成され、構成礫層の風化は著しく進んでいる。これは前述の石鳥谷段丘にあたり、構成礫層は日詰礫層と呼ばれ、砂礫堆積段丘を呈している。

中位段丘は、上位段丘の前面に拡がり、極めて広範囲に発達する。北日詰の八掛付近の中位段丘は厚さ 3.5 m 以上の堆積物からなり、堆積物の上部 1.5 m は灰白色粘土で、その下位に礫層が続いている。この付近では開析によって段丘面が相当分割されている。一方、日詰以北の中位段丘は未だ開析が進まず、広い段丘面を残している。そして、日詰以北のものは構成層を欠くこともあり、日詰以南の中位段丘とは性格を異にする。中川久夫ほか（1963）は、日詰以北の中位段丘面は日詰以南に分布



第1図 遺跡の位置

する前述の二枚橋段丘が削剥されて生じた侵食面であるとし、花巻段丘と呼んで両者を区分している。

下位段丘は、北上川本・支流沿いに分布し、特に日詰以北の北上川右岸に大規模に認められる。日詰より上流側では一般に段丘崖の比高差は小さく、崖地形の不明瞭な部分も多いが、日詰以南では下流に向かって現河床及び谷底平野面との比高差を増してゆく傾向がある。礫及び砂混じり粘土よりなり、構成物の厚さは数m以下である（東郷正美 1974）。

以上の記載を踏まえて下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡の位置を確認すると、本遺跡は南日詰遺跡が所在する二枚橋段丘縁辺部から北上川にかけて広がる氾濫平野上に位置することになる。

紫波町の地質は、中央部の盛岡－白川構造線が走る北上川低地帯によって、西半部の新第三系以後の岩石の造る背陵山地と、東半部の古生層、中生層からなる北上山地とに二分されている。

東半部の古生層は、粘板岩・輝緑凝灰岩・チャートからなる北部型古生層及び粘板岩・石灰岩・輝緑凝灰岩・チャートからなる南部型古生層で、両者は沢口山・朝島山から早池峰山へと連なる早池峰超塩基性岩によって分けられている。北上山地には、花崗岩類と斑糲岩類の岩体が分布し、背陵山地には花崗岩類の小岩体が分布する。

西半部の地層は、第三紀中新世のグリーン・タフ活動による安山岩質～流紋岩質岩石が広く分布し、これらに第四紀の安山岩類が岩株状に貫入している。また、南北性の第四紀以後に活動したと見られる断層の東側には凝灰質砂岩・頁岩が分布する。

中央部には複合扇状地と段丘群が広く発達し、北上川には広い沖積地が分布している。また、背後及び北上山地には河谷沿いに沖積層、扇状地、段丘堆積物、崖錘性堆積物が分布し、新期火山性ローム層が各所に見られる（目加田義正 1974）。

今回の発掘調査範囲を含むほ場整備事業地区は、南日詰地区のうち「田中」、「甘木」、「八坂」、「下川原」など広範囲に及び、ほぼ平坦な水田・畑作地帯が広がる。北上川と滝名川に挟まれたこの地域の地形は、河川洪水と密接な関係性をもつ。遺跡周辺は北上川の蛇行によって袋状の地形が東側に張り出している。この袋状の範囲は現在水田として利用されているが、かつては後背湿地であったと考えられる。遺跡範囲の地形は上述のごとく北上川によって形成された氾濫平野（低地帯）であり、北から順に、①北上川と接する自然堤防、②後背湿地、③低位の低地面、④高位の低地面からなる。標高は①の頂部が約 91 m、②が約 89 m、③が約 91 m、④が約 93m 程度である。①の自然堤防は北上川流路のアタック斜面地に形成されているが、下川原Ⅰ遺跡の北部に位置する堤防幅は約 20～30 m である。②の後背湿地は大半が水田で、自然堤防との境界付近には雑木林が形成されている。洪水砂層と粘土層、錆化した鉄分を多く含む層、グライ化層など、沼地環境によく観察される地層が広がっている。③の低位の低地面は②と最大比高差で約 3 m ある。水田・畑地であるが、耕作による削平が進み、耕作土以外の堆積層は非常に薄く、砂礫層が露出している場所も散見される。④の高位の低地面には、畑地のほか宅地・八坂神社など居住空間が形成されている。遺構・遺物の多くは④の高位の低地面で多く確認できた。また、②の後背湿地には 12 世紀代の廃棄場が形成されていた。

3 歴史的環境

下川原Ⅰ遺跡の周囲には、多くの遺跡が所在する。このうち遺跡より半径 5 km 以内の区域に分布する 145 遺跡のうち主な遺跡について概観する（第 1 表、第 3 図）。

旧石器・縄文時代

旧石器時代に属する遺跡は、確認されていない。

縄文時代として登録されている遺跡は45か所で、滝名川流域・北上川東岸を中心にほぼ全域に分布している。時代が特定できる縄文時代の遺跡のみで見ると、集落遺跡としては西田・西田東（犬渕字西田）の2遺跡があり、他はいずれも散布地である。草創期・早期の遺跡はない。西田遺跡は、大木8式の土器を伴う縄文中期中葉を中心に営まれた遺跡であるが、前期末の大木6式も出土し、現時点では唯一の前期に営まれた遺跡である。中期・後期は東西の山裾に継続して営まれた多数の遺跡が分布するようになり、それに挟まれたこの区域も最も遺跡の多い時期となる。中期は西田遺跡を含め7か所が確認されており、尻掛遺跡（土館字新里）・南日詰遺跡（南日詰字蔭沼ほか）は中期前葉に属する。後期は、中期から続く片寄越田（片寄字越田）・定内（彦部字城内）・尻掛遺跡を含む7遺跡がある。晩期になるとやや遺跡数が減少し、後期から続く馬頭遺跡（石鳥谷町字好地）を含む4か所がある。北日詰城内I遺跡（北日詰字城内）は、晩期中ごろの大洞C1～C2式土器・石棒・有孔石製品等が出土している。このほか、古代の遺跡として登録されている下川原II遺跡でも、開田の際に大量の土器が出土したという記録がある。なお、平成19年度下川原I遺跡調査によって、晩期末の土器片、土偶が確認されている。

弥生・古墳時代

弥生時代は、紫波町では大明神遺跡など西の山裾を中心に遺物出土の記録があり、花巻市石鳥谷町では大瀬川館II遺跡・上高地遺跡の登録があるが、いずれも第3図の区域外である。

古墳時代は、暮坪遺跡（彦部字暮坪）に径5m・高さ1.3mの円墳があったと伝えられているが、開田のため原形はなく、その詳細は不明となっている。

古代・中世・近世

古代に属する遺跡は、北は陣ヶ岡周辺から南は北上川・耳取川・稗貫川の合流地点まで密集しており、当時の遺跡が82か所を数える。

奈良時代の遺跡として確認されているのは、彦部の寺沢遺跡である。

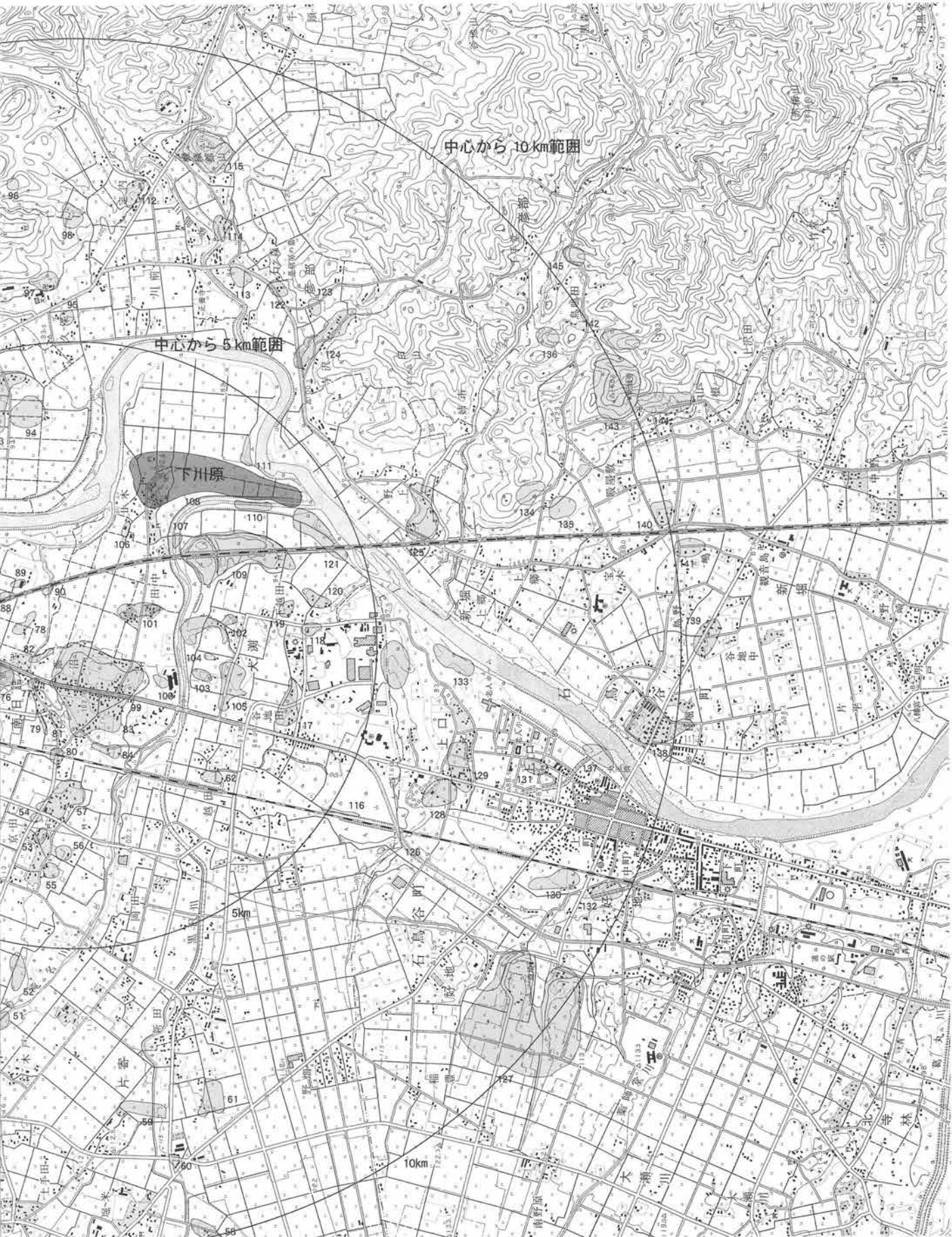
平安時代は、52遺跡が確認されている。田頭遺跡（桜町字田頭）では平安初頭の竪穴住居、下川原II遺跡・西田東遺跡では9世紀末から10世紀に営まれた集落が確認されている。西田東遺跡では漁労具が出土しているほか、土鈴や施釉陶器など日用品以外の出土もあり、官衙や祭祀との関連も窺われる。10世紀の遺跡は他に南日詰遺跡、集落と確認された日詰下丸森遺跡（日詰字下丸森）、焼失住居や土師器が確認された犬渕谷地田南遺跡（犬渕字谷地田）、中～後葉の竪穴住居が検出された暮坪遺跡などがある。また、中世に属すると登録されている金館（片寄字木戸）からも10世紀の遺物が出土している。

11世紀には、前九年合戦に登場する安部氏が奥六郡を支配する。紫波町内では伝善知鳥館（南日詰字滝名川）が安部氏関連の居館跡とする説もあるが、現時点でそれを裏付ける遺構は検出されていない。

奥州藤原氏が勢力をもった平安時代末の12世紀、北方世界との境界に面し、砂金と馬の産地として要所であったこの地は、藤原清衡の四男清綱を祖とするとされる樋爪氏が支配した。この時代に属する遺跡は10か所ある。『吾妻鏡』において樋爪氏の居館とされている「比爪館」は、諸説あったものの、現在では発掘調査の成果等から南日詰箱清水にあったと考えられている。また紫波町山屋に所



第3図 周辺



の遺跡分布図



第3図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺遺跡分布表

No	遺跡名	時代	所在地
1	平沢越場Ⅱ	平安	平沢字越場
2	平沢堤頭Ⅱ	平安	平沢字堤頭, 字川又
3	日詰上新田	古代	日詰字上新田
4	桜町下野沢	平安	桜町字下野沢
5	桜町上野沢	縄文・平安	桜町字上野沢
6	南七合Ⅰ	平安	稲藤字南七合
7	南七合Ⅱ	平安	稲藤字南七合
8	平沢楡Ⅰ	平安	平沢字楡
9	平沢楡Ⅴ	平安	平沢字楡
10	伝平沢館	平安	平沢字館
11	平沢幅Ⅰ	縄文・古代	平沢字幅
12	平沢堤頭Ⅰ	縄文・平安	平沢字堤頭, 字川又
13	平沢楡Ⅱ	平安	平沢字楡
14	平沢楡Ⅲ	縄文・平安	平沢字楡, 字川又
15	平沢幅Ⅱ		平沢字幅, 字境田 字の場
16	平沢境田	古代	平沢字境田
17	平沢四折	古代	平沢字四折
18	平沢新田Ⅰ	縄文・古代	平沢字新田
19	平沢新田Ⅱ	古代	平沢字新田
20	平沢野田Ⅰ	縄文・古代	平沢字野田
21	平沢松田	古代	平沢字松田, 字佐藤部
22	北日詰牡丹野	縄文	北日詰字牡丹野
23	吉兵衛館	中・近世	二日町字向山
24	戸部御所	中世	二日町字南七久保
25	日詰下丸森	古代	日詰字下丸森
26	日詰下野沢		日詰字下野沢
27	間木沢		大吠森字間木沢
28	桜町中桜Ⅰ	縄文・古代	桜町字中桜
29	西裏	古代	日詰字牡丹野
30	日詰牡丹野	古代	日詰字牡丹野
31	平沢松田Ⅲ	古代	桜町字中森, 平沢字松田
32	田頭		桜町字田頭
33	桜町田頭	古代	桜町字田頭, 字高木
34	嵐山館	中世	星山字間野村
35	花立		大巻字花立
36	平沢野田Ⅱ	縄文・古代	平沢字野田
37	尻掛	縄文	土館字新里
38	平沢佐藤部		平沢字佐藤部
39	平沢滝名川Ⅰ	古代	平沢字滝名川
40	平沢滝名川Ⅱ	縄文・古代	平沢字滝名川
41	北日詰外谷地Ⅶ		北日詰字外谷地
42	北日詰外谷地Ⅷ	古代	北日詰字外谷地
43	北日詰外谷地Ⅰ	縄文・古代	北日詰字外谷地
44	北日詰外谷地Ⅱ	縄文・古代	北日詰字外谷地
45	北日詰外谷地Ⅵ	古代	北日詰字外谷地
46	北日詰外谷地Ⅲ		北日詰字外谷地
47	北日詰外谷地Ⅳ		北日詰字外谷地
48	北日詰外谷地Ⅴ	古代	北日詰字外谷地
49	片寄中島	古代	片寄字中島
50	南日詰野原	古代	南日詰字野原
51	金館	中世	片寄字木戸
52	南日詰長根	縄文・古代	南日詰字長根
53	南日詰長根Ⅱ	縄文・古代	南日詰字長根
54	南日詰川原	古代	南日詰字川原
55	南日詰梅田	古代	南日詰字梅田
56	南日詰梅田Ⅱ	古代	南日詰字梅田
57	南日詰京田Ⅰ	縄文・古代	南日詰字京田
58	上久保館	中世	片寄字上久保
59	片寄	縄文・古代	片寄第字鍛冶屋敷 土手田
60	片寄野畑	縄文	片寄字野畑
61	四ツ屋		片寄字四ツ屋
62	片寄越田	縄文・古代	片寄字越田
63	北日詰下藪	古代	北日詰字下藪
64	北日詰東ノ坊Ⅱ	古代	北日詰字東ノ坊, 下東ノ坊
65	北日詰東ノ坊Ⅰ	古代～中世	北日詰字東ノ坊
66	北日詰東ノ坊Ⅲ	古代～中世	北日詰字東ノ坊
67	比爪館	10・12 C	北日詰字箱清水
68	北日詰八卦	古代	北日詰字八卦
69	大日堂		北日詰字大日堂
70	北日詰城内Ⅱ	縄文	北日詰字城内
71	北条館	中世	北日詰字城内
72	北日詰下東ノ坊	古代	北日詰字下東ノ坊, 字城内
73	北日詰城内Ⅰ	古代	北日詰字城内

No	遺跡名	時代	所在地
74	梅ノ木館(八竜)	中世	大巻字梅ノ木
75	大巻館跡	中世	大巻館字花立
76	五郎沼	縄文	南日詰字箱清水
77	伝蛇塚		南日詰字箱清水
78	南日詰宮崎	古代	南日詰字宮崎
79	南日詰藤沼Ⅰ	古代	南日詰字藤沼
80	南日詰京田Ⅱ	古代	南日詰字京田
81	南日詰藤沼Ⅱ	古代	南日詰字藤沼
82	南日詰田中Ⅰ	古代	南日詰字田中
83	南日詰	縄文・古代	南日詰字藤沼, 京田, 滝名川, 田中
84	南日詰京田Ⅲ	古代	南日詰字京田
85	南日詰大銀Ⅰ	古代	南日詰字大銀, 字小路口
86	南日詰大銀Ⅱ	古代	北日詰字城内, 南日詰字大銀
87	南日詰小路口Ⅰ	古代	南日詰字小路口
88	南日詰小路口Ⅱ	古代	南日詰字小路口
89	南日詰小路口Ⅲ	古代	南日詰字小路口
90	南日詰田中Ⅱ	古代	南日詰字田中
91	大巻長沢尻Ⅱ	縄文	大巻字長沢尻
92	大巻門田	古代	大巻字間田
93	大巻長沢尻	縄文・古代	大巻字長沢尻
94	赤川館	中～近世	大巻字長沢尻
95	彦部久保	古代	彦部字久保
96	彦部赤坂古墳		彦部字幕坪
97	幕坪	縄文	彦部字幕坪
98	彦部館	中世	彦部字幕坪
99	伝善知鳥館 (善知鳥館)	縄文・古代	南日詰字滝名川
100	南日詰滝名川Ⅰ		南日詰字滝名川
101	南日詰滝名川Ⅴ	縄文	南日詰字滝名川
102	大湖新田堰	縄文・古代	大湖字新田堰, 南日詰字滝名川
103	南日詰滝名川Ⅲ		大湖字新田堰
104	南日詰滝名川Ⅳ		南日詰字滝名川
105	大湖谷地田	古代	大湖字谷地田, 字新田堰
106	南日詰八坂	古代	南日詰字八坂
107	西田北	縄文	大湖字西田
108	下川原Ⅰ	縄文・古代 中世・近世	南日詰字下川原, 字八坂
109	西田	縄文・古代・中世	大湖字西田
110	西田東	古代(平安)	大湖字西田
111	下川原Ⅱ	縄文・古代	南日詰字下川原
112	定内	縄文	彦部字定内
113	元町	古代	彦部字川久保
114	館盛	中～近世	彦部字機織
115	機織館(彦部館)	中世	彦部字機織
116	鎌倉街道		大湖字深田
117	大湖谷地田南		大湖字谷地田
118	南谷地		大湖字南谷地
119	下越田Ⅰ		南比詰字下越田
120	下越田Ⅱ		大湖字下越田
121	下越田Ⅲ	古代	大湖字下越田(西田?)
122	是信房墓所		彦部字川久保
123	小深田	古代	彦部字小深田
124	寺沢	縄文・奈良	彦部字寺沢
125	野上	縄文	彦部字野上
126	村境塚	中世	石鳥谷町字好地第11・12地割
127	石沢	縄文・古代	石鳥谷町字好地
128	数馬尾根	縄文・古代	石鳥谷町字好地
129	館野	縄文・古代	石鳥谷町字好地
130	熊野堂	縄文・古代	石鳥谷町字好地
131	堀子田	近世	石鳥谷町字好地上好地
132	馬頭	縄文・古代	石鳥谷町字好地
133	境船場	近世	石鳥谷町字好地第13地割
134	宝木Ⅰ	縄文	石鳥谷町字新堀
135	宝木Ⅱ	縄文・古代	石鳥谷町字新堀第5地割
136	鳥鳴田Ⅰ	縄文	石鳥谷町字新堀第68地割
137	石鳥谷船場	近世	石鳥谷町字好地
138	三日堀	縄文・平安	石鳥谷町三日堀
139	沼ノ欠	平安	石鳥谷町字新堀
140	殿屋敷	中世	石鳥谷町字新堀北島
141	島	平安	石鳥谷町字新堀
142	新堀城	中世	石鳥谷町字新堀第65割
143	長善寺Ⅰ	縄文・古代	石鳥谷町字新堀第65割
144	長善寺Ⅱ	縄文・古代	石鳥谷町字新堀第65割
145	鳥鳴田Ⅱ	縄文	石鳥谷町字新堀第65割
146	野沢川Ⅰ	縄文・平安	石鳥谷町字好地第12地割

在し、平成7年度に調査が行われて12世紀の遺跡であることが確認された山屋館経塚が、「比爪館」から見て夏至の日の出方向である真東に位置する（羽柴2006）のも、奥州藤原氏の経塚造営に照らし「比爪館」がこの地にあったことを示す根拠の一つとなっている。比爪館からは昭和40年以降の調査によって12世紀後半に属するかわらけ、中国産輸入磁器、国産陶器、四面庇をもつ掘立柱建物跡などが確認され、昭和50年には町指定史跡となっている。このほか北日詰東ノ坊Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡・大日堂遺跡・南日詰大銀Ⅰ遺跡（南日詰字大銀）・南日詰小路口遺跡（南日詰字小路口）・南日詰宮崎遺跡（南日詰字宮崎）からも該期のかかわりが出土しており、12世紀の遺跡が比爪館の東側に広がる可能性を示している。

吾妻鏡には、文治5年（1189年）の源頼朝による奥州征伐の際、投降してきた樋爪氏の扱いについて記載されている。このうち、志和郡の実質的な支配者であったと目される樋爪入道俊衡（樋爪清綱の子とされる）は、高齢であることを理由に所領安堵された。また、俊衡の子らは鎌倉方に連行され、このうち季衡は、鎌倉へ連行される途上で宇都宮社（現在の二荒山神社）にあずけられたとされる。これらの記載が事実であるとすれば、文治5年以降も引き続き樋爪氏が志和郡を領有していたことになる。

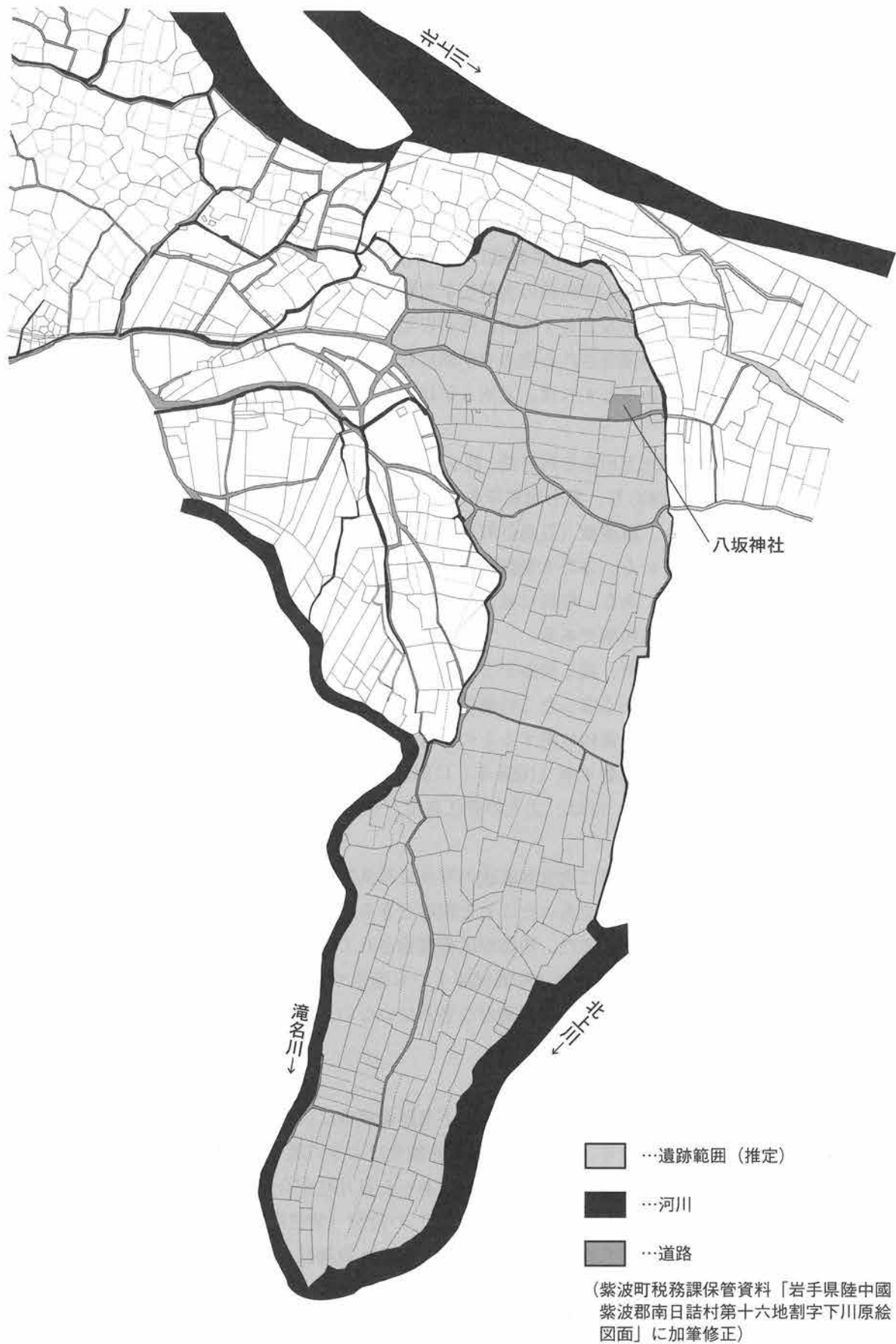
13世紀以降は、斯波郡の北上川東を河村氏、西を工藤氏その後斯波氏、稗貫郡を稗貫氏が支配した。中世に属する遺跡は32遺跡あり、北上川東岸の分布が増える。その約半数は城館跡で堀や土塁等の防御施設が検出されている。殿屋敷（石鳥谷町字新堀）では二重堀、新堀城（石鳥谷町字新堀）では階段状整地地面が確認されている。また大巻館跡（大巻字花立）は河村氏の居城であるといわれる。村境塚は勝示跡、他は散布地である。町民に城山公園として親しまれている高清水城跡は北上川を眼下に見下ろす山城で、斯波氏の居城である。

近世の遺跡は城館跡が4か所、渡し場跡が2か所と少ない。南部氏が北東北の太平洋側を広域に支配する時代となり、拠点ではなくなったこの地の様相を物語っている。一方、登録遺跡数とは対照的に、近世文書は多い。南部藩の藩政に関するものが大半であるが、絵図も残されており、日詰の地が奥州街道沿いの宿場町として明暦4年（1658年）に開設されたことが記載されている。また、天明5年（1785年）と8年（1788年）には、文人の菅江真澄がその足跡を残し、志和稲荷社や志賀理和氣神社に参拝している。

江戸末期の絵図面を第4図、第二次大戦直後の写真を写真図版1に掲載した。これらからは、本遺跡周辺が一貫して稲作・畑作地帯であったことと理解できる。第4図で見える限り、八坂神社の位置は現在の所在地から動いていない。また、田畑が区画整備されている状況が見られるものの、八坂神社へ至る道路は明確に見える。この道路は写真図版1でも確認できる。現在は舗装されているものの、生活道路として江戸末期から大きな路線変更がなされていないと判断できる。

周辺の寺社

遺跡周辺には神社が多数存在している。下川原Ⅰ遺跡範囲内に位置する八坂神社は、江戸時代には牛頭天王社として登録されており、明治時代の神仏分離令により八坂神社の名称となった。地元の方々への聞き込みによれば、ここにはかつて字下川原にあった日月社が合祀され、農地に散在していた供養碑や墓碑が集められたと言う。弘化3年（1846年）の絵図（紫波町史編纂委員会1972所収）には日月社の位置が記されている。八坂神社は京都祇園にある八坂神社を総社とし、厄払いの御利益があるとされるスサノヲノミコトを祀る。スサノヲノミコトは古事記や日本書紀の記載とは一線を隠し、素朴な農業神として広く民衆に親しまれている。



第4図 明治時代の地籍図

南日詰には「甘木」の地名があり、ハタフクと読む。地元では、田畑の祭りの際に旗を付けた木を20本立てることに由来すると考えられている。一方、「ハタギ」と読む地名が残された場所で、山口県岩国市の旧甘木村がある。その由来は「熊野神社を建立する際に山から20本の木を切り出し、その木で社を建てたことにある」（日本地名辞典 山口県）という。南日詰字田中にはかつて熊野社があり、弘化3年の絵図には熊野那智社を表す「那智社」の文字が読み取れる。したがって、「甘木」の地名は熊野信仰に関わるものと考えるのが妥当であろう。なお、この「甘木」の地名は紫波町内の稲藤にもある。

寺については、現在平沢にある青竜山広澤寺（曹洞宗）が、かつて南日詰甘木にあったとされる。「寺伝では応永2年（1395年）の創立で、永禄3年（1560年）の大洪水にあって流出の災いを受けた。このため、京田（南日詰京田）に移転したが、元亀2年（1571年）八月に至って更に野岸に転じたという。現在地への移転は慶長9年（1604年）である」（紫波町史編纂委員会1972）。周辺住民への聞き取りでは北上川の自然堤防上にあった説と八坂神社の南側にあったとする説がある。八坂神社の南側では、昭和初期のは場整備の際に多量の人骨が出てきたという。川原に墓域があるのは一般的であるため、これが直ちに広澤寺跡を示すことにはならない。中世墓で多量に人骨の残る環境であるかどうかは不明であり、近世墓域である可能性も考えられる。（吉田・米田）

4 基本層序

（1）平成19年度調査区

本遺跡は第2節で紹介したとおり、北上川西岸の低地帯に位置する。そのため、地層形成要因の大半は北上川の洪水に由来する。基盤となる層は砂礫層でその上に厚く洪水砂層が堆積する。人類の痕跡は洪水砂層内あるいはその上部に見られる。

高位の低地面と低位の低地面では、表土・耕作土（第Ⅰ層）より下位の地層は、は場整備や長年の耕作によって削平され、洪水砂層（第Ⅳ層）となっている。わずかに小段丘底面など一部に残存する黒褐色土（第Ⅱ層）、暗褐色土（第Ⅲ層）が遺構堆積土と類似する。

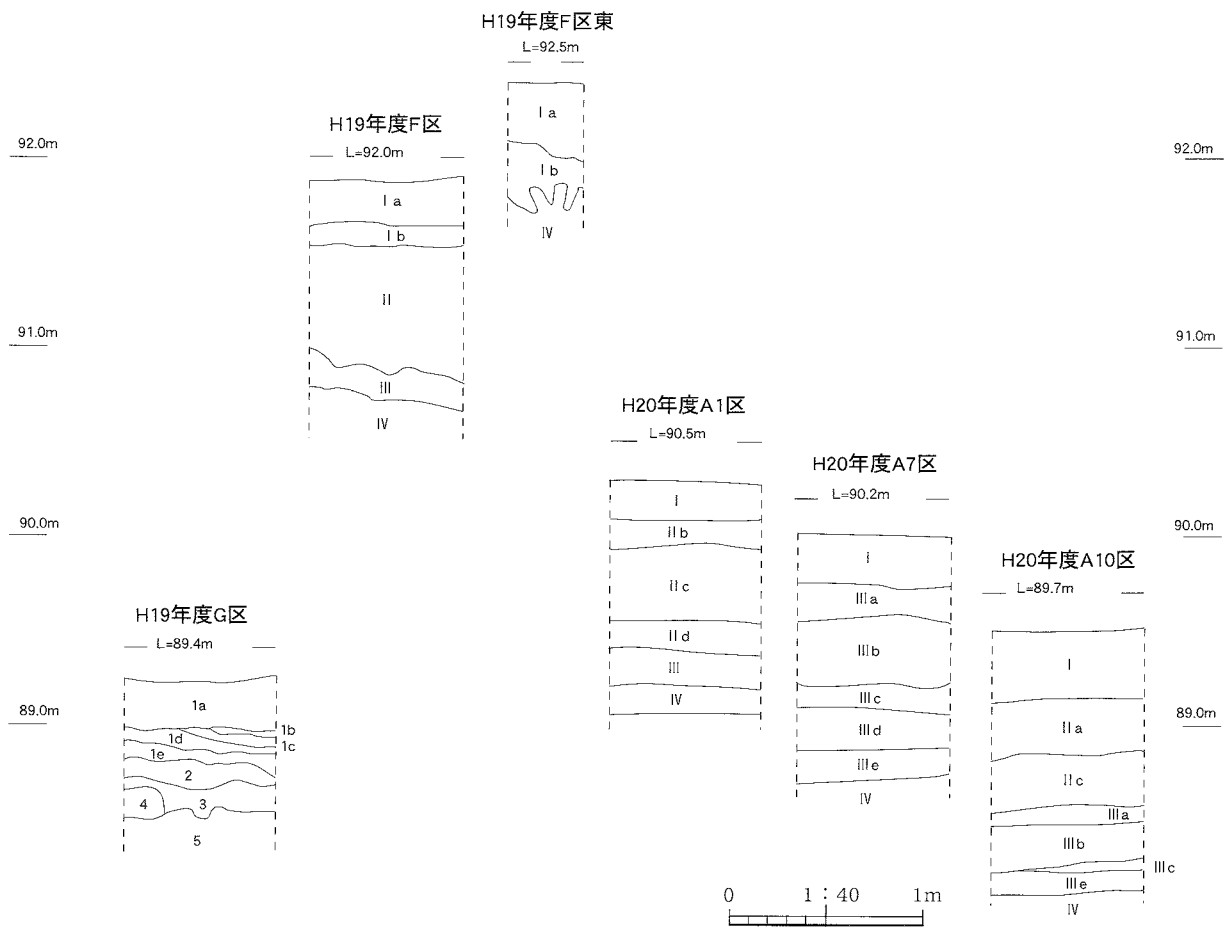
一方、後背湿地内では堆積状況がやや異なる。度重なる洪水の影響を最も受けるため、耕作土（第Ⅰ層）にも多量に川砂が混入している。耕作土よりも下位の層は粘土質である。やや土壌化した粘土層（第Ⅳ層）が確認された。このⅣ層内に12世紀を中心とした遺物が上下差をあまり持たず出土した。第Ⅳ層の低位は厚い褐色砂質土（第Ⅴ層）で高位の低地面のⅣ層に対応していると考えられる。

高位の低地面（遺構密集地区）の基本土層

- I a層 10 Y R 3/4 暗褐色土（耕作土）粘性弱、しまり粗、層厚40～60cm
- I b層 10 Y R 3/4 暗褐色土（耕作土）粘性やや強、しまり密（肥料の混入によると考えられる）、層厚20～30cm
- Ⅱ層 10 Y R 3/1～10 Y R 2/1 黒色～黒褐色土（古代以降の遺構堆積土の主体）粘性弱、しまり粗、細粒砂粒5%、層厚0～50cm
- Ⅲ層 10 Y R 3/4 暗褐色土 粘性やや強、しまり密、細粒砂10%、層厚0～20cm
- Ⅳ層 10 Y R 4/3～10 Y R 4/4 にぶい黄褐色砂質土～褐色土（C・D区遺構検出面）、粘性微弱、しまり粗、細粒砂粒30～40%、層厚不明

後背湿地（G区遺物廃棄場）の基本土層

- I a層 10 Y R 4/2 灰黄褐色粘土（耕作土：床土状）粘性強、しまりやや密、層厚 30~50cm
- I b層 10 Y R 4/3 にぶい黄褐色砂（洪水砂）粘性弱、しまり粗、層厚 10cm
- I c層 10 Y R 4/2 灰黄褐色シルト（耕作土）粘性やや強、しまりやや密、層厚 10cm
- I d層 10 Y R 4/2 灰黄褐色粘土（耕作土）粘性強、しまり密
- I e層 10 Y R 4/3 にぶい黄褐色粘土（耕作土）粘性強、しまり密
- II層 10 Y R 4/4 褐色粘土 粘性強、しまり密
- III層 10 Y R 4/3 にぶい黄褐色粘土 粘性強、しまり密
- IV層 10 Y R 3/3 暗褐色粘土（遺物包含層：床土状）粘性強、しまり密
- V層 10 Y R 4/4 褐色砂質土（高位の低地面のIV層に対応）粘性やや強、しまり粗



第5図 基本層序

(2) 平成 20 年度調査区

I～V層に大別した。I層は現表土・耕作土である。層厚は30cm程度で、調査区全体でほぼ一様に存在する。II層は盛土層である。混入物によりII a～II dと細分した。層厚は地点により大きく異なる。

III層以下は自然堆積層である。III a～III eと細分した。北上川の洪水堆積による砂層と黒色・黒褐色土層が交互に堆積する。細分せず単にIII層としている地点は、III b層のみが存在する。層厚は0～1 mで、低位部分ほど堆積が厚い。

IV層は褐色砂質土で、その下のV層は砂礫層である。

原地形は、微高地や沢など自然の起伏があったとみられるが、昭和時代のは場整備により、高位部を削平、低位部を盛土することで平坦面を造成し、区画された数段の田面が作られたようである。

遺跡範囲の東側は比高差のある低地面であり、原地形はその低地面へ向かって下降する地形である。そのためA 1～A 7区では、東側ほどII層が厚い。B 1～B 4・C 1区はIII層が残存し、B 5～B 7区、A 8～A 10区はIII層が細分できる。これらの区域では過去の生活面が保存されていたとみられる。一方、C 5・C 6区はI層直下がV層、C 7～C 10区はI層直下がIV層で、生活面の一部が削平により失われたと考えられる。

I・II層はバックホーで除去し、IIIまたはIV層上面で遺構検出を行った。III層が存在する範囲では、III層上面での精査終了後、IV層上面まで再掘り下げを行い、そこで再び遺構検出を行った。IV層上面が遺構の最終確認面である。

I 層	10 Y R 2/3	黒褐色土	粘性弱、しまりやや弱。	表土層
II a 層	10 Y R 3/3	暗褐色土	粘性弱、しまり強。	盛土層
II b 層	10 Y R 3/3	暗褐色土	粘性弱、しまり強。	黄褐色土ブロックを多量含む。盛土層
II c 層	10 Y R 3/3	暗褐色土	粘性弱、しまり強。	盛土層
II d 層	10 Y R 3/3	暗褐色土	粘性弱、しまり強。	黄褐色土ブロックを少量含む。盛土層
III a 層	10 Y R 5/6	黄褐色砂	粘性なし、しまりやや強	
III b 層	10 Y R 1.7/1	黒色土	粘性やや強、しまり強	
III c 層	10 Y R 5/6	黄褐色砂	粘性なし、しまりやや強	
III d 層	10 Y R 2/2	黒褐色土	粘性やや弱、しまり強	
III e 層	10 Y R 3/3	暗褐色土	粘性やや強、しまり強	
IV 層	10 Y R 4/4	褐色砂質土	粘性やや弱	しまり強
V 層		砂礫層		

引用・参考文献

- 中川久夫・石田琢二・佐藤二郎・松山力・七崎修 1963a 「北上川上流沿岸の第四系および地形－北上川流域の第四紀地史(1)」
『地質学雑誌』69
- 中川久夫・岩井淳一・大池昭二・小野寺信吾・森由起子・木下尚・竹内貞子・石田琢二 1963b 「北上川中流沿岸の第四系
および地形－北上川流域(2)」『地質学雑誌』69
- 岩手県 1974「日誌 5万分の1 国土調査」『北上山系開発地域 土地分類基本調査』
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988『伝善知鳥館・南日詰遺跡』岩文振調査略報第126集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989『南日詰遺跡』岩文振報告書第136集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995『西田東遺跡発掘調査報告書』岩文振報告書第221集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997『山屋館経塚・山屋館跡』岩文振報告書第225集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001『金館遺跡』岩文振報告書第136集
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004『南日詰遺跡』岩文振報告書第463集
- 岩手県教育委員会 1977『西田遺跡(第3次調査)』東北新幹線関連埋蔵文化財発掘調査略報
- 岩手県教育委員会 1979『田頭遺跡』東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ
- 紫波町教育委員会 1985『城内遺跡』昭和59年度発掘調査報告
- 紫波町教育委員会 1988『犬瀨谷地田Ⅲ遺跡』昭和63年度県営ほ場整備事業関連報告書
- 紫波町教育委員会 1993「暮坪遺跡」『紫波町の遺跡—町内遺跡発掘調査報告書—』紫波町報告書
- 紫波町教育委員会 1992『比爪館—第9・10次発掘調査報告書』紫波町報告書第24集
- 紫波町教育委員会 2002『比爪館 第11～18次発掘調査報告書—赤石小学校施工関連—』
- 紫波町教育委員会 2004『比爪館 第8次・19～22次発掘調査概報』
- 志和町教員委員会 2007『北日詰東ノ坊Ⅰ遺跡発掘調査報告書・町内遺跡有無確認調査略報』紫波町報告書
- 紫波町史編纂委員会 1972『紫波町史』紫波町
- 羽柴直人 2006「比爪館をめぐる諸問題」『第35回研究大会発表資料』岩手考古学会

Ⅲ 調査・整理の方法

1 発掘調査の方法

必要に応じて雑物撤去・草刈を行った。調査区内数箇所を試掘トレンチを設定し、土層堆積状況を確認した。表土除去作業を重機によって行い、一部、表土除去を人力作業で補った。

調査区は広範囲にわたることから、グリッドを設定せず、すべて世界測地系の座標値で遺物の取り上げや遺構の平面的配置の把握を行った。

表土除去の後、遺構検出作業を行った。遺構検出作業で平面的な検出が困難な地点および遺構については、適宜トレンチを掘削し、断面による土層の把握を行いながら進めた。また、平面的に検出した風倒木によるものと思われる痕跡についてもトレンチを掘削し、トレンチ断面により遺構でないことを確認した。

検出した遺構の掘削は、竪穴住居跡については4分法、その他の遺構については規模・形状に則して4分法、2分法など適宜選択して行った。また、遺構堆積土の掘削に際しては層位毎に遺物を取り上げるよう努めた。さらに、微細遺物の検出が必要であると考えられる埋土については、土壌を持ち帰り洗浄・選別・抽出作業も行った。また、調査中は各遺跡とも遺構名を略号によって記録した。

遺構平面図は、おもに光波測量機器を用いて実測し、遺構の種類や規模に応じて、20分の1、10分の1などの縮尺で作図した。遺構断面図は、平面図と同一縮尺での作成を原則とした。

遺構の写真撮影は、35mmモノクロ・35mmカラーリバーサル・6×7cm判モノクロによる撮影を基本とし、補助的にデジタルカメラによる撮影も合わせて行った。撮影に際しては、当センター所定の撮影カードの記入および写し込みを行い、撮影写真の整理に活用した。(米田)

平成20年度追記

基本的な作業の流れは、平成19年度と同様である。

調査区は、道路建設予定部分と水路建設予定部分の2つに分かれる。道路部分は幅6m前後、水路部分は幅2m前後である。道路部分は、盛土工事を行うため遺構が保存されるが、水路部分は掘削工事となるため遺構が失われることとなる。工法の違いに応じ、調査方法も確認調査と本調査の2通りに分けた。本調査区では、遺構完掘まで通常通りの精査を行った。確認調査区では、トレンチや半裁などの部分的な精査により、遺構の規模や遺物の有無などをある程度確認した後、埋め戻した。ただし、遺物の出土状況などにより、確認調査区内で完掘した遺構もある。精査の進め方は状況に応じ判断した。

表土除去は、基本的に重機（バックホー0.45m³）1台を使用し、排土は調査区脇に仮置きした。B2・B3区の調査時には、一時的にキャリアダンプ1台（6t）も使用し、排土の移動を行っている。基準杭打設は、調査区内の表土除去の進捗状況に合わせて、計6回行った。基準杭は、調査区内、若しくは調査区付近に打設した。

航空写真撮影は、計2回（6月と10月）行った。

遺構実測は、平面図、断面図とも主に電子平版システム（遺構くん キュービック社）を使用した。一部の遺構では従来通りの手書き実測方法を併用している。

遺構写真撮影は、一眼レフデジタルカメラ（35mm相当）、35mmモノクロフィルムを使用した。（川又）

2 整理作業の方法

発掘調査終了後の整理作業は、埋蔵文化財センターにて行った。遺構実測図・遺構写真・遺物・遺物実測図・遺物写真等の資料は、整理作業を経た後、埋蔵文化財センター内の所定の場所へ収納した。

(1) 遺 構

遺構実測図は、必要に応じて第2原図や合成図を作成し、浄書を行った。浄書した図を用いて、図版用の版下を作成した。平成20年度は、電子平版システムで作成した遺構実測図をパソコンで編集し、図版作成まで行った。手書きで作成した図面は、スキャナーで読み込み、デジタルトレースしたものを編集した。

遺構写真は、デジタルカメラで撮影したデータを整理し、図版編集した。フィルムで撮影したものは、アルバムに整理した。

(2) 遺 物

洗浄および注記を経た遺物は、接合作業や石膏による復元を行った後、本書に掲載するものを選択した。選択基準は、実測可能な残存状況のものを原則とし、土器類の破片については特徴から時期や土器型式を特定できるものを中心とした。選別した遺物は、実測作業と写真撮影を行った。

遺物の実測作業は、原寸での実測を基本とした。また、実測した遺物は、浄書し図版用の版下を作成した。

縄文土器器表面や銭貨等は湿拓により採拓した。

遺物の写真撮影はデジタルカメラを用いて行い、圧縮したデータを編集し、写真図版として掲載した。

3 記載方法と凡例

(1) 遺 構

平成19年度調査(第IV章)の遺構名は、調査中は略号(SI・SK・SD・SXなど)を用いたが、本書では、「1号竪穴住居跡」、「1号土坑」などと表記した。

平成20年度調査(第V章)では、略号を用いて遺構名を表記している。略号の種類として、SI:竪穴住居、SKI:竪穴住居状遺構、SK:土坑、SD:溝、SN:焼土、SX:その他、などを用いた。

遺構図版の縮尺は、竪穴住居・土坑を50分の1、カマド・焼土を20分の1にし、溝など規模の大きい遺構については100分の1、200分の1などの縮尺も使用している。平成20年度調査の遺構配置図は、調査区が長大であるため、1500分の1、500分の1、200分の1など段階的に示してある。遺構図版中の座標値、標高値はすべて世界測地系で示している。

(2) 遺 物

遺物掲載番号は、下の一覧表のように振り分けてある。本文、表、図版、写真図版の遺物番号は対応している。

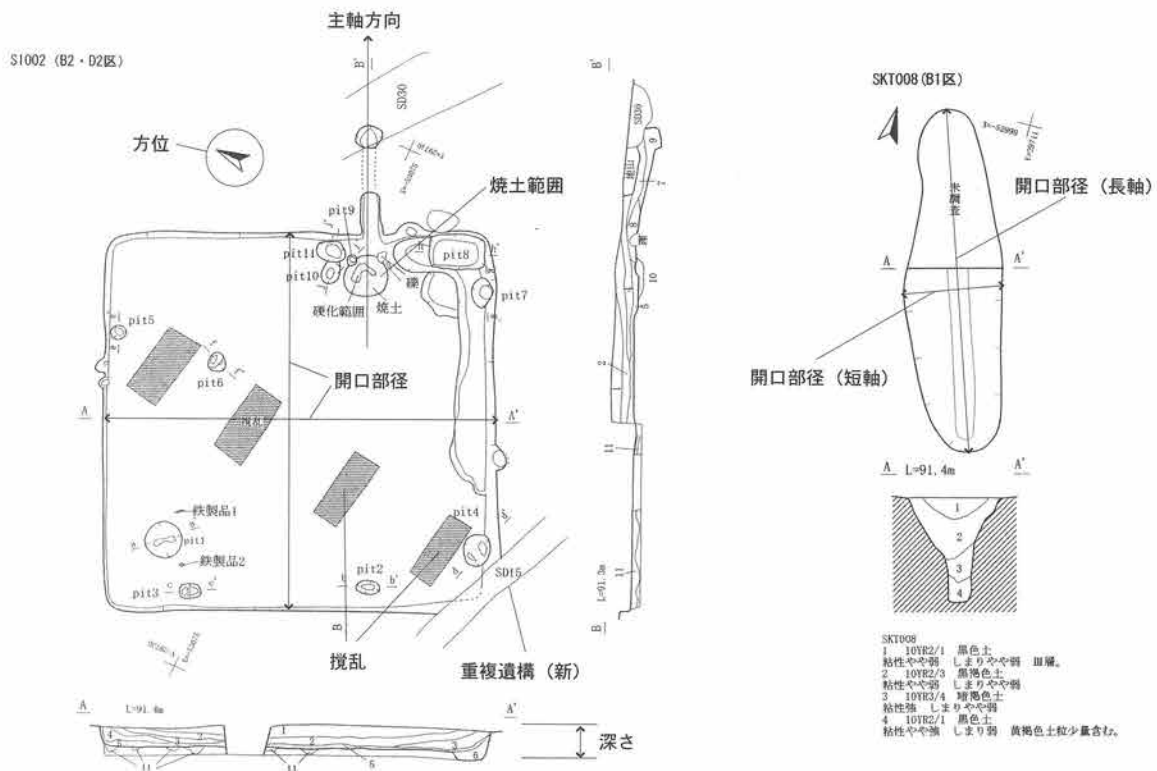
遺物図版の縮尺は、土器、陶器、磁器を3分の1、剥片石器を3分の2、礫石器を3分の1、鉄製品を2分の1でそれぞれ統一し掲載した。

遺物写真図版は、デジタルカメラで撮影した画像データを用いた。遺物写真の寸法は立体視可能な土器資料を除いて遺物実測図とほぼ同じである。

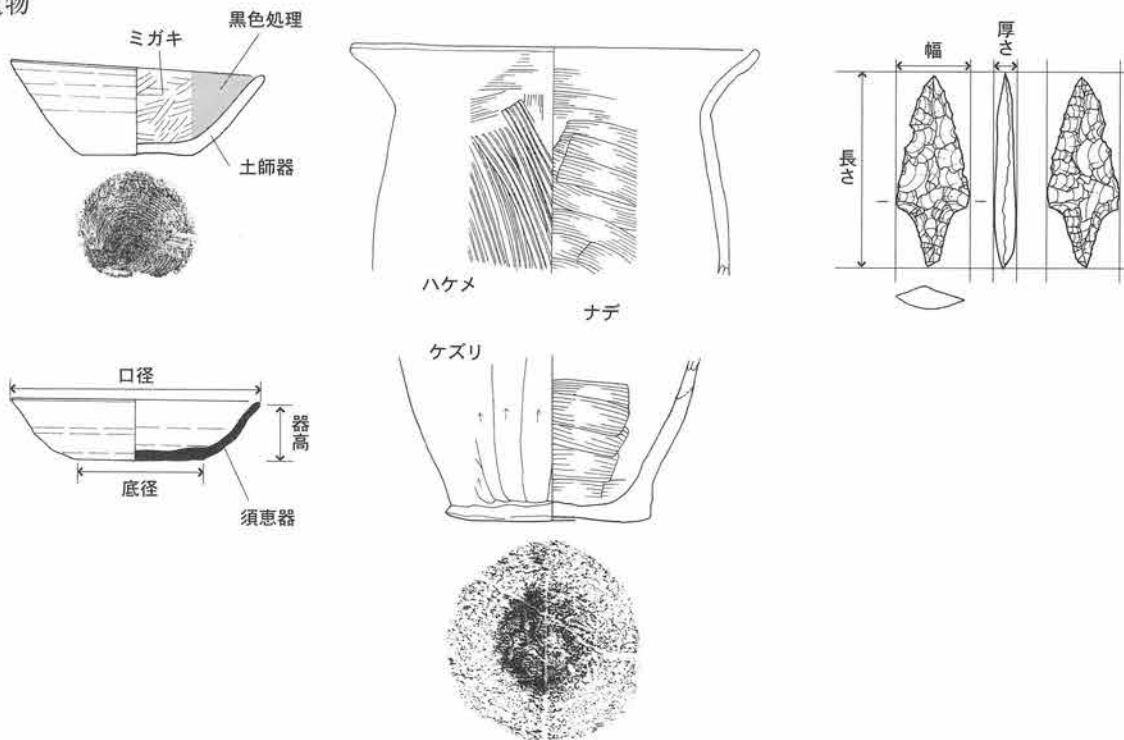
遺物掲載番号一覧

	土師器 須恵器	中世土器 (かわらけ)	陶器 磁器	石器類 その他	金属製品	縄文土器
下川原I遺跡 (平成19年度)	1～74	75～167	168～213	223～237 242～245	214～222	238～241
下川原I遺跡 (平成20年度)	351～471	501～521	551～566	601～607	651～662	301～306
下川原II遺跡 (平成20年度)	751～787	801～534	851・852	901	951～960	701～709

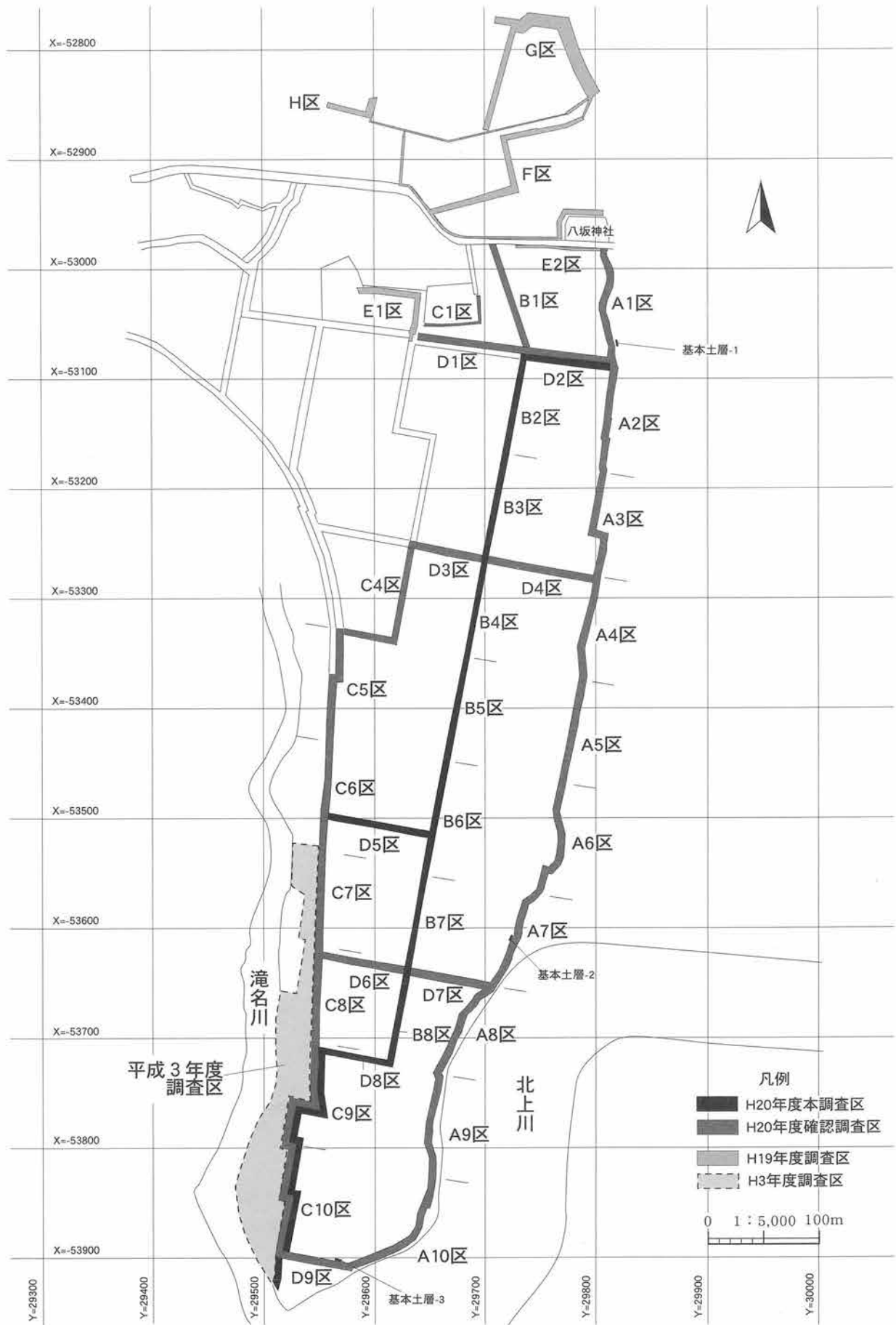
遺構



遺物



第6図 凡例図

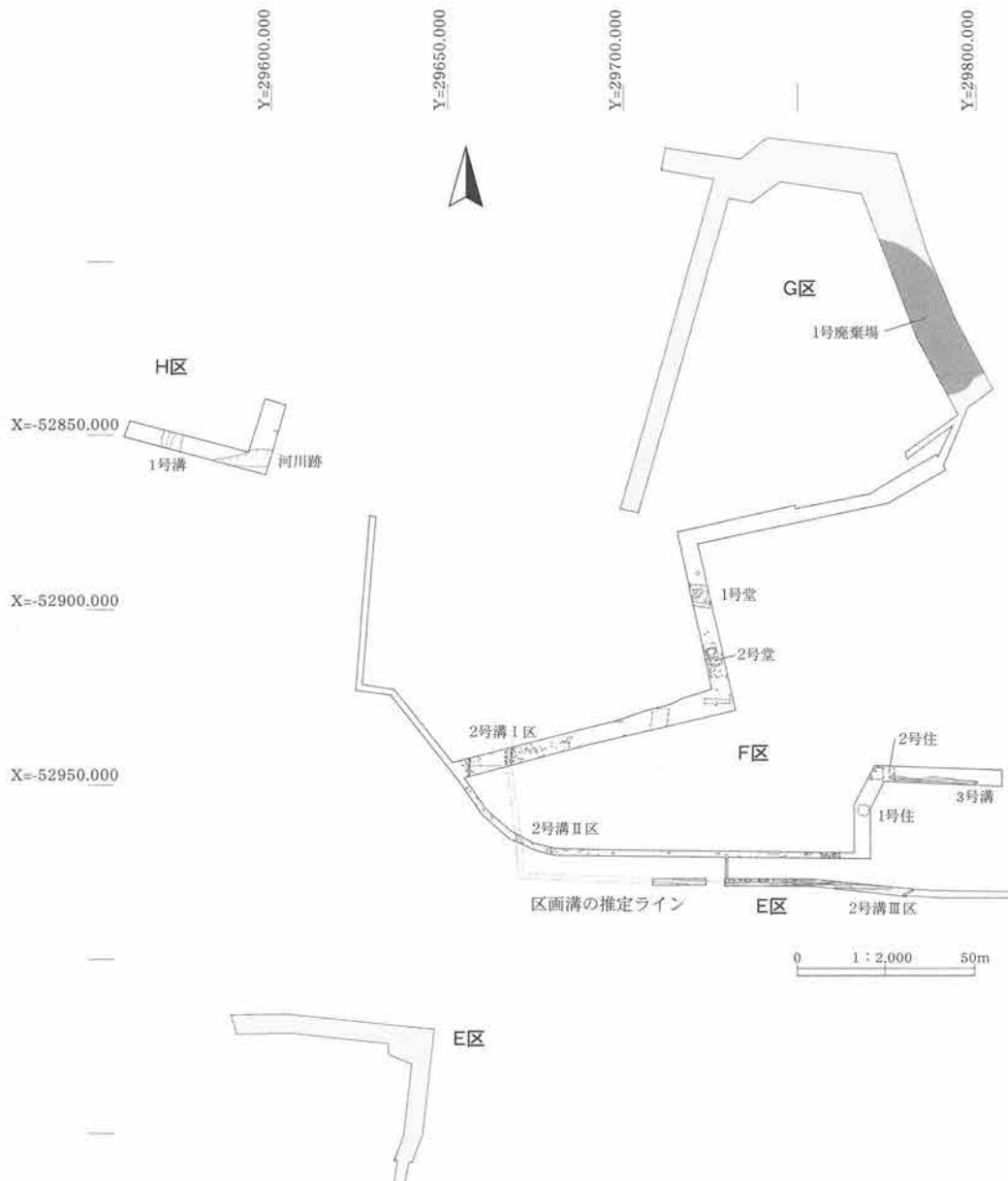


第7図 調査区全体図

IV 平成 19 年度調査成果

1 概 要

遺跡範囲を通る排水路・用水路・農道予定区域4,437㎡について調査を行った。このうち、事業掘削深度が遺構検出面まで下がらないことを条件として、県教育委員会と盛岡地方振興局農政部農村整備室と協議によって、1,990㎡を確認調査区（遺構検出と平面プランの確認、撮影、検出面出土遺物の回収まで）とした。それ以外の区域2,447㎡は、事業掘削深度が遺構検出面より下まで及ぶことから本調査区となった。発掘調査は現農道による区画を利用し、便宜的にA区（調査区北西部）、B区（調査区北東部）、C区（調査区中央部）、D区（調査区南部）とした。20年度調査区も同様の地区名を付したため、混同をさけるために19年度D区→E区、19年度C区→F区、19年度B区→G区、19年度A区→H区に振り替えて報告する（第8図）。



第8図 平成 19 年度調査区

下川原 I 遺跡第 1 次調査での検出遺構は、竪穴住居跡 2 棟、堂跡 2 棟、掘立柱建物跡 4 棟、中世墓壇 1 基、柱穴列 2 列、陥し穴状土坑 3 基、カマド状土坑 1 基、近世墓壇 1 基、土坑 12 基、柱穴状土坑 151 個、溝跡 6 条（うち 2 条を同一遺構として報告）、焼土遺構 1 基、遺物包含層約 500m²で、12 世紀を主体とする。

出土遺物は、土師器・須恵器小コンテナ 2 箱、国産陶器小コンテナ 0.5 箱、土師質土器小コンテナ 1.5 箱、白磁 3 点、青磁 2 点、金属製品 9 点、縄文土器 9 号 1 袋、礫石器小コンテナ 1 箱である。

今回の調査では、10 世紀代と 12 世紀代の遺構・遺物の密集が確認された。

(1) E 区 概 要

調査区南部で八坂神社より南側を E 区として報告する。下川原 I 遺跡 20 年度調査の A 1・B 1 区に隣接する。遺構・遺物は F 区と隣接する範囲で確認された。高位の低地面に相当する。検出遺構は溝跡 1 条、陥し穴 1 基、柱穴 35 個である。遺物はすべて溝跡堆積土中から出土した。資料の中心は 12 世紀代のかわらけで、ほかに縄文時代晩期の土偶、土師器、須恵器などが堆積土中から出土した。南西部の調査区は滝名川の河岸段丘面に相当し、耕作土直下に礫層が見られ、遺構・遺物は確認できなかった。

(2) F 区 概 要

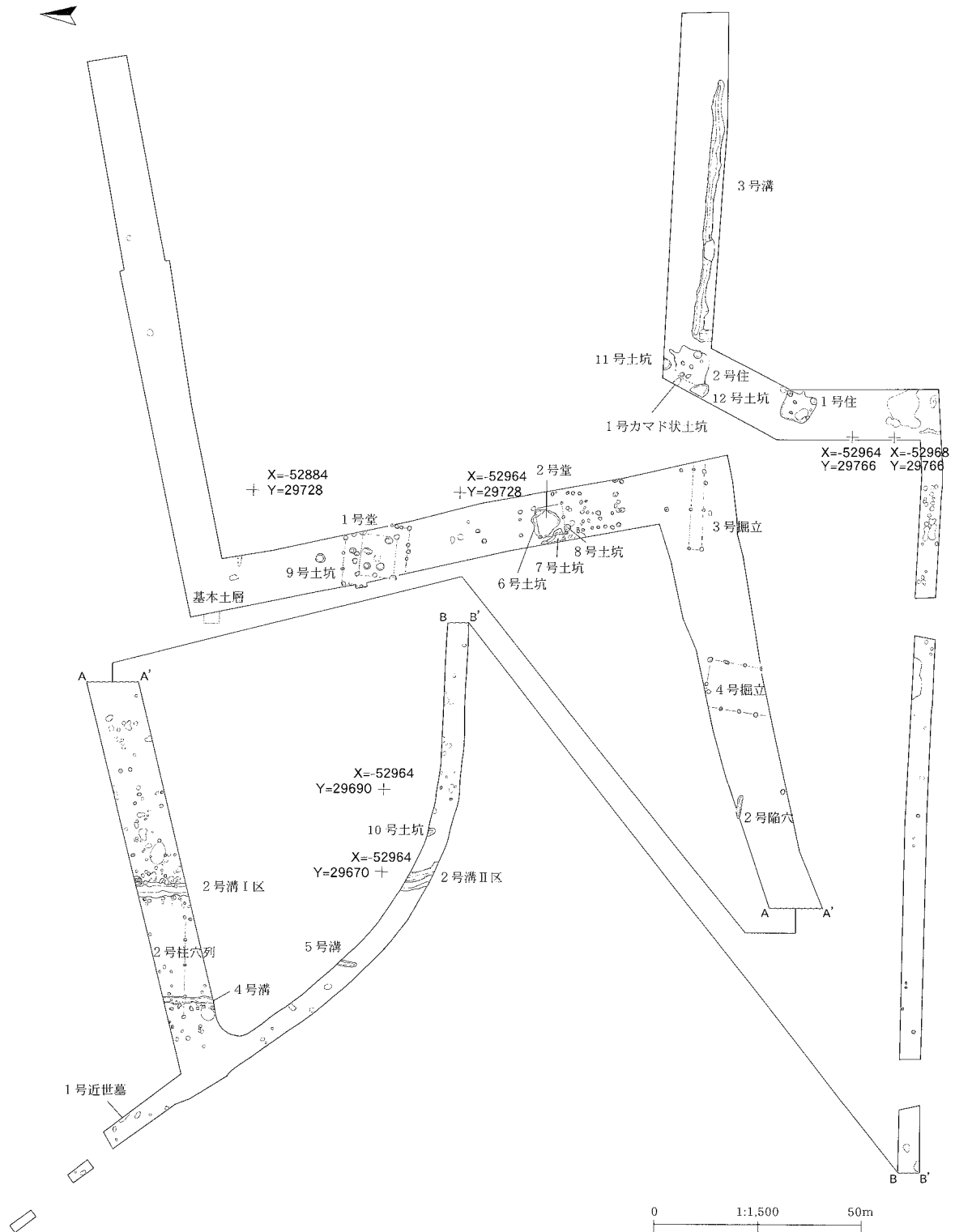
調査区中央部を F 区とした。F 区は高位の低地面に位置する。耕作による削平が進み、遺構遺存状況は良くないが、本遺跡第 1 次調査における遺構・遺物の大半は当該地区で確認された。八坂神社付近で 10 世紀代の資料、その北西部で 12 世紀代の資料が密集している。検出遺構は竪穴住居跡 2 棟、堂跡 2 棟、掘立柱建物跡 4 棟、柱穴列 3 条、中世墓壇 1 基、近世墓壇 1 基、溝跡 4 条、土坑 12 基、柱穴 116 個である。遺物は土師器、須恵器、龍泉窯系白磁碗、かわらけ、刀子、礫石器、縄文土器、粘土塊、炭化物が出土している。このうち 10 世紀代の遺物は主に竪穴住居跡から、12 世紀代の遺物は中世墓壇、中世墓関連土坑、柱穴から出土している。中世墓関連土坑では、白磁碗、かわらけ、鉄製品等の人工物とともに、炭化物、焼土、火葬骨に由来すると考えられる白色粒子が堆積土中に混入していた。F 区の西側では幅 1.5 m、深さ 1 m 地程度の溝跡が確認され、南北方向に延びる。その形態的特徴と堆積土、配置関係から E 区で検出された溝跡と繋がるものと捉えた。

(3) G 区 概 要

調査区北東部を G 区とする。北端が北上川と接する自然堤防とその背後地の湿地帯にまたがる。耕作土が 50～70cm 堆積していたが、その下位は洪水起源の砂層・粘土層が堆積する。事業掘削深度が遺構検出面より下位に達する範囲は少なく、大半が確認調査区である。湿地帯のうち、東部で 12 世紀代の遺物を主体とする遺物包含層が確認された。堆積はほぼ平坦な状態で、個々の遺物の縁辺はほとんど摩滅していない状態である。また、遺物包含層は床土状の錆化した堆積層であった。このことから少なくとも 12 世紀代に包含層範囲が北上川流路内ではなく、沼地状の湿地帯であったと考えられる。この湿地帯は廃棄場として利用されたと考えられる。包含層範囲からは、かわらけ、渥美・常滑産陶器、龍泉窯系磁器のほか、羽口片、鉄製品（釘、手斧、刀子）、礫石器、剥片石器が出土している。廃棄場範囲は確認調査区で、遺物分布密度が高い地層（G 区 IV 層）まで掘削した。その下位の砂礫層（V 層）は掘削しなかったため、遺物が残存している可能性が高い。

(4) H 区 概 要

調査区北西部をH区とする。宅地が広がる高位の低地面からは1段低い低地面と、さらにもう一段低い湿地帯にまたがる。耕作土が50～70cm堆積していたが、その下位は厚く洪水砂層が堆積していた。トレンチを設定して深堀を行ったところ、表土から約2.5mで礫層に達した。倒木痕や旧河道が確認された。検出された以降は溝1条、陥し穴1基である。遺物は溝跡堆積土下部から縄文時代晩期の土器片が出土した。磨耗が激しく流れ込んだものと考えられる。



第9図 F区遺構配置図

2 検出遺構

(1) 竪穴住居跡

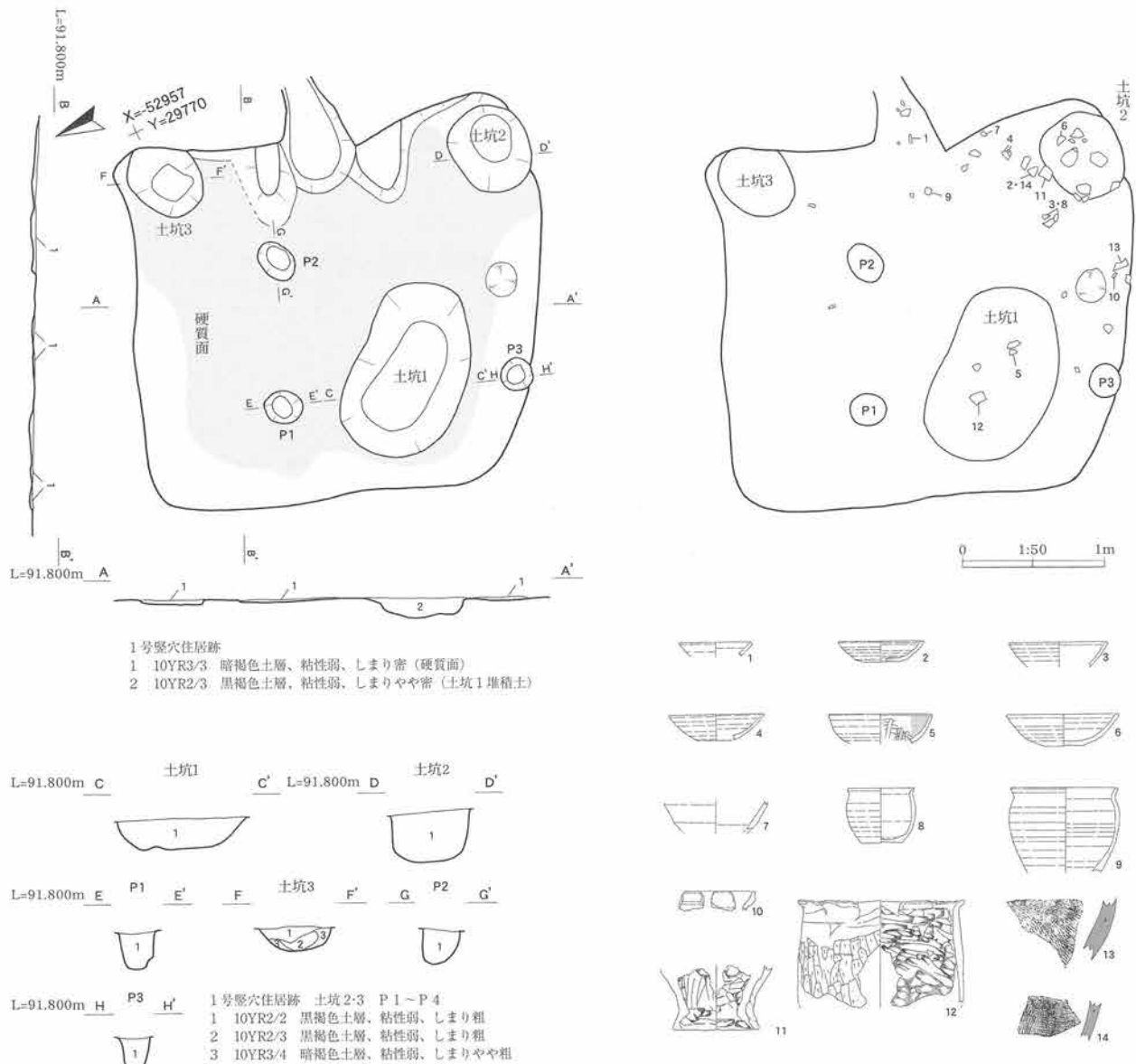
1号竪穴住居跡 (第10・11図、写真図版3・4)

〔位置・検出状況〕 F区内の八坂神社西側の座標値 (X = -52957 m、Y = 29770 m) 付近に位置する。カマド煙道部が調査区外へ延びる。耕作土を重機で掘削したところ、遺物が散乱し、かつ暗褐色土の平面プランが確認できた。また、耕作による削平が進んでいたため、検出段階でカマド燃烧部の焼土や建物内硬化面が見つかった。

〔規模・形態〕 ほぼ正方形の竪穴内に柱穴、カマド、貯蔵穴等の施設を持つ。遺構内中心部の床面はほぼ硬化している。東側にカマドを設置し、その南側に貯蔵穴を持つ。貼床の痕跡はない。

〔堆積土〕 10 Y R 3/3 暗褐色 (第1層) と 10 Y R 2/3 黒褐色土 (第2層) に二分される。堆積層は薄い。

〔カマド〕 残存状況が悪く、検出段階で燃烧部が露出していた。燃烧部の赤化範囲は狭く、薄い。耕作によって一度燃烧部が露出し、一部風化した可能性も考えられる。煙道部は調査区外へ延びる。煙道部が竪穴床面よりも低く、掘り下げられていることから、刳り貫き式と考えられる。袖石や支脚に



第10図 1号竪穴住居跡

相当する材は確認できなかった。

[土坑1] 建物内中央部に楕円形の平面形プランを検出した。堆積土中から甕類の破片が出土している。断面形は椀形を呈する。貯蔵穴と考えられる。

[土坑2] カマドの南側に位置する。遺物が密集している地区で、暗褐色の円形プランを検出した。断面形は椀形を呈する。貯蔵穴と考えられる。

[土坑3] カマドの北側に位置する。遺物は出土していない。暗褐色の円形プランとして検出した。断面形は椀形を呈する。

[柱穴] 3個確認した。すべて支柱穴と考えられる。

[遺物分布] 人工物は須恵器・土師器の甕、土師器坏が出土した。カマドから2号土坑にかけて遺物の密集が確認された。

[計測値] 竪穴：規模；3.12 × 2.60 m、床面積；8.11㎡、床面標高；91.66 m、残存壁高；不明
カマド：方位；E -10度 - S、煙道部長；(0.85cm)、土坑1：規模；1.33 × 0.84 m、深さ；22cm
土坑2：規模；0.63 × 0.58 m、深さ；38cm 土坑3：規模；0.61 × 0.52 m、深さ；19cm

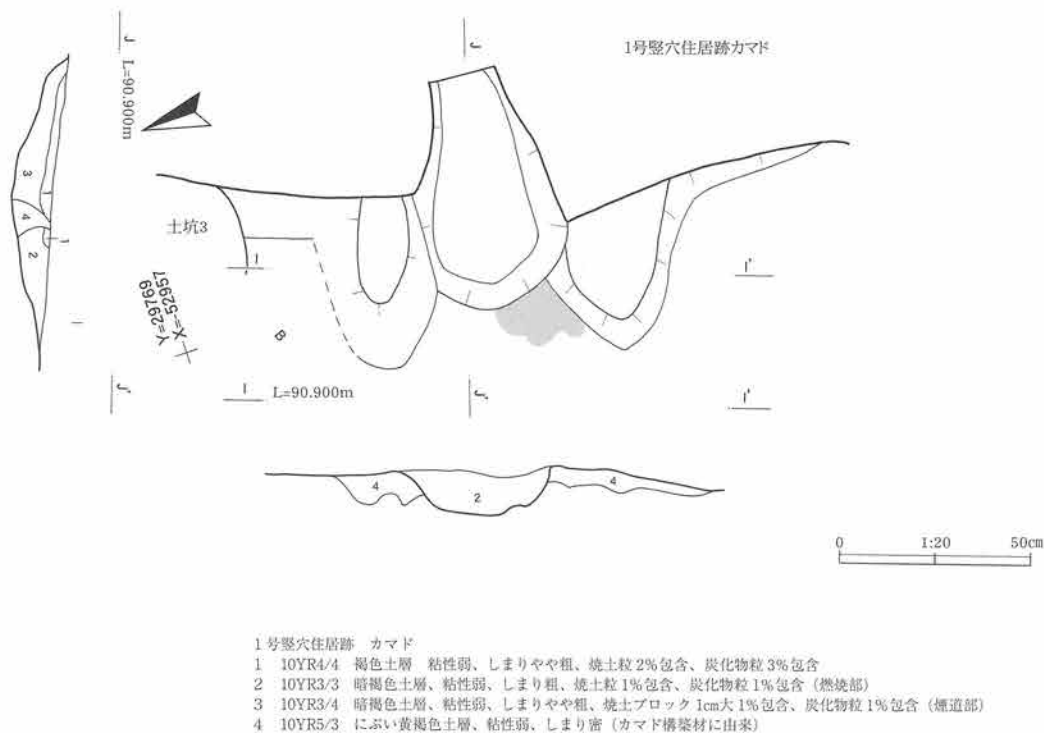
遺物 (第36図、写真図版15)

[坏] すべてロクロ引きの土師器坏で5個体出土した。色調は浅黄橙、にぶい黄橙色がある。内外面に黒斑の見られる資料が多い。

[甕] 5個体出土した。ロクロ引きの土師器甕が主体を占める。色調は橙、浅黄橙、灰白などがあり、ススコゲで覆われている資料は器面が褐灰色で覆われている。このうち12は遺構間接合し、1号竪穴住居跡内土坑1(口縁部片)、2号竪穴住居跡カマド付近(胴部片)、1号カマド状土坑(口縁~胴部片)で出土している。

[甑] 11は土坑2付近で出土した。

時期 平安時代後期で、坏の特徴や遺物組成から10世紀前半と考えられる。



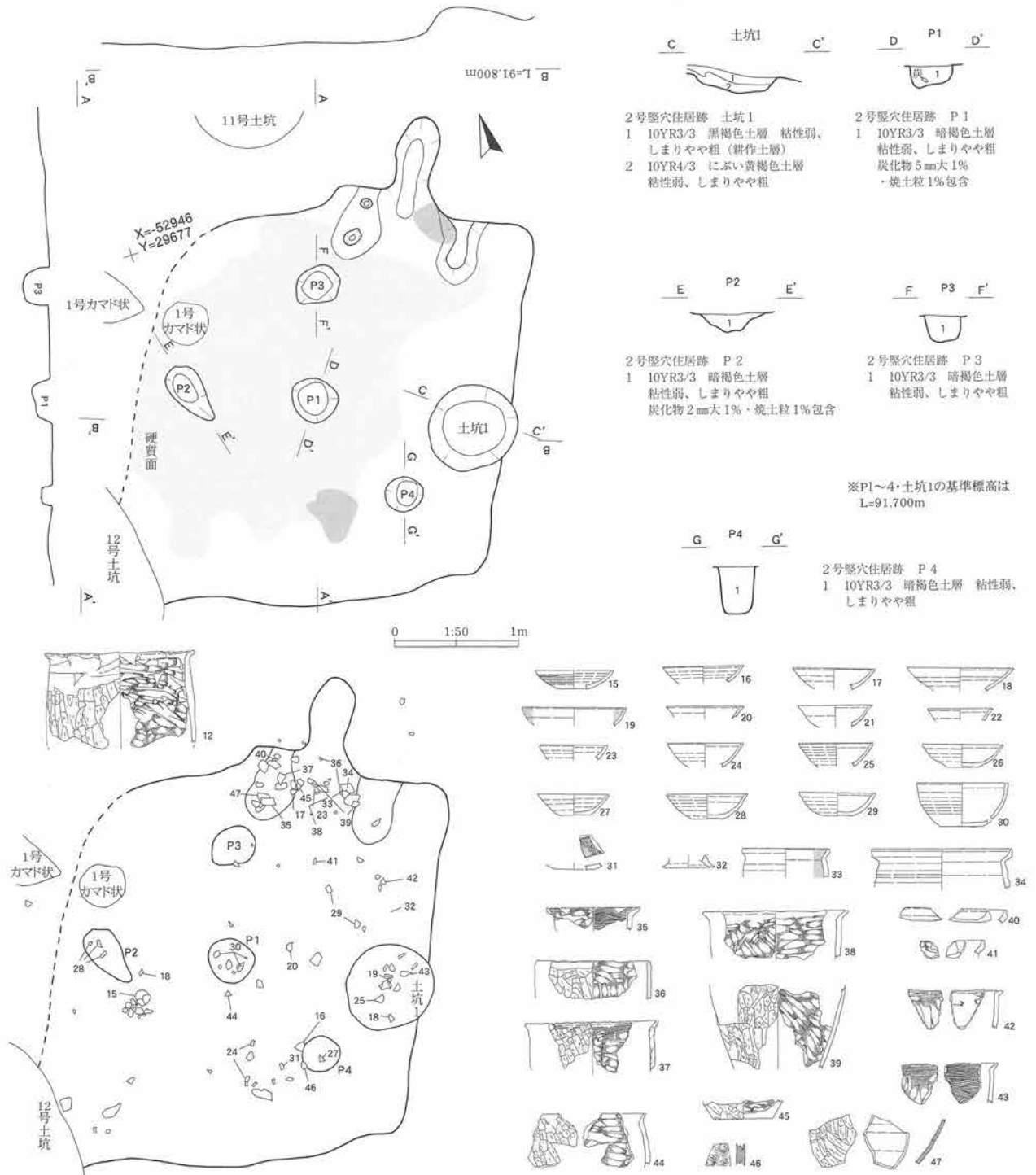
第11図 1号竪穴住居跡カマド

2号竪穴住居跡 (第 12・13 図、写真図版 5)

[位置・検出状況] F 区の八坂神社西側の座標値 (X = -52946 m、Y = 29677 m) 付近に位置する。耕作土を重機で掘削したところ、遺物の散乱状況を確認した。耕作による削平が進んでいたため、検出段階でカマド燃烧部の焼土や建物内硬化面を確認した。

[規模・形態] ほぼ正方形の竪穴内に柱穴、カマド、土坑等の施設を持つ。床面は硬化している。北壁の東側にカマドを設置している。貼床の痕跡はない。

[堆積土] 削平により住居内の堆積土は不明瞭であった。



第 12 図 2号竪穴住居跡

[カマド] 検出段階で燃焼部が露出した。燃焼部の赤化範囲は狭い。煙道部が床面とほぼ同標高で、掘り下げられていることから、刳り貫き式と考えられる。カマド袖部分に材の抜き取り痕を2カ所確認した。

[土坑1] 建物内東部に円形の平面形プランを検出した。堆積土中から土師器坏の破片が出土している。断面形は椀形を呈する。

[柱穴] 4個確認した。配置に規則性なし。

[遺物分布] 須恵器甕、土師器甕、土師器坏が出土。カマドから土坑1にかけて遺物が密集する。

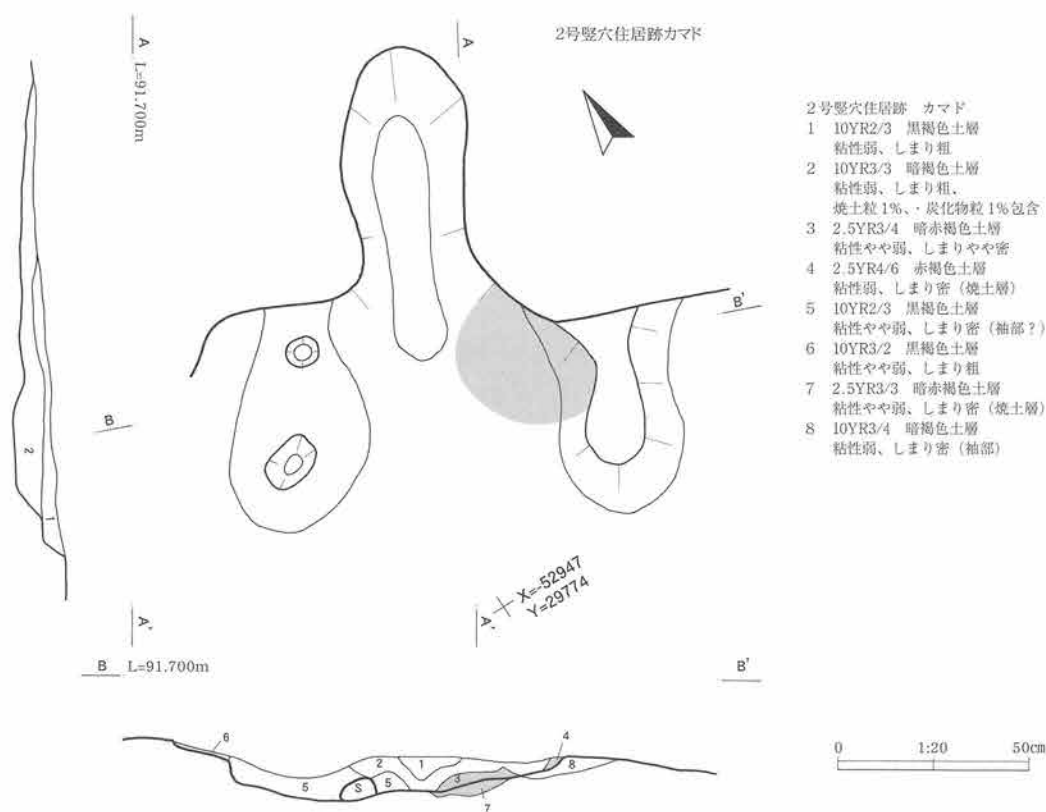
[計測値] 竪穴：規模：3.50 × 3.18 m、床面積：11.13㎡、床面標高：91.520 m、残存壁高：10cm
カマド：方位：N-28度-E、煙道部長：0.83cm、土坑1：規模：0.72 × 0.70 m、深さ：20cm

遺物（第37・38図、写真図版16・17）

[坏] 17個体出土している。すべて土師器坏である。色調は浅黄橙、にぶい黄橙色、灰白色が主体で、内外面黒色土器や内面黒色土器がある。底面には糸切り痕が見られる。

[甕] 7個体出土している。カマド付近を中心に出土している。色調はにぶい橙、橙、にぶい黄橙、灰白色がある。外面底部付近をヘラケズリやヘラナデし、内面をヘラナデする個体が多い。口縁がほぼ直線的に立ち上がる器形(36)も見られる。12は遺構間接合し、1号竪穴住居跡内土坑1(口縁部片)、2号竪穴住居跡カマド付近(胴部片)、1号カマド状土坑(口縁~胴部片)が出土している。

時期 平安時代後期で、甕・坏の特徴や遺物組成から10世紀前半と考えられる。



第13図 2号竪穴住居跡カマド

(2) 中世墓関連遺構

1 号堂跡 (第 14・15 図、写真図版 6～8)

[位置・検出状況] F 区北側の座標値 (X = -52896 m、Y = 29723 m) 付近に位置する。耕作土を重機で掘削したところ、柱穴と土坑の平面プランの密集と土坑検出面上に遺物が散乱している状況が確認できた。また、耕作による削平が進んでいたため、Ⅱ・Ⅲ層の堆積は確認できなかった。

[構成・施設] 4 種の遺構が確認された。

1 号 柱 穴 列：柵跡。柱間寸法約 5 尺で 1 号掘立柱建物跡を囲むと考えられる。遺物は出土していない。この範囲内を堂関連空間と捉え報告する。

1 号掘立柱建物跡：5 本の柱穴で構成。4 隅の柱穴が大きく、西面にやや細い柱穴が 1 個ある。この範囲内を狭義の堂空間と捉え報告する。

1 号 中 世 墓 壙：長方形プランで底面から副葬品と考えられる刀子が出土した。

1・2 号 土 坑：円形プランで 1 号柱穴列範囲内にあるが、掘立柱建物跡範囲外に位置する。

3～5 号 土 坑：円形プランで、掘立柱建物跡範囲内に位置する。

[規模・形態]

1 号 柱 穴 列：柱間寸法約 5 尺で、北西隅と南東隅の柱穴が太く、深い。4 × 4 間の柵跡と考えられる。南北 606cm (約 20 尺)、東西 636cm (約 21 尺) で範囲内推定面積 38.54㎡。東面に柱穴が密集し、入口部の存在が想定される。南北軸 N -8 度 - E。

1 号掘立柱建物跡：南北 333cm (約 11 尺)、東西 400cm (約 13.2 尺) のほぼ正方形。南北軸 N -8 度 - E。範囲内面積 13.32㎡。P 4 には底面に敷石が 1 個配置されている。

1 号 中 世 墓 壙：長方形プラン。規模 1.01 × 0.54 m、深さ 13cm。底面はフラットで断面形は皿形。長軸方向 N -35 度 - E。

1 号 土 坑：円形プラン。規模 0.50 × 0.40 m、深さ 7 cm。底面はフラットで断面形は皿形。

2 号 土 坑：円形プラン。規模 0.52 × 0.48 m、深さ 11cm。底面はフラットで断面形は皿形。

3 号 土 坑：円形プラン。規模 0.62 × 0.53 m、深さ 9 cm。底面はフラットで断面形は皿形。

4 号 土 坑：円形プラン。規模 0.70 × 0.67 m、深さ 9 cm。底面はフラットで断面形は皿形。

5 号 土 坑：円形プラン。規模 0.70 × 0.57 m、深さ 12cm。底面はフラットで断面形は皿形。

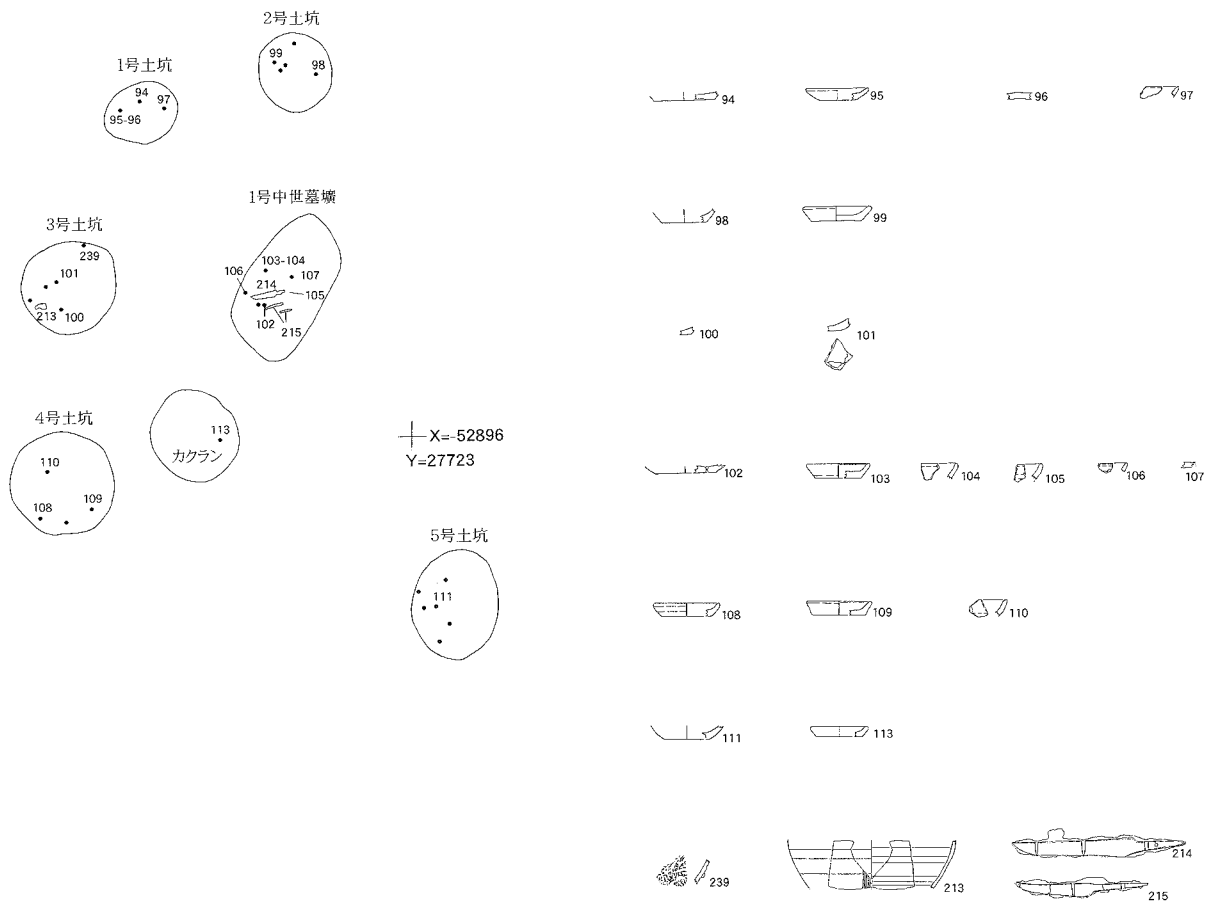
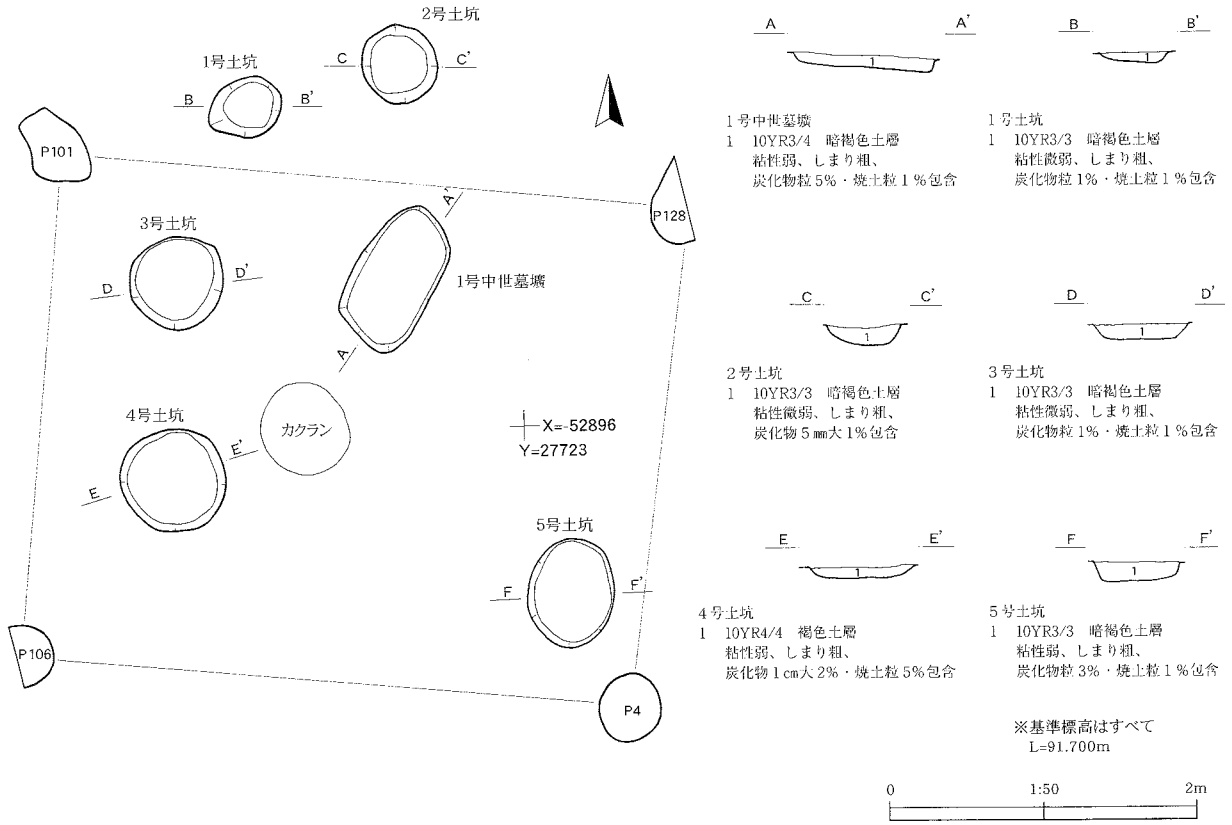
[堆積土・堆積物] 中世墓壙・土坑には、掘り返したような痕跡 (墓荒らしや追葬を想定) を確認できなかった。

1 号 柱 穴 列：堆積土は黒褐色～暗褐色で、Ⅳ層を掘り込んで構築されている。黒褐色土の流入が少ない柱穴では、相対的に暗褐色土に見えやすい。P 6 は柱痕跡がみられる。それ以外の柱穴は単層である。

1 号掘立柱建物跡：4 隅の柱穴 (P 4・101・106・128) に柱痕跡がみられる。

1 号 中 世 墓 壙：単層。モザイク状に焼土、白色粒子、炭化物が混入している。明確な人骨片はない。鉄製品が完形で並んで出土したことから、副葬品とみなし、本遺構を墓と捉えた。堆積土中の焼土、白色粒子、炭化物は、周辺にあると考えられる茶毘所から火葬人骨を本遺構に搬入する際に一緒に持ち込まれたと想定する。底面に赤化の痕跡はない。

1～5 号 土 坑：単層。モザイク状に焼土、白色粒子、炭化物が混入している。明確な人骨片はない。遺物は堆積土中からの出土で、底面からは出土していない。また、堆積土中



第 15 図 1号堂跡関連施設(2)

2 検出遺構

から出土した遺物はすべて破片資料で、堆積土中の焼土、白色粒子、炭化物は、周辺にあると考えられる茶毘所から火葬人骨を本遺構に搬入する際に一緒に持ち込まれた火葬時の残渣と考えられる。

[遺物分布]

1 号中世墓壇：底面から副葬品と考えられる鉄製品（刀子2点）。堆積土からロクロかわらけ小皿2個体。

1 号土坑：堆積土からロクロかわらけ小皿2個体。

2 号土坑：堆積土からロクロかわらけ小皿3個体。

3 号土坑：堆積土から龍泉窯系白磁壺Ⅱ類（水注?）、ロクロかわらけ小皿1個体、手づくねかわらけ1個体、縄文後期土器1点。

4 号土坑：堆積土からロクロかわらけ小皿4個体。

5 号土坑：堆積土からロクロかわらけ小皿6個体、粘土塊1点。

遺物（第41・45・47図、写真図版19・23・24）

[かわらけ小皿・皿] ロクロかわらけ18個体と手づくねかわらけ1個体。遺構堆積土から出土。火葬時の残渣で、一括廃棄されたものと考えられる。手づくねかわらけは12世紀中頃の製作。

[白磁壺類] 太宰府C期（11世紀後半～12世紀前半）の龍泉窯系白磁壺Ⅱ類である。器種は器壁の薄さから水注の可能性が高い。部位は胴下部。

[鉄製品] 1号中世墓壇出土。214の刀子は残存長22.8cmで、刀長16.0cmである。215の刀子は反りが強く、包丁の系譜ではないと考えられる。2個体ともX線写真から刀区が不明瞭でなだらかなラインであると判断できる。この2点は並んだ状態で出土した。

[粘土塊] 土壁片と考えられる。堂の壁面を覆っていたものと想定される。

[縄文土器] 3号土坑堆積土から出土した。

[遺構の性格] 墓堂である。すべての遺構の同時性を支持する資料はない。野外調査時には1号柱穴列が掘立柱建物を構成する要素とすべきか検討した。しかし、掘立柱建物跡の桁・梁の延長線上に柱穴列を構成する柱穴が存在しないため、別施設と考え、1号柱穴列（柵跡）と1号掘立柱建物跡（堂跡）に分離した。墓の設置に伴って掘立柱建物を建造したとすれば、簡素な墓堂と考えられる。ただし、1号中世墓壇の長軸方向が北東を向くのに対し、掘立柱建物と柵はほぼ真北に向いており、軸を異にする。火葬骨埋納が想定されるため、土葬墓のような（頭部は北で、顔は西などの）規則性を持つ必要はないが、軸の違いから、墓と掘立柱建物の構築時期に若干の差も想定される。すなわち、掘立柱建物跡が先行して建造され、その内部に墓を設置する場合と、先に墓が構築され、それに覆いをかける目的で掘立柱建物を建造し、墓堂として整備した場合の2者が考えられる。

1～5号土坑は底面に赤化の痕跡がないため、火葬を行った場所すなわち茶毘所とは考え難い。1～5号土坑には、頭骨のような被葬者を示す骨を埋葬したのではなく、茶毘所で火葬後に残った人骨片や利用し終わった器物の破片などを一括廃棄したと考えられる。すなわち墓壇ではなく、葬送儀礼に関連する廃棄穴（ゴミ穴）で、それらを堂付近や堂内部に構築したと想定した。墓壇と土坑は、底面出土遺物の有無、副葬品と認識できる遺物の出土状況などから分離したが、1～5号土坑が墓ではないと断言する根拠もない。

時期 3号土坑出土の手づくねかわらけと白磁壺Ⅱ類の一括廃棄状況から12世紀中頃の構築である。

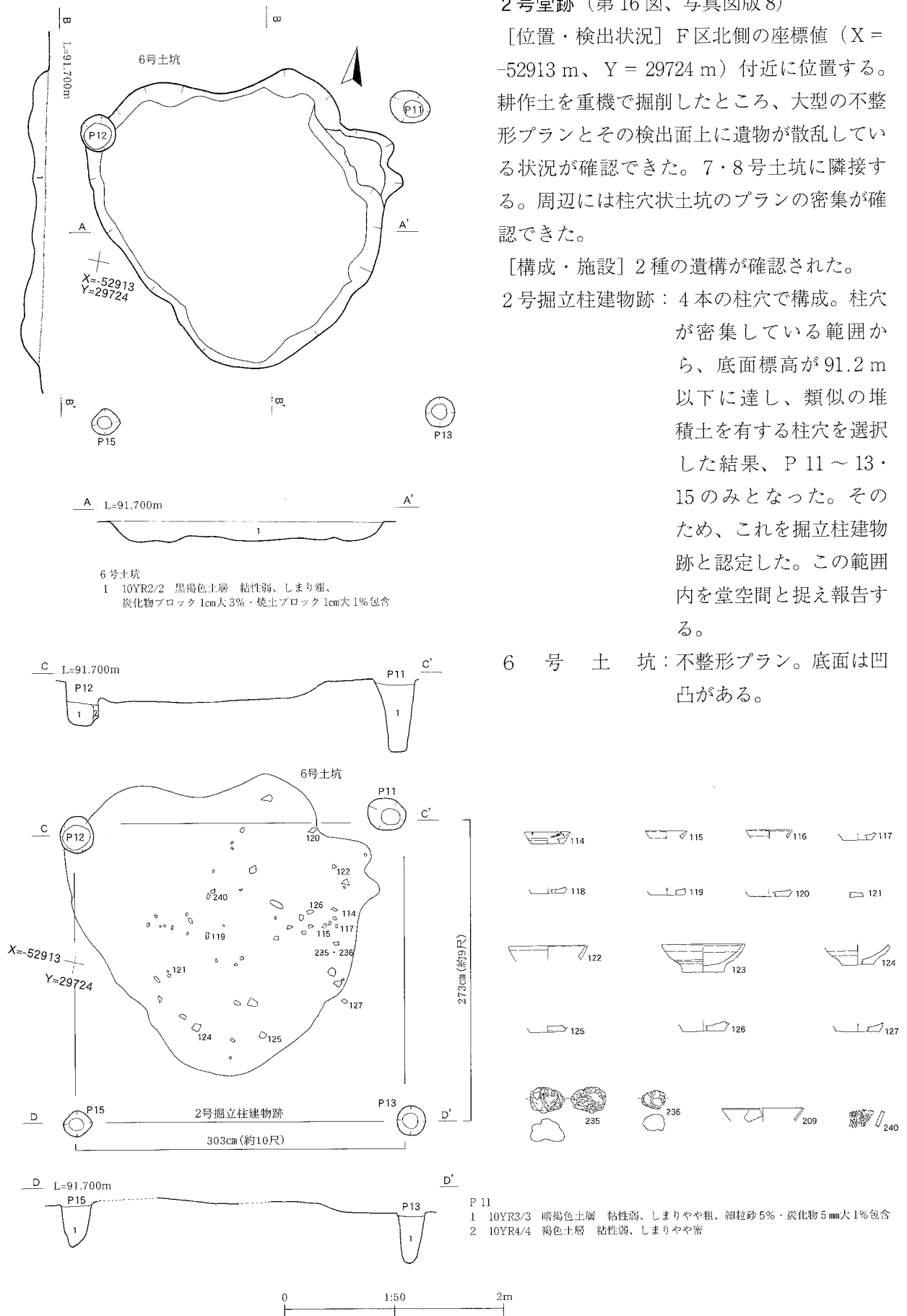
2号堂跡（第16図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕 F区北側の座標値（X = -52913 m、Y = 29724 m）付近に位置する。耕作土を重機で掘削したところ、大型の不整形プランとその検出面上に遺物が散乱している状況が確認できた。7・8号土坑に隣接する。周辺には柱穴状土坑のプランの密集が確認できた。

〔構成・施設〕 2種の遺構が確認された。

2号掘立柱建物跡：4本の柱穴で構成。柱穴が密集している範囲から、底面標高が91.2 m以下に達し、類似の堆積土を有する柱穴を選択した結果、P11～13・15のみとなった。そのため、これを掘立柱建物跡と認定した。この範囲内を堂空間と捉え報告する。

6号土坑：不整形プラン。底面は凹凸がある。



第16図 2号堂跡関連施設

2 検出遺構

[規模・形態]

2号掘立柱建物跡：南北 273cm（約 9 尺）、東西 303cm（約 10 尺）のほぼ正方形。南北軸 N -10 度 - W。範囲内面積 8.27㎡。

6 号 土 坑：不整形プラン。規模 2.78 × 2.26 m、深さ 25cm。底面標高 91.45 m。底面は土取り穴の痕跡に類似した状態で、深さは一定でない。

[堆積土・堆積物]

2号掘立柱建物跡：黒褐色土主体。砂粒量が多い。

6 号 土 坑：掘り返しの痕跡はない。黒褐色土内にモザイク状に焼土、白色粒子、炭化物が混入している。明確な骨片はない。かわらけ小皿・壺、白磁碗のほか、粘土塊、炭化材、縄文晩期土器、小焼礫が主に堆積土中から出土した。底面からも小焼礫やかわらけが出土しているが、数は少ない。1～5号土坑と類似の堆積状況である。

[遺物分布]

2号掘立柱建物跡：遺物なし。

6 号 土 坑：東半に偏る傾向にある。堆積土上部に垂直分布ピークを持つ。

遺物（第 41・45・47 図、写真図版 19・20）すべて 6 号土坑から出土している。

[かわらけ小皿・壺] ロクロかわらけ小皿 7 個体、ロクロかわらけ壺 6 個体。壺は高台が厚く、胴部下半に段を有することを特徴とする。製作年代が 12 世紀前半の可能性を示す。

[白磁碗] 太宰府 D 期（12 世紀中頃～12 世紀後半）の龍泉窯系白磁碗Ⅶ類である。口縁が直線的で、釉薬は粗雑である。

[粘土塊] 磨耗により外面が不明瞭であるが、236 は面取りされたような平坦部があり、234 は白土が付着している痕跡がある。土壁材であった可能性が考えられる。

[縄文土器] 胴部破片である。茶毘所内の残渣に混入して本遺構に搬入されたと想定する。

遺構の性格 広義で墓堂と認識するのが妥当と考える。狭義では納骨堂であろうか。P 12 が 6 号土坑を切っていることから、6 号土坑構築後に、2 号掘立柱建物跡は 6 号土坑に上屋をかける目的で設置されたと考えられる。一方、6 号土坑は 1～5 号連土坑と類似の遺構である。茶毘所で火葬後に残った骨片や祭事で利用し終わった器物の破片などを廃棄した穴と考えられる。ただし、1～5 号土坑に比べて規模の点で大きく異なる。野外調査時には土取り穴（粘土採掘坑）、竪穴住居跡の可能性を考慮していたが、底面地層に粘土層が見られないこと、居住スペースの要件となる壁、床、内部施設等が見られないため、上記のように廃棄穴と解釈した。

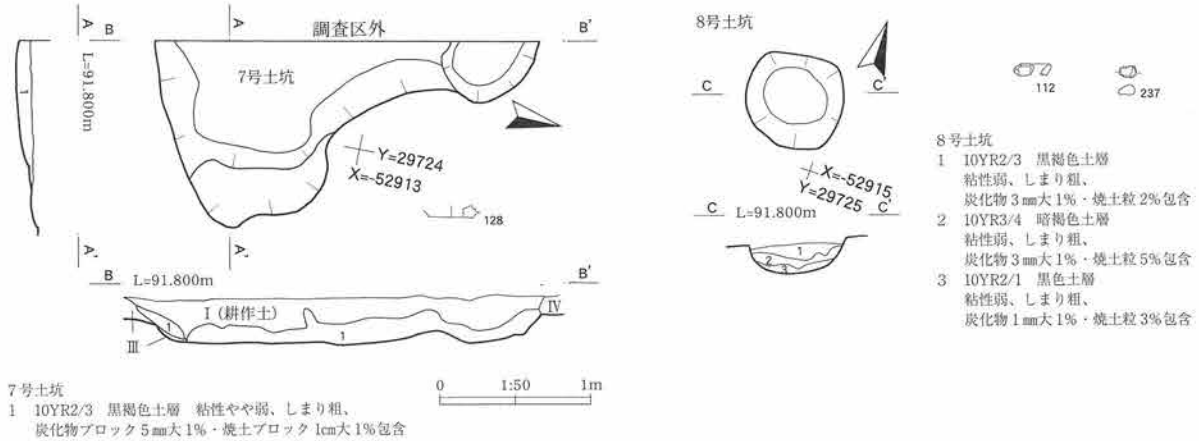
時期 12 世紀前半代のかかわらけ壺と、太宰府 D 期の白磁碗Ⅶ類の一括廃棄状況から、1 号堂跡と同時期の 12 世紀中頃の構築と想定される。

7 号土坑（第 17 図、写真図版 8）

[位置・検出状況] F 区北側の座標値（X = -52913 m、Y = 29724 m）付近に位置する。耕作土を重機で掘削したところ、6 号土坑に類似の不整形プランを確認。6・8 号土坑と切り合い関係はない。

[規模・形態] 不整形プランで調査区外へ延びる。規模 2.55 × (1.20) m、深さ 18cm。底面標高 91.42 m。底面は土取り穴の痕跡に類似した状態で、深さは一定でない。

[堆積土・堆積物] 掘り返しの痕跡はない。黒褐色土内にモザイク状に焼土、炭化物が混入している。かわらけ壺の高台部が 1 点出土している。6 号土坑と同様の堆積物の遺存状況であるが、その量は少ない。1～6 号土坑で確認した白色粒子は微量であった。



第 17 図 7・8号土坑

遺物 (第 41 図、写真図版 20)

[かわらけ壺] ロクロかわらけ壺 1 個体。6号土坑出土かわらけ壺と同様に高台が厚い。

遺構の性格 6号土坑と類似の遺構で、葬送儀礼に関連する廃棄穴と考えられる。

時期 12世紀代の構築と想定される。

8号土坑 (第 17 図、写真図版 8)

[位置・検出状況] F区の座標値 (X = -52913 m、Y = 29724 m) 付近に位置する。耕作土を重機で掘削したところ、土坑検出面上に遺物が散乱している状況が確認できた。また、耕作による削平が進んでいた。6・7号土坑に隣接する。

[規模・形態] 円形プラン。規模 0.72 × 0.66 m、深さ 18cm。底面はフラットで断面形は楕形。

[堆積土・堆積物] 掘り返しの痕跡は確認できなかった。3層に分離した。各層にモザイク状に焼土、白色粒子、炭化物が混入し人為堆積の様相を呈する。明確な人骨片はない。遺物はロクロかわらけ小皿が堆積土から出土した。1～5号土坑と同様の堆積物の遺存状況である。

遺物 (第 41 図、写真図版 20)

[かわらけ小皿] ロクロかわらけ 2 個体。

[白色粒子] 火葬骨粉の可能性を考慮し、リン残留濃度測定を行う目的で土壌サンプルを採取した。理化学分析によって、リン酸の残留濃度が高く、植物質以外のリン酸が含まれているが、カルシウム含量はそれほど多くないとの結果を得た。白色粒子が骨に由来する可能性もあるが、積極的な評価をするには情報量が少ない。詳細は第VI V章3節を参照されたい。

遺構の性格 1～5号土坑と類似の遺構で、葬送に関連する廃棄穴と捉えた。被葬者を示すような骨を埋葬したのではなく、茶毘所で火葬後の人骨片や利用した器物の破片などを一括廃棄した穴である。それら葬祭後の残渣を2号堂跡周辺に埋める目的で構築されたと考えられる。採取された白色粒子は植物質以外のリン酸濃度を示したことから、火葬骨粉の可能性がある。葬送儀礼関連の廃棄穴とする見解を肯定的にみれば、廃棄された火葬骨粉の量が大量ではなかったため、カルシウム含有量が低いと解釈可能であろう。一方、否定的にみれば、墓関連遺構ではなく12世紀代の廃棄穴以外の解釈は難しい。

時期 12世紀代で、1号堂跡とほぼ同時期と想定される。

(3) 掘立柱建物跡

柱穴群の中から掘立柱建物跡を抽出した。底面標高、堆積土、柱間寸法、軸線の検討を行い、4棟を認識した。

1号掘立柱建物跡（第14図、写真図版21）

1号堂跡構成施設である。柱穴5個で構成される。1号堂跡の記載を参照。

2号掘立柱建物跡（第16図、写真図版9）

2号堂跡構成施設である。柱穴4個で構成される。2号堂跡の記載を参照。

3号掘立柱建物跡（第18図、写真図版10）

[位置] F区北側の座標値（ $X = -52927$ m、 $Y = 29726$ m）付近に位置する。2号堂跡付近の柱穴状土坑群と本遺構の間には遺構の確認できなかった範囲があり、本遺構分布域とは分離できた。

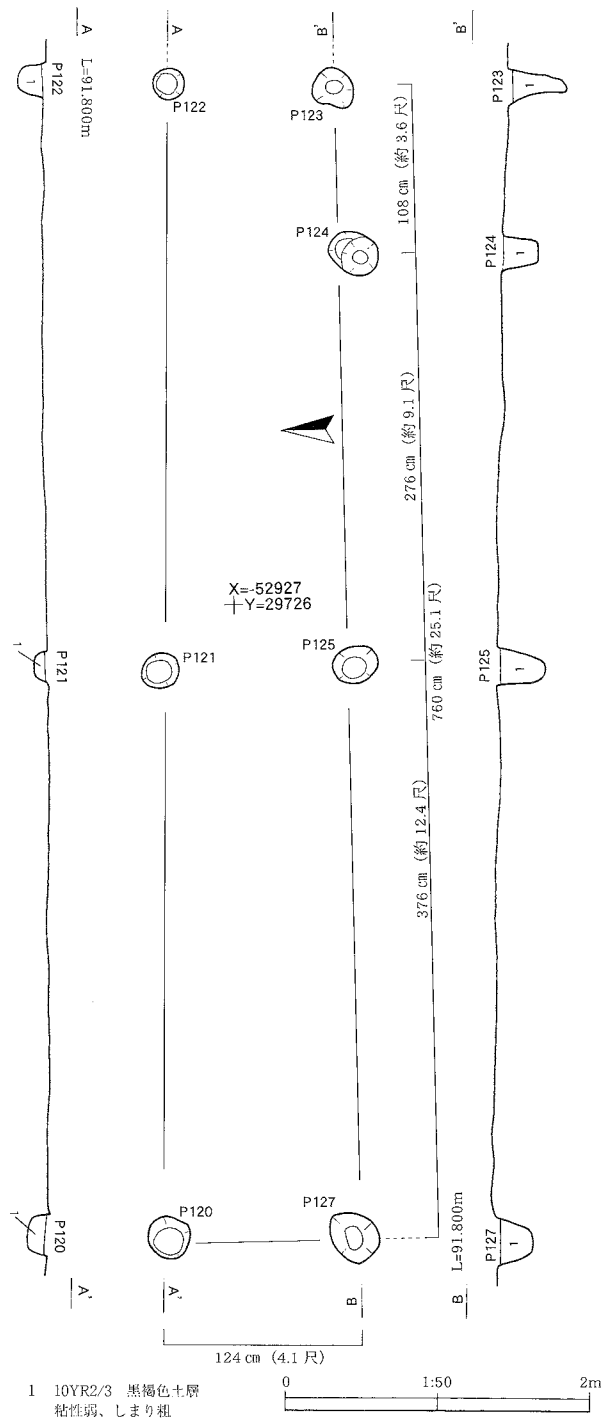
[規模・形態] 柱穴7個で構成される。桁行760cm（約25.1尺）、梁間124cm（約4.1尺）の範囲を確認。東側と南側の調査区外に延びるものと想定される。

[堆積土・堆積物] 暗褐色土主体。抜き取り痕や柱痕跡を持つ柱穴はない。P124堆積土から6号土坑出土資料と同特徴の粘土塊が出土している。

[建物主軸] N-88°-W。

遺構の性格 小屋か。庇のつく建物の可能性もあるが、調査区内だけでの検出結果からは判断できない。

時期 時期不明。P124出土粘土塊が6号土坑出土粘土塊と類似する点を評価すれば、12世紀代に帰属する可能性がある。

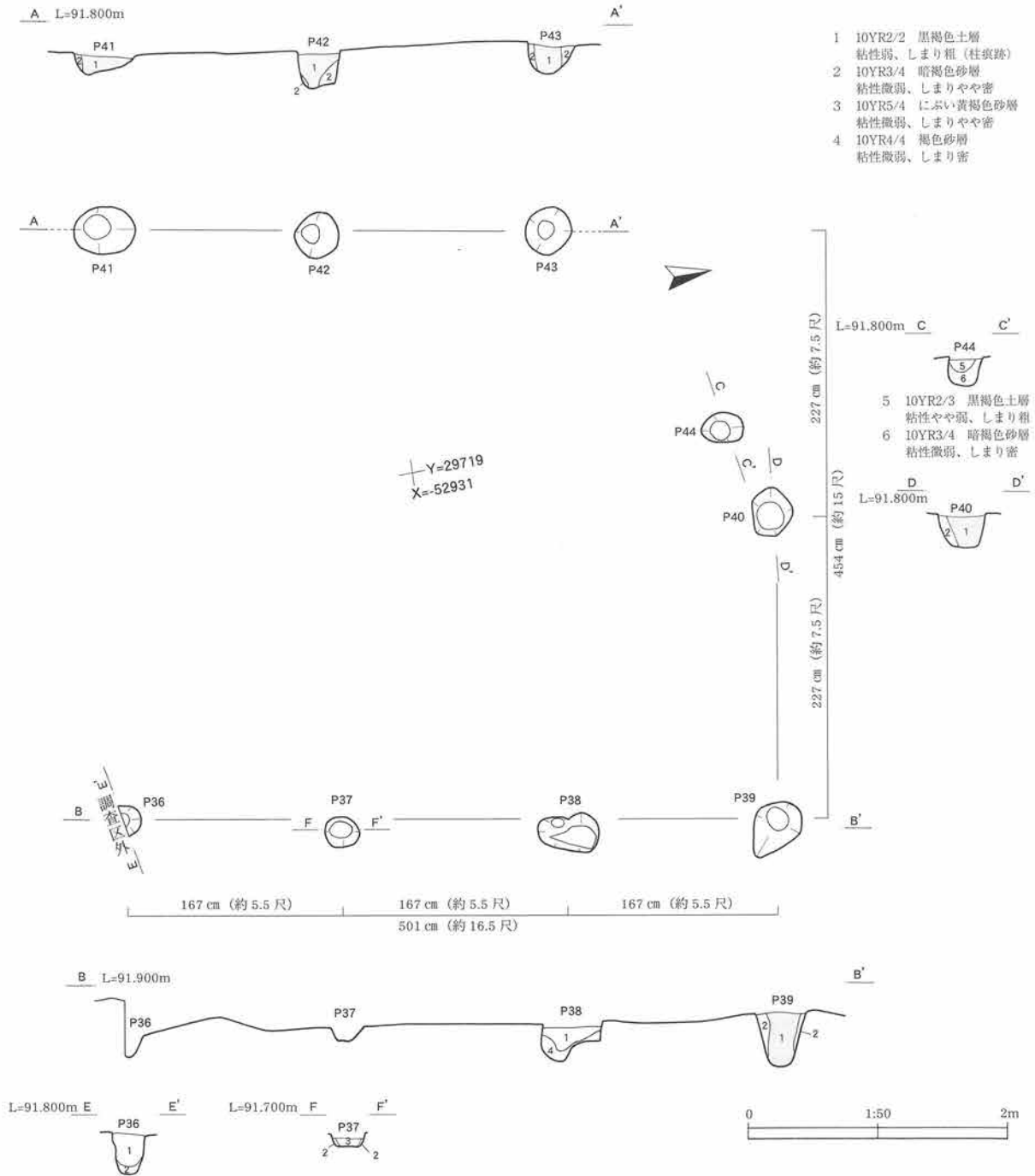


第18図 3号掘立柱建物跡

4号掘立柱建物跡（第19図、写真図版10）

[位置] F区中央部の座標値（ $X = -52931$ m、 $Y = 29719$ m）付近に位置する。

[規模・形態] 桁行501cm（約16.5尺）、梁間454cm（約15尺）の2×3間の範囲を確認した。建物は南側の調査区外に続いている可能性がある。柱間寸法は桁行が5.5尺、梁間が7.5尺を使用。



第 19 図 4 号掘立柱建物跡

[堆積土・堆積物] 柱痕跡は黒褐色、ほかは暗褐色土主体。P 38 は抜き取り痕を持つ。

[建物主軸] N-10°-E。

遺構の性格 小屋。柱間寸法 5.5 尺は 1 号堂跡構成施設の 1 号柱穴列でも多用されているため、1 号柱穴列同様、柵跡の可能性も考慮したが、1 号柱穴列は 5～5.5 尺で 4 面を囲むと想定できるのに対し、本遺構は桁行と梁間の柱間寸法が異なる。そのため、簡素な掘立柱小屋とするほうが妥当と考えた。

時期 時期不明。

2 検出遺構

(4) 柱 穴 列

1号柱穴列 (第14図、写真図版6)

1号堂跡関連施設で、柵と考えられる。54㎡。1号堂跡の記載を参照。

2号柱穴列 (第20図)

[位置・検出状況] F区西側の座標値(X = -52940 m、Y = 29672 m)付近に位置する。耕作土を重機で掘削したところ、2号溝跡に隣接して柱穴群を検出した。遺物は出土していない。

[規模・形態] 1列のみである。柱間寸法は一定でない。2号溝跡とほぼ直行する。

[堆積土・堆積物] 黒褐色土のみで構成。柱痕跡なく、底面標高は一定でない。

遺構の性格 不明。

時期 時期不明。

(5) 溝 跡

1号溝跡 (第21図、写真図版11)

[位置・検出状況] H区西側の座標値(X = -52829 m、Y = 29572 m)付近に位置する。耕作土を重機で掘削したところ、幅約6mの暗褐色土プランを検出した。検出面で遺物は出土していない。なお、調査区幅5mのうち、南側のノリ面範囲を除く4.2mについて調査した。

[規模・形態] 長：4.2m (調査区幅分)、幅：5.85m、深さ：125cm。断面形は椀形を呈する。底面は不整形だが、平坦な場所もあり本来の断面形は逆台形であったと考えられる。

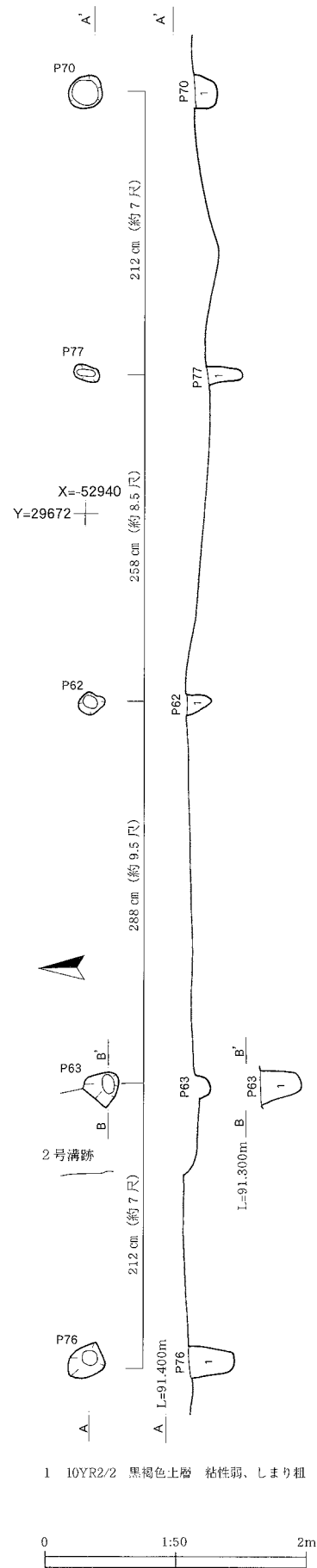
[堆積土・堆積物] 暗褐色土と洪水砂層の互層で構成される。縄文土器片が堆積土から出土している。

遺物 (第47図、写真図版24)

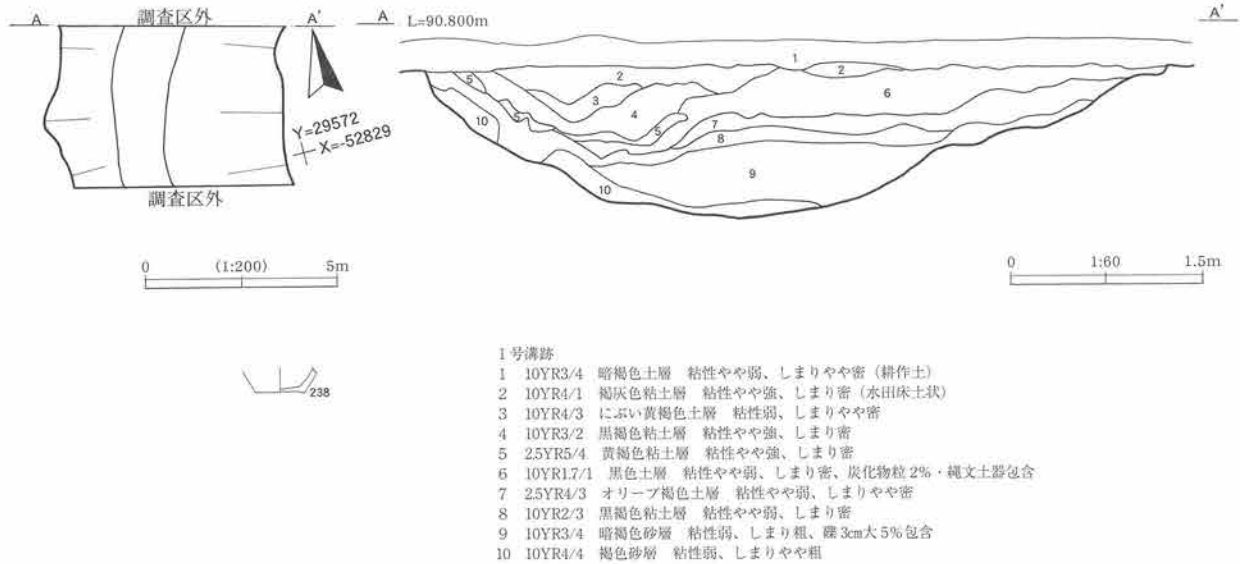
磨耗の著しい縄文後～晩期の土器が3個体出土している。堆積土から出土しているため、溝跡の構築時期を示す資料ではなく、流れ込んだものと考えられる。

遺構の性格 溝跡。紫波町役場税務課所蔵の明治年間の地籍図(第4図)には、本遺構より約100m北側に小河川が記載されているが、本遺構近辺に流路の記載はない。底面形状の歪みは、水性作用による形成の可能性が高いため、本遺構が水路として機能したと想定される。

時期 時期不明。



第20図 2号柱穴列



第 21 図 1 号溝跡

2号溝跡 (第 22 図、写真図版 11・12)

〔位置・検出状況〕 E・F区にまたがって幅 2 m 程度の黒褐色土範囲が検出された。調査区内で確認された範囲について便宜的に北西部を 2号溝跡Ⅰ区、南西部を 2号溝跡Ⅱ区、南側を 2号溝跡Ⅲ区として記載する。Ⅰ区は、座標値 (X = -52942 m、Y = 29669 m) 付近、Ⅱ区は座標値 (X = -52967 m、Y = 29669 m) 付近、Ⅲ区は、東端が座標値 (X = -52970 m、Y = 29790 m) 付近である。Ⅲ区東端はほぼ直角に北方向へ延びる。Ⅲ区の西側については、検出作業中に事業用地変更が行われ本調査区外となったことから、遺構範囲確認調査で終了した。

〔規模・形態〕 Ⅰ・Ⅱ区とⅢ区の延長線の交点とⅢ区東端を一辺とすると、東西長は推定約 100 m である。Ⅲ区では二股に分かれるため、北側を 2 a 溝跡、南側を 2 b 溝跡として報告する。

2 号 溝 Ⅰ 区：長；5.2 m (調査区幅分)、幅；1.70 m、深さ；42cm。底面標高 90.80 m、断面形は逆台形。

2 号 溝 Ⅱ 区：長；2.2 m (調査区幅分)、幅；1.96 m、深さ；71cm。底面標高 90.74 m。小溝部底面標高 90.65 m。断面形は逆台形で底面に小溝 1 条。

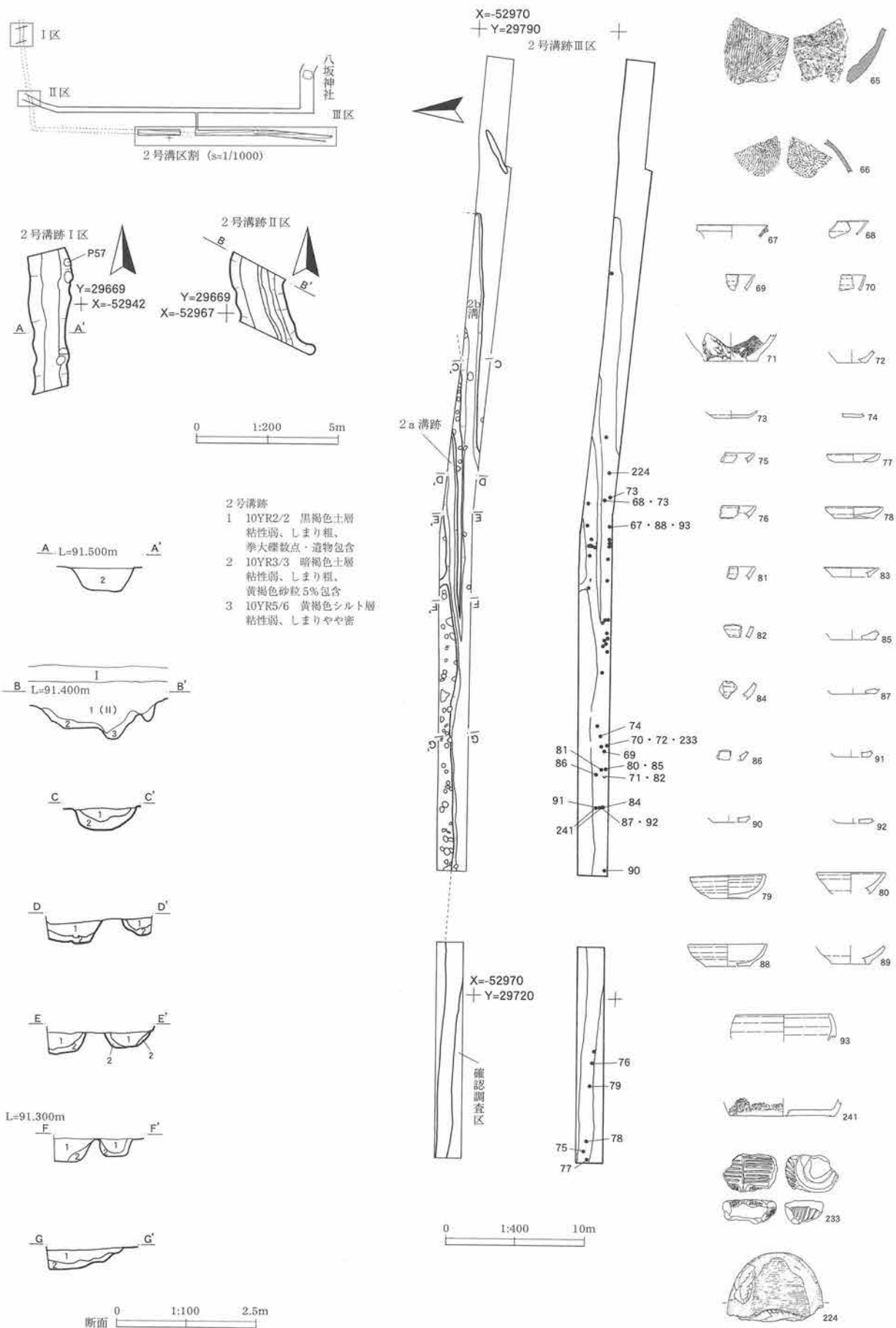
2 号 溝 Ⅲ 区：長；67.80 m、幅；1.76 m、深さ；40cm。底面標高 90.74 ~ 90.82。断面形は逆台形。

〔堆積土・堆積物〕 上部層が黒褐色土、下部層が暗褐色土である。下部層には砂粒が多い。下部層に帰属する遺物はない。堆積土内での上下差は激しく、縄文土器、土師器、かわらけなど時期の異なる遺物が混在する。2 a 溝跡と 2 b 溝跡の切り合い関係は堆積土からは確認できなかった。

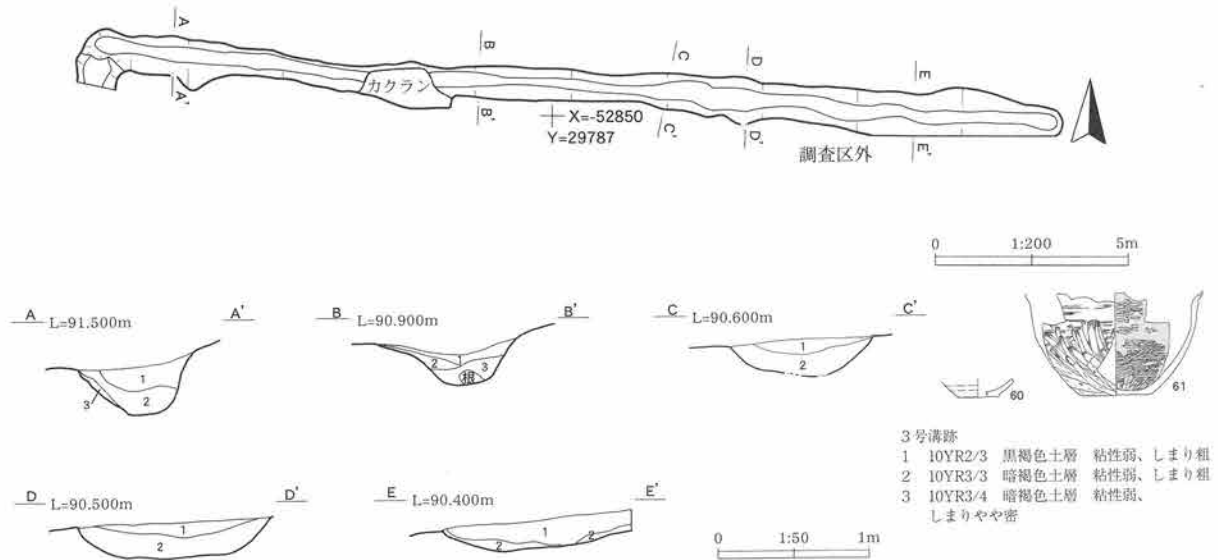
遺物 (第 40・46・47 図、写真図版 19) 大型の焼礫、磨耗した縄文晩期の土偶 (233)、磨耗した縄文晩期の土器 (241)、10 世紀代の土師器坏 (68 ~ 70・72 ~ 74)、甕 (71)、12 世紀代のかわらけ塊 (79)・小皿 (75 ~ 78・81 ~ 87) が出土している。堆積土上部から 12 世紀代の資料でかわらけが 4 個体重なった状態で出土した (75 ~ 79)。これらは 12 世紀代の人々の一括廃棄行為を示す資料である。少なくとも 12 世紀代において本遺構が埋まりきらずに開口していた状況証拠と言える。

遺構の性格 溝跡。区画溝と想定する。1 辺は約 100 m と考えられる。野外調査時に水路と道路側溝の可能性を検討したが、状況証拠に乏しい。区画範囲は本遺構に沿って小ピット群が散在する。ピットは不整形なものが多いため、植樹痕跡と考えられる。溝に沿って垣根を設置したものと想定する。

2 検出遺構



第22図 2号溝跡



第 23 図 3号溝跡

区画内部には中世墓関連施設があることから、本遺構は墓域を囲む区画溝の可能性はある。

時期 開削時期不明。12世紀資料の一括廃棄の存在から12世紀までは埋没せず、溝としての機能を保持したと考えられる。

3号溝跡（第23図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕 F区の八坂神社北側、座標値（X = -52850 m、Y = 29787 m）付近に位置する。高位の低地面から低位の低地面への変換点にあり、耕作土が厚く堆積していた。東西方向に直線的に延びる幅約2mの黒褐色土のプランを検出した。

〔規模・形態〕 2号溝跡の東端から北方向に向う延長線上にあるが、2号溝跡とは底面形状や堆積土が異なる。長：25.90 m、幅：1.94 m、深さ：38cm。断面形は椀形ないしは皿形を呈する。東側は遺存状態が悪い。2号竪穴住居跡から東に向かって延びている。

〔堆積土・堆積物〕 上部層が黒褐色土、下部層が暗褐色土主体である。中央部の堆積土から土師器甕が出土している。木根痕が多い。八坂神社を囲むスギの根と考えられる。

遺物（第39図、写真図版18）

堆積土から土師器甕1点と土師器坏1点が出土している。甕はロクロ調整後に内面を黒色処理している。坏は底部片である。

遺構の性格 不明。2号溝跡には帰属しない単独の溝と考えられる。

時期 開削時期不明。

4号溝跡（第24図、写真図版11）

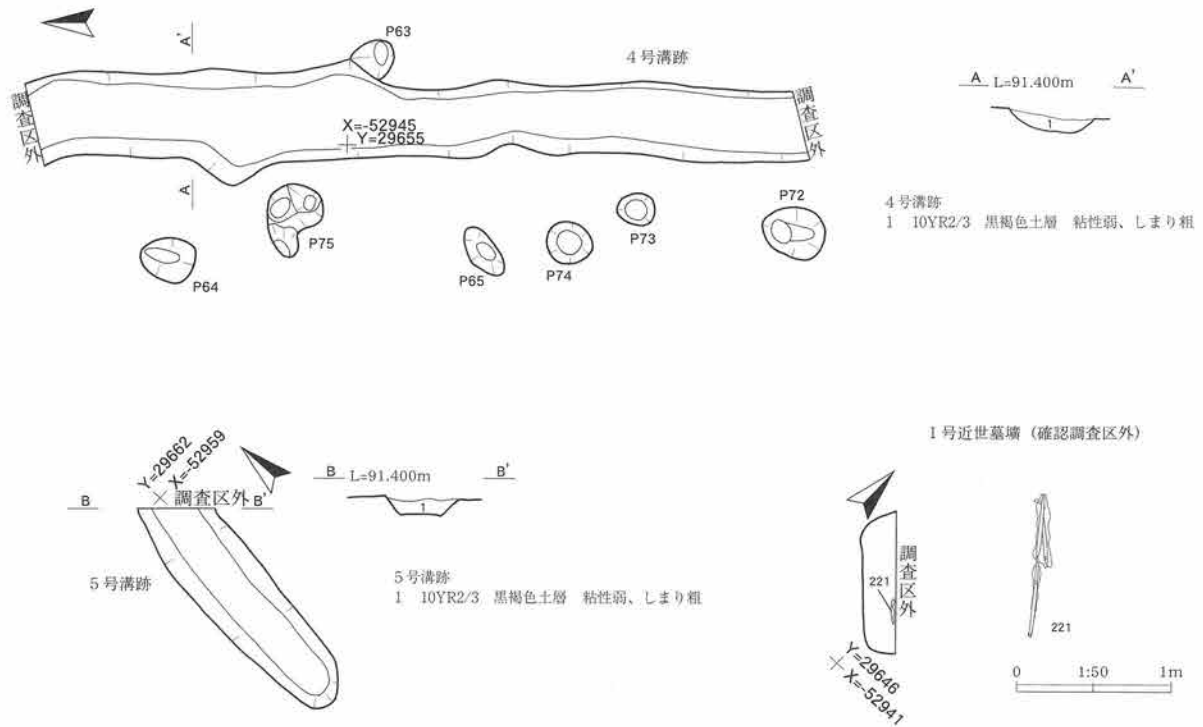
〔位置・検出状況〕 F区西側の座標値（X = -52945 m、Y = 29655 m）付近に位置する。耕作土を重機で除去したところ、2号溝跡と平行に走る幅約0.6mの溝状の黒褐色土プランを検出した。

〔規模・形態〕 長：5.10 m（調査区幅分）、幅：0.61 m、深さ：15cm。断面形は皿形を呈する。周辺に小ピット群が散在する。

〔堆積土・堆積物〕 単層で、黒褐色土。出土遺物なし。

遺構の性格 不明。野外調査時に2号溝と本遺構がセットで道路側溝となる可能性を検討したが、

2 検出遺構



第 24 図 4・5号溝跡、1号近世墓壇

2号溝跡がI区からII区まで延びると想定されるのに比べ、本遺構は南部が確認できなかった。
 時期 時期不明。

5号溝跡 (第 24 図)

[位置・検出状況] F区西側の座標値 (X = -52959 m、Y = 29662 m) 付近に位置する。耕作土を重機で除去したところ、溝状陥し穴に類似する暗褐色プランを検出した。

[規模・形態] 長：1.85 m、幅：0.47 m、深さ：12cm。断面形は皿形を呈する。

[堆積土・堆積物] 単層で、黒褐色土。

遺構の性格 不明。

時期 時期不明。

(6) 近 世 墓 壇

1号近世墓壇 (第 24 図)

[位置・検出状況] F区西側の座標値 (X = -52941 m、Y = 29646 m) 付近に位置する。耕作土を重機で除去したところ、確認調査区範囲で黒色土の長方形プランを検出した。

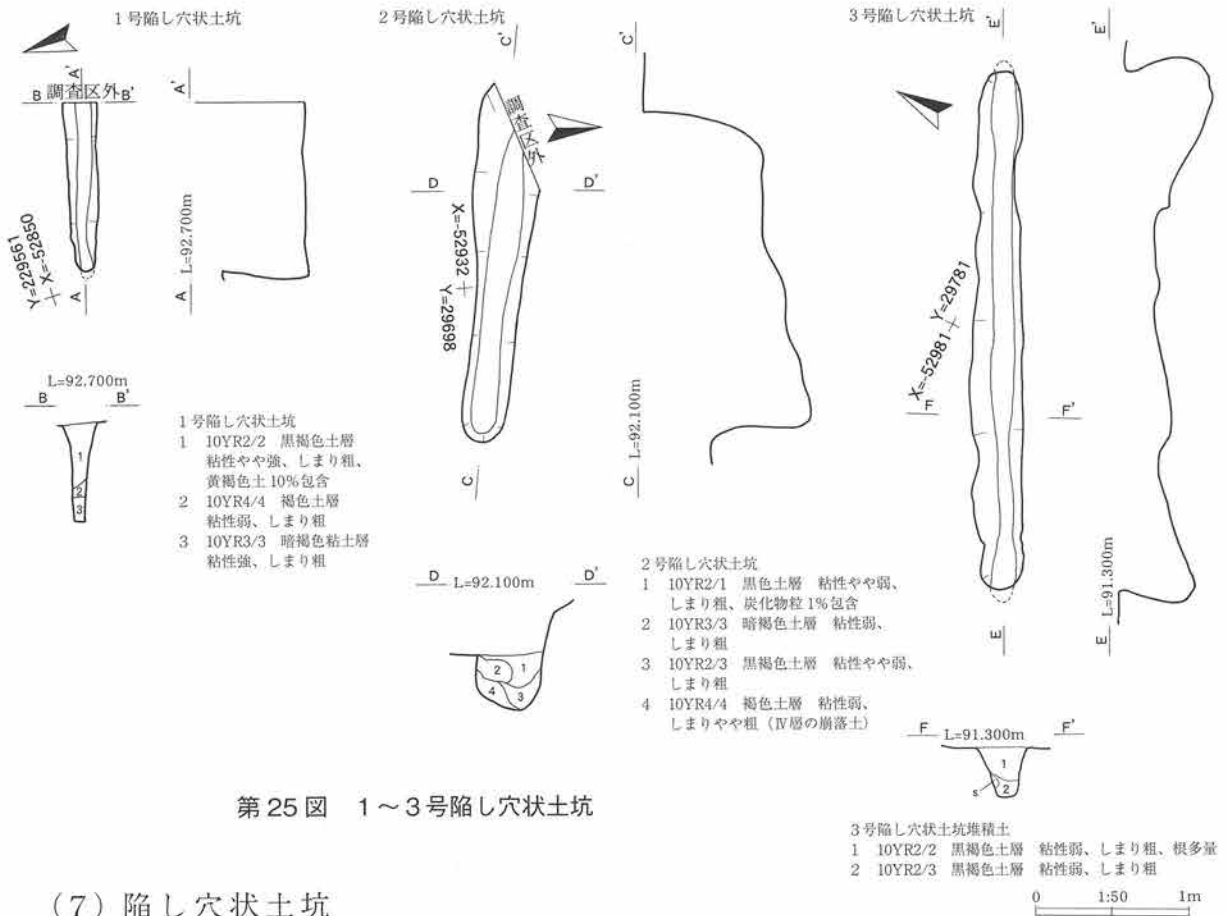
[規模・形態] 長：0.94 m、幅：22 m。平面は長方形。

[堆積土・堆積物] 検出面は黒褐色土。簀が1点検出面で確認された。

遺構の性格 近世墓で形態から土葬墓と考えられる。明治期の紫波町役場税務課所蔵の地籍図によれば、「四十番。二等宅地」に相当する範囲内である。したがって屋敷墓の可能性がある。

遺物 (第 45 図、写真図版 23) 銅製簀1点。

時期 近世以降。



1号陥し穴状土坑 (第25図、写真図版13)

[位置] H区東側の座標値 (X = -52946 m, Y = 29677 m) 付近に位置する。

[規模・形態] 調査区外へ延びる。長：1.12 m、幅：0.24 m、深さ：64cm。平面形は溝状、断面形はU字状。

[堆積土・堆積物] 黒褐色土と砂粒を多く含む褐色土が主体。遺物は出土していない。

遺構の性格 溝状の陥し穴と考えられる。時期 形態の特徴から縄文時代中期以降。

2号陥し穴状土坑 (第25図、写真図版13)

[位置] F区中央の座標値 (X = -52932 m, Y = 29698 m) 付近に位置する。

[規模・形態] 調査区外へ延びる。長：2.36 m、幅：0.43 m、深さ：38cm。平面形は溝状、断面形はU字状。

[堆積土・堆積物] 黒色土主体。黒褐色、暗褐色、褐色土が混入している。遺物は出土していない。

遺構の性格 溝状の陥し穴と考えられる。時期 形態の特徴から縄文時代中期以降。

3号陥し穴状土坑 (第25図、写真図版13)

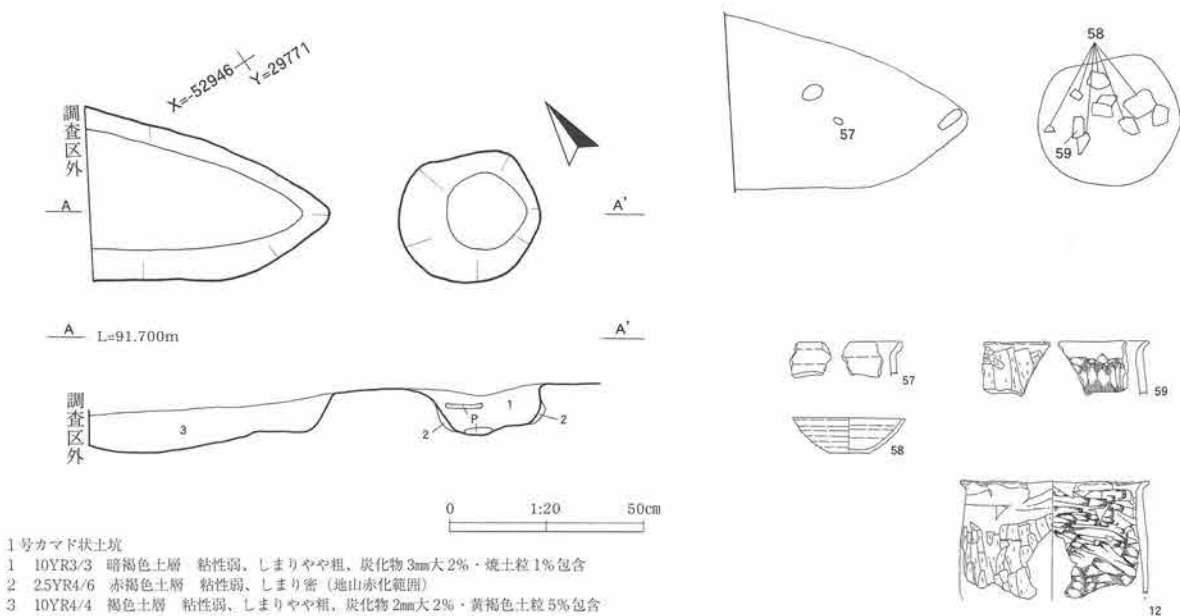
[位置] E区東端部の座標値 (X = -52981 m, Y = 29781 m) 付近に位置する。

[規模・形態] 長：3.44 m、幅：0.36 m、深さ：60cm。平面形は溝状、断面形はU字状。

[堆積土・堆積物] 黒褐色土が堆積する。一部根によるカクランがある。

遺構の性格 溝状の陥し穴と考えられる。時期 形態の特徴から縄文時代前半以降。

2 検出遺構



第26図 1号カマド状土坑

(8) カマド状土坑

1号カマド状土坑 (第26図、写真図版13)

[位置] 八坂神社西側の座標値 (X = -52946 m、Y = 29677 m) 付近に位置し、2号竪穴住居跡と重なる。

[規模・形態]

煙道状土坑：長；0.63 m、幅；0.47 m、深さ；11cm。断面形は皿形。

煙出部状土坑：36 × 34cm、深さ；10cm。平面形は円形、断面形は椀形。

[堆積土・堆積物] 黒褐色土が堆積。焼土が微量混入。土師器坏・甕が出土している。

遺物 (第39図、写真図版18)

土師器坏 (58) は内外面ともススコゲに覆われ、器面の色調が黒褐色を呈する。土師器甕は2個体あり、59はヘラ調整で12はロクロ引きである。12は遺構間接合し、1号竪穴住居跡内土坑1 (口縁部片)、2号竪穴住居跡カマド付近 (胴部片) でも出土している。

遺構の性格 古代竪穴住居跡のカマドの煙道部および煙出部と考えられる。本遺構は、東壁にカマドを持つ竪穴住居跡の付属施設と想定される。

時期 1・2号竪穴住居跡とほぼ同時期の10世紀前半である。

(9) 土坑

9号土坑 (第27図、写真図版13)

[位置] F区北側の座標値 (X = -52890 m、Y = 29721 m) 付近に位置する。1号堂跡の北側。

[規模・形態] 長；0.98 m、幅；0.97 m、深さ；10cm。平面形は円形、断面形は皿形。

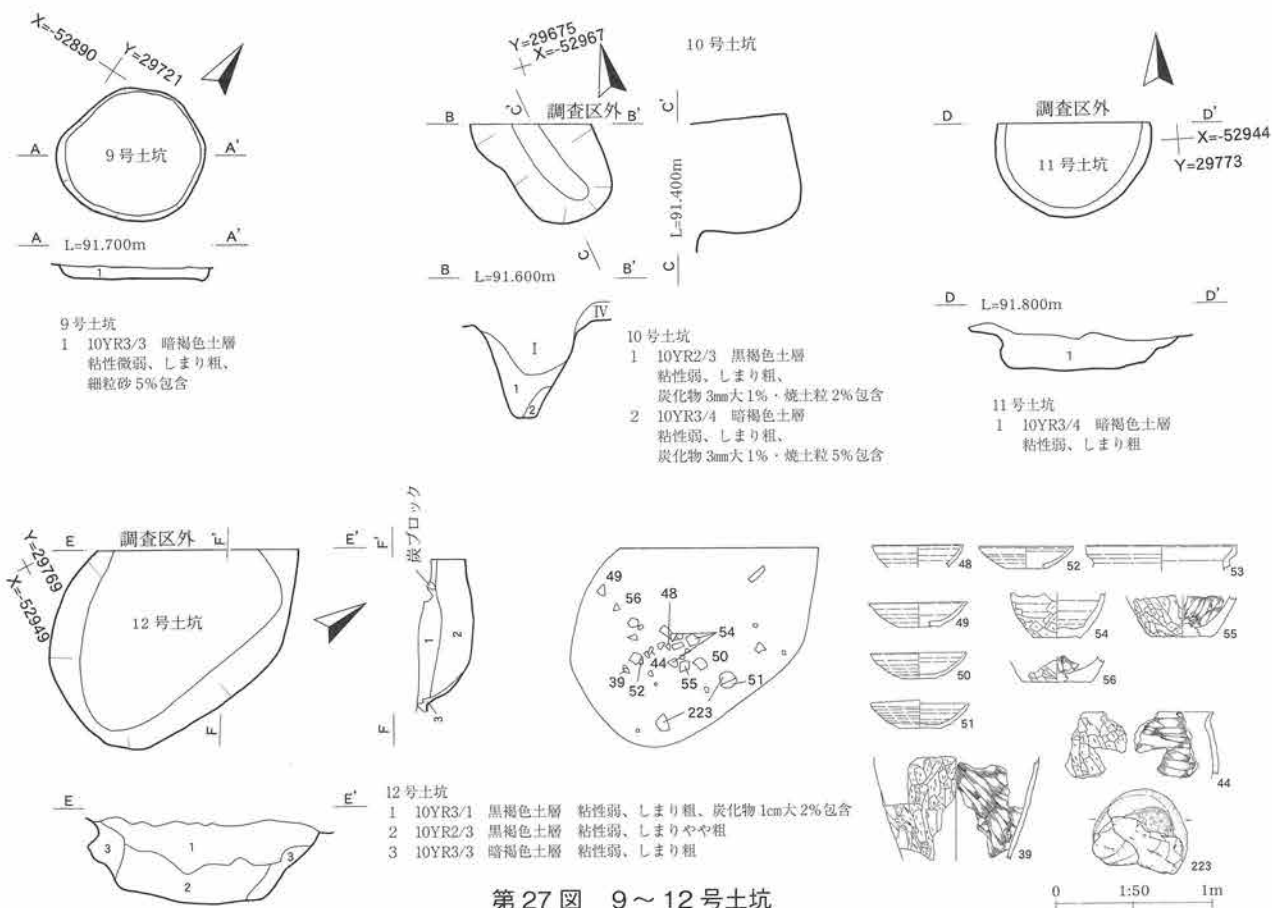
[堆積土・堆積物] 単層で暗褐色土が堆積する。

時期 時期不明。

10号土坑 (第27図、写真図版13)

[位置] F区西側の座標値 (X = -52967 m、Y = 29675 m) 付近に位置する。

[規模・形態] 長；0.94 m、幅；0.75 m、深さ；62cm。平面形は楕円形、断面形はU字状。



[堆積土・堆積物] 黒褐色土主体。焼土粒微量混入。遺物は出土してない。

時期 時期不明。

11号土坑 (第27図、写真図版13)

[位置] F区の八坂神社北側の座標値 (X = -52944 m、Y = 29773 m) 付近に位置する。

[規模・形態] 調査区外へ延びる。長:1.02 m、幅:0.57 m、深さ:21cm。平面形は円形、断面形は皿形。

[堆積土・堆積物] 単層で暗褐色が堆積する。遺物は出土してない。

時期 時期不明。

12号土坑 (第27図、写真図版13)

[位置] F区の八坂神社北側の座標値 (X = -52949 m、Y = 29769 m) 付近で、2号竪穴住居跡の西側。

[規模・形態] 調査区外へ延びる。長:1.02 m、幅:0.57 m、深さ:21cm。平面形は楕円形、断面形は皿形。

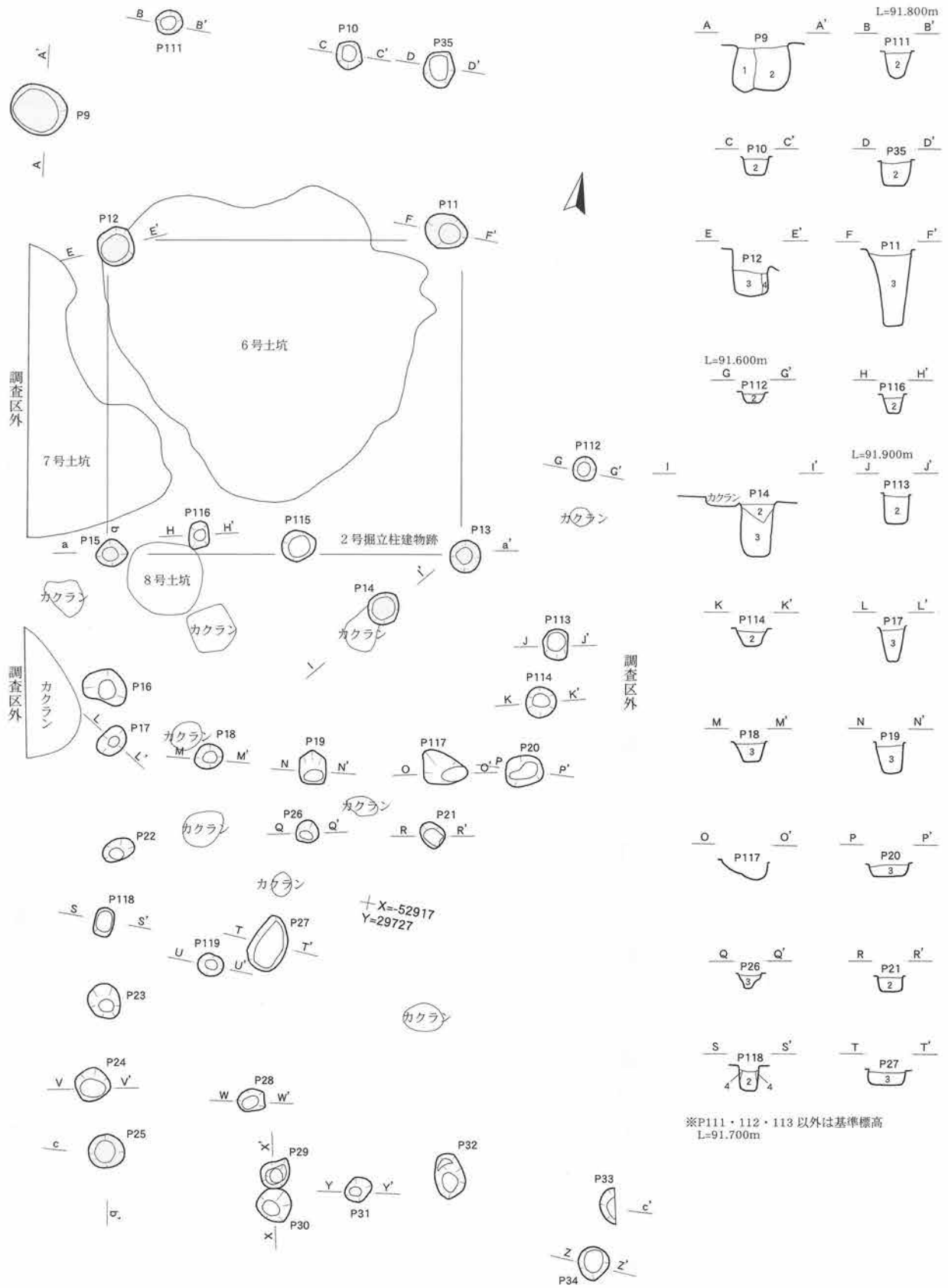
[堆積土・堆積物] 3層に大別した。黒褐色土主体で、堆積土中から遺物が出土した。

遺物 (第39・46図、写真図版18・24)

土師器坏3個体、土師器甕4個体、磨石1点が出土した。甕胴部片(12)は、1号竪穴住居跡と2号竪穴住居跡からも出土し、接合関係を有する。

時期 出土遺物の接合関係から2号竪穴住居跡とはほぼ同時期の10世紀前半と考えられる。

2 検出遺構

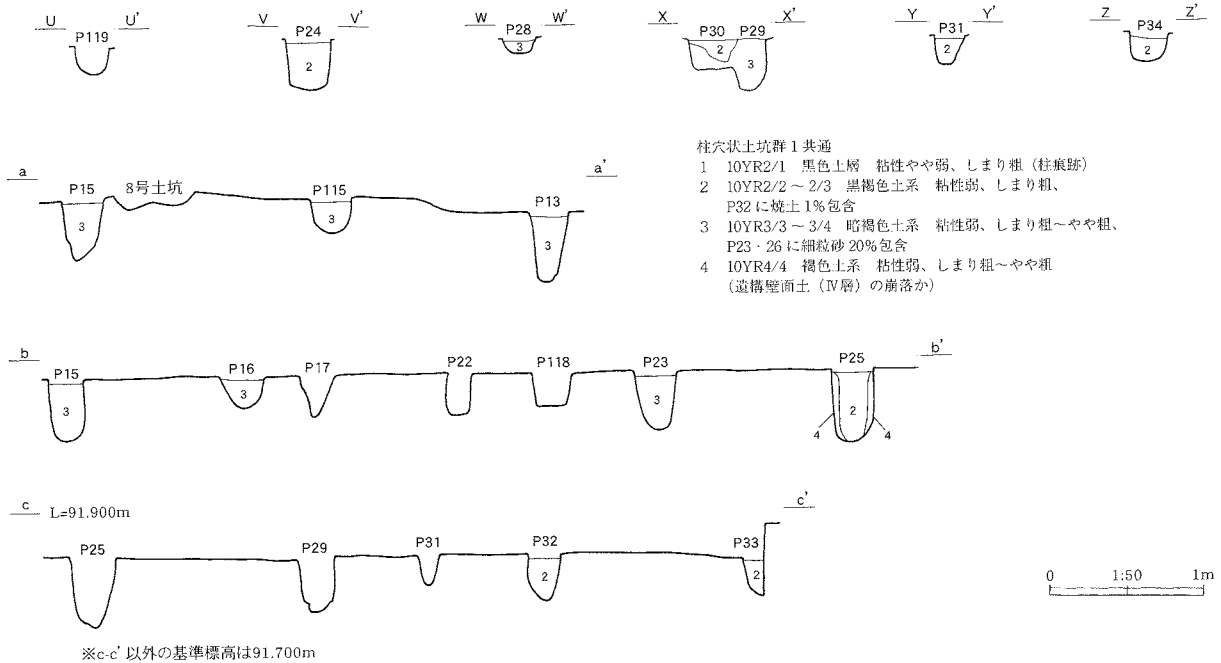


※P111・112・113 以外は基準標高
L=91.700m

※ は底面標高 91.200m 以下に達する柱穴状土坑



第 28 図 柱穴状土坑群 1 (1)



第 29 図 柱穴状土坑群 1（2）

(10) 柱穴状土坑群

柱穴状土坑群 1（第 28・29 図）

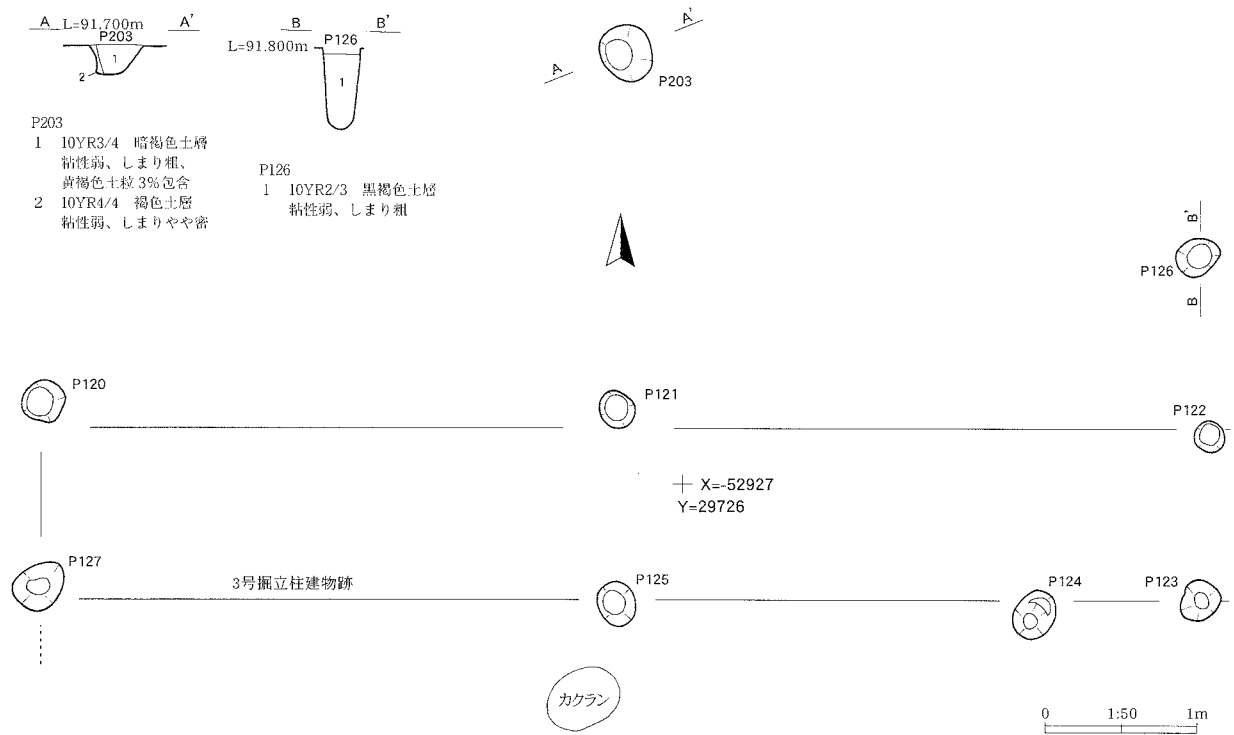
F 区の 2 号堂跡、6～8 号土坑付近である。調査区幅が約 5 m である。幅の狭い調査区に柱穴状土坑が密集している。建物として確認できたのは、底面標高が 91.200 m 以下に達する柱穴状土坑のうち、P 11～13・15 の 4 個によって構成される 2 号掘立柱建物跡のみである。

柱穴列と認識可能なグループはあるが、別案も容易に想定できるため、登録しなかった。また、近世民家の可能性を検討したが、民家の母屋を設定するには柱間が狭く、軸線も一定しないため断念した。P 15～17・22・118・23 と、P 25・29・32・33 と、P 17～19・117・20、P 21・26 と、P 112～114 は一直線に並ぶなどのまとまりが見られ、柱穴列あるいは、民家の一部として認識できなくもないが、深さも一定でないため登録していない。発掘調査中の認識では、1 号柱穴列のように柱間寸法 5～5.5 尺の建物あるいは柱穴列があるのではないかと想定し、南北軸で P 25・P 23・P 22・P 16・P 15、東西軸で P 15・P 115・P 13 と P 25・P 29・P 32・P 33 による範囲をなんらかの施設と考えた。しかし、再度の堆積土と底面標高の検討により、そのグループの登録を断念した。本遺構群の堆積土は黒褐色土と暗褐色土が多い。細く浅い柱には砂粒が多く含まれている。

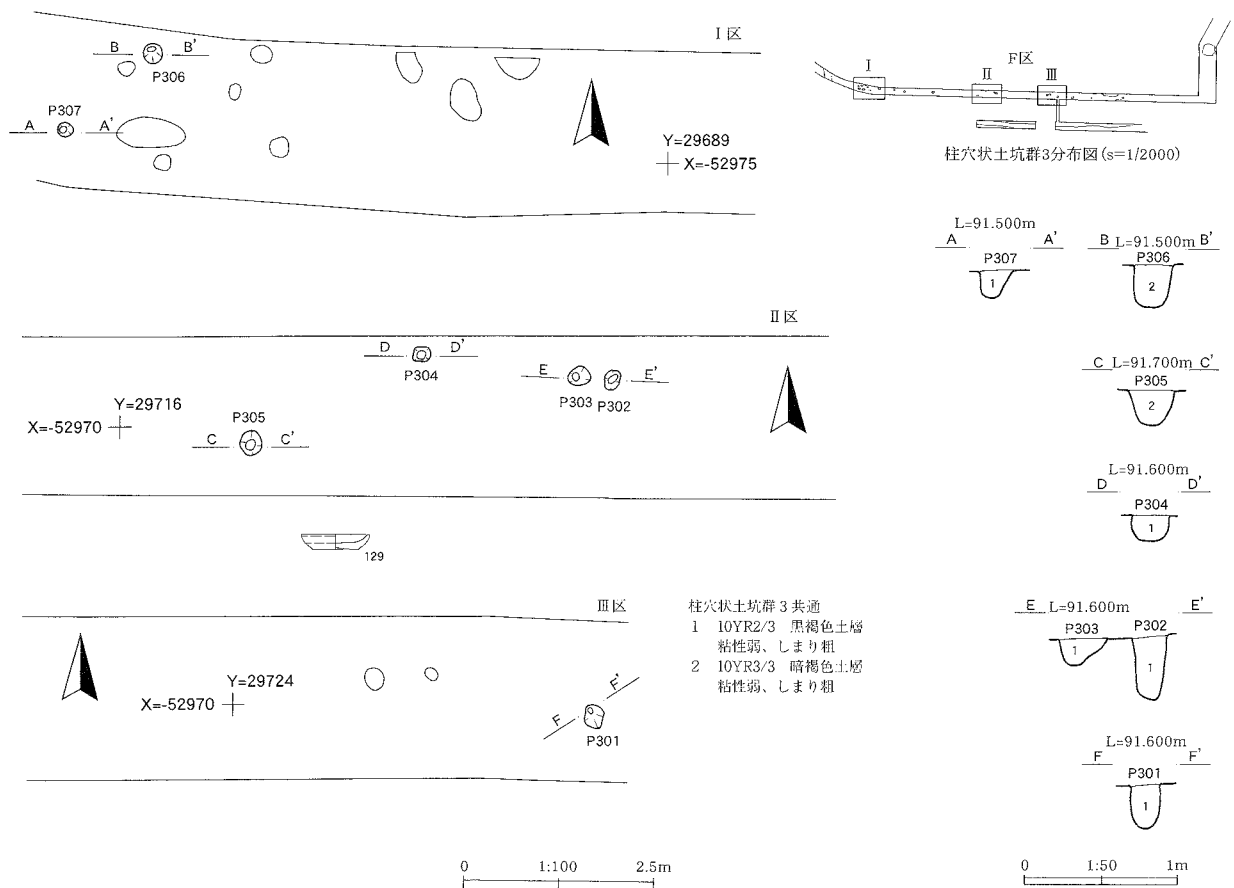
柱穴状土坑群 2（第 30 図）

F 区の 3 号掘立柱建物跡付近である。3 号掘立柱建物跡の南北軸上に P 203・126 があるが、調査範囲内での検出成果で 3 号掘立柱建物跡の構成要素にするには根拠が薄いと判断し、3 号掘立柱建物跡に帰属しないものと考えた。なお、P 126 は、P 123・125 など 3 号掘立柱建物跡を構成する柱穴状土坑と同堆積土であったため、本遺構群全体で総柱建物跡の痕跡がないか検討した。P 218 と P 203 の中間と P 120・127 の南北軸線上に柱穴がないか精査したが、確認できなかった。P 203・126 より北部には、柱穴状土坑群 1 との間に遺構の空白域がある。

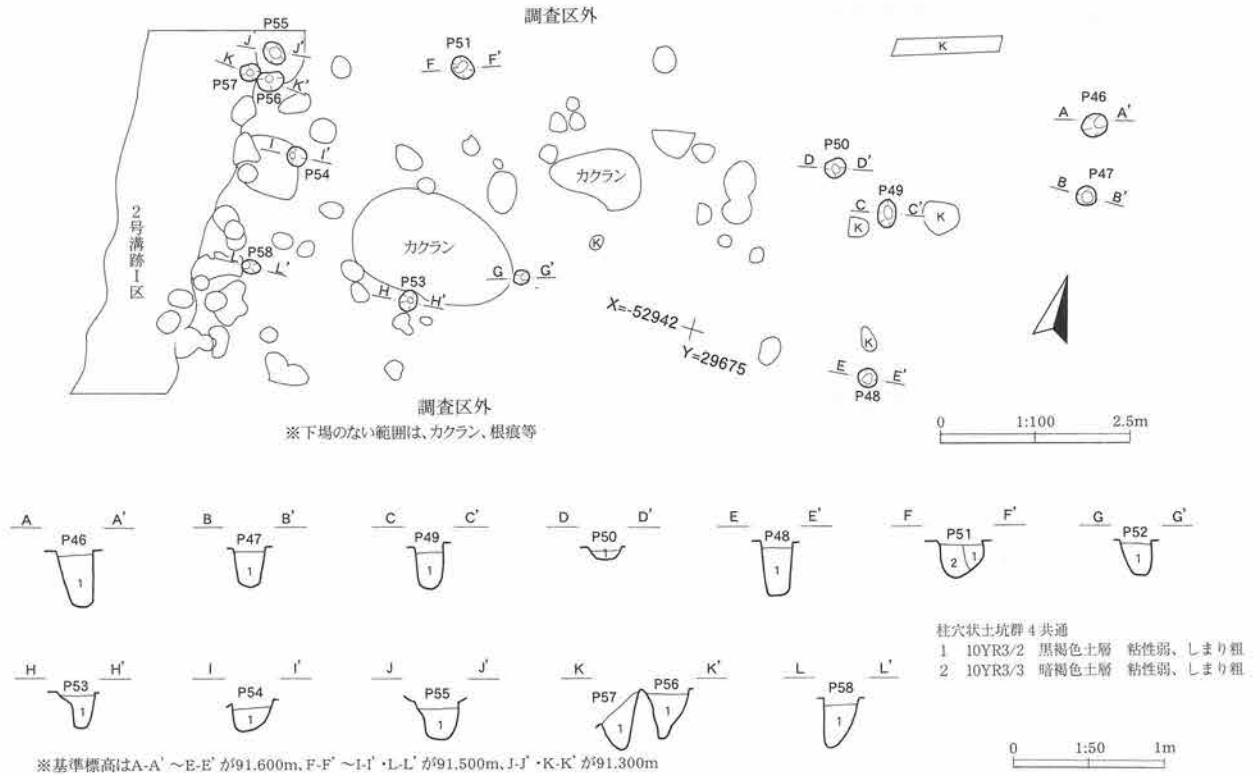
2 検出遺構



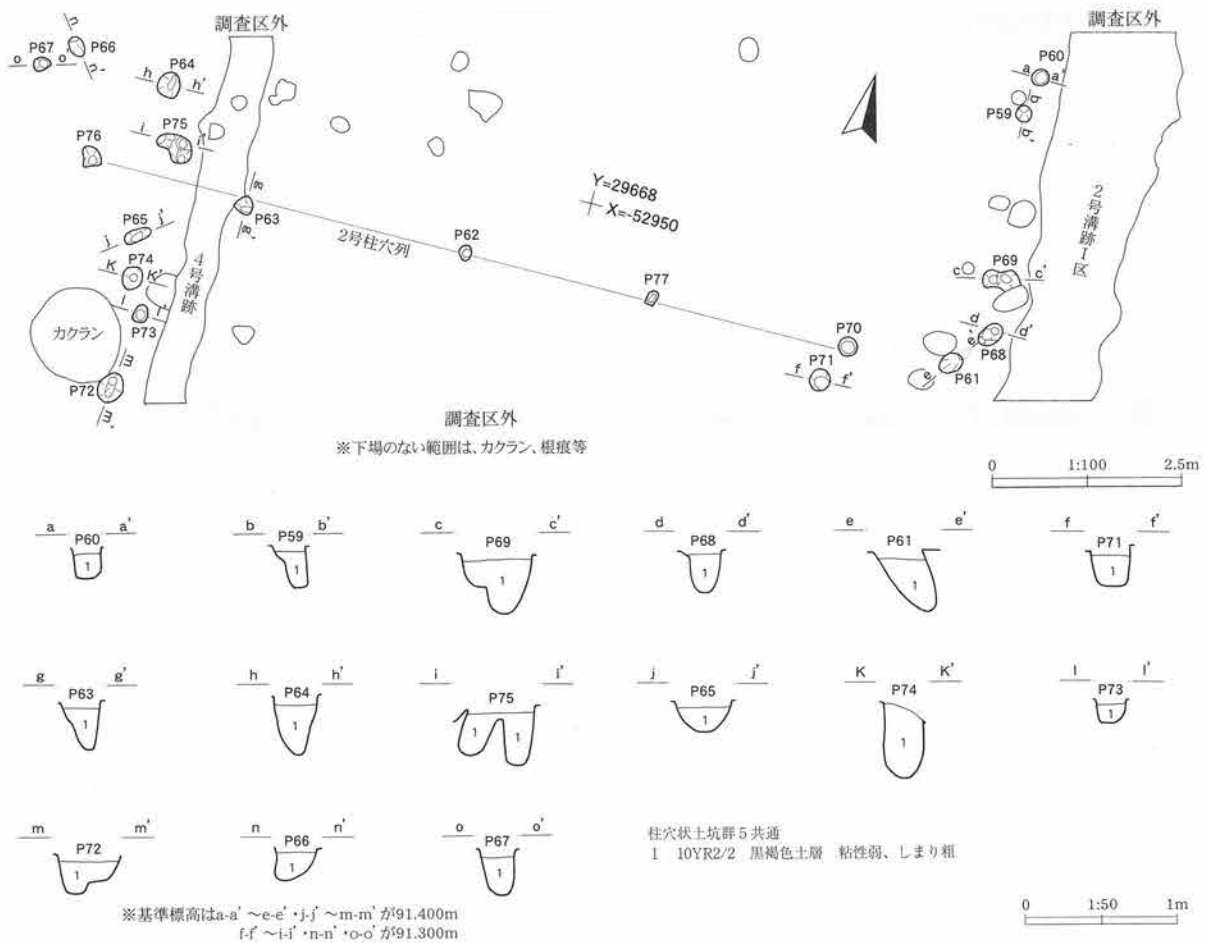
第30図 柱穴状土坑群2



第31図 柱穴状土坑群3



第 32 図 柱穴状土坑群 4

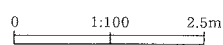


第 33 図 柱穴状土坑群 5



- 柱穴状土坑群 6 共通
- 1 10YR2/3 黒褐色土層 粘性弱、しまりやや粗
 - 2 10YR2/3 黒褐色土層 粘性弱、しまり密
 - 3 10YR3/3 暗褐色土層 粘性弱、しまり粗
 - 4 10YR3/3 暗褐色土層 粘性弱、しまり密
 - 5 10YR4/4 褐色土層 粘性弱、しまり密

※基準標高はP2・20・22・26が91.400m
P24・25・28～32・35が91.300m



第 34 図 柱穴状土坑群 6

第 2 表 19 年度柱穴状土坑計測表

番 号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	番 号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	番 号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)
F 区 P 1	32	28	52	91.04	F 区 P51	32	26	25	91.17	F 区 P124	34	27	54	91.05
F 区 P 2	32	32	17	91.33	F 区 P52	25	20	24	91.09	F 区 P125	30	25	34	91.28
F 区 P 3	30	26	27	91.31	F 区 P53	28	24	25	91.17	F 区 P126	30	25	14	91.44
F 区 P 4	45	40	41	91.16	F 区 P54	26	25	20	91.15	F 区 P201	35	35	39	91.16
F 区 P 5	27	24	17	91.37	F 区 P55	33	26	25	90.89	F 区 P202	24	20	11	91.45
F 区 P 6	42	40	59	90.96	F 区 P56	21	20	34	90.96	F 区 P203	39	34	24	91.26
F 区 P 7	43	38	45	91.20	F 区 P57	26	25	41	90.73	F 区 P301	34	28	31	91.17
F 区 P 8	41	40	40	91.27	F 区 P58	25	18	34	91.03	F 区 P302	29	24	45	91.02
F 区 P 9	50	43	41	91.21	F 区 P59	25	19	29	91.02	F 区 P303	30	29	19	91.24
F 区 P10	25	20	17	91.46	F 区 P60	23	21	21	91.10	F 区 P304	28	24	19	91.26
F 区 P11	37	30	65	90.98	F 区 P61	34	24	42	90.85	F 区 P305	37	32	25	91.32
F 区 P12	35	32	42	91.20	F 区 P62	21	15	16	91.11	F 区 P306	28	28	30	91.11
F 区 P13	30	28	46	91.00	F 区 P63	26	26	32	90.87	F 区 P307	23	22	20	91.15
F 区 P14	29	28	65	90.91	F 区 P64	37	32	39	90.82	E 区 P 1	30	20	66	90.31
F 区 P15	27	24	40	91.17	F 区 P65	40	20	21	91.08	E 区 P 2	40	20	91	90.37
F 区 P16	37	30	24	91.35	F 区 P66	27	20	23	91.02	E 区 P 3	30	20	11	91.17
F 区 P17	30	20	31	91.27	F 区 P67	24	19	32	90.97	E 区 P 4	30	20	87	90.36
F 区 P18	25	23	39	91.21	F 区 P68	36	25	28	90.99	E 区 P 5	40	20	37	90.92
F 区 P19	32	23	28	91.31	F 区 P69	35	29	40	90.86	E 区 P 6	50	40	36	90.92
F 区 P20	33	28	12	91.42	F 区 P70	30	25	16	91.07	E 区 P 7	30	10	13	91.14
F 区 P21	24	20	34	91.24	F 区 P71	30	26	28	91.91	E 区 P 8	30	10	50	90.76
F 区 P22	30	20	42	91.17	F 区 P72	44	34	27	91.10	E 区 P 9	30	30	27	90.99
F 区 P23	33	27	42	91.20	F 区 P73	25	22	17	91.02	E 区 P10	30	20	23	91.01
F 区 P24	30	30	34	91.28	F 区 P74	31	28	50	90.77	E 区 P11	20	20	26	91.01
F 区 P25	32	30	51	91.10	F 区 P75	50	35	41	90.76	E 区 P12	20	10	26	91.01
F 区 P26	22	22	32	91.26	F 区 P76	30	27	32	90.89	E 区 P13	40	30	41	90.88
F 区 P27	50	30	14	91.42	F 区 P101	52	39	49	91.08	E 区 P14	40	30	53	90.73
F 区 P28	26	17	20	91.41	F 区 P102	42	38	58	90.98	E 区 P15	20	20	22	91.07
F 区 P29	30	24	34	91.24	F 区 P103	33	27	28	91.31	E 区 P16	40	30	18	91.13
F 区 P30	31	27	20	91.39	F 区 P104	32	23	31	91.23	E 区 P17	30	20	23	91.07
F 区 P31	32	19	20	91.40	F 区 P105	49	24	26	91.29	E 区 P18	20	20	33	90.97
F 区 P32	38	26	31	91.30	F 区 P106	38	-	41	91.15	E 区 P19	30	30	35	90.93
F 区 P33	32	-	26	91.34	F 区 P107	26	26	29	91.29	E 区 P20	50	40	29	90.98
F 区 P34	29	26	27	91.35	F 区 P108	34	29	20	91.37	E 区 P21	30	30	31	90.46
F 区 P35	32	25	24	91.37	F 区 P109	26	-	10	91.44	E 区 P22	30	20	34	90.89
F 区 P36	26	-	17	91.34	F 区 P110	51	26	30	91.23	E 区 P23	20	20	30	90.58
F 区 P37	26	25	10	91.45	F 区 P111	21	21	24	91.40	E 区 P24	20	20	21	90.97
F 区 P38	47	33	31	91.28	F 区 P112	21	20	10	91.39	E 区 P25	20	20	19	91.00
F 区 P39	48	37	41	91.24	F 区 P113	28	22	27	91.30	E 区 P26	30	20	56	90.66
F 区 P40	38	32	28	91.35	F 区 P114	27	25	27	91.30	E 区 P27	30	20	112	90.64
F 区 P41	42	39	18	91.36	F 区 P115	30	26	23	91.32	E 区 P28	40	30	60	90.58
F 区 P42	37	33	29	91.28	F 区 P116	25	18	18	91.40	E 区 P29	20	10	28	90.91
F 区 P43	38	32	27	91.39	F 区 P117	44	27	16	91.41	E 区 P30	20	10	32	90.86
F 区 P44	33	23	26	91.36	F 区 P118	25	18	24	91.36	E 区 P31	20	10	32	90.86
F 区 P45	40	40	25	91.36	F 区 P119	22	18	19	91.40	E 区 P32	30	10	8	91.09
F 区 P46	36	31	39	90.98	F 区 P120	30	30	16	91.50	E 区 P33	30	10	15	90.81
F 区 P47	31	28	26	91.11	F 区 P128	58	-	59	91.10	E 区 P34	50	30	16	90.54
F 区 P48	26	26	37	91.03	F 区 P121	28	22	10	91.63	E 区 P35	30	10	103	90.88
F 区 P49	36	27	30	91.09	F 区 P122	23	20	19	91.40					
F 区 P50	28	27	8	91.26	F 区 P123	29	24	41	91.16					

柱穴状土坑群3 (第31図)

F区の八坂神社西側に点在する柱穴を一括した。遺構の密集する範囲ではなく、柱穴状土坑が散漫に分布する。P 304 から、かわらけ小皿が出土している。P 302～304は何らかの建物を構成する可能性がある。

柱穴状土坑群4 (第32図)

F区西側の2号溝跡I区の東側を一括した。すべて時期不明である。建物を構成する要素に欠ける。大半が根痕の可能性があり、現況は畑地で、大麦栽培がなされていたため、カクランのなかには麦の根痕も含まれているものと考えられる。遺物は出土していない。また、根痕状の小ピットが2号溝跡東側に密集していた。これらは2号溝沿いに作られた垣根跡の可能性があり、

P 55～57は、2号溝跡I区の東岸部に位置する。西岸部にはP 59・60があるため、この場所に橋脚施設の存在も想定されるが、柱配置が規則性に乏しく判然としないため、登録しなかった。

柱穴状土坑群5 (第33図)

F区の2号溝跡I区西側から4号溝跡付近である。すべて時期不明である。大半が根痕の可能性があり、2号柱穴列を認識したのみで、その他の建物を構成する要素に欠ける。多数の根痕状の小ピットが溝跡周辺に見られた。

柱穴状土坑群6 (第34図、写真図版12)

E区の2号溝跡Ⅲ区沿いに点在するピットを一括した。大半が根痕と考えられる。2号溝跡の北側に密集する。深い柱穴状土坑で柱穴列の構成を検討したが根拠を欠いたため登録していない。

(11) 廃棄場

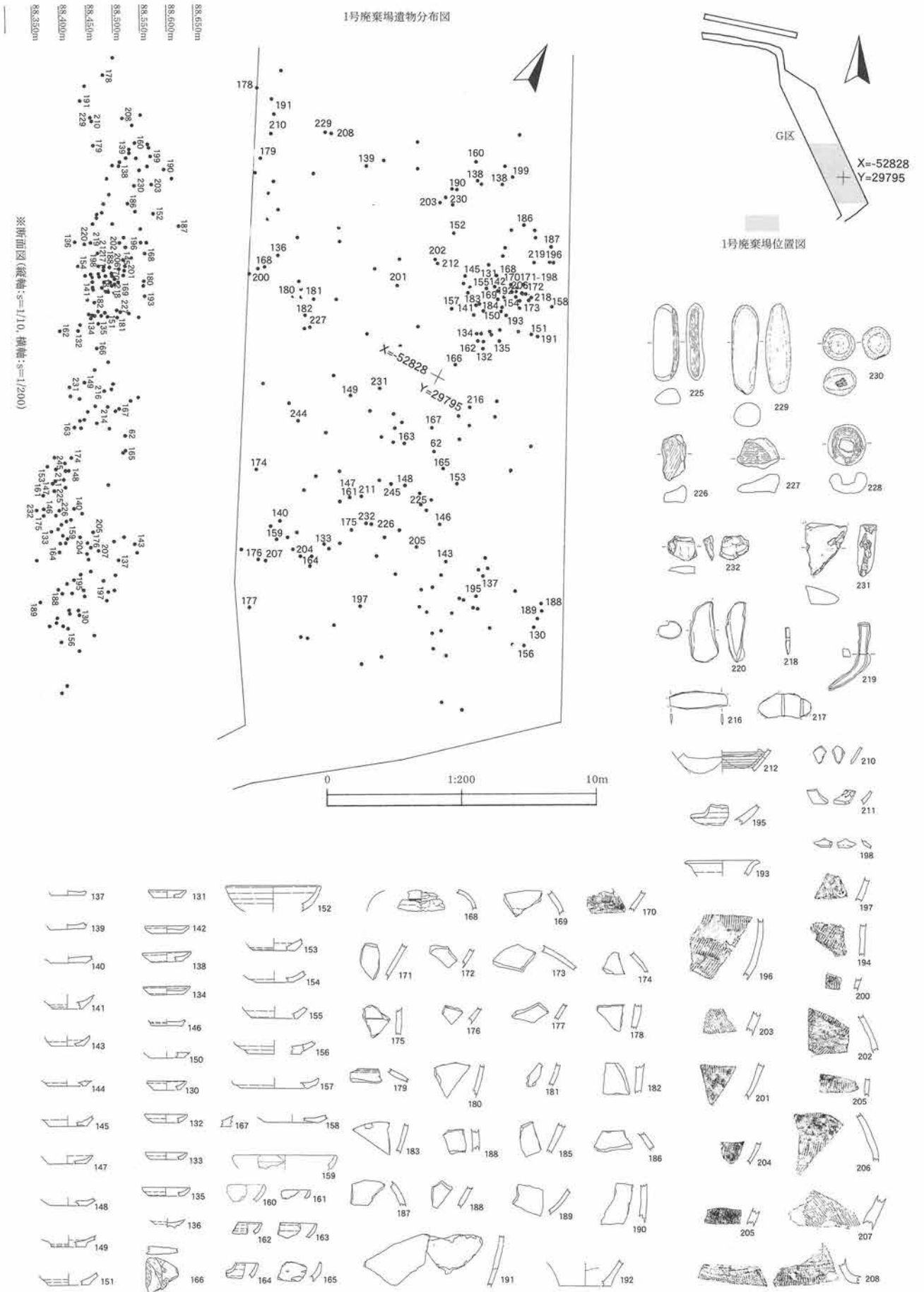
1号廃棄場 (第35図、写真図版14)

[位置] G区北東の湿地に形成されている。調査区内で約500㎡の範囲を確認した。すべて確認調査区範囲である。

[堆積状況] 洪水堆積層で構成され、砂層と粘土層が互層をなす。工事掘削が及ばないG区V層以下は調査していない。遺物は、層厚約30cmの範囲から出土し、G区IV層に垂直分布のピークをもつ。個々の遺物は水平状態で出土し、直立したものは少なかった。散漫に分布し、明確な遺物集中部を形成していない。12世紀代のかかわり、龍泉窯系白磁、龍泉窯系青磁、渥美・常滑産陶器、中世須恵器などのほか、釘、手斧、刀子、火打ち金などの鉄製品、羽口先端部片、古代の土師器・須恵器が出土している。かわらけの器面は剥落が著しいが、国産陶器や須恵器は断面の割れ口がほとんど風化していない。これらの現象は、遺物が水流の少ない低湿地環境で埋没したことの根拠となる。

遺物 (第42～46図、写真図版20～24)

12世紀代の資料が多い。かわらけ、白磁、青磁、渥美・常滑産陶器、中世須恵器、鉄製品(釘、手斧、刀子)、羽口先端部片、古代の土師器・須恵器、焼礫が出土した。IV層の細分はできなかったため、層位に基づいた廃棄時期の検討は行っていない。古代の土師器・須恵器の量は微量である。鉄製品の年代は不明であるが、他の遺物の主体が12世紀であるため、12世紀代の可能性はあろう。かわらけは碗・小皿がある。輸入陶磁器は、龍泉窯系白磁四耳壺片と龍泉窯系青磁碗が出土している。国産陶器はすべて廃棄場から出土している。常滑・渥美産が主体を占めるが、須恵器系陶器も数点出土した。



第 35 図 1 号廃棄場

手斧、刀子などの鉄製品は破損品である。

遺構の性格 12世紀を主体とする廃棄場で、廃棄物は散漫な分布をすることから低湿地の広い範囲が当時の人々に廃棄空間として認識されていたと考えられる。この廃棄場範囲が12世紀に北上川流路内にあった場合は、水流によって遺物の密集状況が数箇所は形成され、個々の遺物も大半が河床でのローリングによって摩耗するはずであるが、そうした状況は確認できなかった。少なくとも12世紀代には、G区上が洪水時を除き北上川流路内であった可能性は低く、沼地環境が卓越する状況であったと考えられる。

3 出土遺物

(1) 土師器・須恵器 (第36～40図、写真図版15～19)

1・2号竪穴住居跡、1号カマド状土坑、12号土坑、2号溝跡などから出土した。

①土師器

坏と甕、甑で構成される。ロクロ痕の明確なタイプはナデの幅が明瞭でケズリに近い平滑な面を形成している。コテとして硬質なヘラを利用しているものと考えられる。内面黒色処理、内外面黒色処理された個体は内面に丁寧なミガキが見られる。

- a) 1号竪穴住居跡出土の坏は7個体で、器厚は6～8mmとやや厚手である。1・2は皿に近い形状で、10世紀以降の坏類に多い特徴を有する。
- b) 1号竪穴住居跡出土の甕は5個体で、ロクロ調整が3個体、ヘラケズリ・ヘラナデ調整が2個体である。12は外面ヘラケズリ調整の個体で、10世紀以降の甕に特徴的な口縁部の屈曲が緩い資料である。また、12は遺構間接合資料である。1号竪穴住居跡内土坑1、2号竪穴住居跡カマド付近、1号カマド状土坑(推定:カマド煙出部)の3遺構にまたがる。1号竪穴住居跡土坑1土資料は口縁部片で、接合する他の遺構出土資料と比べて、橙色を呈し、火色が見られる。
- c) 2号竪穴建物跡出土の坏は17個体ある。13・14・16は1号竪穴住居跡出土坏に類似する皿状の器形で口縁部が直線的である。その他は口縁が外反する。28は壜形を呈し、9世紀後半以降に見られる器形である。29は内面黒色処理されている。30は坏・皿類の器台である。
- d) 2号竪穴住居跡出土の甕はロクロ調整が3個体、ヘラナデ・ヘラケズリ調整が11個体である。このうち1個体は12の破片で遺構間接合資料である。ロクロ調整の個体が口縁部～頸部の屈曲を持つのは対照的に、ヘラナデ・ヘラケズリ調整の個体は頸部の作りを意識せず、ゆるやかに立ち上がるものが大半である。34は口縁～胴部がほぼ直線的である。
- e) 2号溝跡出土の坏は底部片や磨耗した胴部片が主体である。
- f) 12号土坑出土の坏は4個体、甕は4個体ある。2号竪穴建物跡出土資料と接合関係を有し、器形の特徴も2号竪穴住居跡出土資料と類似する。54～56は甕の胴部～底部で、外底面がヘラケズリ調整を施す。
- g) 1号カマド状土坑からは坏1個体、甕3個体出土した。そのうち甕1個体は12の破片で、遺構間接合資料である。
- h) 3号溝跡では皿1個体、甕1個体出土した。60は10世紀後半以降の小皿の特徴を有する。61はロクロ引きの内面黒色処理された鉢で、内面をヘラミガキ、外面底部から胴部をヘラケズリ・ヘラナデ調整している。

i) 63 は 1・2 号竪穴住居跡を検出した八坂神社周辺の遺構外出土の坏類で、内外面黒色処理されている。

j) 11 は甑で、1 号竪穴住居跡から出土した。

②須恵器

2 号溝跡出土大甕は胴部片で外面のタタキ痕が明瞭である。器面の磨耗は進行していない。

(2) 中世土器 (第 40～42 図、写真図版 19・20)

かわらけ主体。中世墓関連遺構、2 号溝跡、P 304、1 号廃棄場から出土している。完形に近い個体は少ない。個体数は器形別では小皿が多く、碗、皿が続き、鉢類と考えられる資料もある。大半がロクロ調整で手づくねは少ない。

①かわらけ小皿

すべてロクロ調整である。口縁部形態では直立気味と口縁外反がある。底部はやや厚手の資料が大半を占める。小皿は口径：底径比が 1.3～1.6：1 に集中する。G 区廃棄場出土資料は器面の磨耗が著しい。

②かわらけ皿

ロクロ調整と手づくねがある。胎土はロクロ調整に砂粒が多く見られるのに対し、手づくねは砂粒の混入が非常に少ない。ロクロ調整は高台・器厚が厚く、12 世紀前半代の特徴を有する。159 は手づくねかわらけの破片で、3 段ナデの可能性はある。

③かわらけ碗

7 号土坑、2 号溝跡、G 区廃棄場からまとまって出土している。7 号土坑では底部片主体で、5 個体ある。いずれも高台が厚く、12 世紀前半代の特徴を有する。

④鉢類

93 は口縁が内湾する形態で、内外面に灯明痕が見られる。 (米田)

(3) 国産陶器 (第 43・44 図、写真図版 21・22)

G 区東端の 1 号廃棄場から 44 点出土している。遺物は、常滑産陶器 20 点・渥美産陶磁器 16 点・須恵器系陶器 8 点である。器種は甕類 42 点、鉢 1 点、碗 1 点で、甕類には 2 点の三筋壺を含む。遺物の生産時期は次のように考えられる。

①タタキ目 (押印帯) のあるもの

常滑諸窯では、粘土紐同士の結着を高めるために当初は器面全体にランダムにタタキを施したが、12 世紀後半に入ると、一気に成形せずに粘土紐を 3 段程度積むごとに乾燥させ、強度が増した後、次の段階の積み上げを行うようになり、積み上げた粘土紐の結合部のみにタタキを施すようになり、その痕跡は横帯として器面に残った (以下「押印帯」と記述)。13 世紀になるとタタキ目は肩部に装飾として意図的につけられたもの以外はほとんど消滅する。渥美産陶器もほぼ同様である。

当遺跡の遺物のうち、170・194・196・199・200・201・202・206 には押印帯が見られ、170 は間隔の狭い押印帯が施されているため、12 世紀第 3 四半期に属すると思われる。

②三筋文のあるもの

三筋壺の三筋文は、12 世紀前半は明確な複線が刻まれており、後半から徐々に複線の間隔が狭くなり、片方が不明瞭となるなど、13 世紀の単線へと徐々に移行していく。168 は間隔の狭い複線、175 は複線だが片方が途切れ途切れであり、どちらも 12 世紀後半と考えられる。

③胎土の焼成から

常滑・渥美産は、13世紀になると高温焼成が可能となるため、胎土の酸化は器面から2mm程度まで及ぶようになり、陶器の断面は酸化した赤い層の間に、酸化しない白い層を挟む様相となる。当遺跡の遺物は、胎土の酸化は器面のごく薄い部分に限られており、内には及んでいないため12世紀に属すると思われる。

④施釉の厚い遺物から

施釉をやめ、自然釉に彩られるのを特徴とした渥美産陶器でありながら、最初期には三河国の国司藤原顕長の好みを反映し、施釉の製品を生産しているという。厚く施釉された184はこの12世紀第3四半期に属すると考えられる。

上記①～④の理由から、G区廃棄場出土の渥美・常滑産陶器は、12世紀中頃～後半の12世紀第3四半期に生産されたと考えられる。

廃棄場は、その堆積土層から、遺物の埋没時期には沼地状の後背湿地であったと考えられ、ほとんどの遺物が水平な状態で出土し、摩耗や酸化が見られないことから、遺物は極端な時期差を持たずに沼地に入れられ、安定した層まで静かに沈み、泥などを被って外部環境から密閉された状況となり、ほとんど移動していなかったと考えられる。

遺物は全て10cm四方以下の小破片である。厚く強度をもつ陶器が、摩耗や酸化が見られない場合、自然に細かく割れたとは考え難く、人為的な破壊が想定される。(吉田)

(4) 輸 入 磁 器 (第45図、写真図版22)

①龍泉窯系白磁

209は太宰府D期(12世紀中頃～後半)の白磁碗Ⅶ類で、6号土坑から出土した。釉薬が粗雑で口縁部が直線的である。

213は太宰府D期(12世紀中頃～後半)の白磁壺Ⅲ類で、G区廃棄場から出土した。釉薬が粗雑で内面にはロクロ痕跡が明瞭に見られる。

212は太宰府C期(11世紀末～12世紀前半)の白磁壺Ⅱ類で、3号土坑から出土した。内面のロクロ痕が明瞭に見られる。器厚が薄いことから器種は水注の可能性が高い。

②龍泉窯系青磁

210・211は太宰府D期(12世紀中頃～後半)の青磁碗Ⅰ類である。内面に草花文を描出する。

(5) 金 属 製 品 (第45図、写真図版23)

①鉄製品

214・215は1号中世墓壙から並んだ状態で出土した。214は刀子で、反りが小さく刃区は明確でない。目釘孔が1カ所穿たれている。215は刀子で、214に比べて反りが大きい。刃区は明確でなく、丸みを持つ。216～220はG区廃棄場出土である。216は刀子の刀部で、刃先がやや湾曲する。217は火打ち金で、頭部と先端を欠損する。218・219は釘で、断面が四角形を呈する。220は手斧で、刃部がやや湾曲することから、柄と刃部が直行する横斧と考えられる。そのサイズから、木製椀の製作など木材加工に使用する工具の一つと考えられる。

②銅製品

221は確認調査区内で検出した1号近世墓壙の検出面出土の簪である。222は八坂神社西側で表採した蓋である。中心に孔が穿たれている。鈴の飾り蓋か。

(6) 粘土塊 (第47図、写真図版24)

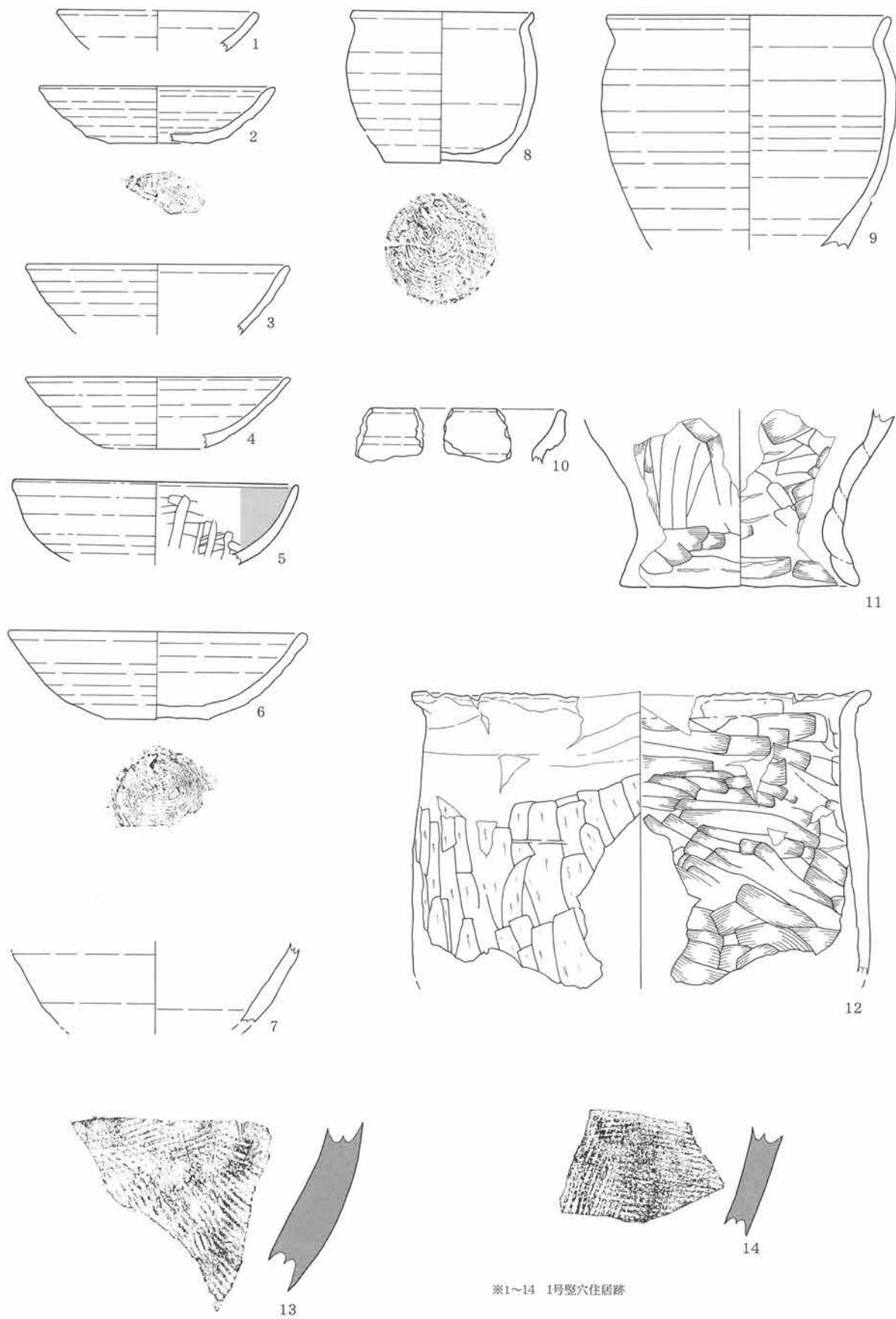
1号堂内の5号土坑、2号堂内の6号土坑、7号土坑、3号掘立柱建物跡を構成するP 124から出土している。建物の土壁片で、12世紀代に帰属するものと考えられる。236には面取りした痕跡が見られる。

(7) 縄文土器・土製品 (第41図、写真図版24)

233は土偶の頭部である。縄文晩期末に帰属する。頭頂部が平坦で眼を隆帯と刺突によって描出する。238は1号溝跡から出土した縄文土器である。239は後期前半、240は晩期末の深鉢底部片である。241は2号溝跡の堆積土から出土した。遺構内に流れ込んだと考えられる。

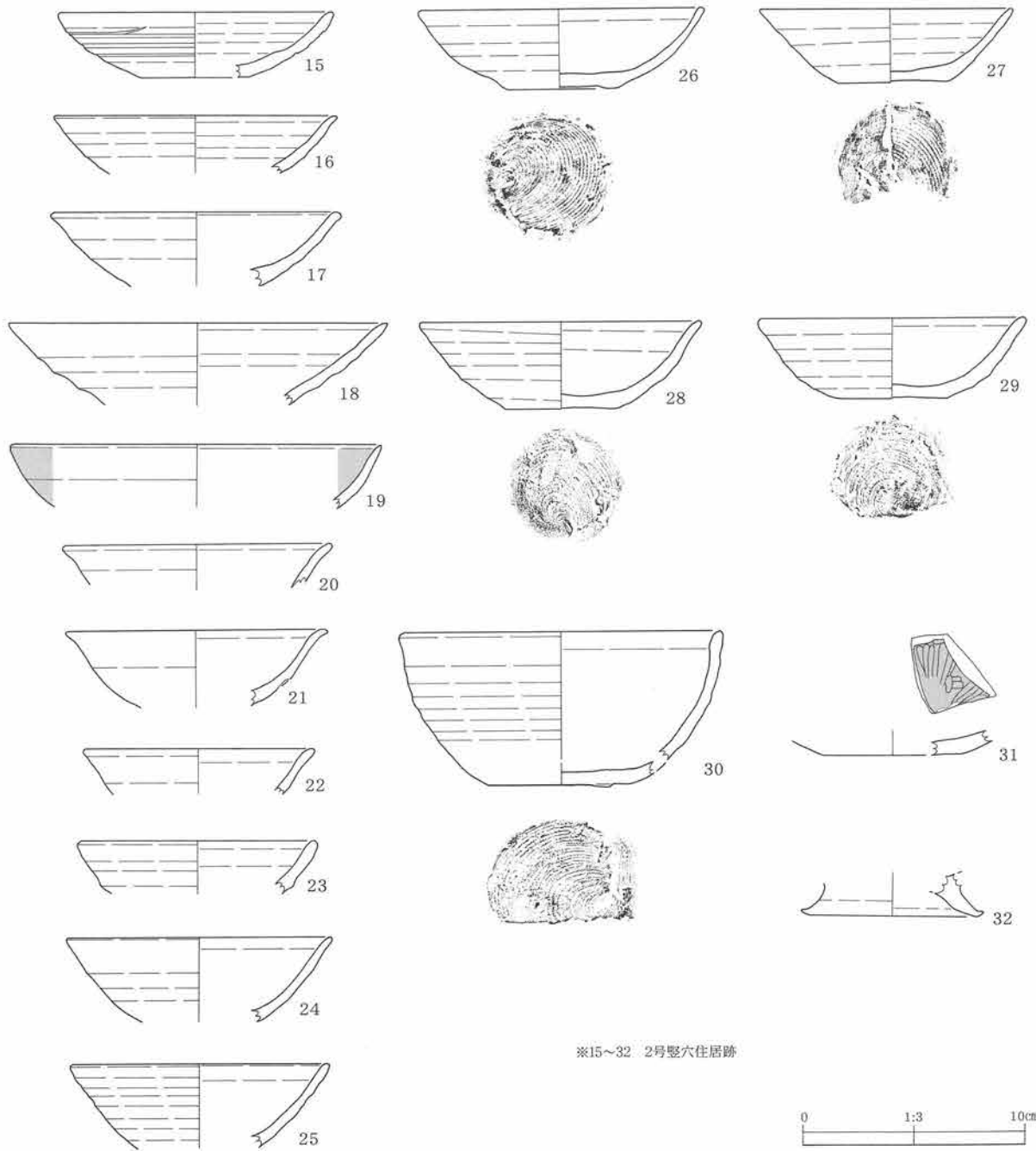
(8) 石器・線刻礫 (第46図、写真図版24)

223～228は磨石類である。223・224など古代以降の遺構内出土資料は多孔質安山岩製である。228は表採資料で、中心が抉られている。229・230は敲石である。232は火打ち石の破片と考えられる。234は線刻礫でG区表採資料である。線刻に規則性はなく、文様描出の意図は見出し難い。線刻はほとんど風化しておらず、現代を含めた新しい時期の所産の可能性が高い。(米田)

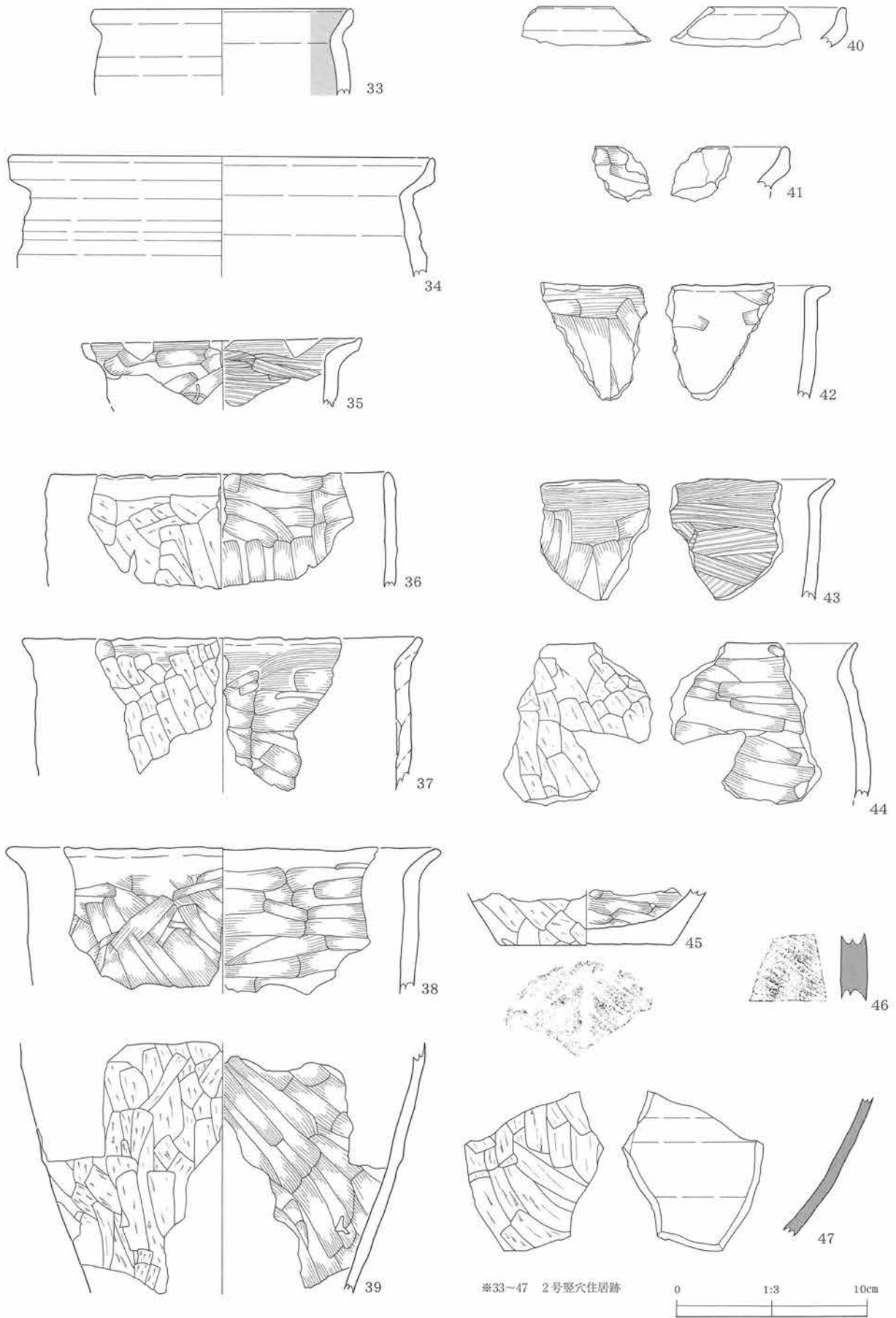


※1~14 1号竪穴住居跡

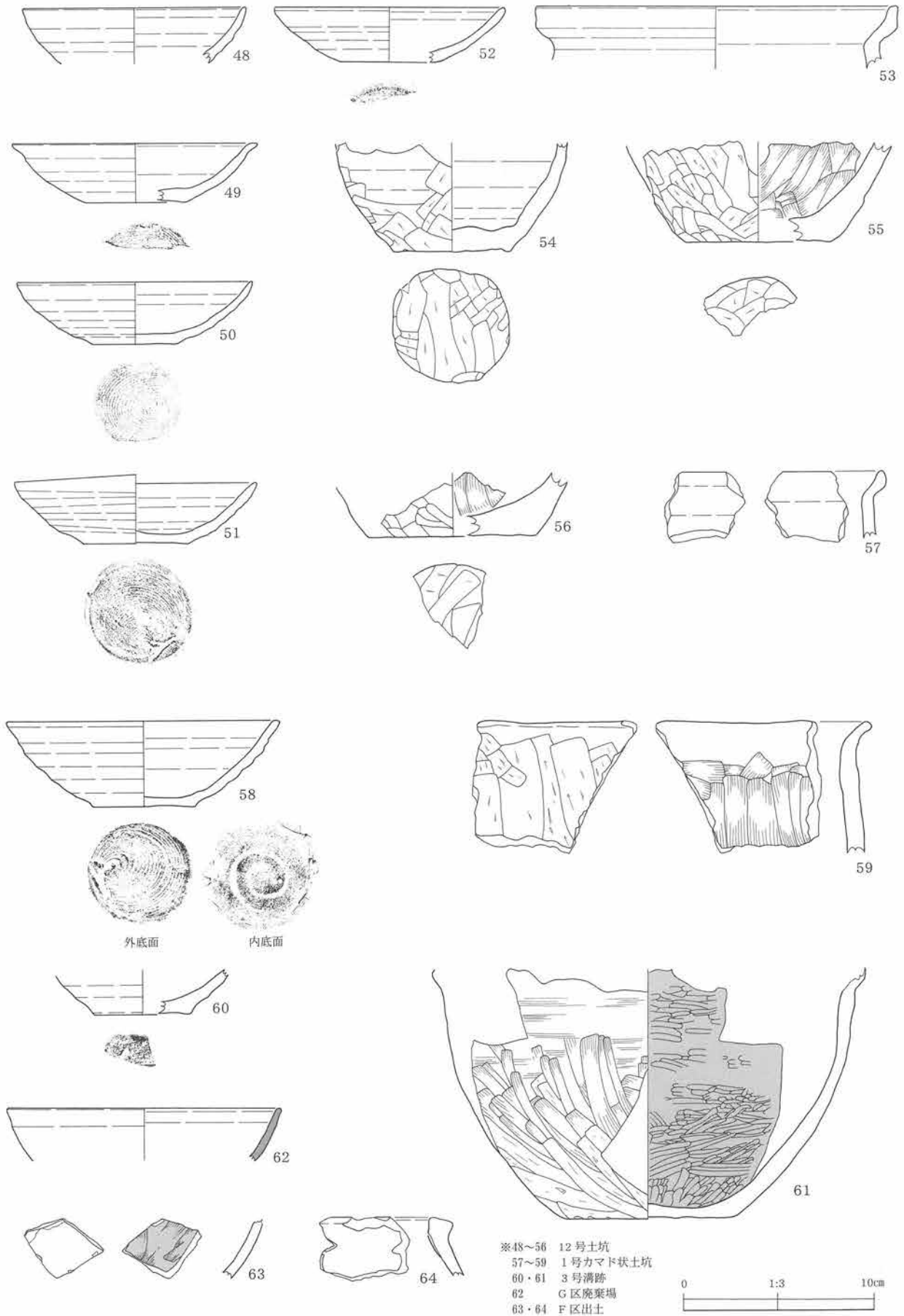
第36図 土師器・須恵器 1~14



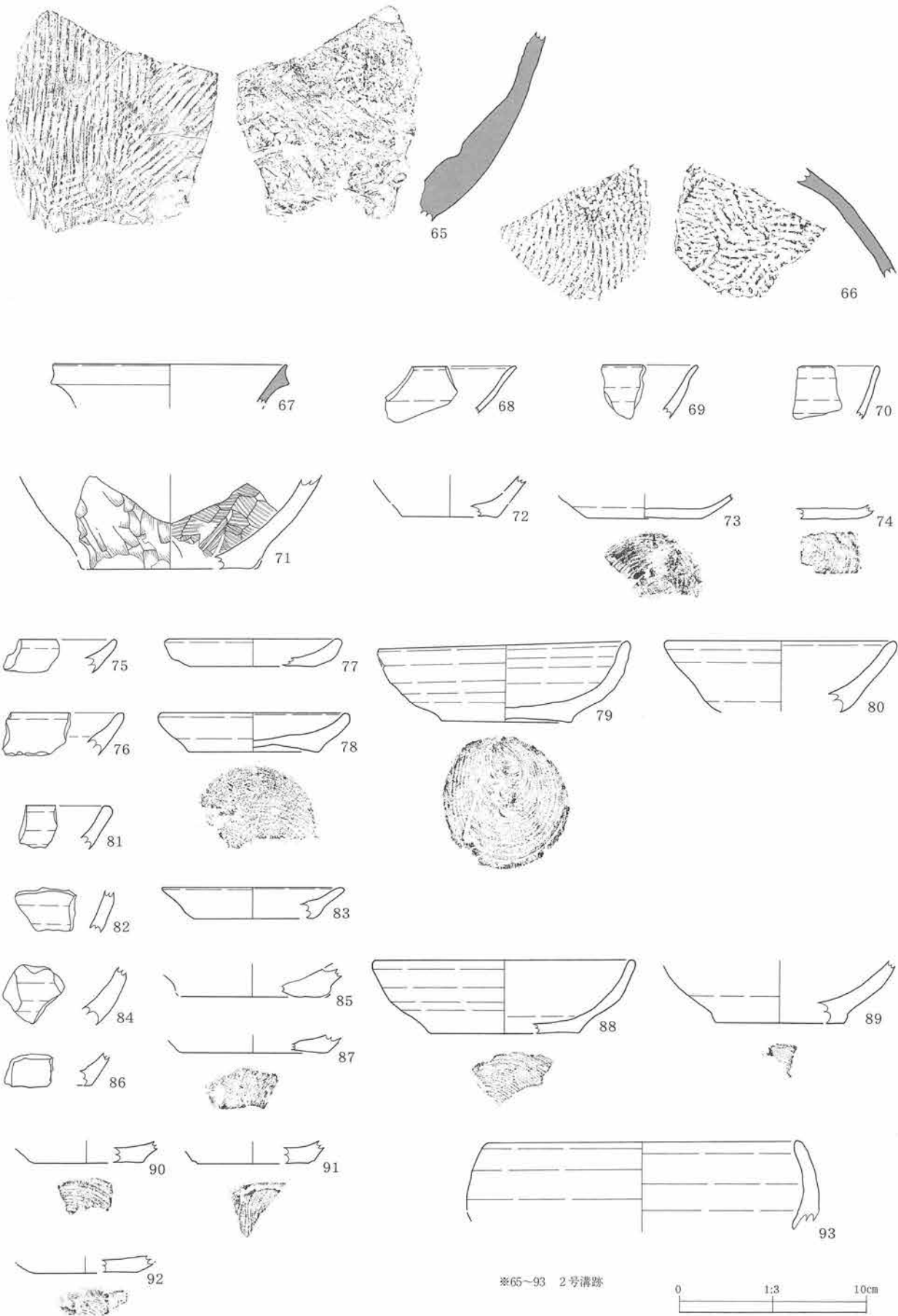
第 37 図 土師器・須恵器 15 ~ 32



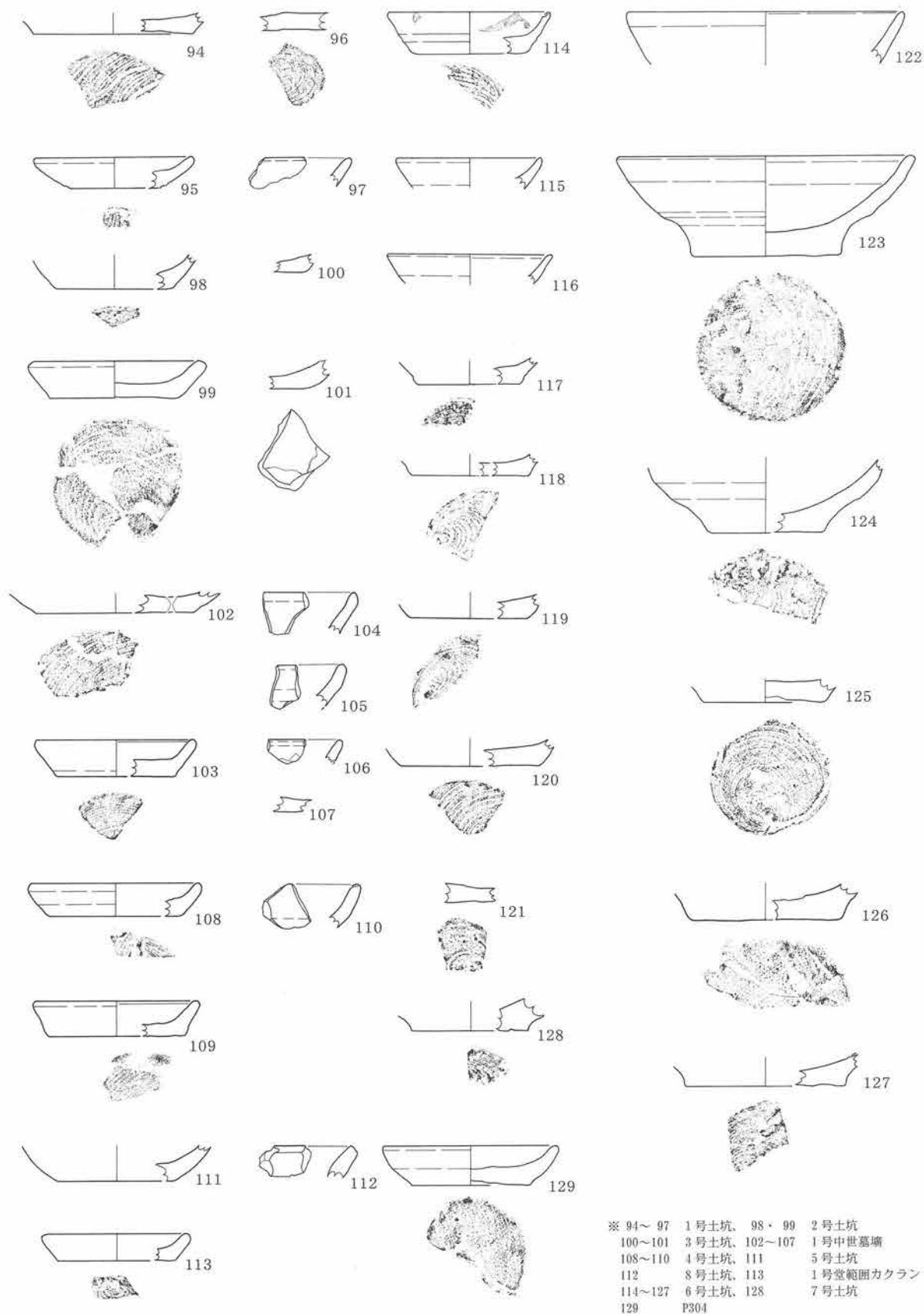
第38図 土師器・須恵器 33~47



第39図 土師器・須恵器 48～64



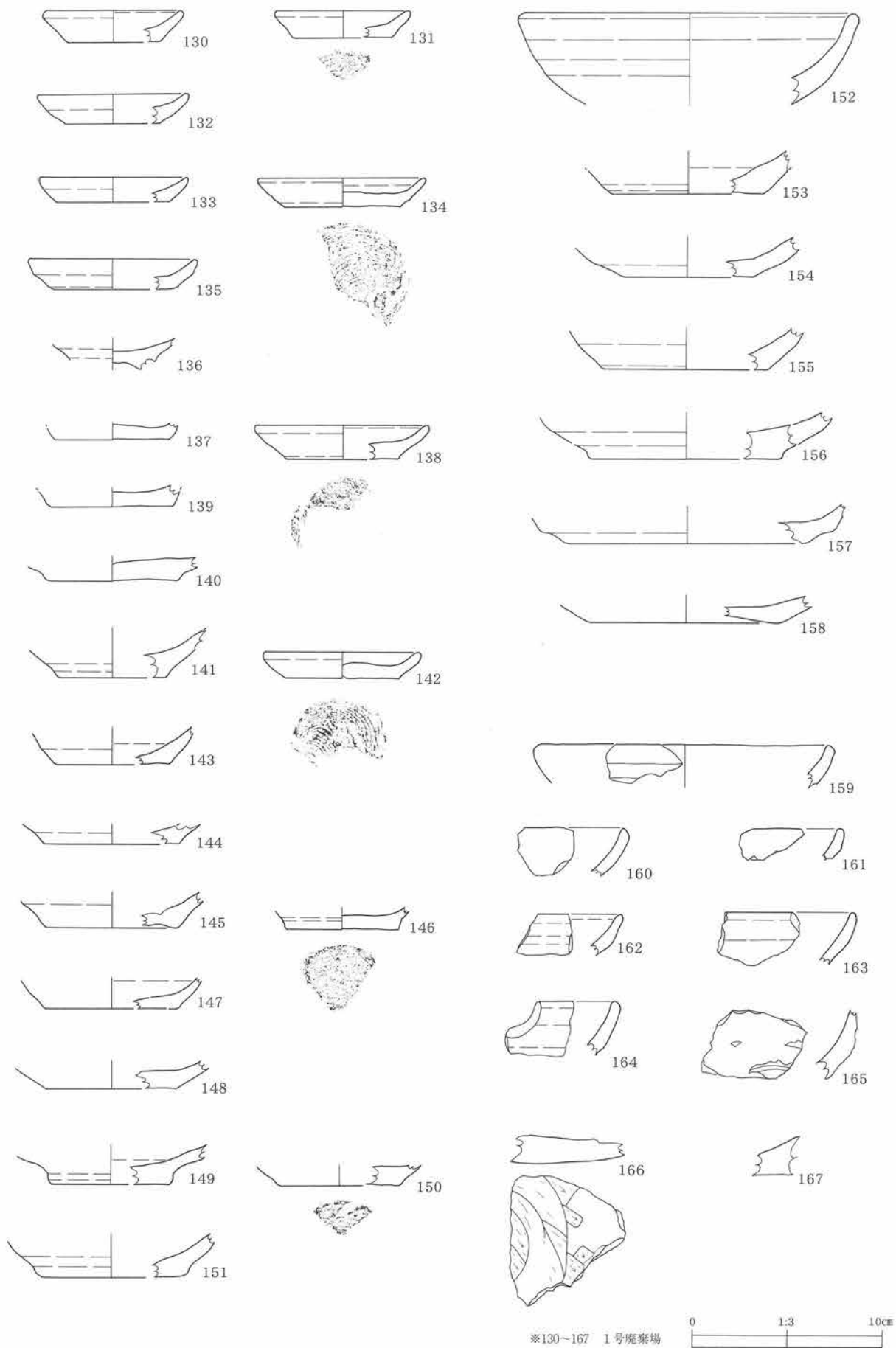
第40図 土師器・須恵器 65～74、中世土器 75～93



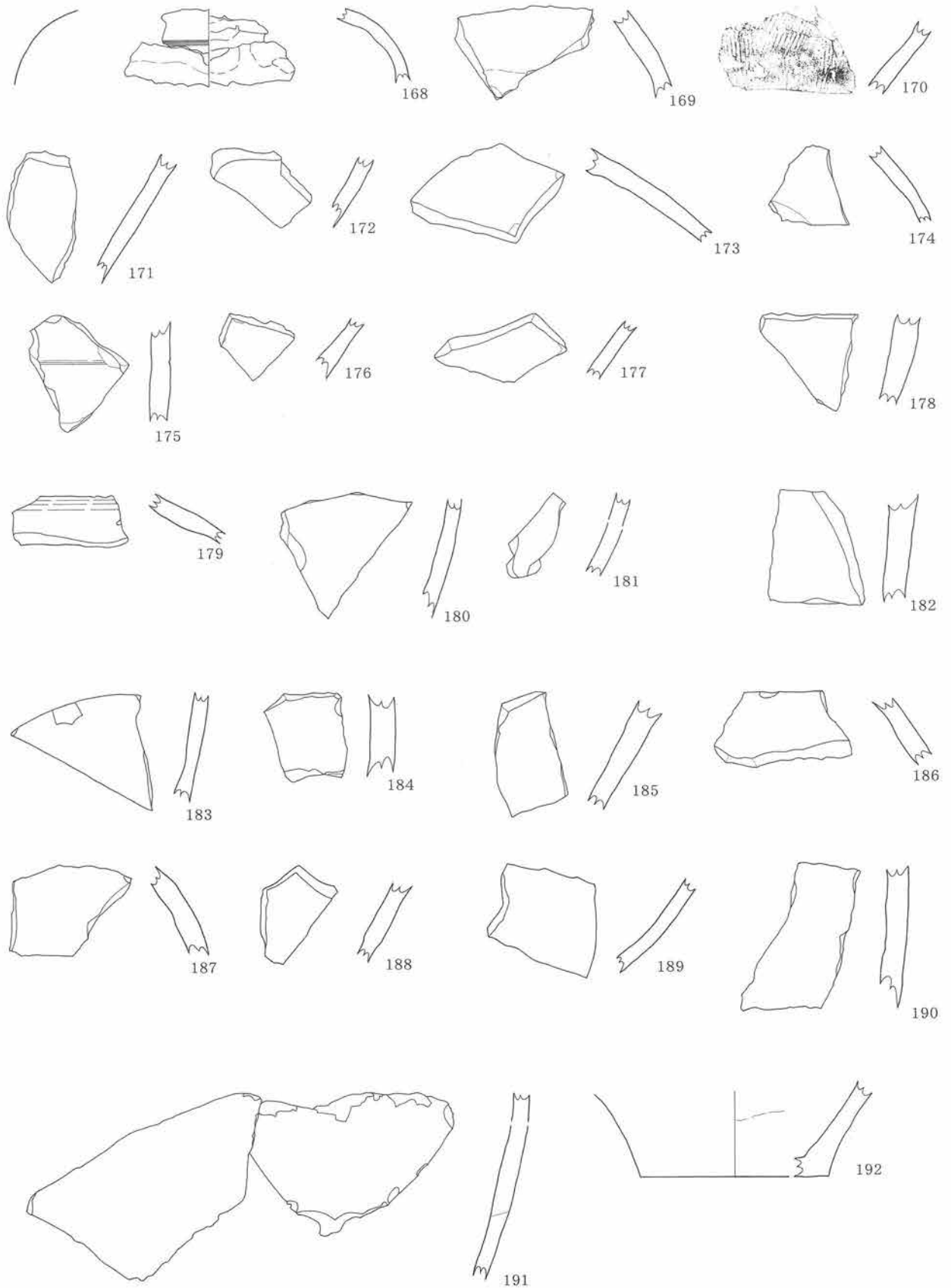
※ 94～97 1号土坑、98・99 2号土坑
 100～101 3号土坑、102～107 1号中世墓壇
 108～110 4号土坑、111 5号土坑
 112 8号土坑、113 1号堂範圍カクラン
 114～127 6号土坑、128 7号土坑
 129 P304

0 1:3 10cm

第 41 図 中世土器 94 ～ 129



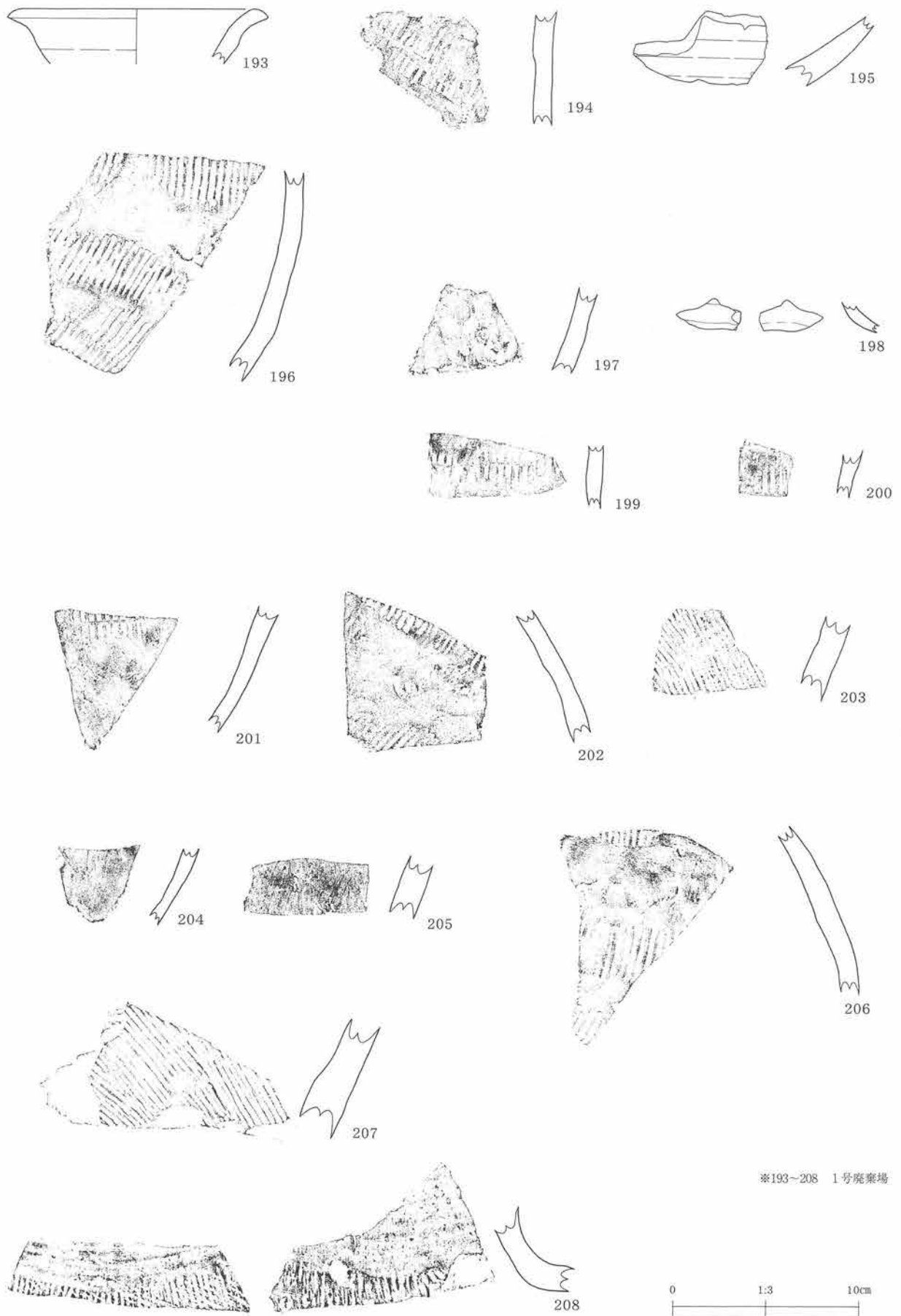
第42図 中世土器 130~167



※168~192 1号廃棄場

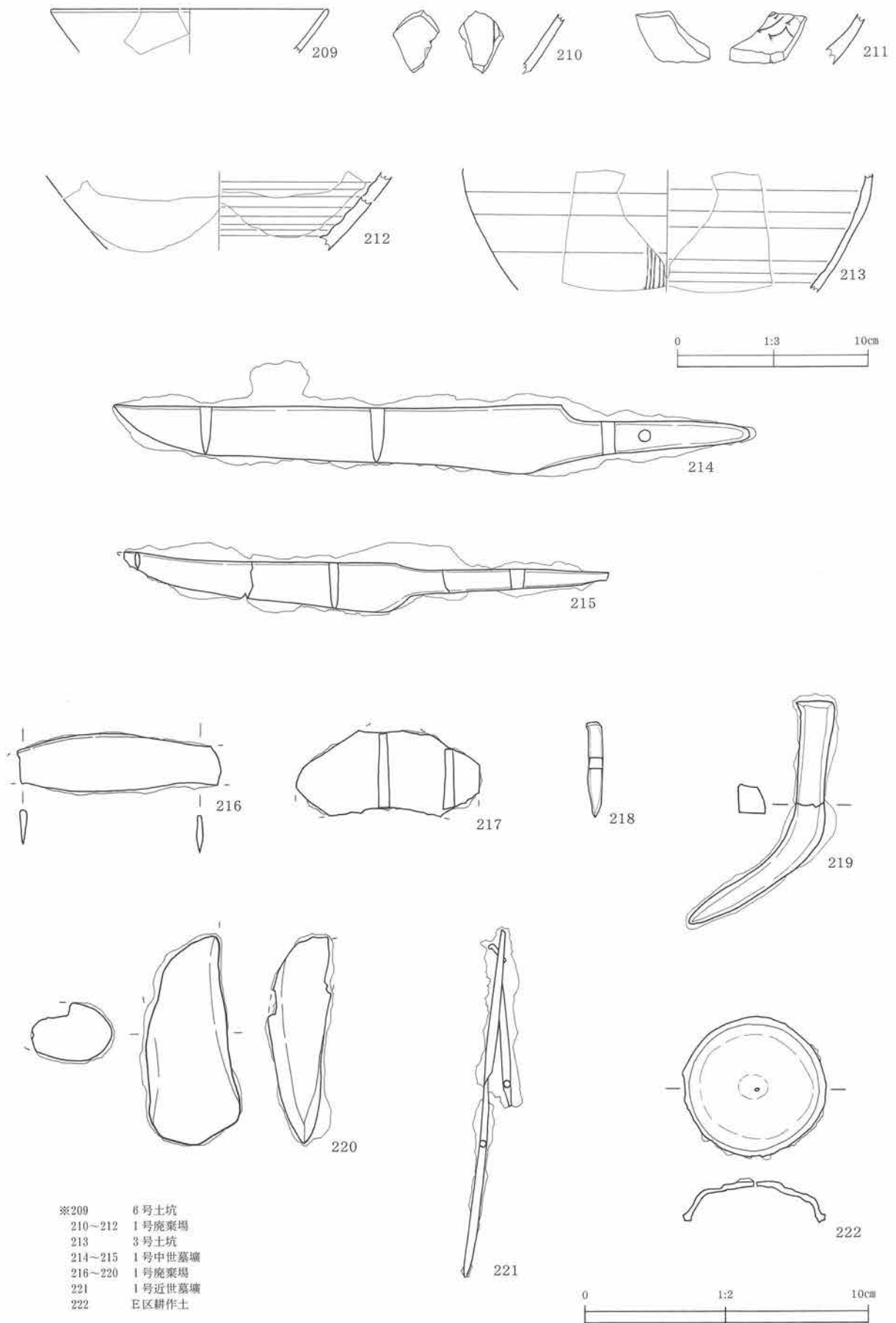
0 1.3 10cm

第 43 図 陶器 168 ~ 192



※193~208 1号廃棄場

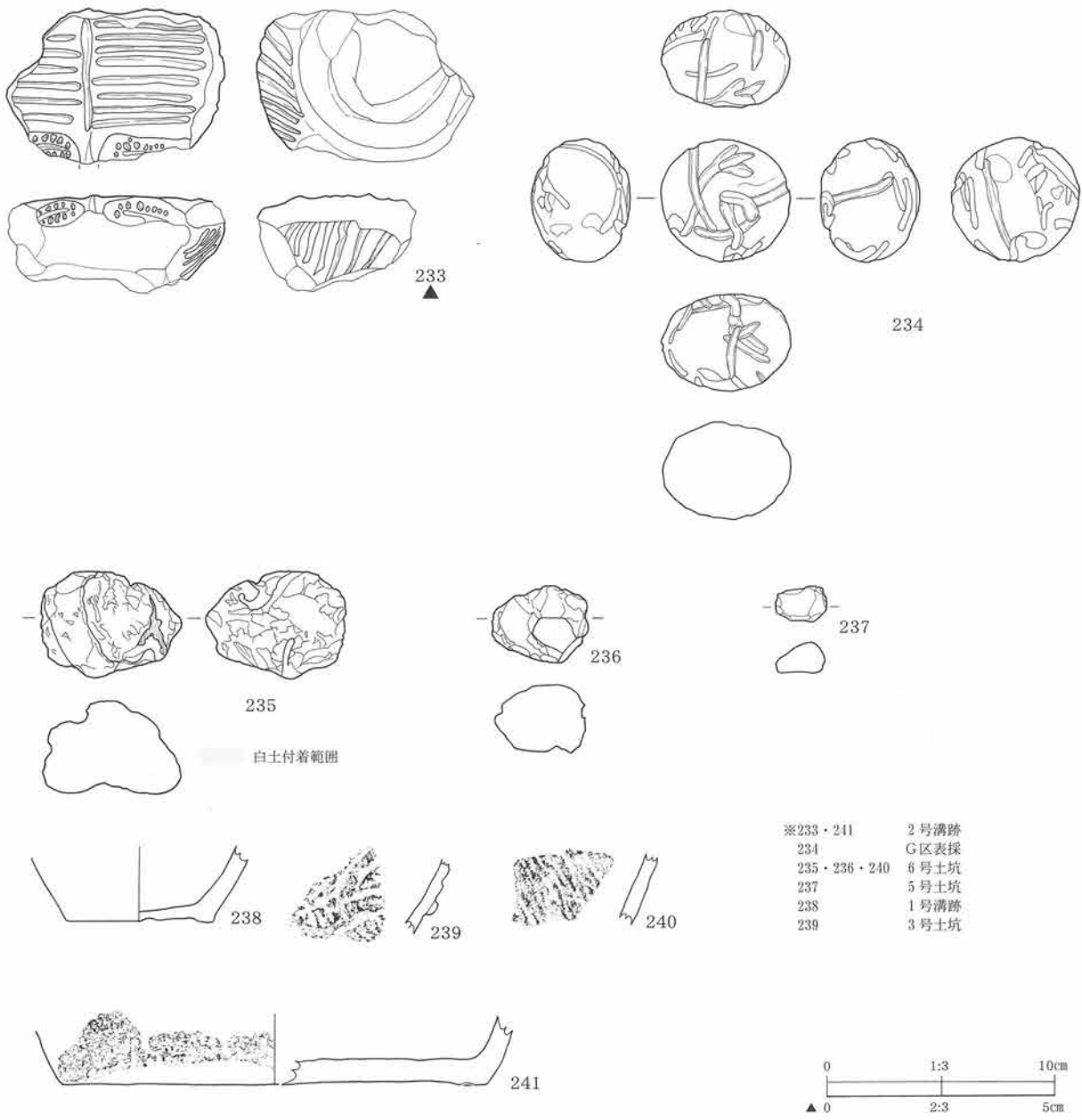
第44図 陶器 193~208



第 45 図 磁器 209 ~ 213、金属製品 214 ~ 222



第46図 石器 223~232



第 47 図 土製品・線刻礫・粘土塊・縄文土器 233 ~ 241

第3表 19年度遺物観察表(土師器・須恵器・中世土器・陶磁器類) ※[出土位置略号] 1住=1号竪穴住居跡、2住=2号竪穴住居跡、1カマ土=1号カマド状土坑

No.	種別	器種	部位	遺存 %	出土位置	時期	調整・特徴・産地	口径:底径:器高 cm		備考
								外面:内面	色調	
1	土師器	坏	口縁~胴部	5%	1住	10世紀	ロクロナデ	(104): - : (21)	橙	内外面にススコゲ
2	土師器	坏	口縁~底部	5%	1住	10世紀	ロクロナデ	(122): (52): 31	浅黄橙	内面に黒斑
3	土師器	坏	口縁~底部	5%	1住	10世紀	ロクロナデ	(137): - : (3.7)	浅黄橙	
4	土師器	坏	口縁~底部	5%	1住	10世紀	ロクロナデ	(138): (5.1): (3.7)	にぶい黄橙	底面糸切り
5	土師器	坏	口縁~胴部	10%	1住	10世紀	外面ロクロナデ 内面ミガキ	(148): - : (4.3)	灰白:黒	内面黒色処理
6	土師器	坏	口縁~底部	5%	1住	10世紀	ロクロナデ	(153): (5.4): 46	にぶい黄橙	内外面に黒斑
7	土師器	甃	胴部	5%	1住	10世紀	ロクロナデ	- : - : (4.9)	浅黄橙:にぶい橙	内面にススコゲ
8	土師器	甃	口縁~底部	40%	1住	10世紀	ロクロナデ	9.4:6.0:8.0	灰白	器面磨耗
9	土師器	甃	口縁~胴部	25%	1住	10世紀	ロクロナデ	(148): - : (12.4)	橙	砂粒少量
10	土師器	甃	口縁	5%	1住	10世紀	ロクロナデ	- : - : -	褐灰	内面にススコゲ
11	土師器	甃	胴部~底部	5%	1住	10世紀	外面:ナデ 内面:ナデ,ケズリ	- : - : (12.0): (9.3)	橙	輪積み痕明瞭、砂粒多量
12	土師器	甃	口縁~胴部	20%	1・2住・1カマ土	10世紀	外面:ケズリ 内面:ヘラナデ	(24.2): - : (15.7)	橙	内外面に黒斑
13	須恵器	大甃	胴部	1%	1住	10世紀	外面:タタキメ	- : - : -	にぶい橙:灰	
14	須恵器	大甃	胴部	1%	1住	10世紀	外面:タタキメ	- : - : -	灰:灰黄褐	
15	土師器	坏	口縁~底部	10%	2住	10世紀	ロクロナデ	(12.3): (5.0): 30	にぶい黄橙:灰白	外面に黒斑
16	土師器	坏	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(12.6): - : (2.7)	灰白	
17	土師器	坏	口縁~胴部	10%	2住	10世紀	ロクロナデ	(12.8): - : 3.8	にぶい黄橙:橙	
18	土師器	坏	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(17.5): - : (5.7)	浅黄橙	
19	土師器	坏	口縁	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(16.7): - : (2.9)	黒褐:黒褐	内外面黒色処理
20	土師器	坏	口縁	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(12.0): - : (2.1)	にぶい褐:にぶい橙	内面にススコゲ
21	土師器	坏	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(11.6): - : (3.6)	にぶい黄橙:灰黄褐	
22	土師器	坏	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(10.3): - : (2.1)	灰褐:灰褐	内外面ススコゲ
23	土師器	坏	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(10.6): - : (2.4)	にぶい黄橙	
24	土師器	坏	口縁~胴部	30%	2住	10世紀	ロクロナデ	(12.0): - : (3.9)	灰白	
25	土師器	坏	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(11.8): - : (3.9)	浅黄橙:にぶい黄橙	
26	土師器	坏	口縁~底部	75%	2住	10世紀	ロクロナデ	(12.7): 5.0: 3.7	浅黄橙	底面糸切り、 内外面ススコゲ
27	土師器	坏	口縁~底部	75%	2住	10世紀	ロクロナデ	11.5:5.0:4.5	浅黄橙:にぶい黄橙	底面糸切り
28	土師器	坏	口縁~底部	90%	2住	10世紀	ロクロナデ	12.7:5.2:4.0	橙:浅黄橙	砂粒少量
29	土師器	坏	口縁~底部	30%	2住	10世紀	ロクロナデ	(11.9): (4.9): 3.7	浅黄橙:にぶい黄橙	底面糸切り
30	土師器	坏	口縁~底部	10%	2住	10世紀	ロクロナデ	(14.5): (5.9): (7.0)	橙	内外面黒斑、 内面口縁にゴケ
31	土師器	坏	底部	5%	2住	10世紀	内面:ヘラミガキ	- : (6.2): (1.1)	橙:黒褐	内面黒色処理
32	土師器	器台		5%	2住	10世紀	ロクロナデ	- : (7.5): (2.0)	褐灰	
33	土師器	甃	口縁~胴部	5%	2住、 12号土坑	10世紀	ロクロナデ	(13.7): - : (4.7)	橙:褐灰	
34	土師器	甃	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	ロクロナデ	(22.4): - : (6.4)	浅黄橙	内面黒斑
35	土師器	甃	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	外面:ヨコナデ,ヘラナデ 内面:ヨコナデ,ハケメ	(14.8): - : (3.7)	にぶい黄橙	内外面ススコゲ
36	土師器	甃	口縁~胴部	5%	2住	10世紀	外面:ヘラケズリ 内面:ヘラナデ	(18.0): - : (6.2)	にぶい黄橙	口縁直立型

第3表 19年度遺物観察表(土師器・須恵器・中世土器・陶磁器類) ※【出土位置略号】1住=1号竪穴住居跡、2住=2号竪穴住居跡、1カマ土=1号カマド状土坑

No.	種別	器種	部位	遺存 %	出土位置	時期	調整・特徴・産地	口径・底径・器高 cm		色調		備考
								口径	底径	器高	外面	
37	土師器	甕	口縁～胴部	5%	2住	10世紀	外面：ヨコナデ、ヘラケズリ 内面：ヨコナデ、ヘラナデ	(21.0) : - : (7.9)	外	内	内面コゲ	
38	土師器	甕	口縁～胴部	5%	2住	10世紀	外面：ヨコナデ、ヘラナデ	(22.9) : - : (8.0)	外	内	内面下部にスス	
39	土師器	甕	胴部	5%	2住	10世紀	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	- : - : (13.5)	外	内	内外面ススコゲ	
40	土師器	甕	口縁	5%	2住	10世紀	外	- : - : -	外	内	内面ススコゲ	
41	土師器	甕	口縁	5%	2住	10世紀	外	- : - : -	外	内	内面ススコゲ	
42	土師器	甕	口縁～胴部	5%	2住	10世紀	外面：ヘラナデ 内面：ヘラナデ	- : - : -	外	内	内面ススコゲ	
43	土師器	甕	口縁～胴部	5%	2住	10世紀	外面：ヨコナデ、ヘラナデ 内面：ハケメ	- : - : -	外	内	内面コゲ	
44	土師器	甕	口縁～胴部	5%	2住、 12号土坑	10世紀	外面：ケズリ 内面：ヘラナデ	- : - : -	外	内	内面コゲ・黒斑	
45	土師器	甕	底部	5%	2住	10世紀	外面：ケズリ 内面：ヘラナデ	- : (9.2) : (3.1)	外	内	内底面コゲ、 外底面黒斑	
46	須恵器	甕類	肩部	1%	2住	10世紀	外面：タタキメ	- : - : -	外	内	灰	
47	須恵器	甕類	胴部	1%	2住	10世紀	外面：ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	- : - : -	外	内	灰・暗灰	
48	土師器	坏	口縁～胴部	5%	12号土坑	10世紀	ロクロナデ	(11.9) : - : (3.0)	外	内	内外面ススコゲ	
49	土師器	坏	口縁～底部	5%	12号土坑	10世紀	ロクロナデ	(12.8) : (5.0) : 3.2	外	内	内外面ススコゲ	
50	土師器	坏	口縁～底部	5%	12号土坑	10世紀	ロクロナデ	(12.5) : 4.3 : 3.4	外	内	底面糸切り	
51	土師器	坏	口縁～底部	80%	12号土坑	10世紀	ロクロナデ	12.7 : 5.6 : 3.8	外	内	底面糸切り	
52	土師器	坏	口縁～底部	5%	12号土坑	10世紀	ロクロナデ	(12.0) : (5.1) : 2.9	外	内	内外面ススコゲ	
53	土師器	甕	口縁	5%	12号土坑	10世紀	ロクロナデ	(19.5) : - : (3.4)	外	内	口唇部面取り	
54	土師器	甕	胴部～底部	5%	12号土坑	10世紀	ヘラケズリ、ロクロナデ	- : 6.2 : (5.9)	外	内	外面下部にスス、 底面ヘラケズリ	
55	土師器	甕	底部	5%	12号土坑	10世紀	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	- : (7.5) : (5.4)	外	内	底面ヘラケズリ	
56	土師器	甕	底部	5%	12号土坑	10世紀	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	- : (8.9) : (3.4)	外	内	底面ヘラケズリ、 外面スス、調整磨耗 被熱により調整磨耗	
57	土師器	甕	口縁～胴部	5%	1カマ土	10世紀	ロクロナデ	- : - : -	外	内	内外面ススコゲ	
58	土師器	坏	口縁～底部	50%	1カマ土	10世紀	ロクロナデ	(15.1) : 4.5 : 4.6	外	内	内外面黒斑・ススコゲ	
59	土師器	甕	口縁～胴部	5%	1カマ土	10世紀	外面：ヨコナデ、ヘラケズリ 内面：ヨコナデ、ヘラナデ	- : - : -	外	内	内外面黒斑・ススコゲ	
60	土師器	坏	胴部～底部	5%	3号溝	10世紀	ロクロナデ	- : (5.0) : (2.4)	外	内	底面糸切り	
61	土師器	甕	口縁～底部	25%	3号溝	10世紀	外面：ロクロナデ、ヘラケズリ 内面：ミガキ	- : (8.6) : (13.5)	外	内	内面黒色処理	
62	須恵器	甕	口縁部～胴部	5%	1号溝	10世紀	ロクロナデ	(14.5) : - : (2.8)	外	内	内面黒色処理	
63	土師器	坏	胴部	5%	遺構外	10世紀	内面：ヘラナデ	- : - : -	外	内	内面黒色処理	
64	土師器	甕	口縁	5%	遺構外	10世紀	外面：ロクロナデ	- : - : -	外	内	砂粒微量	
65	須恵器	大甕	胴部	5%	2号溝	10世紀	外面：タタキメ	- : - : -	外	内	砂粒微量	
66	須恵器	甕	胴部	5%	2号溝	10世紀	外面：タタキメ	- : - : -	外	内	青灰	
67	須恵器	甕	口縁	5%	2号溝	10世紀	ロクロナデ	(12.5) : - : (2.4)	外	内	黒	

第3表 19年度遺物観察表 (土師器・須恵器・中世土器・陶磁器類) ※ [出土位置略号] 1住=1号嬰穴住居跡、2住=2号嬰穴住居跡、1カマ土=1号カマド状土坑

No.	種別	器種	部位	遺存 %	出土位置	時期	調整・特徴・産地	口径・底径・器高 cm		色調		備考
								口徑	底径	器高	外面	
68	土師器	坏	口縁	5%	2号溝堆積土	10世紀	ロクロナデ	-	-	-	外面：内面 にぶい橙	
69	土師器	坏	口縁	5%	2号溝堆積土	10世紀	ロクロナデ	-	-	-	にぶい黄橙	器面磨耗
70	土師器	坏	口縁	5%	2号溝堆積土	10世紀	外内面：ハラナデ 内面：ハケメ	-	-	-	橙	砂粒微量、内外底面に 黒斑、外底面にスス
71	土師器	甕	胴部～底部	5%	2号溝堆積土	10世紀		-	(95)	(51)	橙	砂粒微量
72	土師器	甕	胴部～底部	5%	2号溝堆積土	10世紀		-	(50)	(22)	にぶい黄橙	器面磨耗
73	土師器	坏	底部	5%	2号溝堆積土	10世紀		-	(60)	(14)	にぶい黄橙	底面糸切り
74	土師器	坏	底面	5%	2号溝堆積土	10世紀		-	-	-	にぶい黄橙	器面磨耗
75	かわらけ	小皿	口縁	5%	2号溝堆積土上位	12世紀後半	ロクロ	-	-	-	橙	器面磨耗
76	かわらけ	小皿	口縁	5%	2号溝堆積土上位	12世紀後半	ロクロ	-	-	-	褐灰：橙	器面磨耗
77	かわらけ	小皿	口縁～底部	25%	2号溝堆積土上位	12世紀後半	ロクロ	(90)	(68)	(15)	橙	器面磨耗
78	かわらけ	小皿	口縁～底部	50%	2号溝堆積土上位	12世紀後半	ロクロ	(100)	(70)	21	橙	器面磨耗
79	かわらけ	大皿	口縁～底部	90%	2号溝堆積土上位	12世紀後半	ロクロ	133	70	44	橙：浅黄橙	底面糸切り、底面すのこ痕、 外面に広い黒斑範囲、 内面の一部に黒斑、灯明痕？
80	かわらけ	碗	口縁	10%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	(120)	-	(38)	にぶい黄橙	
81	かわらけ	皿類	口縁	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	-	-	にぶい黄橙：灰褐	
82	かわらけ	小皿	胴部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	-	-	褐灰：にぶい黄橙	
83	かわらけ	小皿	口縁～底部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	(96)	(56)	17	褐灰	外面に黒斑
84	かわらけ	碗	胴部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	-	-	褐灰：にぶい黄橙	
85	かわらけ	皿類	底部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	(78)	(15)	橙	器面磨耗
86	かわらけ	小皿	胴部～底部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	(76)	(10)	橙	底面糸切り
87	かわらけ	小皿	底部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	(76)	(10)	橙	底面糸切り
88	かわらけ	碗	口縁～底部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	(138)	(80)	40	浅黄橙：にぶい黄橙	底面糸切り
89	かわらけ	碗	胴部～底部	10%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	(69)	(34)	灰白	底面糸切り
90	かわらけ	小皿	底部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	(60)	(14)	浅黄橙	底面糸切り
91	かわらけ	小皿	底部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	(60)	(12)	灰白	底面糸切り
92	かわらけ	小皿	底部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	(56)	(09)	灰白	底面糸切り
93	中世土器	鉢	口縁～胴部	5%	2号溝堆積土	12世紀後半	ロクロ	-	-	-	灰白	内外面に灯明痕
94	かわらけ	小皿	底部	5%	1号土坑	12世紀	ロクロ	-	(80)	(11)	灰白：灰白	底面糸切り、底面すのこ痕、 黒斑範囲が40%
95	かわらけ	小皿	口縁～底部	10%	1号土坑	12世紀	ロクロ	(80)	(46)	1.6	褐灰：褐灰	底面糸切り、二次焼成？
96	かわらけ	小皿	底部	5%	1号土坑	12世紀	ロクロ	-	-	-	褐灰：褐灰	底面糸切り
97	かわらけ	小皿	口縁	5%	1号土坑	12世紀	ロクロ	-	-	-	にぶい黄橙	
98	かわらけ	小皿	胴部～底部	5%	2号土坑	12世紀	ロクロ	-	(56)	(18)	橙	底面糸切り、砂粒微量
99	かわらけ	小皿	口縁～底部	75%	2号土坑	12世紀	ロクロ	(84)	6.4	1.9	灰褐：褐灰	底面糸切り、内外面黒斑、 二次焼成？
100	かわらけ	小皿	口縁	5%	3号土坑	12世紀	ロクロ	-	-	-	橙	底面糸切り？
101	かわらけ	皿	底部	5%	3号土坑	12世紀	手づくね	-	-	(14)	橙	
102	かわらけ	皿	底部	25%	1号中世墓噴	12世紀	ロクロ	-	(80)	(11)	褐灰：褐灰	底面糸切り、内外面黒斑、 二次焼成？
103	かわらけ	小皿	口縁～底部	30%	1号中世墓噴	12世紀	ロクロ	(80)	(60)	1.9	橙	
104	かわらけ	小皿	口縁	5%	1号中世墓噴	12世紀	ロクロ	-	-	-	にぶい橙	
105	かわらけ	小皿	口縁	5%	1号中世墓噴	12世紀	ロクロ	-	-	-	にぶい黄橙	
106	かわらけ	小皿	口縁	5%	1号中世墓噴	12世紀	ロクロ	-	-	-	にぶい橙	

第 3 表 19 年度遺物(土師器・須恵器・中世土器・陶磁器類) ※ [出土位置略号] 1 住=1 号竪穴住居跡、2 住=2 号竪穴住居跡、1 カマ土=1 号カマド状土坑

No	種別	器種	部位	遺存 %	出土位置	時期	調整・特徴・産地	口径・底径・器高 cm		備考
								外面	内面	
107	かわらけ	小皿	底部	5%	1 号中世墓塚	12 世紀	ロクロ	- : - : -	橙	
108	かわらけ	小皿	口縁~底部	10%	4 号土坑	12 世紀	ロクロ	(8.5) : (6.4) : 1.7	にぶい橙	底面糸切り
109	かわらけ	小皿	口縁~底部	10%	4 号土坑	12 世紀	ロクロ	(8.1) : (7.0) : 1.8	にぶい橙	底面糸切り
110	かわらけ	小皿	口縁	5%	4 号土坑	12 世紀	ロクロ	- : - : -	にぶい橙	
111	かわらけ	小皿	胴部~底部	5%	5 号土坑	12 世紀	ロクロ	: (6.0) : (1.8)	橙	二次焼成により器面磨耗
112	かわらけ	小皿	口縁	5%	8 号土坑	12 世紀	ロクロ	- : - : -	橙	二次焼成により器面磨耗
113	かわらけ	小皿	口縁~底部	5%	1 号室内	12 世紀	ロクロ	(7.1) : (5.8) : 1.4	橙	底面糸切り、胎土に 金雲母と砂粒微量
114	かわらけ	小皿	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	(9.1) : (5.5) : 2.1	浅黄橙	底面糸切り、灯明痕
115	かわらけ	小皿	口縁	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	(7.2) : - : (1.6)	にぶい黄橙	
116	かわらけ	小皿	口縁	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	(8.4) : - : (1.5)	にぶい黄橙	
117	かわらけ	小皿	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (5.2) : (1.4)	灰白	底面糸切り
118	かわらけ	小皿	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (6.0) : (1.2)	にぶい黄橙	底面糸切り
119	かわらけ	小皿	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (6.0) : (1.25)	灰白・暗赤褐	底面糸切り、内底面に 二次焼成の明赤褐色範囲
120	かわらけ	小皿	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (7.0) : (1.4)	浅黄橙	底面糸切り
121	かわらけ	皿?	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : - : (1.1)	灰白	底面糸切り
122	かわらけ	碗	口縁	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	(14.0) : - : (2.7)	灰白	
123	かわらけ	碗	口縁~底部	20%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	(14.7) : 7.6 : 5.2	灰白	底面糸切り、底面すのご糞
124	かわらけ	碗	胴~底部	10%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (5.4) : (3.7)	にぶい黄橙	底面糸切り
125	かわらけ	碗	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (6.0) : (1.2)	浅黄橙	底面糸切り
126	かわらけ	碗	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (7.5) : (1.9)	灰白	底面糸切り
127	かわらけ	碗	底部	5%	6 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (8.0) : (1.5)	灰白	底面糸切り
128	かわらけ	碗	底部	5%	7 号土坑	12 世紀前半	ロクロ	- : (5.8) : (1.6)	灰白	底面糸切り
129	かわらけ	小皿	胴部~底部	25%	P304・1 層	12 世紀	ロクロ	(8.7) : (6.0) : (2.0)	橙	底面糸切り
130	かわらけ	小皿	口縁~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	(7.0) : (4.8) : (1.7)	橙	底面糸切り、砂粒微量
131	かわらけ	小皿	口縁~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	(6.8) : (5.0) : 1.4	橙	
132	かわらけ	小皿	口縁~底部	10%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	(7.8) : (6.0) : (1.5)	にぶい橙	
133	かわらけ	小皿	口縁~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	(7.7) : (5.9) : 1.3	橙	底面糸切り、砂粒少量
134	かわらけ	小皿	口縁~底部	50%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	(8.6) : (6.0) : 1.5	橙	砂粒少量
135	かわらけ	小皿	口縁~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	(8.8) : (6.6) : (1.7)	橙	底面糸切り、器面磨耗
136	かわらけ	小皿	胴部~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : - : -	灰白	器面磨耗
137	かわらけ	小皿	底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (6.0) : (0.9)	灰白	器面磨耗、底面糸切り
138	かわらけ	小皿	口縁~底部	50%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	(9.0) : (5.8) : (1.8)	橙	口縁に灯明痕
139	かわらけ	皿類	底部	10%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : 6.4 : (1.1)	灰白	器面磨耗、底面糸切り
140	かわらけ	皿	底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (6.8) : (1.2)	橙	器面磨耗
141	かわらけ	皿類	底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (5.6) : (2.7)	にぶい黄橙	器面磨耗
142	かわらけ	小皿	口縁~底部	25%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	(8.0) : (6.0) : 1.4	橙	底面糸切り
143	かわらけ	小皿	胴部~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (6.0) : (2.0)	浅黄橙	器面磨耗
144	かわらけ	小皿	底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (7.2) : (1.1)	浅黄橙・橙	底面糸切り、砂粒少量
145	かわらけ	小皿	胴部~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (6.7) : (1.9)	橙	器面磨耗
146	かわらけ	小皿	底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (6.0) : (1.3)	灰白	器面磨耗、底面糸切り
147	かわらけ	小皿	胴部~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (7.0) : (1.6)	橙	砂粒微量
148	かわらけ	小皿	口縁~胴部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (7.0) : (1.5)	橙	底面糸切り
149	かわらけ	皿類	胴部~底部	5%	1 号廃棄場	12 世紀	ロクロ	- : (6.3) : (2.1)	浅黄橙・浅黄橙	砂粒少量

第3表 19年度遺物観察表(土師器・須恵器・中世土器・陶磁器類) ※[出土位置略号] 1住=1号壑穴住居跡、2住=2号壑穴住居跡、1カマ土=1号カマト状土坑

No	種別	器種	部位	遺存 %	出土位置	時期	調整・特徴・産地	口径・底径・器高 cm		備考
								外面	内面	
150	かわらけ	小皿	底部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : (6.2) : (1.1)	外面: 内面 橙	底面糸切り、器面磨耗
151	かわらけ	皿	胴部~底部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : (7.1) : (2.3)	浅黄橙; 橙	底面磨耗
152	かわらけ	坑	口縁~胴部	5%	1号廃棄場	12世紀前半	ロクロ	(17.0) : - : (4.9)	灰黄褐; 褐灰	砂粒微量
153	かわらけ	皿類	底部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : (8.0) : (2.1)	浅黄橙	器面磨耗、底面すのこ痕?
154	かわらけ	皿	胴部~底部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : (7.0) : (2.1)	橙	器面磨耗
155	かわらけ	皿類	胴部~底部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : (8.6) : (2.2)	橙	器面磨耗
156	かわらけ	皿?	胴部~底部	25%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : (10.0) : (2.5)	にぶい橙; にぶい黄橙	器面磨耗、 内面黒斑と炭化物付着
157	かわらけ	大皿	胴部~底部	10%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : (11.8) : (2.0)	橙	器面磨耗、底面剥落
158	かわらけ	皿	胴部~底部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : (10.0) : (1.5)	橙	器面磨耗
159	かわらけ	大皿	口縁	5%	1号廃棄場	12世紀後半	手づくね	(15.0) : - : (2.4)	浅黄橙	外面ナデ2段以上、 面取りあり
160	かわらけ	大皿	口縁	5%	1号廃棄場	12世紀後半	手づくね	- : - : -	浅黄橙	
161	かわらけ	小皿	口縁	5%	1号廃棄場	12世紀後半	手づくね	- : - : -	浅黄橙	
162	かわらけ	小皿	口縁	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : - : -	にぶい橙	
163	かわらけ	大皿	口縁~胴部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : - : -	橙; にぶい橙	
164	かわらけ	皿類	口縁	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : - : -	浅黄橙	砂粒少量、器面磨耗
165	かわらけ	坑?	胴部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : - : -	灰白; にぶい黄橙	外面剥落
166	中世土器	銅類?	底部?	5%	1号廃棄場	12世紀	外面: ケズリ	- : - : -	褐灰; にぶい黄褐	器形・傾き不明
167	かわらけ	皿類	底部	5%	1号廃棄場	12世紀	ロクロ	- : - : -	にぶい黄橙	底面糸切り
168	陶器	三筋壺	肩部~胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	内面・指ナデ・常滑	- : - : -	赤褐; 橙	外面自然釉 三筋文は間隔のせまい複線
169	陶器	甕類	肩部~胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	ヨコナデ・常滑	- : - : -	灰褐; にぶい褐	外面自然釉
170	陶器	甕類	胴部下位	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面: タタキメ 内面: 指ナデ・常滑	- : - : -	灰褐; 褐	内面自然釉
171	陶器	甕類	胴部下位	1%	1号廃棄場	12世紀後半	内面: ヨコナデ・常滑	- : - : -	にぶい褐; 褐	内面自然釉
172	陶器	甕類	胴部下位	1%	1号廃棄場	12世紀後半	滲美	- : - : -	黄灰; 灰	内面自然釉
173	陶器	甕類	頸部~肩部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	内面: 指ナデ・常滑	- : - : -	橙	外面自然釉
174	陶器	甕類	肩部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	ヨコナデ・常滑	- : - : -	暗赤褐; にぶい黄褐	外面自然釉
175	陶器	三筋壺	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	内面: ヘラナデ・指ナデ・常滑	- : - : -	褐灰; 灰	三筋文は複線で、 間隔狭く、片方は破線状
176	陶器	甕類	胴部下位	1%	1号廃棄場	12世紀後半	常滑	- : - : -	褐; にぶい褐	内面自然釉
177	陶器	甕類	胴部下位	1%	1号廃棄場	12世紀中葉	ヨコナデ・常滑	- : - : -	にぶい黄褐; 暗灰黄	内外面に釉
178	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	滲美	- : - : -	灰; 褐灰	内外面に釉
179	陶器	甕類	肩部	1%	1号廃棄場	中世	ロクロナデ、ヨコナデ 須恵器系陶器・東北	- : - : -	褐灰; 灰褐	焼成やや不良
180	陶器	甕類	胴部下位	1%	1号廃棄場	12世紀後半	常滑	- : - : -	褐灰; 褐	内外面自然釉
181	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	常滑	- : - : -	灰黄褐	内外面自然釉
182	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面: 押印帯 内面: ヨコナデ・指ナデ・滲美	- : - : -	黄灰	
183	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面: タタキメ 内面: ヨコナデ・指ナデ・常滑	- : - : -	黒褐; にぶい赤褐	
184	陶器	甕類	肩部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	滲美	- : - : -	黒・褐灰; 褐灰	外面に厚い釉。傾き不明
185	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	ヨコナデ・指ナデ・滲美	- : - : -	褐灰	

第3表 19年度遺物観察表(土師器・須恵器・中世土器・陶磁器類) ※[出土位置略号] 1住=1号竪穴住居跡、2住=2号竪穴住居跡、1カマ土=1号カマド状土坑

No	種別	器種	部位	遺存 %	出土位置	時期	調整・特徴・産地	口径・底径・器高 cm		備考
								外面	内面	
186	陶器	甕類	肩部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面：タタキメ 内面：ヨコナデ・指ナデ・常滑	-	-	外面自然釉
187	陶器	甕類	肩部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	ヨコナデ・指ナデ・常滑	-	-	外面自然釉
188	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	常滑	-	-	外面自然釉
189	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	ヨコナデ・常滑	-	-	黒褐・褐灰
190	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	渥美	-	-	灰
191	陶器	甕類	胴部下位	1%	1号廃棄場	12世紀後半	ヨコナデ・渥美	-	-	灰黄褐：にぶい橙
192	陶器	甕類	胴部～底部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	常滑	-	(96)：(50)	にぶい褐・橙
193	陶器	甕類	口縁～頸部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	ロクロナデ・渥美	(122)：-	-(37)	暗灰：灰
194	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面：押印帯 内面：指ナデ・渥美	-	-	灰
195	陶器	鉢	胴部	5%	1号廃棄場	12世紀後半	外面：回転ヘラケズリ・渥美	-	-	灰白：黄灰
196	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面：押印帯 内面：ヨコナデ・渥美	-	-	灰
197	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	ヨコナデ・渥美	-	-	黄灰：灰
198	陶器	甕類	頸部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	常滑	-	-	赤褐：明褐
199	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面：押印帯 内面：ヨコナデ・常滑	-	-	灰黄褐：にぶい褐
200	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	押印帯・常滑	-	-	褐灰：にぶい赤褐
201	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面：押印帯 内面：ヨコナデ・常滑	-	-	灰褐
202	陶器	甕類	肩部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面：押印帯 内面：ヨコナデ・渥美	-	-	灰
203	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場		外面：タタキメ 内面：指ナデ・須恵器系陶器	-	-	灰
204	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	中世	内面：指ナデ 須恵器系陶器・東北?	-	-	灰
205	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	須恵器系陶器・エヒハチ長根	-	-	灰
206	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	12世紀後半	外面：押印帯 内面：ナデ・渥美	-	-	灰
207	陶器	甕類	胴部	1%	1号廃棄場	中世	外面：タタキメ 内面：指ナデ 須恵器系陶器・東北?	-	-	黄灰：灰
208	陶器	大甕	頸部～肩部	1%	1号廃棄場	12世紀	タタキメ 須恵器系陶器・エヒハチ長根	-	-	灰
209	磁器	白磁碗	口縁	5%	6号土坑	12世紀後半	龍泉窯系	(14.5)：-	-(24)	灰白
210	磁器	青磁碗	胴部	5%	1号廃棄場	12世紀後半	龍泉窯系	-	-	オリーブ黄
211	磁器	青磁碗	胴部	5%	1号廃棄場	12世紀後半	龍泉窯系	-	-	オリーブ黄
212	磁器	白磁壺	胴部	5%	1号廃棄場	12世紀後半	ロクロナデ・龍泉窯系	-	-(4.2)	灰白

第3表 19年度遺物観察表(土師器・須恵器・中世土器・陶磁器類) ※[出土位置略号] 1住=1号壁穴住居跡、2住=2号壁穴住居跡、1カマ土=1号カマト状土坑

No	種別	器種	部位	遺存 %	出土位置	時期	調整・特徴・産地	口径・底径・器高		備考
								cm	色調	
213	磁器	白磁壺	胴部	5%	3号土坑	11~ 12世紀前半	ロクロナデ・龍泉窯系	- : - : (6.5)	外面：内面 灰白	太宰府C期白磁壺II類、 水注、外面刷毛状釉流れ

第4表 19年度遺物観察表(鉄製品・石器・土製品・縄文土器・粘土塊)

No	種別	器種	出土位置	時期	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
214	鉄製品	刀子	1号中世墓壙	12世紀後半	22.8	2.1	刀部0.5 柄0.4	109.3	
215	鉄製品	刀子	1号中世墓壙	12世紀後半	17.2	1.8	刀部0.3 柄0.5	39.9	
216	鉄製品	刀子	1号廃棄場	10世紀~12世紀末	7.2	2.1	0.3	16.8	
217	鉄製品	火打ち金	F区表採	10世紀~12世紀末	6.6	3.1	0.4	27.9	
218	鉄製品	釘	1号廃棄場	10世紀~12世紀末	3.4	0.6	0.7	1.9	
219	鉄製品	釘	1号廃棄場	10世紀~12世紀末	8.1	1.0	1.1	22.4	
220	鉄製品	手斧	1号廃棄場	10世紀~12世紀末	7.6	3.3	2.1	59.6	
221	銅製品	簪	1号近世墓壙検出面	近世	12.5	0.3	0.3	16.3	確認調査区出土
222	銅製品	蓋	F区表採	不明	3.7	3.8	0.9	5.3	
223	石器	磨石	12号土坑	10世紀	11.1	11.9	7.3	695.3	安山岩
224	石器	磨石	2号溝跡	縄文~12世紀末	17.1	12.4	7.5	1494.9	安山岩
225	石器	磨石	1号廃棄場	縄文~12世紀末	14.4	4.7	3.2	319.9	安山岩
226	石器	磨石	1号廃棄場	縄文~12世紀末	8.5	4.4	3.1	68.9	安山岩
227	石器	磨石	1号廃棄場	縄文~12世紀末	5.7	7.8	3.4	65.8	安山岩
228	石器	凹石	G区表採	7.7	7.0	3.8	231.1	安山岩	
229	石器	敲石	1号廃棄場	縄文~12世紀末	16.7	5.2	4.4	573.8	砂岩
230	石器	敲石	1号廃棄場	縄文~12世紀末	6.0	5.9	5.2	163.7	安山岩
231	石器	磨石	1号廃棄場	縄文~12世紀末	4.9	3.9	1.7	28.6	凝灰岩
232	石器	剥片	1号廃棄場	縄文~12世紀末	2.3	2.8	0.9	4.9	火打ち石の破片か?
233	土製品	土偶	2号溝跡	縄文晩期末	2.1	4.9	3.5	26.4	大洞A式以降
234	礫	線刻礫	G区表採	現代?	5.5	5.7	4.3	111.7	線刻が新しい
235	粘土塊	土壁片	6号土坑	~12世紀	4.7	6.1	4.1	62.1	白土付着
236	粘土塊	土壁片?	6号土坑	~12世紀	3.4	4.2	3.0	30.0	平坦面残存
237	粘土塊	土壁片?	5号土坑	~12世紀	1.5	2.2	1.4	3.2	にぶい赤褐
238	縄文土器	深鉢	1号溝跡	後晩期					底径6.5cm、器面摩耗
239	縄文土器	深鉢	3号土坑	後期					隆帯上に刻目、器面摩耗
240	縄文土器	深鉢	6号土坑	後晩期					L.R. タテ
241	縄文土器	深鉢	2号溝跡	後期					底径18.5cm、R?
242	粘土塊	土壁材?	6号土坑	~12世紀	3.4	3.5	2.7	20.3	写真掲載
243	粘土塊	土壁材?	P124	~12世紀	1.9	2.5	1.6	5.8	写真掲載
244	土製品	羽口片	1号廃棄場	~12世紀	6.2	4.9	3.7	53.3	写真掲載
245	粘土塊	伊壁片	1号廃棄場	~12世紀	2.4	2.3	1.8	5.6	写真掲載

V 平成 20 年度調査成果

1 概 要

平成 20 年度調査区は、下川原 I 遺跡の南側および下川原 II 遺跡の全域である。

調査の便宜上、調査区を適当な範囲で区分し、区域名を付している。遺跡東側縁辺部の調査区を A 区、中央の南北方向に伸びる調査区を B 区、西側縁辺部の調査区を C 区、中央の東西方向に伸びる調査区を D 区と大別した。A～D 区を、A 1～A 10、B 1～B 8、C 1・C 4～C 10（C 2・C 3 区は欠番）、D 1～D 9 区のように細分した。

下川原 I 遺跡に属するのは、北側の A 1～A 4 区、B 1～B 4 区、C 1・C 4 区、D 1～D 4 区で、下川原 II 遺跡に属するのは、A 5～A 10 区、B 5～B 8 区、C 5～C 10 区、D 6～D 9 区である。調査区は、本調査区と確認調査区があり、本調査区は、D 2 区の南側、B 2～B 8 区、D 5・D 8 区、C 9～C 10 区の東側、C 4 区が該当し、A 1～A 10 区、B 1 区、C 5～C 10 区、C 3・C 6・C 7 は確認調査区である。

調査区内・周辺とも水田であったが、調査時には小麦が作付されていた。田区の境界には農道や水路があった。

北上川は、下川原 I 遺跡の北端部に接し、遺跡の東側を大きく迂回した後、下川原 II 遺跡 20 年度調査区の南東側 A 8～A 10 区に接し、遺跡南端 D 9 区付近で、西側を南流してきた滝名川と合流する。

A 1～A 7 区は、田面に合わせて平坦に盛土されていたが、盛土除去後の地形は東側へ向かって緩やかに下がる。東側の遺跡範囲外は低位の低地面であり、遺跡範囲とは比高差がある。

B 1～B 8 区は、調査前は砂利敷の道路で、道路脇の東側には、側溝としてコンクリート製 U 字溝が埋設されていた。U 字溝の基礎工事時に、遺構確認面より下位まで掘削が行われている部分があり、一部の遺構は破壊されていた。U 字溝と道路の砂利は、調査着手前に工事業者が撤去を行った。

C 1 区は、宅地に隣接する幅 1 m の細い調査区である。C 4 区は、西側の低地面との境界部分で、西縁は急傾斜となる。西縁から幅 1 m の範囲のみ本調査を行った。C 5・C 6 区は低位の低地面で、表土下が礫層となる。遺構が存在する可能性は薄いとみられ、全域ではなく部分的なトレンチ調査で終了している。

C 5～C 10 区の西側を南流する滝名川と調査区の間には堤防が建設されている。この堤防部分は、平成 3 年度に、滝名川河川改修関連遺跡発掘調査として、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査を行っており、これが下川原 II 遺跡の第 1 次調査に該当する（報告書第 192 集）。この 1 次調査区は、2 次調査区の南西部 C 10 区と隣接している。

調査期間中に、調査範囲が当初予定から変更になった箇所が複数ある。B 1 区、C 4 区は追加となった調査区である。また、A 9 区、C 9 区以南は、当初 21 年度に調査する予定であったが、前倒して 20 年度に調査することとなった。この他にも、細かく調査範囲の変更が行われた箇所がある。そのため、調査面積は当初、下川原 I 遺跡 6,056㎡、下川原 II 遺跡 7,221㎡、計 13,277㎡として開始したが、最終的には、下川原 I 6,693㎡、下川原 II 11,354㎡、計 18,047㎡となった。これらの変更はすべて、盛岡地方振興局農政部農村整備室と県生涯学習文化課の協議を経て決定されたものである。

2 検出遺構

検出時、精査時の状況、位置、平面形、長軸方向、断面形、規模、埋土、出土遺物などを記した。位置については、調査区域名を記してあるが、詳細な座標値は、第5～13表（遺構観察表）に示した。確認調査区の遺構で、トレンチや半裁などの段階で精査を中断しているものは、その旨を記した。遺構配置については、第49～74図を参照して頂きたい。

(1) 竪穴住居跡

下川原Ⅰ遺跡で7棟（SⅠ01～07）、下川原Ⅱ遺跡で5棟（SⅠ101・103～105・107）確認した。

SⅠ01 竪穴住居跡（第82図、写真図版49）

〔位置・検出状況〕A4区北側に位置する。Ⅲ層中、暗褐色土のプランとして検出した。検出時点で、プランの西側に炭化物や焼土ブロックが多く混入する状況が確認できた。この付近をわずかに掘り下げたところで焼土が現れたため、この焼土がカマド燃焼部で、焼土上面と同一レベルが遺構の床面と判断した。検出状況から、遺構の上位部分は床面直上付近まで削平を受け、検出プランの大部分は埋土ではなく貼床の範囲と考えられる。遺構の東側は床面以下まで削平されている。

〔形状・規模〕壁は北西側の一部にしか残存せず、この部分で確認した壁高は0.10mである。検出した貼床範囲から、竪穴部は方形と推定される。貼床範囲は、主軸方向の東西1.73m、南北2.20mである。床面に締まりはない。

〔カマド〕煙道部は西壁のほぼ中央に位置し、方向は西北西（N-70°-W）である。煙道の規模は、長さ0.98m、先端部の壁高が0.10mであるが、竪穴部と同様に削平を受けた残存部である。燃焼部焼土は0.56×0.50mの範囲で、焼成深度は0.05mである。カマドの構築材などの痕跡は確認されなかった。

〔床面施設〕南東部に焼土1基を確認した。規模は0.20×0.20mで、焼成は弱い。上位は削平を受けた可能性がある。

遺物 なし。

SⅠ02 竪穴住居跡（第75図、写真図版42・43）

〔位置・検出状況〕B2区北側、D2区西側に位置する。竪穴部の南西隅をSD15溝跡に切られ、煙出し部先端をSD30溝跡に切られる。床面の数か所は攪乱に破壊されている。調査の都合により、当初B2区内の範囲のみ先行して調査を行い、D2区範囲の調査は後日行った。そのため、連続した埋土断面の記録がとれなかった部分がある。D2区範囲は本来確認調査区であるが、本調査を行っている。

〔形状・規模〕竪穴部の平面形は方形で、開口部の規模は、主軸方向の東西6.68m、南北6.88mである。壁高は0.38mである。床面積は、43.09㎡である。

〔埋土〕埋土は黒褐色土主体で、ところにより黄褐色土ブロックを多く含む。壁際の一部では、黒色土の三角堆積がみられる。床面直上には、砂の薄い堆積が確認できた。床面には貼床が施され、非常に堅く締まる。貼床の深さは、深い所で床下0.15mである。

〔床面施設〕ピット11個（P1～11）を確認した。このうち、P1・4・7は、配置と規模から支柱

穴と推定される。南東隅周辺の壁際には周溝を確認した。

〔カマド〕煙道は、東壁のやや南よりに位置する。割り抜き式で、天井部は崩落せずに残存する。方向はN-64°-Eで、壁と直交する。底面標高は煙出し部へ向かって下がり、先端部の深さは0.60 mである。燃焼部焼土は0.76×0.72 mの範囲で、焼成深度は0.10 mである。焼成面は非常に堅く締まる。焼土と接する位置に、礫2点が直立した状態で残存していた。これ以外にも、焼土付近の埋土からは礫が複数出土しており、これらはカマド構築の芯材であったとみられる。

遺物（第136～138・154図、写真図版104・109～111・130）土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器壺など10,790 gが出土した。カマド付近での出土量が多い。このうち、土師器坏（421～430）、土師器甕（431～439）、須恵器坏（440～442）、須恵器壺（443）を掲載した。土師器坏はいずれもロクロ使用で、421～423は、内面に黒色処理が施される。土師器坏421・422は回転ヘラ切り、424～429は回転糸切りである。430は、ロクロ使用とみられるが、底面が再調整で、体部にはケズリ調整が施され、他の坏とは様相が異なる。土師器甕はいずれもロクロ不使用で、431～435が大形、436～438が中形、438・439が小形である。434・435は底部に木葉痕がみられる。須恵器坏440～442はいずれも回転糸切りで、442は台付である。土器以外に、小刀（1）、刀子（5）、鉄滓1点が出土した。

S I 03 竪穴住居跡（第76図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕B2区北側に位置する。IV層で検出した。調査したのは竪穴部の南東隅とその周辺部である。カマドは、西側の調査区外に存在するとみられる。

〔形状・規模〕カマドが調査区外にあるため、主軸方向は不明である。東壁はN-14°-Wの方向で、確認した長さは5.15 mであり、さらに調査区外へ続く。深さは0.37 mである。床面は平坦で、壁は直立する。

〔埋土〕黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックを多量含む。壁際には黒色土の三角堆積がみられる。床面には貼床が施され、堅く締まる。貼床は北側ほど深く、床下0.10 m程度である。

〔床面施設〕ピット2個（P1・2）を検出した。深さは、P1が床下0.30 m、P2が0.84 mである。P2は床面上では確認できず、貼床除去後に検出した。壁際には、幅0.25 m、深さ0.25 mの周溝が巡る。

遺物（第138図、写真図版112）土師器坏、土師器甕など180 g出土した。このうち、土師器坏（444）を掲載した。444は、底部回転糸切りである。

S I 04 竪穴住居跡（第77図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕B3区南側に位置する。IV層で検出した。確認したのは西壁全体とその周辺部である。カマドは、東側の調査区外に存在するとみられる。

〔形状・規模〕竪穴部は正方形と推定される。カマドが調査区外にあるため、主軸方向は不明である。西壁はN-11°-Wの方向で、長さが7.56 mである。床面は平坦で、壁は直立する。

〔埋土〕黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックを多量含む。壁際には黒色土の三角堆積がみられる。貼床は床面全体に施され、堅く締まる。貼床は深いところで、床下0.30 m程度である。

〔床面施設〕ピット2個（P1・2）を確認した深さはP1が0.50 m、P2が0.54 mである。P1・2は、その配置と規模から、主柱穴とみられる。床面の北東側調査区境付近では、焼土と炭化物が確認されたことから、この付近の調査区外にカマドが存在する可能性が高いと推定される。

遺物（第153図、写真図版129）土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器壺など832g出土した。いずれも小片であるため掲載していない。土器以外に、砥石(605)が出土した。605は安山岩製である。

S105 竪穴住居跡（第78～80図、写真図版46～48）

〔位置・検出状況〕B4区北側に位置する。IV層で検出した。確認できたのは、住居の中央部を縦断する北壁から南壁にかけての範囲で、カマドと煙道部も含まれる。煙道部の西側半分は本来調査区外であったが、調査員の判断により煙道部全体を調査している。

〔形状・規模〕竪穴部は正方形と推定される。北壁から南壁までの距離は8.96m、深さ0.45mである。壁は急角度で立ち上がる。床面は平坦で、壁はやや外傾する。

〔埋土〕黒褐色土主体で、黄褐色土を多く含む層がある。壁際には黒色土の三角堆積がみられる。床面には貼床が施される。深い所で床下0.12mである。なお、調査区壁の断面観察によれば、埋土の上位には畝間状の並行する浅い溝があるのが確認でき、SX01と同様の性格をもった遺構と考えられる。住居の埋土を切る新期の遺構であるが、検出時に十分な確認を行わず掘り進めたため、平面プランの記録は行っていない。

〔カマド〕竪穴部が調査区外へ続くため、煙道の位置は不明である。方向はN-10°-Wで、壁と直交する。長さは1.88mである。煙出し部へ向かって深くなり、先端部の深さは0.84mである。構築方法は掘り込み式で、掘り込んだ溝の両側に支えとなる石を並べ、その上に蓋石を置き、煙道としている。支石は、30×25×8cm位の平坦な礫を用いている。煙道の先端部にも同じ礫が配置され、溝を囲うような状態である。天井石は、50×25×8cm程度で、支石よりやや長い礫を用いている。天井石の隙間を塞ぐように小礫を詰めこまれ、さらにその上に土を貼っていたため、使用時には上から構築礫は見えない状況である。煙出しの開口部には、拳大の礫が円形に配列する。燃焼部は、規模が0.80×0.60mで、焼成深度は0.05mである。焼成面は堅く締まる。

〔床面施設〕ピット9基（P1～9）を確認した。P9は一つのピットとしているが、形状が複雑であり、複数の小穴が重なった可能性がある。埋土は焼土や炭化物を非常に多く含み、中から多くの土器が出土した。南側の壁際には、細い周溝が確認された。複数の溝状の掘り込みが、等間隔に並行して確認された。カマドの西側にもピットを検出したが、調査区外に伸びるため、調査しなかった。

遺物（第139～141・154図、写真図版104・112～114・130）土師器坏、土師器甕、須恵器壺など12,843g出土した。カマド周辺部の床面上やP9内での出土量が多い。このうち、土師器坏（446～453）、土師器甕（454～464）、須恵器壺（465）を掲載した。土師器坏はいずれもロクロ使用で、446～450は内面に黒色処理が施される。446～448は底部回転ヘラ切り、449・450は再調整、451～453は回転糸切りである。土師器甕は、454～461が大形、462・463が中形、464が小形である。456～458は底部に木葉痕がある。459は木葉痕の上に砂が付着し、464は砂底である。

土器以外では、鉄製品（656）が出土した。656は直径2.9cm、厚さ0.9cm程度のリング状を呈する。

S106 竪穴住居跡（第81図、写真図版49・50）

〔位置・検出状況〕C4区北側に位置する。IV層で検出した。検出したのは煙道全体とその周辺の北壁、西壁の一部で、東側は調査区外にある。煙道付近には検出時点で礫が露出した状態であった。煙道の先端部と竪穴部の北西隅は本調査を行い、その他の部分は検出プランの記録のみを行った。

〔形状・規模〕1辺は不明である。確認した範囲では、主軸方向の南北が5.90m、東西が6.00mであり、さらに調査区外へ続く。床面は平坦で、壁はやや外傾する。

[埋土] 黒褐色土を主体とする。

[床面施設] 確認されなかった。

[カマド] 煙道は北壁に位置する。方向はN - 36° - W、長さ1.80 mである。煙道は掘り込み式である。煙道内の周縁部には礫が配列し、S I 05の煙道と類似した状況であるが、先端部のみしか精査していないので詳細は不明である。天井石は確認していない。

遺物（第142・154図、写真図版116・130）土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器壺など1,580 gが出土した。このうち、土師器甕（467）、須恵器坏（468）を掲載した。土師器甕467は大形で、底部は木葉痕の上に砂が付着する。須恵器坏は底部回転糸切りである。土器以外では、刀子（657）が出土した。

S I 07 竪穴住居跡（第82図、写真図版50・51）

[位置・検出状況] B 3区南側に位置する。調査したのは、煙道部のみである。

検出したのは煙出部で、Ⅲ層で円形プランとして検出した。柱穴群と隣接していたため、当初は柱穴と考え、P 249ピットとして精査を開始した。少し掘り下げたところで、埋土中から多くの礫が出土し、開口部付近が強く焼成を受け硬化した状況が確認された。何らかの炉跡である可能性を想定したが、礫は意図的に配列したような状況ではなかったため、平面図の作成後、礫を取り上げた。その下からは同じような状態で礫が現れたため、礫を取り上げながら掘削を進めていくと、1 m以上掘り進めたところでようやく底面に到達した。ところが、壁を確認すると、Ⅳ層が壁となる筈のところ、西側にまだ黒い部分があり、この部分のみどンドン横方向に抉れていくことに気づく。ここで初めて、これは住居の煙道なのではないか、という発想に至った。そのまま横に掘り進めていく訳にはいかなかったので、煙道方向を推定し、思い切って上から断ち割ってみたところ、トンネル状の掘り込みが調査区外へ続く状況を、はっきりと確認することができた。

煙道部の埋土は大きめのⅣ層土ブロックを多く含み、ブロックの一部に焼けた痕跡がみられる。焼けた天井の内面が崩落したものとみられ、竪穴住居跡のカマド煙道部と考えて矛盾はない。ただし、竪穴部は全て調査区外にあるため、竪穴内におけるカマドの位置などは不明である。精査の状況から、使用後の煙出しに礫を詰めて埋め戻したものと推測できる。

[形状・規模] 煙道部の方向はN - 90° - Eである。確認した長さは1.90 mであるが、調査区外へさらに続くため全長はそれ以上となる可能性がある。底面は煙出し部へ向かって下がり、煙出し部の深さは1.16 mとなる。

遺物 土師器甕が77 g出土したが、小片であるため掲載していない。

S I 101 竪穴住居跡（第84図、写真図版52）

[位置・検出状況] A 6区南側に位置する。Ⅳ層で検出した。北西隅周辺は、表土除去時にバックホーで入れたトレンチで破壊してしまった。埋土と地山の区別がほとんどつかないため、検出当初は遺構と認識できなかった。トレンチ断面に焼土や炭化物、礫が見えたため、注意深く観察したところ、不明瞭ながら方形プランが存在することに気づいた。壁と直交するように十字にトレンチを入れたが、壁の立ち上がりも明瞭には認識できなかった。北西部は、少し掘り下げたところで、焼土が現れた。この付近で礫がまとまっていたことから、カマドと考えている。この付近では、土器もある程度まとまって出土している。焼土の焼成面のレベルを床面と捉えているが、床面に締めりはない。確認調査区内にあるため、調査はトレンチのみで終了した。

2 検出遺構

[形状・規模] 正方形である。規模は、南北 3.37 m、東西 2.92 m である。

[埋土] 暗褐色土を主体とする。地山との区別が困難で、焼土や炭化物の混入で辛うじて識別できる。

[床面施設] 調査範囲内では確認されていない。

[カマド] 焼土のある北西部に存在したとみられる。煙道の向きは不明である。

遺物(第 144 図、写真図版 118) 土師器坏、土師器甕など 217 g が出土した。このうち、土師器甕(752) を掲載した。752 はロクロ使用の甕である。

S I 103 竪穴住居跡(第 83・84 図、写真図版 53・54)

[位置・検出状況] A 8 区南側に位置する。IV 層で検出した。調査したのはカマドを含む東壁とその周辺で、西側は調査区外にある。S K T 125 陥し穴を切る。

[形状・規模] 竪穴部は正方形と推定される。床面は平坦で、壁はやや外傾する。規模は、主軸方向である東西は不明で、南北は 4.93 m である。

[埋土] 黒褐色土を主体とし、黄褐色土ブロックがわずかに混入する。壁際には黒色土が三角堆積する。床面には貼床が施され、堅く締まる。貼床は、深い所で床下 10cm 程度である。

[カマド] 煙道部は削り抜き式で、東壁のやや南より部分に位置する。煙道の方向は N - 89° - E で、壁と直交する。長さは 1.30 m で、先端部へ向かって下がり、煙出し部の深さは 0.65 m となる。

[床面施設] ピット 2 個(P 1・2)を確認した。P 1・2 は、配置と規模から支柱穴と推定される。南東隅の壁際には、細い周溝が確認された。

遺物(第 143 図、写真図版 117) 土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器甕など計 6,459 g 出土した。このうち、土師器坏(753)、土師器甕(754～759)、須恵器壺(760) を掲載した。土師器坏 753 は底部回転糸切りである。土師器甕は 754～757 が大形、758 が中形、759 が小形で、756 は砂底である。土器以外では、鉄滓 1 点が出土した。

S I 104 竪穴住居跡(第 85 図、写真図版 55)

[位置・規模] A 10 区中央に位置する。IV 層で検出した。調査したのは西側部分で、東側は調査区外にある。ただし南西部分は、表土除去時にバックホーでトレンチを入れて破壊してしまった。辛うじて残存したのは北西隅周辺のみである。検出面からわずかに掘り下げたところで焼土、炭化物のまとまりと土器を同一レベルで確認したため、この面を床面と判断したが、締まりは感じられなかった。遺構の上位は全体的に削平を受けていたようである。

[形状・規模] 不明である。北壁は約 2.50 m の長さまで確認したが、その先は調査区外へ続く。深さは 0.08 m である。

[埋土] 黒褐色土主体である。床面上で、炭化物のまとまりを複数確認した。床面には貼床が施されるが、それほど締まりはない。貼床の除去は行わなかった。

[床面施設] 床面上で焼土 2 基(焼土 1・2)を確認した。竪穴部の範囲が不明であるため、カマドの燃焼部であるかは判断できない。

[カマド] 調査区外に存在する可能性がある。

遺物(第 144 図、写真図版 118) 土師器坏、土師器甕など計 1,758 g 出土した。このうち、土師器坏(763～765)、土師器甕(766) を掲載した。土師器坏はいずれも底部回転糸切りで、763 は内面に黒色処理が施される。766 は小形の甕である。

S I 105 竪穴住居跡（第 86 図、写真図版 52）

〔位置・検出状況〕C 10 区南側に位置する。IV 層で検出した。調査したのは竪穴部北西隅の周辺部で、東側は調査区外にある。北側を S D 115 溝跡に切られる。

〔形状・規模〕竪穴部は正方形と推定される。床面は平坦で、壁はやや外傾する。北壁は 4.70 m の長さまで確認したが、調査区外へ続く。深さは 0.19 m である。

〔埋土〕黒褐色土主体である。床面には貼床が施され、やや堅く締まる。掘り方は、深い所で床下 15cm 程度である。

〔カマド〕調査区外に存在するとみられ、不明である。

〔床面施設〕ピット 2 個（P 1・2）を確認した。P 1 は、東側の壁がオーバーハングする。

遺物 土師器坏、土師器甕など計 51 g 出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

S I 107 竪穴住居跡（第 86 図、写真図版 56）

〔位置・検出状況〕A 8 区南側に位置する。IV 層で検出した。プランは不明瞭で、検出作業の当初は遺構と認識できなかった。遺物の散らばりを確認したため、周辺部を薄く掘り下げてみたところ、2 か所で焼土を検出した（焼土 1・2）。焼土 1 の北側には溝状の掘り込みがあり、焼土 1 と焼土 2 を含む範囲に、辛うじて正方形のプランが見えることを確認した。焼土 1 はカマドの燃焼部で、溝状の掘り込みは煙道部と判断した。焼土の上面付近が竪穴の床面であり、遺構の上位は全体的に削平を受けていたものとみられ、検出した正方形プランは貼床範囲であると判断した。南側は攪乱により床下まで破壊されている。煙道部は S K T 119 を切る。

〔形状・規模〕貼床範囲から、正方形であったと推定される。貼床範囲は、東西 2.82 m である。

〔埋土〕残存しなかった。

〔カマド〕上位を削平されているため、調査したのは残存部である。煙道は北壁のほぼ中央に位置していたとみられる。方向は N - 6° - E、長さは 2.08 m で、先端部へ向かって下がり、先端部の深さは 0.32 m となる。燃焼部焼土は、範囲が 0.30 × 0.16cm、厚さ 0.05cm 程度で、焼成は弱い。

〔床面施設〕燃焼部焼土以外に、南西側に焼土 1 基を確認した。規模は 0.25 × 0.20cm、厚さ 0.04cm で、弱いものである。

遺物（第 144 図、写真図版 118）土師器坏、土師器甕、須恵器坏など計 347 g 出土した。このうち、須恵器坏（761・762）を掲載した。いずれも底部回転糸切りである。

（2）竪穴住居状遺構

下川原 I で 3 基（S K I 01～03）、下川原 II で 4 基（S K I 101～104）検出した。

S K I 01 竪穴住居状遺構（第 87 図、写真図版 57）

B 2 区北側に位置する。IV 層で検出した。平面形は正方形で、開口部径は 2.05 × 1.81 m、深さ 0.27 m である。床面積は 3.07㎡である。床面に締まりはなく、凹凸が多い。埋土は黄褐色土ブロックを多く含む。

遺物 土師器坏、須恵器壺が計 176 g 出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

S K I 02 竪穴住居状遺構（第 87 図、写真図版 57）

D 4 区西側に位置する。IV 層で検出した。南側に S K I 03 が隣接する。平面形は長方形で、長軸方

2 検出遺構

向N—65°—E、西側の一部がやや外側へ張り出す。規模は、2.81 × 2.11 m、深さ0.41 mである。床面は平坦で、壁は外傾する。床面にピット1個（P1）を確認した。埋土は黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックをわずかに含む。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 土師器甕、須恵器坏が計35 g出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

SK I 03 竪穴住居状遺構（第87図、写真図版57）

D4区に西側に位置する。IV層で検出した。調査したのは北側で、南側は調査区外にある。北側にSK I 02が隣接する。平面形は不整形で、規模は、東西2.49 m、深さ0.40 mである。壁は床面から緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックをわずかに含む。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SK I 101 竪穴住居状遺構（第88図、写真図版58）

C10区南側に位置する。IV層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は長方形と推定され、長軸方向はN—51°—Wである。規模は、南北2.93 m、深さ0.51 mである。床面は平坦で、壁はやや外傾する。床面には貼床が施され、その上面は堅く締まる。埋土は黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックをわずかに含む。壁際には黒色土の三角堆積を確認した。

遺物（第145図、写真図版119）土師器甕4,980 gが出土した。すべてロクロ不使用の甕である。このうち、778・779を掲載した。778は大形、779は中形の甕である。

SK I 102 竪穴住居状遺構（第88図、写真図版59）

B5区北側に位置する。III層で検出した。平面形は正方形で、長軸方向はN—25°—E、規模は2.62 × 2.13 m、深さ0.34 mである。床面積は4.53㎡である。床面は平坦で、壁はやや外傾する。埋土は黒褐色土主体で、黄褐色土ブロックを少量含む。床面に締まりはなく、埋土と壁や床面の区別は困難である。

遺物（第144・153図、写真図版118・129）土師器坏、土師器甕、須恵器壺など計1,811 gが出土した。このうち、土師器坏（768）、土師器甕（769）、須恵器壺（770）を掲載した。768は底部回転糸切りで、内面に黒色処理が施される。769は大形の甕で、底部に木葉痕がある。

土器以外では、石製品（901）が出土した。用途は不明である。表面に2か所、裏面に1箇所凹みがある。

SK I 103 竪穴住居状遺構（第89図、写真図版59）

C8区北側に位置する。IV層で検出した。調査したのは東壁付近の一部で、西側の大半は調査区外にある。壁は直線的ではない。床面に締まりはなく、凹凸が激しい。東壁長は、2.90 m、深さ0.40 mである。埋土は黒褐色土主体で、炭化物・焼土ブロックを多く含む。出土遺物はない。

SK I 104 竪穴住居状遺構（第89図、写真図版60）

C10区南側に位置する。IV層で、不明瞭な方形プランとして検出した。わずかに掘り下げたところで、プランの中央付近に弱い焼土を確認した。この焼土の性格は不明であるが、この焼成面と同一レベルを竪穴部の床面とすれば、検出面がほぼ床面直上で、竪穴部の壁は削平により失われたということになる。床面に締まりは感じられない。焼土より下位は貼床土と捉えたが、貼床土とその下の掘り方面は、色調、堅さともほとんど区別がつかない。縁辺部が中心よりも深くなったため、竪穴に伴

う周溝と判断したが、掘り込みはごく浅く、埋土と底面の境界は不明瞭である。北東隅にはピット 2 基 (P 1・2) があり、礫が多量出土している。竪穴住居跡と判断する材料に欠けるため、竪穴住居状遺構としている。

遺物 (第 148 図、写真図版 123) 縄文土器、土師器坏、土師器甕、須恵器坏など計 697 g 出土した。このうちロクロかわらけ (809) を掲載した。809 は小形で底径が小さいものである。

(3) 柱穴状土坑群

小規模な土坑を一括して柱穴状土坑とした。下川原 I で 798 個 (P 1 ~ 832、途中欠番あり)、下川原 II で 134 個 (P 1001 ~ 1135、途中欠番あり) 確認した。これらの中には、掘立柱建物跡の柱穴と考えられるものや、柱穴以外の用途で構築されたものなど、様々なものを含むとみられるが、厳密な区別は困難である。性格を特定できたものはごく少ない。調査区が細長い範囲であったこともあり、建物の配列は十分に検討することができなかった。掘立柱建物跡と認定できたものは、D 4 区 S B 01 の 1 棟のみである。

柱穴状土坑の分布を概観すると、北側の下川原 I 範囲に多く、南側の下川原 II 範囲には少ない。下川原 I では、A 1 ~ A 3 区、B 1 ~ B 3 区、D 1 区 ~ D 2 区、D 3 ~ D 4 区など、粗密はあるもののほぼ全域に確認された。一方、下川原 II では、A 6 ~ A 7 区、C 7 ~ C 8 区にある程度の分布がみられたものの、まったく確認されない範囲の方が大きい。

中で特筆すべきものは、B 3 区南側に位置する柱穴群である。1 つ 1 つの規模が 60 ~ 70cm 前後と大きく、掘り込みも深い上、列状の配置である。さらに、大半のものから 12 世紀のかわらけや土壁が出土していることから、12 世紀の掘立柱建物跡と考えているが、調査区外に存在する柱穴を確認しなければ、建物の規模、構造など検討が難しいことから、本書では単に柱穴群として報告している。個別の位置、規模、出土遺物などについては、第 53 ~ 74 図、第 13 表を参照して頂きたい。

B 3 区南側柱穴群 (第 91 ~ 95 図、写真図版 61 ~ 63)

〔位置〕 B 3 区南側に位置する。掘立柱建物跡の一部とみられる柱穴群であり、計 31 個 (P 227 ~ 245・247・248・269 ~ 272・544・820 ~ 824) をここで一括する。

〔規模〕 開口部径 60 ~ 70cm、深さ 40 ~ 50cm のものが多い。比較的大きく、類似している。

〔配置〕 P 236・235・234・233・232・231・230・823・229・228・227・243・245 の 13 個は、南北方向に直線的に配列する。ただし、中間の P 233・232・231 は軸方向がずれるようであり、その点を考慮すれば、複数の建物に分割する可能性がある。関連する柱穴が、調査区外東側、西側のいずれに存在するかは定かではない。P 247・248・269 ~ 272 の 6 個は、南側にやや離れて位置する。

〔埋土〕 埋土断面を確認した限りでは、柱痕跡は見いだせない。かわらけ片のほか、焼土粒、壁土を多く含む。

〔関連遺構〕 S D 16 溝跡は、柱穴より新しい。S D 10 溝跡は、軸方向が柱穴列と直交し、底面に副穴を伴うことから、建物に伴う堀跡である可能性が高い。S D 11 溝跡でもかわらけが出土している。S D 10・11 は、軸方向が柱穴列とほぼ直交する。

遺物 (第 147 図、写真図版 61 ~ 63) 12 世紀かわらけが、P 227 ~ 229・231・232・234 ~ 239・241・242・269・270・272・824 で出土、土師器・須恵器が P 232・237・241・270・271 で出土、壁土が P 228・229・231・232・235・242・243・245 で出土した。P 242 では、ほぼ完形のかわらけ数点がまとまって出土し、出土総重量は 1,298 g である。壁土は P 228 で最も多く出土し、出土重量

937 gである。P 269・270では、小礫が底面上に出土した。

(4) 掘立柱建物跡

下川原 I で1棟 (S B 01) を確認した。

S B 01 掘立柱建物跡 (第 90 図、写真図版 34)

D 4 区に位置する。柱穴 5 個 (P 456・497・513・516・521) で構成される。桁行きの軸方向は N - 12° - E で、桁行き、梁行きとも 4.50 m で、プランは正方形、床面積は、20.25㎡となる。P 513 と P 516 の中間に P 521 が位置するが、P 456 と P 497 の間には対応する柱穴がない。

遺物 (第 154 図、写真図版 130) P 456 から寛永通寶 3 点 (659 ~ 661)、P 513 から寛永通寶 1 点 (662) が出土した。4 点とも寛永十三 (1636) 年初鑄の古寛永である。

(5) 土 坑

下川原 I で 31 基 (S K 01 ~ 04・08 ~ 34)、下川原 II で 30 基 (S K 101・103 ~ 105・108 ~ 111・113 ~ 134) 確認した。

S K 01 土坑 (第 96 図、写真図版 64)

A 2 区北側に位置する。IV 層で検出した。平面形は円形で、開口部径 0.81 × 0.71 m、深さ 0.43 m である。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S K 02 土坑 (第 96 図、写真図版 64)

A 2 区中央に位置する。IV 層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径は南北 1.38 m、深さ 0.69 m である。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 縄文土器、土師器甕、かわらけ手づくね小など計 51 g 出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

S K 03 土坑 (第 96 図、写真図版 64)

A 2 区南側に位置する。IV 層で検出した。S D 06 溝跡を切る。平面形は円形で、開口部径 1.71 × 1.49 m、深さ 0.73 m である。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 土師器坏、土師器甕、須恵器坏など計 158 g 出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

S K 04 土坑 (写真図版 64)

A 3 区北側に位置する。IV 層で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向 N - 60° - E、開口部径 0.96 × 0.70 m。調査のミスにより、検出プランの記録のみで、断面図の作成を行っていないが、写真から推定すると深さ 0.10 m 前後と思われる。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は

礫を多く含み、人為堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。

遺物 須恵器壺、手づくねかわらけ、ロクロかわらけなど計 216 g が出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

S K 08 土坑 (写真図版 64)

A 3 区北側に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向、開口部径 1.04 × 0.83 m、調査のミスにより、検出プランの記録のみで、断面図の作成を行っていないが、写真から推定すると深さ 0.10 m 程度と思われる。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 09 土坑 (第 96 図、写真図版 64)

A 3 区南側に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は楕円形で、開口部径 2.21 × 1.75 m、底面に段差があり、深さ 0.38 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は礫を多く含み、人為堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S K 10 土坑 (第 96 図、写真図版 64)

B 3 区北側に位置する。Ⅲ層で検出した。S K 16 土坑を切る。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は長方形と推定され、長軸方向 N - 65° - W、開口部径は南北が 1.00 m、深さ 0.41 m である。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 11 土坑 (第 96 図、写真図版 64)

B 2 区南側に位置する。Ⅳ層で検出した。南側を攪乱に切られる。平面形は円形で、開口部径 0.92 m、深さ 0.21 m である。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 12 土坑 (第 96 図、写真図版 65)

D 3 区中央に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は楕円形で、開口部径 0.97 × 0.92 m、深さ 0.32 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。

遺物 土師器坏、土師器甕など計 124 g が出土したが、いずれも小片であるため掲載していない。

S K 13 土坑 (第 96 図、写真図版 65)

D 3 区中央に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は円形で、開口部径 0.93 × 0.87 m、深さ 0.16 m である。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は黄褐色土ブロックを含み、人為堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 14 土坑 (第 97 図、写真図版 65)

D 3 区中央に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は長方形で、開口部径 1.02 × 0.60 m、深さ 0.13 m である。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、人為堆積とみられる。確認調査区

内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 15 土坑（第 97 図、写真図版 65）

D 4 区西側に位置する。IV層で検出した。調査したのは北側部分で、南側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径は東西 0.91 m、深さは 0.27 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 16 土坑（第 96 図、写真図版 64）

B 3 区北側に位置する。IV層で検出した。北側を S K 10 土坑に切られる。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は楕円形と推定され、南北 1.50 m 以上、深さは 0.46 m である。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 17 土坑（第 97 図、写真図版 65）

B 3 区中央に位置する。IV層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は不明で、深さは 0.68 m である。底面は大きな凹凸があり、壁は外傾する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 18 土坑（第 97 図、写真図版 65）

A 1 区南側に位置する。IV層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は楕円形と推定され、長軸方向、開口部径は南北 0.64 m、深さは 0.32 m である。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は焼土ブロック、炭化物を多く含む。出土遺物はない。

S K 19 土坑（第 97 図、写真図版 65）

A 1 区北側に位置する。IV層で検出した。平面形は円形で、開口部径 1.08 × 0.92 m、深さは 0.42 m である。底面と壁の境界は不明瞭で、最も深い中央部から緩やかに壁が立ち上がる。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 20 土坑（第 97 図、写真図版 65）

A 1 区南側に位置する。IV層で検出した。バックホーの掘削により、遺構の北側を精査前に破壊した。平面形は不明で、開口部径は東西 1.05 m、深さは 0.26 m である。底面と壁の境界は不明瞭で、最も深い中央部から緩やかに壁が立ち上がる。埋土は焼土ブロックや炭化物を多く含む。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 21 土坑（第 97 図）

D 1 区東側に位置する。IV層で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向 N - 0° - E、開口部径 0.95 × 0.75 m、深さは 0.18 m である。底面は凹凸があり、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。調査員のミスにより、遺構写真を撮影していない。出土遺物はない。

S K 22 土坑（第 97 図、写真図版 66）

D 1 区東側に位置する。IV 層で検出した。平面形は溝形で、長軸方向 N - 30° - E、開口部径 1.76 × 0.67 m、深さ 0.37 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 23 土坑（第 97 図、写真図版 66）

D 1 区中央に位置する。IV 層で検出した。平面形は円形で、開口部径 0.75 × 0.69 m、深さ 0.35 m である。壁は外傾する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 24 土坑（第 98 図、写真図版 66）

D 1 区西側に位置する。IV 層で検出した。平面形は円形で、開口部径 1.14 × 1.04 m、深さ 0.29 m である。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。底面に拳大の礫が散在する。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 25 土坑（第 98 図、写真図版 66）

D 1 区西側に位置する。IV 層で検出した。調査したのは北側部分で、南側は調査区外にある。平面形は不明で、開口部径は東西 1.38 m、深さ 0.35 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。底面にピット 1 個を確認した。埋土は焼土ブロック、炭化物を多く含む。出土遺物はない。

S K 26 土坑（第 98 図、写真図版 66）

D 1 区西側に位置する。IV 層で検出した。調査したのは南側部分で、北側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、深さ 0.68 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 27 土坑（第 98 図、写真図版 66）

D 2 区西側に位置する。IV 層で検出した。平面形は長方形で、長軸方向 N - 60° - W、開口部径 0.75 × 0.57 m、深さ 0.55 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。

遺物 土師器坏 4 g が出土した。小片であるため掲載していない。

S K 28 土坑（第 98 図、写真図版 67）

D 2 区中央に位置する。IV 層で検出した。東側を攪乱に切られる。平面形は円形で、開口部径 1.70 × 1.38 m、深さ 0.38 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。底面付近に焼土の広がりを確認した。

遺物（第 142 図、写真図版 116）縄文土器、土師器坏、土師器甕、須恵器坏など計 1,858 g 出土した。大半は底面にまとまった状態であった。このうち、土師器甕（469・470）、須恵器坏（471）を掲載した。469 は底面に木葉痕がみられる。471 は底部回転糸切りである。

S K 29 土坑 (第 98 図、写真図版 67)

D 2 区中央に位置する。Ⅳ層で検出した。西側を攪乱に切られる。平面形は歪な楕円形で、開口部径 2.72 × 1.66 m、深さ 0.24 m である。壁の立ち上がりは緩く、断面形は浅い皿状である。底面にはピット 3 個を確認した。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 30 土坑 (第 98 図、写真図版 67)

D 2 区西側に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は円形で、開口部径 0.99 × 0.89 m、深さ 0.27 m である。底面は平坦で、壁は開口部より外側へオーバーハングする。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。調査員のミスにより、断面写真は撮影していない。出土遺物はない。

S K 31 土坑 (第 98 図、写真図版 67)

D 2 区東側に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は円形で、開口部径 0.67 × 0.65 m、深さ 0.22 m である。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。
遺物 土師器甕 30 g が出土した。小片であるため掲載していない。

S K 32 土坑 (第 99 図、写真図版 67)

D 2 区中央に位置する。Ⅲ層で検出した。平面形は楕円形で、開口部径 2.38 × 1.91 m、深さ 0.24 m である。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、焼土粒を少量含む。埋土と壁の識別は難しく、焼土粒の混入を手掛かりとした。確認調査区内にあるため、精査は半裁で終了した。

遺物 (第 154 図、写真図版 130) 鉄製品 (658) が出土した。658 は板状でやや湾曲し、鍋の一部のようにも見受けられるが、詳細は不明である。X線写真では、孔? が確認できる。

S K 33 土坑 (第 99 図、写真図版 67)

D 2 区中央に位置する。Ⅲ層で検出した。平面形は円形で、開口部径 1.76 × 1.64 m、深さ 0.73 m である。底面は凹凸があり、壁はほぼ直立する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。埋土と壁の識別は難しい。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。

遺物 土師器坏 32 g が出土した。小片であるため掲載していない。

S K 34 土坑 (第 99 図、写真図版 67)

B 4 区北側に位置する。Ⅲ層で検出した。東側の一部が調査区外にある。平面形は楕円形で、長軸方向、開口部径 1.78 × 1.41 m、深さ 1.06 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。埋土最上位の検出面付近で白色粒を確認した。火葬骨片の可能性はある。埋土上位に黄褐色土ブロック、下位に焼土ブロックを多く含む層がある。調査員のミスにより、断面写真は撮影していない。

遺物 (第 142 図、写真図版 116) 土師器坏、土師器甕、須恵器坏など計 461 g が出土した。このうち土師器坏 (466) を掲載した。466 は、底部回転糸切りである。

S K 101 土坑 (第 100 図、写真図版 68)

C 7 区北側に位置する。Ⅳ層で検出した。S D 102 溝跡を切る。平面形は円形で、開口部径 1.85 × 1.61 m、深さ 1.18 m である。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K103 土坑（第100図、写真図版68）

C8区北側に位置する。IV層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径は南北0.81 m、深さ0.41 mである。底面は北側へ傾斜し、壁はやや外傾する。埋土は焼土ブロック、炭化物粒を含む。

遺物（第144図、写真図版118）土師器坏、土師器甕など計114 gが出土し、このうち土師器坏（772）を掲載した。772は、底部回転糸切りで、内面に黒色処理が施される。

S K104 土坑（第100図、写真図版68）

C8区中央に位置する。IV層で検出した。平面形は溝形で、長軸方向N、開口部径3.63 × 1.26 m、深さ0.57 mである。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S K105 土坑（第100図、写真図版68）

C8区南側に位置する。IV層で検出した。平面形は溝形で、長軸方向N、開口部径2.34 × 1.04 m、深さ0.35 mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K108 土坑（第100図、写真図版68）

A7区南側に位置する。IV層で検出した。平面形は円形で、開口部径1.00 × 0.91 m、深さ0.39 mである。底面は平坦で、壁は開口部より外側へ膨らむ。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K109 土坑（第100図、写真図版68）

A7区南側に位置する。IV層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径は南北1.48 m、深さ0.64 mである。底面は平坦で、壁は開口部より外側へやや膨らむ。フラスコ土坑の上位が削平された可能性がある。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。

遺物（第152図、写真図版128）縄文土器183 gが出土した。深鉢底部1点（702）を掲載した。

S K110 土坑（第101図、写真図版68）

D5区西側に位置する。IV層で検出した。調査したのは南端の一部で、北側の大半は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径は東西1.81 m、深さ0.80 mである。壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K111 土坑（第101図、写真図版69）

B6区南側に位置する。III層で検出した。調査したのは東側の一部で、西側は調査区外にある。開口部径は南北2.30 mである。表土除去時に礫のまとまりを確認し、これらを除去しながら掘り下げていったところ、地表面から1.50 m下げた所で、礫が放射状に配列する状況となった。埋土は大形の礫を多く含み、人為堆積とみられる。礫を取り上げながら掘り下げていったが、地表面から3.0 mの深さまで掘り下げた所で、これ以下の掘削は危険であるとの判断から、精査を中断した。本調査区

2 検出遺構

であるが、工事の掘削深度には至らないため、未精査部分はそのまま保存される。出土遺物はない。

S K 113 土坑（第 101 図、写真図版 68）

B 8 区中央に位置する。Ⅳ層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径は南北 1.77 m、深さ 0.66 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。埋土は黒褐色土主体で、人為堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 114 土坑（第 101 図、写真図版 70）

B 8 区中央に位置する。Ⅳ層で検出した。調査したのは西側部分で、東側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径は南北 1.92 m、深さ 0.60 m である。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は礫を多く含み、人為堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 115 土坑（第 102 図、写真図版 70）

B 8 区南側に位置する。Ⅳ層で検出した。S D 111 溝跡と重複するが、新旧関係は明らかではない。平面形は溝形で、長軸方向 N - 50° - E、開口部径 1.98 × 1.09 m、深さ 0.48 m である。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。

遺物 土師器坏 16 g が出土したが、小片であるため掲載していない。

S K 116 土坑（第 102 図、写真図版 70）

D 8 区中央に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は楕円形で、長軸方向、開口部径 2.07 × 1.37 m、深さ 0.55 m である。壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 117 土坑（第 102 図、写真図版 70）

A 8 区北側に位置する。Ⅲ層で検出した。平面形は円形で、開口部径 1.43 × 1.33 m、深さ 0.62 m である。底面は緩い凹凸があり、壁は直立する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 118 土坑（第 102 図、写真図版 70）

A 10 区西側に位置する。Ⅲ層で検出した。平面形は円形で、開口部径 1.77 × 1.48 m、深さ 0.83 m である。底面は平坦で、壁は開口部より外側へ膨らむ。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。最上位には洪水によるとみられる砂層が堆積する。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K 119 土坑（第 102 図、写真図版 70）

A 10 区西側に位置する。Ⅲ層で検出した。調査したのは北側部分で、南側の一部は調査区外にある。平面形は円形で、開口部径は東西 1.49 m、深さ 0.66 m である。底面は平坦で、壁は開口部より外側へ膨らむ。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。最上位には洪水によるとみられる砂層が堆積する。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K120 土坑（第102図、写真図版71）

A 10区西側に位置する。Ⅲ層で検出した。平面形は円形で、開口部径1.59×1.50 m、深さ0.59 mである。底面は平坦で、壁は開口部より外側へ膨らむ。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。最上位には洪水によるとみられる砂層が堆積する。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K121 土坑（第103図、写真図版71）

A 10区西側に位置する。Ⅲ層で検出した。平面形は円形で、開口部径1.74×1.67 m、深さ1.11 mである。底面は平坦で、壁は開口部より外側へ膨らむ。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。最上位には洪水によるとみられる砂層が堆積する。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K122 土坑（第103図、写真図版71）

A 10区西側に位置する。Ⅲ層で検出した。平面形は円形で、開口部径1.96×1.42 m、深さ1.05 mである。底面は平坦で、壁は開口部より外側へ膨らむ。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。最上位には洪水によるとみられる砂層が堆積する。確認調査区内にあるため、精査は半裁の状態を終了した。出土遺物はない。

S K123 土坑（第103図、写真図版71）

A 10区西側に位置する。Ⅲ層で検出した。調査したのは南側部分で、北側は調査区外にある。平面形は円形で、開口部径は南北1.31 m、深さ0.69 mである。底面は平坦で、壁は開口部より外側へ膨らむ。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。最上位には洪水によるとみられる砂層が堆積する。出土遺物はない。

S K124 土坑（第103図、写真図版72）

D 9区東側に位置する。Ⅲ層で検出した。検出時、ブランの周縁部に赤味がかかった焼けの範囲が確認できた。平面形は、南側が円く、北側が尖った形状である。開口部径1.12×0.74 m、深さ0.24 mである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、土器片と炭化物粒を少量含む。底面には割れた状態の土器がまとまって出土した。底面中央、土器の下には僅かであるが炭の広がりを確認した。開口部は、埋土と壁の識別が困難で、北側は掘り過ぎた可能性がある。南東側は焼けが顕著であり堅く締まっていたが、その他の部分はそれほど焼けてはいない。表土除去時に上位を削平してしまった可能性がある。

遺物（第149図、写真図版124）手づくねかわらけ大、手づくねかわらけ小が、計3,502 g出土した。このうち、手づくねかわらけ大（810～819）、手づくねかわらけ小（820～834）を掲載した。手づくねかわらけ大は、810・811が2段ナデ、812が2～3段ナデ、813～819が3段ナデである。口唇部の面取りは、810のみ確認できた。手づくねかわらけ小は、820が1段ナデ、821～825が2段ナデ、826～834が3段ナデである。

S K125 土坑（第104図、写真図版73）

C 9区北側に位置する。Ⅳ層で検出した。平面形は溝形で、長軸方向N-25°-W、開口部径3.50

2 検出遺構

× 1.29 m、深さ 0.58 m である。底面は凹凸があり、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 126 土坑（第 104 図、写真図版 73）

C 9 区に位置する。IV 層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径は南北 2.22 m、深さ 0.80 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 127 土坑（第 104 図、写真図版 73）

C 10 区中央に位置する。IV 層で検出した。平面形は円形で、開口部径 1.38 × 1.30 m、深さ 0.46 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。壁面と底面は、砂と粘土を練り混ぜたものを全体に貼り付けた状態で、移植べらやスコップでも壊れないほど堅緻である。埋土は黄褐色土ブロックや礫を多く含み、人為的な埋め戻しとみられる。埋土中位からビール瓶が出土した。「DAI NIPPON BEER」と表示がある。

S K 128 土坑（第 104 図、写真図版 73）

C 10 区南端に位置する。IV 層で検出した。調査したのは西側部分で、東側は調査区外にある。平面形は円形と推定され、開口部径南北 2.05m、深さ 0.97 m である。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。

遺物（第 145 図、写真図版 73）土師器坏、土師器甕など計 488 g 出土し、このうち土師器長胴甕（776）を掲載した。

S K 129 土坑（第 104 図、写真図版 73）

C 10 区南側に位置する。IV 層で検出した。平面形は円形で、開口部径 1.24 × 1.15 m、深さ 0.21 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S K 130 土坑（第 104 図、写真図版 74）

C 10 区南側に位置する。IV 層で検出した。調査したのは東側部分で、西側は調査区外にある。平面形は長方形と推定され、開口部径は、短軸と思われる南北が 1.19 m、深さ 0.31 m である。底面は平坦で、壁はやや外傾する。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。

遺物（第 152 図、写真図版 128）縄文土器が 138 g 出土した。このうち、鉢（707）、壺（708・709）を掲載した。

S K 131 土坑（第 105 図、写真図版 75）

C 10 区南側に位置する。IV 層で検出した。北側の埋土上面において S N 102 焼土を確認しており、S K 131 の埋没後に焼成されたとみられる。平面形は長方形を基調とし、東側の一部が膨らむ。長軸方向 N、開口部径 2.39 × 1.49 m、深さ 0.37 m である。底面は凹凸が多く、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。埋土と壁の識別が難しく、一部は掘り過ぎた可能性がある。出土遺物はない。

S K 132 土坑 (第 105 図、写真図版 74)

C 10 区南側に位置する。IV 層で検出した。平面形は長方形で、長軸方向 N - 30° - E、開口部径 1.99 × 1.29 m、深さ 0.57 m である。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。南西側の底面からやや浮いた位置に焼土のまとまりを確認した。

遺物 (第 155 図、写真図版 131) 土師器甕 29 g と、錫杖状鉄製品 (951 ~ 956) が出土した。951 と 953 は、接合する同一個体であることが後に判明した。実測図は接合したものを掲載したが、写真は別々に撮影している。主体部は棒状で、一端が細く、一端が広くなり、広い方の末端は枝分かかれし 2 つのリング状となる。広い方の部分に、短い管状の部品が複数付く。954 ~ 956 も、上記 2 点、もしくは同一製品の部品のようなものである。

S K 133 土坑 (第 105 図、写真図版 74)

C 10 区南側に位置する。IV 層で検出した。平面形は方形で、開口部径 1.47 × 1.37 m、深さ 0.81 m である。底面は平坦で、壁はほぼ直立する。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。

遺物 (第 145・155 図、写真図版 119・131) 縄文土器、土師器坏、土師器甕など計 383 g 出土した。このうち土師器坏 (777) を掲載した。777 は、底部回転糸切りである。土器以外に、鋤先 (957) が出土した。

S K 134 土坑 (第 105 図、写真図版 74)

C 10 区南側に位置する。IV 層で検出した。平面形は円形で、開口部径 1.17 × 1.07 m、深さ 0.64 m である。底面と壁の境界は不明瞭で、中央部からやや急角度に壁が立ち上がる。埋土は中位に大量の礫を含み、人為堆積とみられる。

遺物 (第 155 図、写真図版 131) 縄文土器、土師器坏、土師器甕、須恵器坏など計 749 g が出土した。いずれも小片であるため掲載していない。土器以外に、紡錘車 (958) が出土した。軸部は残存せず、円盤部のみである。

(6) 陥し穴状土坑

縄文時代の陥し穴と考えられる溝状土坑を一括した。下川原 I では、17 基 (S K T 01 ~ 17)、下川原 II では 25 基 (S K T 101 ~ 125) 確認している。紙数の都合により、個別の記述は省略する。位置、長軸方向、規模などは第 10 表に示した。図版は第 106 ~ 112 図、写真は写真図版 79 ~ 88 を参照して頂きたい。

遺構全体を完掘調査したものは少なく、3 基 (S K T 106・107・115) のみである。長軸径が最大のものは、S K T 106 (4.10 m) である。分布に関しては、傾向は見いだせない。

遺物が出土したのは、S K T 10 (縄文土器 90 g)、S K T 116 (土師器鉢? 212 g)、S K T 125 (縄文土器 15 g) である。S K T 116 出土の土器は、S N 102 出土土器と接合した。

(7) 溝 跡

下川原 I で 33 条 (S D 01・04・06 ~ 08・10 ~ 17・19 ~ 37)、下川原 II で 14 条 (S D 101 ~ 106・108 ~ 115) 確認した。全体を確認できたものは 1 つもない。別遺構として登録したものが調査区外でつながる可能性もある。

S D 15 と S D 28 は、別遺構として報告しているが、方向や規模から同一遺構の可能性が高いと考えられる。S D 17 と S D 19 は、形状・規模から同一遺構の可能性が高いと考えられる。

S D 01 溝跡（第 113 図、写真図版 89）

A 2 区と A 3 区の境界付近に位置する。Ⅲ層、Ⅳ層で検出した。南北方向に延びるが、北端、南端とも西側へカーブし調査区外へ続くため、全体の形状は不明である。開口部幅は 3.34 m、深さ 0.58 m である。東側の斜面部にはⅣ層起源とみられる黄褐色土の堆積がみられ、S D 01 の掘削土を落とした可能性がある。底面は平坦で、壁は外傾する。埋土は黒褐色土主体であるが、中位に黄褐色土層があり、人為堆積とみられる。底面はⅤ層礫層まで掘り込まれる。南側の A 3 区部分では、埋土上位に炭化物、焼土の広がりを確認し、付近から鉄製品が出土した。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物（第 150・154 図、写真図版 125・126・130）珠洲産陶器壺（556）、常滑産陶器三筋壺（557）、常滑産陶器甕（558）、渥美産陶器甕（559）などの陶器類が出土した。これらはすべて 12 世紀に属する。この他に鉄製品の釘？（651・652）、雁又鏃（653）が、埋土上面で出土している。さらに、土師器坏、土師器甕、須恵器壺なども計 214 g が出土しているが、これらは小片であるため掲載していない。

S D 04 溝跡（第 113 図、写真図版 90）

A 3 区北側に位置する。Ⅳ層で検出した。南北方向に延びるが、北端、南端とも東側へカーブし調査区外へ続くため、全体の形状は不明である。開口部幅は最大で 3.53 m、深さ 0.48 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。北側に小ピットを複数確認した。埋土は黒色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 土師器坏、土師器甕など計 83 g 出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

S D 06 溝跡（第 113 図、写真図版 90）

A 2 区南側に位置する。Ⅳ層で検出した。東側へカーブし、末端は細くなり調査区内で途切れる。西側は調査区外にある。S K 03 に南端部を切られる。開口部幅は最大で 0.84 m、深さ 0.27 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は、焼土や炭化物のブロックを多く含む。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物（第 131 図、写真図版 115）土師器坏、土師器甕、須恵器坏など計 330 g 出土した。このうち土師器坏（356）を掲載した。356 は底部回転糸切りで、内面に黒色処理が施される。

S D 07 溝跡（第 114 図、写真図版 90）

A 2 区南側に位置する。すぐ北側に S D 08 が並行する。東西方向に延び、東側は調査区内で途切れる。西側は、調査区外に伸びる。開口部幅は最大で 0.74 m、深さ 0.49 m である。断面形は半円形である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D 08 溝跡（第 114 図、写真図版 90）

A 2 区南側に位置する。すぐ南側に S D 07 が並行する。東西方向に延び、東側は調査区内で途切れる。西側は、調査区外に延びる。開口部幅は最大で 0.62 m、深さ 0.27 m である。断面形は半円形である。

埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SD10 溝跡 (第 114 図、写真図版 91)

B 3 区南側に位置する。Ⅲ層で検出した。東西方向に延び、西側、東側とも調査区外へ続く。SD 10 溝跡と SD 11 溝跡が南北に並行する。開口部幅は最大で 0.42 m、深さ 0.57 m である。壁はやや外傾する。底面に小穴が 9 個確認された。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。掘立柱建物に伴う堀跡の可能性が高いとみられる。出土遺物はない。

SD11 溝跡 (第 114 図、写真図版 92)

B 3 区南側に位置する。Ⅲ層で検出した。東西方向に延び、東側は調査区内で途切れる。西側は調査区外へ続く。SD 10 溝跡と SD 11 溝跡が南北に並行する。開口部幅は最大で 0.59 m、深さ 0.46 m である。壁の立ち上がりは急角度である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。

遺物 (第 148 図、写真図版 122) かわらけ 1,344 g が出土した。このうちロクロかわらけ小 (516・517)、手づくねかわらけ大 (518)、手づくねかわらけ小 (519・520) を掲載した。518～520 はいずれも 2 段ナデで、口唇部の面取りはない。518 と 520 は埋土上位に並んだ状態で出土した。

SD 12 溝跡 (第 115 図、写真図版 93)

B 2 区南側に位置する。Ⅲ層で検出した。東西方向に延び、東側、西側とも調査区外へ続く。SD 12～14 は南北に並行する。開口部幅は最大で 0.73 m、深さ 0.58 m である。壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。

遺物 須恵器壺、手づくねかわらけ、ロクロかわらけなど計 256 g 出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

SD13 溝跡 (第 115 図、写真図版 93)

B 2 区南側に位置する。Ⅲ層で検出した。東西方向に延び、東側、西側とも調査区外へ続く。SD 12～14 は南北に並行する。開口部幅は最大で 0.72 m、深さ 0.29 m である。壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。

遺物 土師器甕、ロクロかわらけ大など計 87 g 出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

SD14 溝跡 (第 115 図、写真図版 93)

B 2 区南側に位置する。Ⅲ層で検出した。東西方向に延び、東側、西側とも調査区外へ続く。SD 12～14 は南北に並行する。開口部幅は最大で 0.70 m、深さ 0.18 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。

遺物 土師器坏、須恵器坏など計 17 g 出土した。いずれも小片であるため掲載していない。

SD15 溝跡 (第 114 図)

B 2 区北側に位置する。Ⅳ層で検出した。S I 02 の南隅を切る。東西方向に延び、東側は調査区外へ続く。西側は、D 1 区で検出した SD 28 と接続する可能性がある。開口部幅は最大で 0.45 m、深さ 0.30 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。

出土遺物はない。

S D 16 溝跡（第 114 図、写真図版 94）

B 3 区南側に位置する。Ⅲ層で検出した。東西方向に延び、西側、東側とも調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.60 m、深さ 0.47 m である。壁はやや外傾する。埋土は焼土粒、土器片を多く含む。

遺物 ロクロかわらけ大が 357 g 出土した。小片であるため掲載していない。

S D 17 溝跡（第 116 図、写真図版 95）

D 3 区、B 3 区南側に位置する。Ⅳ層で検出した。東西方向へ延び、西側は南へカーブする。西側、東側とも調査区外へ続く。S D 17 と S D 19 は、規模や形状・埋土の状況から、同一遺構の可能性がある。開口部幅は最大で 2.10 m、深さ 1.04 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急角度である。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 ロクロかわらけ大が 86 g 出土した。小片であるため掲載していない。

S D 19 溝跡（第 116 図、写真図版 96）

D 4 区西側に位置する。Ⅳ層で検出した。S D 20 溝跡が重複する。南北方向に延びるが、東側で T 字状に分岐する。重複の可能性を考え、分岐点付近に断面を設定し堆積状況を観察したが、重複と言えるような立ち上がりの線は確認できなかった。S D 17 と S D 19 は、規模や形状・埋土の状況から、同一遺構の可能性がある。開口部幅は最大で 1.55 m、深さ 0.67 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急角度である。埋土は黄褐色土ブロックを多く含み、人為堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D 20 溝跡（第 116 図）

D 4 区西側に位置する。Ⅳ層で検出した。西側はカーブし調査区外へ続く。東側は S D 19 溝跡に重複する。開口部幅は最大で 0.98 m、深さ 0.23 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。調査員のミスにより、断面写真は撮影していない。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 土師器坏が 21 g 出土した。小片であるため掲載していない。

S D 21 溝跡（第 115 図）

D 4 区東側に位置する。Ⅳ層で検出した。「L」字に折れ曲がり、東側と西側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.41 m、深さ 0.56 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は暗褐色土主体で、自然堆積とみられる。調査員のミスにより、断面写真は撮影していない。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D 22 溝跡（第 117 図）

B 1 区中央に位置する。Ⅳ層で検出した。東西方向に延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.29 m、深さ 0.13 m である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出

土遺物はない。

SD23 溝跡（第 117 図、写真図版 96）

A 1 区北側に位置する。IV 層で検出した。南北方向に延び、北側は調査区内で途切れる。南側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 1.15 m、深さ 0.76 m である。断面形は半円形である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SD24 溝跡（第 118 図、写真図版 97）

D 1 区東側に位置する。IV 層で検出した。北東から南西方向へ延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 1.04 m、深さ 0.17 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。SD 24 と SD 25 が並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SD25 溝跡（第 118 図、写真図版 97）

D 1 区東側に位置する。IV 層で検出した。北東から南西方向へ延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 1.49 m、深さ 0.28 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。SD 24 と SD 25 が並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SD26 溝跡（第 120 図、写真図版 97）

D 1 区中央に位置する。IV 層で検出した。北東から南西方向へ、直線的に延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.63 m、深さ 0.34 m である。壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。SD 26 と SD 29 が並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SD27 溝跡（第 118 図、写真図版 97）

D 1 区東側に位置する。IV 層で検出した。東西方向に延び、東側は調査区内で途切れ、西側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.38 m、深さ 0.23 m である。断面形は半円形である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SD 28 溝跡（第 118 図）

D 1 区東側に位置する。IV 層で検出した。東西方向へ延び、西側は調査区内で途切れる。東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.50 m、深さ 0.11 m である。断面形は半円形である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。位置関係と形状・規模から、SD 15 と同一遺構の可能性がある。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SD29 溝跡（第 120 図、写真図版 97）

D 1 区中央に位置する。IV 層で検出した。北東から南西方向へ、直線的に延び、西側と東側は調査

2 検出遺構

区外へ続く。開口部幅は最大で1.02 m、深さ0.33 mである。壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。S D 26 と S D 29 が並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 縄文土器、土師器坏、土師器甕が計115 g出土した。小片であるため掲載していない。

S D 30 溝跡 (第 119 図、写真図版 98)

B 1 区南側、D 2 区西側に位置する。IV層で検出した。北西から南東方向へ延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で0.73 m、深さ0.44 mである。壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。S D 30・31・32 が並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 (第 148 図、写真図版 122) ロクロかわらけ小1点 (521、72 g) が出土した。

S D 31 溝跡 (第 119 図、写真図版 98)

B 1 区南側、D 2 区西側に位置する。IV層で検出した。北西から南東方向へ延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で1.15 m、深さ0.53 mである。壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。S D 30・31・32 が並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 (第 150 図、写真図版 126) 須恵器坏 93 g と陶器甕 (566) が出土した。

S D 32 溝跡 (第 119 図、写真図版 98)

B 1 区南側、D 2 区西側に位置する。IV層で検出した。北西から南東方向へ延び、西側は調査区内で途切れ、東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で1.78 m、深さ0.30 mである。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。S D 30・31・32 が並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D 33 溝跡 (第 120 図、写真図版 98)

D 2 区西側に位置する。IV層で検出した。南北方向へ延び、北側と南側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で0.90 m、深さ0.59 mである。断面形は台形で、壁の立ち上がりは急角度である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。S D 33 と S D 34 は、やや距離をおいて並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D 34 溝跡 (第 120 図、写真図版 98)

D 2 区西側に位置する。IV層で検出した。南北方向へ延び、北側と南側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で1.03 m、深さ0.49 mである。断面形は台形で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。S D 33 と S D 34 は、やや距離をおいて並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D 35 溝跡 (第 121 図、写真図版 101)

B 4 区中央に位置する。IV層で検出した。東西方向に延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で0.61 m、深さ0.31 mである。断面形は台形で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は

黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

SD36 溝跡 (第 121 図、写真図版 99)

C 4 区北側に位置する。IV 層で検出した。東西方向に延び、西側は斜面で途切れ、東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 1.35 m、深さ 0.90 m である。断面形は半円形で、壁の立ち上がりは急角度である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。西端のみ本調査を行い、東側は検出までで精査を終了した。出土遺物はない。

SD37 溝跡 (第 121 図、写真図版 99)

C 4 区北側に位置する。IV 層で検出した。北西から南東方向に延び、西側は斜面で途切れ、東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.38 m、深さ 0.23 m である。断面形は半円形で、壁の立ち上がりは急角度である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。西端のみ本調査を行い、東側は検出までで精査を終了した。

遺物 縄文土器が計 65 g 出土した。小片であるため掲載していない。

SD101 溝跡 (第 122 図、写真図版 100)

C 7 区北側に位置する。IV 層で検出した。東西方向に延び、西側と東側は調査区外へ続く。溝跡の両岸は直線的ではなく、かなり歪である。開口部幅は最大で 2.23 m、深さ 0.51 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。SD 101 と SD 102 溝跡は、隣接して並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 土師器甕が計 69 g 出土した。小片であるため掲載していない。

SD102 溝跡 (第 122 図、写真図版 100)

C 7 区北側に位置する。IV 層で検出した。SK 101 土坑に東側を切られる。東西方向に延び、西側と東側は調査区外へ続く。溝跡の両岸は直線的ではなく、かなり歪である。開口部幅は最大で 2.10 m、深さ 0.51 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。SD 101 と SD 102 溝跡は、隣接して並行する。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。

遺物 土師器甕が計 100 g 出土した。小片であるため掲載していない。

SD103 溝跡 (第 122 図、写真図版 100)

C 7 区中央に位置する。IV 層で検出した。東西方向に延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 1.41 m、深さ 0.27 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

SD104 溝跡 (第 123 図、写真図版 100)

C 7、C 8 区に位置する。IV 層で検出した。中央付近で「T」字状に分岐する。開口部幅は最大で 1.65 m、深さ 0.16 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D105 溝跡（第 123 図、写真図版 101）

C 8 区南側に位置する。IV層で検出した。東西方向に延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 1.08 m、深さ 0.35 m である。断面形は台形で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D106 溝跡（第 123 図、写真図版 101）

C 9 区北側に位置する。IV層で検出した。東西方向に延び、東側は調査区内で途切れ、西側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 4.70 m、深さ 0.65 m である。壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。確認調査区内にあるため、精査はトレンチのみで終了した。出土遺物はない。

S D108 溝跡（第 124 図、写真図版 101）

D 5 区西側に位置する。IV層で検出した。南北方向に延び、北側と南側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.92 m、深さ 0.42 m である。断面形は半円形で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S D109 溝跡（第 124 図、写真図版 102）

B 5 区南側に位置する。IV層で検出した。東西方向へ延び、西側は調査区内で途切れ、東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.93 m、深さ 0.39 m である。断面形は半円形で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S D110 溝跡（第 124 図、写真図版 102）

B 7 区北側に位置する。IV層で検出した。東側へカーブし、両端とも調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.64 m、深さ 0.69 m である。断面形は台形で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。円形周溝のようにも見える。出土遺物はない。

遺物（第 148 図、写真図版 123）土師器坏、かわらけが計 240 g 出土した。台付きかわらけ（808）を掲載した。

S D111 溝跡（第 124 図、写真図版 102）

B 8 区南側に位置する。IV層で検出した。S K 115 土坑に切られる。東西方向に延び、西側と東側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 0.85 m、深さ 0.43 m である。断面形は半円形で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

S D112 溝跡（第 125 図）

D 8 区中央に位置する。IV層で検出した。南北方向に延び、東側へややカーブしている。北側と南側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で 1.20 m、深さ 0.30 m である。断面形は半円形で、壁の立ち上がりはやや急である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。調査員のミスにより、遺構写真を撮影していない。出土遺物はない。

SD113 溝跡 (第125図、写真図版103)

C10区南端に位置する。IV層で検出した。北西から南東方向に延び、北側と南側は調査区外へ続く。西側は、第1次調査の8号溝跡と接続する可能性がある。開口部幅は最大で1.51m、深さ0.94mである。壁の立ち上がりは、底面付近が急角度で、開口部付近は緩やかであり、階段状とも言える。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

SD114 溝跡 (第125図、写真図版103)

C9区中央に位置する。IV層で検出した。南北方向に直線状に延び、北側は調査区内途切れ、南側は調査区外へ続く。開口部幅は最大で0.51m、深さ0.19mである。断面形は半円形で、壁の立ち上がりは緩やかである。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

SD115 溝跡 (第125図、写真図版103)

C10区中央に位置する。IV層で検出した。東西方向へ直線状に延び、西側と東側は調査区外へ続く。SI105 竪穴住居跡の北側を切る。開口部幅は最大で0.47m、深さ0.29mである。断面形は台形で、壁の立ち上がりは急角度である。埋土は黒褐色土主体で、自然堆積とみられる。出土遺物はない。

(8) 焼 土

下川原Iで12基(SN01～12)、下川原IIで2基(SN101・102)確認した。

SN01 焼土 (第126図)

A4区北側に位置する。円形と推定され、規模は、東西0.81m、焼成深度は0.08mである。バックホーで入れたトレンチにより、北側を調査前に破壊してしまったため、南北径は不明である。調査員のミスにより、写真は撮影していない。

SN02～SN12 焼土群 (第126～128図、写真図版76)

D2区西側に位置する。いずれも浅い掘り込みを持ち、その底面が焼けている。焼成面の上に、ブロック状の焼土を多く含む層があり、その上面が堅く締まっている。この上面が使用時の面であった可能性もある。計測値等は第11表に示した。

SN101 焼土 (第129図、写真図版77)

A10区南側に位置する。IV層で検出した。円形で、焼成面は直径0.99×0.96m、深さ0.11mである。竪穴住居跡内の焼土である可能性を想定したが、周辺にその痕跡は確認できなかった。

遺物(第146図、写真図版120) 焼成面の直上と周辺部で、土器561gが出土した。土師器坏(780)、土師器甕(781)を掲載した。780は底部回転糸切りである。781は中形の甕である。

SN102 焼土 (第129図、写真図版75)

C10区南側に位置する。SK131の埋土上面に形成される。粗掘り時点で礫を検出しており、竪穴住居跡のカマドの可能性があるとみて精査を行ったが、その痕跡は確認できなかった。焼成面の直上に、大量の土器、礫を確認している。焼成部は、直径0.49×0.48m、焼成深度0.80mである。

遺物(第146・155図、写真図版120・131) 焼成面の直上と周辺部で、土師器甕6,267gが出土した。

このうち土師器長胴甕(782～785)、土師器鉢(786)を掲載した。786は特殊な器形である。土器以外に、鉄製金具(960)が出土した。960は長方形の薄い板状で、中央と左右に計3か所穴がある。

(9) その他

S X 01 畝間状遺構 (第130図、写真図版78)

D 2区に位置する。Ⅳ層で検出した。数条の溝跡が平行に並ぶのが確認された。溝の幅は0.30 m、溝と溝の間の幅は0.30 m程度である。調査区境にトレンチを入れ、断面を確認した。溝状の部分は、黄褐色土ブロックを多く含む土である。隣接する6箇所(6箇所)の土壌サンプル採取を行い、プラントオパール分析を行った結果、イネ等が検出された。出土遺物はない。

S X 02 遺物包含層 (第69図、写真図版32)

A 3区中央に位置する。調査したのは5×7 mの範囲で、調査区外北側、南側に連続するとみられる。表土を除去した後、グライ化した土壌が現れ、ここから大量の土器が出土した。土器とともに、炭化物が出土している。調査区境にトレンチを入れたところ、すぐ下から湧水がみられた。掘り込みの痕跡は確認されなかった。地形は、東側の調査区外へ向かって傾斜している。

遺物(第132～135図、写真図版105～109)土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器甕など計16,403 gが出土した。このうち、土師器坏(367～384)、土師器甕(385～398)、土師器小形土器(399・400)、須恵器坏(401～416)、須恵器壺(417・418)、須恵器大甕(419)を掲載した。土師器坏のうち、367～369・384は内面に黒色処理が施される。384は台付きである。底部の切り離し技法は、367・382が回転糸切り、368・369・383が再調整、370～381が回転ヘラ切りである。土師器甕は、385～393が大形、394～398が中形である。386・387は内面に黒色処理が施される。389～391・397は底面に木葉痕がみられ、388は砂底である。399は壺形である。400は台部としているが、口縁部の可能性もある。須恵器坏の底部切り離しは、401～409が回転ヘラ切り、410～413が回転糸切り、414～416がケズリやナデによる再調整である。須恵器大甕419は、口縁部に数条の波状文が施される。

S X 106 土器埋設遺構 (第130図、写真図版77)

C 9区南側に位置する。Ⅲ層上面で検出した。土師器甕が逆位に埋設されている。甕の内部から、坏が出土した。意図的に埋納した可能性がある。掘り方は、開口部径0.48 m×0.48 m、深さ0.30 mで、埋設された甕より一回り大きい程度である。Ⅳ層上面は、西側の滝名川へ向かって下がり、その上にⅢ層黒色土が堆積する。

遺物(第145図、写真図版119)土師器甕、土師器坏など計2,839 gが出土した。このうち、土師器坏(773)、土師器長胴甕(774)、須恵器坏(775)を掲載した。773・775はいずれも底部回転糸切りである。

3 出土遺物

遺構内出土、遺構外出土を問わず、遺物種別に沿って概要を簡単に記す。遺物種別毎の観察表は第 15～20 表である。出土地点別の出土遺物と土器重量は、第 5～13 表（遺構観察表）に示してある。確認調査区内で精査を途中で止めたものや、遺構の一部が調査区外へ続くものもあるため、遺構内全体の遺物包含量を示すものではない。遺構外出土遺物は区域毎に第 14 表に示した。遺物図版は第 131～155 図、遺物写真は写真図版 104～131 である。

(1) 土師器・須恵器（第 15 表、第 131～146 図、写真図版 104～120）

土師器・須恵器は、調査区全体で 91,798 g 出土した。最も出土量が多いのは、S X 02 (16,403 g) で、次いで S I 05 (12,843 g)、S I 02 (10,790 g) である。土坑で出土量が多いのは S K 28 (1,843 g) である。

掲載したのは、土師器 121 点、須恵器 37 点の計 158 点（掲載番号 351～471・751～787）で、重量は 46,823 g である。重量による掲載率は、約 51% となる。

器種は、土師器坏 60 点、土師器甕 59 点、土師器鉢 1 点、土師器小形 2 点、須恵器坏 28 点、須恵器壺 7 点、須恵器大甕 1 点である。

土師器坏は、すべてロクロ使用である。ロクロ不使用のものは不掲載分も含め出土していない。

土師器坏は、内面に黒色処理されるもの 17 点、黒色処理されないもの 43 点である。外面に黒色処理されたものは不掲載分を含めて出土していない。

土師器坏の底部切り離し技法は、回転ヘラ切り 18 点、回転糸切り 32 点、ケズリ・ナデなど再調整されたもの 9 点、不明 1 点である。

須恵器坏の底部切り離し技法は、回転ヘラ切り 12 点、回転糸切り 12 点、再調整 3 点、不明 1 点である。

高台を持つ坏は、土師器 3 点 (363・364・384)、須恵器坏 1 点 (442) である。

墨書のある坏は、土師器 3 点 (360・362・429)、須恵器 3 点 (403・404・406) である。

刻書・線刻のある坏は、土師器 2 点 (423・372)、須恵器 1 点 (471) である。

土師器甕は、ロクロ不使用 54 点、ロクロ使用 5 点で、不掲載分を含めてもロクロ使用は極めて少ない。土師器甕のうち、砂底のものが 3 点 (388・464・756)、底面に木葉痕のあるものが 11 点ある。459・467 の 2 点は、木葉痕の上に砂が付着している。

小形土師器は 2 点 (399・400) 出土している。399 は口縁部を欠損しているが、壺形などの器形が想像される。400 は台部として表現したが、口縁部の可能性もある。

須恵器壺は 7 点 (366・417・418・443・465・760・770) のうち、366・465・770 は台部が付き、同一の器形が想像される。417・418 は広口、443 は短頸、760 は小形の壺である。

遺構間接合を確認したのは 5 例で、431 (S I 02 と S I 05)、457 (S I 05 と S I 06)、470 (S K 28 と S K 29)、784 (S N 102 と S K 133)、786 (S N 102 と S K T 116) である。

(2) 中世土器（第 16 表、第 147～149 図、写真図版 122～124）

12 世紀のかわらけは、調査区全体で 8,999 g 出土した。掲載したのは 55 点（掲載番号 501～521・801～834）で、重量は 5,120 g、重量での掲載率は約 57% である。

器種は、ロクロ大 12 点、ロクロ小 10 点、ロクロ碗 2 点 (801・802)、ロクロ台付 1 点 (808)、手づくね大 11 点、手づくね小 19 点である。

出土量が最も多いのは S K 124 (2,241 g) で、次いで S D 11 (1,311 g)、P 242 (1,298 g) である。D 9 区の S K 124 で出土したものはすべて手づくねかわらけである。碗 801・802 は B 6 区遺構外で出土した。台付の 808 は B 7 区 S D 110 溝跡で出土した。

(3) 陶磁器 (第 17 表、第 150 図、写真図版 125・126)

18 点 (551～566・851・852) 出土し、出土したものすべてを掲載した。掲載番号は出土地点別で、以下の説明は器種ごとに行うことから番号が前後する。

器種は、中国産の白磁碗 1 点 (561)、白磁壺類 1 点 (560)、青磁碗 2 点 (554・561)、国産の陶器壺 8 点 (552・553・556・557・564～566・851)、陶器甕 4 点 (555・558・559・563)、陶器片口鉢 1 点 (562)、陶器播鉢 1 点 (852) である。

551 は中国産の白磁碗である。560 は中国産の白磁壺類である。小片のため断定はできないが、白磁四耳壺、もしくは水注などの可能性がある。

552・553・556・557・564～566・851 は陶器壺である。552 は渥美産、553・557・564・565 は常滑産、566 は中国産とみられる。557 は三筋壺とみられる。556・851 は須恵器系陶器で、珠洲産とみられる。556 は壺の底部で、外面下位には回転ケズリ、底面は静止糸切り後にケズリが施される。851 は大甕で、外面に押印文が施される。

555・558・559・563 は陶器甕である。555・558 は常滑産、559・563 は渥美産とみられる。

554・561 は中国産で、竜泉窯系の青磁碗である。いずれも口縁部付近の小片である。554 は端反である。561 は雷文が施される。15 世紀頃のものともみられる。

852 は在地産の陶器播鉢で、口縁部付近に突帯が巡る。19 世紀頃のものである。

出土遺構は、S D 01 (556～559)、S D 16 (565)、S D 31 (566) で、他は遺構外出土で、A 1～A 3 区が多い。S D 16 では 12 世紀のかわらけ (不掲載) が出土している。

(4) 金属製品 (第 20 表、第 154・155 図、写真図版 130・131)

21 点 (651～662・951～960、951 と 953 は同一個体) 出土した。出土品は全点掲載した。

器種は、釘 2 点 (651・652)、鉄鎌 1 点 (653)、小刀 2 点 (654・657)、刀子 1 点 (655)、寛永通寶 4 点 (659～662)、鋤先 1 点 (957)、紡錘車 1 点 (958)、金具 1 点 (960)、不明 8 点 (656・658・951～956・959) である。

651～653 は S D 01 の埋土上位 (検出面付近) で出土した。同遺構の底面からは 12 世紀の陶器壺・甕 (556～559) が出土しているが、出土層位が大きく異なることから、同時期のものでない可能性も考えられる。

小刀 654 は、S I 02 で出土した。全長 39.5cm で、ほぼ完形品である。657 は先端部のみであるが、形状や大きさから 654 と同等のものともみられる。

659～662 は寛永通寶である。すべて 1636 年初鑄の古寛永である。659～661 は P 456、662 は P 513 から出土しているが、P 456 と P 513 はいずれも S B 01 掘立柱建物跡を構成する柱穴である。

951～960 は、南西の C 10 区で出土したものである。

951～956 は錫杖状鉄製品で、すべて S K 132 から出土したものである。951 と 953 は接合する同一個体である (実測図は接合したもの、写真は別個に掲載している。以下 951 として述べる)。951

と 952 は、別個体であるが同器種である。951 と 952 は、全長約 18cm で、一方は細く、一方は分かれ、リング状となる。954～956 は、管状で、952 の一部に同様の部品が付着していることから、同一個体、もしくは同一製品の一部である可能性が高い。

鋤先 957 は、S K 133 で出土した。同遺構からは、土師器坏（777）が出土している。

紡錘車 958 は、軸部が失われ、円盤部のみである。S K 133 から出土したもので、同遺構からは土師器坏・須恵器坏（不掲載）が出土している。

（５）粘 土 塊（壁土）

実測図は作成していない。写真図版 125 を参照して頂きたい。

調査区全体で、3,021 g 出土した。B 3 区の柱穴群で多く出土しており、最も出土量が多いのは、P 228（937 g）である。出土量については第 13 表を参照して頂きたい。

平坦に加工された部分があること、掘立柱建物跡の柱穴とみられる複数の遺構から出土していることから、壁土の可能性が最も高いと考えている。一部にスサ状の混入物が確認できる。焼成を受けたものであるかは判断が難しい。平泉町の柳之御所遺跡で同様のものが出土している。

（６）縄 文 土 器（第 18 表、第 151・152 図、写真図版 127・128）

縄文土器は、調査区全体で 3,860g 出土し、このうち 13 点（301～306、701～709）、1321g（34%）を掲載した。301～306 は下川原 I 遺跡、701～709 は下川原 II 遺跡から出土したものである。時期はいずれも晩期に収まるものと考えられる。器種は深鉢、鉢、浅鉢、壺、皿、注口土器がみられる。

遺構内から出土したのは、702（A 7 区 S K 109）、705・706（C 10 区 P 1129）、707～709（C 10 区 S K 130）であり、その他は遺構外出土である。

以下器種ごとにみていく。深鉢は縄文のみの文様を持つものが、301、306、701、702 である。301・306 は口縁部に無文帯を設け、その下部から縄文 L R 横を施文している。701・702 は胴部から底部で、702 は底面の外周に粘土を貼付した形跡が看取できる。304 は胴部破片で、2 本の沈線の上下に縄文 L R 横を施し、下部には雲形文の一部とみられる曲線が沈線で施文されている。

鉢・浅鉢は 302・303 が同一個体とみられる。器厚は薄く、口縁部には平行沈線が 3 条施され、その間に 2 個 1 対の粘土粒がみられる。その下部は縄文が施される。305 は口縁部に平行沈線 1 条を巡らせ、その下部に羽状縄文（R L 横・L R 横）を施す。703 は口唇に沈線による装飾が施され、口縁部から胴部にかけては縄文のみ（L 横）が施文される。

壺は 707、708、709 の 3 点で、いずれも C 10 区の S K 130 から出土した。707 と 708 は接合しないが、胎土や色の状況から同一個体と思われる。708 は口縁部無文帯の下部に平行沈線が 2 条描出され、B 突起がみられる。709 は胴部に雲形文を描いた部分とその下部の縄文（L R 横）の文様帯に区画している。709 は口縁部から頸部にかけて残存しており、頸部無文帯の下に平行沈線が 1 条巡っている。

皿は 705・706 で、どちらも p1129 から出土している。接合しないが、同一個体と思われる。705 は、口唇には彫刻的な小波状突起が施され、口縁部内面は隆帯によって肥厚させている。外面は磨耗が著しいが、口縁部から胴部にかけて雲形文を描出している。706 は底面を沈線で円形に区画し、その内部は無文（ナデ）、外部には縄文（R L）を施す。またその上部には沈線 1 条をまわした痕跡がみられる。

注口土器は 704 の 1 点である。算盤玉状の器形で、上部は横位沈線、下部は雲形文という文様構成である。上部の沈線と沈線の間には縄文がみられる。口唇部は小波状を呈し、波頂部には細かい刺突

が施文される。

(八重畑)

(7) 石器・石製品 (第19表、第153図、写真図版129)

8点 (601～607・901) を掲載した。

器種は、石鏃2点 (604・606)、凹石2点 (601・603)、砥石3点 (602・605・607)、不明1点 (901) である。

601・603は、円礫の中央に敲打による窪みが確認できる。601はS K 04土坑出土で、同遺構からは須恵器・かわらけが出土している。

602・607は擦痕がみられるため砥石としたが、別用途の可能性もある。いずれも遺構外出土である。石鏃は2点とも遺構外出土である。縄文時代の遺物とみられる。

605は、使用痕とみられる細い数条の溝が確認できる。S I 04 竪穴住居跡で出土した。

901は、扁平礫の両面、表面に2箇所、裏面に2箇所、小さな窪みがある。人為的に開けられたものとみられるが、用途など詳細は不明である。S K I 102 竪穴住居状遺構出土で、同遺構では土師器 坏 (768)、須恵器 壺 (770) が出土している。

第5表 20年度遺構観察表 (竪穴住居跡：SI)

遺構名	区域	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	主軸方向 (度)	主軸方向 (度)	主軸方向 (度)	副軸径 (m)	深さ (m)	カマド位置	カマド煙道	床面施設	重複 (旧<新)	調査範囲	調査方法	出土遺物	備考
SI01	A04	-53284.01	29797.93	88.44	-70	-	-	-	-	北西壁中央	?	焼土×1	なし	全体	完掘	なし	貼床部径 2.2 m
SI02	B02	-53074.95	29734.83	90.81	65	6.68	6.88	0.38	0.38	北東壁南より	削り抜き	ピット×11 周溝	<SDI15	全体	完掘	土師器杯 (421~430)、土師器甕 (431~439)、須恵器杯 (440~442)、須恵器壺 (443) [計107900 g]、小刀 (654)・刀子 (655)、鉄滓 (195.0 g)、土塊 (88.2 g)	床面積 43.087㎡
SI03	B02	-53110.19	29724.96	90.58	-	-	-	0.37	-	-	調査区外	ピット×2 周溝	なし	部分 (東側)	完掘	土師器杯 (444)、土師器甕 [計180.4 g]	開口部径 5.2 m以上
SI04	B03	-53215.84	29707.10	90.16	-	7.59	-	0.45	-	-	調査区外	ピット×2	なし	部分 (西側)	完掘	土師器杯、土師器甕、須恵器杯、須恵器壺 [計832.2 g]、砥石 (605)、土塊 (300.7 g)	
SI05	B04	-53271.17	29696.57	89.85	-10	8.96	-	0.45	-	北壁	掘り込み 石組み	ピット×9 溝複数・周溝	なし	部分 (中央)	完掘	土師器杯 (446~453)、土師器甕 (454~464)、須恵器壺 (465) [計128429 g]、環状鉄製品 (656)、土塊 (35.2 g)	
SI06	C04	-53277.11	29637.64	90.06	-30	-	-	0.44	-	北壁	掘り込み 石組み	-	なし	部分 (西側)	完掘	土師器杯、土師器甕 (467)、須恵器杯 (468)、須恵器壺 [計1580.3 g]、小刀 (657)	開口部径 6.0 m以上
SI07	B03	-53248.43	29700.09	88.46	90	-	-	-	-	東壁	削り抜き	-	なし	部分 (東側)	完掘	土師器甕 [計770 g]	煙道部のみ 調査
SI101	A06	-53548.86	29760.07	88.06	-	3.37	2.92	0.13	0.13	-	?	ピット×1	なし	全体	トレンチ	土師器杯、土師器甕ロクロ (752) [計216.7 g]	
SI103	A08	-53712.24	29660.46	89.84	90	4.93	-	0.14	0.14	東壁南より	削り抜き	ピット×2 周溝	>SKTI25	部分 (東側)	完掘	土師器杯 (753)、土師器甕ロクロ (754)、土師器甕 (755~759)、須恵器杯、須恵器壺 (760) [計6459.3 g]、鉄滓 (564.2 g)	
SI104	A10	-53873.41	29636.55	88.26	-	-	-	0.08	0.08	-	-	焼土×2 ピット×5	なし	部分 (東側)	完掘	土師器杯 (763~765)、土師器甕ロクロ、土師器甕 (766) [計1758.2 g]、土塊 (4.3 g)	
SI105	C10	-53868.99	29525.15	88.89	-	-	-	0.19	0.19	-	-	ピット×2	<SDI15	部分 (西側)	完掘	土師器杯、土師器甕 [計50.8 g]	開口部径 4.5 m以上
SI107	A08	-53725.27	29659.02	90.04	5	-	-	-	-	北壁中央	削平	焼土×1	>SKTI19	全体	完掘	土師器杯、土師器甕、須恵器杯 (761・762) [計347.0 g]	貼床部径 2.8 m

※座標…遺構内床面の1点における数値である。
 ※主軸方向…カマド煙道の方向。数値は、北を0°とし、時計回りを正とした数値である。
 ※出土遺物…[]内は不掲載分も含めた出土土器重量を示す。

第6表 20年度遺構観察表 (竪穴住居状遺構：SKI)

遺構名	区域	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	形状	長軸方向 (度)	長軸方向 (度)	開口部長軸径 (m)	開口部短軸径 (m)	深さ (m)	床面施設	重複 (旧<新)	調査範囲	調査方法	出土遺物	備考
SKI01	B02	-53084.60	29731.00	90.94	長方形	10	2.05	1.81	0.27	なし	なし	なし	全体	完掘	土師器杯、須恵器壺 [計175.7 g]	床面積 3.07㎡
SKI02	D04	-53287.09	29722.45	89.64	長方形	-65	2.49	1.96	0.41	0.41	ピット×1	なし	全体	トレンチ	土師器甕、須恵器杯 [計34.8 g]	
SKI03	D04	-53269.18	29721.58	89.69	不整形	-	2.81	-	0.40	-	-	なし	部分 (北側)	トレンチ	なし	
SKI101	C10	-53902.73	29508.11	88.35	-	-	-	2.93	0.51	-	-	なし	部分 (東側)	完掘	土師器甕 (778・779) [計4979.7 g]、鉄製品 (959)	
SKI102	B05	-53392.35	29673.54	89.49	長方形	25	2.62	2.13	0.34	なし	なし	なし	全体	完掘	土師器杯 (768)、土師器甕 (769)、須恵器壺 (770) [計1810.6 g]、石製品 (901)、土塊 (9.3 g)	床面積 4.53㎡
SKI103	C08	-53650.88	29543.78	88.50	-	-	-	-	0.40	-	-	なし	部分 (東側)	完掘	なし	
SKI104	C10	-53883.05	29519.48	88.85	-	-	3.39	2.28	0.23	0.23	焼土×1、ピット×2 周溝	> p	全体	完掘	縄文土器、土師器杯、須恵器杯、ロクロ小 (809) [計697.1 g]	床面積 8.66㎡

※座標…遺構内床面の1点における数値である。
 ※長軸方向…北を0°とし、時計回りを正とした数値である。
 ※出土遺物…[]内は不掲載分も含めた出土土器重量を示す。(2)ロクロ、手づねと表記したものは、中世土器を意味する。

第7表 20年度遺構観察表 (掘立柱建物：SB)

遺構名	区域	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長軸方向 (度)	長軸方向 (度)	長軸径 (m)	長軸径 (m)	床面積 (㎡)	重複 (旧<新)	調査範囲	調査方法	出土遺物	備考
SB01	D04	-53274.00	29762.00	90.10	12	4.50	4.50	20.25	20.25	なし	全体	半載	P456・497・513・516・521 甕永通寶 (659~662)	使用柱穴

第8表 20年度遺構観察表(土坑:SK)

遺構名	区域	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	平面形特徴など	長軸方向(度)	開口部長軸径(m)	開口部短軸径(m)	深さ(m)	備考(旧<新)	調査範囲	調査方法	出土遺物
SK01	A02	-53098.79	29815.15	88.44	円形	10	0.81	0.71	0.43		全体	トレンチ	なし
SK02	A02	-53118.22	29808.36	89.12	円形?	-	1.38	-	0.69		部分(東側)	トレンチ	縄文土器、土師器壺、手づくね小[計51.3g]
SK03	A02	-53157.28	29805.14	88.75	円形	40	1.71	1.49	0.73	>SD06	全体	トレンチ	土師器杯、須恵器杯[計158.2g]
SK04	A03	-53211.51	29801.52	-	円形	60	0.96	0.70	未計測		全体	半裁	須恵器壺、ロクロ大、手づくね小[計215.6g]、凹石(601)
SK08	A03	-53193.01	29802.90	-	円形	-40	1.04	0.83	-		全体	半裁	なし
SK09	A03	-53247.86	29803.51	87.79	円形	-10	2.21	1.75	0.38		全体	トレンチ	なし
SK10	B03	-53176.70	29712.22	90.44	長方形?	-65	1.00	0.98	0.41	<SK16	部分(東側)	完掘	なし
SK11	B02	-53143.24	29721.29	90.68	円形	-	0.92	-	0.21	<カクラン	全体	完掘	なし
SK12	D03	-53257.51	29669.99	89.98	円形	-50	0.97	0.92	0.32		全体	半裁	土師器杯、土師器壺[計124.1g]
SK13	D03	-53258.30	29676.04	90.19	円形	-20	0.93	0.87	0.16		全体	半裁	なし
SK14	D03	-53260.85	29681.84	90.16	楕円形	-80	1.02	0.60	0.13		全体	半裁	なし
SK15	D03	-53268.55	29715.00	89.89	円形?	-	0.91	-	0.27		部分(北側)	完掘	なし
SK16	B03	-53177.88	29711.86	90.52	円形?	-	-	-	0.14	<SK10	部分(東側)	完掘	なし
SK17	B03	-53205.89	29706.46	90.25	楕円形?	-	-	-	0.27		部分(東側)	完掘	なし
SK18	A01	-53071.98	29809.04	89.98	溝状?	90	0.79	-	0.82		部分(東側)	完掘	なし
SK19	A01	-53028.09	29806.74	89.28	円形	25	1.08	0.92	0.42		全体	半裁	なし
SK20	A01	-53057.40	29810.94	89.04	円形	-	-	-	0.34		全体	半裁	なし
SK21	D01	-53075.05	29716.56	90.92	円形	0	0.95	0.75	0.18		全体	半裁	なし
SK22	D01	-53067.59	29704.82	90.82	楕円形	30	1.76	0.67	0.37		全体	半裁	なし
SK23	D01	-53064.95	29686.05	90.79	円形	30	0.75	0.69	0.35		全体	半裁	なし
SK24	D01	-53066.22	29681.29	90.77	円形	10	1.14	1.04	0.29		全体	半裁	なし
SK25	D01	-53070.27	29673.36	90.76	円形?	-	-	-	0.45		部分(北側)	完掘	なし
SK26	D01	-53061.49	29665.97	90.39	円形?	-	-	-	0.51		部分(南側)	完掘	なし
SK27	D02	-53083.16	29745.37	90.47	長方形	-60	0.75	0.57	0.55		全体	完掘	土師器杯[計3.5g]
SK28	D02	-53085.36	29772.22	90.52	円形	30	1.70	1.38	0.38		全体	完掘	縄文土器、土師器杯、土師器壺(469・470)、須恵器杯(471)[計1858.4g]
SK29	D02	-53085.44	29774.76	90.66	不整形	70	2.72	1.66	0.24		全体	完掘	なし
SK30	D02	-53080.95	29751.07	90.62	円形フラスコ状	-	0.99	0.89	0.27		全体	完掘	なし
SK31	D02	-53088.80	29799.54	90.09	円形	0	0.67	0.65	0.22		全体	完掘	土師器壺[計29.7g]
SK32	D02	-53082.44	29784.17	90.49	円形	0	2.38	1.91	0.24		全体	半裁	板状鉄製品(658)、土壁(3.8g)
SK33	D02	-53078.48	29788.08	90.18	楕円形	0	1.76	1.64	0.73		全体	完掘	土師器杯[計32.3g]
SK34	B04	-53294.17	29693.04	88.82	楕円形	-20	1.78	1.41	1.06		部分(東側)	完掘	土師器杯(466)、土師器壺、須恵器杯[計460.6g]
SK101	C07	-53527.59	29554.89	88.28	円形	0	1.85	1.61	1.18		全体	半裁	なし
SK103	C08	-53626.01	29544.92	88.54	円形?	-	-	-	0.41		部分(東側)	完掘	土師器杯(772)、土師器壺[計113.9g]
SK104	C08	-53677.31	29544.90	88.36	溝状	40	3.63	1.26	0.57		全体	トレンチ	なし
SK105	C08	-53699.80	29543.71	88.39	溝状	0	2.34	1.04	0.35		全体	半裁	なし
SK108	A07	-53626.06	29719.25	89.97	円形フラスコ状	-10	1.00	0.91	0.39		全体	半裁	なし
SK109	A07	-53621.96	29718.17	89.87	円形フラスコ状	5	1.48	-	0.64		部分(東側)	完掘	縄文土器深鉢(702)[計182.8g]
SK110	D05	-53500.27	29579.17	88.94	円形?	-	-	-	0.80		部分(南側)	完掘	なし
SK111	B06	-53517.65	29648.83	87.41	円形?井戸?	-	-	-	(1.60)		部分(東側)	完掘(中斷)	なし
SK113	B08	-53663.77	29621.58	89.55	円形	-	1.77	-	0.66		部分(東側)	完掘	なし
SK114	B08	-53664.61	29623.82	89.58	円形?	-	-	-	0.60		部分(西側)	完掘	なし
SK115	B08	-53694.56	29617.36	89.48	溝状	50	1.98	1.09	0.48	<SD111	全体	完掘	土師器杯[計15.9g]
SK116	D08	-53716.15	29571.47	88.80	楕円形	90	2.07	1.37	0.55		全体	完掘	なし
SK117	A08	-53661.20	29695.84	89.93	円形	-45	1.43	1.33	0.62		全体	半裁	なし
SK118	A10	-53907.54	29583.77	87.90	円形フラスコ状	-65	1.77	1.48	0.83		全体	半裁	なし
SK119	A10	-53908.87	29584.72	88.06	円形フラスコ状	-	1.63	-	0.76		部分(北側)	半裁	なし
SK120	A10	-53907.39	29587.02	88.13	円形フラスコ状	35	1.85	1.60	0.59		全体	半裁	なし
SK121	A10	-53904.59	29586.15	87.74	円形フラスコ状	45	1.74	1.67	1.11		全体	半裁	なし
SK122	A10	-53904.88	29588.62	87.90	円形フラスコ状	-60	1.96	1.42	1.05		全体	半裁	なし
SK123	A10	-53900.48	29590.93	88.17	円形フラスコ状	-	-	-	0.69		部分(南側)	完掘	なし
SK124	D09	-53906.50	29553.58	88.42	楕円形内部被熱	20	1.12	0.74	0.24		全体	完掘	手づくね大(810~819)、手づくね小(820~834)[計3502.3g]、土塊(37.0g)
SK125	C09	-53734.78	29549.06	88.59	溝状	-25	3.50	1.29	0.58		全体	完掘	なし
SK126	C09	-53761.07	29520.44	87.78	円形?	-	2.22	-	0.80		部分(東側)	完掘	なし
SK127	C10	-53867.17	29521.90	88.61	円形、壁・底面が硬化	25	1.38	1.30	0.46		全体	完掘	ビール瓶
SK128	C10	-53903.94	29512.17	87.91	円形?	-	2.05	-	0.97		部分(東側)	完掘	土師器杯[計487.6g]
SK129	C10	-53896.58	29519.34	88.70	円形	-75	1.24	1.15	0.21		全体	完掘	なし
SK130	C10	-53897.19	29508.76	88.37	長方形?	-75	-	1.19	0.31		部分(東側)	完掘	縄文土器鉢(707)・壺(708・709)[計138.2g]
SK131	C10	-53896.95	29513.06	88.56	不整形	30	2.39	1.49	0.37	<SN102	全体	完掘	なし
SK132	C10	-53894.90	29510.02	88.36	長方形	30	1.99	1.29	0.57		全体	完掘	土師器杯[計28.7g]、鉄製品(951~956)
SK133	C10	-53898.95	29512.42	88.16	長方形	-57	1.47	1.37	0.81		全体	完掘	縄文土器、土師器杯(777)[計383.0g]、鋤先(957)
SK134	C10	-53895.38	29511.79	88.04	楕円形	20	1.17	1.07	0.64		全体	完掘	縄文土器、土師器杯、須恵器杯[計748.9g]、紡錘車(958)

第 9 表 20 年度遺構観察表 (溝: SD)

遺構名	区域	X 座標 (m)	Y 座標 (m)	Z 座標 (m)	平面形 特徴	長軸 方向 (度)	開口幅 (m)	深さ (m)	重複 (旧<新)	調査 範囲	調査 方法	出土遺物
SD01	A02	-53183.29	29802.22	88.39	湾曲	-	3.34	0.58		部分	トレンチ	土師器坏・甕、須恵器壺 [計 214.1 g]、陶器壺(556 ~ 558)、陶器甕(559)、 鉄釘(651・652)、鉄鏃 (653)、土塊(41.5 g)
SD04	A03	-53199.05	29802.41	88.41	湾曲	-	3.53	0.48		部分	トレンチ	土師器坏・甕 [計 82.9 g]
SD06	A02	-53155.25	29803.89	-	湾曲	-	0.84	0.27	<SK03	部分	トレンチ	土師器坏内黒(356)、土 師器甕、須恵器坏 [計 329.5 g]
SD07	A02	-53158.61	29804.29	89.04	直線状	85	0.88	0.49		部分	トレンチ	なし
SD08	A02	-53159.24	29804.21	88.79	直線状	75	0.62	0.27		部分	トレンチ	なし
SD10	B03	-53251.92	29699.11	90.08	直線状、底部に副穴、塀跡?	-82	0.42	0.57		部分	完掘	なし
SD11	B03	-53253.39	29697.76	90.21	直線状	-86	0.59	0.46		部分	完掘	ロクロ大、ロクロ小(516・ 517)、手づくね大(518)、 手づくね小(519・520) [計 1343.6 g]
SD12	B02	-53135.94	29721.46	90.36	直線状、SD12~14が並行	-81	0.73	0.58		部分	完掘	須恵器壺、ロクロ大、手 づくね大 [計 256.2 g]
SD13	B02	-53138.04	29720.83	90.63	直線状、SD12~14が並行	-85	0.72	0.29		部分	完掘	土師器甕、ロクロ大 [計 87.0 g]
SD14	B02	-53140.96	29720.56	90.69	直線状、SD12~14が並行	-79	0.70	0.18		部分	完掘	土師器坏、須恵器坏 [計 16.7 g]
SD15	B02	-53078.78	29731.94	90.90	直線状、SD15=SD28?	-70	0.45	0.30	>SI02	部分	完掘	なし
SD16	B03	-53224.85	29704.59	90.33	直線状	-67	0.60	0.47		部分	完掘	ロクロ大 [計 356.5 g]、 陶器甕(565)、土壁(797.3 g)
SD17	D03	-53257.14	29682.09	89.42	直線状、湾曲、 SD17=SD19?	-	2.10	1.04		部分	トレンチ	土師器・かわらけ [計 85.6 g]
SD19	D04	-53267.01	29731.69	89.40	直線状、「T」字に分岐 SD17=SD19?	-	1.55	0.67	>SD20	部分	トレンチ	なし
SD20	D04	-53267.19	29726.82	89.90	湾曲	-	0.98	0.23	<SD19 <SKT02	部分	トレンチ	土師器坏 [計 21.2 g]
SD21	D04	-53276.41	29781.01	88.94	「L」字に屈曲	-	0.41	0.56		部分	トレンチ	なし
SD22	B01	-53025.77	29719.58	91.01	直線状	-76	0.29	0.13		部分	トレンチ	なし
SD23	A01	-53034.43	29807.74	88.84	直線状	11	1.15	0.76		部分	トレンチ	なし
SD24	D01	-53070.21	29725.58	90.93	緩く湾曲、SD24・25が並行	-	1.04	0.17		部分	トレンチ	なし
SD25	D01	-53070.11	29721.56	90.85	緩く湾曲、SD24・25が並行	-	1.49	0.28		部分	トレンチ	なし
SD26	D01	-53070.97	29690.12	90.90	直線状、SD26・29が並行	58	0.63	0.34		部分	トレンチ	なし
SD27	D01	-53072.57	29725.79	90.90	湾曲	84	0.38	0.23	<SD24・ 25	部分	トレンチ	なし
SD28	D01	-53074.99	29721.43	90.98	直線状、SD15=SD28?	-72	0.50	0.11		部分	トレンチ	なし
SD29	D01	-53069.62	29689.28	90.85	直線状、SD26・29が並行	54	1.02	0.33		部分	トレンチ	縄文土器、土師器坏・甕 [計 114.9 g]
SD30	D02	-53078.31	29745.75	90.69	直線状、SD30~32が並行	-52	0.73	0.44		部分	トレンチ	ロクロ小(521) [計 72.4 g]
SD31	D02	-53076.77	29746.92	90.54	直線状、SD30~32が並行	-55	1.15	0.53		部分	トレンチ	須恵器坏 [計 92.8 g]、 陶器甕(566)
SD32	D02	-53075.33	29747.92	90.76	直線状、SD30~32が並行	-54	1.78	0.30		部分	トレンチ	なし
SD33	D02	-53082.99	29768.01	90.31	直線状、SD33・34が並行	15	0.90	0.59		部分	トレンチ	なし
SD34	D02	-53084.82	29779.13	90.42	直線状、SD33・34が並行	8	1.03	0.49		部分	トレンチ	なし
SD35	B04	-53308.43	29689.34	89.58	直線状	-76	0.61	0.31		部分	完掘	なし
SD36	C04	-53258.26	29648.27	89.46	直線状	-74	1.35	0.90		部分	完掘	なし
SD37	C04	-53268.02	29643.42	89.24	直線状	-31	1.89	1.14		部分	完掘	縄文土器 [計 65.3 g]
SD101	C07	-53525.66	29552.72	89.09	直線状、SD101・102が並行	-90	2.23	0.51		部分	トレンチ	土師器甕 [計 69.3 g]
SD102	C07	-53527.88	29552.54	89.13	直線状、SD101・102が並行	-88	2.10	0.51		部分	トレンチ	土師器甕 [計 100.1 g]
SD103	C07	-53558.19	29550.75	89.37	直線状	-83	1.41	0.27		部分	トレンチ	なし
SD104	C07	-53612.55	29549.81	88.87	「T」字に分岐	-	1.65	0.16		部分	トレンチ	なし
SD105	C08	-53698.55	29542.81	88.40	直線状	82	1.08	0.35		部分	トレンチ	なし
SD106	C09	-53734.77	29546.20	88.30	直線状	80	4.70	0.65		部分	トレンチ	なし
SD108	D05	-53500.89	29576.25	89.38	直線状	10	0.92	0.42		部分	完掘	なし
SD109	B05	-53445.56	29664.11	89.27	直線状	-57	0.93	0.39		部分	完掘	なし
SD110	B07	-53557.93	29642.13	89.03	湾曲	-	0.64	0.69		部分	完掘	土師器坏内黒、ロクロ台 付(808) [計 240.0 g]
SD111	B08	-53693.78	29617.12	89.80	直線状	-78	0.85	0.43	<SK115	部分	完掘	なし
SD112	D08	-53718.35	29583.00	89.25	湾曲	-	1.20	0.30		部分	完掘	なし
SD113	C10	-53932.32	29506.56	87.71	直線状、= H3 8号溝?	-31	1.51	0.94		部分	完掘	なし
SD114	C09	-53767.43	29536.14	89.16	直線状	5	0.51	0.19		部分	完掘	なし
SD115	C10	-53865.49	29520.40	88.94	直線状	-70	0.47	0.29	>SI105	部分	トレンチ	なし

※座標…遺構内底面の1点における数値である。

※長軸方向…北を0°とし、時計回りを正とした数値である。

※出土遺物…(1) [] 内は不掲載分も含めた出土土器重量を示す。(2)ロクロ、手づくねと表記したものは、中世土器を意味する。

第 10 表 20 年度遺構観察表 (陥し穴：SKT)

遺構名	区域	X 座標 (m)	Y 座標 (m)	Z 座標 (m)	長軸方向 (度)	開口部長径 (m)	開口部短径 (m)	深さ (m)	重複 (旧<新)	調査範囲	調査方法	出土遺物
SKT01	D03	-53256.50	29670.59	89.50	-32	-	0.29	0.82	<SD17	全体	半掘	なし
SKT02	D04	-53266.42	29725.98	89.25	-71	3.16	0.65	1.02	<SD20	全体	半掘	なし
SKT03	D04	-53270.67	29755.26	88.82	66	-	0.42	1.01		部分 (西側)	完掘	なし
SKT04	D04	-53273.67	29752.38	88.99	82	3.37	0.81	1.01		全体	半掘	なし
SKT05	D04	-53273.84	29770.00	89.32	89	3.44	0.50	0.72		部分 (西側)	半掘	なし
SKT06	D04	-53267.53	29731.59	89.04	76	-	0.30	1.13	<SD19	全体	半掘	なし
SKT07	B01	-53028.35	29723.05	90.28	79	-	0.43	0.93		部分 (西側)	完掘	なし
SKT08	B01	-53000.68	29710.74	90.10	-19	3.50	1.00	1.13		全体	半掘	なし
SKT09	B01	-53055.85	29727.45	89.53	75	-	0.59	1.11		部分 (東側)	完掘	なし
SKT10	D01	-53070.08	29675.23	90.40	21	-	0.78	0.70		部分 (北側)	完掘	縄文土器 [計 90.0 g]
SKT11	D01	-53067.92	29663.23	89.74	-64	4.43	0.94	1.28		全体	半掘	なし
SKT12	D01	-53062.93	29669.16	89.79	-73	3.40	0.84	1.20		全体	半掘	なし
SKT13	C01	-53048.83	29680.46	90.32	-21	-	0.43	0.58		部分 (中央)	完掘	なし
SKT14	D02	-53083.14	29805.53	89.20	-40	3.12	0.63	0.97		全体	半掘	なし
SKT15	D02	-53079.77	29799.28	89.28	81	2.29	0.63	1.10	<SN12	全体	半掘	なし
SKT16	B04	-53291.09	29691.26	88.46	4	3.48	0.59	1.26		部分 (東側)	完掘	なし
SKT17	B04	-53348.27	29680.77	88.22	-78	-	0.61	0.98		部分 (東側)	完掘	なし
SKT101	C08	-53622.87	29549.45	88.51	59	2.46	0.33	0.38		全体	半掘	なし
SKT102	C08	-53646.77	29544.54	88.16	48	-	0.52	0.73		部分 (東側)	完掘	なし
SKT103	C08	-53661.74	29547.09	88.03	12	2.15	0.78	0.80		全体	半掘	なし
SKT104	B05	-53362.44	29677.90	88.29	42	-	0.47	0.90		部分 (北側)	完掘	なし
SKT105	B05	-53368.92	29679.16	88.19	-86	-	0.42	0.94		部分 (西側)	完掘	なし
SKT106	D05	-53507.50	29611.66	88.53	59	4.10	0.62	0.94		全体	完掘	なし
SKT107	D05	-53510.55	29625.77	88.66	-15	2.90	0.75	0.77		全体	完掘	なし
SKT108	B05	-53402.16	29670.74	88.83	-73	-	0.22	0.73		部分 (東側)	完掘	なし
SKT109	D05	-53509.94	29631.02	88.83	10	-	0.19	0.31		部分 (東側)	完掘	なし
SKT110	B06	-53503.11	29652.04	88.05	-45	-	0.71	1.07		部分 (東側)	完掘	なし
SKT111	B06	-53510.53	29650.73	88.03	-71	-	0.59	0.85		部分 (東側)	完掘	なし
SKT112	B06	-53514.24	29651.26	87.92	-41	-	0.61	0.92		部分 (西側)	完掘	なし
SKT113	D07	-53649.60	29684.18	89.47	11	-	0.59	0.94		全体	半掘	なし
SKT114	D06	-53629.75	29589.62	88.31	25	-	0.54	0.64		部分 (東側)	完掘	なし
SKT115	D08	-53723.32	29606.80	88.71	-53	3.41	0.41	0.54		全体	完掘	なし
SKT116	D07	-53654.90	29691.01	89.22	16	2.98	0.83	1.05		全体	半掘	土師器鉢 [計 212.0 g]
SKT117	D05	-53502.80	29578.08	88.76	14	-	0.61	0.96		部分 (北側)	完掘	なし
SKT118	A08	-53672.15	29683.90	80.01	-66	-	0.59	1.22		部分 (西側)	トレンチ	なし
SKT119	A08	-53722.83	29659.99	89.03	-82	3.16	0.63	0.87		全体	トレンチ	なし
SKT120	A08	-53730.41	29651.86	89.07	-61	-	0.87	0.92		部分 (東側)	トレンチ	なし
SKT121	A09	-53739.05	29651.83	89.22	-37	3.54	0.67	0.83		全体	トレンチ	なし
SKT122	A09	-53787.46	29648.45	88.35	-35	1.86	0.77	1.07		全体	トレンチ	なし
SKT123	A09	-53811.62	29648.72	88.41	67	2.92	0.45	0.74		全体	トレンチ	なし
SKT124	C10	-53805.80	29522.44	88.02	-48	3.44	0.53	0.82		全体	トレンチ	なし
SKT125	A08	-53711.77	29660.85	89.30	-83	-	0.34	0.76	<SI103	部分 (東側)	完掘	縄文土器 [計 15.1 g]

第 11 表 20 年度遺構観察表 (焼土：SN)

遺構名	区域	X 座標 (m)	Y 座標 (m)	Z 座標 (m)	平面形	長径 (m)	短径 (m)	掘り深さ (m)	被熱深さ (m)	重複 (旧<新)	調査範囲	調査方法	出土遺物
SN01	A04	-53281.65	29798.12	88.59	円形	0.81	0.25	-	0.05		全体	断ち割り	なし
SN02	D02	-53076.49	29781.66	90.67	円形	0.83	0.80	-	0.08		全体	断ち割り	なし
SN03	D02	-53080.75	29784.13	90.53	円形	0.84	0.80	0.17	0.02		全体	断ち割り	なし
SN04	D02	-53080.16	29785.19	90.60	円形	0.96	0.69	0.14	0.05		全体	断ち割り	なし
SN05	D02	-53080.53	29785.80	90.64	円形	0.80	0.62	0.17	0.04		全体	断ち割り	なし
SN06	D02	-53077.40	29786.30	90.57	円形	0.74	0.67	0.11	0.03		全体	断ち割り	なし
SN07	D02	-53081.77	29796.63	90.37	円形	0.85	0.73	0.16	0.03		全体	断ち割り	なし
SN08	D02	-53082.14	29798.73	90.31	円形	0.79	0.60	0.16	0.03		全体	断ち割り	なし
SN09	D02	-53081.19	29798.12	90.37	円形	1.04	0.41	-	0.06		全体	断ち割り	なし
SN10	D02	-53081.57	29800.62	90.13	円形	1.09	0.76	0.17	0.02		全体	断ち割り	なし
SN11	D02	-53078.45	29797.30	90.30	円形	0.51	0.17	0.00	0.10		部分 (南側)	断ち割り	なし
SN12	D02	-53080.05	29798.65	90.26	円形	0.79	0.56	0.11	0.02	>SKT15	全体	断ち割り	なし
SN101	A10	-53877.67	29634.44	88.40	円形	0.99	0.96	-	0.11		全体	断ち割り	土師器坏 (780)、土師器甕、土師器甕ロクロ (781) [計 561.3 g]
SN102	C10	-53896.61	29513.67	88.66	円形	0.49	0.48	-	0.80	<SK131	全体	断ち割り	土師器甕 (782~785)、土師器鉢 (786) [計 6266.7 g]、鉄製金具 (960)

第 12 表 20 年度遺構観察表 (その他：SX)

遺構名	区域	X 座標 (m)	Y 座標 (m)	Z 座標 (m)	特徴	調査範囲	調査方法	出土遺物	備考
SX01	D02	-53078.41	29773.90	-	畝間状遺構	部分	トレンチ	なし	
SX02	A03	-53240.49	29802.40	-	遺物包含層	部分	トレンチ	土師器坏内裏 (367~384)、土師器甕ロクロ (385)、土師器甕 (386~400)、須恵器坏 (401~406)、須恵器壺 (417・418)、須恵器大甕 (419) [計 16402.8 g]	
SX106	C09	-53799.35	29515.54	89.39	土器埋設	全体	完掘	土師器甕 (774)、須恵器坏 (775) [計 2838.8 g]	

※座標…遺構内底面の 1 点における数値である。

※長軸方向…北を 0° とし、時計回りを正とした数値である。

※出土遺物…(1) [] 内は不掲載分も含めた出土土器重量を示す。(2) ロクロ、手づくねと表記したものは、中世土器を意味する。

第13表 20年度遺構観察表(柱穴状土坑:P)

No	区	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	備考(遺物ほか)
1	A02	-53094.89	29815.63	88.76	18	16	8	
2	A02	-53096.38	29815.66	88.73	21	20	10	
3	A02	-53100.79	29814.38	88.90	19	15	11	
4	A02	-53101.04	29814.29	88.97	18	14	7	
5	A02	-53101.10	29814.85	88.80	21	16	11	
6	A02	-53102.40	29815.64	88.64	31	25	12	
7	A02	-53102.14	29814.59	88.79	24	19	16	
8	A02	-53102.28	29814.35	88.91	24	19	8	
9	A02	-53102.53	29814.51	88.89	20	21	9	
10	A02	-53102.79	29814.09	88.87	36	31	20	
11	A02	-53103.14	29814.02	88.94	22	19	11	
12	A02	-53103.15	29815.04	88.69	25	24	16	
13	A02	-53103.40	29814.90	88.79	20	18	4	
14	A02	-53103.57	29814.31	88.81	28	24	17	
15	A02	-53103.94	29814.33	88.77	20	20	13	
16	A02	-53103.73	29813.91	88.94	20	20	13	
17	A02	-53103.96	29814.08	88.87	24	22	15	
18	A02	-53104.54	29815.56	88.49	42	35	25	
19	A02	-53104.45	29815.01	88.72	28	25	10	
20	A02	-53104.91	29814.98	88.65	23	21	17	
21	A02	-53105.05	29814.42	88.72	24	18	17	
22	A02	-53104.54	29814.16	88.76	22	20	21	
23	A02	-53104.50	29813.98	88.88	21	19	12	
24	A02	-53104.84	29813.93	88.86	21	18	13	
25	A02	-53105.48	29815.37	88.64	23	23	11	
26	A02	-53106.01	29814.31	88.61	32	22	28	
27	A02	-53106.04	29814.13	-	20	19	-	
28	A02	-53106.08	29813.64	88.92	22	20	11	
29	A02	-53105.90	29813.25	89.01	31	21	8	
30	A02	-53106.50	29814.44	88.79	17	17	8	
31	A02	-53106.50	29814.81	88.75	18	18	6	
32	A02	-53106.77	29814.74	88.55	22	18	29	
33	A02	-53106.80	29814.32	88.75	28	24	15	
34	A02	-53107.25	29814.68	88.68	20	18	16	
35	A02	-53107.83	29814.05	88.87	19	18	6	
36	A02	-53107.60	29814.17	88.76	48	19	21	
37	A02	-53107.80	29813.39	88.98	20	19	7	
38	A02	-53107.80	29813.14	89.06	23	19	9	
39	A02	-53108.22	29814.20	88.77	25	24	12	
40	A02	-53108.49	29814.22	88.62	21	18	25	
41	A02	-53108.48	29813.99	88.87	18	15	5	
42	A02	-53108.62	29813.76	88.88	36	19	14	
43	A02	-53108.55	29813.40	88.96	26	16	11	
44	A02	-53108.88	29812.77	89.15	20	19	11	
45	A02	-53109.10	29812.89	89.11	20	15	7	
46	A02	-53109.41	29813.10	88.97	34	27	17	
47	A02	-53108.94	29813.84	88.78	40	32	20	
48	A02	-53108.87	29814.36	88.71	26	25	15	
49	A02	-53109.36	29814.08	88.79	32	31	12	
50	A02	-53109.56	29814.21	88.73	22	19	14	
51	A02	-53110.39	29813.07	88.98	31	26	16	
52	A02	-53109.93	29812.97	89.05	28	18	12	
53	A02	-53110.89	29812.55	89.10	46	36	28	
54	A02	-53110.77	29813.14	88.92	50	29	27	
55	A02	-53111.03	29813.11	88.95	23	21	17	
56	A02	-53110.37	29814.17	88.70	31	25	19	
57	A02	-53110.59	29814.19	88.56	23	20	28	
58	A02	-53112.55	29813.89	88.77	46	22	18	
59	A02	-53112.76	29814.11	88.65	23	20	18	
60	A02	-53112.76	29813.70	88.76	26	26	24	
61	A02	-53112.51	29813.07	88.95	47	-	-	
62	A02	-53112.14	29812.94	89.03	21	20	12	
63	A02	-53112.21	29812.69	89.09	30	23	10	
64	A02	-53112.35	29812.63	-	22	-	-	
65	A02	-53112.56	29812.61	89.12	18	18	9	
66	A02	-53112.21	29812.23	89.24	25	24	16	
67	A02	-53113.05	29813.51	88.76	26	26	24	
68	A02	-53113.27	29813.33	88.84	41	33	22	
69	A02	-53113.64	29813.00	89.03	20	19	9	
70	A02	-53113.29	29812.32	89.17	27	23	13	
71	A02	-53113.30	29812.55	89.12	29	25	11	
72	A02	-53114.28	29812.63	89.10	21	19	10	
73	A02	-53114.83	29814.07	88.65	29	27	19	
74	A02	-53115.01	29813.58	88.75	21	18	20	
75	A02	-53115.48	29813.10	88.92	30	28	16	
76	A02	-53115.37	29813.20	88.84	45	-	24	
77	A02	-53115.60	29813.46	88.87	21	21	12	

No	区	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	備考(遺物ほか)
78	A02	-53115.61	29814.07	88.73	16	16	8	
79	A02	-53115.37	29812.74	89.02	26	24	15	
80	A02	-53115.51	29812.40	89.15	27	24	12	
81	A02	-53115.37	29812.09	89.18	23	21	15	
82	A02	-53115.45	29812.22	89.18	19	-	14	
83	A02	-53115.78	29812.82	-	26	23	-	
84	A02	-53115.90	29812.76	89.03	12	22	17	
85	A02	-53116.17	29811.95	89.30	92	56	14	
86	A02	-53116.87	29811.97	89.29	48	35	13	
87	A02	-53117.55	29811.89	-	43	28	-	
88	A02	-53117.27	29811.83	89.36	88	18	10	
89	A02	-53117.31	29812.49	-	19	16	-	
90	A02	-53117.55	29812.86	88.91	36	29	31	
91	A02	-53117.74	29813.18	88.81	28	26	28	
92	A02	-53118.63	29812.73	89.07	20	16	11	
93	A02	-53118.52	29811.63	89.43	26	24	9	
94	A02	-53115.92	29811.44	89.31	25	20	15	
95	A02	-53115.88	29810.94	89.18	32	31	39	
96	A02	-53117.03	29811.02	89.53	53	44	10	
97	A02	-53119.01	29810.78	89.65	40	34	4	
98	A02	-53119.40	29810.79	89.63	49	47	4	
99	A02	-53119.74	29811.54	89.14	35	29	40	
100	A02	-53120.05	29811.36	89.25	39	31	36	
101	A02	-53119.91	29811.97	89.12	38	29	28	
102	A02	-53119.76	29812.57	89.00	34	32	20	
103	A02	-53119.92	29813.03	88.88	25	24	19	
104	A02	-53119.68	29813.24	88.94	22	19	9	
105	A02	-53119.60	29813.81	88.82	32	31	10	
106	A02	-53120.88	29812.71	88.92	14	13	16	
107	A02	-53120.86	29812.57	89.07	16	13	8	
108	A02	-53120.84	29812.07	89.18	17	15	10	
109	A02	-53120.76	29811.54	89.40	22	20	8	
110	A02	-53120.69	29811.08	89.52	47	35	9	
111	A02	-53121.61	29811.27	89.41	20	19	16	
112	A02	-53121.53	29812.67	88.72	31	27	39	
113	A02	-53121.55	29813.08	88.95	15	13	7	
114	A02	-53121.63	29813.50	88.67	22	20	26	
115	A02	-53121.89	29813.60	88.73	22	20	16	
116	A02	-53123.25	29813.41	88.81	14	13	13	
117	A02	-53123.24	29813.12	88.76	21	15	25	
118	A02	-53123.67	29813.59	88.65	23	20	24	
119	A02	-53123.49	29812.58	88.92	19	18	21	
120	A02	-53122.27	29810.86	89.55	19	17	9	
121	A02	-53122.36	29809.80	89.62	16	13	7	
122	A02	-53124.99	29810.36	89.49	24	21	10	
123	A02	-53124.71	29812.80	88.83	19	18	23	
124	A02	-53124.76	29812.97	88.91	15	13	12	
125	A02	-53125.23	29812.60	89.03	20	18	7	
126	A02	-53125.94	29812.91	88.73	43	41	30	
127	A02	-53126.47	29812.36	88.91	20	16	24	
128	A02	-53127.53	29811.12	89.40	65	44	16	
129	A02	-53128.15	29811.20	89.28	41	31	20	
130	A02	-53128.14	29813.07	88.86	22	20	9	
131	A02	-53128.46	29813.02	88.76	24	20	19	
132	A02	-53129.29	29812.26	88.90	30	23	18	
133	A02	-53129.64	29811.02	89.33	23	18	9	
134	A02	-53130.13	29810.82	89.29	20	18	19	
135	A02	-53130.56	29810.27	89.42	19	16	9	
136	A02	-53130.33	29809.96	89.42	22	18	12	
137	A02	-53130.24	29809.37	89.51	29	26	9	
138	A02	-53129.73	29808.64	89.66	21	12	5	
139	A02	-53130.22	29808.49	89.60	30	24	11	
140	A02	-53130.85	29808.03	89.66	21	18	8	
141	A02	-53131.48	29807.73	89.69	21	15	8	
142	A02	-53131.96	29807.63	89.62	20	18	16	
143	A02	-53132.28	29807.46	89.67	16	15	14	
144	A02	-53132.29	29808.11	89.52	36	33	28	
145	A02	-53132.37	29809.29	89.49	14	12	18	
146	A02	-53132.82	29809.36	89.54	25	20	12	
147	A02	-53133.37	29809.06	89.55	28	26	21	
148	A02	-53133.99	29807.84	89.50	34	27	30	
149	A02	-53134.40	29807.65	89.57	40	34	23	
150	A02	-53134.58	29808.82	89.57	35	27	20	
151	A02	-53135.29	29807.65	89.				

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
155	A02	-53139.35	29809.13	89.24	21	19	9	
156	A02	-53139.07	29807.50	89.50	26	22	24	
157	A02	-53136.50	29806.44	89.69	29	16	9	
158	A02	-53136.95	29806.88	89.67	20	18	12	
159	A02	-53142.83	29807.56	89.28	37	23	15	
160	A02	-53145.17	29807.45	89.43	40	36	18	
161	A02	-53145.16	29808.06	89.43	27	22	17	
162	A02	-53145.00	29808.36	89.44	20	19	11	
163	A02	-53145.46	29808.49	89.43	31	27	12	
164	A02	-53145.31	29809.25	-	29	26	-	
165	A02	-53147.58	29809.19	-	31	27	-	
166	A02	-53143.57	29806.58	-	42	32	-	
167	A02	-53147.59	29806.65	89.43	21	20	11	
168	A02	-53153.87	29807.10	89.21	30	27	28	
169	A02	-53154.87	29807.19	89.15	29	25	18	
170	A02	-53155.51	29804.47	89.30	28	26	12	
171	A02	-53156.09	29804.74	89.31	41	30	18	
172	A02	-53155.62	29805.44	89.25	20	15	16	
173	A02	-53156.06	29805.48	-	20	-	-	
174	A02	-53156.18	29806.05	-	41	22	-	
175	A03	-53189.33	29804.98	-	12	-	-	
176	A03	-53189.47	29804.91	-	14	-	-	
177	A03	-53189.57	29804.79	-	12	10	-	
178	A03	-53189.71	29804.57	-	15	-	-	
179	A03	-53189.91	29804.47	-	18	16	-	
180	A03	-53190.06	29804.33	-	14	12	-	
181	A03	-53190.39	29804.13	-	14	12	-	
182	A03	-53190.61	29804.04	-	22	18	-	
183	A03	-53191.18	29803.66	-	17	16	-	
184	A03	-53191.78	29803.58	-	24	16	-	
185	A03	-53192.44	29803.61	-	17	16	-	
186	A03	-53189.71	29805.28	-	13	12	-	
187	A03	-53189.82	29805.12	-	23	19	-	
188	A03	-53190.07	29805.14	-	14	10	-	
189	A03	-53190.14	29804.70	-	12	-	-	
190	A03	-53195.11	29802.62	-	34	22	-	
191	A03	-53210.53	29799.38	-	17	12	-	
192	A03	-53212.72	29799.75	-	33	31	-	
193	A03	-53213.58	29800.08	-	27	23	-	
194	A03	-53217.46	29798.65	88.56	26	24	17	
195	A03	-53217.60	29800.93	88.60	24	19	18	
196	A03	-53220.99	29798.77	88.60	34	24	13	
197	A03	-53221.34	29798.99	88.63	27	24	28	
198	A03	-53221.67	29798.67	88.42	28	22	28	
199	A03	-53220.66	29795.26	88.93	22	18	16	
200	A03	-53232.70	29797.00	88.49	24	22	20	
201	A03	-53233.02	29797.20	88.41	30	28	30	
202	A03	-53233.01	29795.74	88.50	27	23	30	
203	A03	-53231.80	29794.98	88.76	30	26	24	
204	A03	-53232.18	29794.59	88.90	19	14	18	
205	A03	-53229.70	29792.98	89.26	23	19	17	
206	A03	-53229.56	29793.05	89.33	17	10	10	
207	A03	-53229.57	29792.73	89.31	21	17	15	
208	A03	-53234.88	29794.43	-	50	20	-	
209	A03	-53235.49	29794.43	-	31	21	-	
210	A03	-53236.76	29791.84	89.30	33	21	19	
211	A03	-53236.57	29791.94	89.30	34	-	19	
212	A03	-53237.97	29791.31	89.22	31	26	29	
213	A03	-53238.40	29791.81	-	36	28	-	
214	A03	-53238.61	29791.55	-	33	28	-	
215	A03	-53238.96	29791.44	-	35	30	-	
216	A03	-53238.05	29792.27	89.18	38	34	24	
217	A03	-53239.74	29792.39	89.23	26	20	10	
218	A03	-53240.31	29792.00	89.12	27	22	20	
219	A03	-53240.36	29791.78	89.18	24	13	15	
220	A03	-53238.13	29797.88	88.10	53	43	40	
221	A03	-53239.70	29796.78	88.27	17	12	25	
222	A03	-53240.46	29796.48	88.42	24	17	10	
223	A03	-53244.33	29807.93	-	22	21	-	
224	A03	-53247.63	29805.23	-	17	16	-	
225	A03	-53248.67	29805.36	-	20	15	-	
227	B03b	-53235.94	29703.37	90.26	61	54	42	ロクロ小[8.7g]
228	B03b	-53233.55	29703.50	90.19	65	63	54	ロクロ小[148.6g]、壁土(936.6g)
229	B03b	-53232.34	29703.51	90.23	71	59	58	ロクロ大[16.0g]、壁土(161.7g)
230	B03b	-53230.46	29703.49	90.63	31	29	16	

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
231	B03b	-53229.13	29703.38	90.28	60	52	43	ロクロ大[40.2g]、壁土(20.1g)
232	B03b	-53228.09	29703.91	90.30	66	60	39	須恵器坏、ロクロ大、ロクロ小[計52.4g]、壁土[108.8g]
233	B03b	-53226.57	29703.86	90.16	60	55	53	
234	B03b	-53223.91	29704.13	90.25	62	-	50	土師器壺、ロクロ大[計40.2g]
235	B03b	-53221.95	29704.20	90.27	58	54	48	ロクロ小[14.8g]、壁土(19.0g)
236	B03b	-53220.18	29704.17	90.28	64	57	47	ロクロ小[9.3g]
237	B03b	-53221.53	29705.46	90.50	70	66	26	土師器壺、ロクロ大、手づくね小[計56.4g]
238	B03b	-53239.60	29701.23	90.29	55	62	34	ロクロ小[10.0g]
239	B03b	-53225.17	29702.73	90.33	52	45	34	ロクロ大[22.4g]
240	B03b	-53226.31	29704.78	90.52	81	71	20	
241	B03b	-53227.81	29704.49	90.22	94	65	50	土師器坏、ロクロ大(504・505)、ロクロ小(506)[計478.2g]
242	B03b	-53228.86	29704.60	90.19	81	-	55	ロクロ大(507~514)、ロクロ小(515)、手づくね大[計1298.0g]、壁土(7.2g)
243	B03b	-53238.50	29703.09	90.21	60	55	49	壁土(2.3g)
244	B03b	-53235.99	29701.43	90.34	68	58	28	
245	B03b	-53239.58	29702.77	90.26	75	-	26	壁土(23.4g)
246	B03	-53168.74	29714.17	90.47	25	23	27	
247	B03b	-53250.68	29699.41	90.35	53	52	27	
248	B03b	-53249.18	29699.52	90.36	65	60	24	
250	D02	-53076.26	29731.00	91.01	56	43	15	
251	D02	-53076.80	29731.33	91.08	39	36	8	
252	B02	-53078.14	29732.11	91.01	25	23	15	
253	B02	-53077.96	29731.67	91.03	21	13	14	
254	B02	-53077.79	29731.44	91.06	23	17	11	
255	B02	-53081.35	29731.64	91.01	31	27	13	
256	B02	-53081.30	29731.09	91.03	37	25	12	
257	B02	-53081.44	29730.42	90.97	42	32	17	
258	B02	-53081.27	29730.41	90.96	47	32	18	
259	B02	-53090.88	29729.65	90.80	29	28	32	
260	B02	-53092.63	29729.09	90.63	26	25	48	
261	B02	-53094.88	29728.36	90.65	34	27	46	
262	B02	-53095.29	29727.96	90.93	54	36	17	
263	B02	-53096.34	29729.10	90.91	19	14	19	
264	B02	-53096.42	29728.75	90.88	26	23	22	
265	B02	-53097.02	29727.94	90.77	47	29	33	土師器坏[25.7g]
266	B02	-53097.34	29727.28	90.78	43	37	33	
267	B02	-53099.12	29728.86	90.82	34	31	26	
268	B02	-53098.66	29727.98	90.70	33	29	39	
269	B03b	-53247.76	29700.08	90.40	61	59	19	ロクロ大[28.3g]
270	B03b	-53246.43	29699.98	90.42	45	43	18	土師器坏、手づくね小[計6.9g]
271	B03b	-53249.36	29698.28	90.34	36	64	97	須恵器坏[2.9g]
272	B03b	-53250.47	29698.09	90.35	60	48	30	手づくね小[15.2g]
273	B02	-53078.95	29730.10	91.00	20	28	13	
274	B02	-53079.41	29730.43	91.02	45	43	15	
275	B02	-53099.96	29728.49	90.88	31	26	16	
277	B02	-53086.23	29730.82	91.02	52	40	16	
279	B02	-53087.87	29730.40	90.91	40	32	21	
280	B02	-53086.87	29729.81	90.96	35	32	17	
281	B02	-53087.20	29728.79	90.86	38	33	30	
282	B02	-53087.77	29729.50	90.94	30	20	19	
283	B02	-53088.97	29729.65	90.83	33	22	29	
284	B02	-53089.15	29729.91	90.81	28	23	31	
285	B02	-53110.17	29726.65	90.72	37	31	24	
286	B02	-53098.94	29728.59	90.85	24	20	23	
287	B02	-53100.87	29727.48	90.84	33	30	16	
288	B02	-53100.79	29728.39	90.66	28	25	35	
291	B02	-53102.98	29728.13	90.67	55	44	29	
292	B02	-53100.37	29726.26	90.79	23	-	29	

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
293	B02	-53103.60	29727.78	90.56	24	21	36	
294	B02	-53104.09	29727.39	90.80	34	28	12	
296	B02	-53102.14	29726.13	90.86	37	-	15	
298	B02	-53099.67	29726.78	90.81	32	32	26	
300	B02	-53113.54	29724.38	90.52	31	25	41	
301	B02	-53086.52	29729.18	90.88	36	30	19	
302	B02	-53116.35	29724.52	90.67	24	19	24	
303	B02	-53100.57	29726.57	90.88	57	36	18	
304	B02	-53104.15	29725.78	90.67	30	23	23	
305	B02	-53123.00	29723.90	90.66	28	24	16	
306	B02	-53122.71	29722.12	90.66	20	19	15	
307	B02	-53125.09	29722.70	90.51	30	23	29	
308	B02	-53126.71	29723.74	90.68	30	26	16	
309	B02	-53127.05	29723.51	90.65	43	36	19	
310	B02	-53123.11	29724.33	90.60	86	62	24	
311	B02	-53122.08	29722.31	90.61	92	-	20	
312	B02	-53131.55	29722.34	90.51	29	24	35	
313	B02	-53131.64	29721.99	90.58	31	20	28	
314	B02	-53131.56	29721.11	90.66	45	34	18	
315	B02	-53133.36	29720.91	90.70	35	33	13	
316	B02	-53134.74	29720.75	90.64	32	23	20	
317	B02	-53136.24	29719.74	90.51	38	29	29	
318	B02	-53136.50	29720.97	90.50	32	22	34	
319	B02	-53136.61	29721.88	90.62	22	19	22	
320	B02	-53138.50	29719.30	90.66	30	25	10	
321	B02	-53138.40	29719.97	90.58	28	25	17	
322	B02	-53138.72	29720.45	90.67	32	25	13	
323	B02	-53139.46	29719.20	90.42	28	25	34	
324	B02	-53139.62	29719.68	90.50	32	17	26	
325	B02	-53139.59	29720.08	90.48	39	33	29	
326	B02	-53139.60	29720.90	90.37	27	27	44	
327	B02	-53139.53	29720.24	90.49	23	20	29	
328	B02	-53139.26	29720.55	90.59	41	29	22	
331	B03	-53173.46	29714.90	90.38	50	41	27	
332	B03	-53176.59	29713.64	90.39	33	30	28	
333	B03	-53169.07	29716.01	90.50	23	19	19	
334	B03	-53181.76	29713.98	90.39	30	24	26	
335	B03	-53182.51	29711.46	90.35	37	30	26	
338	B03	-53191.92	29709.82	90.30	33	28	26	
340	B03	-53188.70	29710.77	90.37	31	22	22	
342	B03	-53188.17	29712.07	90.43	27	22	17	
343	B03	-53190.03	29711.94	90.46	32	26	16	
344	B03	-53189.77	29710.59	90.15	28	26	43	
345	B03	-53191.30	29709.46	90.34	44	23	25	
346	B03	-53194.30	29710.74	90.36	23	18	19	
349	B03	-53196.46	29708.70	90.10	29	21	37	
351	B03	-53192.30	29711.08	90.28	28	24	30	
353	B03	-53193.28	29710.72	90.37	43	28	18	
354	B03	-53194.27	29710.63	90.37	28	17	16	
355	B03	-53191.68	29709.69	90.32	26	24	25	
356	B03	-53194.72	29709.95	90.30	27	20	23	
359	B03	-53171.29	29714.48	90.37	40	39	33	
361	B03	-53171.40	29716.12	90.37	34	32	30	
362	B03	-53175.54	29714.97	90.40	54	39	25	
363	B02	-53157.92	29717.52	90.46	56	39	27	
365	B03	-53177.93	29715.28	90.42	47	30	22	
366	B03	-53177.27	29713.39	90.57	21	19	10	
367	B03	-53177.84	29713.28	90.30	33	29	36	
368	B03	-53178.90	29713.76	90.48	16	13	14	
369	B03	-53182.84	29711.51	90.41	25	20	20	
370	B03	-53178.81	29714.02	90.41	21	15	22	
371	B03	-53178.93	29711.62	90.43	26	21	17	
372	B03	-53177.41	29713.72	90.52	33	30	13	
373	B03	-53178.45	29712.44	90.38	38	30	25	
374	B03	-53177.85	29714.23	90.44	19	14	22	
375	B03	-53178.06	29713.87	90.45	25	24	22	
376	B03	-53179.33	29714.94	90.45	28	25	23	
377	B03	-53181.94	29713.36	90.42	23	16	19	
380	B03	-53186.17	29712.55	90.44	28	24	18	
383	B03	-53186.36	29712.80	90.48	24	-	17	
384	B03	-53190.81	29712.37	90.32	21	21	27	
385	B03	-53192.51	29711.67	90.08	26	22	51	
386	B03	-53193.72	29711.32	90.44	20	-	12	
387	B02	-53144.49	29721.45	90.67	32	16	20	
388	B02	-53123.57	29724.28	90.56	23	20	25	
389	B02	-53132.07	29722.33	90.69	26	22	17	
390	B02	-53122.80	29725.15	90.75	45	33	11	
391	B02	-53112.53	29727.49	90.91	30	-	12	
392	B02	-53113.29	29727.05	90.79	35	26	20	
393	B02	-53115.71	29723.64	90.62	38	33	29	

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
394	B02	-53127.84	29722.19	90.70	57	45	11	
395	B02	-53106.55	29728.54	90.83	34	23	23	
396	B02	-53104.76	29728.48	90.81	34	28	10	
397	B02	-53102.41	29727.53	90.76	40	35	22	
398	B02	-53102.57	29728.39	90.78	26	16	16	
399	B02	-53100.66	29729.35	90.68	32	29	34	
400	B02	-53100.99	29729.37	90.76	40	37	24	
401	B02	-53101.38	29728.56	90.59	37	31	39	
402	B02	-53099.20	29729.40	90.79	44	39	29	
403	B02	-53098.62	29729.63	90.73	26	23	33	
404	B02	-53098.56	29729.37	90.95	20	16	12	
405	B02	-53094.87	29730.20	90.95	24	22	17	
406	B02	-53093.25	29730.46	90.94	26	21	16	
407	B02	-53089.32	29731.08	90.97	23	22	16	
408	B02	-53087.22	29731.31	90.92	79	64	23	
409	B02	-53086.20	29731.23	91.02	51	47	16	
410	B02	-53083.44	29732.56	90.90	31	24	21	
411	B02	-53080.95	29732.77	91.00	28	22	16	
412	B02	-53087.47	29729.55	90.82	21	19	30	
413	B02	-53087.15	29730.13	90.96	44	38	17	
414	B02	-53078.90	29730.59	91.00	42	-	15	
415	B02	-53136.73	29722.85	90.75	24	22	22	
416	B02	-53136.47	29722.43	90.43	20	16	40	
417	B02	-53136.82	29721.98	90.69	26	18	18	
418	B02	-53138.29	29721.10	90.54	20	13	26	
419	B02	-53138.64	29721.66	90.48	23	21	25	
420	B02	-53138.48	29721.51	90.51	22	20	28	
421	B02	-53138.64	29722.41	90.71	36	30	21	
422	B02	-53138.57	29722.76	90.61	34	34	32	
423	B02	-53139.70	29721.21	90.42	47	32	46	
424	B02	-53139.93	29720.72	90.61	19	17	19	
425	B02	-53122.92	29725.59	90.45	41	34	42	
426	B02	-53119.32	29723.66	90.64	27	20	21	
427	B02	-53119.41	29725.94	90.73	33	25	20	
428	B02	-53118.80	29725.85	90.80	25	23	13	
429	B02	-53113.03	29727.24	90.74	25	18	26	
430	B02	-53110.33	29726.13	90.68	21	20	27	
431	B02	-53106.69	29725.66	90.72	23	23	16	
432	B02	-53108.25	29725.95	90.76	23	20	14	
433	B02	-53108.45	29726.16	90.71	22	15	19	
434	B02	-53107.34	29727.48	90.64	31	27	28	
435	B02	-53103.40	29728.71	90.73	23	20	19	
436	B02	-53103.11	29728.87	90.77	27	12	16	
437	B02	-53102.56	29729.23	90.69	50	32	24	
438	B02	-53082.96	29732.02	90.94	28	22	13	
439	B03	-53171.82	29713.42	90.40	45	27	31	
440	B03	-53175.57	29714.64	90.43	23	21	24	
441	B03	-53174.19	29714.87	90.24	36	27	41	
442	B03	-53175.44	29714.62	90.48	30	26	18	
443	B03	-53176.77	29713.70	90.36	47	43	29	
445	B03	-53182.63	29713.95	90.51	40	32	16	
446	B02	-53110.44	29726.58	90.79	30	17	17	
447	B03	-53188.14	29710.55	90.48	32	28	11	
448	B03	-53186.36	29713.14	90.52	22	21	15	
449	B02	-53153.33	29717.53	90.51	28	19	22	
450	B02	-53153.86	29717.01	90.52	22	19	22	
451	B02	-53154.24	29717.06	90.62	20	13	13	
452	B02	-53155.20	29718.11	90.59	24	23	10	
453	B02	-53110.48	29727.69	90.84	44	38	22	
454	B02	-53102.97	29729.07	90.71	18	13	15	
456	D04	-53277.11	29759.44	89.65	45	43	35	SB01
457	B03	-53204.52	29706.94	90.11	47	39	40	
458	B03	-53191.63	29710.08	90.23	42	40	35	
459	B03	-53190.09	29710.53	90.40	28	24	17	
460	B03	-53187.20	29712.93	90.42	25	18	22	
461	B03	-53186.73	29712.05	90.41	30	25	20	
462	B03	-53186.96	29711.71	90.36	30	27	26	
463	B03	-53185.56	29713.37	90.48	27	24	18	
464	D03	-53253.45	29661.87	9				

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
476	D03	-53259.43	29692.13	90.14	24	24	21	
477	D03	-53264.35	29694.34	89.80	45	43	11	
478	D03	-53265.37	29704.10	89.94	76	48	41	
479	D04	-53267.25	29710.17	89.92	40	28	24	
480	D04	-53267.97	29712.99	89.62	26	26	21	
481	D04	-53267.97	29712.99	89.62	55	46	63	
482	D04	-53269.13	29733.10	89.84	37	35	29	
483	D04	-53269.63	29734.38	89.99	32	27	14	
484	D04	-53269.13	29735.56	89.91	26	16	22	
485	D04	-53269.51	29735.78	89.91	25	17	21	
486	D04	-53269.21	29737.08	89.90	32	31	21	
487	D04	-53269.54	29737.96	89.85	45	32	24	
488	D04	-53272.05	29737.97	89.53	33	29	55	
489	D04	-53272.43	29743.13	89.89	33	30	17	
490	D04	-53275.29	29757.51	89.88	28	27	12	
491	D04	-53273.73	29756.96	89.86	33	23	13	
492	D04	-53274.96	29758.48	89.70	25	23	29	
493	D04	-53274.46	29758.58	89.93	23	21	7	
494	D04	-53273.91	29758.73	89.91	20	17	9	
495	D04	-53273.63	29758.30	89.87	22	19	12	
496	D04	-53272.47	29759.18	89.79	32	19	19	
497	D04	-53272.88	29760.74	89.38	50	40	61	SB01
498	D04	-53273.70	29760.62	89.92	20	13	9	
499	D04	-53274.34	29760.73	89.92	26	19	10	
500	D04	-53274.75	29760.47	89.92	25	23	9	
501	D04	-53277.20	29759.83	89.89	27	22	12	
502	D04	-53276.18	29760.83	89.88	23	18	11	
503	D04	-53275.63	29760.59	89.79	34	29	22	
505	D04	-53274.75	29761.56	89.89	36	24	13	
506	D04	-53272.80	29761.56	89.84	30	22	14	
507	D04	-53274.64	29762.23	89.79	28	24	23	
508	D04	-53275.14	29762.88	89.89	33	28	12	
509	D04	-53276.29	29762.63	89.79	38	35	22	
510	D04	-53277.99	29762.64	89.86	21	20	14	
511	D04	-53277.58	29763.34	89.93	22	21	7	
512	D04	-53276.89	29763.51	89.82	52	36	17	
513	D04	-53278.22	29763.90	89.37	47	41	63	SB01
514	D04	-53276.05	29763.61	89.79	29	28	21	
515	D04	-53273.29	29763.92	89.89	30	27	11	
516	D04	-53273.90	29765.10	89.44	48	42	55	SB01
517	D04	-53274.38	29764.05	89.80	25	22	20	
518	D04	-53274.83	29764.65	89.79	30	27	21	
519	D04	-53275.37	29763.70	89.70	29	26	30	
520	D04	-53275.44	29764.14	89.90	31	28	11	
521	D04	-53276.12	29764.47	89.18	54	40	81	SB01
522	D04	-53276.84	29764.57	89.71	25	23	28	
523	D04	-53276.63	29765.74	89.80	37	33	18	
524	D04	-53277.43	29765.58	89.69	25	25	29	
525	D04	-53277.74	29765.58	89.84	25	21	15	
526	D04	-53278.56	29766.81	89.89	35	32	10	
527	D04	-53277.45	29766.79	89.62	28	24	35	
528	D04	-53276.41	29766.99	89.83	31	30	15	
529	D04	-53278.45	29767.81	89.80	25	21	17	
530	D04	-53277.77	29767.74	89.73	27	26	24	
531	D04	-53277.40	29768.12	89.68	42	33	28	
532	D04	-53278.67	29768.84	89.77	27	24	18	
533	D04	-53279.68	29771.28	89.51	28	23	46	
534	D04	-53279.26	29771.73	89.78	33	31	20	
535	D04	-53278.69	29771.42	89.71	31	27	27	
536	D04	-53277.80	29771.07	89.63	28	22	34	
537	D04	-53277.72	29771.38	89.77	27	25	21	
538	D04	-53275.27	29768.61	89.75	27	24	24	
539	D04	-53274.25	29770.58	89.91	29	27	10	
540	D04	-53274.22	29771.46	89.64	34	32	36	
541	D04	-53273.96	29772.42	89.58	36	29	45	
542	D04	-53276.52	29772.69	89.75	22	20	21	
543	D04	-53276.34	29773.07	89.55	33	31	41	
544	B03b	-53232.02	29704.34	90.31	65	54	47	
545	D04	-53274.36	29755.31	89.71	24	22	20	
546	D04	-53273.09	29753.13	89.74	28	22	17	
547	D04	-53271.61	29751.24	89.74	30	27	14	
548	D04	-53272.21	29751.20	89.78	32	27	14	
549	D04	-53272.62	29750.78	89.83	27	24	9	
550	D04	-53272.84	29746.04	89.74	24	22	17	
551	D04	-53273.27	29744.59	89.72	48	35	18	
552	D04	-53272.65	29744.28	89.74	28	25	20	
553	B01	-52978.98	29702.43	91.43	22	21	14	
554	B01	-52979.31	29702.62	91.39	41	32	15	
555	B01	-52979.63	29702.82	91.25	21	18	26	
556	B01	-52983.01	29705.48	91.30	43	37	15	

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
557	B01	-52982.20	29706.88	91.17	24	23	28	
558	B01	-52986.62	29705.93	91.32	30	21	10	
559	B01	-52986.73	29706.98	91.13	20	18	29	
560	B01	-52993.61	29710.12	91.14	27	23	15	
561	B01	-52994.90	29710.32	91.01	38	25	23	
562	B01	-52995.78	29711.50	90.86	20	18	35	
563	B01	-52998.16	29712.24	90.73	34	26	45	
564	B01	-52998.34	29712.70	91.02	27	26	15	
565	B01	-52998.23	29711.39	91.05	27	22	14	
566	B01	-52998.47	29711.03	91.06	23	21	12	
567	B01	-52999.01	29710.73	91.08	38	28	10	
568	B01	-52999.53	29711.37	91.09	44	25	8	
569	B01	-52999.52	29711.56	91.05	38	33	11	
570	B01	-53000.66	29712.28	91.01	36	32	16	
571	B01	-53000.66	29713.59	90.92	32	28	25	
572	B01	-53001.13	29713.64	90.87	33	31	29	
573	B01	-53001.03	29713.05	91.10	24	19	7	
574	B01	-53001.43	29711.71	91.08	39	32	9	
575	B01	-53002.55	29710.67	90.94	32	27	24	
576	B01	-53003.11	29711.51	90.83	41	30	35	
577	B01	-53002.29	29713.45	90.98	28	38	20	
578	B01	-53003.09	29713.69	90.95	33	30	23	
579	B01	-53005.28	29711.26	90.99	48	38	22	
580	B01	-53004.56	29711.30	91.10	25	23	10	
581	B01	-53003.66	29712.32	91.07	29	27	12	
582	B01	-53004.36	29713.33	91.12	23	22	8	
583	B01	-53005.31	29713.62	90.92	43	40	25	
584	B01	-53006.48	29713.56	91.03	34	32	14	
585	B01	-53006.79	29713.21	91.08	25	25	7	
586	B01	-53007.77	29712.54	91.03	43	38	15	
587	B01	-53007.84	29713.46	90.90	34	33	27	
588	B01	-53007.02	29715.02	90.95	38	31	21	
589	B01	-53008.93	29713.07	90.98	34	26	19	
590	B01	-53009.06	29714.79	90.91	32	30	26	
591	B01	-53009.62	29714.40	91.04	31	25	11	
592	B01	-53012.34	29714.91	91.04	45	41	10	
593	B01	-53013.00	29713.81	91.02	59	-	13	
594	B01	-53012.98	29716.31	91.03	28	26	11	
595	B01	-53012.56	29716.72	91.02	27	23	12	
596	B01	-53017.38	29717.16	90.96	31	24	14	
597	B01	-53017.11	29717.01	91.03	22	20	7	
598	B01	-53032.04	29720.39	90.70	30	26	25	
599	B01	-53031.26	29722.04	90.63	31	28	35	
600	B01	-53030.32	29723.59	90.67	36	33	34	
601	B01	-53035.88	29725.24	90.81	23	20	17	
602	B01	-53035.80	29724.71	90.62	26	26	34	
603	B01	-53036.44	29724.49	90.81	22	18	14	
604	B01	-53036.65	29723.43	90.62	23	22	28	
605	B01	-53037.07	29723.25	90.61	20	17	30	
606	B01	-53037.38	29725.04	90.63	22	20	33	
607	B01	-53038.68	29723.18	90.66	37	29	22	
608	B01	-53038.24	29724.95	90.64	42	21	30	
609	B01	-53038.58	29724.54	90.75	26	22	16	
610	B01	-53039.05	29724.83	90.57	40	31	35	
611	B01	-53039.03	29724.17	90.72	28	26	21	
612	B01	-53039.30	29723.09	90.74	35	26	13	
613	B01	-53040.32	29723.71	90.68	58	33	24	
614	B01	-53040.65	29724.02	90.69	32	26	24	
615	B01	-53040.43	29724.19	90.50	36	33	45	
616	B01	-53039.76	29724.31	90.79	31	28	14	
617	B01	-53041.75	29726.23	90.66	48	37	29	
618	B01	-53041.68	29724.96	90.80	33	29	12	
619	B01	-53041.78	29723.88	90.46	35	34	45	
620	B01	-53041.81	29724.09	90.42	34	24	48	
621	B01	-53042.06	29723.71	90.69	27	21	20	
622	B01	-53042.22	29723.99	90.44	35	32	44	
623	B01	-53042.13	29724.20	90.52	32	25	39	
624	B01	-53043.45	29725.93	90.44	26	21	46	
625	B01	-53043.36	29723.69	90.60	27	19	26	

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
639	A01	-53078.91	29809.55	89.50	41	28	29	
640	A01	-53079.47	29810.68	89.59	21	19	8	
641	A01	-53079.09	29811.73	89.37	32	22	19	
642	A01	-53078.18	29810.01	89.38	29	28	33	
643	A01	-53078.18	29811.48	89.30	38	31	28	
644	A01	-53077.41	29811.15	89.44	20	12	15	
645	A01	-53078.04	29811.93	89.32	32	30	18	
646	A01	-53078.53	29812.00	89.42	24	14	8	
647	A01	-53078.81	29812.81	89.26	24	22	9	
648	A01	-53078.35	29814.08	89.09	25	22	10	
649	A01	-53077.78	29814.14	89.06	28	24	11	
650	A01	-53077.61	29814.00	88.97	30	25	21	
651	A01	-53074.56	29815.42	88.87	27	15	17	
652	A01	-53074.77	29814.80	88.80	76	39	28	
653	A01	-53074.20	29815.57	88.86	38	29	17	
654	A01	-53074.70	29813.76	89.02	33	23	13	
655	A01	-53074.06	29813.67	88.84	38	19	31	
656	A01	-53071.92	29814.98	88.90	25	23	15	
657	A01	-53072.21	29814.92	88.99	22	18	7	
658	A01	-53072.10	29814.47	88.90	53	32	20	
659	A01	-53072.04	29813.71	89.00	30	23	16	
660	A01	-53071.01	29813.14	88.97	22	20	23	
661	A01	-53070.49	29810.27	89.34	33	27	26	
662	A01	-53070.04	29809.83	89.48	26	25	17	
663	A01	-53068.17	29809.11	89.33	33	32	23	
664	A01	-53048.58	29808.32	88.89	29	25	16	
665	A01	-53048.69	29807.98	88.90	29	25	24	
666	A01	-53046.25	29808.11	89.01	76	43	26	
667	A01	-53045.21	29808.31	89.02	66	56	22	
668	A01	-53062.00	29811.76	89.15	54	47	16	
669	B01	-53057.53	29728.75	90.27	24	24	32	
670	D01	-53076.61	29729.95	-	40	35	-	
671	D01	-53069.77	29728.16	90.98	29	25	8	
672	D01	-53074.38	29727.86	90.71	62	38	39	
673	D01	-53074.65	29726.66	90.88	26	23	21	
674	D01	-53076.05	29726.01	90.87	34	30	19	
675	D01	-53074.98	29724.80	90.80	29	25	28	
676	D01	-53069.96	29713.50	91.02	41	27	12	
677	D01	-53066.30	29704.45	90.89	36	27	28	
678	D01	-53072.70	29729.85	90.86	40	33	28	
679	D01	-53068.15	29702.69	90.87	24	21	29	
680	D01	-53067.26	29702.33	90.79	22	21	39	
681	D01	-53067.11	29702.17	90.85	25	21	32	
682	D01	-53066.68	29702.00	90.70	33	28	48	
683	D01	-53066.09	29701.10	90.84	31	27	33	
684	D01	-53066.68	29699.84	90.85	28	24	33	
685	D01	-53066.46	29700.78	90.89	38	34	29	
686	D01	-53066.52	29701.32	91.00	32	26	17	
687	D01	-53067.11	29700.26	90.83	28	23	36	
688	D01	-53067.36	29699.61	90.77	27	22	42	
689	D01	-53066.82	29699.36	90.82	57	37	36	
690	D01	-53067.27	29699.10	90.80	38	31	37	
691	D01	-53068.47	29700.33	90.98	21	18	20	
692	D01	-53068.32	29699.73	90.79	27	25	37	
693	D01	-53067.74	29699.34	90.82	21	19	35	
694	D01	-53067.92	29699.15	90.87	23	19	30	
695	D01	-53068.71	29699.28	90.90	24	21	26	
696	D01	-53067.50	29698.72	90.94	28	24	24	
697	D01	-53067.43	29698.06	90.70	36	28	48	
698	D01	-53067.88	29698.41	90.82	34	26	34	
699	D01	-53068.86	29698.52	90.76	72	45	40	
700	D01	-53068.98	29698.73	91.02	30	24	15	
701	D01	-53070.78	29698.94	90.74	27	26	42	
702	D01	-53070.93	29698.61	91.01	32	22	14	
703	D01	-53070.69	29697.82	90.59	43	38	56	
704	D01	-53072.51	29698.19	90.85	38	29	29	
705	D01	-53072.75	29697.07	90.81	46	40	33	
706	D01	-53071.09	29696.81	90.97	21	20	18	
707	D01	-53071.15	29696.62	91.01	24	19	13	
708	D01	-53069.91	29697.46	90.84	25	23	31	
709	D01	-53069.82	29696.86	90.79	35	23	34	
710	D01	-53069.30	29696.42	90.83	23	23	28	
711	D01	-53068.61	29696.58	90.78	32	25	40	
712	D01	-53069.54	29695.69	90.81	34	26	31	
713	D01	-53069.42	29695.23	90.88	24	20	29	
714	D01	-53070.02	29695.12	91.00	25	22	15	
715	D01	-53071.68	29694.78	90.80	30	27	38	
716	D01	-53071.84	29693.79	90.93	37	24	24	
717	D01	-53072.04	29693.54	90.86	26	21	33	
718	D01	-53065.29	29685.59	90.81	29	25	28	

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
719	D01	-53066.15	29685.64	90.93	30	24	15	
720	D01	-53064.81	29684.04	90.87	35	33	21	
721	D01	-53063.93	29683.53	90.83	44	35	27	
722	D01	-53065.02	29683.41	90.88	34	26	22	
723	D01	-53065.55	29683.61	90.87	32	23	22	
724	D01	-53066.36	29683.04	90.94	42	29	15	
725	D01	-53065.41	29682.42	90.92	51	28	16	
726	D01	-53067.76	29681.31	90.84	39	30	23	
727	D01	-53070.31	29683.27	90.97	32	29	12	
728	D01	-53070.51	29680.80	90.86	68	58	22	
729	D01	-53064.92	29678.23	90.79	39	30	26	
730	D01	-53063.21	29678.11	90.89	35	32	16	
731	D01	-53063.64	29676.11	90.81	48	46	23	
732	D01	-53063.04	29673.86	90.80	60	55	23	
733	D01	-53062.52	29671.87	90.75	61	53	23	
734	D01	-53064.64	29670.85	90.64	24	23	33	
735	D01	-53069.60	29672.21	90.78	63	46	24	
736	D01	-53068.01	29670.14	90.55	42	41	47	
737	D01	-53065.99	29670.19	90.86	49	34	17	
738	D01	-53065.61	29664.81	90.74	24	21	15	
740	D01	-53064.27	29653.49	89.76	38	34	46	
741	D01	-53071.98	29716.83	90.77	51	32	32	
742	D01	-53068.68	29696.39	91.02	29	24	16	
743	D01	-53068.31	29661.86	90.60	40	34	28	
744	D01	-53068.85	29662.52	90.65	29	27	23	
745	D01	-53066.72	29652.94	89.98	30	22	21	
746	D01	-53067.08	29652.71	89.84	25	23	34	
747	D01	-53066.17	29651.95	89.78	26	25	30	
748	C01	-53051.13	29654.80	89.74	22	19	40	
749	D02	-53076.06	29739.12	90.51	55	39	61	
750	D02	-53077.63	29739.47	90.92	26	23	18	
751	D02	-53081.43	29743.25	90.83	74	44	17	
752	D02	-53081.55	29745.62	90.68	47	29	30	
753	D02	-53080.13	29746.36	90.62	29	24	37	
754	D02	-53083.49	29749.72	90.80	31	26	13	
755	D02	-53088.42	29807.52	89.57	30	27	49	土師器甕 [17.5g]
756	D02	-53087.80	29807.27	89.85	30	29	24	
757	D02	-53087.65	29807.48	89.72	31	27	33	
758	D02	-53087.88	29810.24	89.59	29	21	18	
759	D02	-53085.00	29811.26	89.47	29	26	23	
760	D02	-53082.53	29812.24	89.32	35	28	25	
761	D02	-53082.75	29806.85	89.86	26	25	14	
762	D02	-53082.65	29806.36	89.67	34	28	37	
763	D02	-53082.83	29806.50	89.86	37	26	17	
764	D02	-53083.10	29806.37	89.71	37	29	35	
765	D02	-53082.59	29758.33	90.56	28	24	17	
766	D02	-53082.71	29758.83	90.56	46	30	15	
767	D02	-53082.96	29758.68	90.54	29	16	18	
768	D02	-53083.40	29758.78	90.59	24	23	16	
769	D02	-53083.24	29759.64	90.47	34	26	24	
770	D02	-53084.48	29761.65	90.57	31	29	17	
771	D02	-53084.81	29761.76	90.33	31	30	39	
772	D02	-53084.24	29762.61	90.26	74	56	53	
773	D02	-53083.51	29763.07	90.43	70	53	25	
774	D02	-53085.65	29763.13	90.62	37	-	11	
775	D02	-53084.31	29763.56	90.37	63	30	42	
776	D02	-53085.39	29765.49	90.51	39	30	22	
777	D02	-53084.90	29765.32	90.59	29	19	22	
778	D02	-53086.01	29767.99	90.25	56	44	55	
779	D02	-53080.82	29795.40	89.97	33	29	52	
780	D02	-53080.31	29793.74	90.15	37	33	40	土師器坏 [35.5g]
781	D02	-53080.77	29753.69	90.40	30	18	20	
782	D02	-53081.89	29754.29	90.31	28	25	19	
783	D02	-53081.22	29754.48	90.62	18	-	4	
784	D02	-53081.76	29755.46	90.29	38	32	49	
785	D02	-53081.99	29755.70	90.37	37	24	35	
786	D02	-53080.48	29752.93	90.41	29	22	14	
787	D02	-53084.66	29780.32	90.36	32	26	22	
788	D02	-53085.65						

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
798	D02	-53089.19	29798.18	90.15	36	28	26	
799	D02	-53089.00	29800.38	90.13	31	28	21	
800	D02	-53089.33	29801.71	90.12	30	25	21	
801	D02	-53089.33	29796.17	90.28	26	21	25	
802	D02	-53081.24	29756.19	90.49	72	39	32	
803	D02	-53081.22	29756.87	90.48	49	39	29	
804	D02	-53082.01	29787.57	90.30	47	42	39	
805	D02	-53082.45	29787.73	90.12	40	33	59	
806	D02	-53083.40	29787.65	90.15	33	28	55	
807	D02	-53078.88	29790.00	90.19	47	40	40	
808	D02	-53083.38	29789.63	90.30	46	40	37	
809	D02	-53081.97	29791.81	89.91	40	37	68	土師器甕[7.3 g]
810	D02	-53079.64	29792.02	89.96	49	44	63	
811	D02	-53078.81	29793.86	90.15	53	39	38	
812	D02	-53079.77	29793.53	90.15	48	33	38	
813	D02	-53082.03	29793.60	90.16	33	25	39	
814	D02	-53077.16	29787.28	90.03	30	29	58	
815	D02	-53087.90	29806.70	89.52	41	28	63	
816	D02	-53087.07	29808.20	89.81	35	27	19	
817	D02	-53088.12	29806.17	89.92	48	21	24	
818	D02	-53078.74	29735.82	90.72	30	-	41	
819	D02	-53077.08	29788.02	90.14	54	-	50	
820	B03b	-53222.03	29706.49	90.25	69	65	24	
821	B03b	-53224.19	29706.29	90.32	67	-	17	
822	B03b	-53231.55	29704.42	90.32	57	53	21	
823	B03b	-53231.11	29703.38	90.35	46	44	18	
824	B03b	-53224.48	29702.86	89.95	42	-	44	ロクロ大、ロクロ小、手づくね大、手づくね小 [計 277.8 g]
825	D02	-53080.76	29792.82	89.89	41	39	17	
826	D01	-53070.85	29692.33	90.95	29	28	23	
827	D01	-53071.18	29692.53	90.84	27	18	35	
828	D01	-53067.13	29690.37	90.70	36	29	43	
829	D01	-53069.08	29688.19	90.75	32	19	36	
830	D02	-53070.90	29734.08	90.63	54	48	47	
832	D02	-53075.78	29740.16	90.78	40	31	30	
1001	C07	-53535.48	29555.16	89.40	80	-	15	
1002	C07	-53543.40	29550.37	89.26	31	25	28	
1003	C07	-53544.89	29551.50	89.25	32	31	32	
1004	C07	-53544.60	29553.99	89.39	38	31	18	
1005	C07	-53544.68	29553.74	89.37	29	23	21	
1006	C07	-53545.26	29554.68	89.31	30	30	24	
1007	C07	-53547.28	29553.53	89.38	62	46	17	
1008	C07	-53548.85	29554.06	89.28	40	30	24	
1009	C07	-53552.92	29553.97	89.29	57	54	25	
1010	C07	-53552.95	29553.33	89.40	56	46	16	
1011	C07	-53552.48	29552.07	89.22	34	31	34	
1012	C07	-53557.52	29549.35	89.17	33	32	26	
1013	C07	-53557.29	29553.41	89.24	47	43	31	
1014	C07	-53558.40	29553.50	89.24	28	27	25	
1015	C07	-53559.94	29553.50	89.16	49	46	37	
1016	C07	-53561.56	29551.91	89.21	48	42	30	
1017	C07	-53561.88	29551.94	89.18	47	41	34	
1018	C07	-53562.34	29553.43	89.29	51	45	22	
1019	C07	-53566.48	29550.43	89.31	21	19	16	
1020	C07	-53567.00	29552.38	89.28	32	26	23	土師器坏[6.6 g]
1021	C07	-53568.86	29552.19	89.41	24	21	13	
1022	C07	-53568.77	29549.78	89.37	25	24	12	
1023	C07	-53585.31	29550.86	88.76	26	25	32	
1024	C07	-53588.48	29551.13	88.90	23	23	24	
1025	C07	-53589.65	29551.40	88.81	30	15	36	
1026	C07	-53592.36	29551.63	89.03	21	19	12	
1027	C08	-53625.95	29545.99	88.82	58	55	8	土師器甕 [25.2 g]
1028	C08	-53625.97	29546.45	88.77	56	44	11	土師器坏、土師器甕 [計 131.1 g]
1029	C08	-53626.35	29545.81	88.81	42	38	8	縄文土器鉢 (705・706) [計 318.8 g]
1030	C08	-53626.31	29546.08	88.62	20	18	25	
1031	C08	-53626.87	29545.03	88.65	28	25	21	縄文土器 [77.3 g]
1032	C08	-53634.70	29546.23	88.77	44	32	11	土師器坏、土師器甕 [計 24.6 g]
1033	C08	-53641.35	29547.72	88.76	49	36	9	
1034	C08	-53644.52	29547.67	88.75	31	29	7	
1035	C08	-53647.47	29549.17	88.63	49	45	17	
1036	C08	-53653.32	29547.65	88.53	45	43	17	

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
1037	C08	-53654.11	29545.52	88.58	35	31	11	
1038	C08	-53655.84	29544.69	88.57	33	26	18	
1039	C08	-53657.77	29546.06	88.37	43	26	40	
1040	C08	-53660.16	29543.69	88.56	41	40	21	
1041	C08	-53663.93	29545.34	88.60	53	46	19	
1042	C08	-53669.57	29545.44	88.60	29	21	19	
1043	C08	-53671.92	29546.23	88.79	29	21	9	
1044	C08	-53672.79	29546.41	88.77	27	25	10	
1045	C08	-53674.56	29546.26	88.66	20	17	23	
1046	C08	-53675.05	29545.59	88.71	61	51	18	
1047	C08	-53675.72	29547.27	88.80	21	18	11	
1048	C08	-53678.91	29546.34	88.70	22	19	17	
1049	C08	-53678.96	29545.53	88.74	30	25	12	
1050	C08	-53679.12	29544.17	88.73	50	45	12	
1051	C08	-53680.90	29546.47	88.80	35	28	7	
1052	C08	-53680.65	29545.37	88.83	27	26	4	
1053	C08	-53680.73	29543.10	88.74	28	27	9	
1054	C08	-53681.04	29543.19	88.59	29	25	26	
1055	C08	-53681.61	29542.65	88.69	22	20	14	
1056	C08	-53682.55	29542.52	88.68	20	14	14	
1057	C08	-53682.22	29545.73	88.81	39	37	6	
1058	C08	-53683.08	29545.55	88.64	23	17	22	
1059	C08	-53683.85	29546.03	88.75	19	17	14	
1060	C08	-53683.79	29544.88	88.59	20	17	29	
1061	C08	-53683.72	29544.64	88.79	15	12	8	
1062	C08	-53683.07	29543.41	88.71	19	10	12	
1063	C08	-53685.12	29545.99	88.72	23	15	14	
1064	C08	-53685.71	29545.79	88.58	20	18	27	
1065	C08	-53685.86	29545.37	88.74	22	20	10	
1066	C08	-53685.80	29545.49	88.75	25	22	10	
1067	C08	-53687.90	29545.55	88.61	46	32	20	
1068	C08	-53687.54	29544.11	88.64	28	25	14	
1069	C08	-53690.45	29546.14	88.77	26	23	11	
1070	C08	-53690.48	29543.27	88.43	28	25	43	
1071	C08	-53692.34	29545.09	88.70	32	26	13	
1072	C09	-53708.27	29542.42	88.53	26	23	17	
1073	C09	-53726.50	29543.59	88.58	33	31	26	
1074	C09	-53729.80	29543.14	88.63	24	22	20	
1075	C09	-53730.80	29543.45	88.64	26	25	17	
1076	A07	-53628.36	29720.34	90.13	86	-	12	
1077	A07	-53634.88	29714.42	90.16	29	25	12	
1078	A07	-53635.53	29712.86	90.25	24	22	12	
1079	A07	-53635.25	29712.37	90.18	24	21	11	
1080	A07	-53635.23	29712.06	90.23	25	20	17	
1081	A07	-53634.82	29711.64	90.21	26	18	10	
1082	A07	-53635.61	29711.23	90.20	28	19	14	
1083	A07	-53635.95	29712.96	90.19	33	24	9	
1084	A07	-53636.20	29712.93	90.25	23	21	13	
1085	A07	-53636.98	29712.75	90.27	23	20	7	
1086	A07	-53636.81	29712.28	90.21	27	21	14	
1087	A07	-53637.03	29711.07	90.23	27	26	12	
1088	A07	-53638.31	29711.61	90.17	26	14	18	
1089	A07	-53638.28	29711.85	90.15	24	-	14	
1090	A07	-53642.52	29708.68	90.27	82	60	9	
1091	A07	-53645.48	29707.84	90.08	19	17	11	
1092	A07	-53645.65	29707.70	90.12	22	15	7	
1093	A07	-53646.79	29705.41	90.09	47	45	13	
1094	A07	-53649.29	29705.89	90.09	37	25	11	
1095	A07	-53649.87	29706.24	90.08	28	19	9	
1096	A06	-53528.31	29764.70	88.19	37	32	9	
1097	A06	-53528.81	29767.11	87.92	43	34	29	
1098	A06	-53531.16	29766.59	87.91	45	27	29	
1099	A06	-53534.81	29765.83	87.98	39	31	25	
1100	A06	-53537.02	29765.37	88.03	43	37	25	
1101	A06	-53538.72	29765.03	87.98	34	29	24	
1102	A06	-53531.18	29765.44	87.98	30	27	14	
1103	A06	-53531.29	29764.07	88.28	36	31	8	
1104	A06	-53531.91	29764.40	88.18	26	22	16	
1105	A06	-53533.02	29765.13	88.03	24	18	19	
1106	A06	-53534.51	29764.70	87.96	37	30	35	
1107	A06	-53535.20	29765.15	87.93	28	26	31	
1108	A06	-53535.52	29763.62	88.16	42	36	24	
1109	A06	-53534.95	29762.94	88.21	28	27	18	
1110	A06	-53536.09	29767.86	88.07	36	34	17	
1111	A06	-53540.85	29766.91	88.09	35	31	16	
1112	A06	-53541.17	29767.88	88.07	31	22	19	
1113	A06	-53544.						

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
1118	B07	-53568.74	29641.71	89.16	41	32	31	
1119	B07	-53569.63	29639.44	89.07	37	29	38	
1120	B07	-53575.09	29638.52	89.10	43	37	32	
1121	B07	-53574.16	29640.66	89.09	44	38	31	
1122	D07	-53643.14	29657.40	89.91	51	45	19	
1123	D07	-53648.55	29663.16	89.69	42	31	39	
1124	D07	-53644.15	29666.18	89.64	63	17	39	
1125	D07	-53646.47	29671.49	89.82	50	40	30	
1126	D07	-53647.96	29680.44	89.93	31	23	19	

No	区	X座標 (m)	Y座標 (m)	Z座標 (m)	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (遺物ほか)
1127	D08	-53719.51	29586.30	89.13	39	37	23	
1128	D08	-53719.99	29589.02	89.22	44	40	17	
1129	C10	-53881.04	29512.04	88.69	70	64	19	
1130	C10	-53884.29	29512.23	88.68	68	60	18	
1131	C10	-53892.67	29510.70	88.35	71	49	16	
1132	C10	-53894.36	29511.53	88.53	73	65	32	
1133	C10	-53881.72	29520.87	88.66	41	33	38	
1134	C10	-53881.87	29519.72	88.53	62	57	14	
1135	C10	-53897.40	29513.82	88.46	26	25	33	

第 14 表 20 年度遺構外出土遺物一覧

出土地点	区域	縄文土器	土師器・須恵器	かわらけ	陶磁器	その他
A01 区遺構外	A01	[100.2 g]	土師器坏・甕、須恵器坏 [859.5 g]	ロクロ大 [84.4 g]	陶器碗 (551)、陶器壺 (552)、陶器甕 (553)	剥片 [44.2 g]、土塊 [34.5 g]
A02 区遺構外	A02	[14.6 g]	土師器坏 (351)、土師器甕 (352)、須恵器坏 (353~355) [2195.5 g]	ロクロ大 [30.0 g]	青磁碗 (554)、陶器甕 (555)	剥片 (59.6 g)、土塊 (95.6 g)
A03 区遺構外	A03	深鉢 (301) [534.5 g]	土師器坏 (357~364)、土師器甕、須恵器坏、須恵器壺 (366) [6177.8 g]	[58.8 g]	白磁壺類 (560)、青磁碗 (561)、陶器鉢 (562)、陶器甕 (563)	砥石 (602)、凹石 (603)、石鏝 (604)、剥片 [98.0 g]
A04 区遺構外	A04	浅鉢 (302~305)、深鉢 (306) [871.9 g]	土師器坏・甕 [481.2 g]	[30.0 g]	なし	剥片 [20.3 g]
A05 区遺構外	A05	[10.0 g]	土師器坏、土師器甕 (751)、須恵器坏 [389.7 g]	[1.3 g]	なし	なし
A06 区遺構外	A06	深鉢 (701) [507.2 g]	土師器坏・甕 [269.1 g]	なし	なし	なし
A07 区遺構外	A07	浅鉢 (703) [214.6 g]	土師器坏・甕、須恵器坏 [169.0 g]	なし	須恵器系陶器甕 (851)、陶器鉢 (852)	剥片 [26.7 g]
A08 区遺構外	A08	なし	なし	なし	なし	なし
A09 区遺構外	A09	なし	なし	なし	なし	なし
A10 区遺構外	A10	なし	なし	なし	なし	なし
B01 区遺構外	B01	なし	須恵器坏 [89.6 g]	なし	なし	なし
B02 区遺構外	B02	なし	土師器坏、須恵器坏 (420) [33.2 g]	なし	なし	なし
B03 区遺構外	B03	[10.0 g]	土師器坏・甕、須恵器坏・壺 [1683.6 g]	ロクロ大 (501)、手づくね小 (502・503) [280.9 g]	陶器壺 (564)	土塊 [253.5 g]
B04 区遺構外	B04	[41.4 g]	土師器坏 (445)、須恵器壺 [363.7 g]	なし	なし	なし
B05 区遺構外	B05	[44.1 g]	土師器甕 (767)、須恵器壺 [229.7 g]	なし	なし	なし
B06 区遺構外	B06	[325.1 g]	土師器坏 (771)、須恵器壺 [333.1 g]	碗 (801・802)、ロクロ大 (803)、ロクロ小 (804~807) [465.1 g]	なし	剥片 [53.4 g]
B07 区遺構外	B07	なし	なし	なし	なし	なし
B08 区遺構外	B08	なし	土師器坏 [8.1 g]	なし	なし	なし
C01 区遺構外	C01	なし	なし	なし	なし	なし
C04 区遺構外	C04	なし	土師器坏・甕 [36.9 g]	なし	なし	なし
C05 区遺構外	C05	なし	なし	なし	なし	なし
C06 区遺構外	C06	なし	なし	なし	なし	なし
C07 区遺構外	C07	[10.0 g]	土師器坏 [49.7 g]	なし	なし	なし
C08 区遺構外	C08	なし	なし	なし	なし	なし
C09 区遺構外	C09	[32.3 g]	土師器甕 [70.6 g]	なし	なし	なし
C10 区遺構外	C10	なし	なし	なし	なし	なし
D01 区遺構外	D01	なし	なし	なし	なし	石鏝 (606)
D02 区遺構外	D02	なし	土師器坏・甕 [392.0 g]	なし	なし	なし
D03 区遺構外	D03	[10.0 g]	土師器甕 [245.2 g]	ロクロ大 [23.8 g]	なし	砥石 (607)、土塊 [40.9 g]
D04 区遺構外	D04	なし	土師器甕 [46.7 g]	なし	なし	なし
D05 区遺構外	D05	なし	なし	なし	なし	なし
D06 区遺構外	D06	なし	須恵器壺 [50.3 g]	なし	なし	なし
D07 区遺構外	D07	なし	須恵器壺 (787) [319.6 g]	なし	なし	なし
D08 区遺構外	D08	なし	なし	なし	なし	なし
D09 区遺構外	D09	なし	土師器甕 [566.1 g]	なし	なし	なし
出土地点不明	不明	なし	土師器坏・甕、須恵器坏・壺 [1214.4 g]	なし	なし	なし

(1) [] 内は不掲載分も含めた出土重量を示す。

第15表 20年度遺物観察表(土師器・須恵器)

No	出土区域	出土地点	層位など	種別	器種	ロクロ使用	黒色処理	底部外面調整	体部外面調整	体部内面調整	口縁・残存	底部	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土の色調	胎上の混入物	備考		
351	A02	遺構外	中央トレンチ	土師器	杯	○	黒色	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.8)	5.5	5.5	にぶい黄緑	砂粒少量		
352	A02	遺構外	中央トレンチ	土師器	長胴甕			ハケメ	回転ナズ	ナズ	○	○	21.4	(11.9)	-	-	にぶい黄緑	砂粒微量		
353	A02	遺構外	南側I層	須恵器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(2.6)	7.0	7.0	灰白	砂粒微量		
354	A02	遺構外	南側II層	須恵器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.4)	7.0	7.0	灰白	砂粒微量		
355	A02	遺構外	南側埋土下層	須恵器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	13.6	(3.9)	-	-	灰白	砂粒微量		
356	A02	SD08	埋土	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	13.2	5.1	6.0	明焼	砂粒少量			
357	A03	遺構外	南側クライ化層	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	-	(1.8)	6.8	6.8	にぶい黄緑	砂粒少量	外面に黒付着?	
358	A03	遺構外	南側クライ化層	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	13.7	4.1	5.4	にぶい黄緑	砂粒少量			
359	A03	遺構外	南側クライ化層	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	13.4	4.0	6.0	にぶい黄緑	砂粒少量			
360	A03	遺構外	南側クライ化層	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.9)	6.6	6.6	にぶい黄緑	砂粒少量	底部に黒付「中」?	
361	A03	遺構外	南側クライ化層	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(2.0)	5.6	5.6	にぶい黄緑	砂粒少量		
362	A03	遺構外	南側クライ化層	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(2.8)	-	-	にぶい黄緑	砂粒少量	外面に黒付?	
363	A03	遺構外	南側クライ化層	土師器	台付杯	○	内面	ナズ	回転ナズ	回転ナズ	○	○	13.0	3.8	5.6	焼	砂粒少量			
364	A03	遺構外	南側クライ化層	土師器	台付杯	○	内面	ナズ	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(2.5)	7.8	7.8	にぶい黄緑	砂粒少量		
365	A03	遺構外	I層	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.2)	5.4	5.4	焼	砂粒少量		
366	A03	遺構外	クライ化層	須恵器	壺	○	内面	高台	回転ナズ	ナズ	-	○	-	(5.4)	9.9	9.9	焼	砂粒少量		
367	A03	SX02	赤褐色土層上面	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(2.3)	5.3	5.3	にぶい黄緑	砂粒少量		
368	A03	SX02	上層	土師器	杯	○	内面	ケズリ	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(2.2)	6.8	6.8	にぶい黄緑	砂粒微量		
369	A03	SX02	赤褐色土層上面	土師器	杯	○	内面	ケズリ	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.5)	5.5	5.5	にぶい黄緑	砂粒微量		
370	A03	SX02	上層	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	13.8	4.7	6.5	にぶい黄緑	砂粒微量			
371	A03	SX02	上層	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(2.4)	6.0	6.0	にぶい黄緑	砂粒微量		
372	A03	SX02	上層	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.4)	5.0	5.0	にぶい黄緑	砂粒微量		
373	A03	SX02	上層	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(4.0)	6.4	6.4	にぶい黄緑	砂粒微量、小礫少許		
374	A03	SX02	上層	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	13.2	3.3	6.9	にぶい黄緑	砂粒微量			
375	A03	SX02	赤褐色土層上面	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ、ケズリ	ナズ	-	○	-	(3.3)	6.0	6.0	にぶい黄緑	砂粒少量		
376	A03	SX02	トレンチ	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.7)	5.6	5.6	にぶい黄緑	砂粒微量		
377	A03	SX02	トレンチ	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(3.8)	4.8	4.8	にぶい黄緑	砂粒微量		
378	A03	SX02	トレンチ	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	14.2	3.5	8.0	灰黄褐	砂粒微量			
379	A03	SX02	トレンチ	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.6)	7.2	7.2	焼	砂粒微量		
380	A03	SX02	下層	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ、ケズリ	ナズ	○	○	12.1	3.8	6.6	にぶい黄緑	砂粒少量			
381	A03	SX02	下層	土師器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	13.8	3.8	7.8	灰白	砂粒少量			
382	A03	SX02	上層	土師器	杯	○	内面	回転糸切り	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.7)	6.7	6.7	焼	砂粒微量		
383	A03	SX02	トレンチ	土師器	杯	○	内面	ナズ	回転ナズ	回転ナズ	○	○	12.3	6.0	4.9	にぶい黄緑	砂粒少量	内外面にケール付着		
384	A03	SX02	赤褐色土層上面	土師器	台付杯	○	内面	ナズ	回転ナズ	回転ナズ	-	○	-	(1.8)	4.8	4.8	にぶい黄緑	砂粒少量		
385	A03	SX02	トレンチ	土師器	長胴甕	○	内面	ナズ	回転ナズ、ケズリ	ナズ	○	○	22.2	(13.5)	-	-	にぶい黄緑	砂粒少量		
386	A03	SX02	赤褐色土層上面	土師器	長胴甕		内面	ナズ	ケズリ	ミガキ	-	○	-	(3.9)	8.2	8.2	にぶい黄緑	砂粒やや多量		
387	A03	SX02	赤褐色土層上面	土師器	長胴甕		内面	ナズ	ケズリ	ミガキ	-	○	-	(3.2)	3.9	3.9	にぶい黄緑	砂粒少量		
388	A03	SX02	クライ化層	土師器	長胴甕		内面	砂底	ナズ	ナズ	-	○	-	(4.2)	11.0	11.0	にぶい黄緑	砂粒多量		
389	A03	SX02	下層	土師器	長胴甕		内面	木葉痕	ケズリ	ナズ	-	○	-	(15.5)	10.2	10.2	にぶい黄緑	砂粒やや多量		
390	A03	SX02	上層	土師器	長胴甕		内面	木葉痕	ナズ	ナズ	-	○	-	(3.3)	10.0	10.0	灰白	砂粒やや多量		
391	A03	SX02	トレンチ	土師器	長胴甕		内面	木葉痕	ナズ	ナズ	-	○	-	(2.9)	8.4	8.4	にぶい黄緑	砂粒少量		
392	A03	SX02	上層	土師器	長胴甕		内面	ナズ	ケズリ	ナズ	○	○	19.8	(20.8)	-	-	にぶい黄緑	砂粒少量		
393	A03	SX02	下層	土師器	長胴甕		内面	ケズリ	ナズ	ナズ	○	○	20.7	(15.5)	-	-	にぶい黄緑	砂粒やや多量		
394	A03	SX02	上層	土師器	甕		内面	ナズ	ナズ	ナズ	-	○	-	(3.5)	6.6	6.6	灰白	砂粒やや多量		
395	A03	SX02	上層	土師器	甕		内面	ナズ	ケズリ	ハケメ	○	○	16.8	17.3	8.8	灰黄褐	砂粒やや多量			
396	A03	SX02	下層	土師器	甕		内面	ナズ	ケズリ	ナズ	-	○	-	(2.4)	8.0	8.0	にぶい黄緑	砂粒やや多量		
397	A03	SX02	上層	土師器	甕		内面	木葉痕	ケズリ	ナズ	-	○	-	(2.4)	8.2	8.2	にぶい黄緑	砂粒やや多量		
398	A03	SX02	トレンチ	土師器	甕		内面	ナズ	ケズリ	ナズ	-	○	-	(1.4)	8.0	8.0	焼	砂粒やや多量		
399	A03	SX02	赤褐色土層上面	土師器	小形土器		内面	ナズ	ケズリ	ナズ	-	○	-	(3.0)	4.0	4.0	灰白	砂粒少量		
400	A03	SX02	上層	土師器	小形土器		内面	ナズ	ケズリ	ナズ	-	○	-	4.0	(2.0)	-	-	灰白	砂粒やや多量	
401	A03	SX02	上層	須恵器	杯	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナズ	回転ナズ	○	○	12.6	3.9	6.2	灰白	砂粒やや多量			

No	出土 区域	出土地点	層位など	種別	器種	クロク 使用	黒色 処理	底部外面調整	体部外面調整	体部内面調整	口縁 残存	底部 残存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土の 色調	胎土の 混入物	備考
402	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	12.4	2.9	6.6	灰白		
403	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(1.1)	6.2	灰白		底部に墨書?
404	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(1.5)	6.0	灰		底部に墨書
405	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.0	4.2	6.8	灰白	砂粒少量	
406	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	12.7	3.2	7.0	灰白	砂粒少量	底部に墨書
407	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	12.7	3.4	6.5	灰白	砂粒少量	内外面にタール付着
408	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	12.4	2.9	6.2	灰		
409	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	12.4	3.6	6.7	灰		
410	A03 SX02	トレンナ	須恵器	須恵器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(2.2)	6.0	灰		
411	A03 SX02	グライ化層	須恵器	須恵器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(1.7)	5.5	灰		
412	A03 SX02	トレンナ	須恵器	須恵器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(1.3)	7.0	灰白	砂粒少量	
413	A03 SX02	赤褐色土層上面	須恵器	須恵器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(1.8)	6.0	灰		
414	A03 SX02	赤褐色土層上面	須恵器	須恵器	環	○		ケズリ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.2	3.7	7.0	灰白	砂粒少量	
415	A03 SX02	トレンナ	須恵器	須恵器	環	○		ケズリ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(2.0)	6.6	灰		
416	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	壺	○		ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(3.0)	7.2	灰白		
417	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	壺	○		—	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.4	(3.9)	—	灰		
418	A03 SX02	上層	須恵器	須恵器	壺	○		—	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(17.4)	10.8	灰		
419	A03 SX02	下層	須恵器	須恵器	大甕	○		—	回転ナデ、ケズリ、タタキメ	回転ナデ	○	○	—	—	—	灰		
420	B02 遺構外	南側II層	須恵器	須恵器	環	○		回転ヘラ切り	回転ナデ、ケズリ、波状文	回転ナデ	○	○	—	(1.0)	6.0	にぶい黄橙		
421	B02 S02	カマド付近南東	土師器	土師器	環	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナデ	ミガキ	○	○	15.2	6.2	7.3	灰黄褐		
422	B02 S02	東ト北	土師器	土師器	環	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナデ	ミガキ	○	○	13.4	5.6	6.3	にぶい橙	砂粒少量	
423	B02 S02	東隣付近	土師器	土師器	環	○	内面	回転糸切り	回転ナデ	ミガキ	○	○	13.2	5.4	6.0	橙	砂粒多量	
424	B02 S02	床面	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	12.8	4.7	5.8	浅黄橙	砂粒微量	
425	B02 S02	カマド付近床面	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.2	5.5	5.0	橙		
426	B02 S02	カマド付近床面	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(4.0)	6.0	橙	砂粒少量	
427	B02 S02	南東床面	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.0	5.0	5.6	橙		
428	B02 S02	南東床面	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.2	5.4	6.1	橙		
429	B02 S02	南東床面	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.0	4.9	5.6	橙		
430	B02 S02	カマド付近南東	土師器	土師器	環	○		ケズリ	回転ナデ	ハケメ	○	○	11.2	5.5	5.6	橙	砂粒多量	底部に墨書
431	B02 S02	埋土下層	土師器	長胴甕				ナデ	ケズリ	ハケメ	○	○	—	(4.6)	9.4	橙	砂粒・小礫多量	
432	B02 S02	南東床面	土師器	長胴甕				ナデ	ケズリ	ナデ	○	○	—	(8.9)	11.0	橙	砂粒・小礫多量	SI05と接合
433	B02 S02	カマド付近床面	土師器	長胴甕				木葦痕	ケズリ	ハケメ	○	○	—	(3.4)	9.1	橙	砂粒多量	
434	B02 S02	南東埋土下層	土師器	長胴甕				木葉痕	ケズリ、ナデ	ナデ	○	○	19.7	33.4	8.5	橙	砂粒・小礫多量	
435	B02 S02	南東隅床面	土師器	長胴甕				木葉痕	ケズリ、ナデ	ナデ	○	○	19.8	34.2	10.2	橙	砂粒多量	
436	B02 S02	カマド煙出し	土師器	甕				ケズリ	ケズリ	? (磨滅)	○	○	—	(2.4)	6.0	橙	砂粒多量	
437	B02 S02	埋土下層	土師器	小形甕				ナデ	ケズリ	ナデ	○	○	16.0	16.4	9.5	明赤褐	砂粒少量	
438	B02 S02	カマド付近床面	土師器	小形甕				ナデ	ナデ	ハケメ	○	○	10.6	10.5	6.0	にぶい橙	砂粒多量	
439	B02 S02	東隣付近床面	土師器	小形甕				ナデ	ナデ	ナデ	○	○	8.2	8.0	5.4	橙	小礫やや多量	完形品 (215.1 g)
440	B02 S02	南東床面	須恵器	須恵器	壺	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.6	4.4	6.0	灰		
441	B02 S02	南東床面	須恵器	須恵器	壺	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.8	5.2	5.4	灰		
442	B02 S02	カマド付近床面	須恵器	須恵器	壺付環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	15.5	4.2	6.0	灰		
443	B02 S02	南東床面	須恵器	須恵器	壺	○		—	回転ナデ	回転ナデ	○	○	7.4	(3.1)	—	灰		
444	B02 S03	床面	土師器	土師器	壺	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	12.7	4.9	5.7	浅黄橙	砂粒少量	
445	B04 遺構外	II層	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(1.2)	6.1	橙		
446	B04 S05	カマド付近床面	土師器	土師器	環	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナデ、回転ケズリ	ミガキ	○	○	13.5	4.7	6.6	橙	砂粒微量	
447	B04 S05	カマド付近床面	土師器	土師器	環	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナデ、回転ケズリ	ミガキ	○	○	13.9	4.7	7.1	灰白	砂粒微量	完形品 (176.0 g)
448	B04 S05	埋土	土師器	土師器	環	○	内面	回転ヘラ切り	回転ナデ、回転ケズリ	ミガキ	○	○	13.6	5.2	6.9	にぶい黄橙	砂粒微量	
449	B04 S05	カマド付近床面	土師器	土師器	環	○	内面	回転糸切り	回転ナデ、回転ケズリ	ミガキ	○	○	13.2	6.4	4.3	にぶい橙	砂粒少量	
450	B04 S05	埋土	土師器	土師器	環	○	内面	ナデ	回転ナデ	ミガキ	○	○	14.2	5.8	6.2	にぶい濁	砂粒少量	
451	B04 S05	カマド付近床面	土師器	土師器	環	○	内面	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.6	4.0	5.8	橙	砂粒やや多量	
452	B04 S05	pit9埋土	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.6	4.4	7.6	灰白	砂粒やや多量	
453	B04 S05	埋土	土師器	土師器	環	○		回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.6	4.3	6.1	浅黄橙	砂粒少量	
454	B04 S05	カマド付近床面	土師器	長胴甕				ケズリ	ケズリ	ハケメ	○	○	22.5	29.9	9.4	明赤褐	砂粒やや多量	

No	出土区域	出土地点	層位など	種別	器種	ロクロ使用	黒色処理	底部外面調整	体部外面調整	体部内面調整	口縁残存	底部残存	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土の色調	胎土の混入物	備考	
455	B04 S105	pit9埋土	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(8.2)	8.2	橙	砂粒少量		
456	B04 S105	カマド焼土直上	土師器	長胴甕	木葉痕	カズリ	カズリ	カズリ	カズリ	ハケメ	○	○	—	(9.0)	9.4	浅黄橙	砂粒やや多量		
457	B04 S105	カマド付近床面	土師器	長胴甕	木葉痕	カズリ	カズリ	カズリ	カズリ	ハケメ	○	○	25.2	31.7	11.0	浅黄橙	砂粒やや多量	S106と接合	
458	B04 S105	pit9埋土	土師器	長胴甕	木葉痕	カズリ	カズリ	カズリ	カズリ	ナデ	○	○	—	(25.7)	8.3	にぶい黄橙	砂粒少量		
459	B04 S105	カマド付近床面	土師器	長胴甕	木葉痕、砂底	カズリ	カズリ	カズリ	カズリ	ハケメ	○	○	—	(10.8)	10.2	にぶい橙	砂粒多量		
460	B04 S105	カマド付近床面	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	21.0	(20.9)	—	橙	砂粒やや多量		
461	B04 S105	カマド付近床面	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(20.5)	—	にぶい橙	砂粒少量		
462	B04 S105	カマド付近床面	土師器	甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハケメ	○	○	15.6	(6.5)	—	赤褐	砂粒・小礫多量		
463	B04 S105	カマド付近床面	土師器	甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハケメ	○	○	17.3	(15.3)	—	明赤褐	砂粒やや多量		
464	B04 S105	カマド付近床面	土師器	小形甕	砂底	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	10.7	7.6	6.4	浅黄橙	砂粒やや多量		
465	B04 S105	カマド付近床面	須恵器	蓋	高台	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(11.8)	9.4	灰白	砂粒少量		
466	B04 SK034	埋土層	土師器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.2	6.7	4.4	灰白	砂粒多量		
467	C04 S106	埋土	土師器	長胴甕	木葉痕、砂底	カズリ	カズリ	カズリ	カズリ	ナデ	○	○	—	(8.7)	10.2	にぶい黄橙	砂粒多量		
468	C04 S106	埋土	須恵器	坏	回転糸切り	カズリ	カズリ	カズリ	カズリ	ハケメ	○	○	14.0	3.9	6.4	灰	小礫やや多量		
469	D02 SK28	埋土上層	土師器	長胴甕	カズリ	カズリ	カズリ	カズリ	カズリ	ハケメ	○	○	—	(9.0)	9.9	橙	砂粒・小礫多量	SK29と接合	
470	D02 SK28	埋土上層	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	19.2	35.0	8.7	にぶい橙	砂粒・小礫多量	底部に線刻	
471	D02 SK28	埋土上層	須恵器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.6	4.0	5.9	灰	砂粒多量		
751	A05 遺構外	I層	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(1.3)	8.6	にぶい黄橙	砂粒多量		
752	A06 S1101	埋土	土師器	長胴甕	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	17.4	(8.0)	—	橙	砂粒少量		
753	A08 S1103	カマド焼土直上	土師器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.8	4.8	7.0	にぶい黄橙	砂粒少量		
754	A08 S1103	カマド焼土直上	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	22.4	32.1	7.0	浅黄橙	砂粒多量		
755	A08 S1103	P01群	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(9.1)	10.2	浅黄橙	砂粒やや多量		
756	A08 S1103	P01群	土師器	長胴甕	砂底	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(31.1)	—	にぶい橙	砂粒多量		
757	A08 S1103	カマド焼土直上	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	22.6	(7.9)	8.1	浅黄橙	砂粒少量		
758	A08 S1103	埋土下層	土師器	甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	14.9	(9.4)	—	浅黄橙	砂粒やや多量	
759	A08 S1103	P03群	土師器	小形甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(9.3)	6.3	灰	砂粒少量		
760	A08 S1103	P02群	須恵器	甕	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	14.4	4.8	5.4	灰	砂粒少量		
761	A08 S1107	検出面	須恵器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.8	5.2	6.0	灰白	砂粒少量		
762	A08 S1107	検出面	須恵器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	16.6	4.7	6.8	灰黄橙	砂粒少量		
763	A10 S1104	P01群	土師器	坏	内面	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(2.8)	5.0	にぶい橙	砂粒少量		
764	A10 S1104	中央焼土付近	土師器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.4	4.7	4.4	にぶい黄橙	砂粒少量		
765	A10 S1104	pit1埋土	土師器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	13.2	(9.2)	—	明赤褐	砂粒少量		
766	A10 S1104	pit1埋土	土師器	小形甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(2.7)	8.8	にぶい黄橙	砂粒少量		
767	B05 遺構外	南側II層	土師器	長胴甕	木葉痕	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(4.7)	6.3	にぶい橙	砂粒やや多量		
768	B05 SK1102	埋土	土師器	坏	高台	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(2.5)	8.9	にぶい黄橙	砂粒少量		
769	B05 SK1102	埋土	土師器	长胴甕	高台	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(7.5)	10.8	灰白	砂粒少量		
770	B05 SK1102	埋土中層	須恵器	甕	回転ナデ、回転ケズリ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(1.0)	6.2	浅黄橙	砂粒少量		
771	B06 遺構外	I層	土師器	坏	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(3.0)	5.2	にぶい橙	砂粒微量	完形品(116.4g)	
772	C08 SK103	埋土	土師器	坏	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	12.6	3.7	6.7	にぶい橙	小礫やや多量	スス、コゲ付着	
773	C09 SX106	埋土	土師器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	20.8	29.5	10.1	にぶい橙	砂粒微量		
774	C09 SX106	検出面	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	(2.0)	5.8	にぶい橙	砂粒微量		
775	C09 SX106	埋土	須恵器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	17.7	(23.7)	—	にぶい黄橙	砂粒やや多量	SNI02と接合	
776	C10 SK128	埋土	土師器	長胴甕	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	10.6	3.4	5.2	にぶい橙	砂粒やや多量、小礫少量		
777	C10 SK133	ベルト	土師器	坏	回転糸切り	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	21.8	29.2	10.7	にぶい黄橙	砂粒やや多量、小礫少量		
778	C10 SK1101	南側床面	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	16.9	24.7	11.6	にぶい黄橙	砂粒微量		
779	C10 SK1101	北側床面	土師器	甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	15.2	4.3	5.5	にぶい黄橙	砂粒微量		
780	C10 SNI01	焼土付近	土師器	坏	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	—	(5.1)	7.8	にぶい赤褐	砂粒微量		
781	C10 SNI101	焼土付近	土師器	甕	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	○	○	21.1	25.8	8.8	橙	砂粒やや多量		
782	C10 SNI102	焼土直上	土師器	長胴甕	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	○	○	—	—	—	明赤褐	砂粒やや多量、小礫少量		
783	C10 SNI102	焼土直上	土師器	長胴甕	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	○	○	—	(17.0)	—	にぶい橙	砂粒やや多量	SK133	
784	C10 SNI102	焼土直上	土師器	長胴甕	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	○	○	20.5	(26.8)	—	橙	砂粒やや多量		
785	C10 SNI102	焼土直上	土師器	長胴甕	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	○	○	30.8	(8.0)	—	浅黄橙	砂粒やや多量	SKT116と接合	
786	C10 SNI102	焼土直上	土師器	鉢	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	○	○	—	(2.3)	12.2	灰	砂粒少量		
787	D07 遺構外	I層	土師器	長胴甕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	—	—	—	灰	砂粒少量		

第16表 20年度遺物観察表(中世土器)

No	出土区域	出土地点	層位など	ロクロ使用	器種	調整など	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土の色調	胎土の混入物	備考
501	B03	遺構外	西壁	○	大皿	底部回転糸切り	13.8	3.3	4.3	橙		
502	B03	遺構外	南端Ⅱ層		小皿	1段ナデ、面取りなし	8.3	2.0	?	橙		
503	B03	遺構外	西壁		小皿	1段ナデ、面取りなし	9.6	1.8	4.0	浅黄橙		
504	B03	P241	埋土上層	○	大皿	底部回転糸切り	14.2	3.9	7.6	橙		
505	B03	P241	I層	○	大皿	底部回転糸切り	13.6	3.6	7.0	橙	砂粒少量	完形品(215.8g)
506	B03	P241	I層	○	小皿	再調整	7.9	1.7	5.0	橙		
507	B03	P242	埋土Po.1	○	大皿	底部回転糸切り	12.4	3.5	6.6	橙		
508	B03	P242	埋土Po.2	○	大皿	底部回転糸切り	12.7	3.4	6.3	橙		
509	B03	P242	埋土Po.3	○	大皿	底部回転糸切り	12.4	3.7	7.6	橙		
510	B03	P242	埋土Po.4	○	大皿	底部回転糸切り	13.4	3.3	6.7	橙		
511	B03	P242	埋土Po.5	○	大皿	底部回転糸切り	12.5	2.9	6.3	橙		完形品(136.7g)
512	B03	P242	埋土Po.6	○	大皿	底部回転糸切り	14.2	4.6	7.6	橙		完形品(199.0g)
513	B03	P242	I層	○	大皿	底部回転糸切り	14.5	3.8	8.1	橙		完形品(242.1g)
514	B03	P242	I層	○	大皿	底部回転糸切り	-	(2.2)	8.8	橙		
515	B03	P242	I層	○	小皿	底部回転糸切り	7.8	2.0	6.0	橙	砂粒少量	完形品(57.3g)
516	B03	SD11	埋土上層	○	小皿	底部回転糸切り	8.9	2.0	6.4	橙	砂粒微量	
517	B03	SD11	埋土上層	○	小皿	底部回転糸切り	9.0	1.6	7.4	橙	砂粒微量	
518	B03	SD11	埋土上層		大皿	2段ナデ、面取りなし	14.0	3.6	?	橙		完形品(179.9g)
519	B03	SD11	埋土上層		小皿	2段ナデ、面取りなし	8.6	1.9	6.7	橙		
520	B03	SD11	埋土上層		小皿	2段ナデ、面取りなし	8.6	1.9	?	橙		
521	D02	SD30	埋土下層	○	小皿	底部回転糸切り	8.4	2.2	5.6	明赤褐		
801	B06	遺構外	Ⅱ層	○	碗	底部回転糸切り	13.4	4.5	7.0	橙		
802	B06	遺構外	Ⅱ層	○	碗	底部回転糸切り	-	(2.1)	-	橙		
803	B06	遺構外	Ⅱ層	○	大皿	底部回転糸切り	-	(2.5)	6.6	橙		
804	B06	遺構外	Ⅱ層	○	小皿	底部回転糸切り	7.6	1.8	6.6	にぶい黄橙		
805	B06	遺構外	Ⅱ層	○	小皿	底部回転糸切り	7.4	1.8	6.0	にぶい橙		
806	B06	遺構外	Ⅱ層	○	小皿	底部回転糸切り	-	(1.2)	5.7	にぶい橙		
807	B06	遺構外	Ⅱ層	○	小皿	? (磨滅)	7.4	1.9	6.0	橙		
808	B07	SD110	埋土上層	○	台付	底部回転糸切り	15.0	5.1	7.1	にぶい橙	砂粒少量	高台面取りあり
809	C10	SK1104	埋土	○	小皿	底部回転糸切り	9.4	2.6	4.4	浅黄橙	砂粒多量	
810	D09	SK124	底面		大皿	2段ナデ、面取りあり	15.1	3.8	-	橙		
811	D09	SK124	埋土下層		大皿	2段ナデ、面取りなし	16.0	(3.1)	-	橙		
812	D09	SK124	底面		大皿	2~3段ナデ、面取りあり	14.9	(3.5)	-	橙		
813	D09	SK124	底面		大皿	3段ナデ、面取りなし	15.5	(3.6)	-	橙		
814	D09	SK124	底面		大皿	3段ナデ、面取りなし	15.6	(3.3)	-	橙		
815	D09	SK124	底面		大皿	3段ナデ、面取りなし	15.3	3.7	-	橙		
816	D09	SK124	埋土下層		大皿	3段ナデ、面取りなし	14.8	3.8	-	橙		
817	D09	SK124	埋土下層		大皿	3段ナデ、面取りなし	15.6	3.5	-	橙		
818	D09	SK124	埋土下層		大皿	3段ナデ、面取りなし	15.5	(3.2)	-	橙		
819	D09	SK124	埋土下層		大皿	3段ナデ、面取りなし	15.0	(3.0)	-	橙		
820	D09	SK124	底面		小皿	1段ナデ、面取りなし	10.0	(2.1)	-	にぶい橙		
821	D09	SK124	底面		小皿	2段ナデ、面取りなし	10.3	2.4	-	橙		
822	D09	SK124	底面		小皿	2段ナデ、面取りなし	9.4	1.5	-	橙		
823	D09	SK124	埋土下層		小皿	2段ナデ、面取りなし	8.3	2.0	-	橙		
824	D09	SK124	底面		小皿	2段ナデ、面取りなし	10.0	(2.2)	-	橙		
825	D09	SK124	埋土下層		小皿	2段ナデ、面取りなし	9.8	(2.1)	-	橙		
826	D09	SK124	底面		小皿	3段ナデ、面取りなし	10.4	2.2	-	浅黄橙		
827	D09	SK124	埋土下層		小皿	3段ナデ、面取りなし	9.8	2.4	-	橙		
828	D09	SK124	埋土下層		小皿	3段ナデ、面取りなし	9.1	2.3	-	橙		
829	D09	SK124	底面		小皿	3段ナデ、面取りなし	9.5	2.3	-	橙		完形品(65.8g)
830	D09	SK124	底面		小皿	3段ナデ、面取りなし	10.3	2.3	-	橙		完形品(80.0g)
831	D09	SK124	埋土下層		小皿	3段ナデ、面取りなし	10.2	2.5	-	橙		
832	D09	SK124	埋土下層		小皿	3段ナデ、面取りなし	10.0	2.2	-	橙		
833	D09	SK124	埋土下層		小皿	3段ナデ、面取りなし	9.6	2.4	-	橙		
834	D09	SK124	埋土下層		小皿	3段ナデ、面取りなし	10.6	(2.0)	-	橙		

* () のついている数値は、残存値であることを示す。

第17表 20年度遺物観察表(陶磁器)

No	出土区域	出土地点	層位など	産地	種別	器種	釉薬	胎土の色調	調整など	口径残存	底径残存	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	時期
551	A01	遺構外	I層	中国産	白磁	碗	あり	灰白		-	-	-	-	-	12世紀
552	A01	遺構外	I層	渥美産	陶器	壺	なし	灰		-	-	-	-	-	12世紀
553	A01	遺構外	表探	常滑産	陶器	壺	なし	橙	外面押印文	-	-	-	-	-	12世紀
554	A02	遺構外	中央トレンチ	中国産(竜泉窯系)	青磁	端反碗	あり	褐灰		○	-	-	-	-	15世紀
555	A02	遺構外	南側トレンチ	常滑産	陶器	壺	緑釉	褐灰		○	-	-	(6.7)	-	12世紀
556	A02	SD01	底面	珠洲産?	須恵器系陶器	壺	なし	灰	外面回転ケズリ、底部静止糸切り後ケズリ	-	○	-	(7.9)	9.0	12世紀
557	A03	SD01	埋土下層	常滑産	陶器	三筋壺	なし	明赤褐	内面ナデ	-	○	-	(17.4)	7.9	12世紀
558	A03	SD01	埋土	常滑産	陶器	壺	なし	褐灰	外面回転ナデ、内面ナデ	○	-	-	(4.5)	-	12世紀
559	A03	SD01	埋土上層	渥美産	陶器	壺	なし	褐灰	外面押印文	-	-	-	-	-	12世紀
560	A03	遺構外	北側Ⅳ層上面	中国産	白磁	壺類	あり	灰白		-	-	-	-	-	12世紀
561	A03	遺構外	I層	中国産(竜泉窯系)	青磁	碗	あり	灰白	雷文帯	○	-	-	-	-	15世紀
562	A03	遺構外	I層	在地産(渥美産?)	陶器	片口鉢	なし	にぶい赤褐	底部回転糸切り後高台貼り付け	-	○	-	(5.3)	12.3	12世紀
563	A03	遺構外	I層	常滑産(渥美産?)	陶器	壺	あり	褐灰		-	-	-	-	-	12世紀
564	B03	遺構外	中央Ⅲ層上面	常滑産(渥美産?)	陶器	壺	なし	灰		-	-	-	-	-	12世紀
565	B03	SD16	埋土	常滑産	陶器	壺	なし	灰		-	-	-	-	-	12世紀
566	D02	SD31	埋土	中国産?	陶器	壺	褐釉	灰		-	-	-	-	-	12世紀
851	A07	遺構外	北側トレンチ	珠洲産?	須恵器系陶器	壺	なし	灰	外面押印文	-	-	-	-	-	12世紀
852	A07	遺構外	Ⅳ層上面	在地産	陶器	播鉢	あり	灰	突帯	○	-	-	-	-	19世紀

* () のついている数値は、残存値であることを示す。

3 出土遺物

第18表 20年度遺物観察表（縄文土器）

No	出土 区域	出土地点	層位など	種別	器種	口縁 残存	底部 残存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面文様	内面 調整	胎土	時期	備考
301	A03	遺構外	グライ化層	縄文土器	深鉢	○	-	22.0	(15.5)	-	口：無文、胴：LR横	ナデ	やや密	大洞 C1 ~ C2	
302	A04	遺構外	IV層上面	縄文土器	浅鉢	○	-	-	(5.3)	-	口唇：突起・沈線、口縁： 平行沈線3条・粘土粒、口 縁内面：沈線、胴：LR横	ミガキ	密	大洞 A	摩滅 303と同一個体
303	A04	遺構外	IV層上面	縄文土器	浅鉢	○	-	-	(4.6)	-	302と同一	ミガキ	密	大洞 A	摩滅 302と同一個体
304	A04	遺構外	南側IV層上面	縄文土器	深鉢?	○	-	-	(4.9)	-	胴：LR横 沈線	?	やや密	大洞 C1	胎土に海綿骨針 スス付着
305	A04	遺構外	北側II層	縄文土器	鉢	○	-	-	(5.3)	-	口：RL横・LR横(羽状 縄文)・平行沈線	ミガキ	密	大洞 C1 ~ C2	
306	A04	遺構外	北端I層	縄文土器	深鉢	○	-	-	(9.0)	-	口：無文、胴：LR横	?	やや疎	大洞 A	内面に輪積痕 スス付着
701	A06	遺構外	南端III層	縄文土器	深鉢	-	○	-	(13.3)	7.4	口~胴：LR横	ナデ	やや疎	晩期	
702	A07	SK109	埋土上層	縄文土器	深鉢	-	○	-	(3.1)	7.4	胴：LR横、底：外周に粘 土貼り付け	ナデ	疎	晩期	
703	A07	遺構外	III層	縄文土器	浅鉢	○	-	18.4	(5.0)	-	口唇：沈線、口：L横	ミガキ	やや密	晩期	
704	A07	遺構外	III層	縄文土器	注口土器	○	-	-	(6.3)	-	胴：雲形文、B突起、刺突	ミガキ	密	大洞 C1	
705	C10	P1129	埋土	縄文土器	皿	○	-	-	-	-	口唇：小波状突起、口~胴： 雲形文、縄文縦、口縁内面： 隆帯	ミガキ	やや疎	大洞 C1	摩滅 705と同一個体
706	C10	P1129	埋土	縄文土器	皿	-	○	-	(3.7)	5.3	底面：沈線 胴：RL横	?	やや疎	大洞 C1	摩滅 706と同一個体
707	C10	SK130	埋土	縄文土器	壺	-	-	-	-	-	胴：LR横・雲形文	ナデ	密	大洞 C1	708と同一個体
708	C10	SK130	埋土	縄文土器	壺	○	-	6.4	(4.7)	-	口：無文、頸：平行沈線・ B突起	ミガキ	密	大洞 C1	707と同一個体
709	C10	SK130	埋土	縄文土器	壺	○	-	3.9	(4.3)	-	口唇内：沈線、頸：無文帯 の下に平行沈線	ナデ	疎	大洞 C1 ~ C2	

第19表 20年度遺物観察表（石器・石製品）

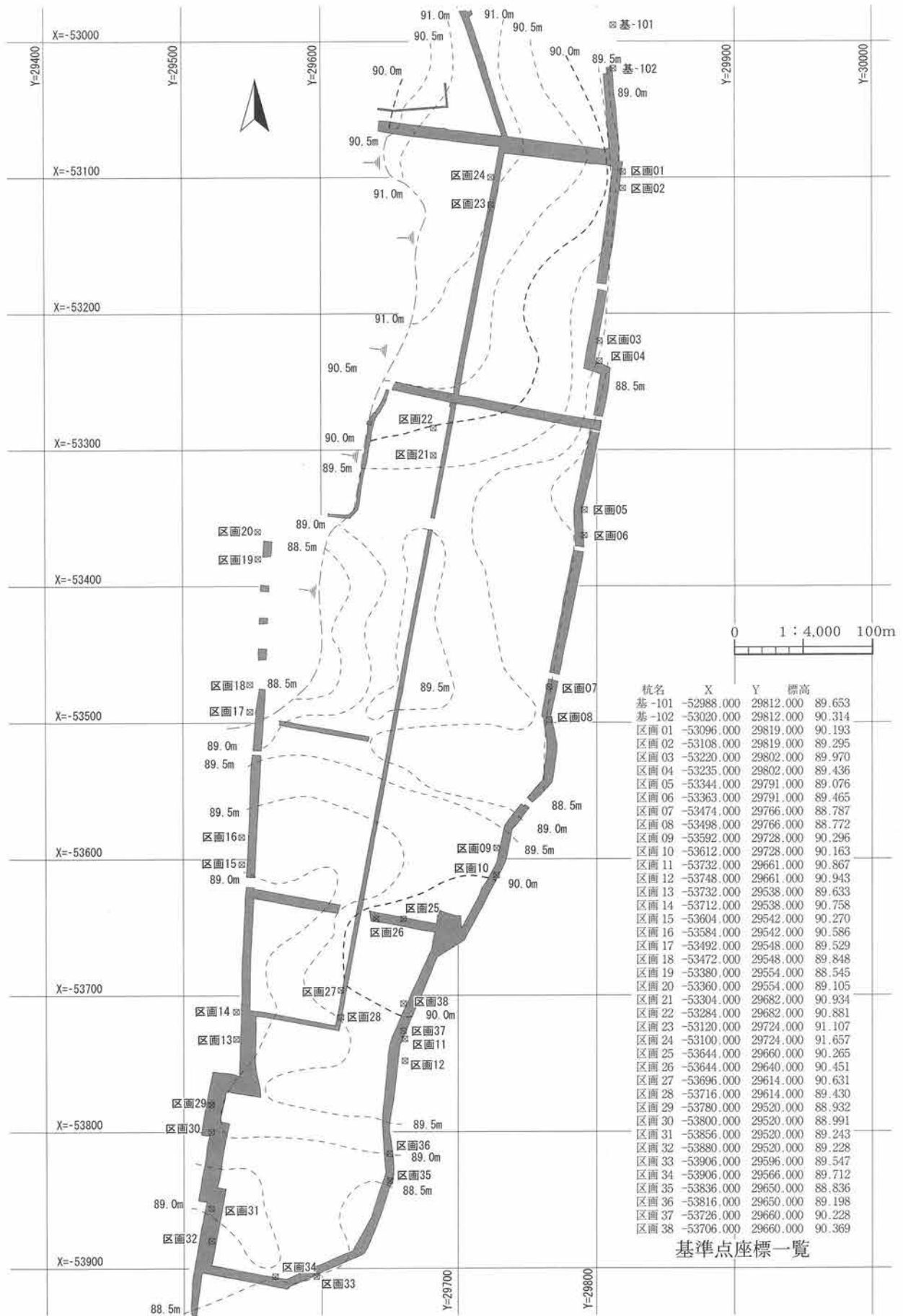
No	出土 区域	出土地点	出土層位	器種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地	時期	備考
601	A03	SK04	埋土上位	凹石	(7.9)	8.0	3.3	156.1	安山岩	岩手山	新生代第四期	
602	A03	遺構外	I層	砥石?	(4.5)	5.1	1.1	31.1	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三期	
603	A03	遺構外	III層	凹石	5.6	5.5	3.1	91.6	デイサイト	奥羽山脈	新生代新第三期	
604	A03	遺構外	南側灰層?直上	石鏃	3.8	1.4	0.5	1.8	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三期	
605	B03	SI04	埋土	砥石	17.3	8.6	7.1	584.7	安山岩	岩手山	新生代第四期	
606	D01	遺構外	西側IV層直上	石鏃	2.8	1.5	0.4	1.2	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三期	
607	D03	遺構外	西端I層	砥石?	(10.6)	6.4	1.7	95.4	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三期	
901	B05	SK1102	埋土	?	16.4	9.8	2.2	514.5	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三期	

※ () のついている数値は、残存値であることを示す。

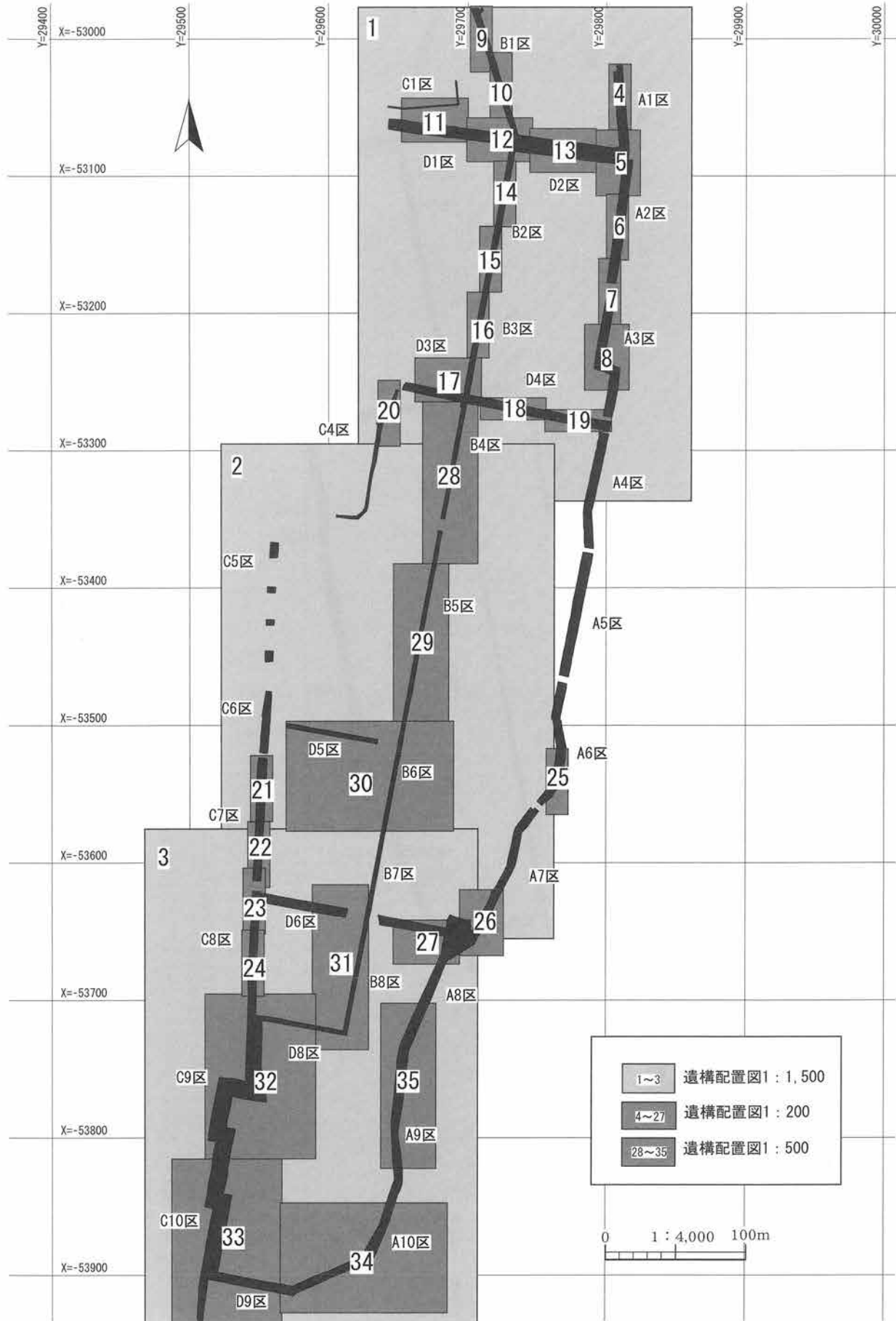
第20表 20年度遺物観察表（金属製品）

No	出土 区域	出土地点	層位など	器種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
651	A03	SD01	埋土上位	釘?	(14.5)	0.7	0.7	38.0	
652	A03	SD01	埋土上位	釘?	(5.8)	0.4	0.4	9.4	
653	A03	SD01	埋土上位	鏃?	(7.2)	2.9	1.0	19.6	
654	B02	SI02	床面	小刀	(39.5)	3.5	0.7		保存処理
655	B02	SI02	床面	刀子?	(13.5)	1.6	0.7	35.8	
656	B04	SI05	埋土	環状鉄製品	2.9	3.7	0.9	26.3	
657	C04	SI06	埋土	小刀	(9.8)	2.6	0.4	79.3	
658	D02	SK32	埋土	鉄鍋?	(12.2)	(7.2)	0.2	158.2	穴あり
659	D04	P456	埋土	寛永通寶			0.1	2.3	古寛永
660	D04	P456	埋土	寛永通寶			0.1	2.0	古寛永
661	D04	P456	埋土	寛永通寶			0.1	1.9	古寛永
662	D04	P513	埋土	寛永通寶			0.1	1.2	古寛永
951	C10	SK132	埋土	錫杖状鉄製品	(17.2)	5.4	0.4	31.0	951と953接合。
952	C10	SK132	埋土	錫杖状鉄製品	(18.0)	(5.2)	0.5	105.6	
953	C10	SK132	埋土	錫杖状鉄製品	-	-	-	67.6	951と953接合。
954	C10	SK132	埋土	管状	(4.7)	3.5	1.7	32.3	951・952の部品?
955	C10	SK132	埋土	管状	2.5	1.5	1.2	10.4	951・952の部品?
956	C10	SK132	埋土	管状	2.6	1.5	1.5	12.7	951・952の部品?
957	C10	SK133	埋土	鋤先	(9.2)	(3.9)	1.0	56.0	
958	C10	SK134	埋土	紡錘車	5.9	5.9	0.2	51.1	
959	C10	SK1101	床面	棒状	(7.3)	(1.2)	0.4	39.2	
960	C10	SN102	焼土直上	金具?	4.8	2.7	0.6	11.9	穴あり

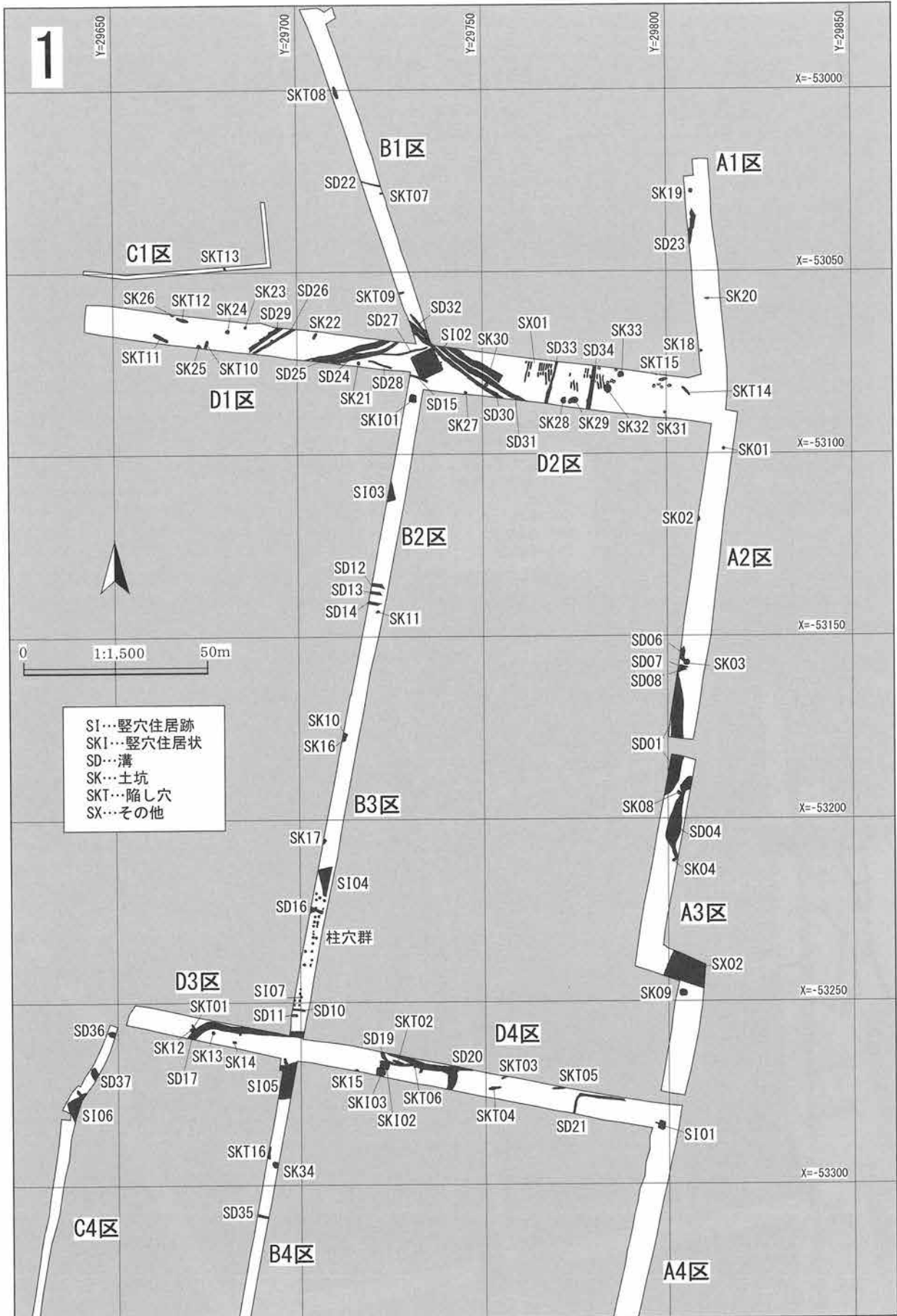
※ () のついている数値は、残存値であることを示す。



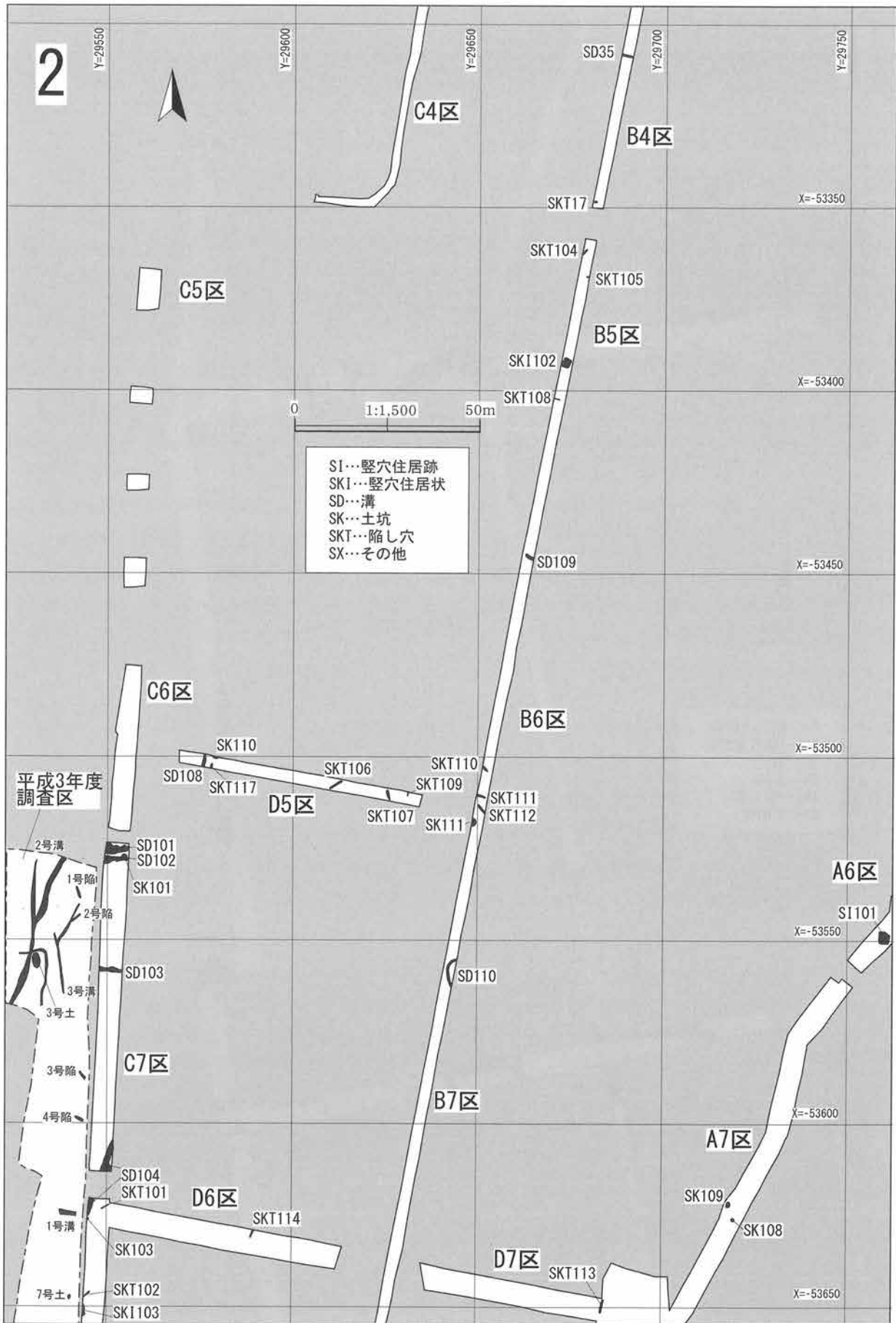
第 48 図 等高線、基準杭位置図



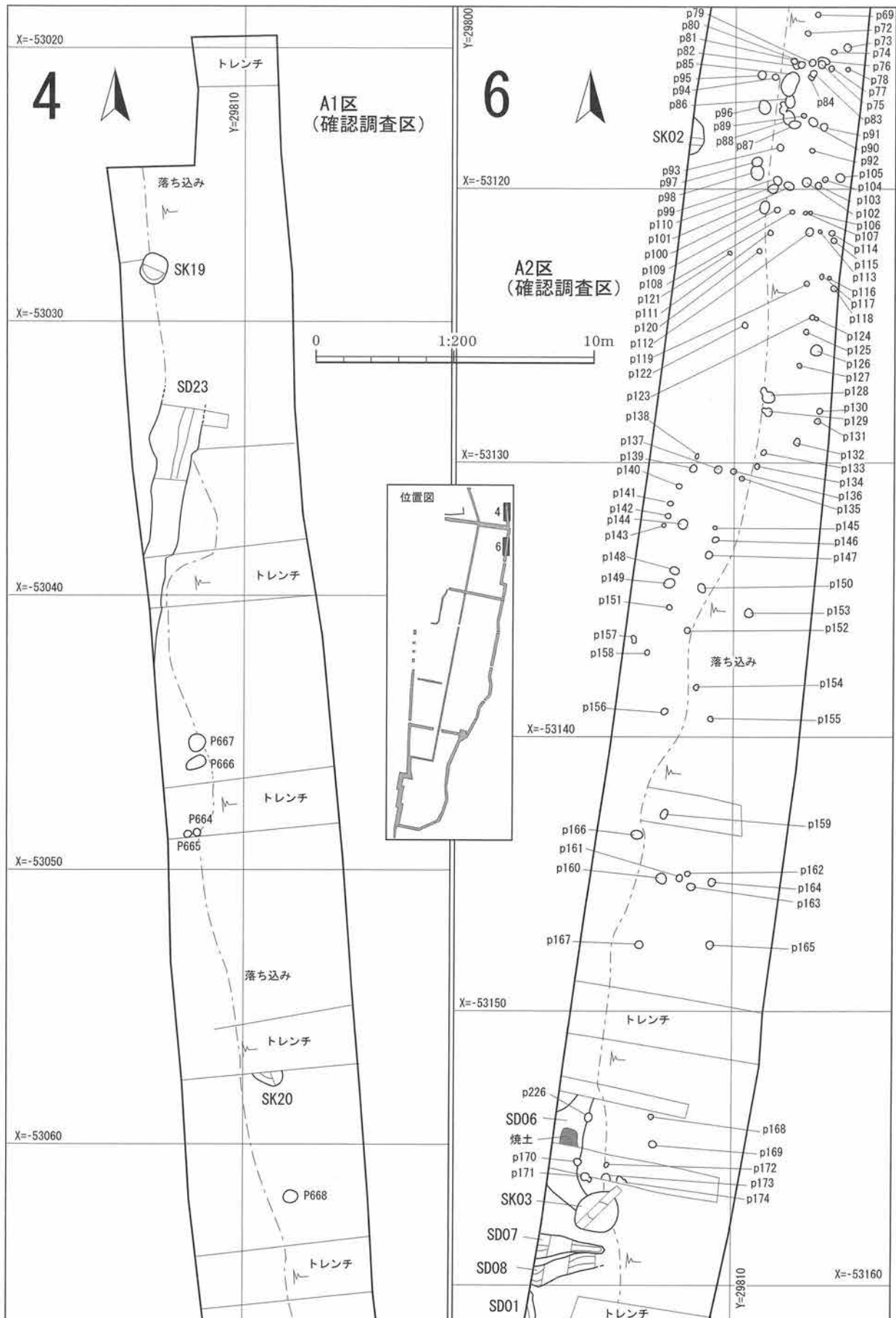
第 49 図 遺構配置図割付



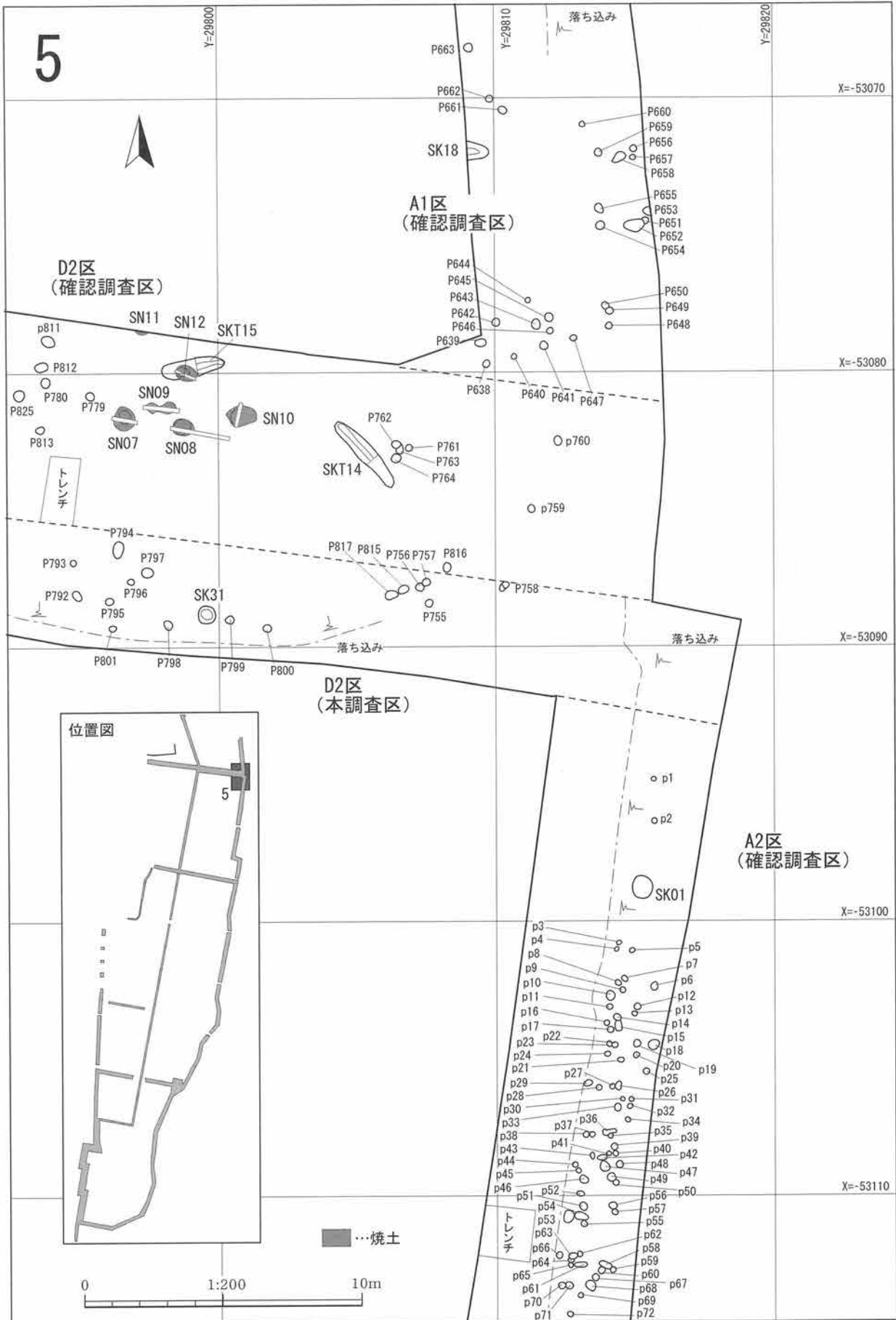
第 50 図 遺構配置図 1 (調査区北側)



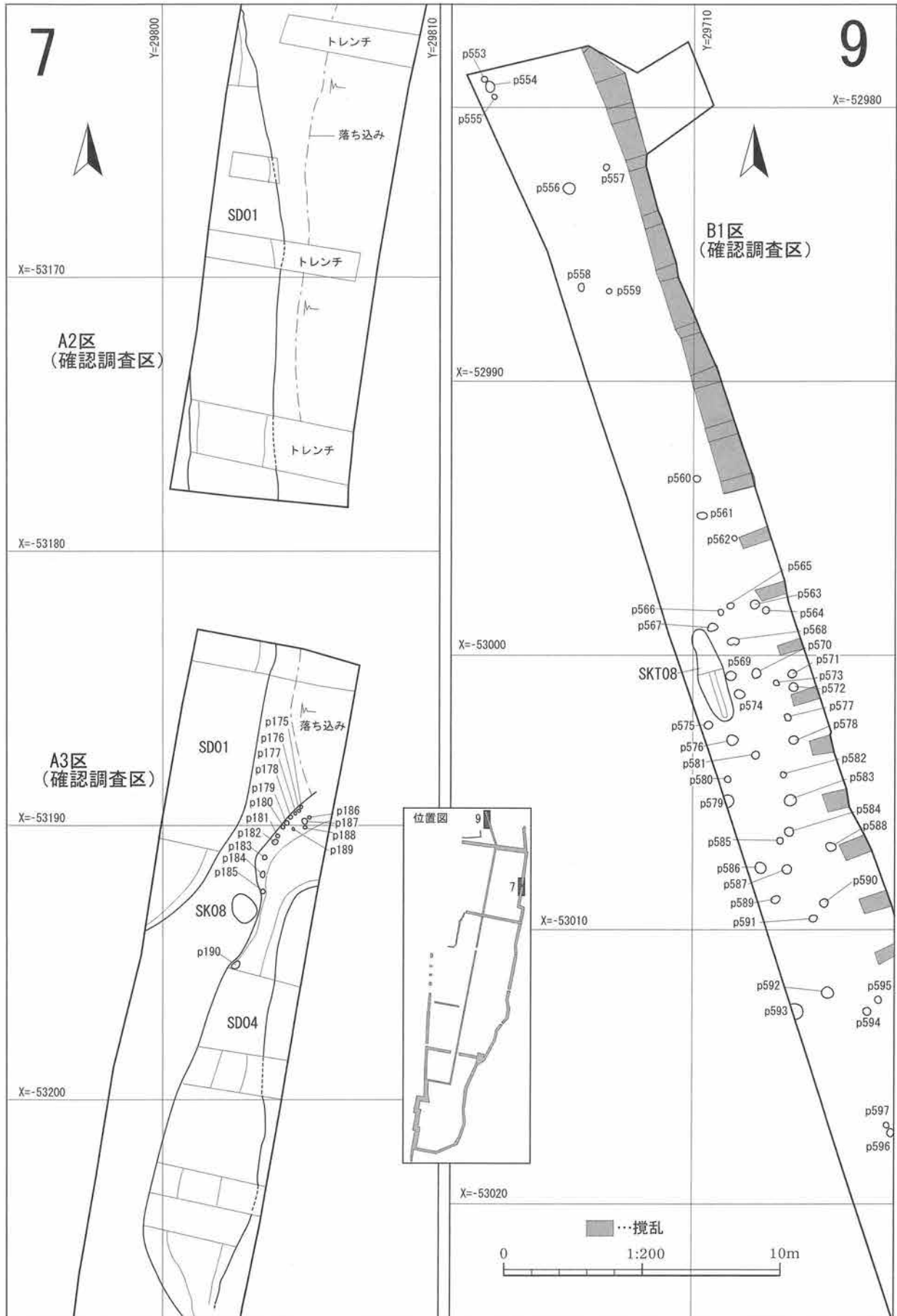
第51図 遺構配置図2(調査区中央)



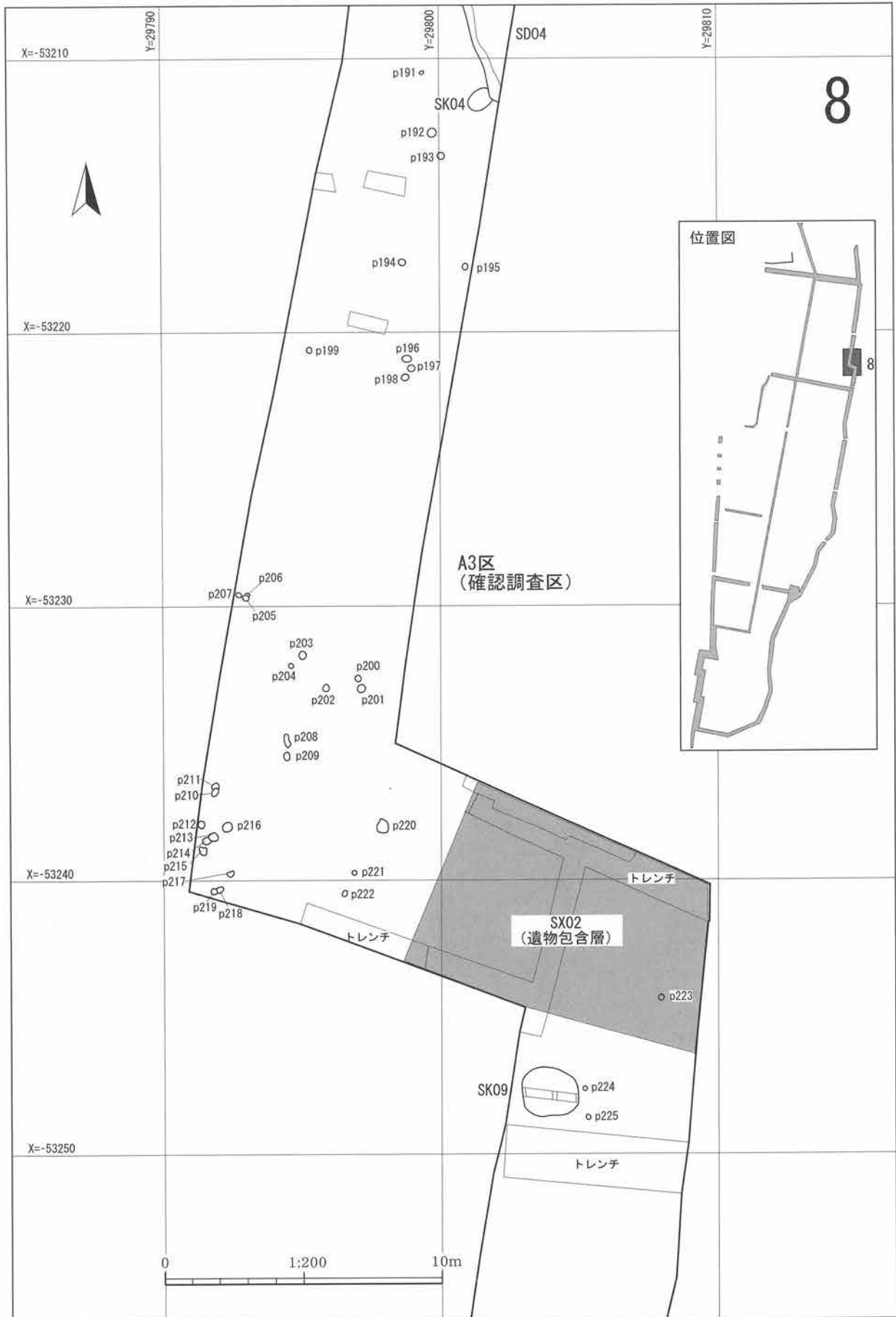
第 53 図 遺構配置図 4・6



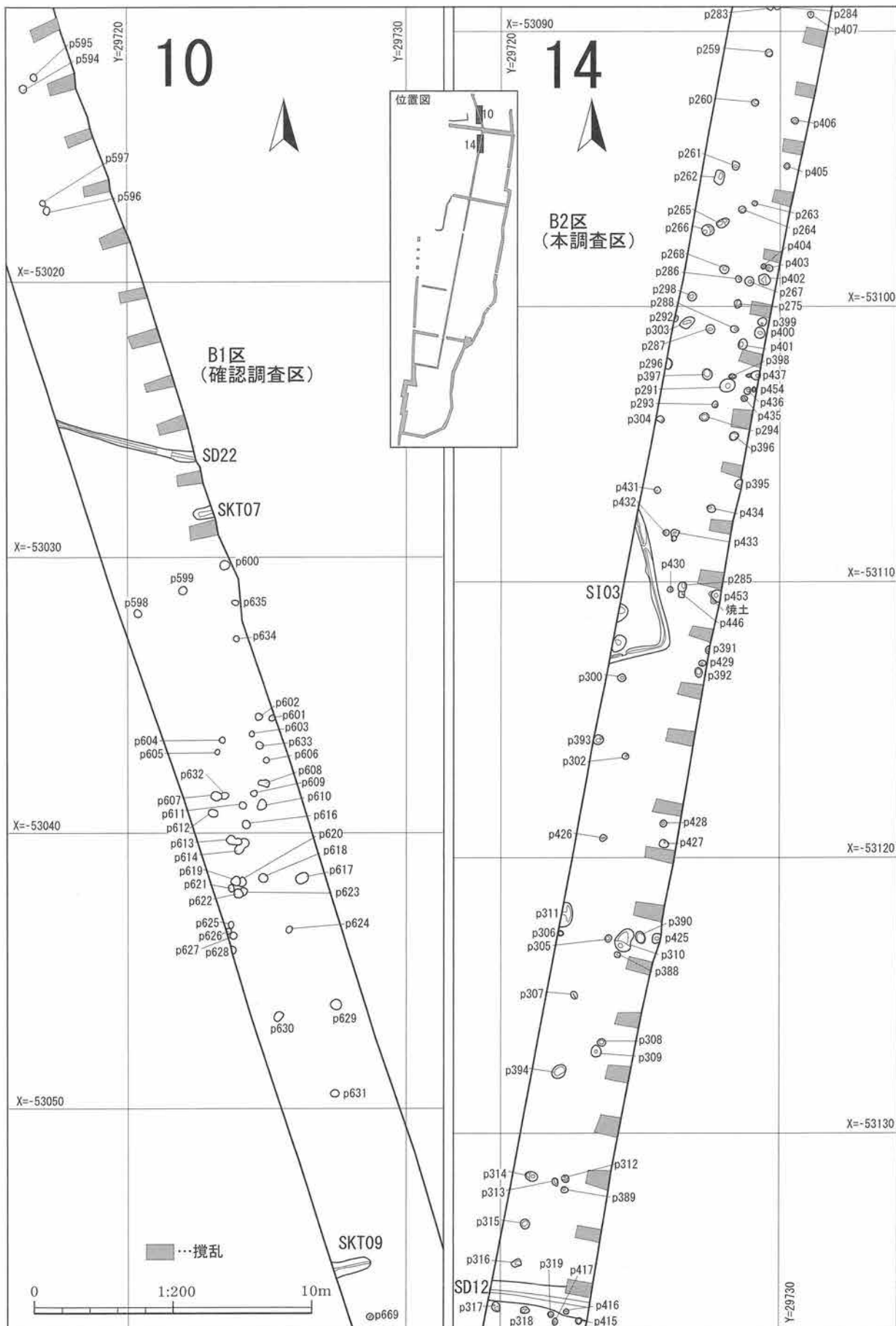
第 54 図 遺構配置図 5



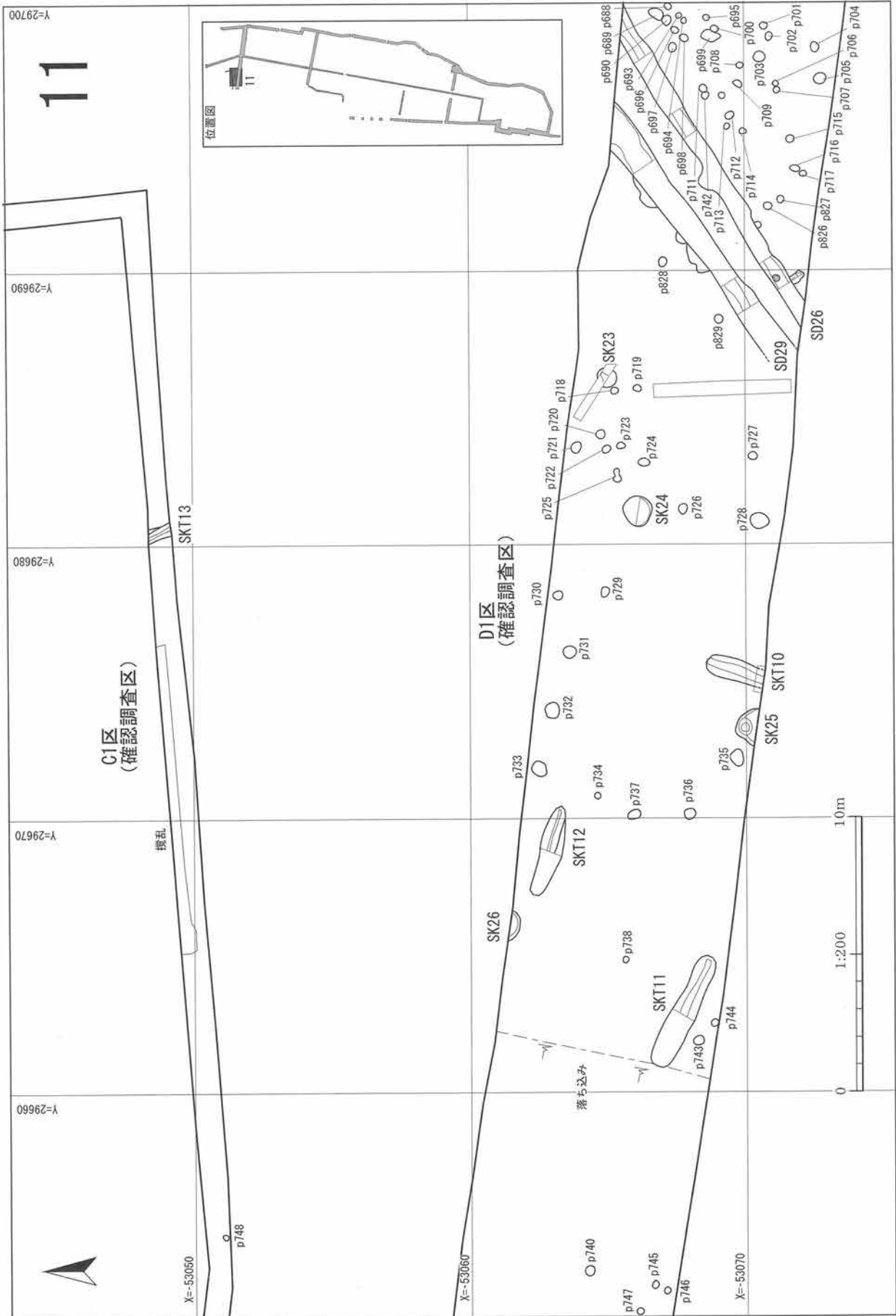
第55図 遺構配置図7・9



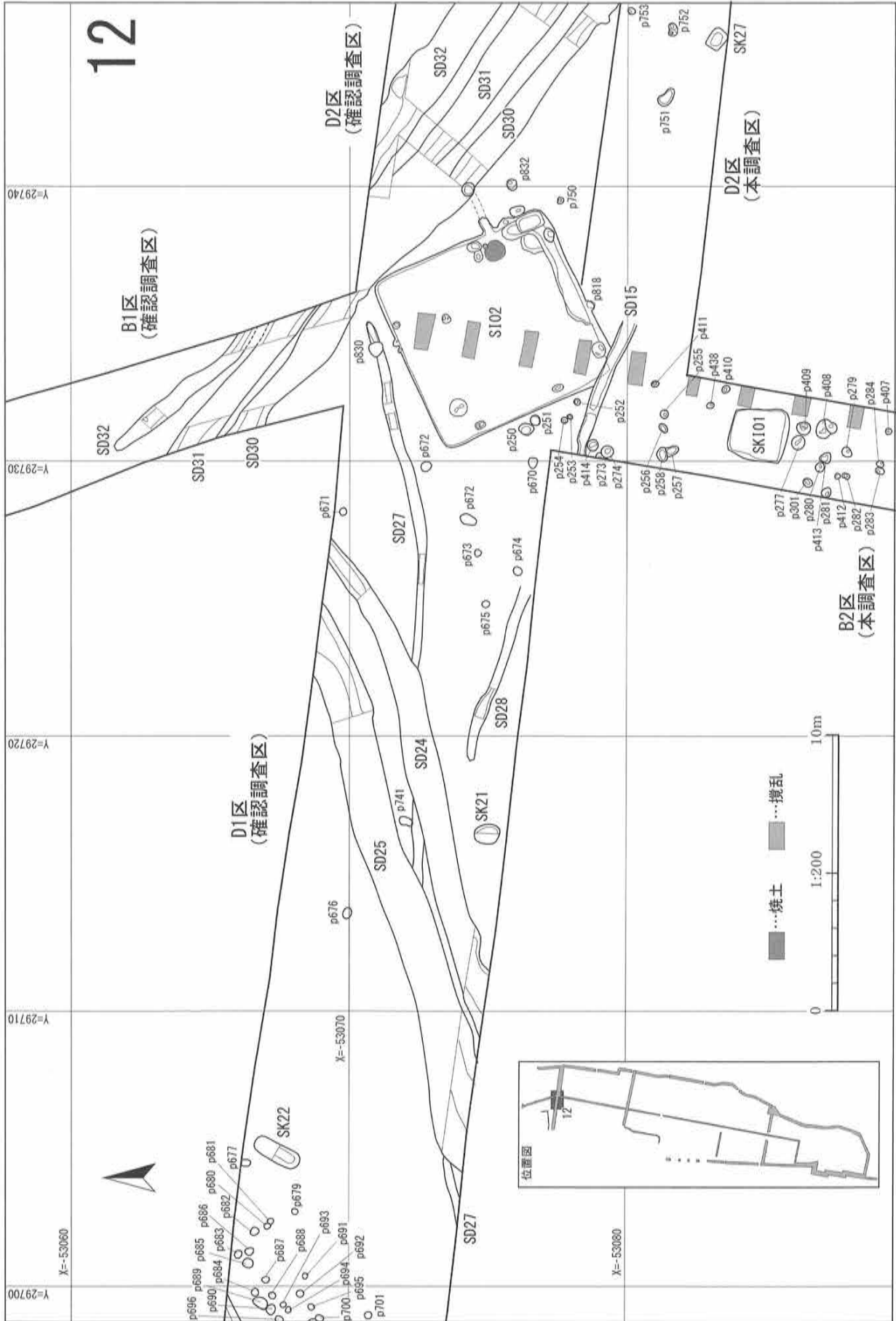
第 56 図 遺構配置図 8



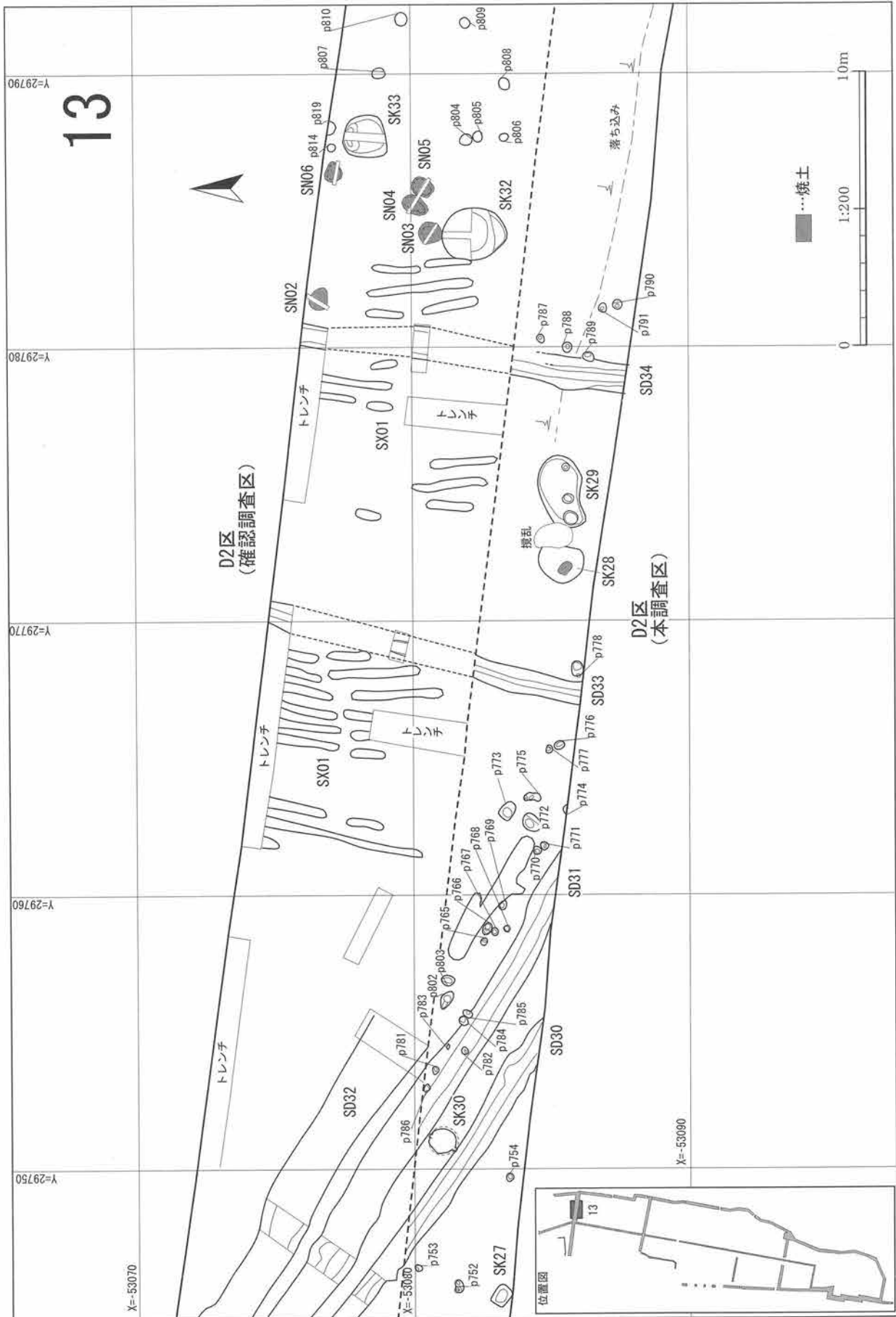
第 57 図 遺構配置図 10・14



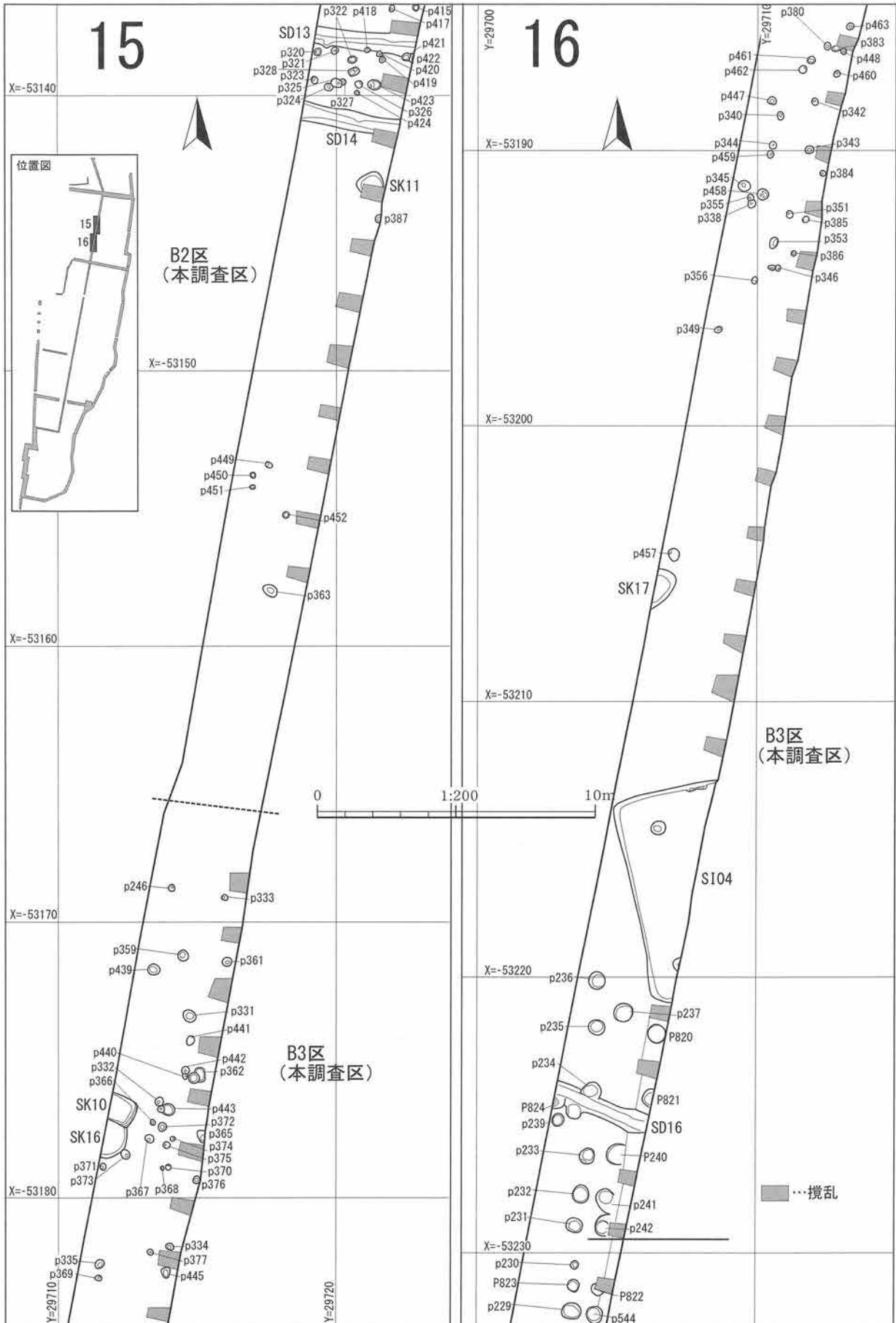
第 58 図 遺構配置図 11



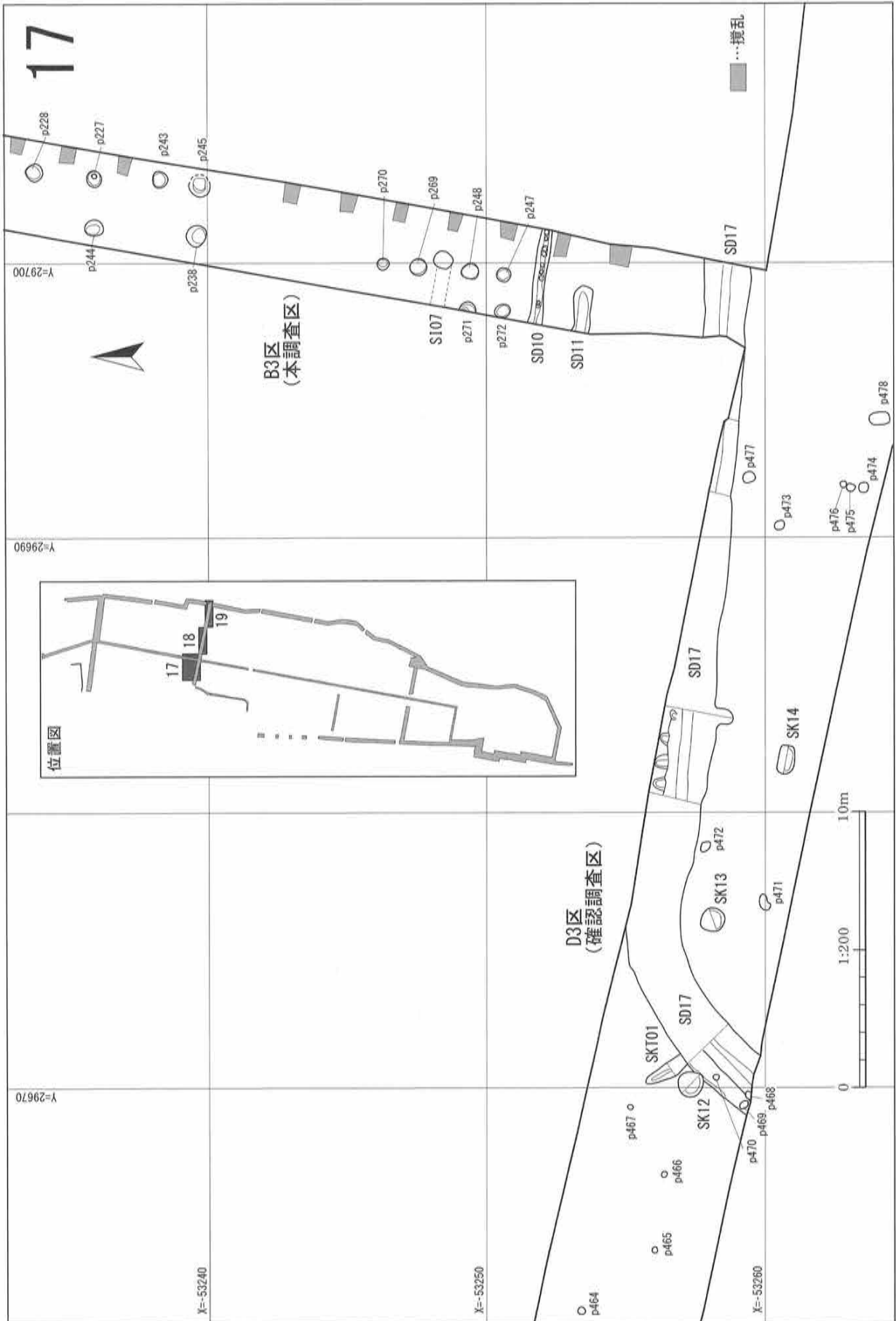
第 59 図 遺構配置図 12



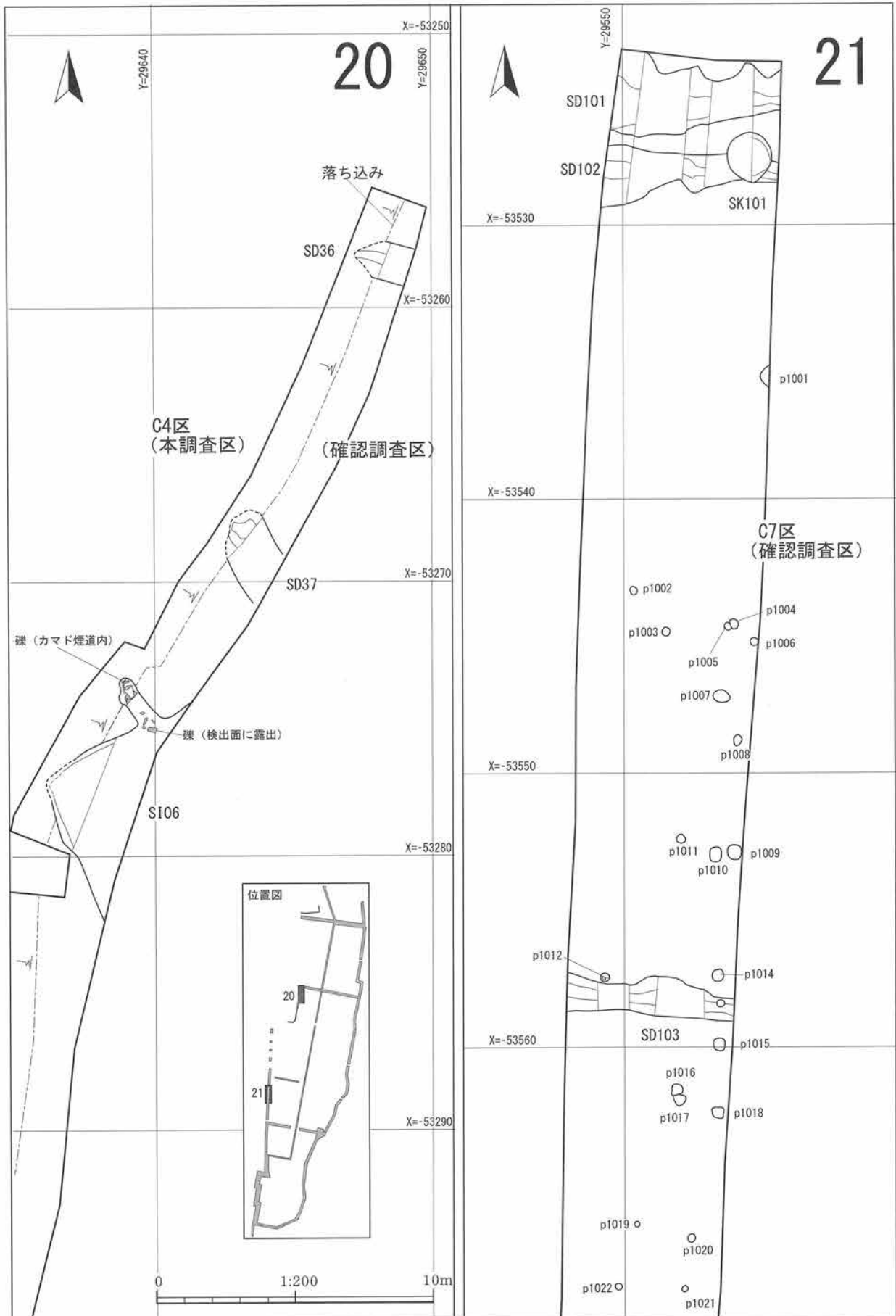
第60図 遺構配置図13



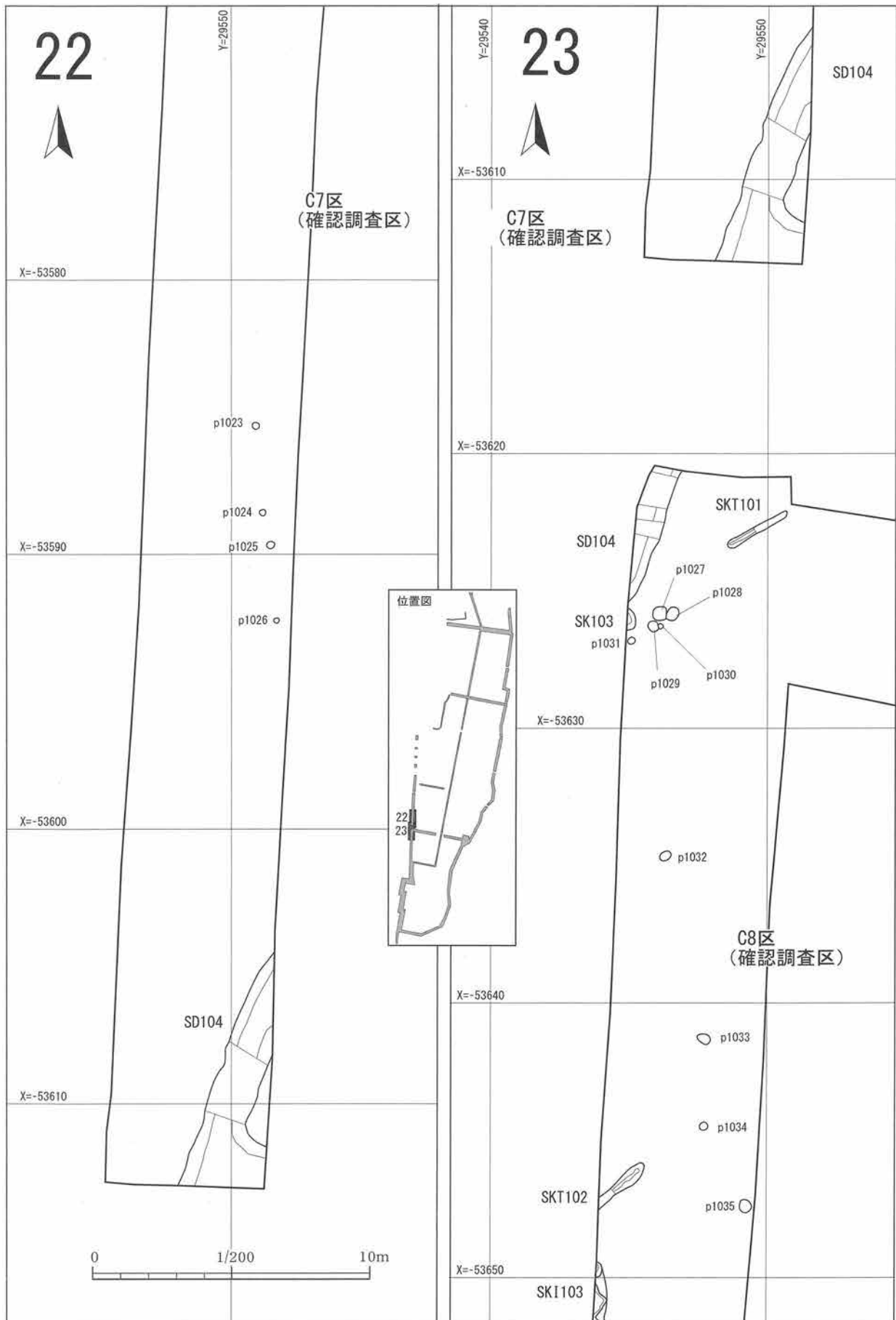
第 61 図 遺構配置図 15・16



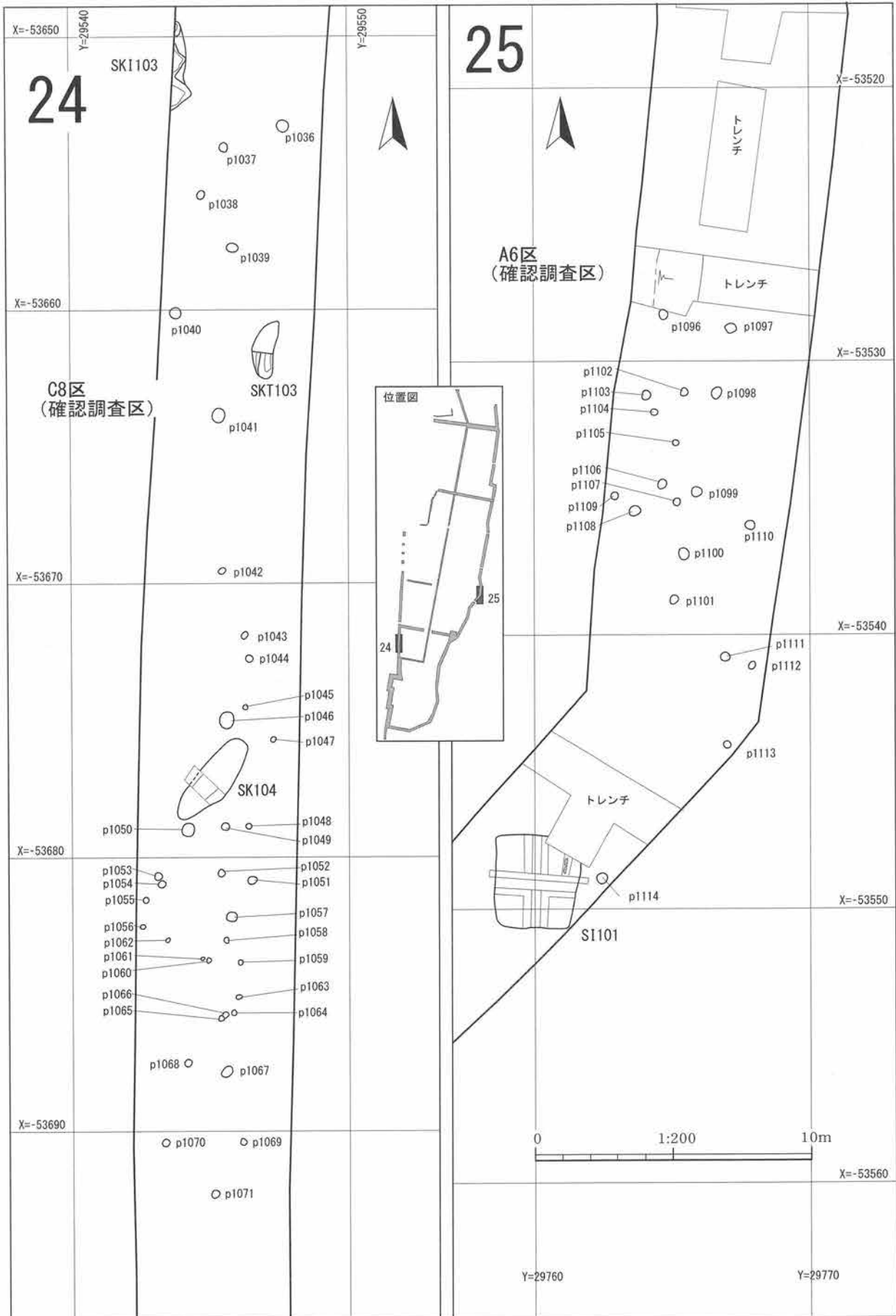
第 62 図 遺構配置図 17



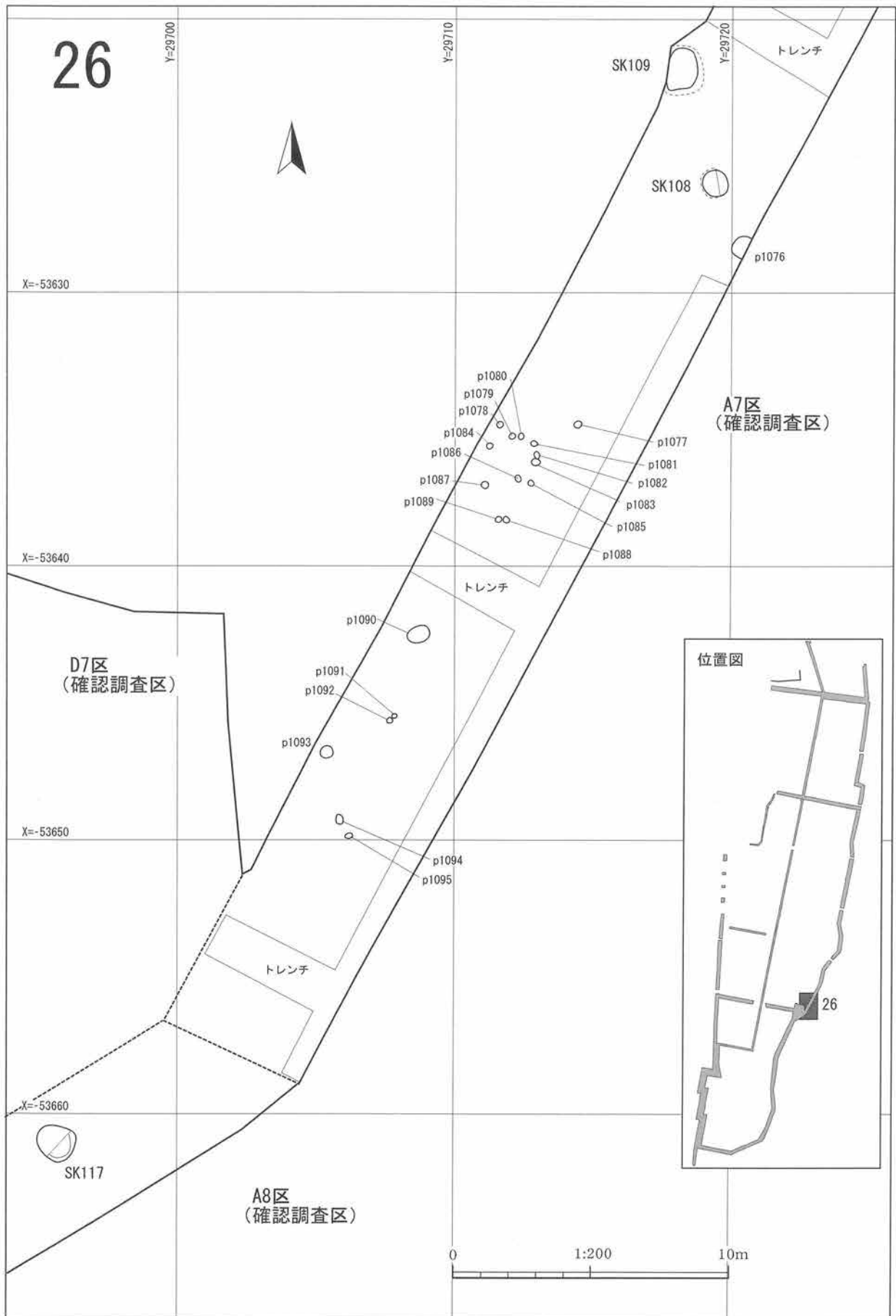
第 64 図 遺構配置図 20・21



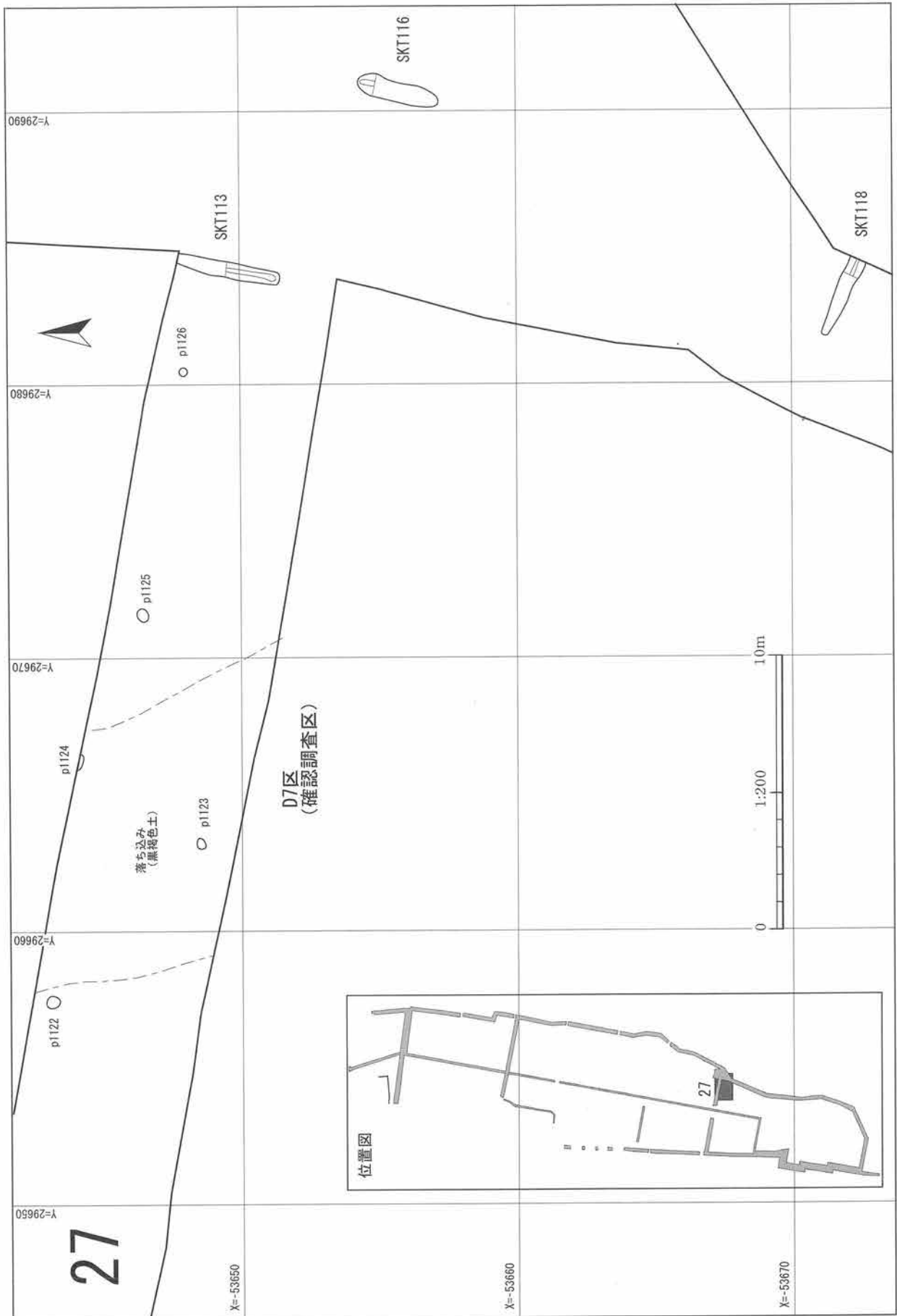
第 65 図 遺構配置図 22・23



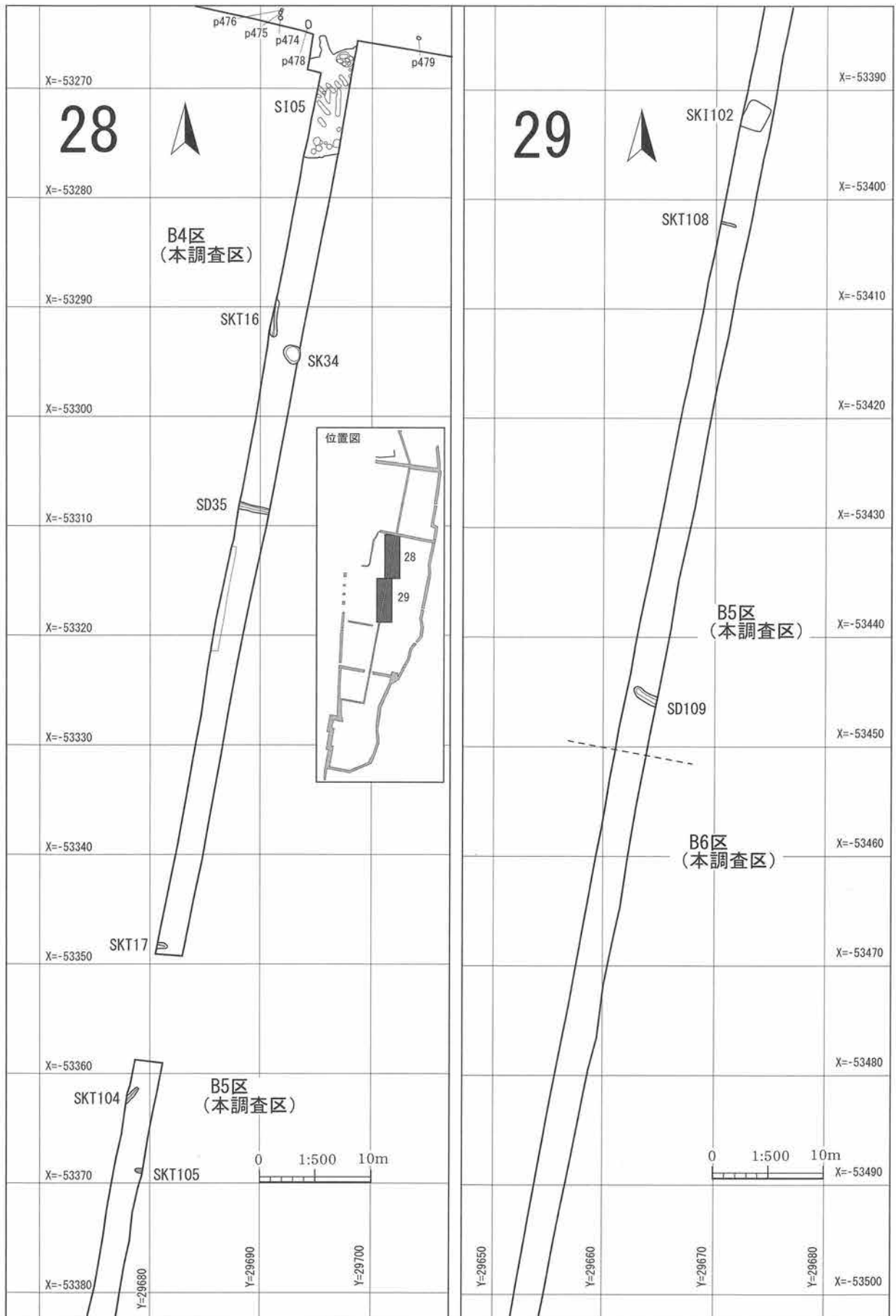
第 66 図 遺構配置図 24・25



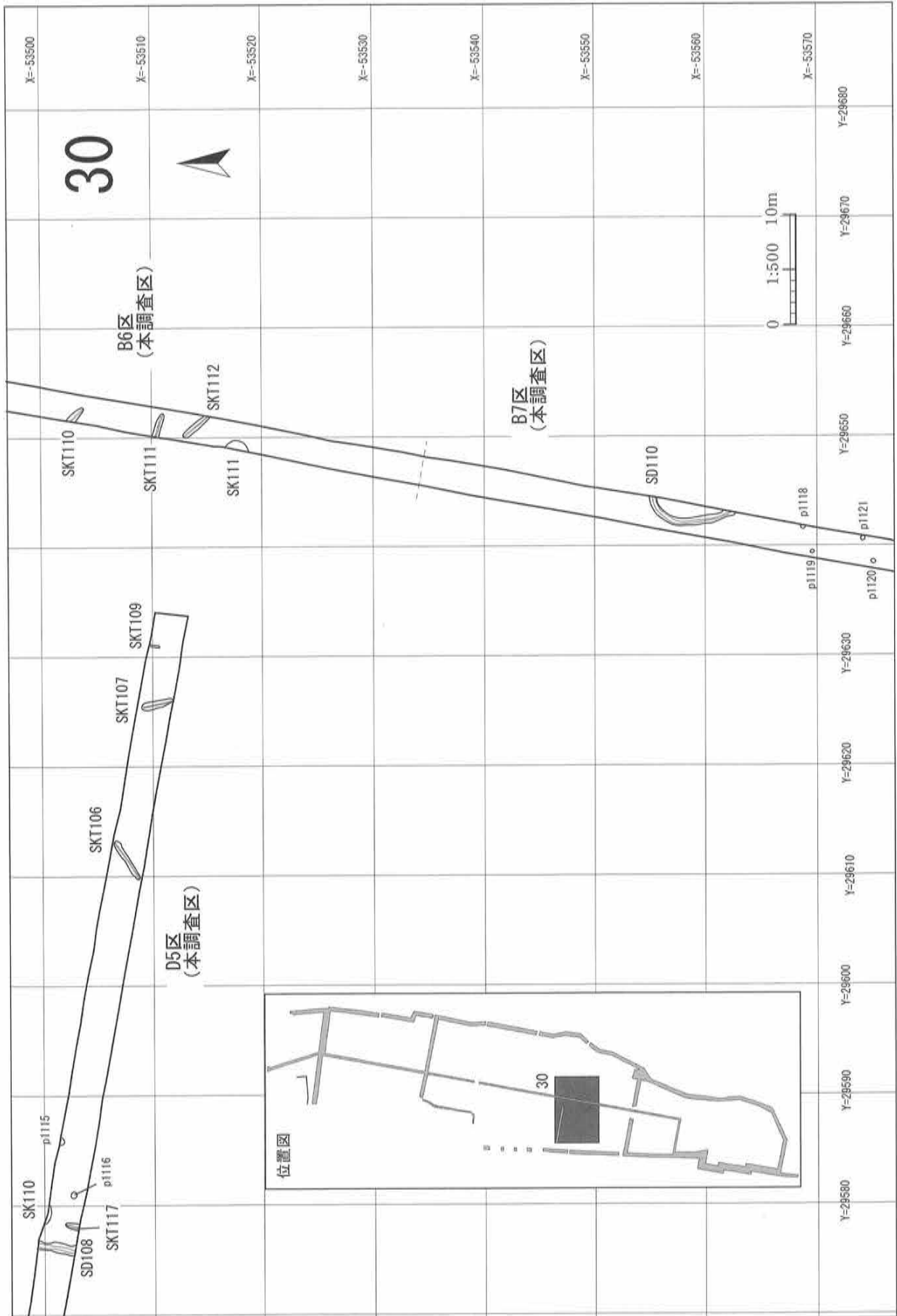
第 67 図 遺構配置図 26



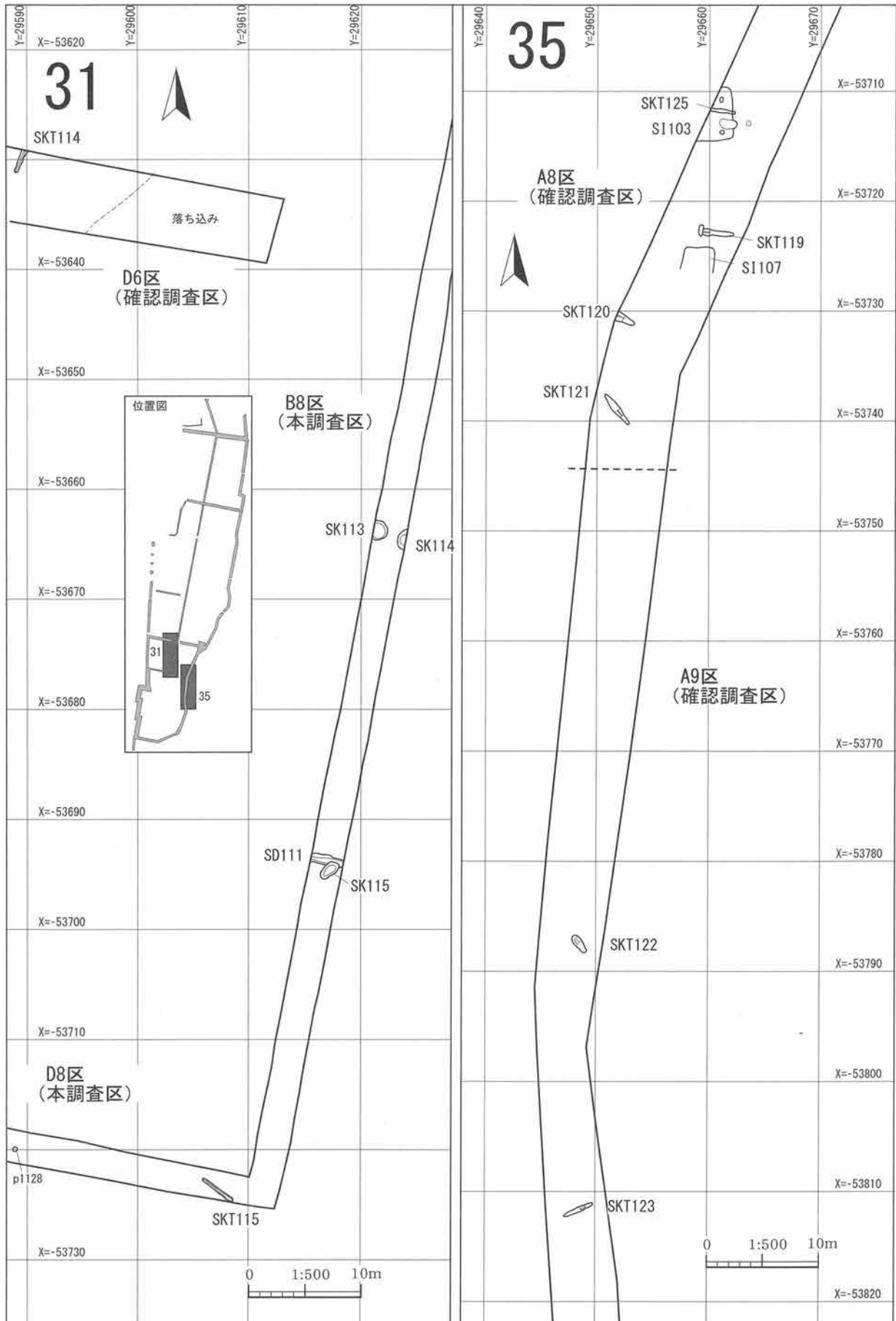
第 68 図 遺構配置図 27



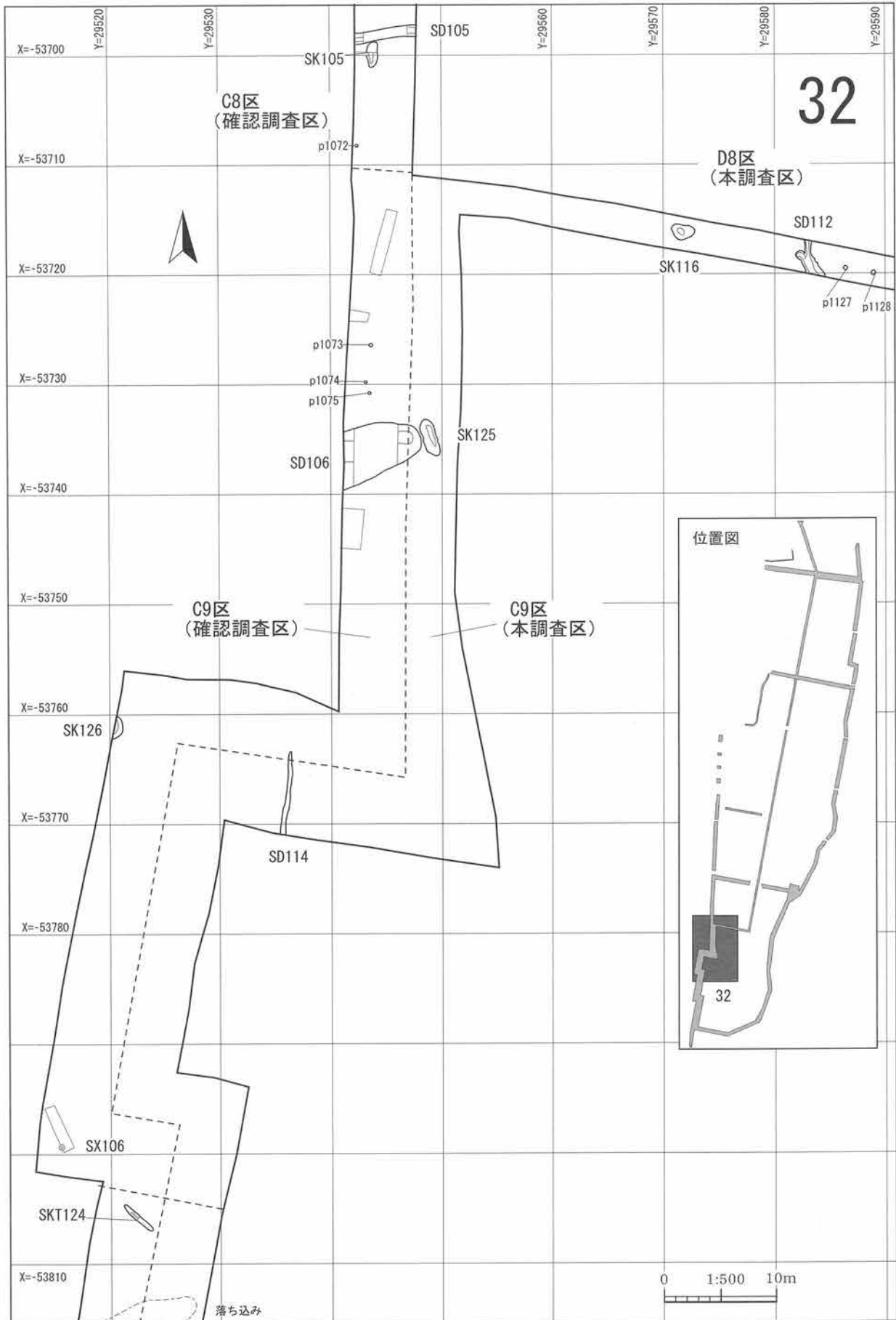
第 69 図 遺構配置図 28・29



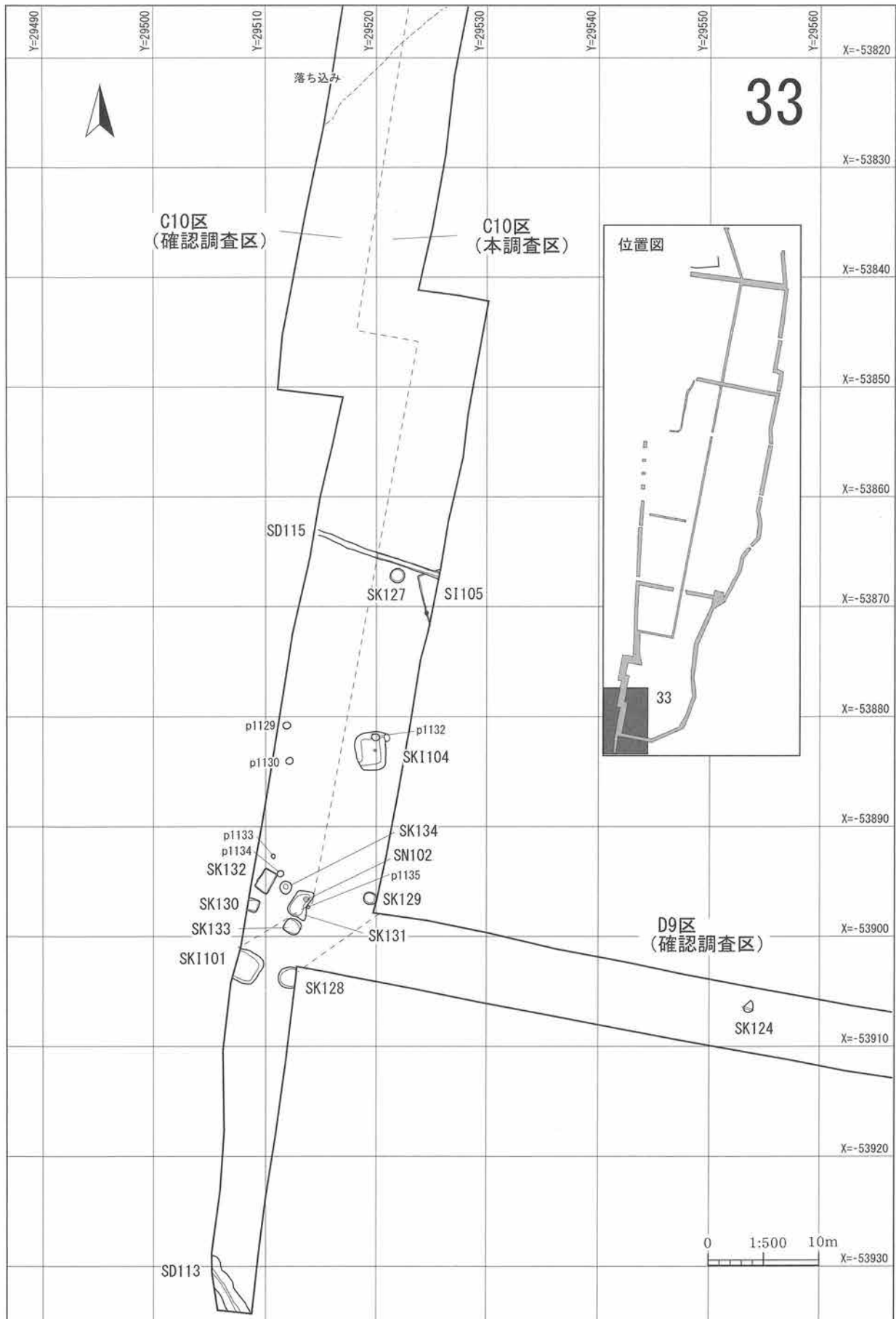
第 70 図 遺構配置図 30



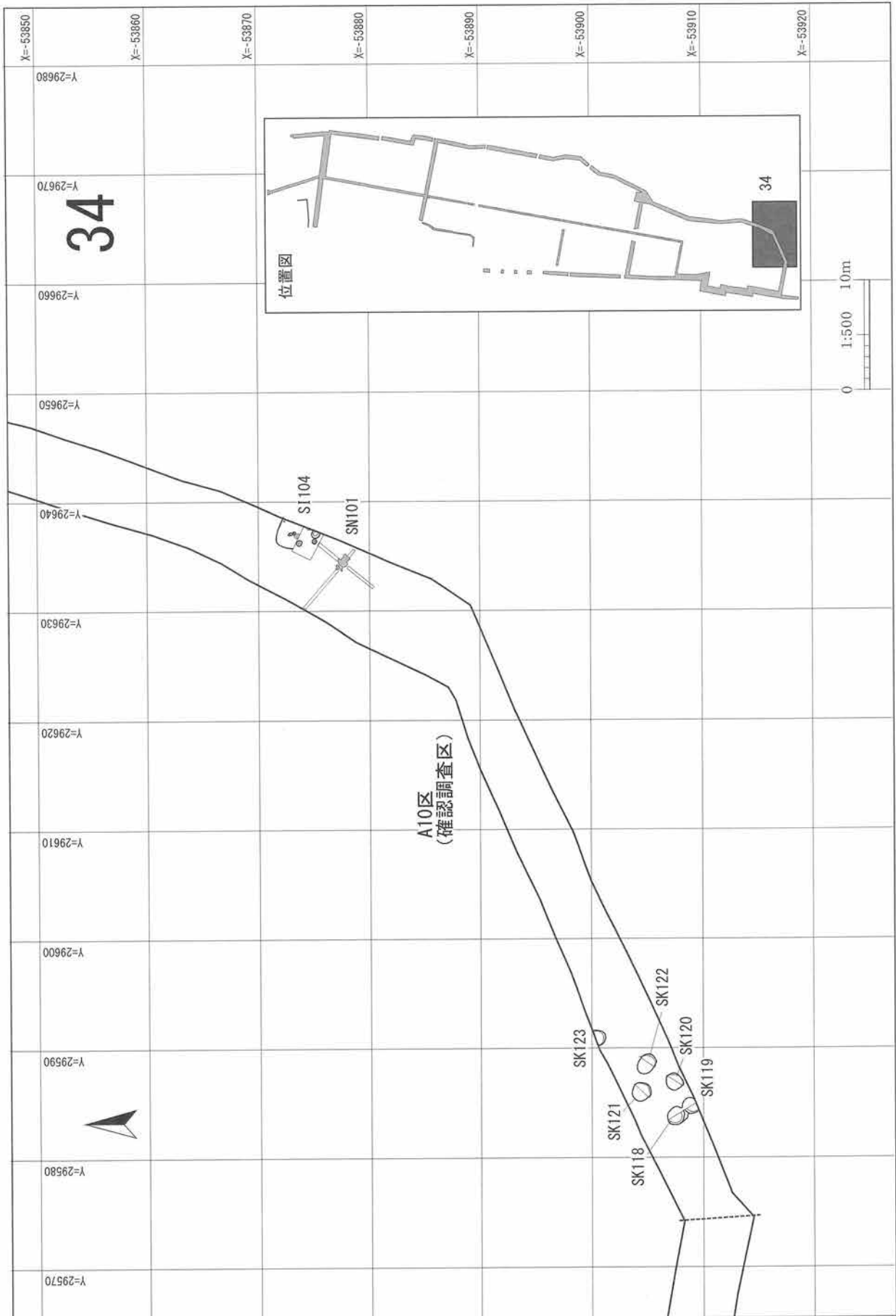
第 71 図 遺構配置図 31・35



第 72 図 遺構配置図 32

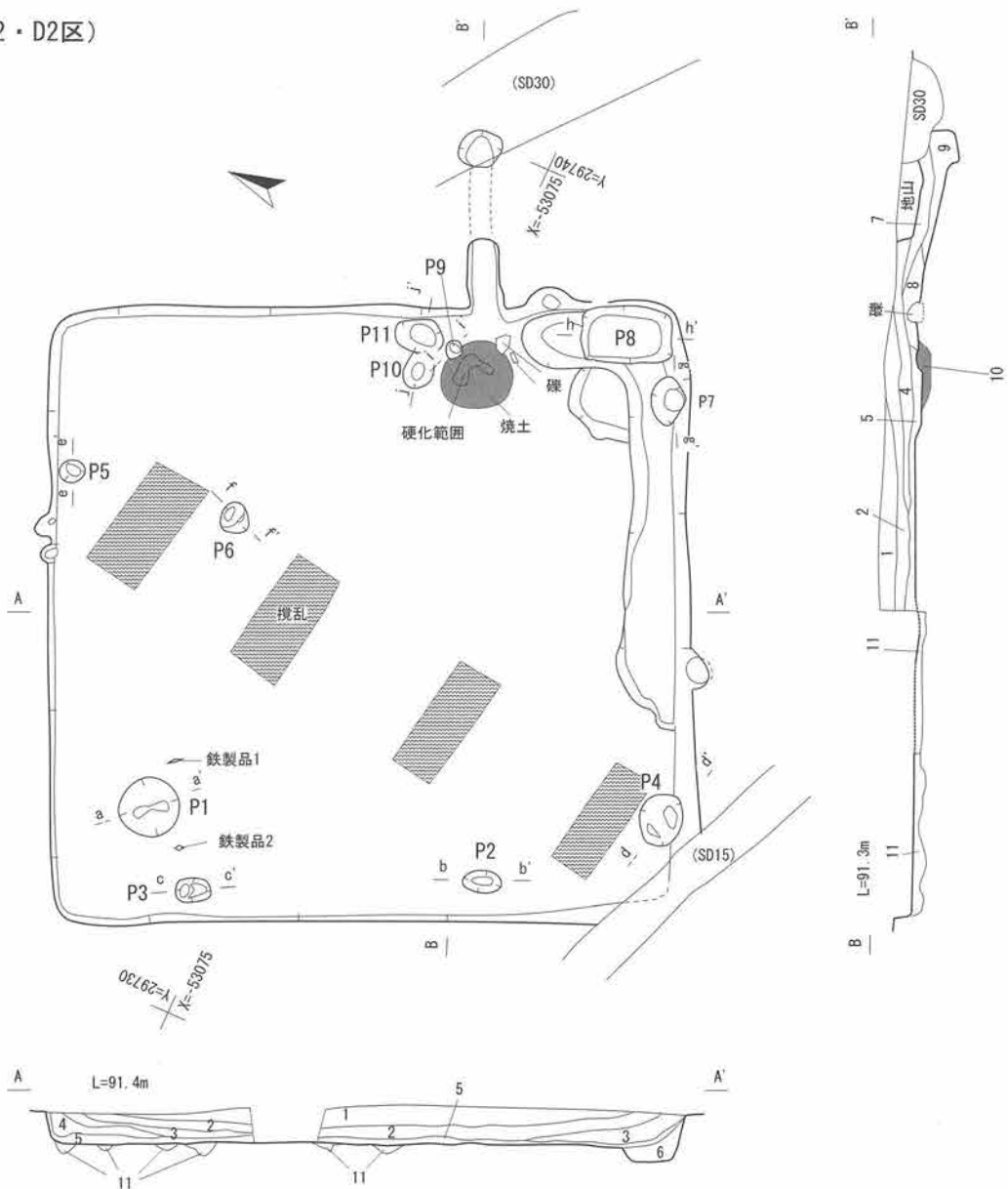


第 73 図 遺構配置図 33



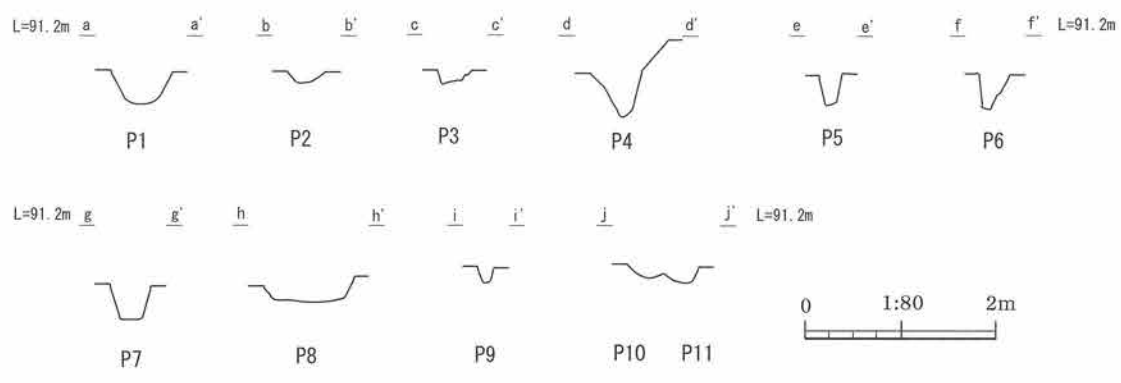
第 74 図 遺構配置図 34

SI02 (B2・D2区)



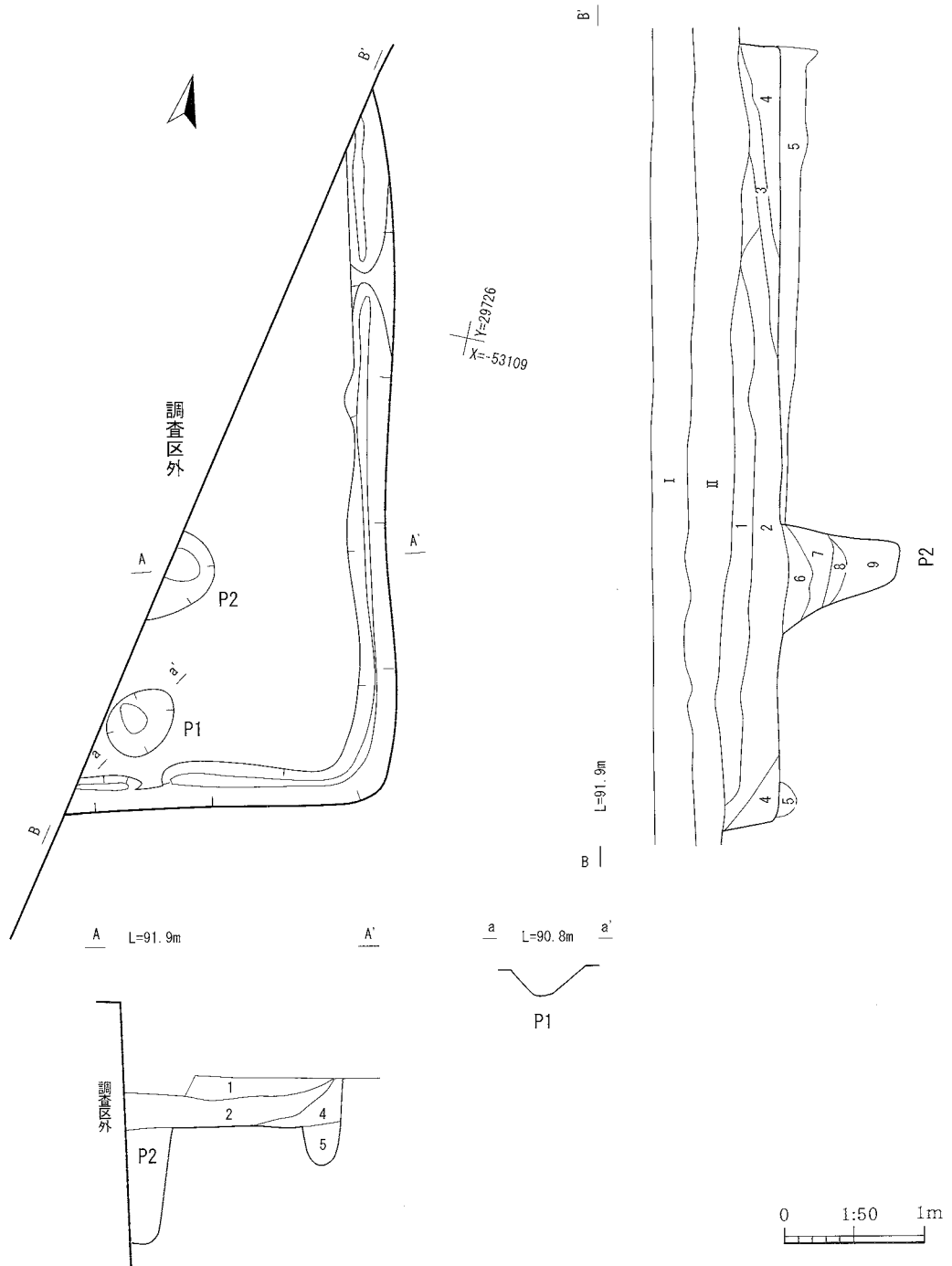
SI02

- | | |
|--|---|
| 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒少量含む。 | 8 10YR5/6 黄褐色土 粘性やや強 しまり弱 焼土ブロック多量、黄褐色土ブロック多量含む。カマド崩落土。 |
| 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック多量含む。 | 9 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱 焼土・黄褐色土粒を少量含む。 |
| 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック極多量含む。 | 10 2.5YR4/6 赤褐色土 粘性やや強 しまり強 焼土。 |
| 4 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまりやや弱 | 11 10YR5/6+10YR2/1 黄褐色土と黒色土の混土 粘性なし しまり強 粘床。 |
| 5 10YR4/4 褐色粘土 粘性有 しまり有 黒色土粒少量含む。 | |
| 6 10YR2/1 黒色土 粘性やや弱 しまりやや弱 | |
| 7 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強 しまり弱 黄褐色土ブロック多量、焼土多量含む。 | |



第 75 図 S I 02

SI03 (B2区)

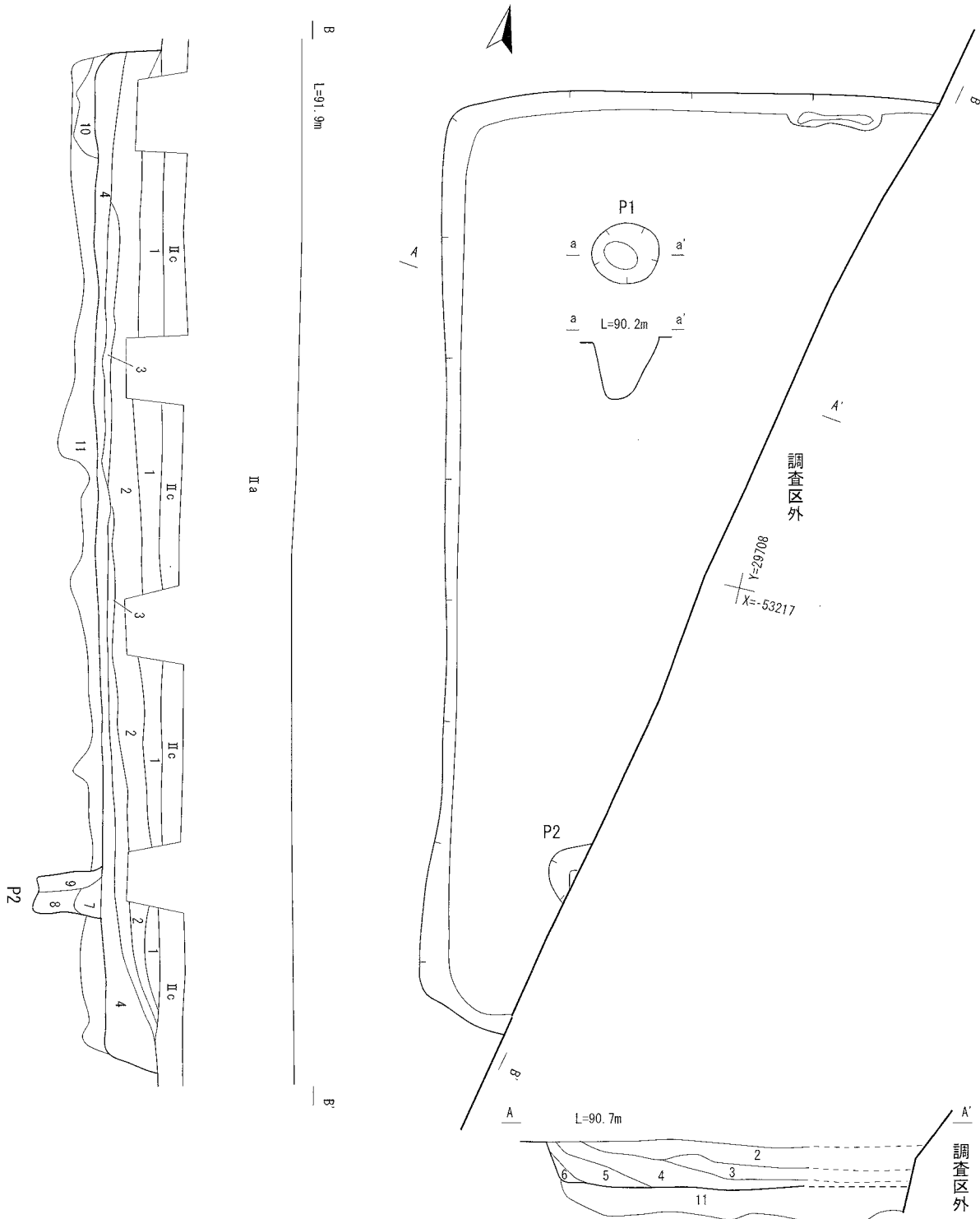


SI03

- | | | | | | |
|---|---------|------|-------|--------|---------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性弱 | しまり強 | 黄褐色土粒少量含む。 |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色土 | 粘性弱 | しまり強 | 黄褐色土粒多量含む。 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや強 | しまりやや強 | 黄褐色土粒多量含む。 |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色土 | 粘性強 | しまりやや弱 | |
| 5 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 粘性やや強 | しまり強 | 黒褐色土粒少量含む。貼床。 |
| 6 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 粘性やや強 | しまり強 | 黒褐色土粒中最含む。 |
| 7 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 粘性やや強 | しまり強 | 黒褐色土粒多量含む。 |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性強 | しまりやや弱 | |
| 9 | 10YR4/6 | 褐色土 | 粘性強 | しまり弱 | |

第 76 図 S I 03

SI04 (B3区)



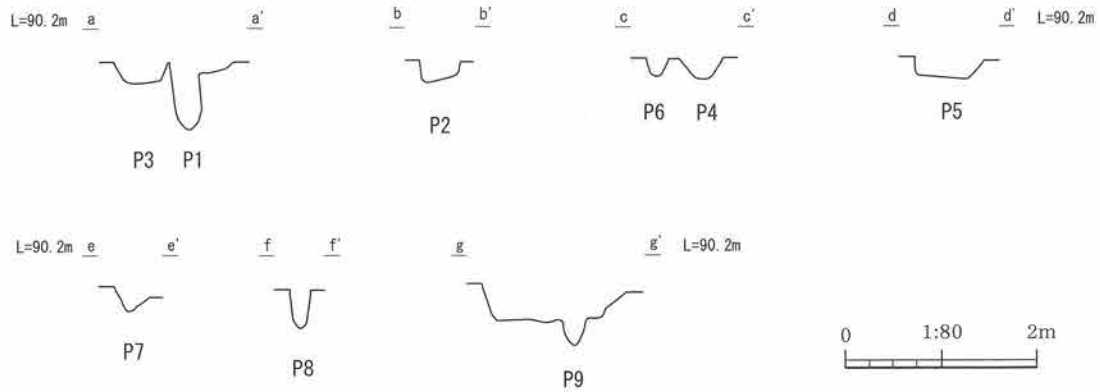
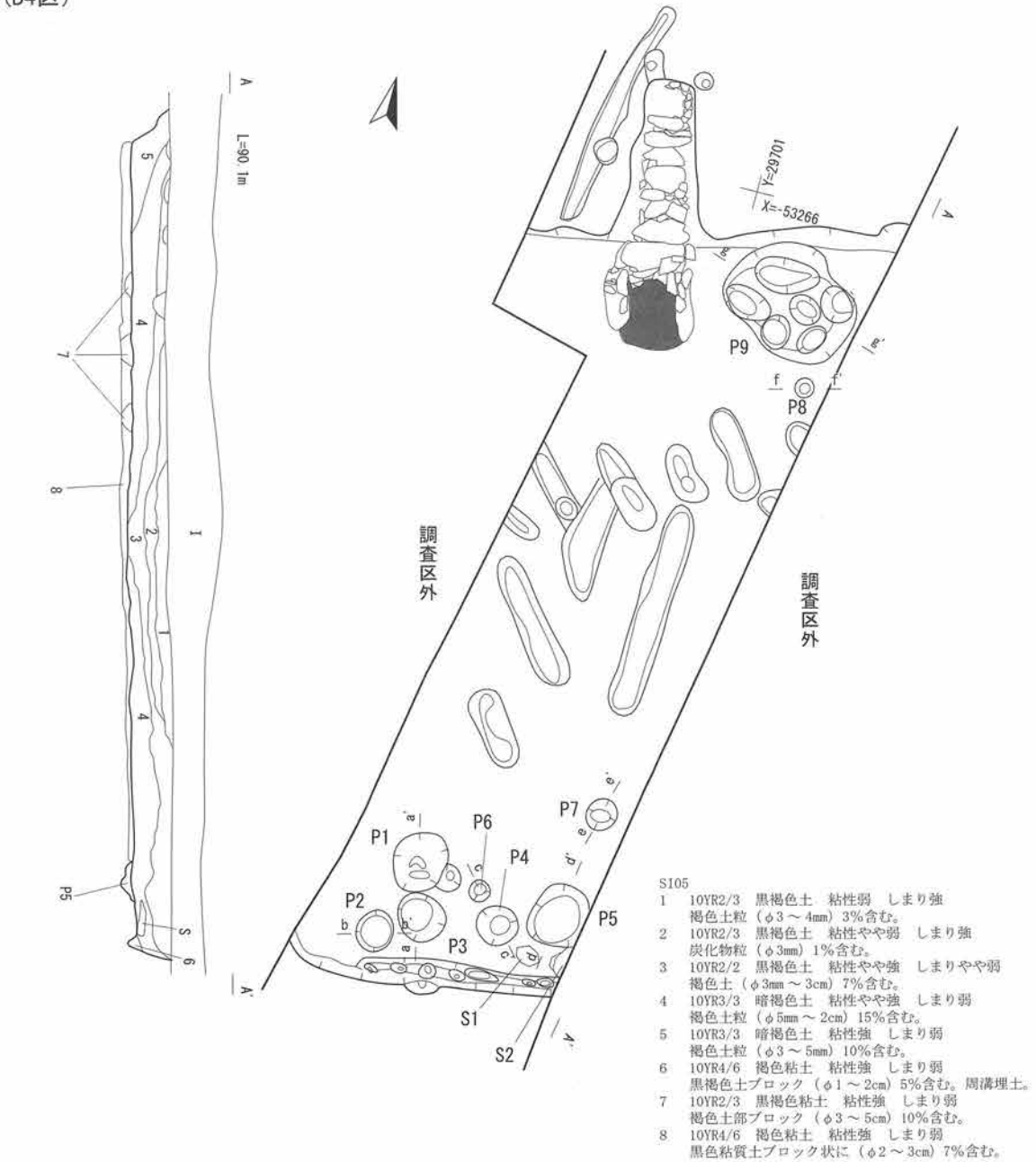
SI04

- | | | | | | |
|----|-----------|------|-------|--------|--------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色土 | 粘性やや弱 | しまり強 | 黄褐色土粒微量含む。 |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり強 | 黄褐色土粒少量含む。 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり強 | 黄褐色土粒多量含む。 |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり強 | 黄褐色土粒極多量含む。 |
| 5 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 粘性やや強 | しまりやや弱 | |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや強 | しまりやや弱 | 黄褐色土ブロック多量含む。 |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまりやや弱 | 黄褐色土粒少量含む。ピット埋土。 |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 | 黄褐色土粒少量含む。ピット埋土。 |
| 9 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | 粘性弱 | しまり強 | 黒色土粒少量含む。ピット埋め戻し土。 |
| 10 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | 粘性やや弱 | しまり強 | 焼土粒少量含む。貼床。 |
| 11 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | 粘性やや弱 | しまり強 | 黒褐色土粒少量含む。貼床。 |

0 1:50 1m

第77図 SI04

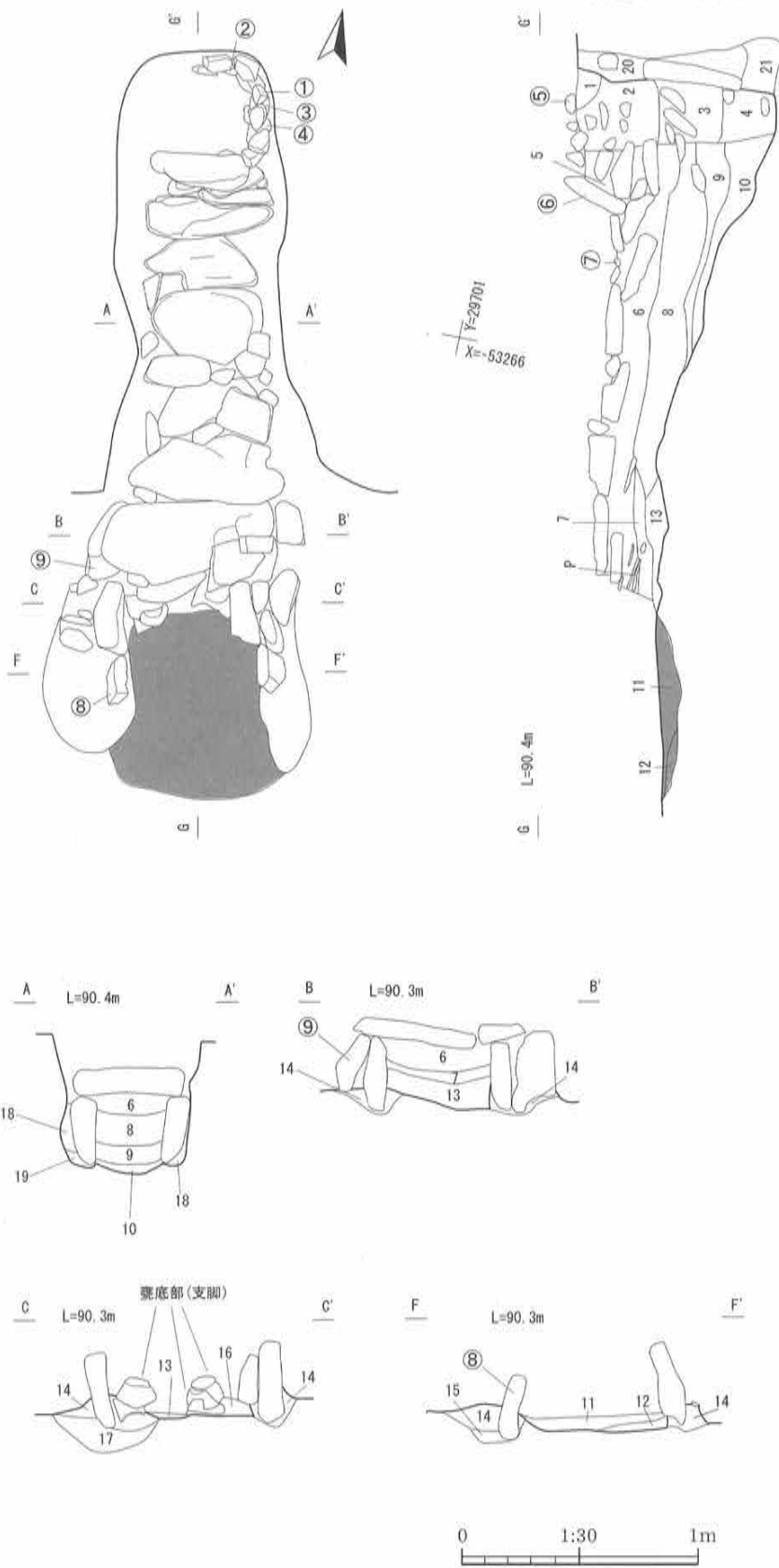
S105 (B4区)



第 78 図 S105

S105カマド 石組み検出状況(1)

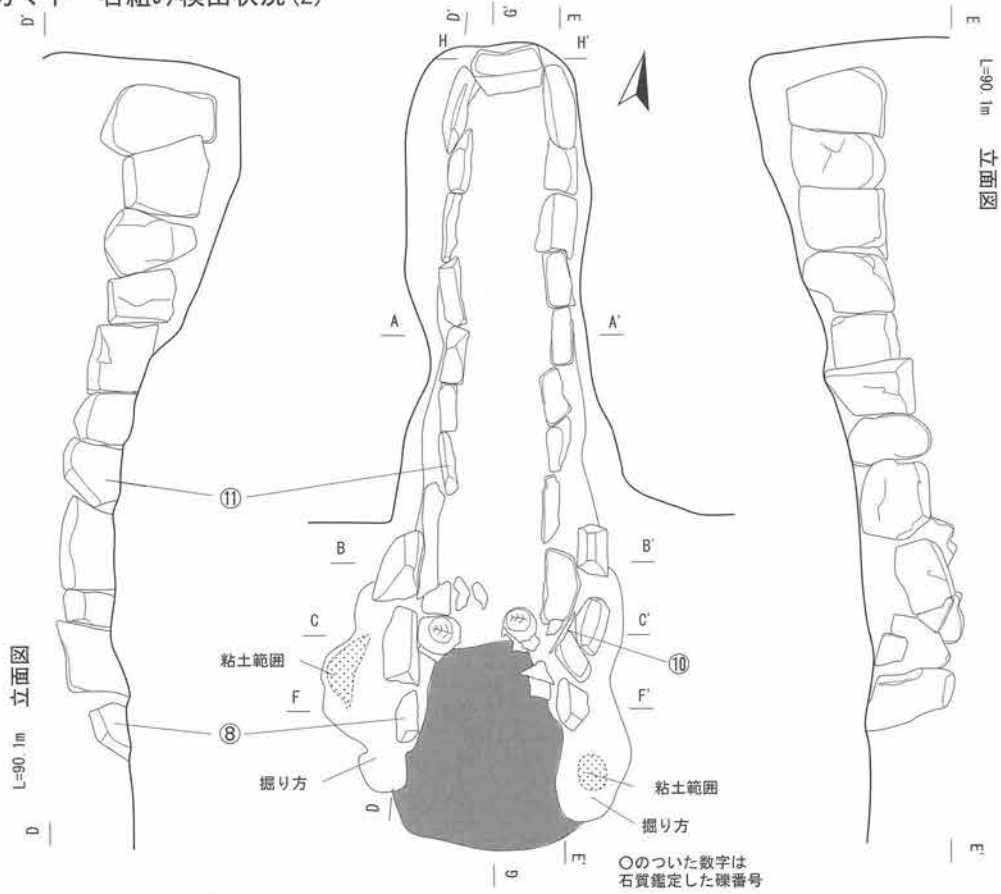
○のついた数字は
石質鑑定した礎番号



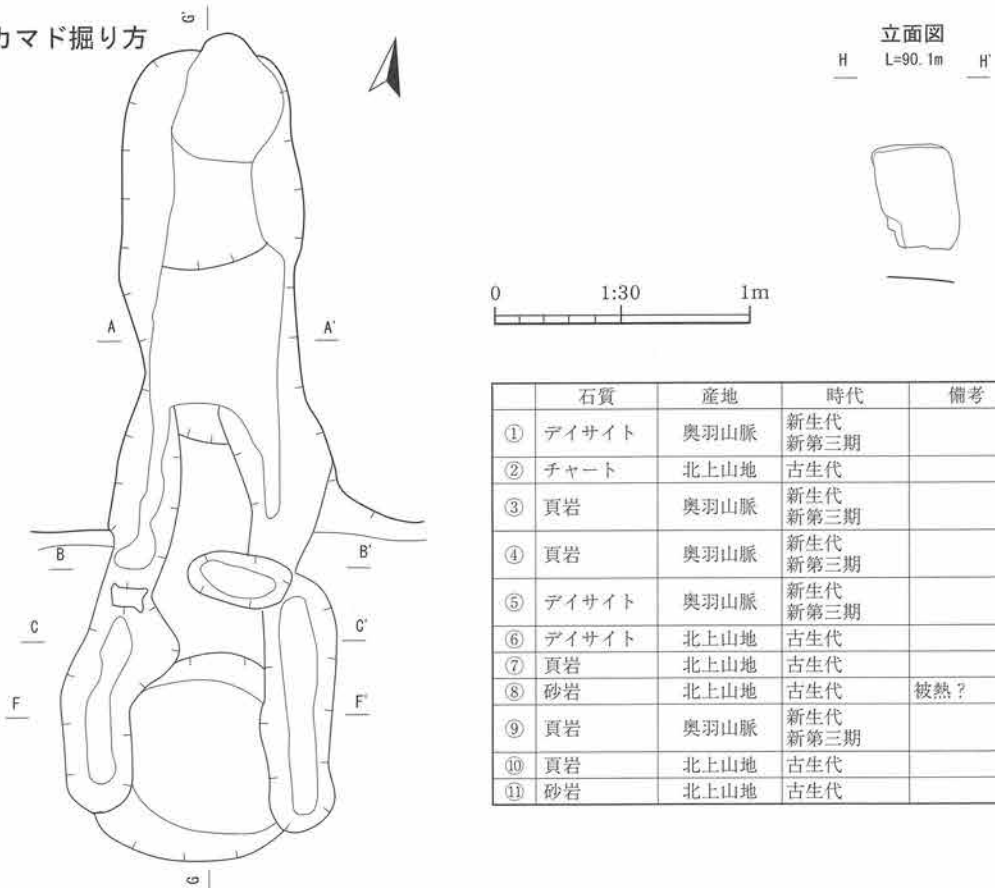
- S105カマド
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘り弱 褐色土ブロック (φ2~3cm) 20%含む。
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 粘り弱 褐色土ブロック (φ2~3cm) 1%含む。
 - 3 10YR2/2 黒褐色土 粘り強 褐色土ブロック (φ2~3cm) 1%含む。
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 粘り弱 褐色土ブロック (φ2~3cm) 1%含む。
 - 5 10YR4/6 褐色土 粘り弱 褐色土 (φ2~3mm) 5%含む。
 - 6 10YR2/3 黒褐色土 粘り強 褐色土ブロック (φ2~3cm) 1%含む。
 - 7 10YR3/4 暗褐色土 粘り弱 褐色土 (φ2~3cm) 1%含む。
 - 8 10YR3/4 暗褐色土 粘り弱 褐色土 (φ2~3cm) 1%含む。
 - 9 10YR2/1 黒褐色土 粘り強 褐色土 (φ5mm~2cm) 3%含む。
 - 10 10YR4/8 赤褐色土 粘り弱 褐色土の硬化部分。
 - 11 2.5YR4/8 赤褐色土 粘り強 褐色土の硬化部分。
 - 12 5YR4/8 赤褐色土 粘り弱 地山の褐色砂が凝結し赤化した層、焼煉部。
 - 13 10YR2/3 黒褐色土 粘り弱 褐色土ブロック (φ5mm~3cm) 多量含む。
 - 14 10YR3/4 暗褐色土 粘り強 褐色土 (φ5~7mm) 3%、一部に褐色粘土ブロック (φ3~5cm) 含む。
 - 15 10YR2/3 黒褐色土 粘り弱 褐色土 (φ5~7mm) 3%、一部に褐色粘土ブロック (φ3~5cm) 含む。
 - 16 7.5YR4/6 褐色土 粘り強 褐色土 (φ3~4cm) 7%含む。
 - 17 7.5YR4/6 褐色土 粘り強 褐色土 (φ3~4cm) 7%含む。
 - 18 10YR3/4 暗褐色土 粘り弱 褐色土 (φ2cm) 2%、焼土粒 (φ5mm) 微量含む。
 - 19 10YR3/4 暗褐色土 粘り弱 褐色土 (φ5mm) 3%含む。
 - 20 10YR2/3 黒褐色土 粘り強 褐色土 (φ3cm) 3%含む。
 - 21 10YR2/1 黒褐色土 粘り強 褐色土 (φ5~8mm) 5%、炭化物粒 (φ5mm) 3%含む。

第79図 S105カマド(1)

SI05カマド 石組み検出状況(2)



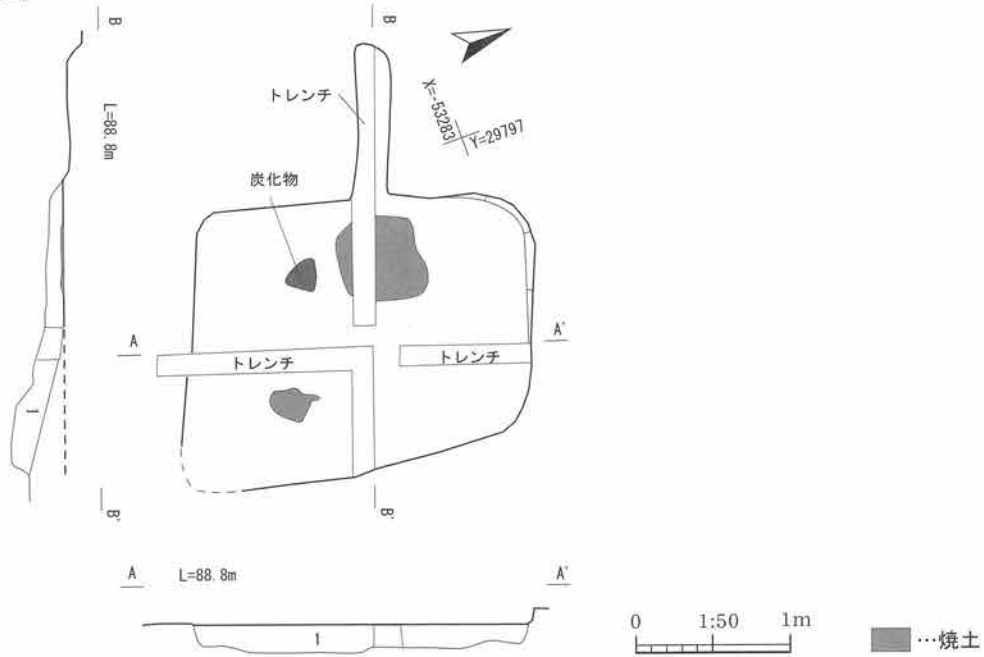
SI05カマド掘り方



	石質	産地	時代	備考
①	デイサイト	奥羽山脈	新生代 新第三期	
②	チャート	北上山地	古生代	
③	頁岩	奥羽山脈	新生代 新第三期	
④	頁岩	奥羽山脈	新生代 新第三期	
⑤	デイサイト	奥羽山脈	新生代 新第三期	
⑥	デイサイト	北上山地	古生代	
⑦	頁岩	北上山地	古生代	
⑧	砂岩	北上山地	古生代	被熱?
⑨	頁岩	奥羽山脈	新生代 新第三期	
⑩	頁岩	北上山地	古生代	
⑪	砂岩	北上山地	古生代	

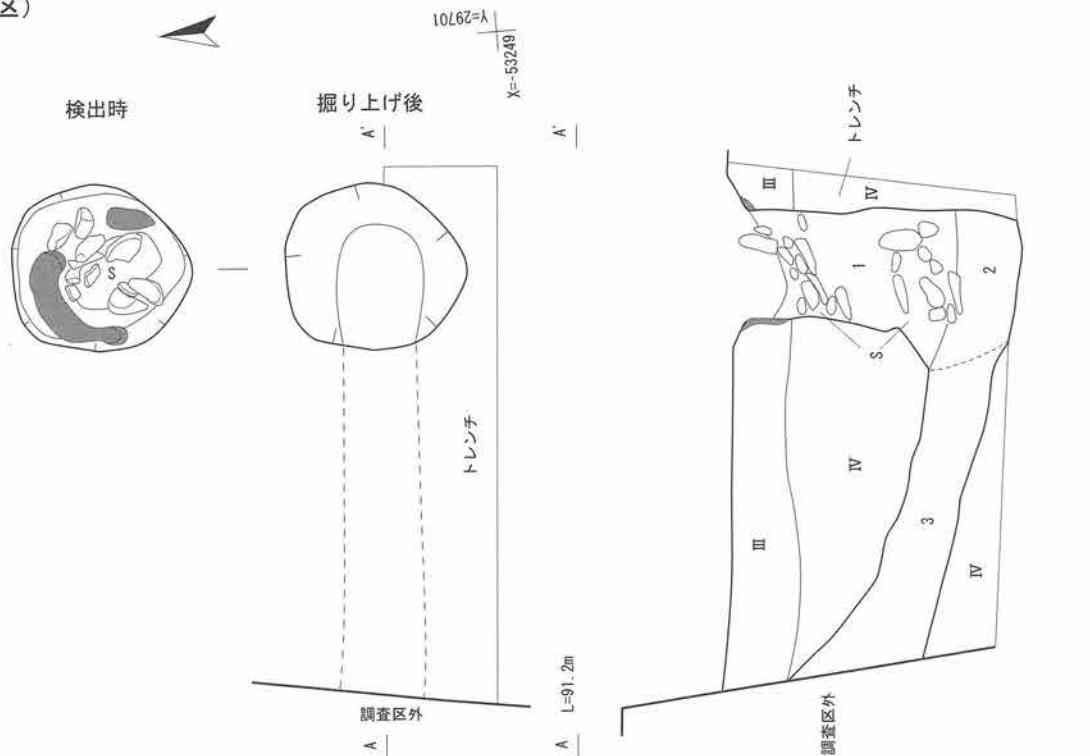
第80図 SI05カマド(2)

SI01 (A4区)



SI01
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強 焼土粒、炭化物粒少量含む。貼床？

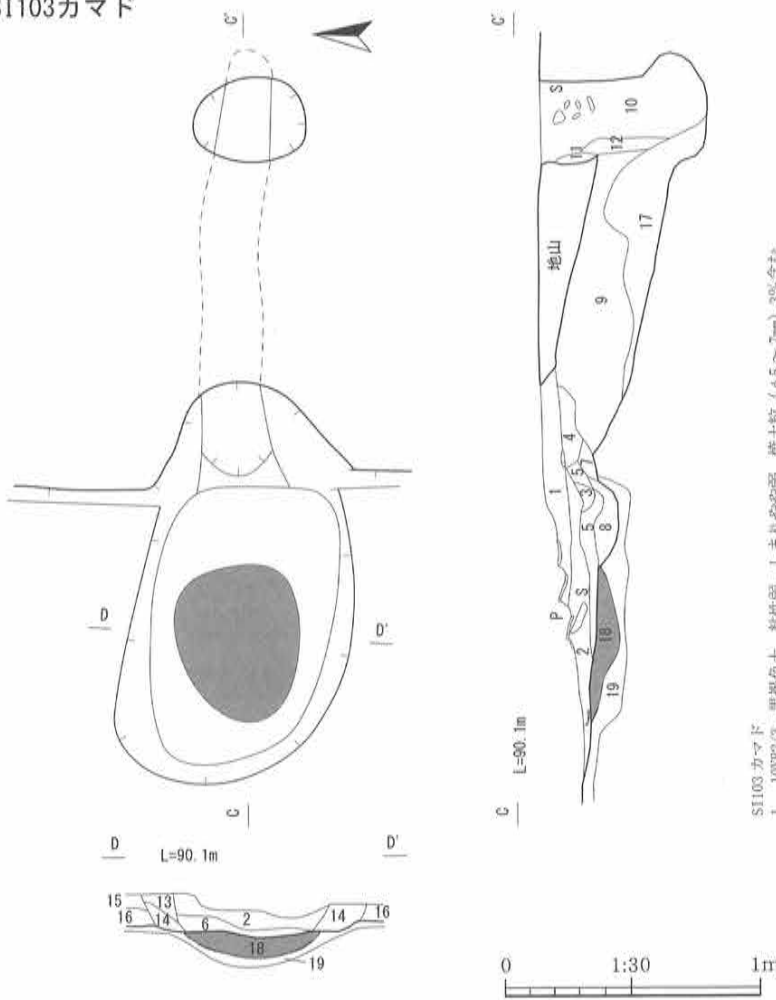
SI07 (B3区)



SI07 煙道
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性強 しまり弱 褐色粘土ブロック (φ2~3cm) 5%、
焼土粒 (φ2~5mm) 1%含む。灰が土壌化。
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性強 しまり弱 土壌化した炭化物ブロック (φ1cm)
3 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまり弱 焼土、黄褐色土ブロック多量含む。

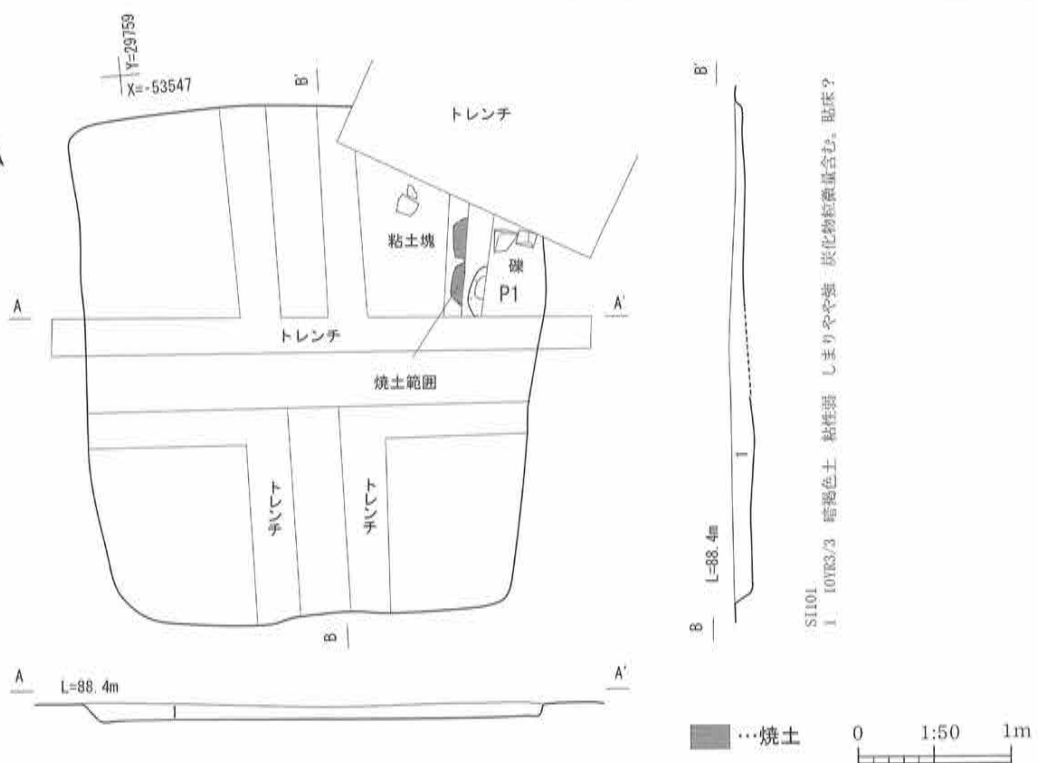
第 82 図 S I 01・07

SI103カマド



- SI103カマド
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱
 - 2 10YR4/6 褐色土 粘性弱
 - 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強
 - 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強
 - 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強
 - 6 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや強
 - 7 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱
 - 8 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱
 - 9 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱
 - 10 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱
 - 11 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱
 - 12 10YR2/3 黒褐色土 粘性強
 - 13 10YR4/4 褐色粘土 粘性強
 - 14 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱
 - 15 10YR2/3 黒褐色土 粘性強
 - 16 10YR3/4 暗褐色土 粘性強
 - 17 10YR3/4 暗褐色土 粘性なし
 - 18 7.5YR5/8 明褐色土 粘性なし
 - 19 10YR2/2 黒褐色土 褐色土粘土ブロック (φ4~5cm) 10%含む。(貼床)
- 焼土粒 (φ5~7mm) 3%含む。
 土器片、炭灰化物粒 (φ5~5mm) 1%含む。
 褐色土粒 (φ3mm) 1%含む。
 焼土粒 (φ3~8mm) 1%、褐色土粒 (φ2mm) 3%含む。
 焼土粒 (φ8mm) 3%含む、燃焼部直上の層。
 褐色土粒 (φ3mm) 1%含む。
 褐色土ブロック (φ2~3cm) 5%含む。
 炭灰化物 炭灰 (φ2~3cm) 1%含む。
 褐色土粒 (φ5~8mm) 5%含む。カマド芯材の抜き取り痕？
 黒褐色土粒 (φ5mm) 少量含む。カマド芯材の抜き取り痕？
 土器片、炭灰化物粒 1%含む。
 褐色土 (炭が土壌化)。
 褐色土粒 (φ2~5mm) 5%含む。
 褐色土ブロック (φ2~3cm) 10%含む。
 燃焼部

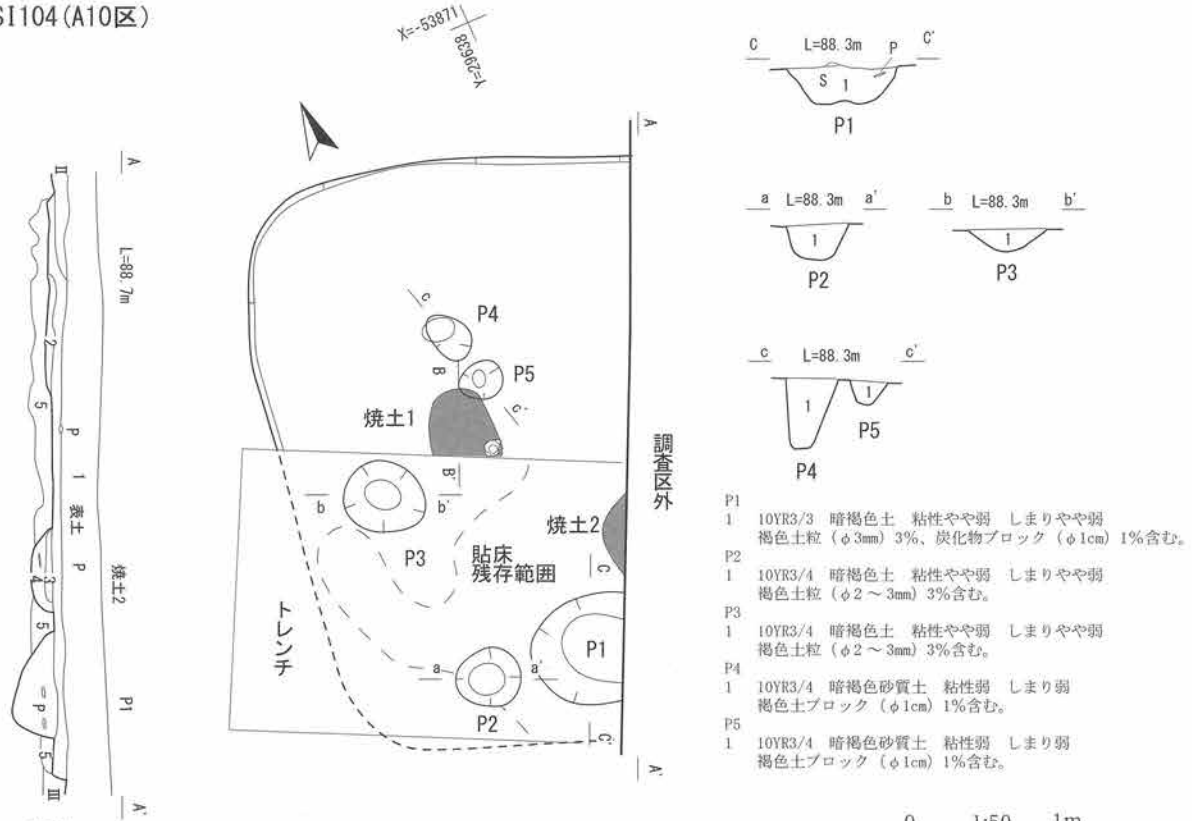
SI101 (A6区)



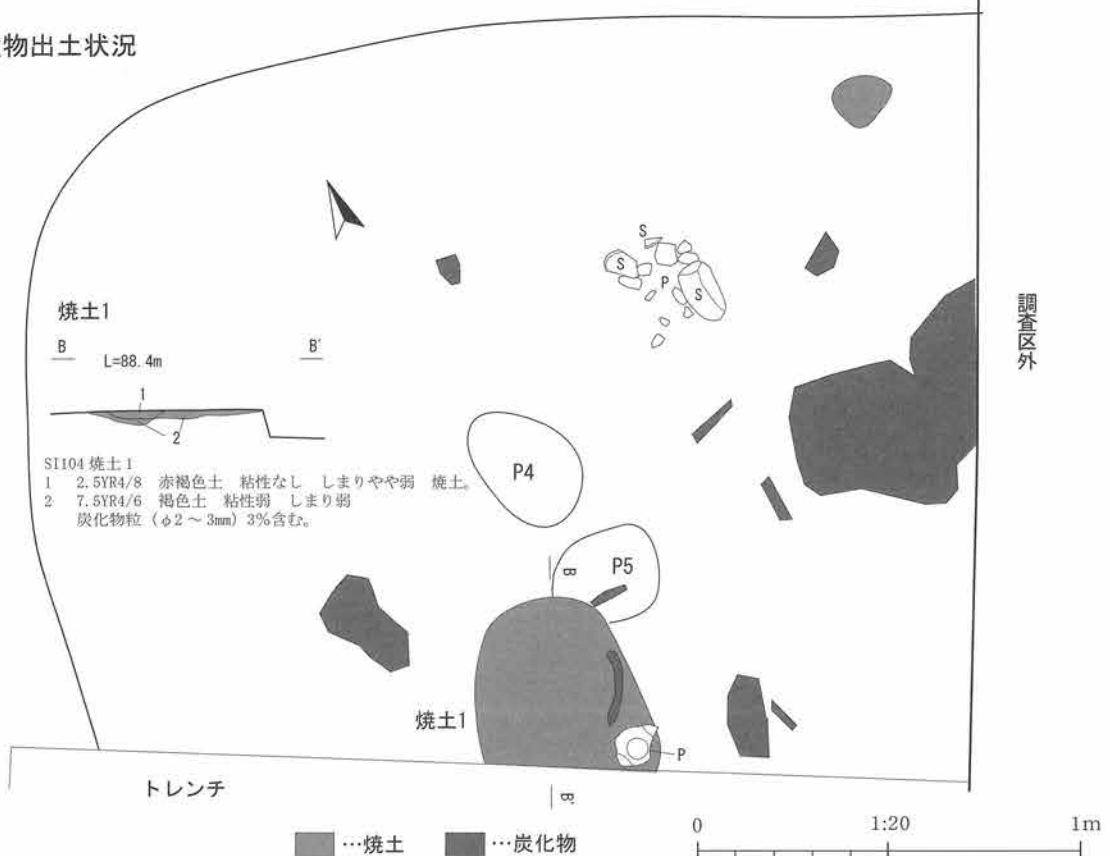
- SI101
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱
- 焼土 炭化物粒含量含む。貼床？

第 84 図 SI103カマド・SI101

SI104 (A10区)

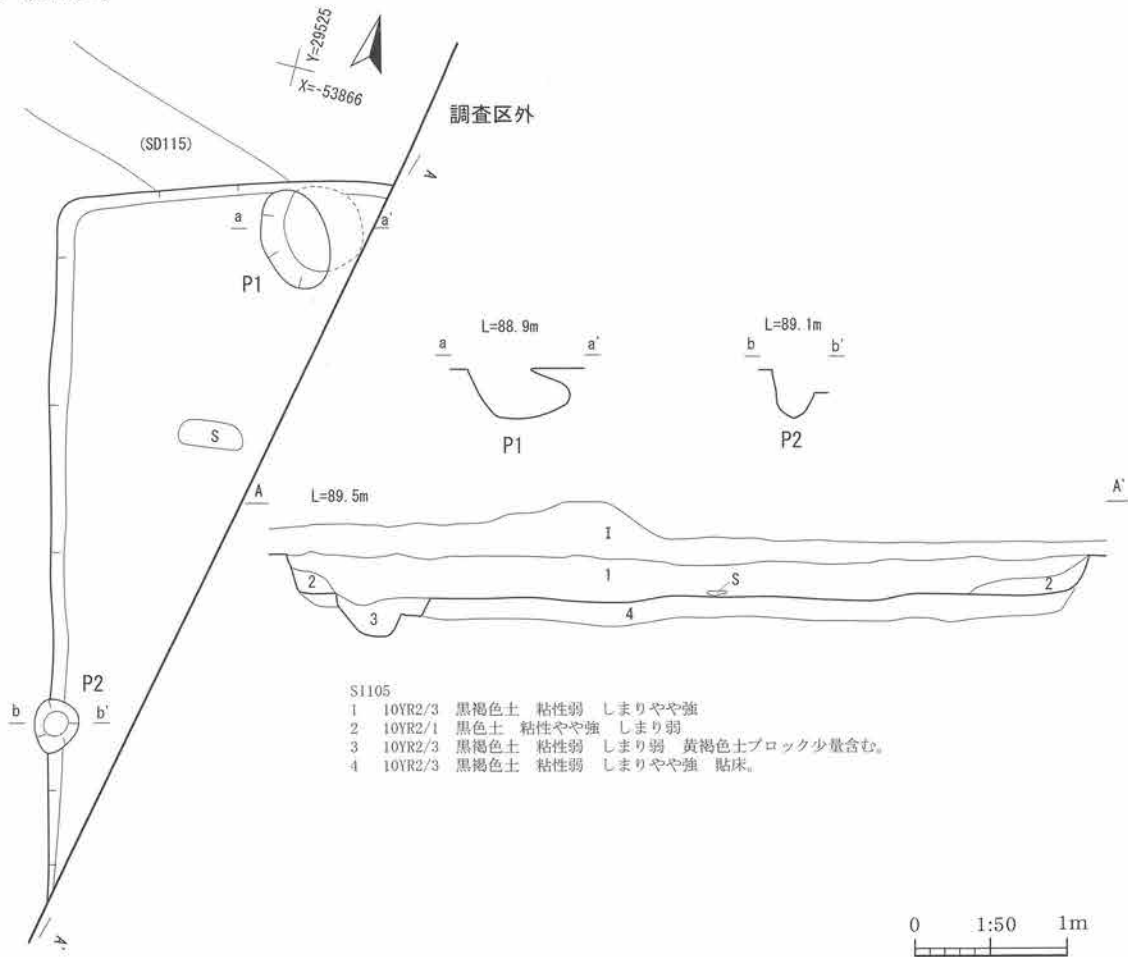


SI104遺物出土状況

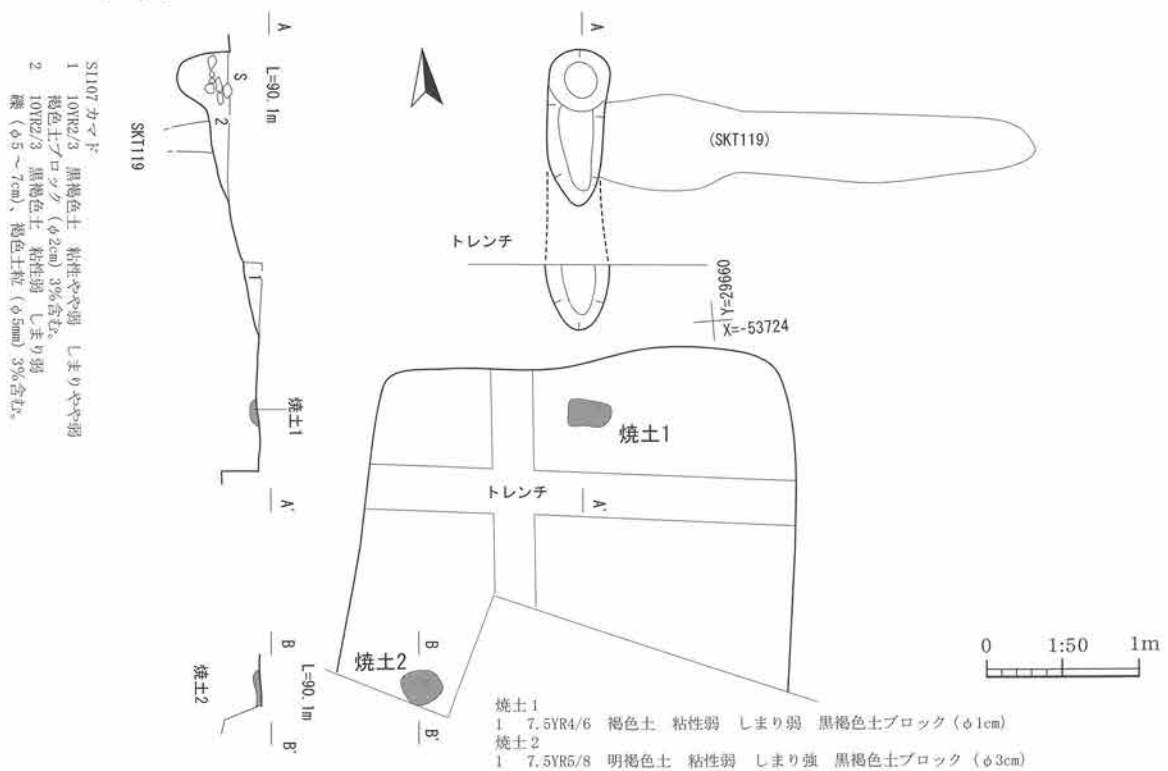


第85図 SI104

SI105 (C10区)

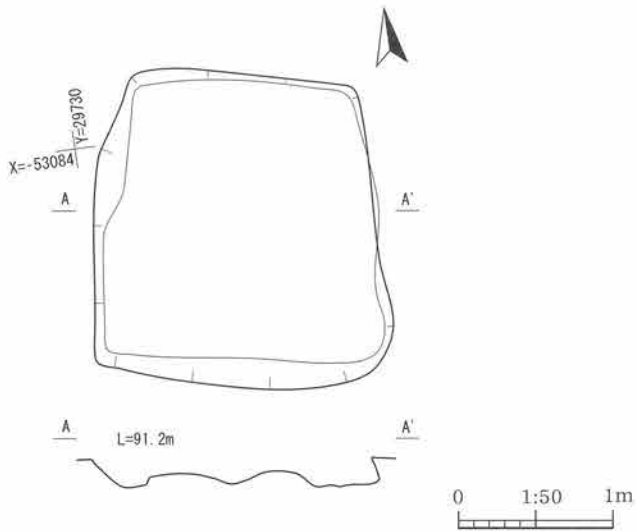


SI107 (A8区)

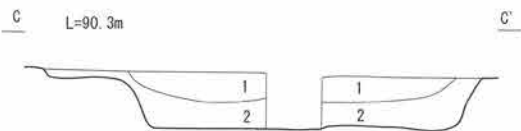
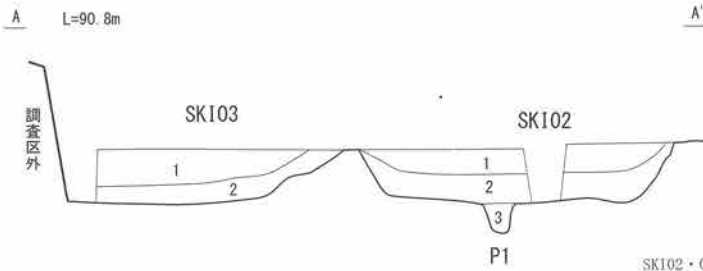
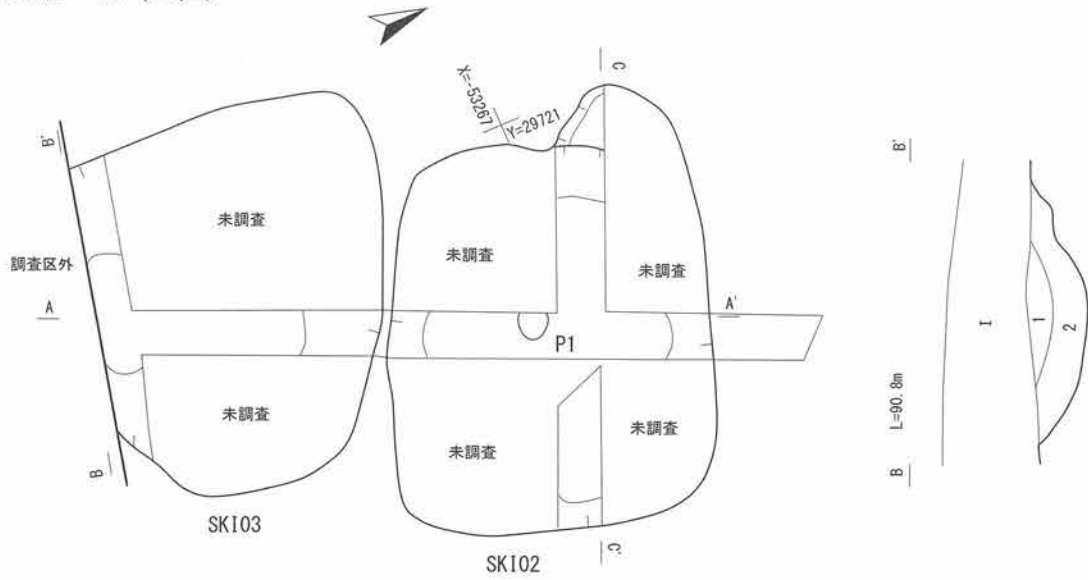


第 86 図 S I 105・107

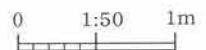
SK101 (B2区)



SK102・03 (D4区)

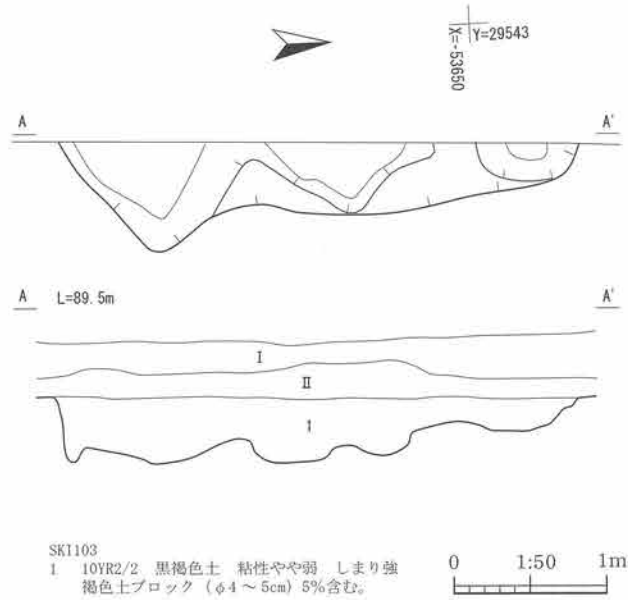


- SK102・03
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土ブロック (大) 多量含む。
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土ブロック (小) 多量含む。
 - 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強

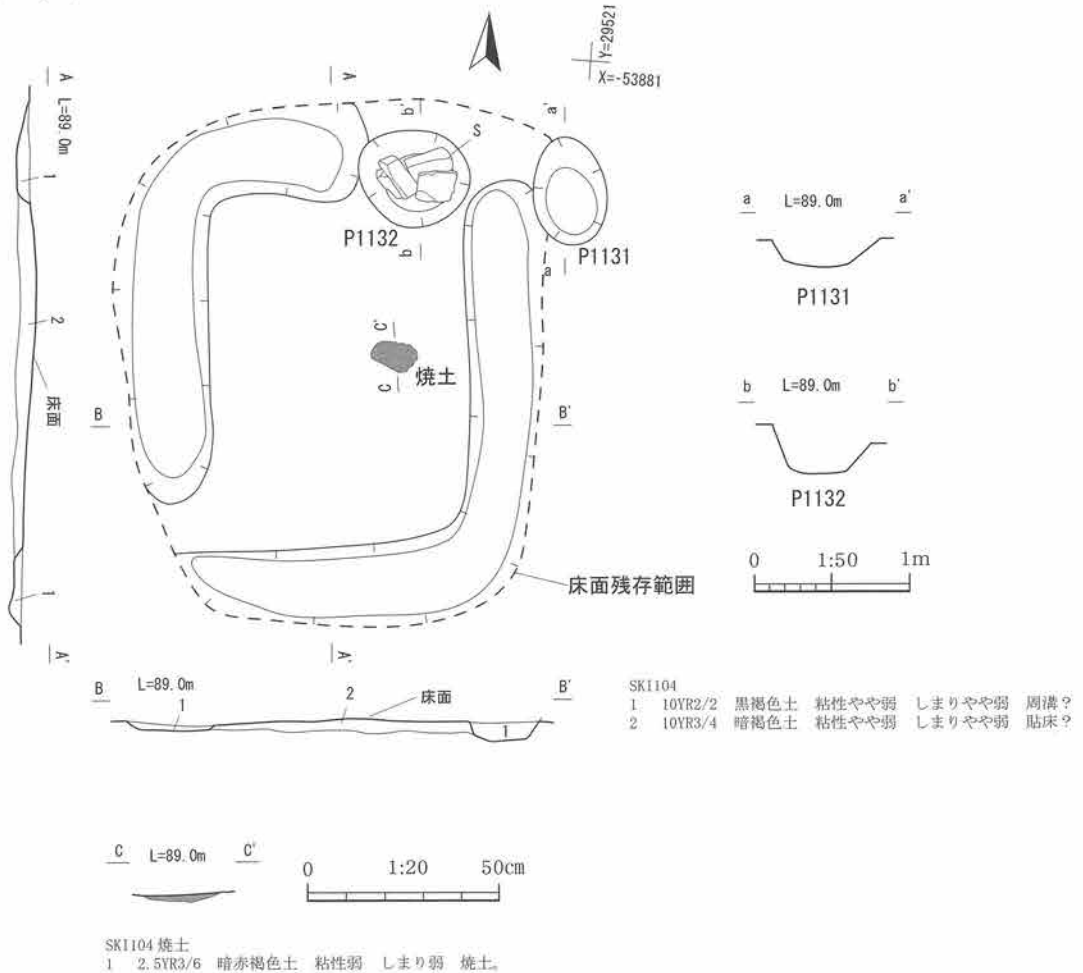


第 87 図 SK I 01 ~ 03

SKI103 (C8区)

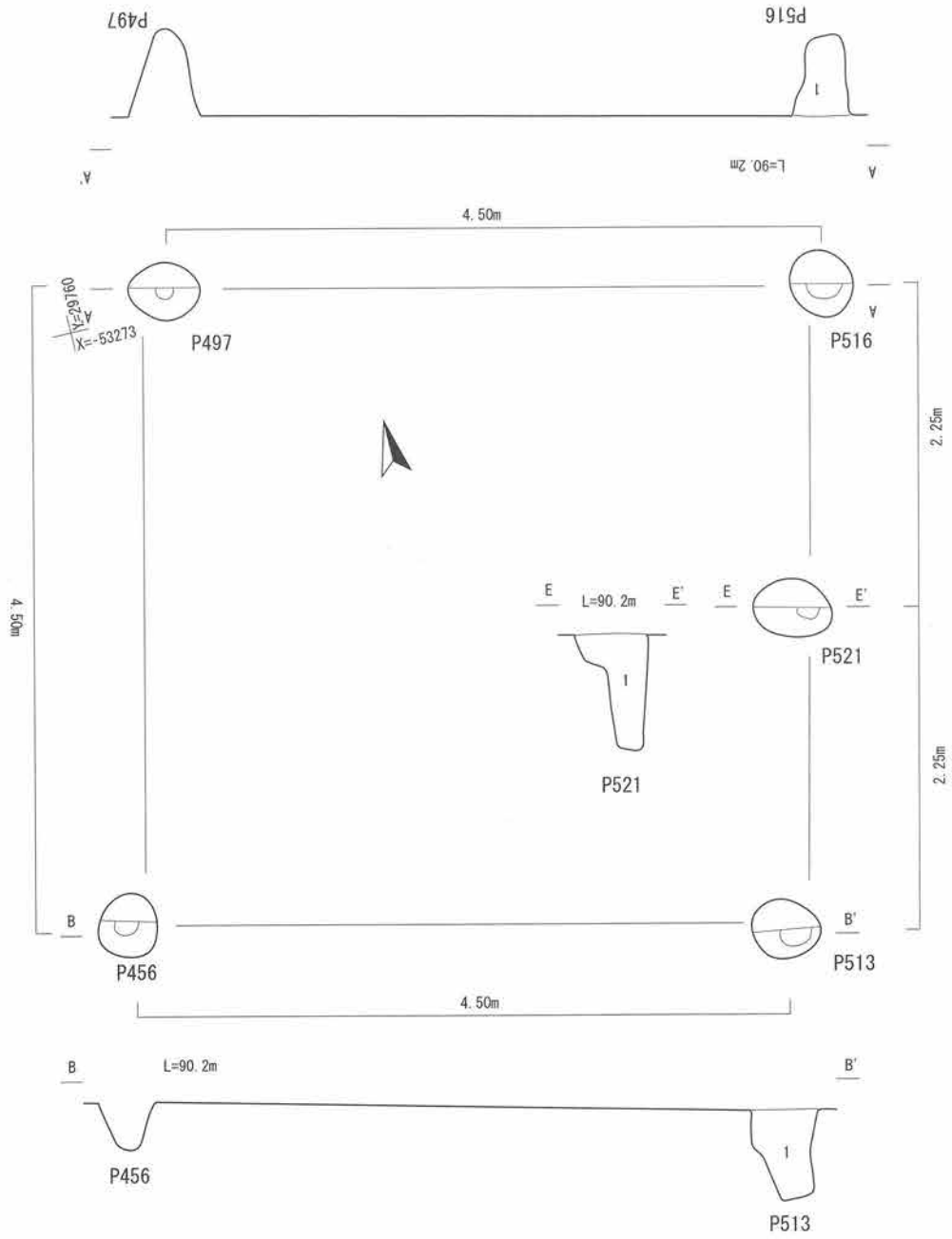


SKI104 (C10区)

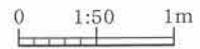


第 89 図 SKI103・104

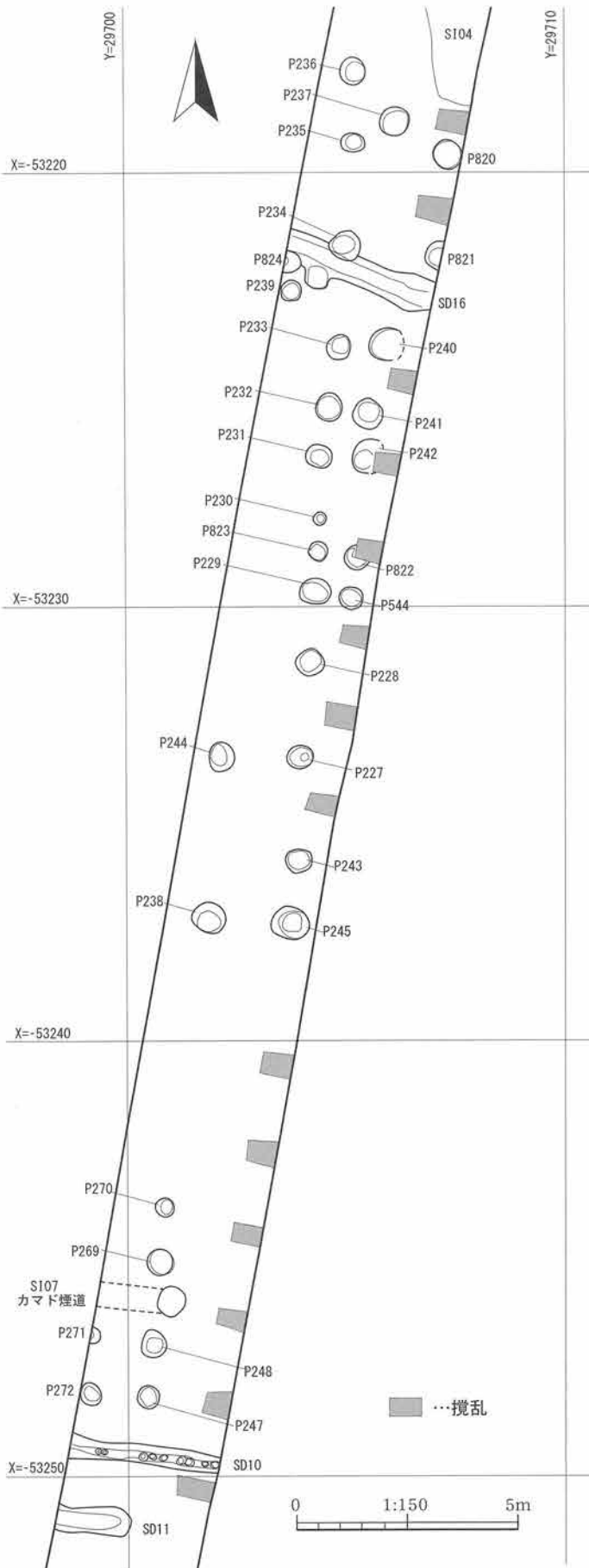
SB01 (D3区)



P513・516・521共通
 I 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強



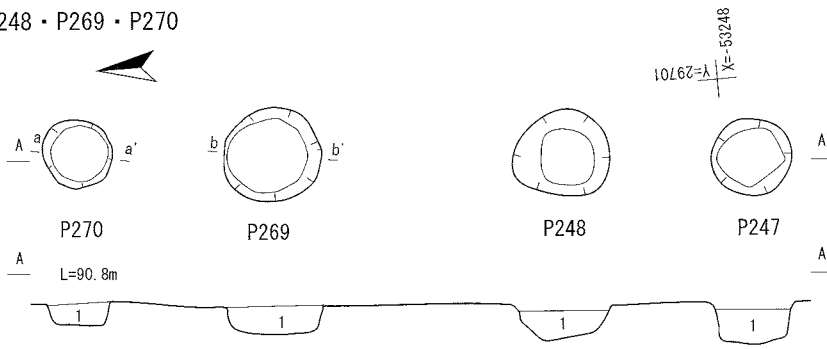
第 90 図 SB01



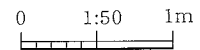
遺構名	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考 (出土遺物など)
P227	61	54	42	ロクロ小 (8.7g)
P228	65	63	54	ロクロ小 (148.6g)、壁土 (936.6g)
P229	71	59	58	ロクロ大 (16.0g)、壁土 (161.7g)
P230	31	29	16	
P231	60	52	43	ロクロ大 (40.2g)、壁土 (20.1g)
P232	66	60	39	須恵器坏、ロクロ大、ロクロ小 (計 52.4g)、壁土 (108.8g)
P233	60	55	53	
P234	62	44	50	土師器甕、ロクロ大 (計 40.2g)
P235	58	54	48	ロクロ小 (14.8g)、壁土 (19.0g)
P236	64	57	47	ロクロ小 (9.3g)
P237	70	66	26	土師器甕、ロクロ大、手づくね小 (計 56.4g)、炭化物
P238	62	55	34	ロクロ小 (10.0g)
P239	52	45	34	ロクロ大 (22.4g)
P240	75	71	20	
P241	70	65	50	土師器坏、ロクロ大 (504・505)、ロクロ小 (506) (計 478.2g)
P242	60	-	55	ロクロ大 (507～514)、ロクロ小 (515)、手づくね大 (計 1298.0g)、壁土 (7.2g)
P243	60	55	49	壁土 (2.3g)
P244	68	58	28	
P245	75	-	26	壁土 (23.4g)
P247	53	52	27	
P248	65	60	24	
P269	61	59	19	ロクロ大 (28.3g)
P270	45	43	18	土師器坏、手づくね小 (計 6.9g)
P271	64	-	97	須恵器坏 (2.9g)
P272	60	48	30	手づくね小 (15.2g)
P544	65	54	47	
P820	69	65	24	
P821	67	2	17	
P822	57	53	21	
P823	46	44	18	
P824	46	-	44	ロクロ大、ロクロ小、手づくね大、手づくね小 (計 277.8g)

第91図 B3区柱穴群(1)

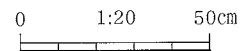
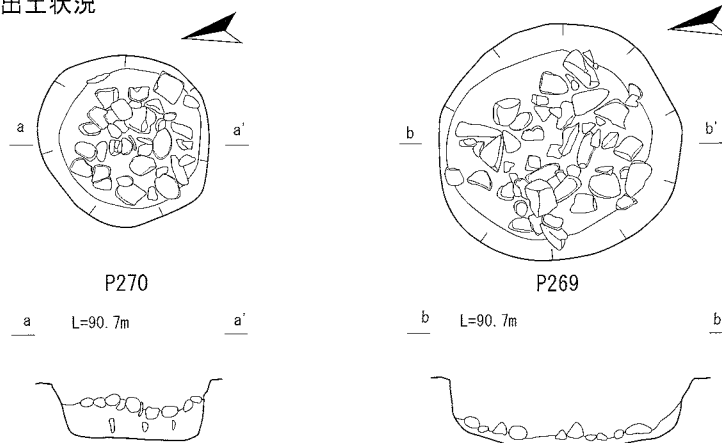
P247・P248・P269・P270



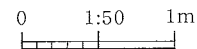
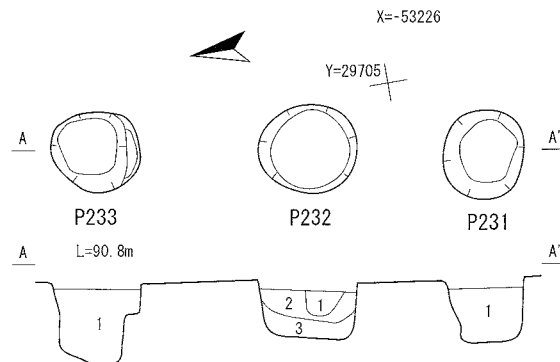
- | | | | |
|------|--|------|-------------------------|
| P269 | 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強 | P247 | 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 |
| P270 | i 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強 礫(φ2~3cm)5%含む。 | P248 | 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 |



P269・270 礫出土状況



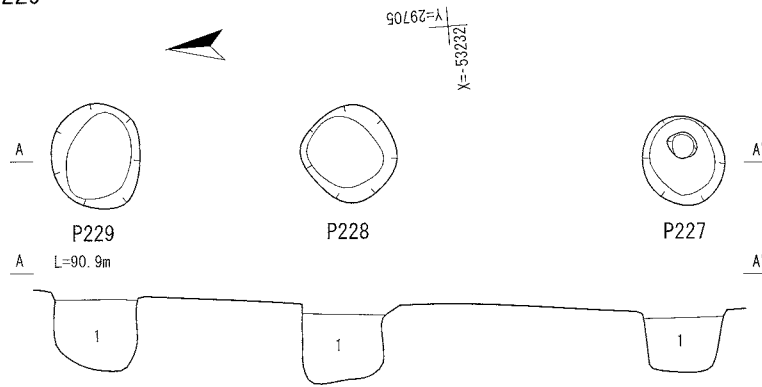
P231~P233



- | | |
|------|--|
| P231 | 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱 焼土粒少量、土器片少量、黄褐色土ブロック少量含む。 |
| P232 | 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 焼粘土粒、土器片多量含む。
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒少量含む。
3 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまり強 黒褐色土粒少量含む。 |
| P233 | 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強 焼土粒少量、黄褐色土ブロック多量含む。 |

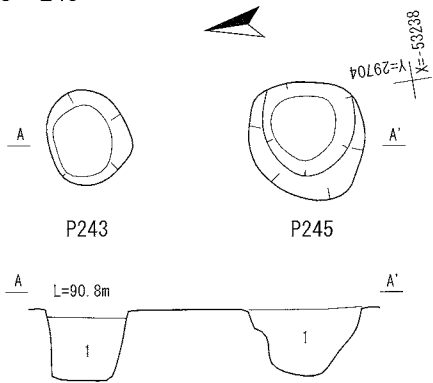
第 92 図 B3 区柱穴群 (2)

P227・228・229



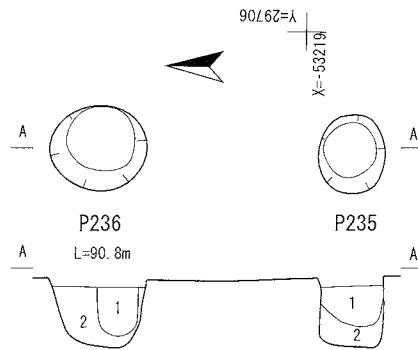
- P227
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒多量含む。
- P228
1 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまりやや強 焼粘土粒多量、黄褐色土粒多量含む。
- P229
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱 焼粘土粒多量、土器片多量、黄褐色土粒多量含む。

P243・245



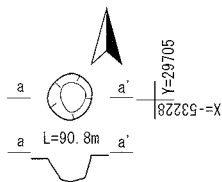
- P243
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強 黄褐色土粒少量含む。
- P245
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強 焼土粒少量含む。

P235・236

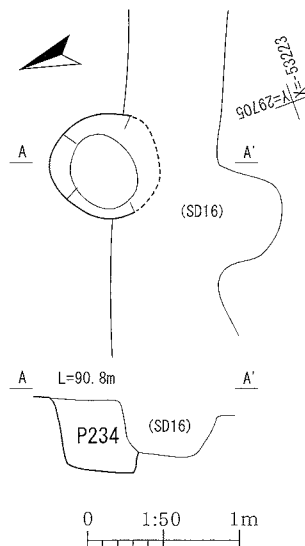


- P235
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 焼土粒多量含む。
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまりやや弱 黄褐色土粒少量含む。
- P236
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり強 焼土粒少量、炭化物粒少量、黄褐色土粒少量含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック(大)多量含む。

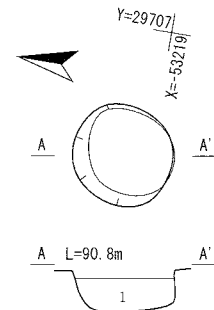
P230



P234



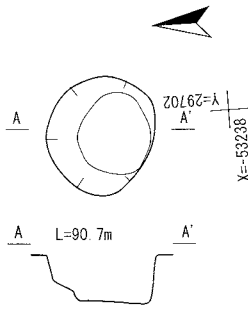
P237



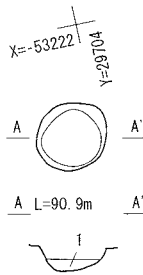
- P237
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強 黄褐色土粒少量含む。

第 93 図 B3 区柱穴群 (3)

P238

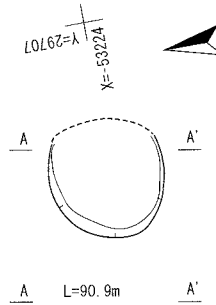


P239

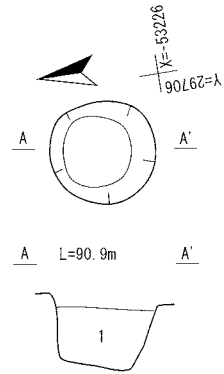


P239
1 10YR2/2 黒褐色土
粘性やや弱 しまりやや弱
黄褐色土粒多量含む。

P240



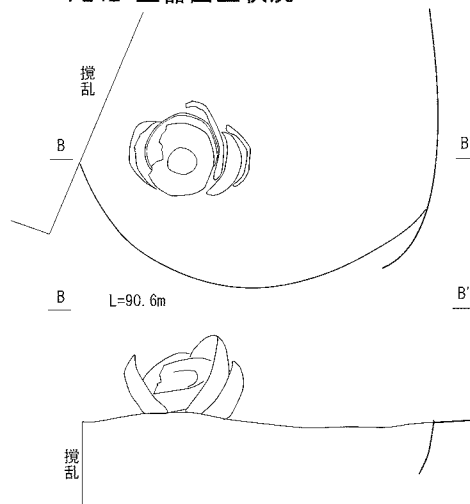
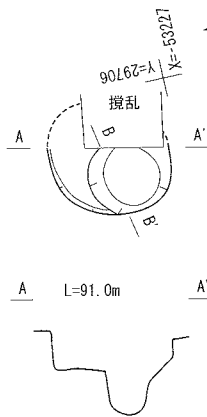
P241



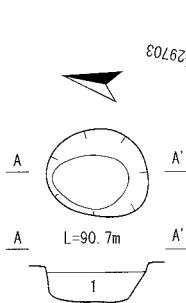
P241
1 10YR2/2 黒褐色土
粘性弱 しまりやや弱
焼土粒少量、土器片少量、
黄褐色土ブロック少量含む。

P242

P242 土器出土状況

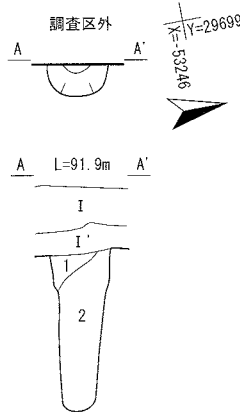


P244



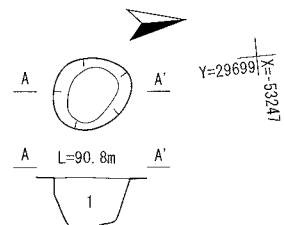
P244
1 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまりやや強
礫(小)少量含む。

P271

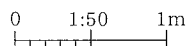


P271
1 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土粒少量含む。
2 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック少量含む。

P272

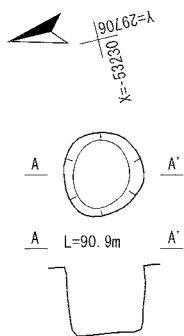


P272
1 10YR2/2 黒褐色土
粘性弱 しまり強

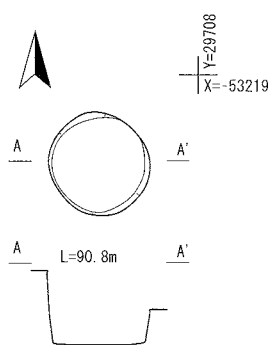


第 94 図 B3 区柱穴群 (4)

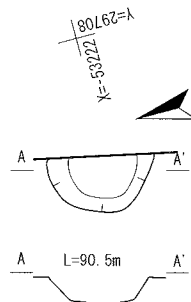
P544



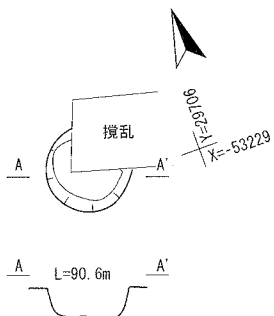
P820



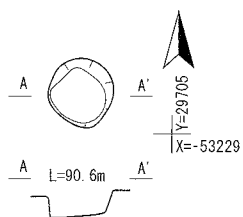
P821



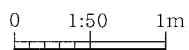
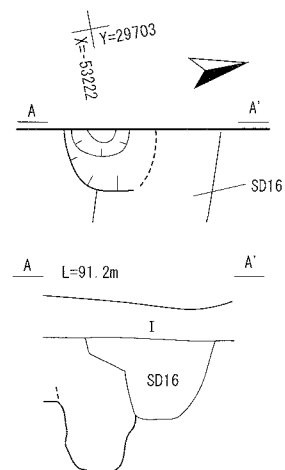
P822



P823

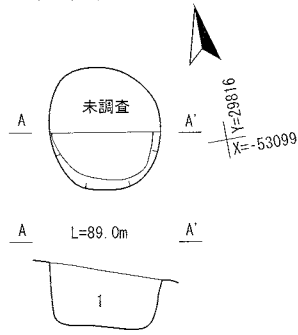


P824

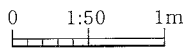


第 95 图 B3 区柱穴群 (5)

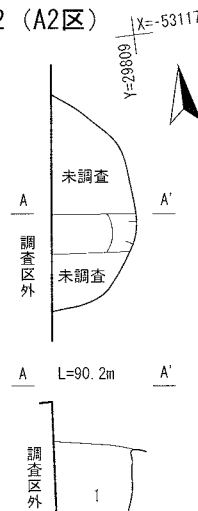
SK01 (A2区)



SK01
1 10YR2/3 黒褐色土
粘性やや弱 しまり強
小礫 (φ2~3cm) 2%、酸化鉄分含む。

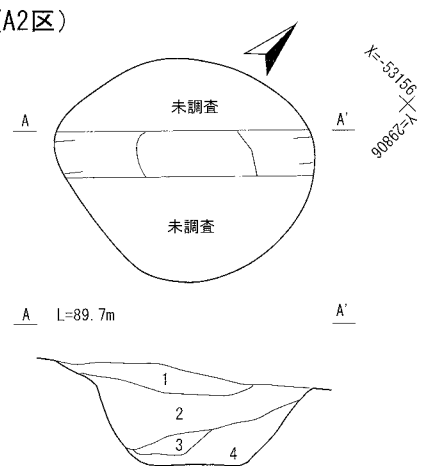


SK02 (A2区)



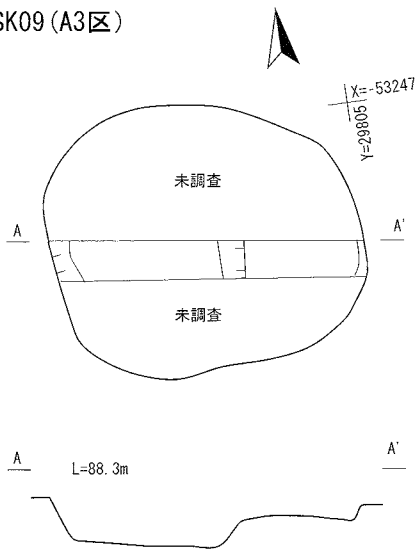
SK02
1 10YR3/3 暗褐色土
粘性やや弱 しまりやや弱
褐色土ブロック (φ2~3cm) 3%、
礫 (φ3~5cm) 少量含む。

SK03 (A2区)

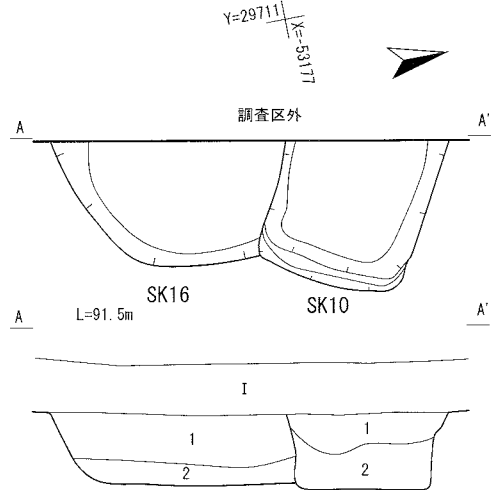


SK03
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱
褐色土ブロック (φ1cm) 7%含む。
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強
白色粒 (φ2mm) 5%、炭化物粒 (φ5mm) 1%含む。
3 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強 しまりやや弱
褐色土粒 (φ2~5mm) 10%、炭化物粒 (φ5mm) 1%含む。
4 10YR4/4 褐色土 粘性やや強 しまりやや弱
黒褐色土粒 (φ5~7mm) 5%含む。

SK09 (A3区)



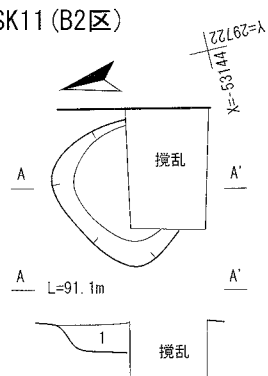
SK10・16 (B3区)



SK10
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック多量含む。

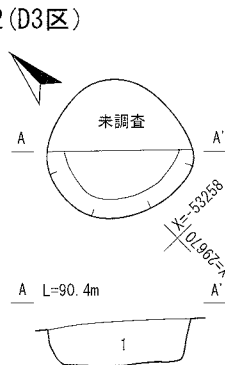
SK16
1 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまりやや弱
2 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまりやや弱 黄褐色土粒少量含む。

SK11 (B2区)



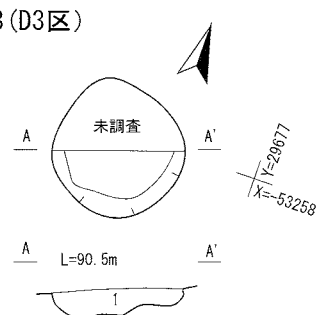
SK11
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱

SK12 (D3区)



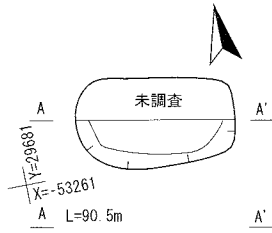
SK12
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強

SK13 (D3区)



SK13
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
黄褐色土粒少量、焼土粒少量含む。

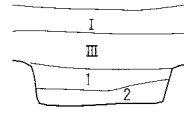
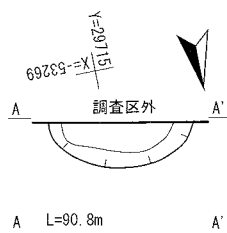
SK14 (D3区)



SK14

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土粒少量含む。

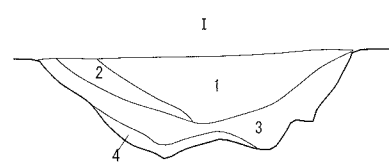
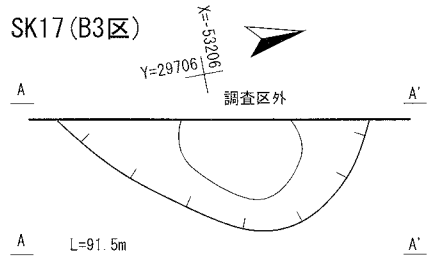
SK15 (D3区)



SK15

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
黄褐色土粒少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
黄褐色土粒多量含む。

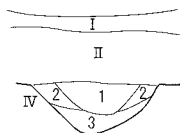
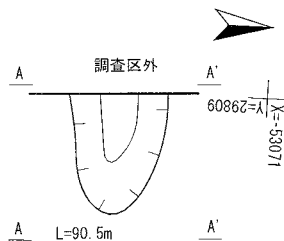
SK17 (B3区)



SK17

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
黄褐色土粒多量含む。
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土粒少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり強
黄褐色土粒多量含む。
4 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり強
黄褐色土粒極多量含む。

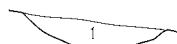
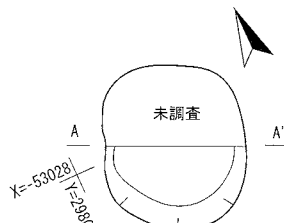
SK18 (A1区)



SK18

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
焼土粒多量含む。
3 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり弱
炭化物粒多量含む。

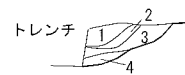
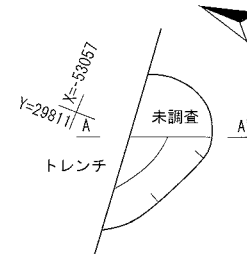
SK19 (A1区)



SK19

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり強

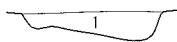
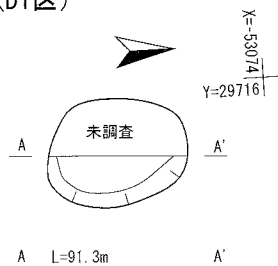
SK20 (A1区)



SK20

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
黄褐色土ブロック多量含む。
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
焼土粒多量含む。
3 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
黄褐色土粒多量含む。
4 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
炭化物粒多量含む。

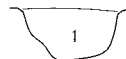
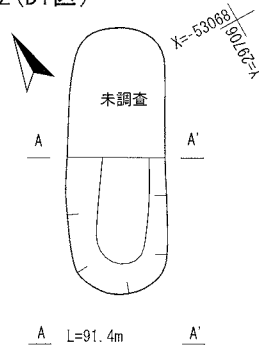
SK21 (D1区)



SK21

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土ブロック多量含む。

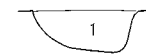
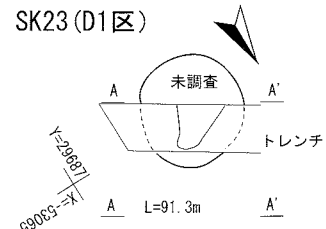
SK22 (D1区)



SK22

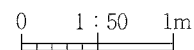
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土ブロック、黒色土ブロック多量含む。

SK23 (D1区)

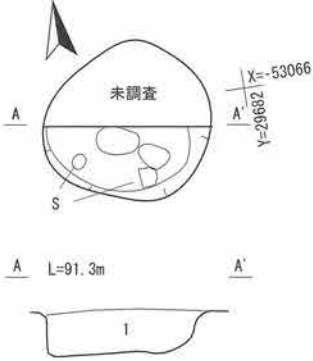


SK23

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強

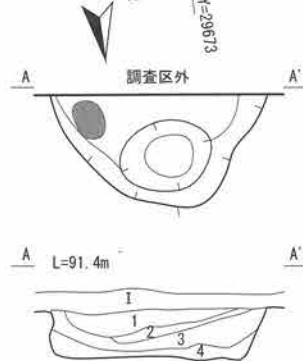


SK24 (D1区)



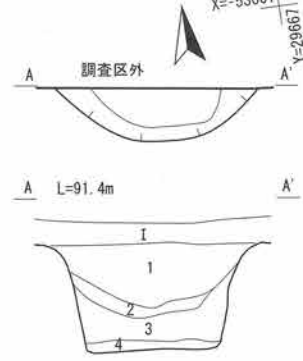
- SK24
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強
黄褐色土ブロック少量、底面に礫少量含む。

SK25 (D1区)



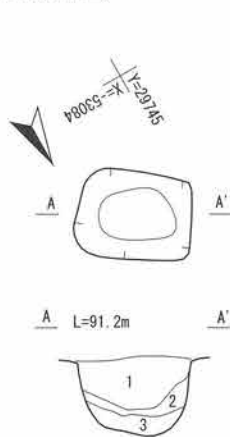
- SK25
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
焼土粒少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
焼土粒多量含む。
3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
焼土粒少量、黄褐色土ブロック多量含む。
4 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。

SK26 (D1区)



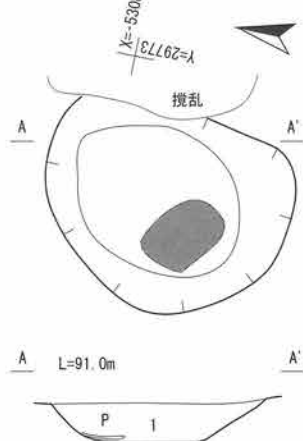
- SK26
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり強
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり強
黄褐色土ブロック多量含む。
3 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり強
4 10YR4/6 褐色砂質土 粘性弱 しまりやや弱
黒色土粒微量含む。

SK27 (D2区)



- SK27
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。
3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱

SK28 (D2区)



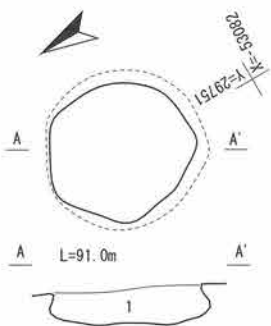
- SK28
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強
底面直上に焼土粒含む。

SK29 (D2区)



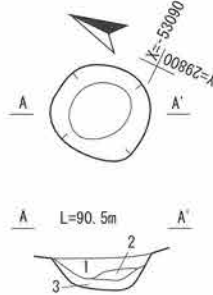
- SK29
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強

SK30 (D2区)



- SK30
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強

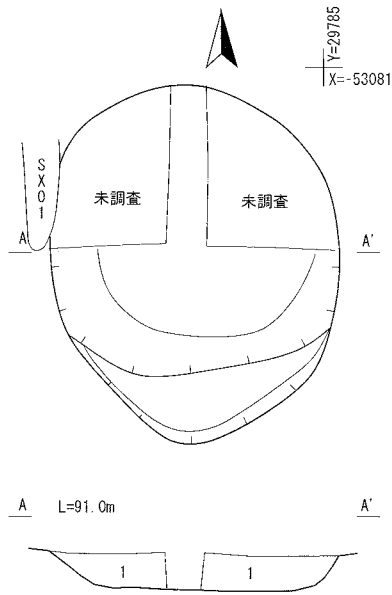
SK31 (D2区)



- SK31
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。
3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱



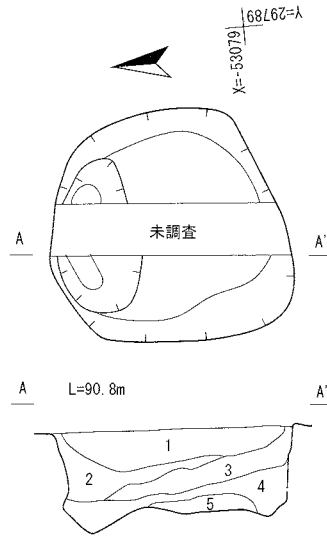
SK32 (D2区)



SK32

- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり強 焼土粒少量含む。

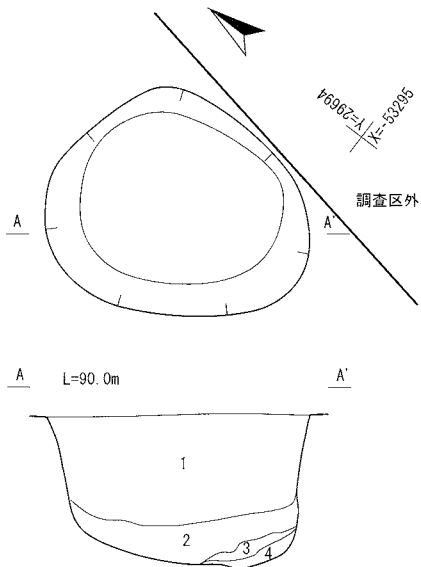
SK33 (D2区)



SK33

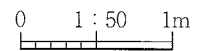
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒少量含む。
 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり強
 3 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒少量含む。
 4 10YR2/1 黒色土 粘性やや弱 しまりやや弱
 5 10YR2/1 黒色土 粘性やや弱 しまりやや弱 黄褐色土粒多量含む。

SK34 (B4区)

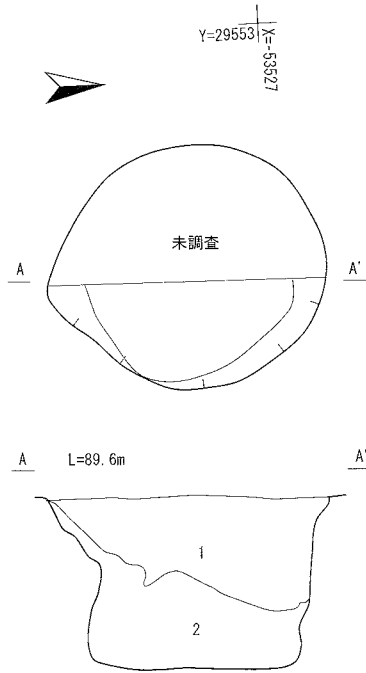


SK34

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまり弱 黄褐色土ブロック多量、上位に骨片?含む。
 2 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまりやや強
 3 2.5YR4/8 赤褐色土 粘性弱 しまりやや弱 焼土ブロック多量含む。
 4 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまりやや強



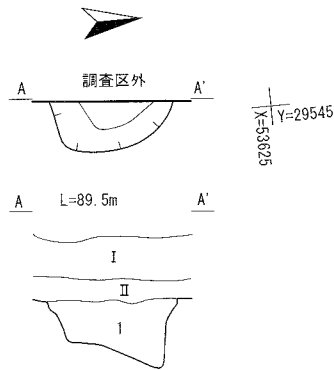
SK101 (C7区)



SK101

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強 酸化鉄分根攪乱の影響あり。
- 2 10YR4/4 褐色砂質土 粘性弱 しまり弱 黒褐色土ブロック (φ2~3cm) 1%含む。

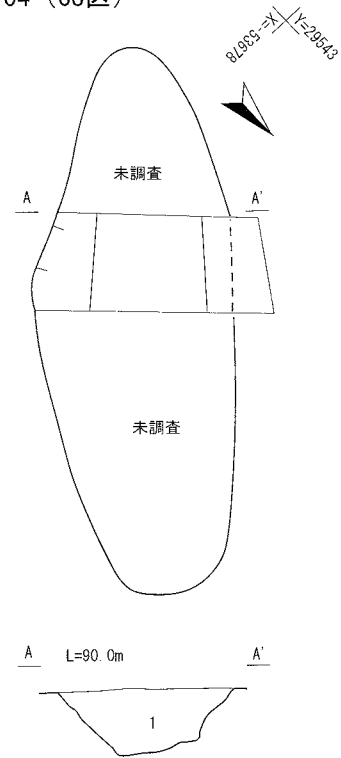
SK103 (C8区)



SK103

- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱 褐色砂質土ブロック (φ3~6cm) 5%、炭化物 (φ1cm) 1%含む。

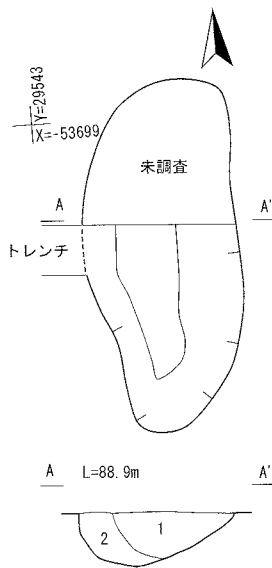
SK104 (C8区)



SK104

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり強 褐色土ブロック (φ4~10cm) 7%含む。

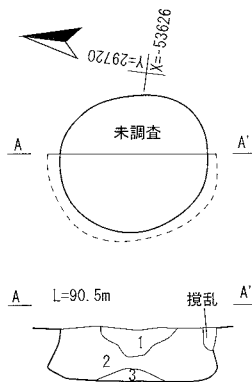
SK105 (C8区)



SK105

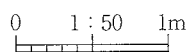
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱 白色粒多量含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱 褐色土ブロック (φ3~4cm) 15%含む。

SK108 (A7区)

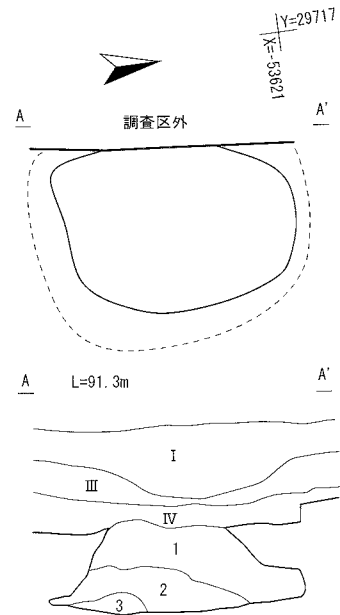


SK108

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱 黄褐色土ブロック (φ2~3cm) 5%含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱 褐色砂質土ブロック (φ1~2cm) 3%含む。
- 3 10YR4/6 褐色土 粘性やや弱 しまりやや強 暗褐色土粒 1%含む。



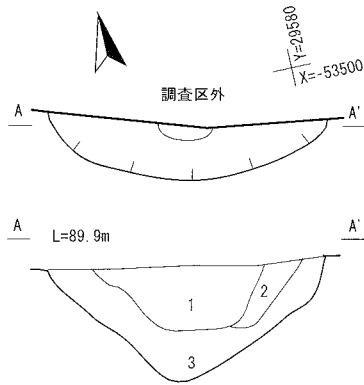
SK109 (A7区)



SK109

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや弱 褐色土 (φ5mm~5cm) 5%含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強 しまりやや弱 黒褐色土ブロック (φ3~5cm) 7%含む。
- 3 10YR4/6 褐色砂質土 粘性弱 しまりやや弱 暗褐色土ブロック (φ2~3cm) 2%含む。

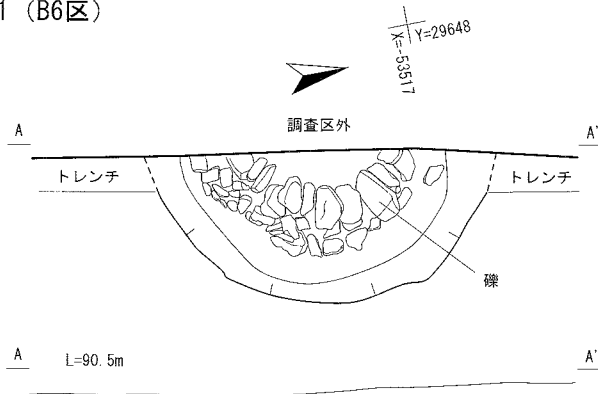
SK110 (D5区)



SK110

- 1 10YR8/2 灰白色砂質土 粘性なし しまりやや強
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性強 しまりやや弱
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性強 しまりやや弱

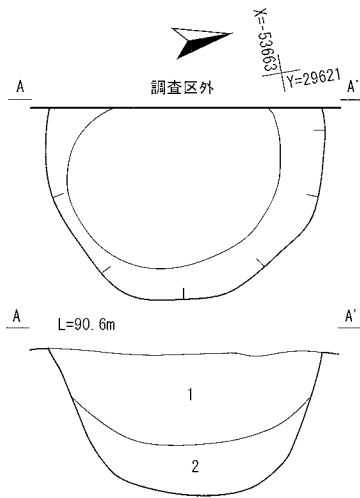
SK111 (B6区)



SK111

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり弱
白色粒 (φ1mm) 3%、投げ込みと思われる礫含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや強
礫のブロック (φ2~3cm) 含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり弱
石組の隙間に堆積した層。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや強 しまり強
灰色の粘土ブロック (φ7~10cm) 20%含む。裏籠の層。
- 5 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強 しまり弱
投げ込みと思われる大形礫が入る。井戸本体の覆土。
- 6 5YR4/1 褐灰色粘土 粘性やや弱 しまり弱
グライ化した層 井戸本体の覆土。
- 7 5YR4/1 褐灰色粘土 粘性やや弱 しまりやや弱
グライ化した層井戸本体の土よりやや締まる。

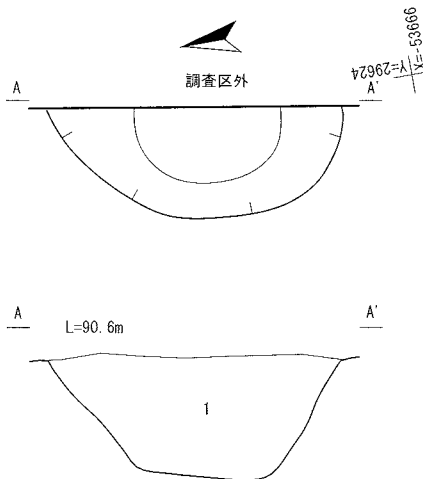
SK113 (B8区)



SK113

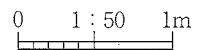
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまりやや弱
礫多量含む。
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまりやや弱
礫少量、黄褐色土ブロック多量含む。

SK114 (B8区)

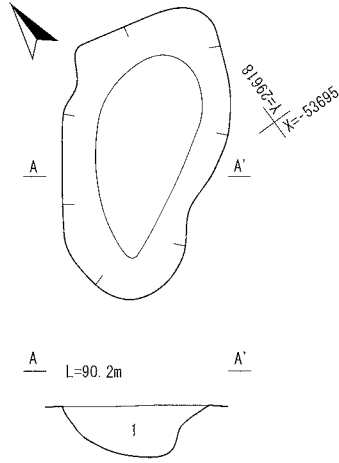


SK114

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱 礫多量含む。

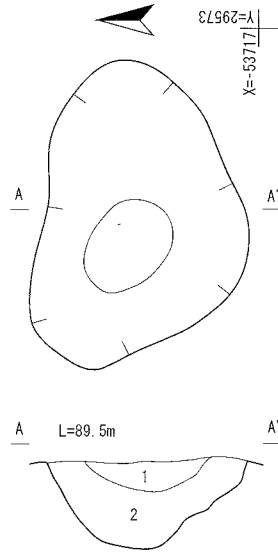


SK115 (B8区)



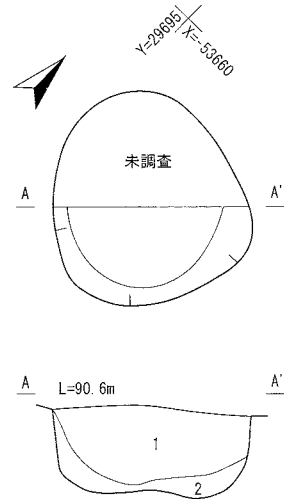
SK115
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱 礫(小)少量含む。

SK116 (D8区)



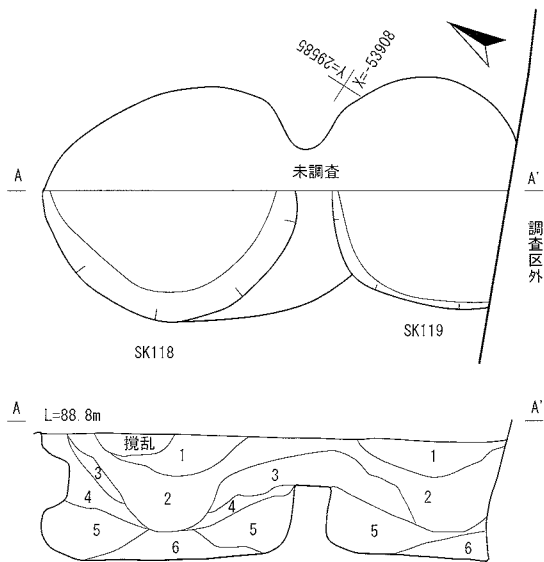
SK116
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり強
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり強 黄褐色土ブロック多量含む。

SK117 (A8区)



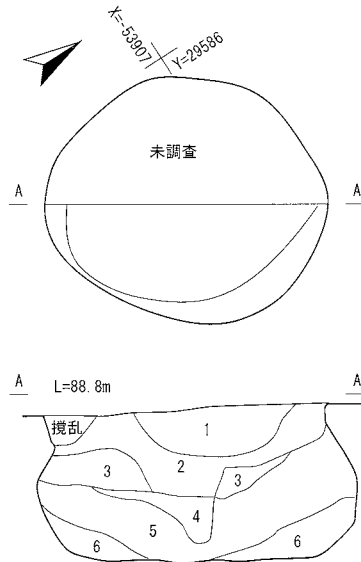
SK117
1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック多量含む。

SK118・SK119 (A10区)

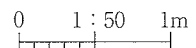


SK118・119
1 10YR5/8 黄褐色砂質土 粘性強 しまりやや弱
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱
3 10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性弱 しまりやや強
4 10YR3/4 暗褐色砂質土 粘性弱 しまりやや強
5 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり弱 黄褐色土ブロック多量含む。
6 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土と黒色土が互層状に堆積。

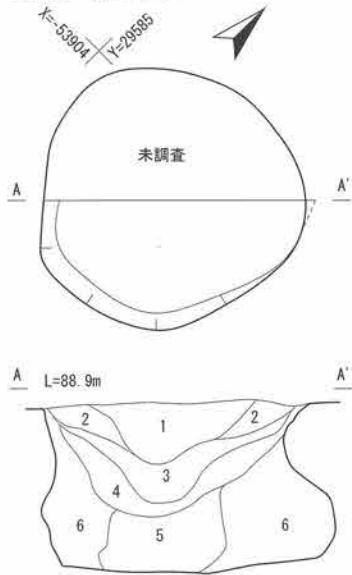
SK120 (A10区)



SK120
1 10YR5/8 黄褐色砂質土 粘性強 しまりやや弱。
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱
3 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり弱 黄褐色土粒少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱 黄褐色土ブロック少量含む。
5 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり弱 黄褐色土ブロック多量含む。



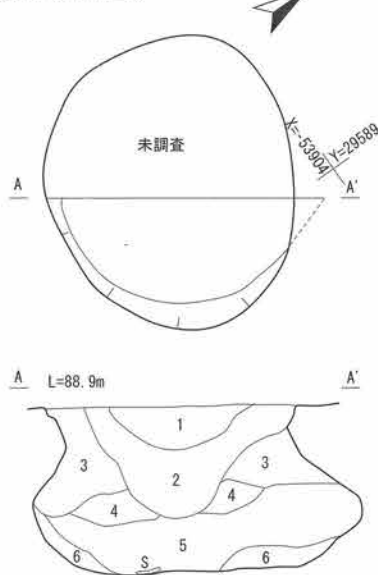
SK121 (A10区)



SK121

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 3 10YR5/8 黄褐色砂質土 粘性強 しまりやや弱
- 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱
- 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまり弱
- 6 黒色土が層状に堆積
- 6 10YR5/8 黄褐色砂質土

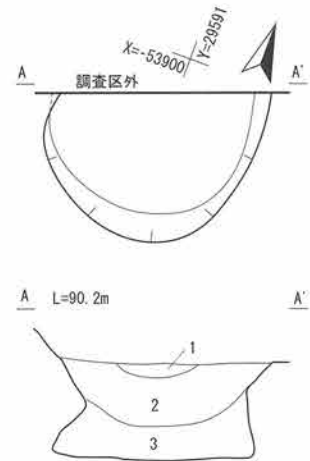
SK122 (A10区)



SK122

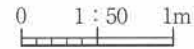
- 1 10YR5/8 黄褐色砂質土 粘性強 しまりやや弱
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱
- 4 黄褐色土粒少量含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱
- 5 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱
- 6 黒色土、黄褐色土ブロック多量含む。
- 6 10YR5/8 黄褐色砂質土

SK123 (A10区)

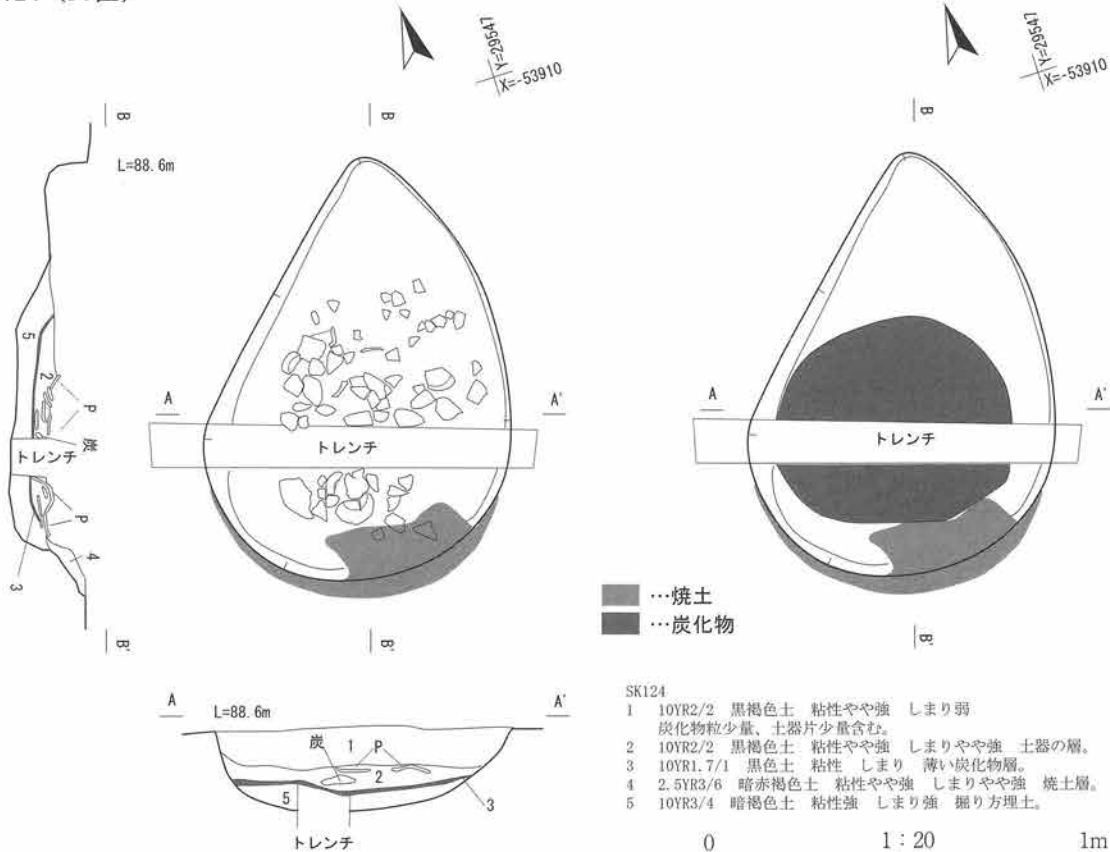


SK123

- 1 10YR5/8 黄褐色砂質土 粘性強 しまりやや弱
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱
- 3 黄褐色土ブロック(大)少量含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり弱
- 黄褐色土粒少量含む。
- 底面に黒色土の薄い堆積あり。



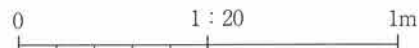
SK124 (D9区)



●●● 焼土
●●● 炭化物

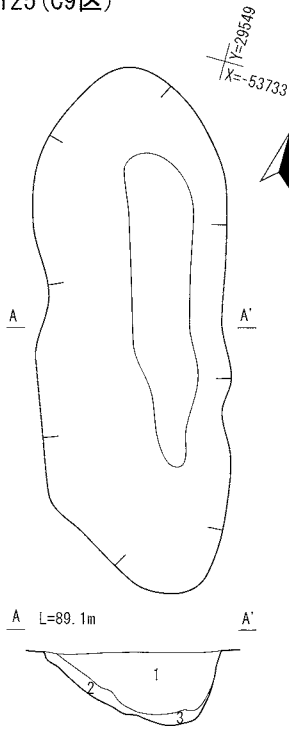
SK124

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱
- 炭化物粒少量、土器片少量含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや強 土器の層。
- 3 10YR1.7/1 黒色土 粘性 しまり 薄い炭化物層。
- 4 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性やや強 しまりやや強 焼土層。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 粘性強 しまり強 掘り方直土。



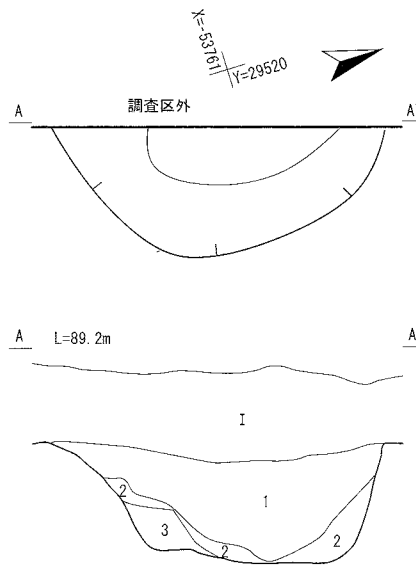
第 103 図 SK121 ~ 124

SK125 (C9区)



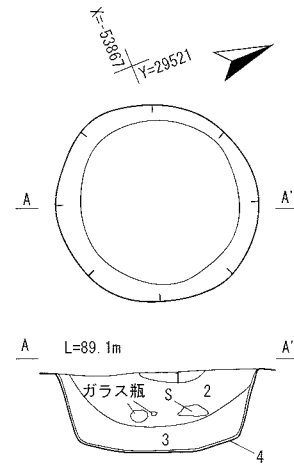
- SK125
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土ブロック多量含む。
 - 3 10YR4/6 褐色土 粘性やや弱 しまり強
礫多量含む。

SK126 (C9区)



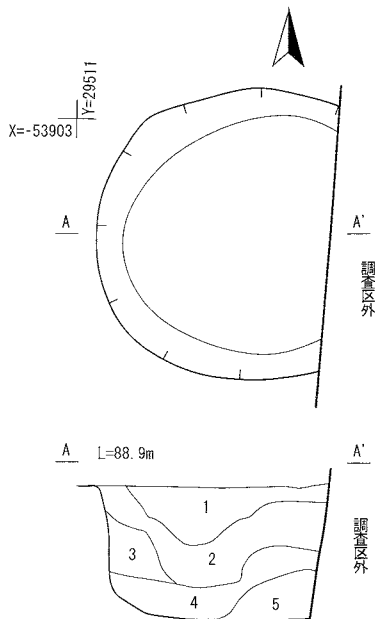
- SK126
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土ブロック少量含む。
 - 3 10YR4/6 褐色土 粘性弱 しまりやや強
礫(小)少量含む。

SK127 (C10区)



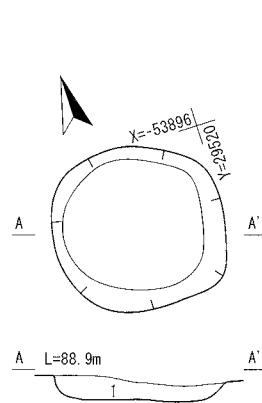
- SK127
- 1 10YR4/6 褐色砂質土 粘性弱 しまりやや弱
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
層状の砂(5の崩落土)含む。
 - 4 10YR6/3 にぶい黄橙色土
粘性なし しまり極強 砂を固めたもの?

SK128 (C10区)



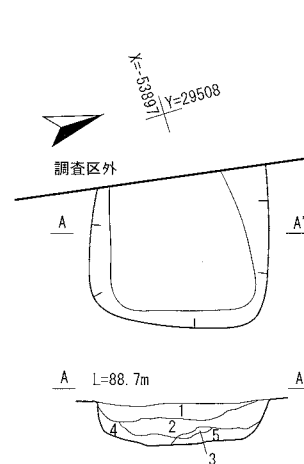
- SK128
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土粒多量含む。
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 - 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
黄褐色土ブロック多量含む。
 - 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり弱
黄褐色土ブロック多量含む。
 - 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土粒多量含む。

SK129 (C10区)

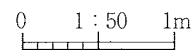


- SK129
- 1 10YR2/3 黒褐色土
粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。

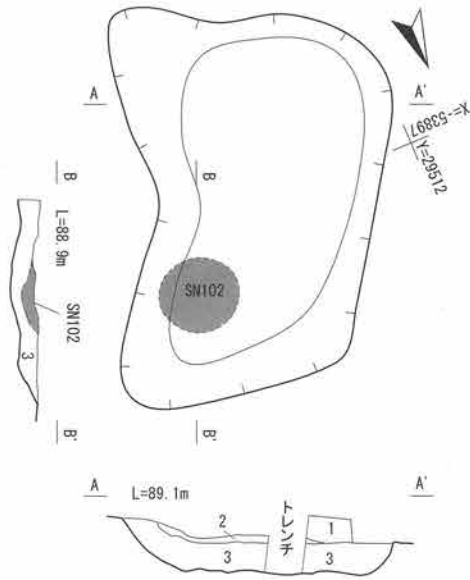
SK130 (C10区)



- SK130
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりなし
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱 しまりなし
褐色土粒少量含む。
 - 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性やや弱 しまり弱
 - 4 10YR4/4 褐色土 粘性やや弱 しまりなし
黒褐色土との混合土
 - 5 10YR4/6 褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱

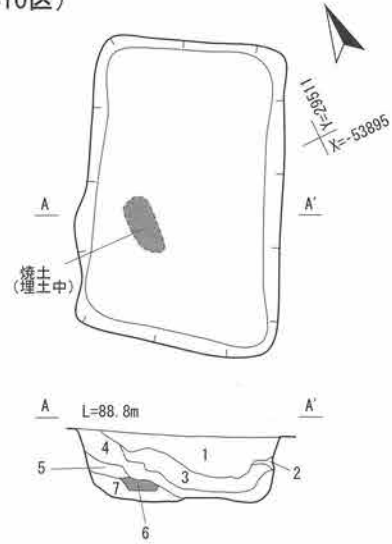


SK131 (C10区)



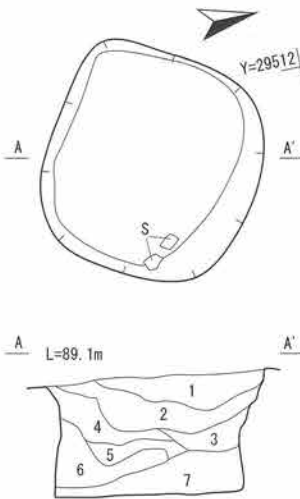
- SK131
- | | | | | |
|---|---------|--------|-------|-------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 |
| 2 | 10YR5/6 | 黄褐色砂質土 | 粘性なし | しまりなし |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまりなし |
- 褐色土ブロック少量含む。

SK132 (C10区)



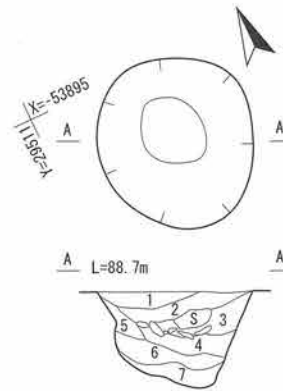
- SK132
- | | | | | |
|---|---------|---------|-------|-------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性やや弱 | しまりなし |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまりなし |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色土 | 粘性やや弱 | しまりなし |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 |
| 6 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色土 | 粘性弱 | しまり弱 |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまりなし |
- 焼土層
焼土粒微量含む。

SK133 (C10区)

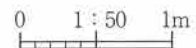


- SK133
- | | | | | |
|---|---------|-------|-------|--------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 粘性やや弱 | しまりなし |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性やや弱 | しまり弱 |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色土 | 粘性やや弱 | しまりなし |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色砂質土 | 粘性弱 | しまりやや弱 |
- 黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック含む。

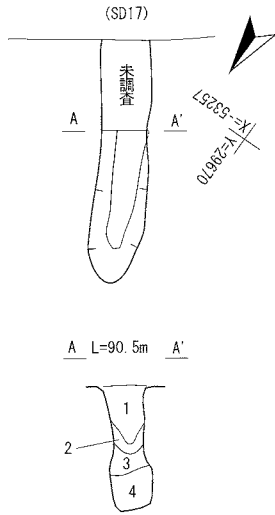
SK134 (C10区)



- SK134
- | | | | | | |
|---|---------|------|-----|--------|------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性弱 | しまりやや弱 | 黄褐色土粒少量含む。 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性弱 | しまりやや弱 | 黄褐色土粒少量含む。 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性弱 | しまりやや弱 | 黄褐色土粒少量含む。 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性弱 | しまりやや弱 | 黄褐色土粒少量含む。 |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 粘性弱 | しまりやや弱 | 黄褐色土粒少量含む。 |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 粘性弱 | しまりやや強 | 黄褐色土粒少量含む。 |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性弱 | しまり弱 | |



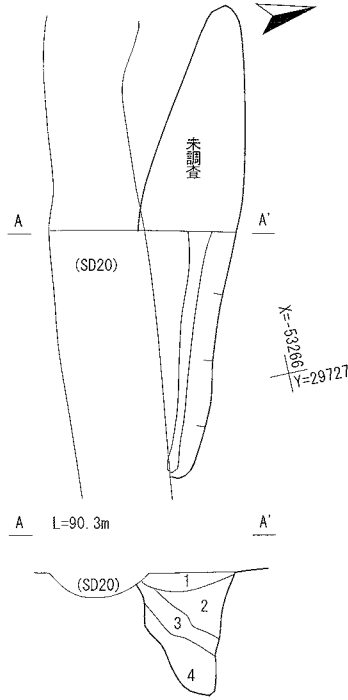
SKT01 (D3区)



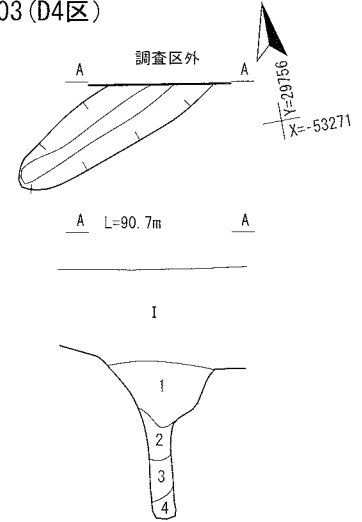
SKT01

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり弱
黄褐色土ブロック少量含む。
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり弱
黄褐色土ブロック多量含む。
- 3 10YR4/4 褐色土 粘性強 しまりやや弱
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまり弱
黄褐色土ブロック多量含む。

SKT02 (D4区)



SKT03 (D4区)



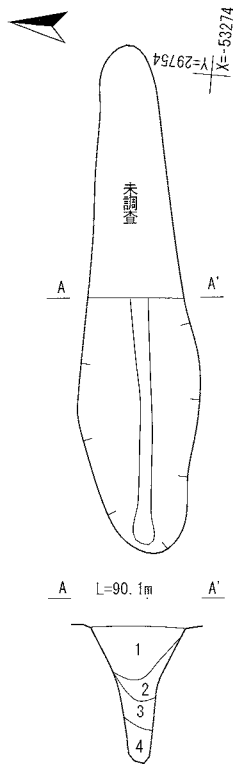
SKT03

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまり弱
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり弱
- 3 10YR3/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまり弱

SKT02

- 1 10YR1.7/1 黒色土 粘性やや強 しまりやや弱
- 2 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまりやや弱
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや弱
- 4 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまりやや弱

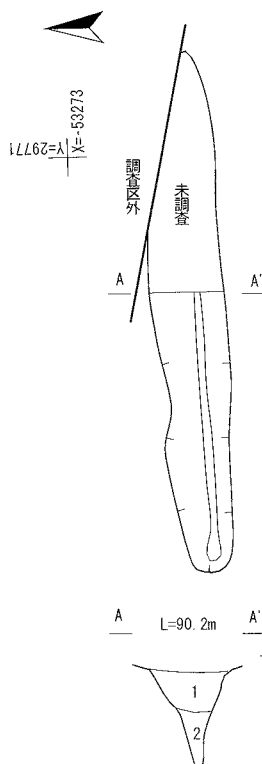
SKT04 (D4区)



SKT04

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
- 2 10YR4/6 褐色土 粘性やや強 しまりやや弱
- 3 10YR4/4 褐色土 粘性強 しまりやや弱
- 4 10YR3/4 暗褐色土 粘性強 しまり弱

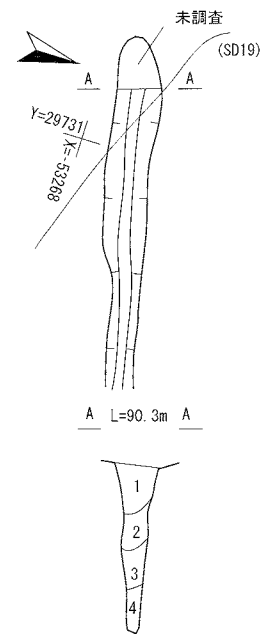
SKT05 (D4区)



SKT05

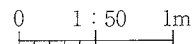
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性強 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。

SKT06 (D4区)

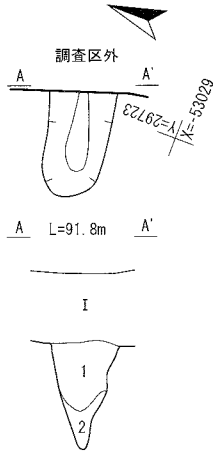


SKT06

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり弱
- 3 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや強 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまり弱

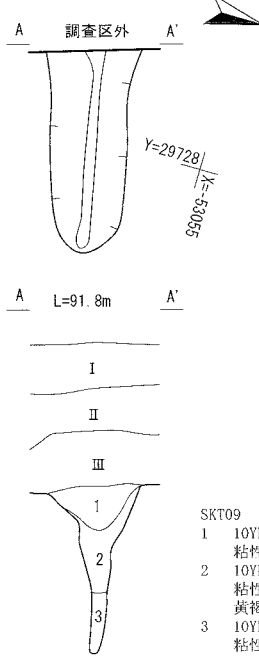


SKT07 (B1区)



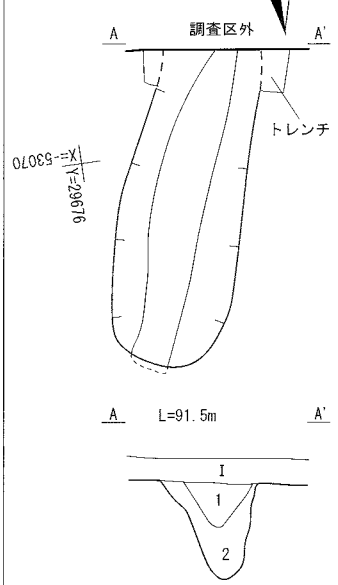
- SKT07
- 1 10YR2/2 黒褐色土
粘性やや強 しまり弱
 - 2 10YR3/4 暗褐色土
粘性強 しまりやや弱

SKT09 (B1区)



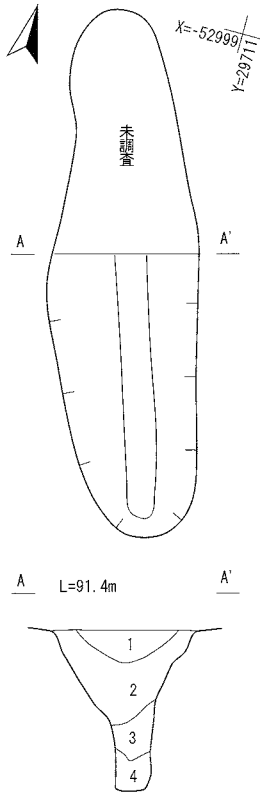
- SKT09
- 1 10YR2/2 黒褐色土
粘性弱 しまりやや弱
 - 2 10YR2/3 黒褐色土
粘性やや強 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。
 - 3 10YR2/1 黒色土
粘性やや強 しまりやや弱

SKT10 (D1区)



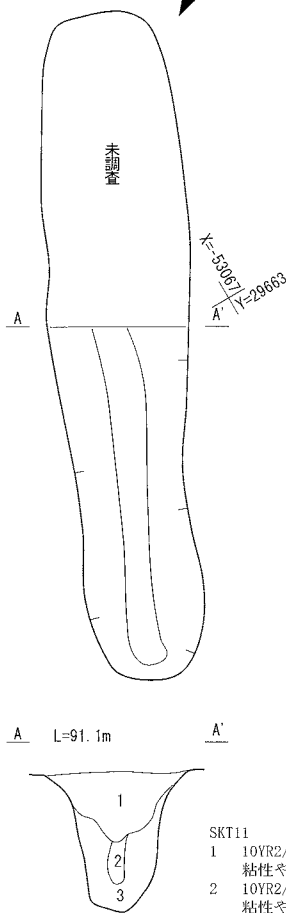
- SKT10
- 1 10YR2/2 黒褐色土
粘性弱 しまりやや弱
 - 2 10YR2/3 黒褐色土
粘性やや強 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。

SKT08 (B1区)



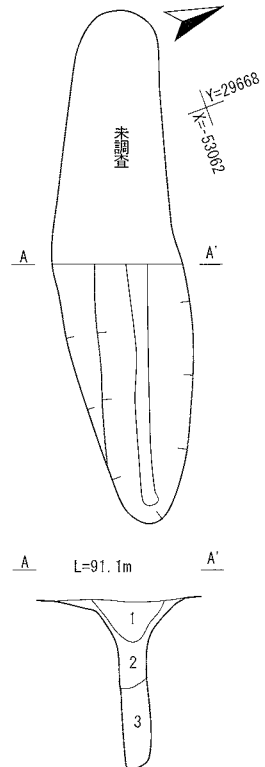
- SKT08
- 1 10YR2/1 黒色土
粘性やや弱 しまりやや弱
 - 2 10YR2/3 黒褐色土
粘性やや弱 しまりやや弱
 - 3 10YR3/4 暗褐色土
粘性強 しまりやや弱
 - 4 10YR2/1 黒色土
粘性やや強 しまり弱
黄褐色土粒少量含む。

SKT11 (D1区)

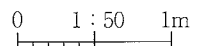


- SKT11
- 1 10YR2/2 黒褐色土
粘性やや強 しまりやや弱
 - 2 10YR2/2 黒褐色土
粘性やや強 しまりやや弱
黄褐色土粒少量含む。
 - 3 10YR4/6 褐色土
粘性強 しまりやや弱
黒褐色土ブロック少量含む。

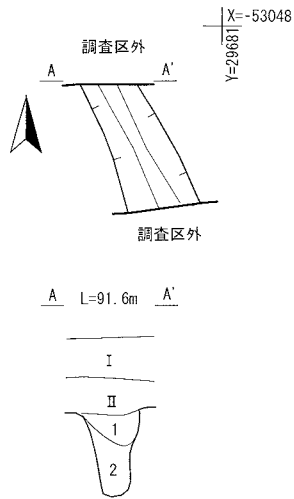
SKT12 (D1区)



- SKT12
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり強
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性強 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性強 しまりやや弱
黄褐色土ブロック少量含む。

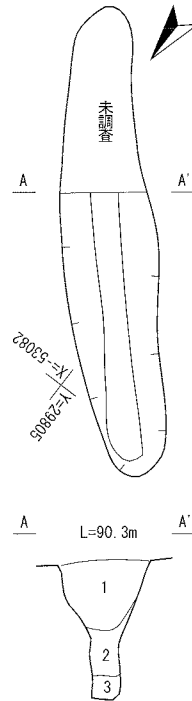


SKT13 (C1区)



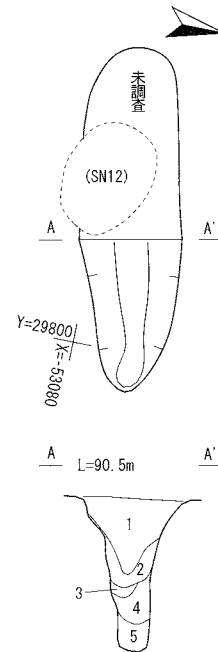
- SKT13
 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 粘性弱 しまりやや弱
 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまり弱
 粘性やや弱 しまり弱
 黄褐色土ブロック多量含む。

SKT14 (D2区)



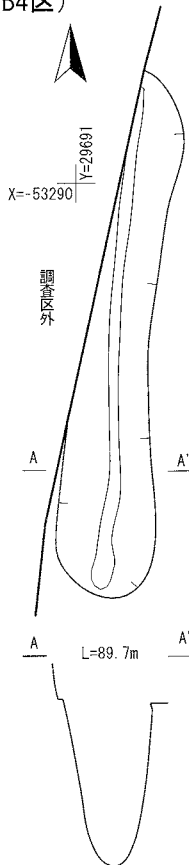
- SKT14
 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
 2 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまりやや弱
 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまり弱

SKT15 (D2区)

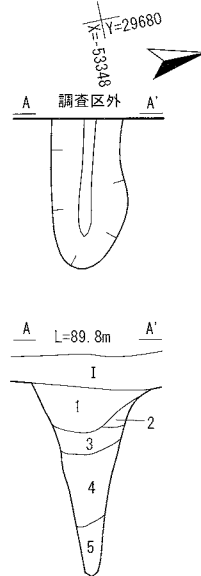


- SKT15
 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 黄褐色土ブロック多量含む。
 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 黄褐色土ブロック少量含む。
 5 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまりやや弱

SKT16 (B4区)

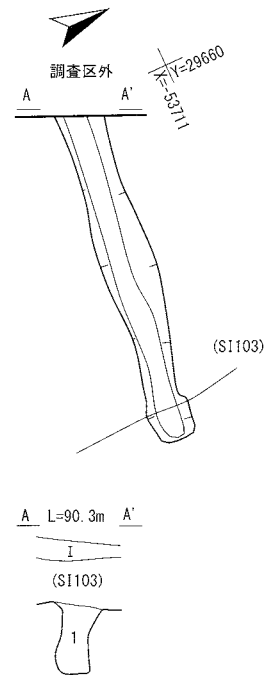


SKT17 (B4区)

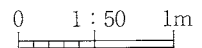


- SKT17
 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強
 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 黄褐色土ブロック少量含む。
 3 10YR2/1 黒色土 粘性やや弱 しまりやや弱
 4 10YR2/3 黒褐色土
 5 10YR2/1 黒色土

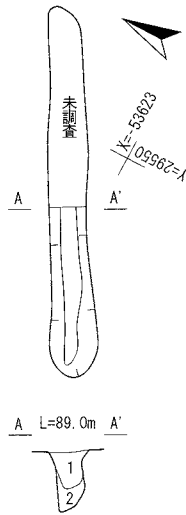
SKT125 (A8区)



- SKT125
 1 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまり弱
 褐色土ブロックを7%含む。



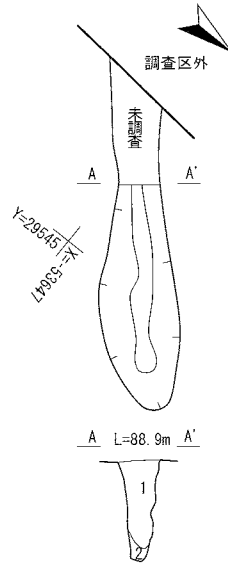
SKT101 (C8区)



SKT101

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり強
褐色土ブロック (φ2~3cm) 3%含む。
- 2 10YR4/6 褐色砂質土 粘性やや弱 しまり弱

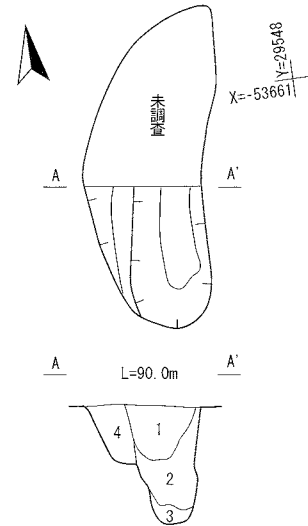
SKT102 (C8区)



SKT102

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強
褐色土ブロック (φ3~5cm) 3%含む。
- 2 10YR4/6 褐色砂質土 粘性やや弱 しまり弱
小礫 (φ2cm) 少量、
黒色土ブロック (φ2cm) 10%含む。

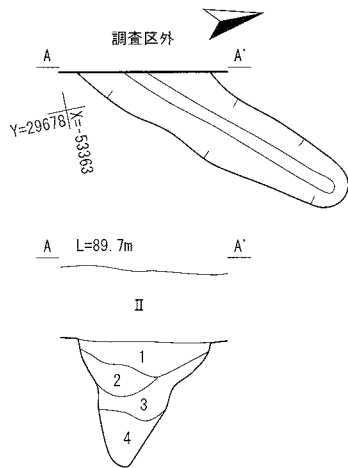
SKT103 (C8区)



SKT103

- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや弱 しまり強
白色粒多量、褐色土ブロック (φ3cm) 7%含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまり強
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまり強
酸化鉄分含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや強

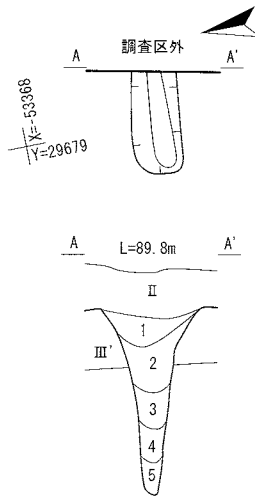
SKT104 (B5区)



SKT104

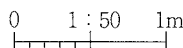
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性強 しまりやや強
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまりやや強
黄褐色土粒微量含む。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや強
黄褐色土ブロック少量含む。
- 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまりやや弱
黄褐色土粒微量含む。

SKT105 (B5区)

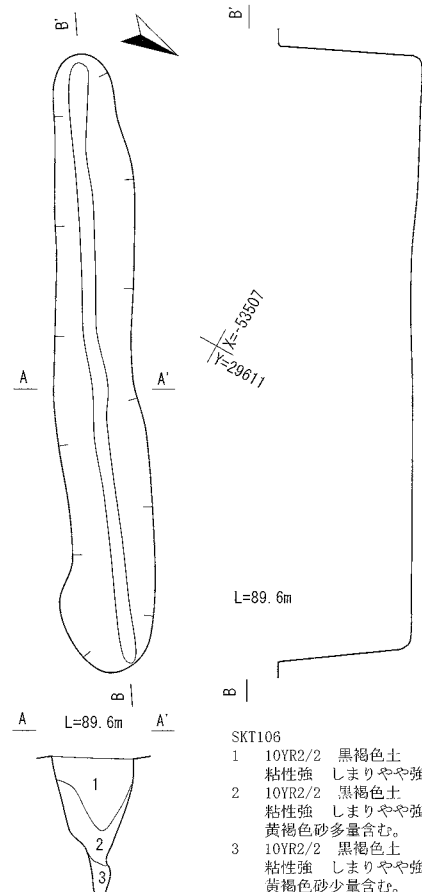


SKT105

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや強
層状の黄褐色土含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや強
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや弱
黄褐色土ブロック少量含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱



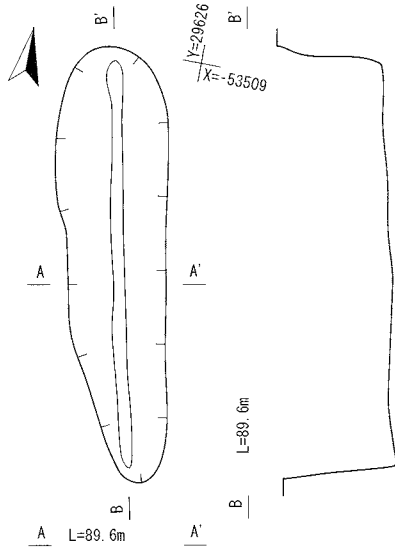
SKT106 (D5区)



SKT106

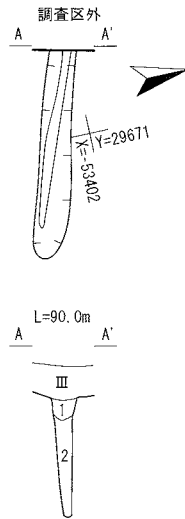
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまりやや強
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまりやや強
黄褐色砂多量含む。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまりやや強
黄褐色砂少量含む。

SKT107 (D5区)



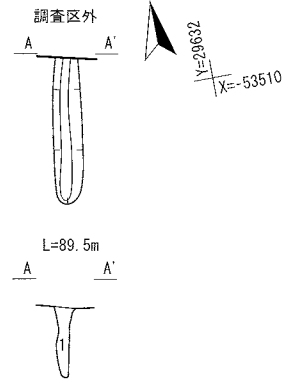
- SKT107
 1 10YR2/3 黒褐色土
 粘性やや弱 しまり強
 2 10YR4/6 褐色砂質土
 粘性弱 しまりやや弱
 3 10YR2/1 黒色土
 粘性やや強 しまり弱

SKT108 (B5区)



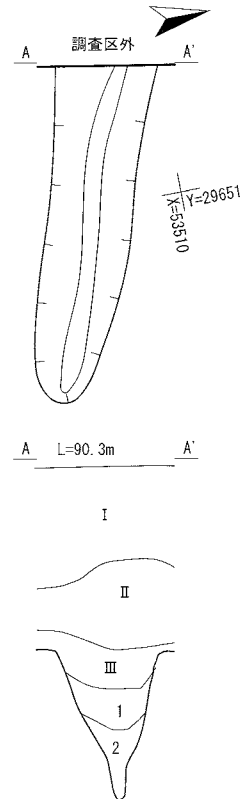
- SKT108
 1 10YR3/2 黒褐色土
 粘性やや弱 しまり強
 2 10YR2/3 黒褐色土
 粘性強 しまりやや強

SKT109 (D5区)



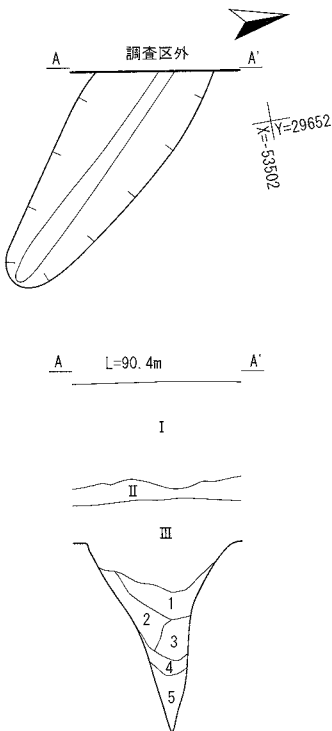
- SKT109
 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強

SKT111 (B6区)



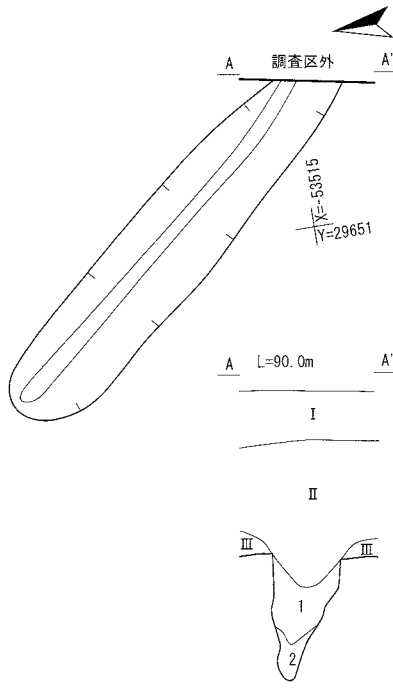
- SKT111
 1 10YR2/1 黒色土
 粘性強 しまり強
 黄褐色土ブロック少量含む。
 2 10YR2/3 黒褐色土
 粘性強 しまりやや強
 黄褐色土ブロック多量含む。

SKT110 (B6区)

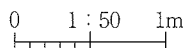


- SKT110
 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性強 しまり強
 黄褐色土ブロック少量含む。
 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性強 しまり強
 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 しまり強
 4 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまり弱
 5 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまり弱

SKT112 (B6区)

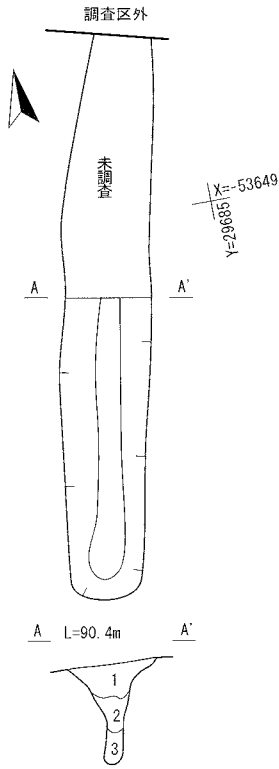


- SKT112
 1 10YR2/3 黒褐色土
 粘性強 しまりやや強
 2 10YR2/3 黒褐色土
 粘性強 しまりやや強
 黄褐色土ブロック多量含む。



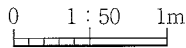
第 110 図 SKT107 ~ 112

SKT113 (D7区)

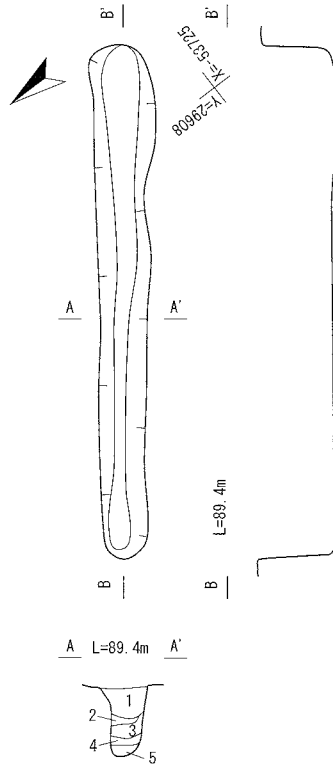


SKT113

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック極多量含む。



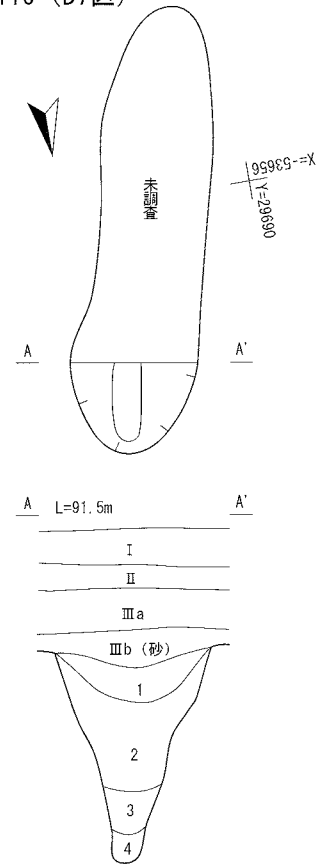
SKT115 (D8区)



SKT115

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまりやや弱
黄褐色土粒多量含む。
- 2 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまり弱
- 3 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまり弱
黄褐色土粒多量含む。
- 4 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまり弱
- 5 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまり弱
黄褐色土粒多量含む。

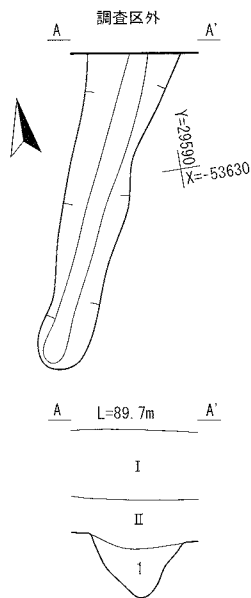
SKT116 (D7区)



SKT116

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまりやや弱
砂多量含む。
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまりやや弱
- 3 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまり弱
黄褐色土粒多量含む。
- 4 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまり弱

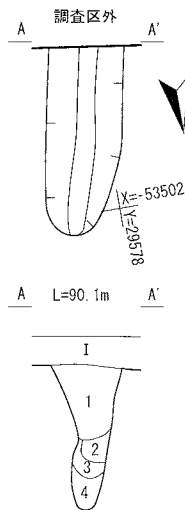
SKT114 (D6区)



SKT114

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
礫少量含む。

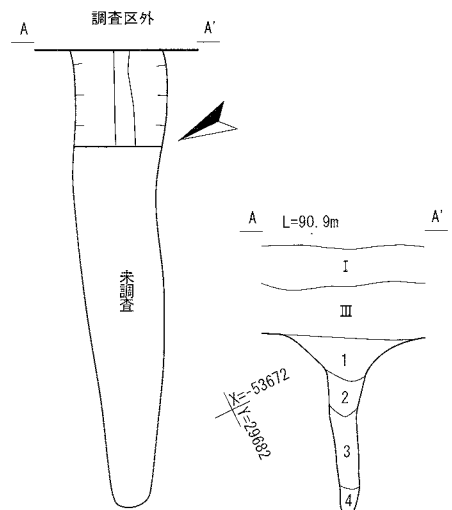
SKT117 (D5区)



SKT117

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや強
- 2 10YR4/6 褐色土 粘性強 しまり弱
黒褐色土粒少量含む。
- 3 10YR2/1 黒色土 粘性やや強 しまりやや弱
黄褐色土粒微量含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや強 しまり弱
黄褐色土ブロック少量含む。

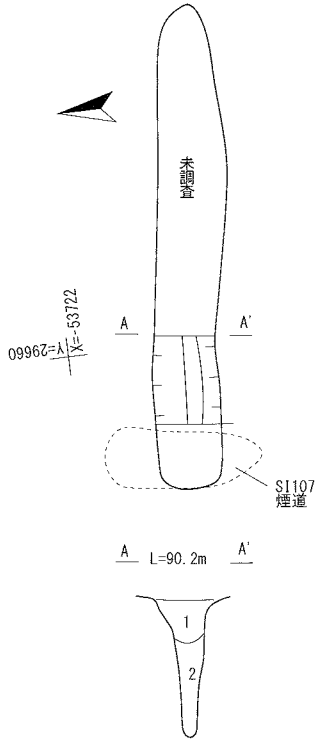
SKT118 (A8区)



SKT118

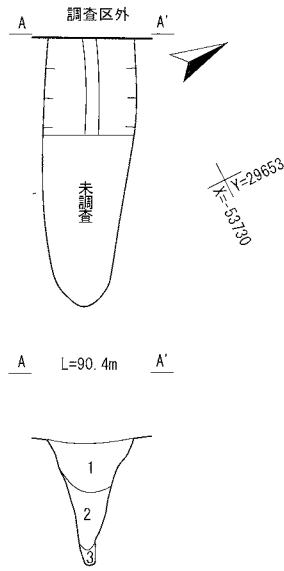
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり弱
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
黄褐色土ブロック多量含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱

SKT119 (A8区)

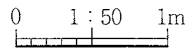


- SKT119
 1 10YR4/6 褐色砂質土 粘性なし しまり弱
 2 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり弱

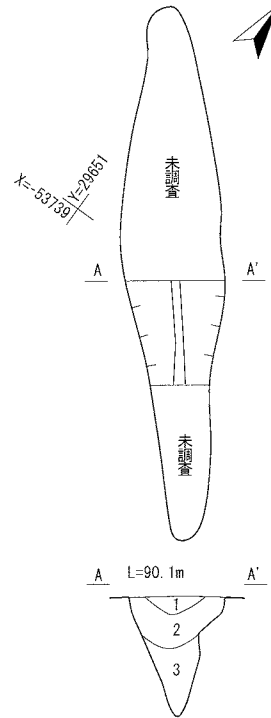
SKT120 (A8区)



- SKT120
 1 10YR4/6 褐色土 粘性なし しまり弱
 2 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり弱
 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 黄褐色土ブロック多量含む。

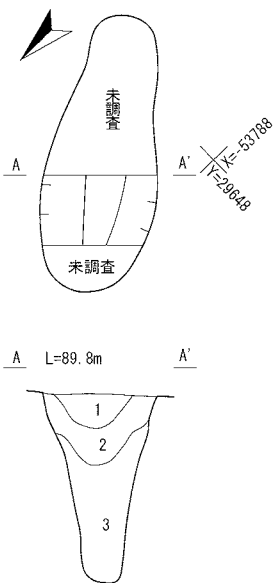


SKT121 (A9区)



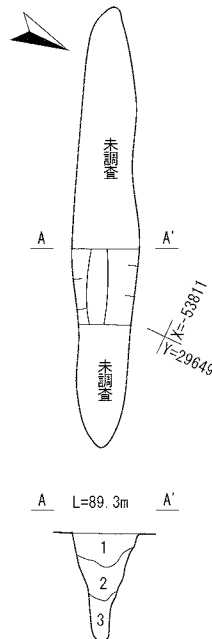
- SKT121
 1 10YR4/6 褐色土 粘性なし しまり弱
 2 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり弱
 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 黄褐色土ブロック多量含む。

SKT122 (A8区)



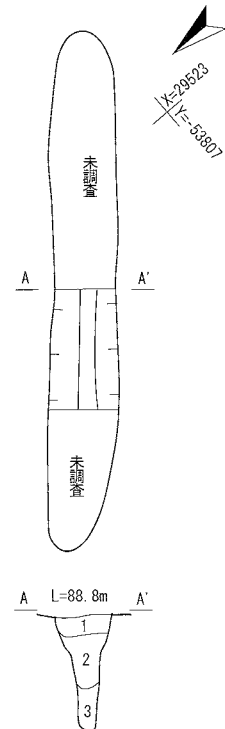
- SKT122
 1 10YR4/6 褐色土 粘性なし しまり弱
 2 10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり弱
 3 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
 黄褐色土ブロック多量含む。

SKT123 (A9区)



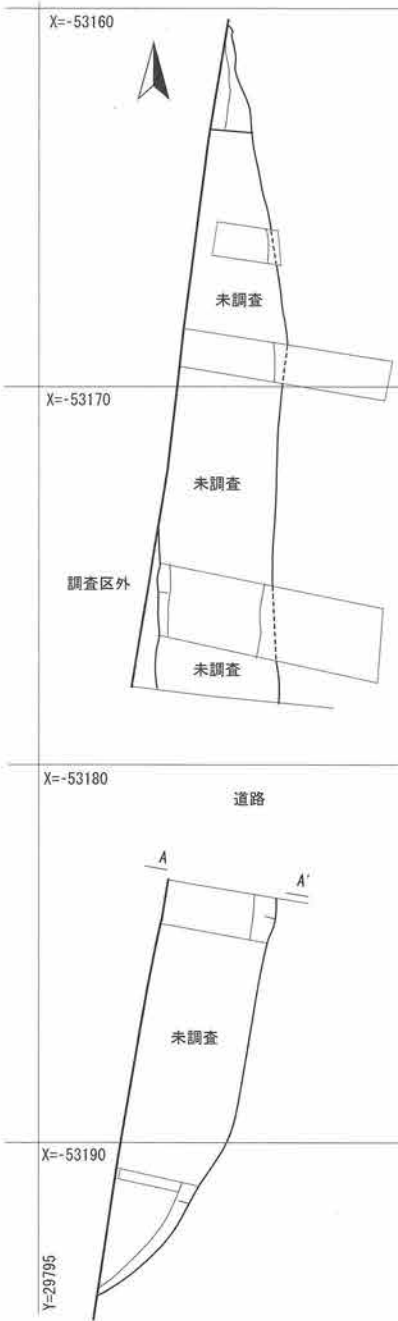
- SKT123
 1 10YR2/3 黒褐色砂質土
 粘性やや弱 しまりやや弱
 2 10YR2/3 黒褐色砂質土
 粘性やや弱 しまりやや弱 黄色砂多量含む。
 3 10YR2/3 黒褐色砂質土
 粘性やや弱 しまりやや弱 黄色砂少量含む。

SKT124 (C10区)

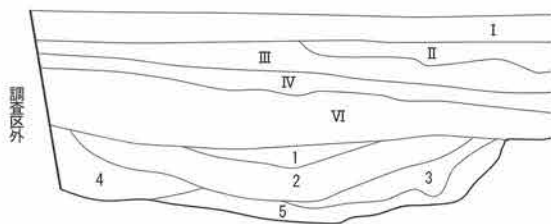


- SKT124
 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまり弱
 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強 しまり弱
 黄褐色土ブロック多量含む。
 3 10YR2/1 黒色土

SD01 (A2区)



A L=90.0m SD01断面図



SD04 (A3区)

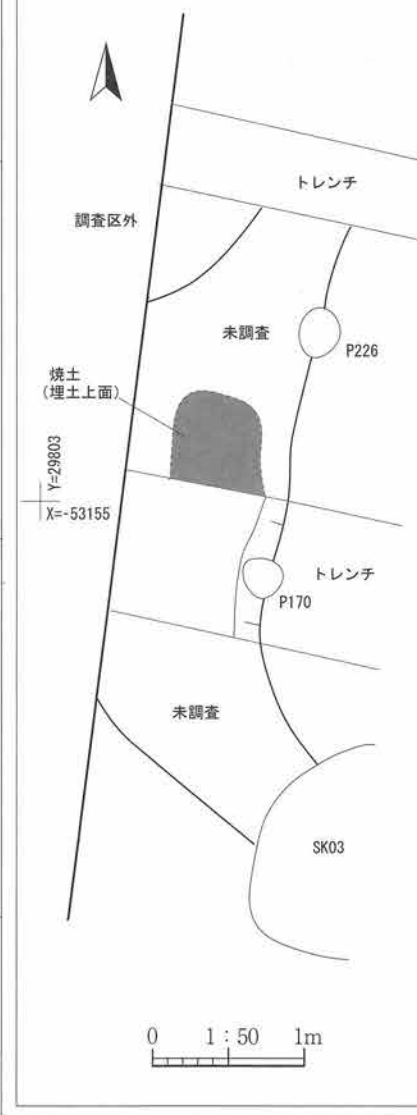


B L=89.0m SD04断面図



SD04
1 10YR2/2 黒褐色土
粘性やや強 しまりやや弱

SD06 (A2区)



0 1:50 1m

SD01

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや弱 しまりやや弱
褐色土ブロック (φ2~3cm) 5%含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや弱
礫 (φ1~3cm) 3%含む。
- 3 10YR5/8 黄褐色砂質土 粘性弱 しまりやや弱
黒褐色土ブロック (φ3~4cm) 5%含む。
- 4 10YR2/2 黒褐色粘土 粘性強 しまりやや強
酸化鉄分含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色砂質土 粘性やや弱 しまりやや弱
黒褐色粘土多量、礫 (φ2~3cm) 5%含む。

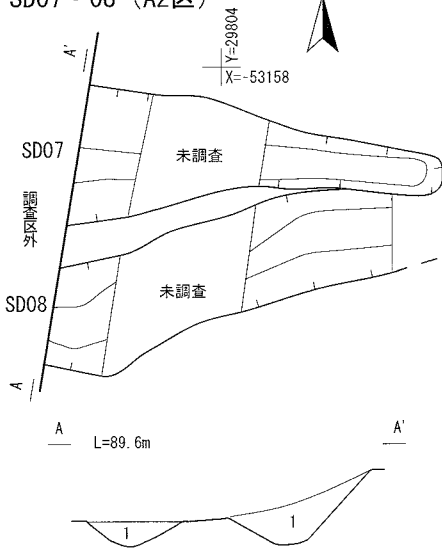
0 1:50 1m

(断面図)

0 1:200 5m

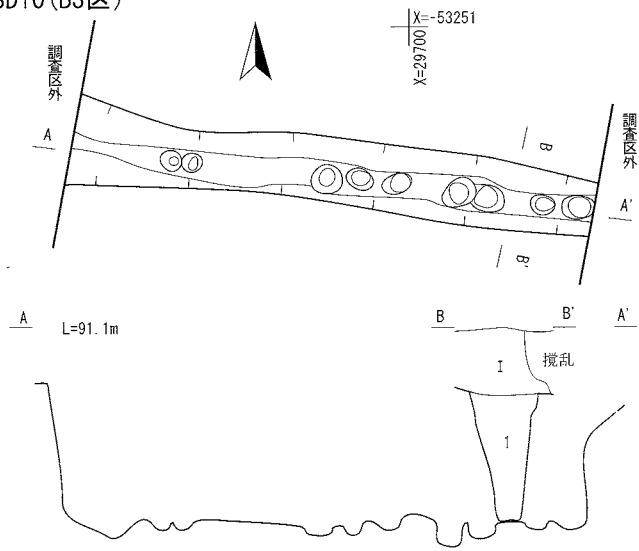
(平面図)

SD07・08 (A2区)



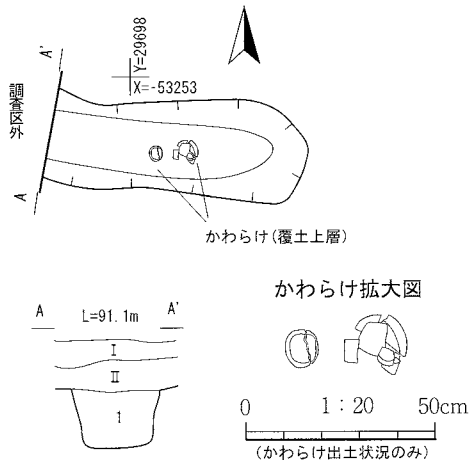
SD07・08 共通
I 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり弱

SD10 (B3区)



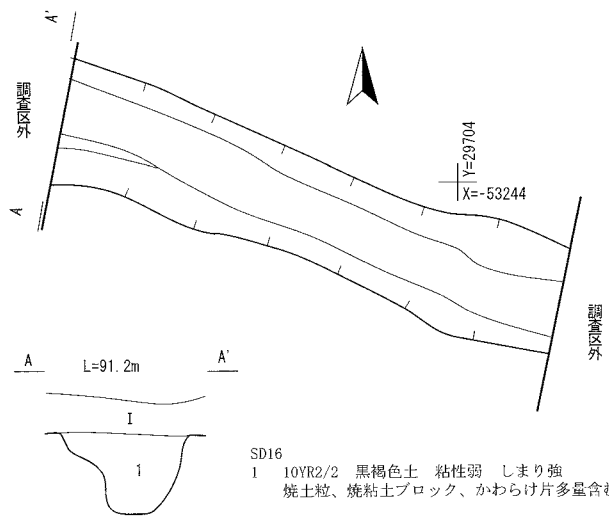
SD10
I 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒少域含む。

SD11 (B3区)



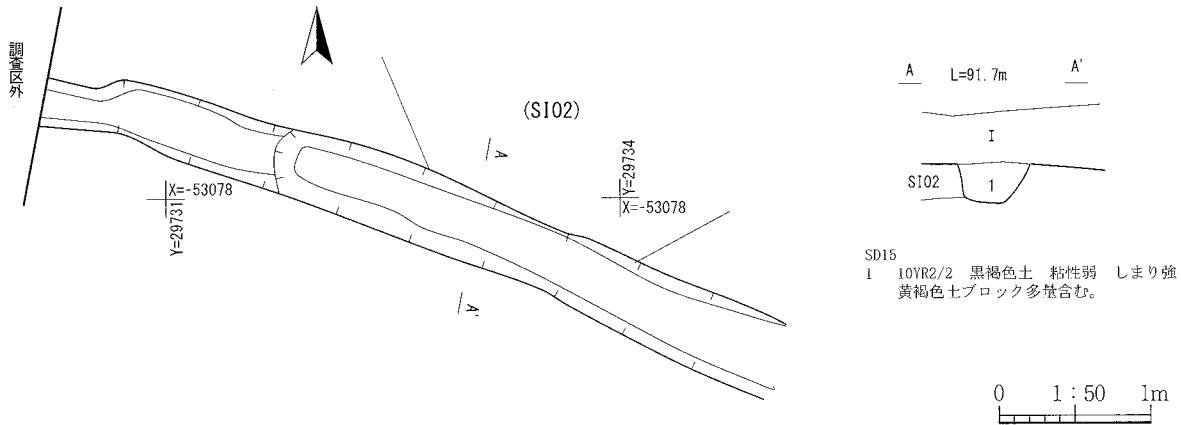
SD11
I 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土粒微量含む。

SD16 (B3区)



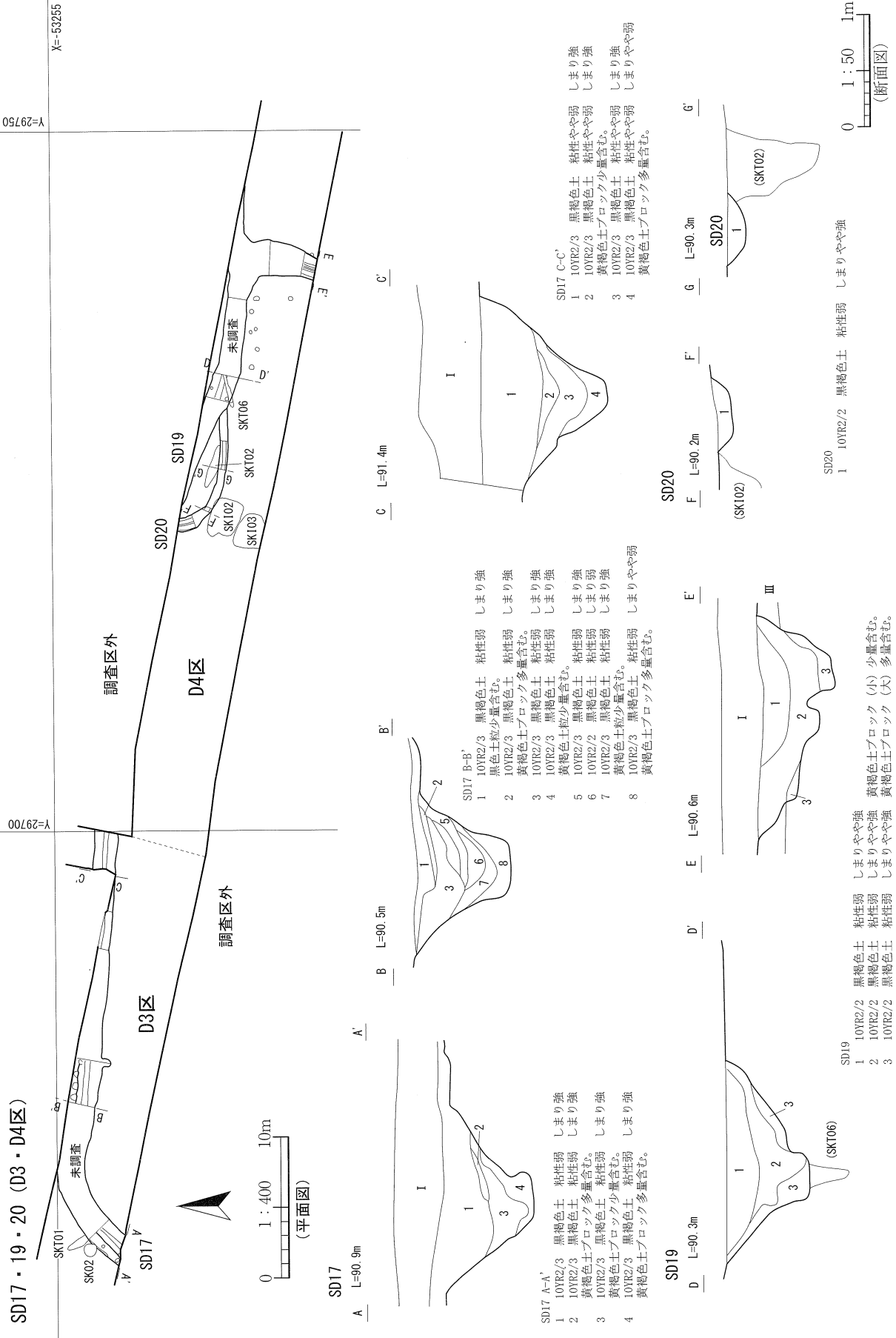
SD16
I 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 焼土粒、焼粘土ブロック、かわらけ片多量含む。

SD15 (B2・D2区)



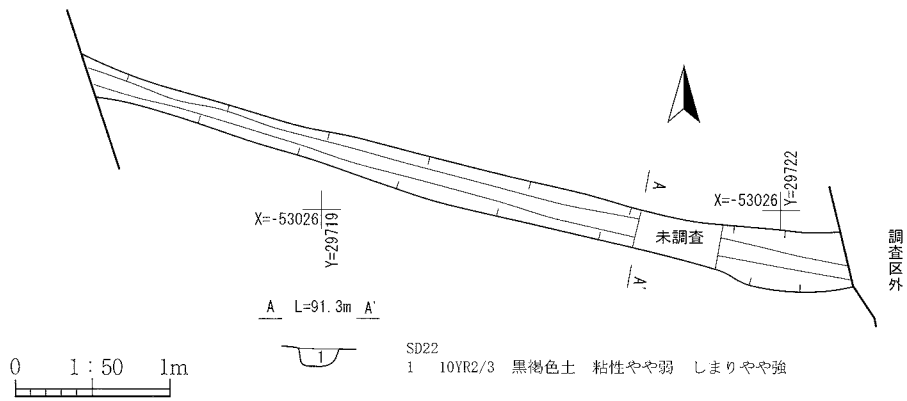
SD15
I 10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック多量含む。

第 114 図 SD07・08・10・11・15・16

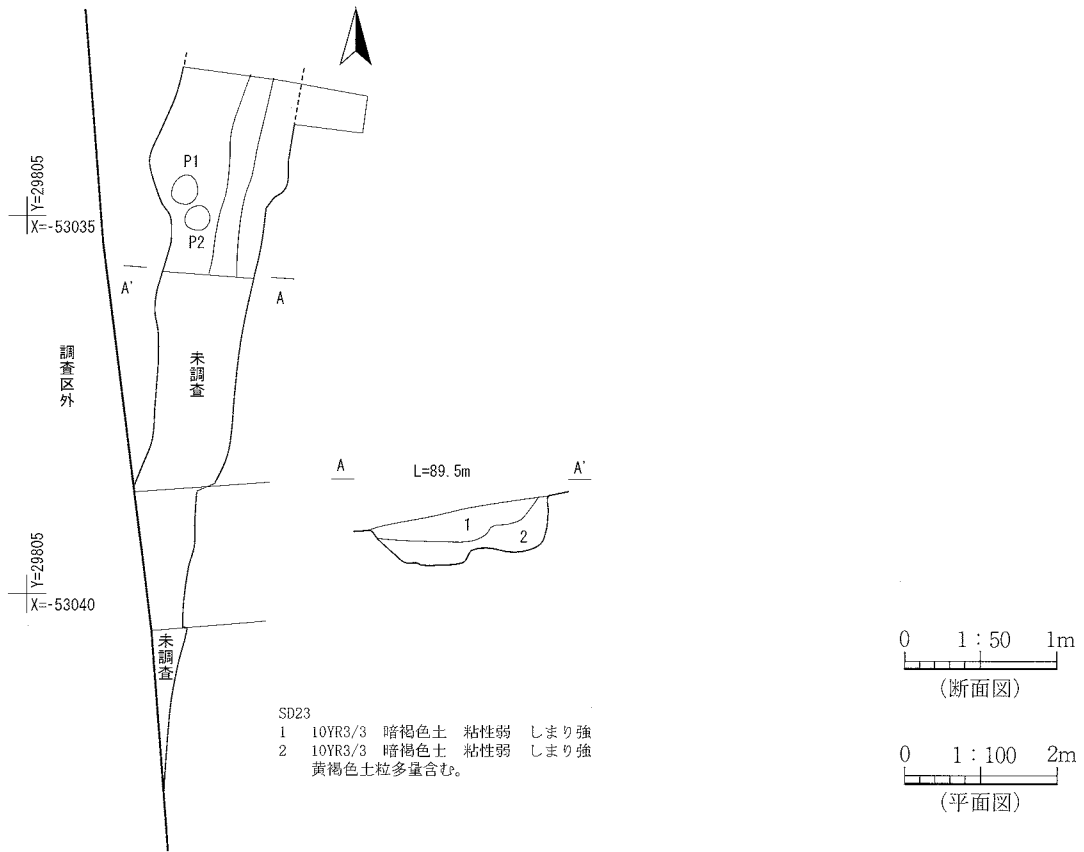


第116図 SD17・19・20

SD22 (B1区)

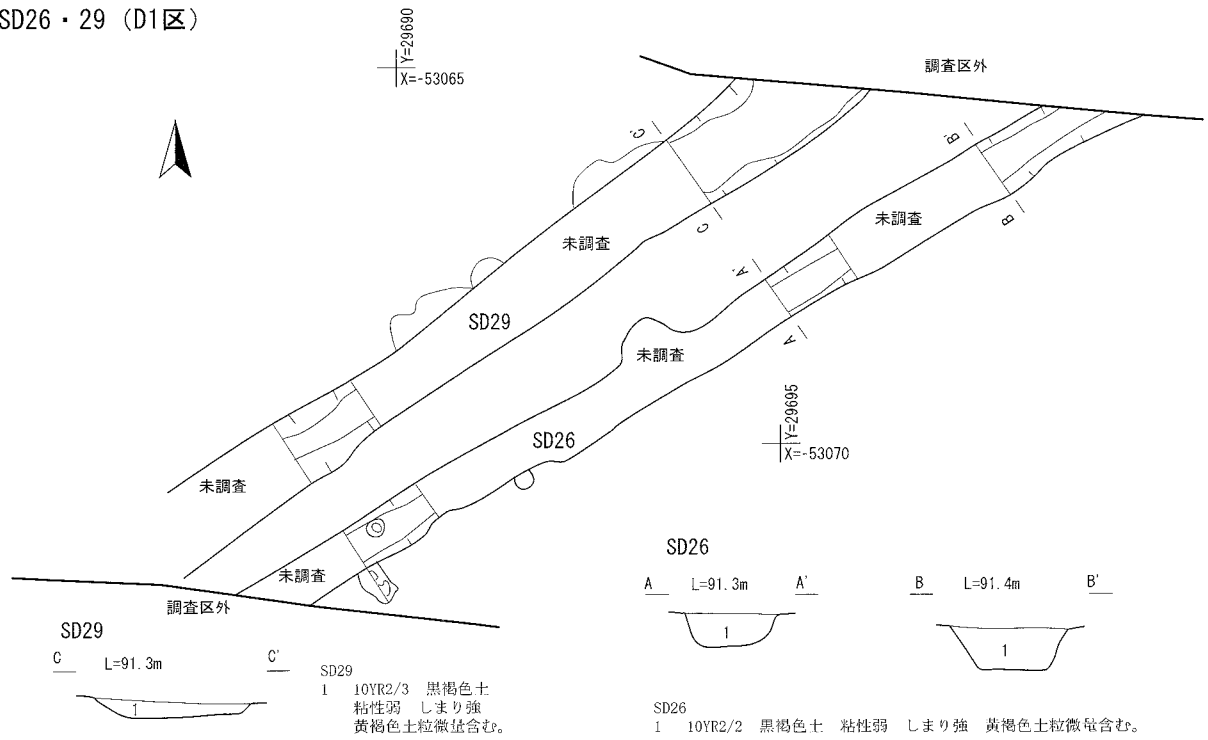


SD23 (A1区)

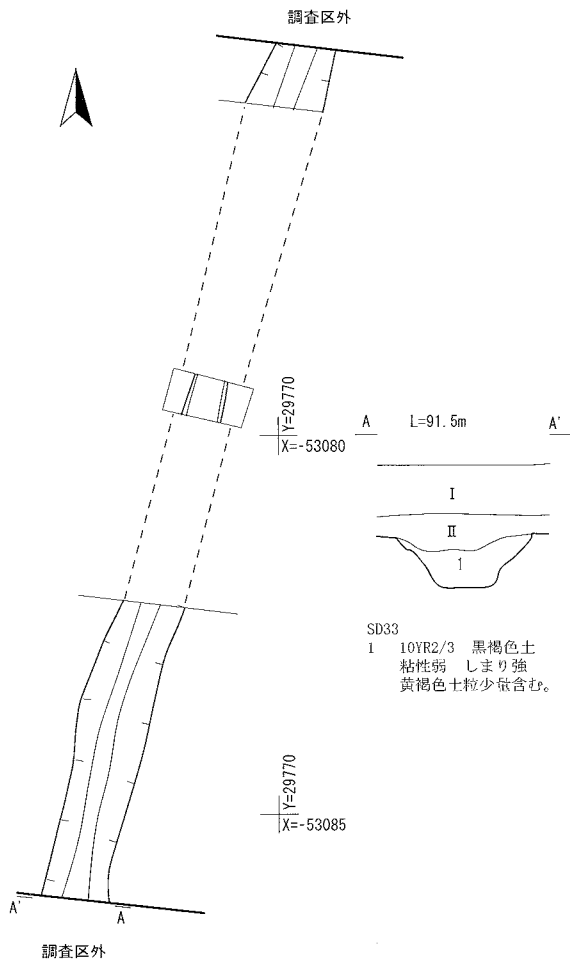


第 117 図 SD22・23

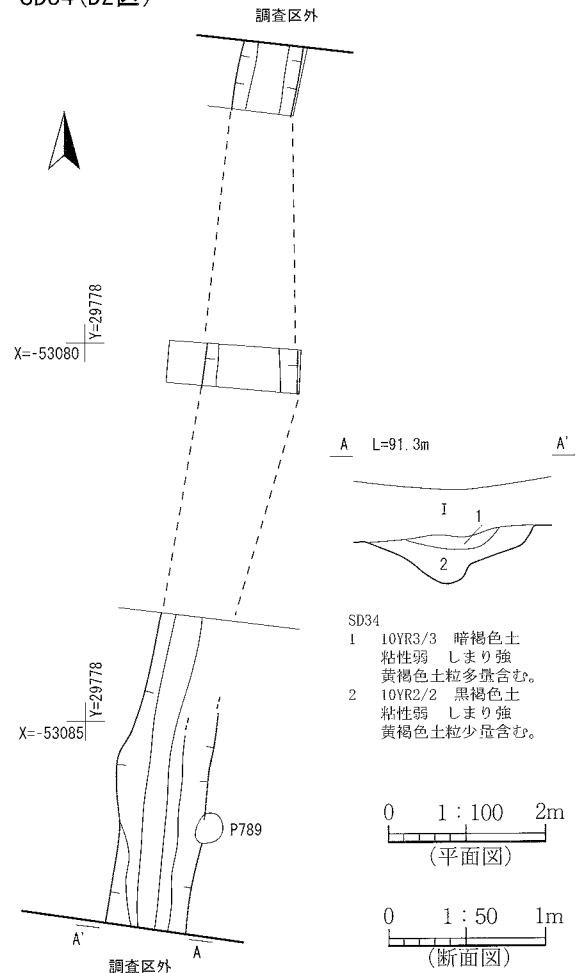
SD26・29 (D1区)



SD33 (D2区)

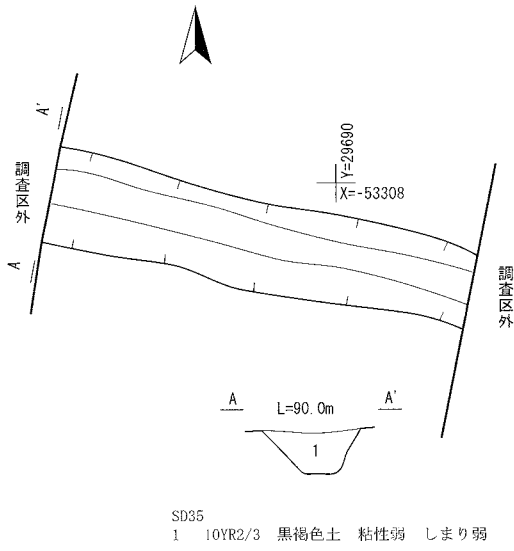


SD34 (D2区)

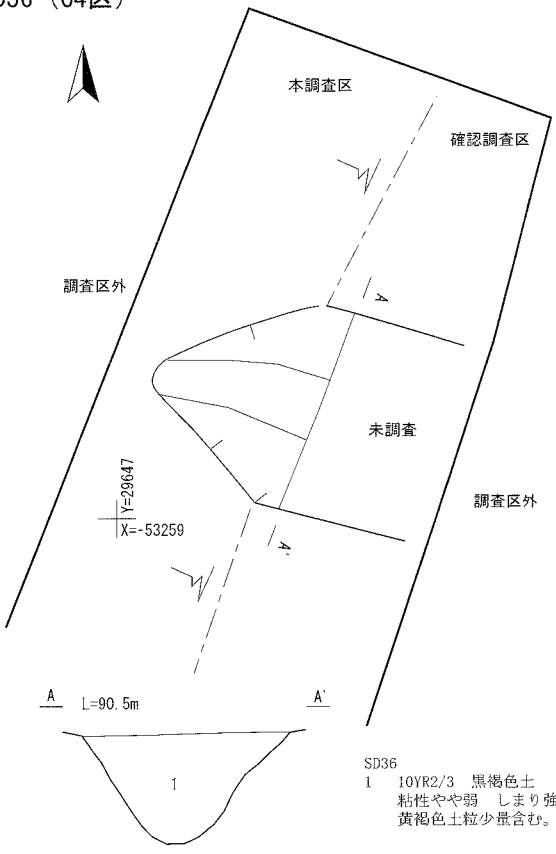


第 120 図 S D 26 ・ 29 ・ 33 ・ 34

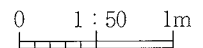
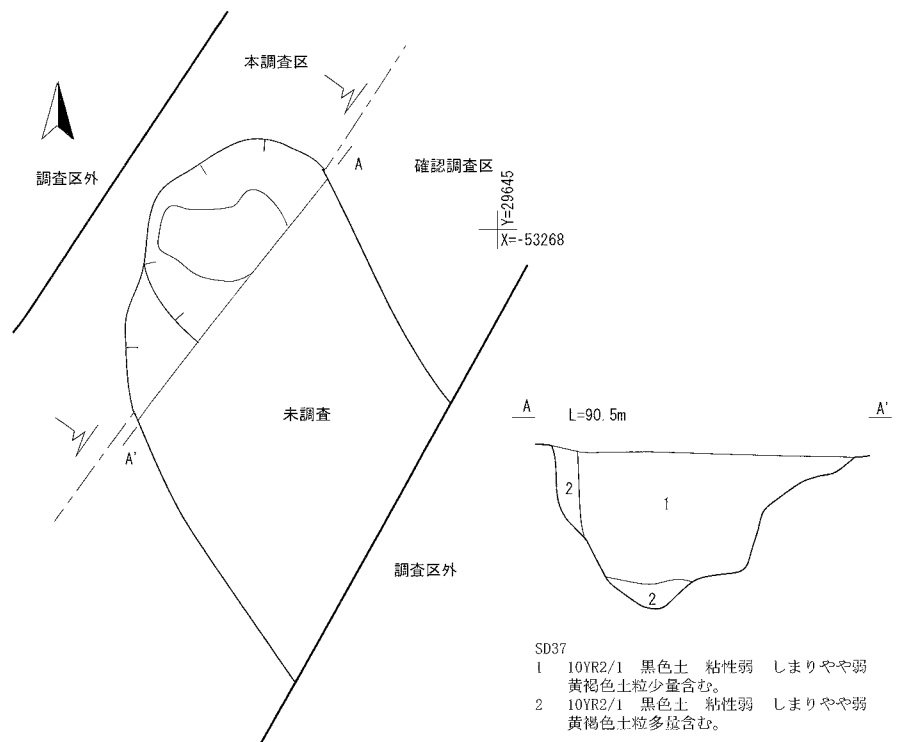
SD35 (B4区)



SD36 (C4区)

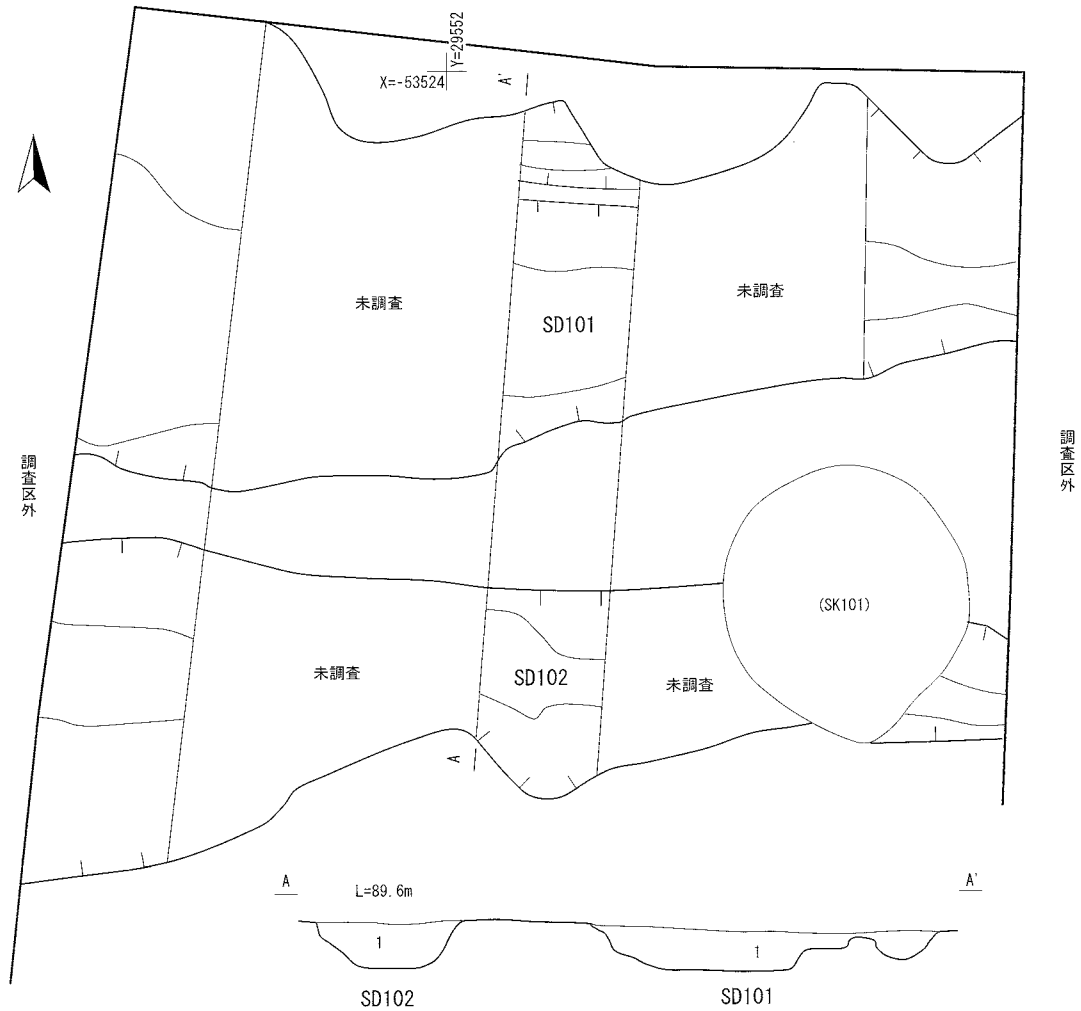


SD37 (C4区)



第 121 図 SD35 ~ 37

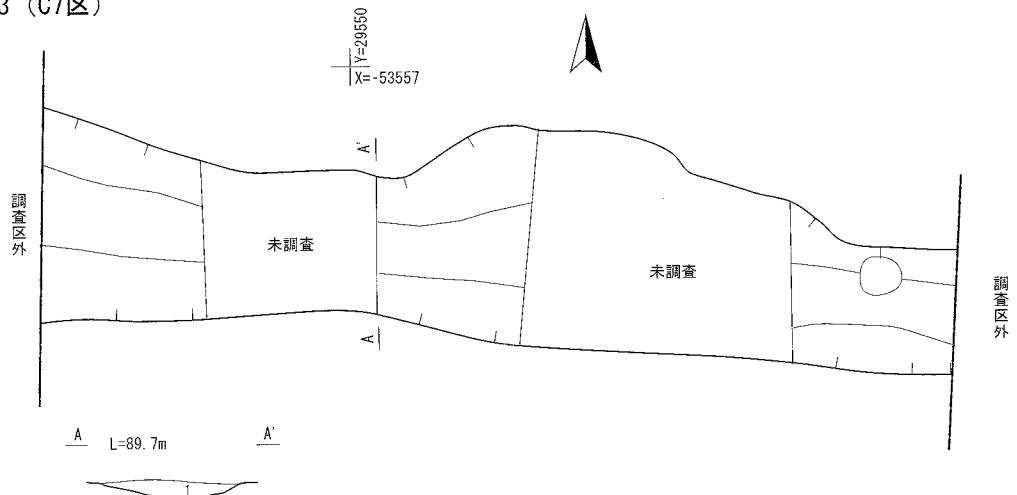
SD101・102 (C7区)



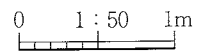
SD101
 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり強 褐色砂質土ブロック (φ2~5cm) 15%含む

SD102
 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや弱 しまり強 褐色砂質土ブロック (φ1~10cm) 10%含む。

SD103 (C7区)

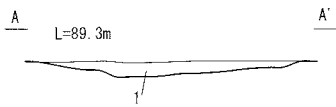
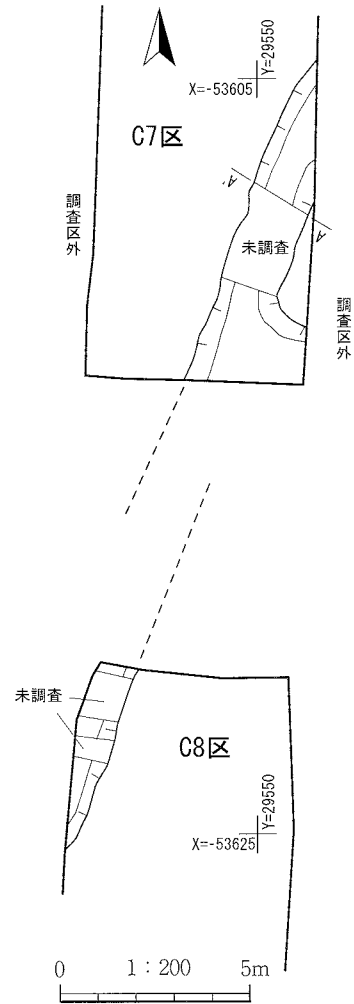


SD103
 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり強
 褐色砂質土と黒褐色土がラミナ状に堆積。

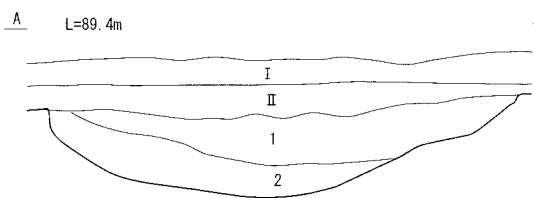
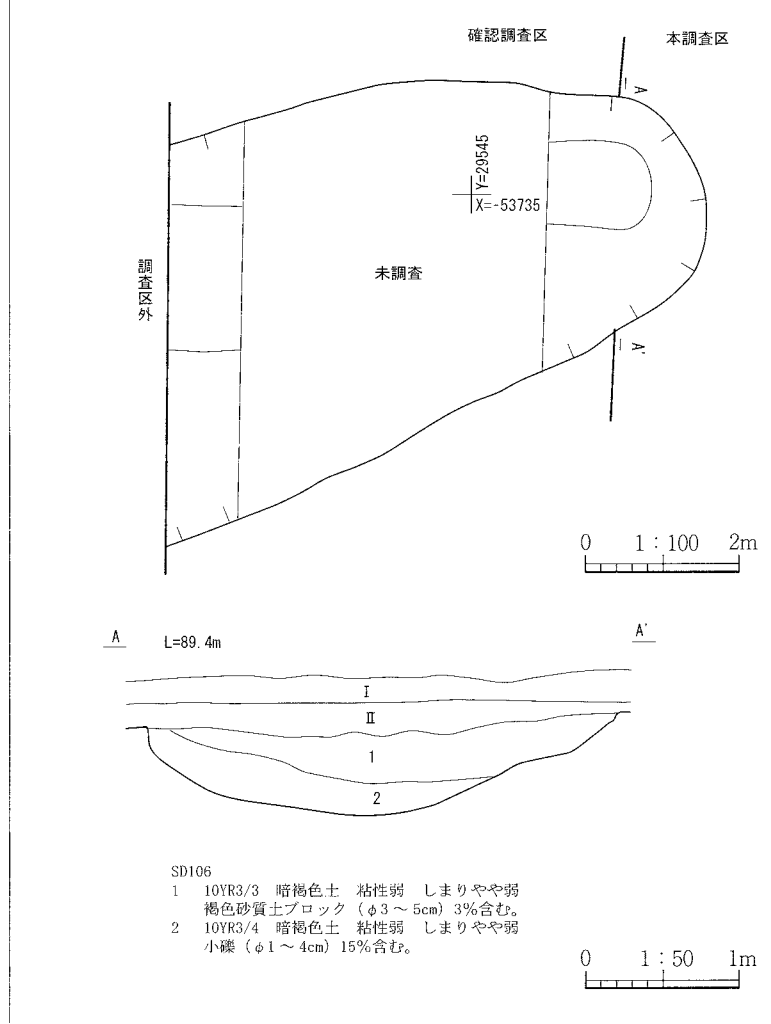


第 122 図 SD101 ~ 103

SD104 (C7・8区)

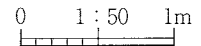


SD106 (C9区)

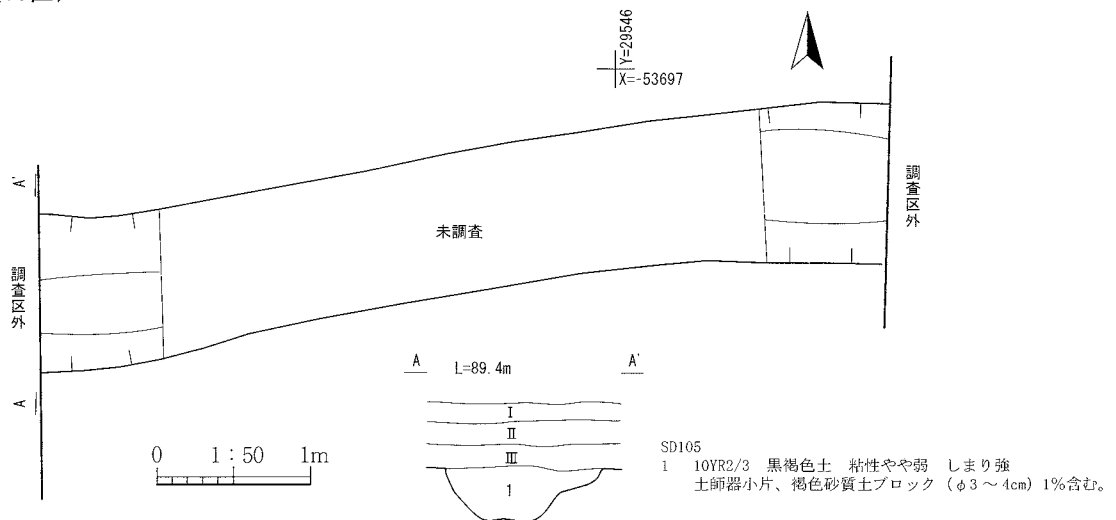


SD106

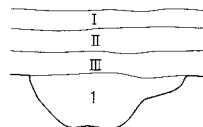
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性弱 しまりやや弱
褐色砂質土ブロック (φ3~5cm) 3%含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまりやや弱
小礫 (φ1~4cm) 15%含む。



SD105 (C8区)



A L=89.4m A'

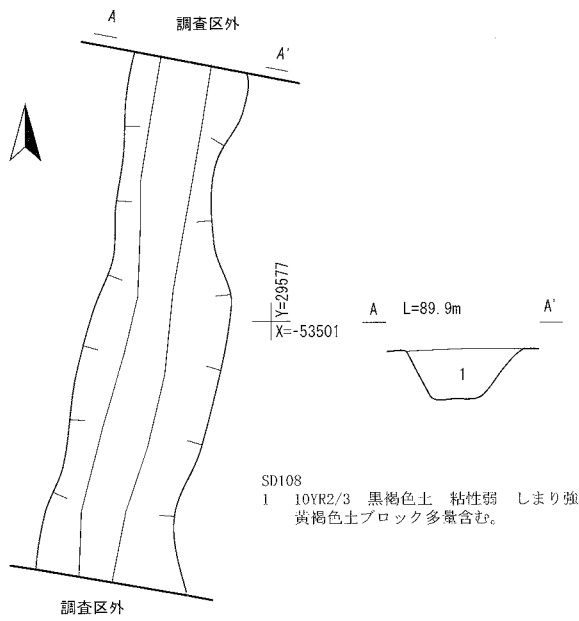


SD105

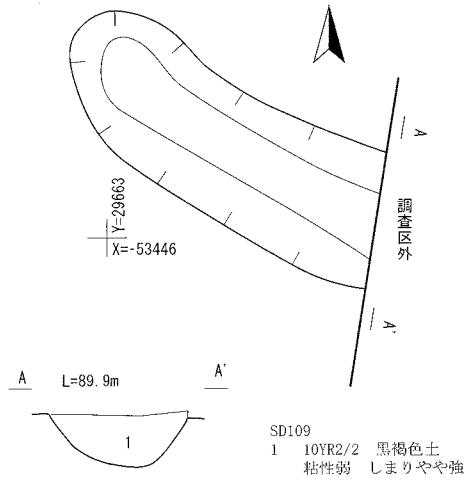
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり強
土師器小片、褐色砂質土ブロック (φ3~4cm) 1%含む。

第123図 SD104 ~ 106

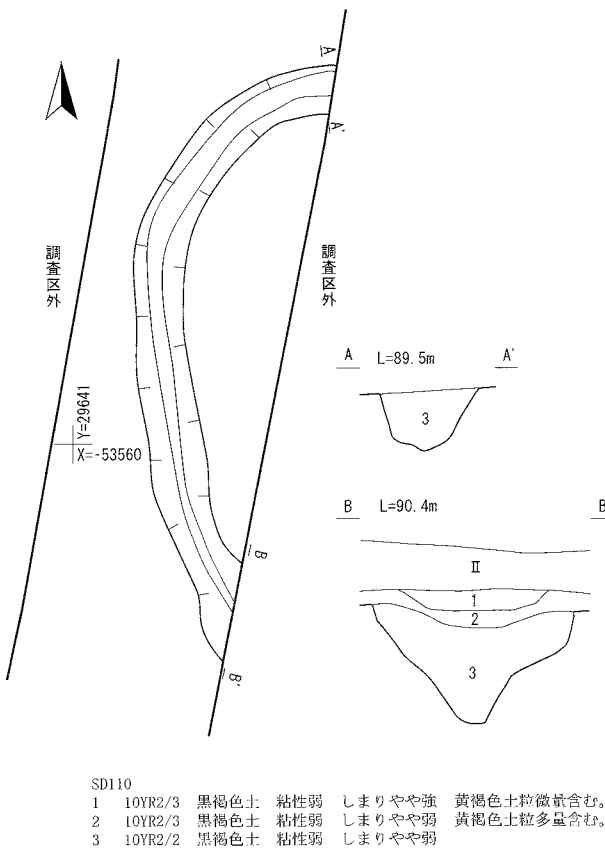
SD108 (D5区)



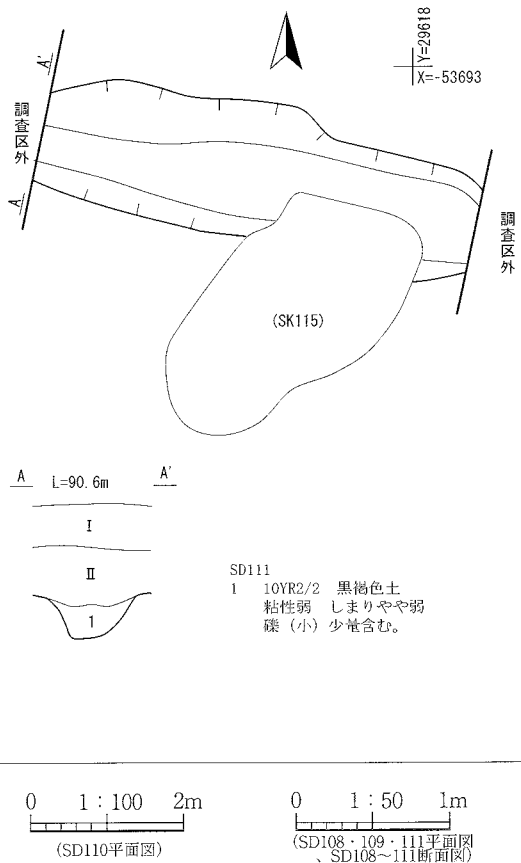
SD109 (B5区)



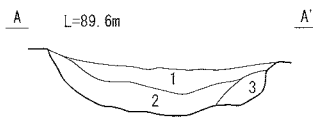
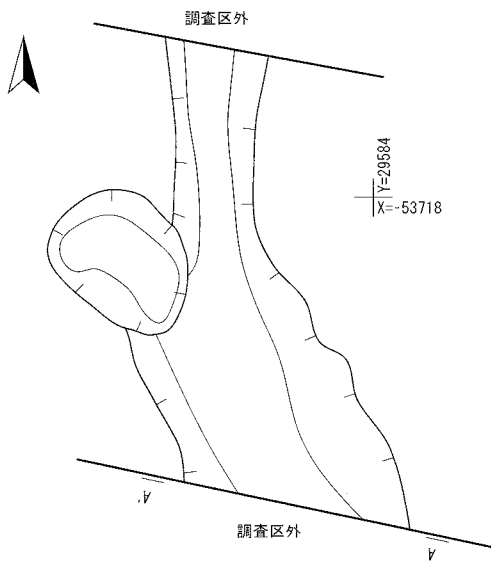
SD110 (B7区)



SD111 (B8区)



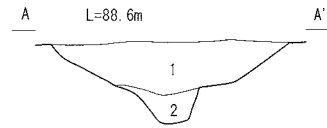
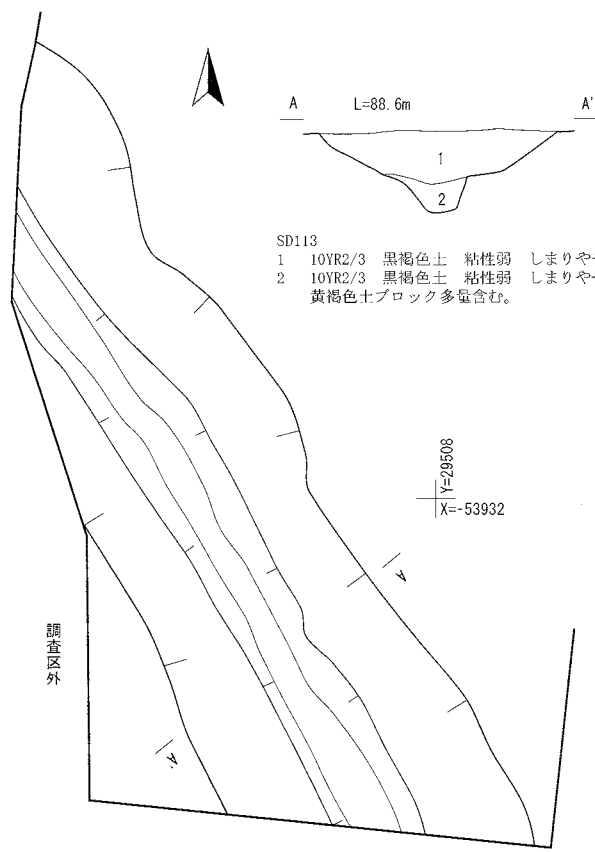
SD112 (D8区)



SD112

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや強
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや強
黄褐色土粒少量含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや強 しまりやや強
黄褐色土ブロック多量含む。

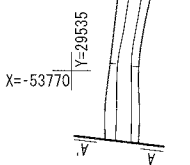
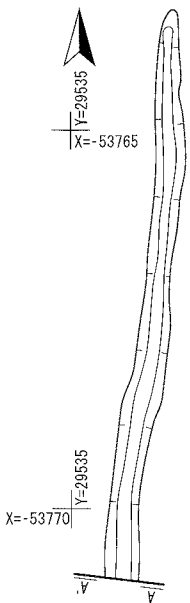
SD113 (C10区)



SD113

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや弱
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまりやや強
黄褐色土ブロック多量含む。

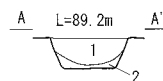
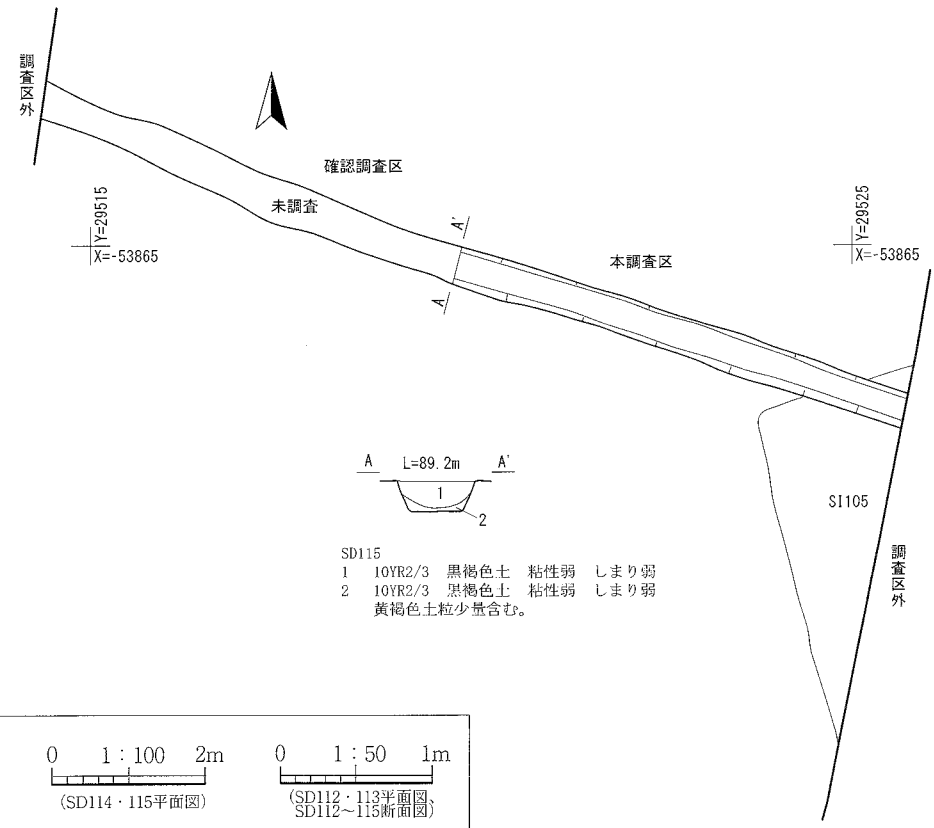
SD114 (C9区)



SD114

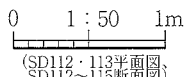
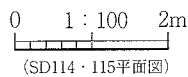
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
黄褐色土粒少量、礫少量含む。

SD115 (C10区)



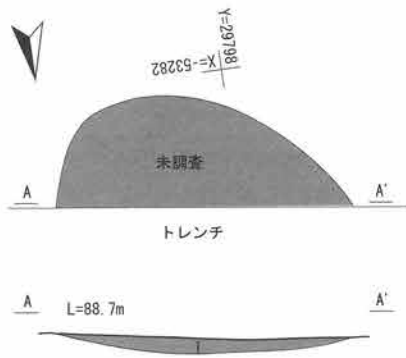
SD115

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり弱
黄褐色土粒少量含む。

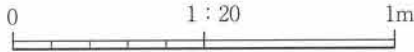


第 125 図 SD112 ~ 115

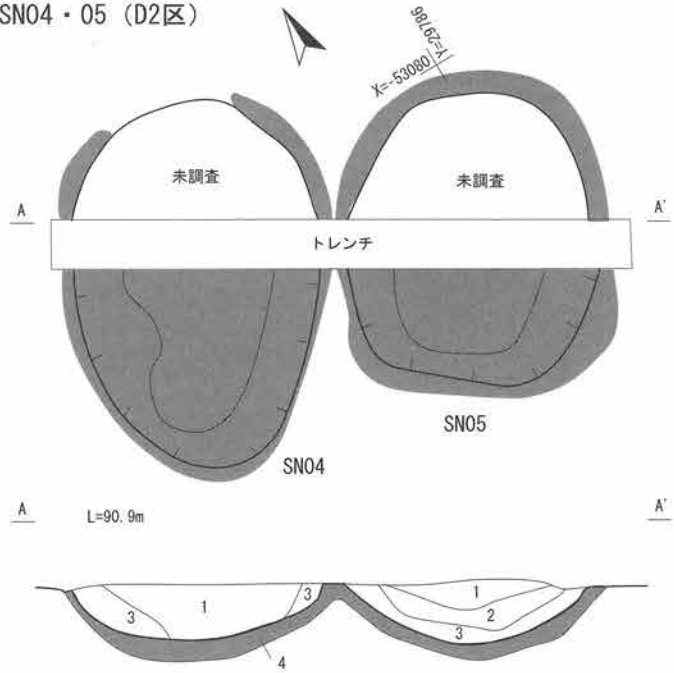
SN01 (A4区)



SN01
1 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性弱 しまりやや強

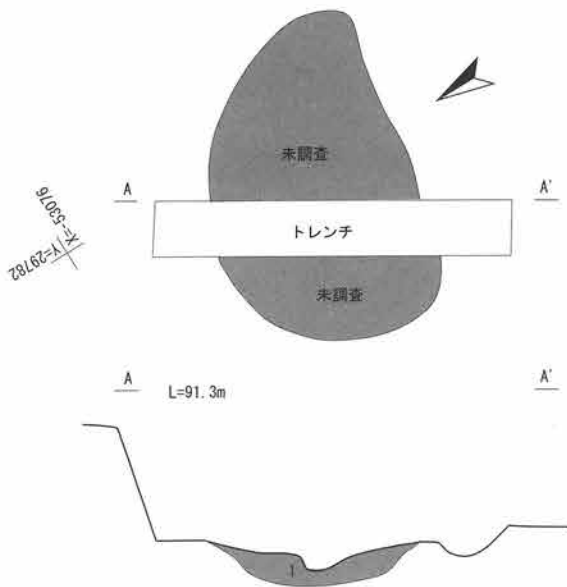


SN04・05 (D2区)



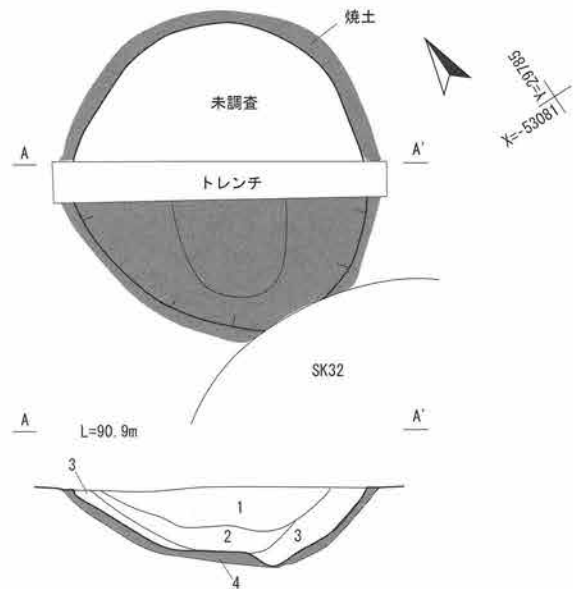
SN04・05
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強 焼粘土ブロック少量含む。
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強 1に炭化物粒多量含む。
3 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまり極強 焼粘土ブロック多量含む。
4 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性弱 しまりやや強 III層が焼成受けた部分。

SN02 (D2区)



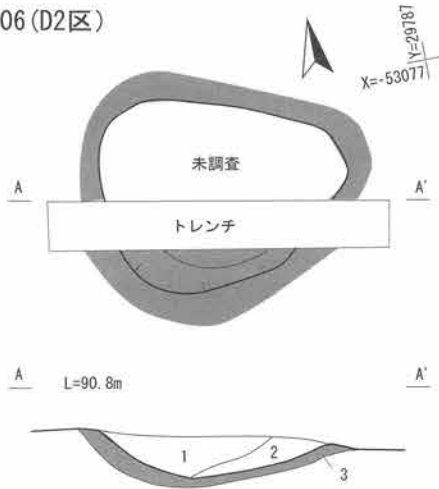
SN02
1 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり強 焼粘土粒多量含む。

SN03 (D2区)



SN03
1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強 焼粘土ブロック少量含む。
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強 1に炭化物粒多量含む。
3 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまり極強 焼粘土ブロック多量含む。
4 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性弱 しまりやや強 III層が焼成受けた部分。

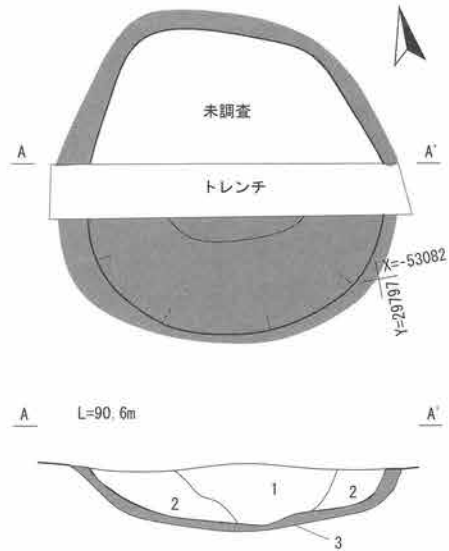
SN06 (D2区)



SN06

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
焼粘土ブロック少量含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまり極強
焼粘土ブロック多量含む。
- 3 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性弱 しまりやや強
III層が焼成受けた部分。

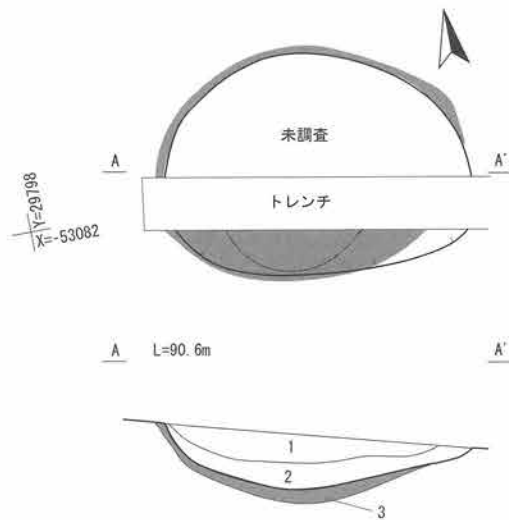
SN07 (D2区)



SN07

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
焼粘土ブロック少量含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまり極強
焼粘土ブロック多量含む。
- 3 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性弱 しまりやや強
III層が焼成受けた部分。

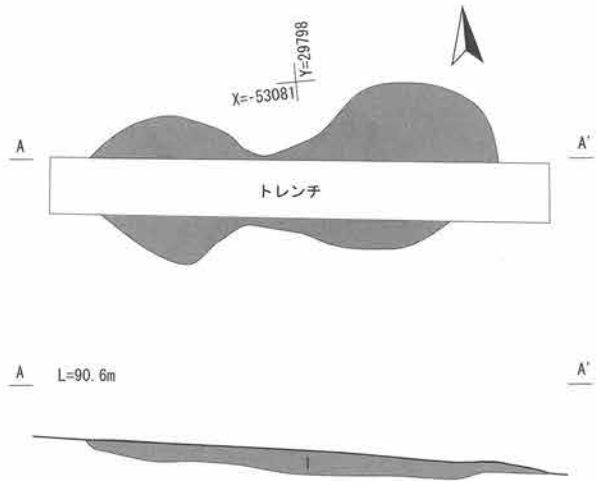
SN08 (D2区)



SN08

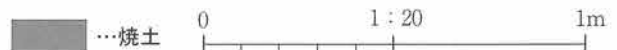
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
焼粘土ブロック少量含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまり極強
焼粘土ブロック多量含む。
- 3 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性弱 しまりやや強
III層が焼成受けた部分。

SN09 (D2区)



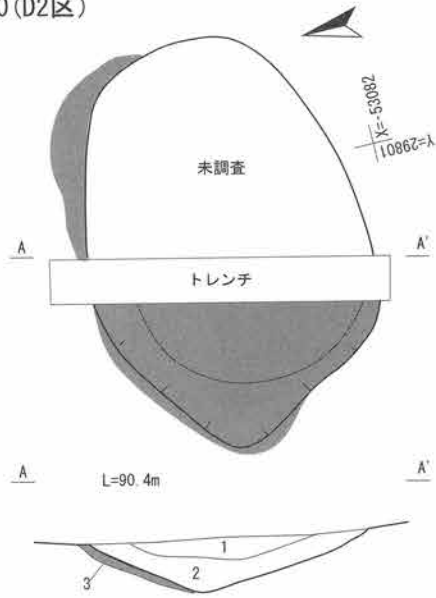
SN09

- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性弱 しまり強
焼粘土粒多量、下位に炭化物粒多量含む。



第 127 図 SN06 ~ 09

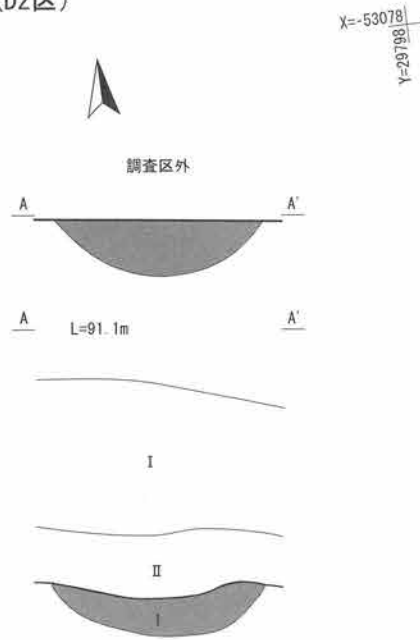
SN10 (D2区)



SN10

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
焼粘土ブロック少量含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまり極強
焼粘土ブロック多量含む。
- 3 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性弱 しまりやや強
III層が焼成受けた部分。

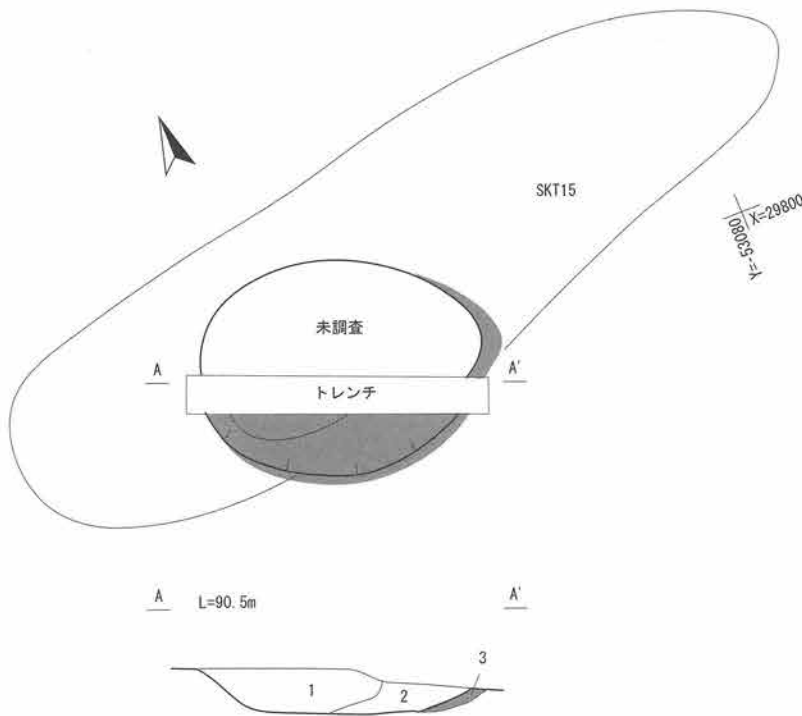
SN11 (D2区)



SN11

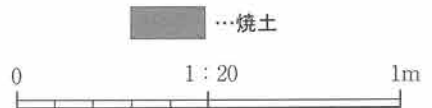
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
焼土粒多量、炭化物粒少量含む。

SN12 (D2区)

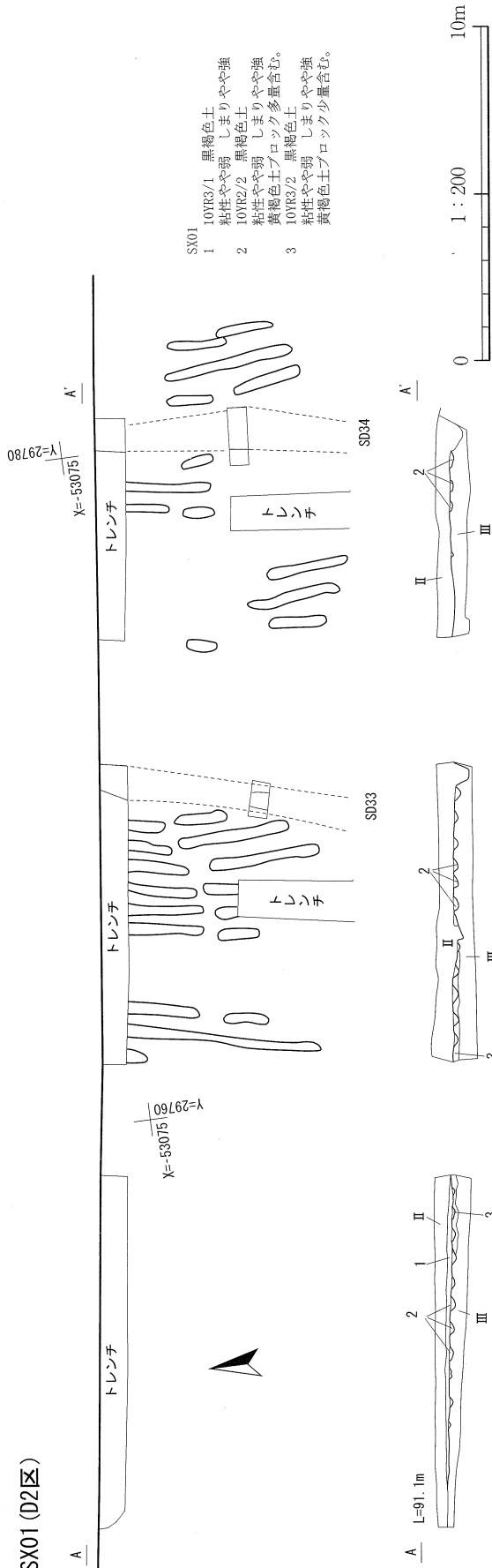


SN12

- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性弱 しまり強
焼粘土ブロック少量含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまり極強
焼粘土ブロック多量含む。
- 3 2.5YR3/6 暗赤褐色土 粘性弱 しまりやや強
III層が焼成受けた部分。

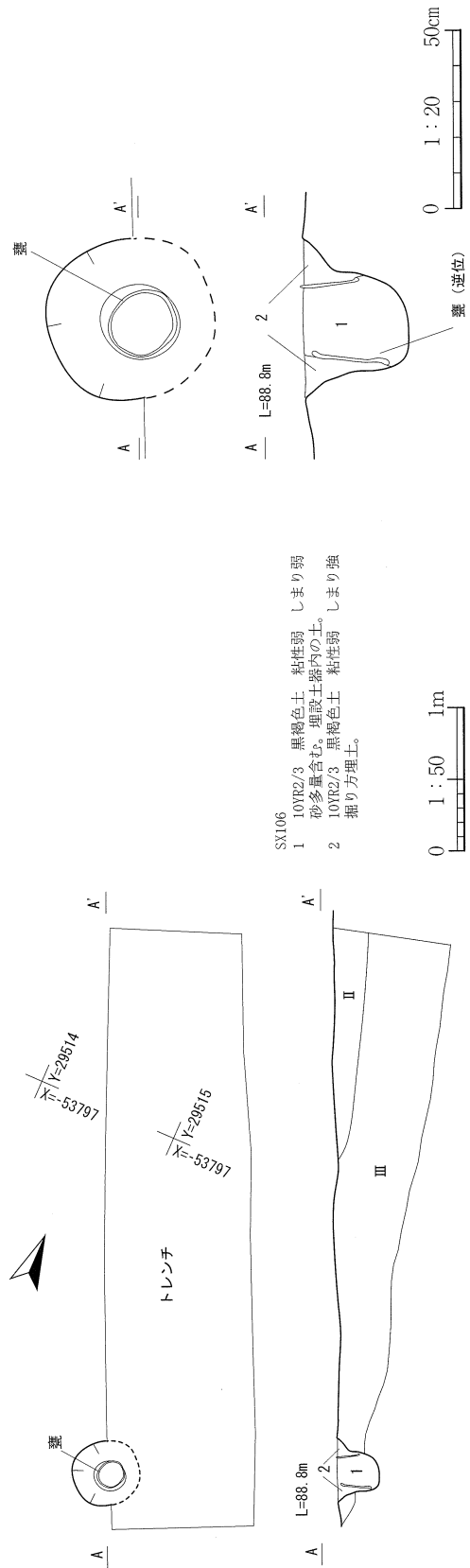


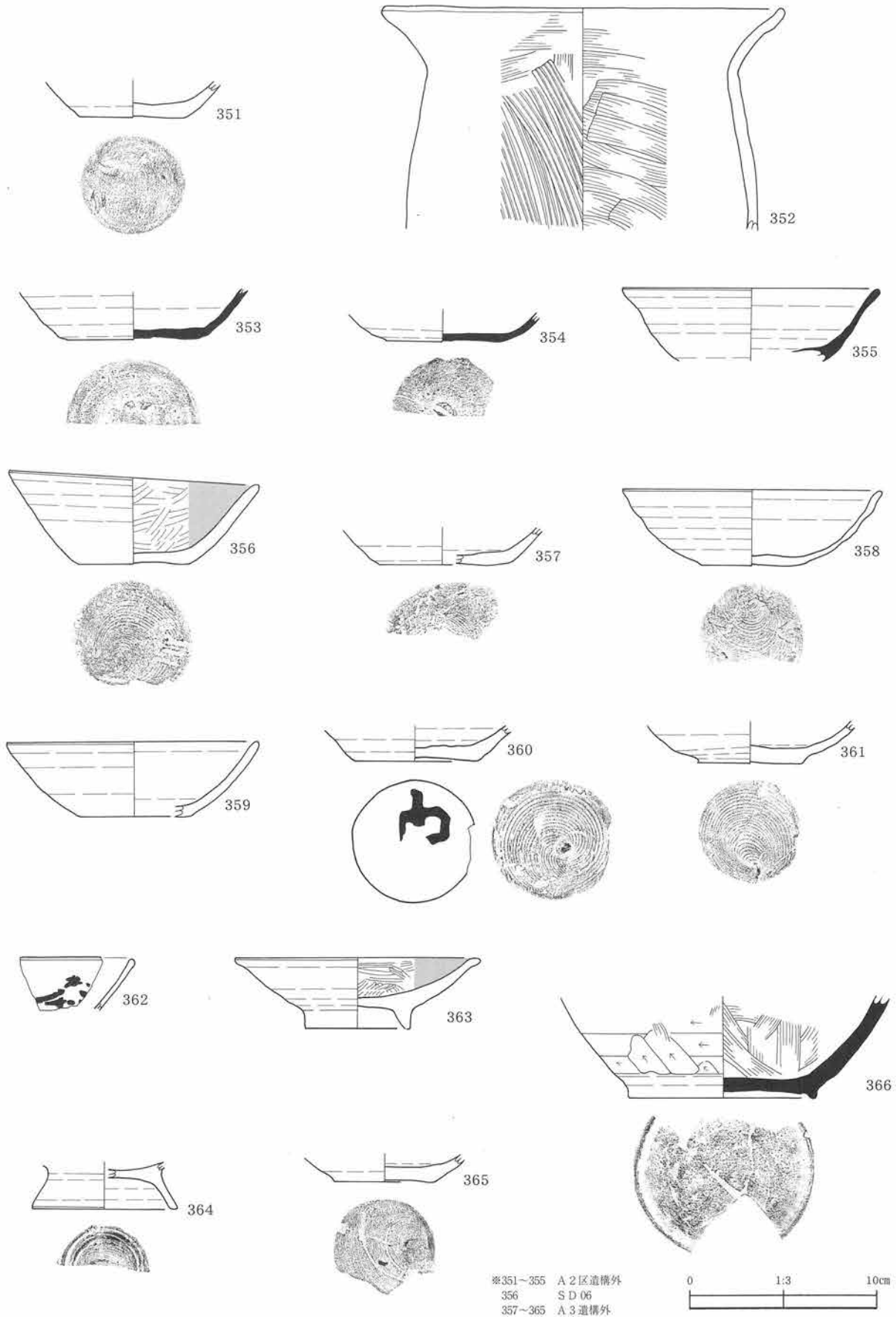
SX01 (D2区)



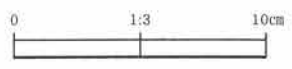
SX106 (C9区)

SX106 甕出土状況

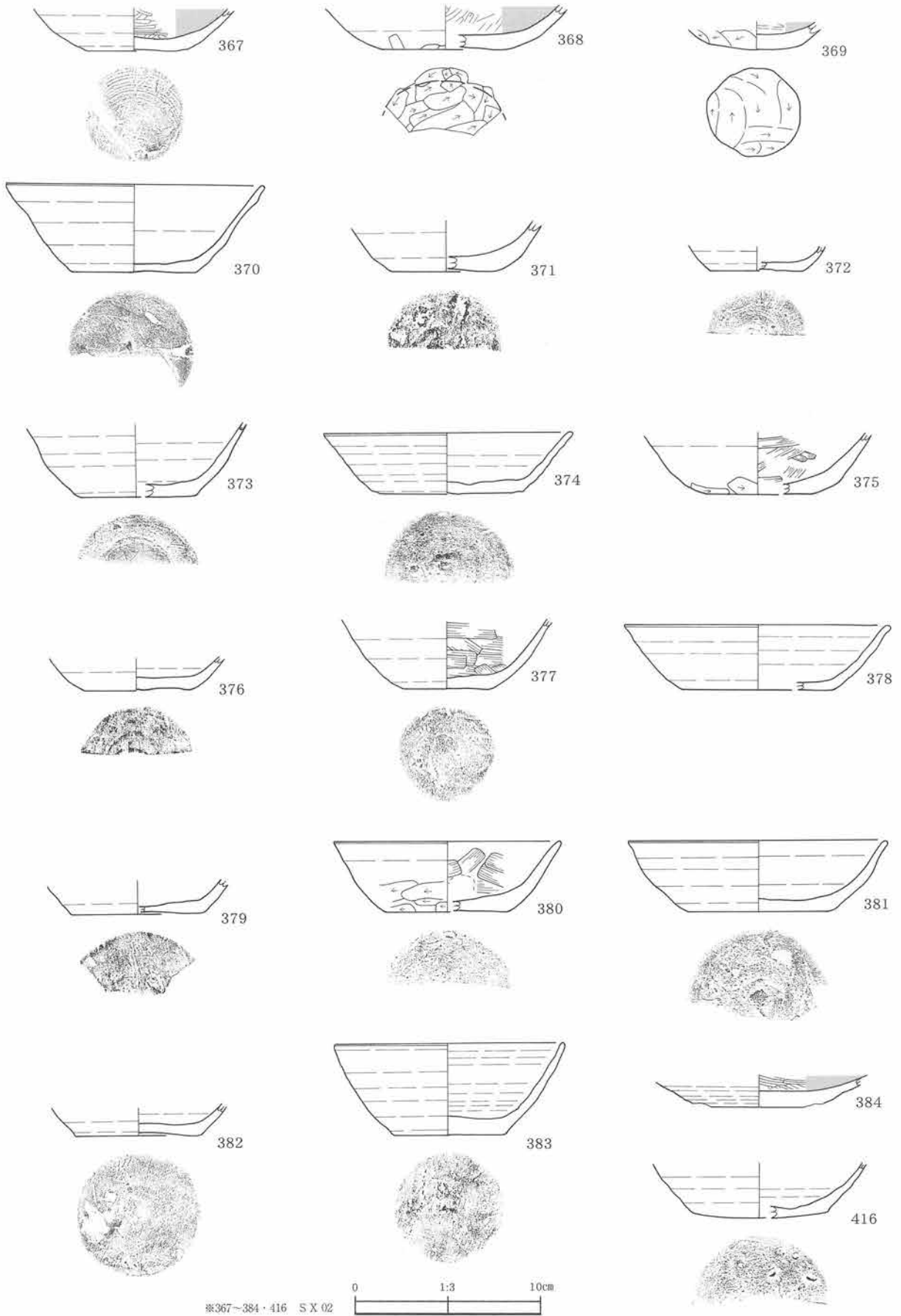




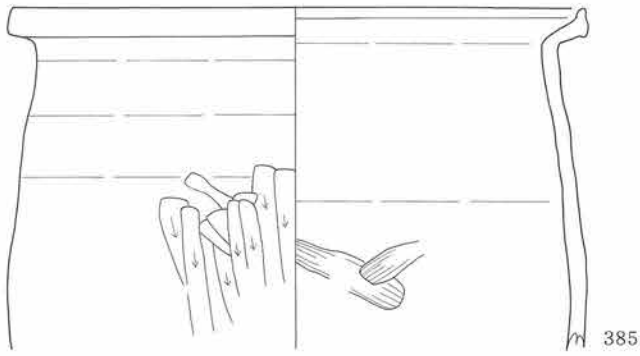
※351～355 A 2区遺構外
 356 S D 06
 357～365 A 3遺構外



第 131 図 土師器・須恵器 351 ～ 366



第 132 図 土師器・須恵器 367 ~ 384 ・ 416



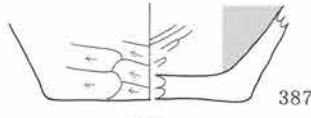
385



388



386



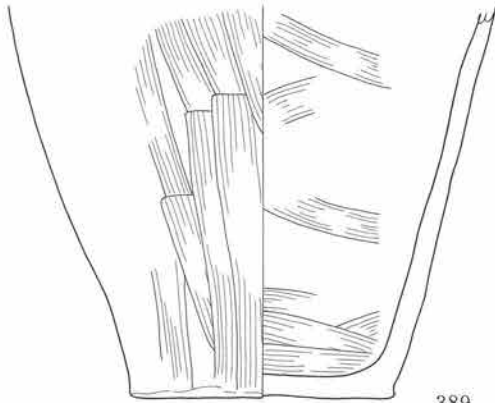
387



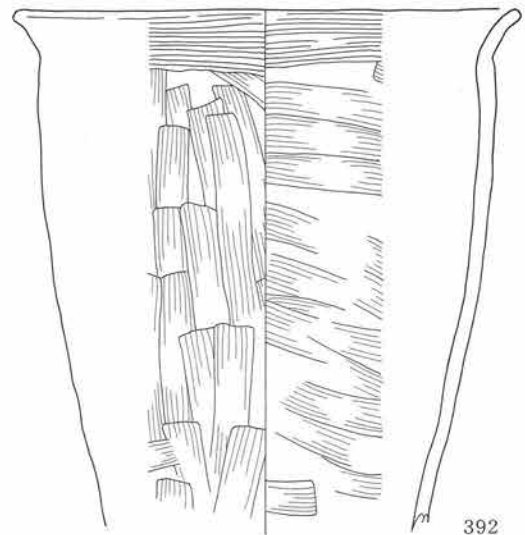
390



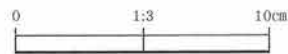
391



389

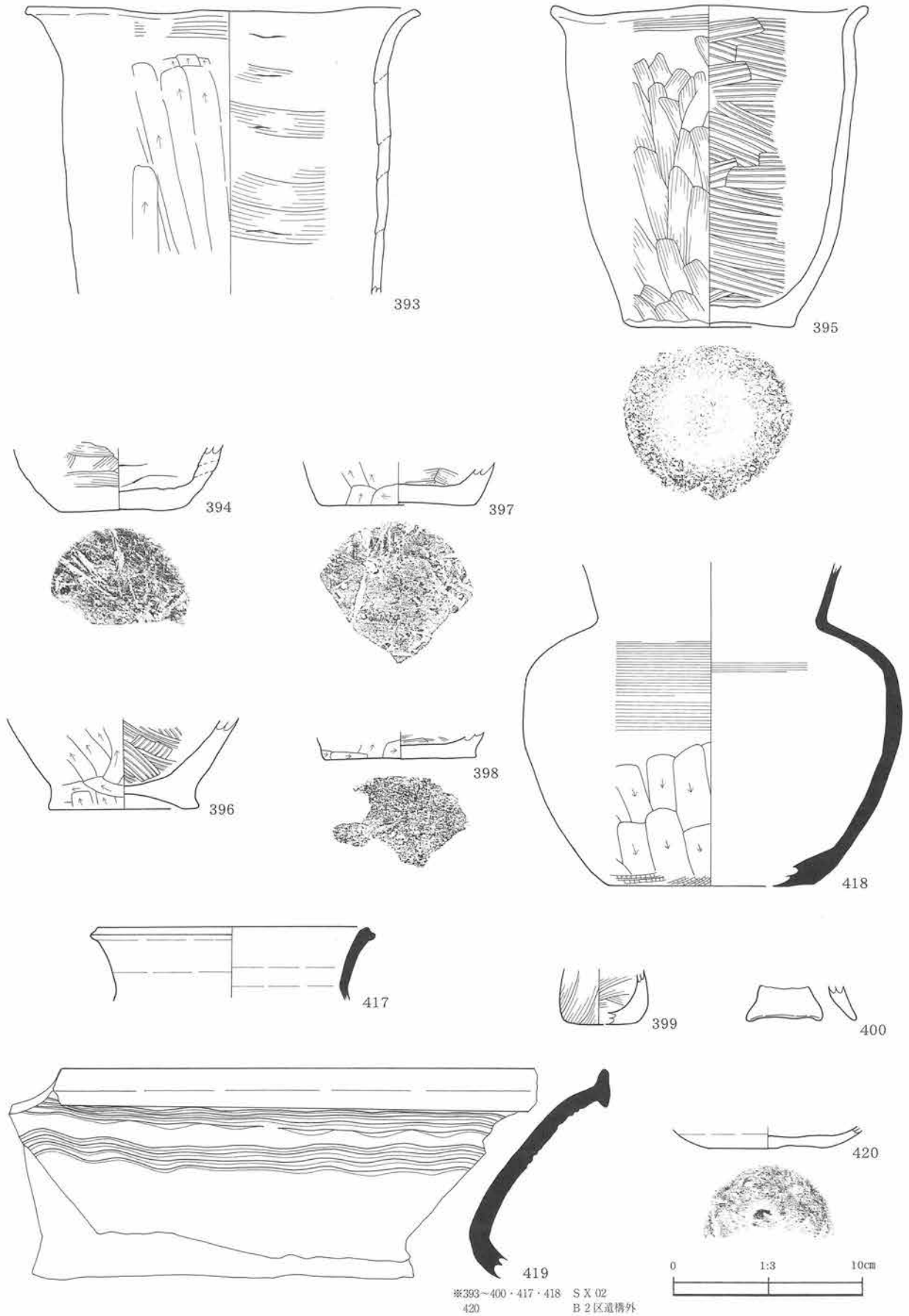


392

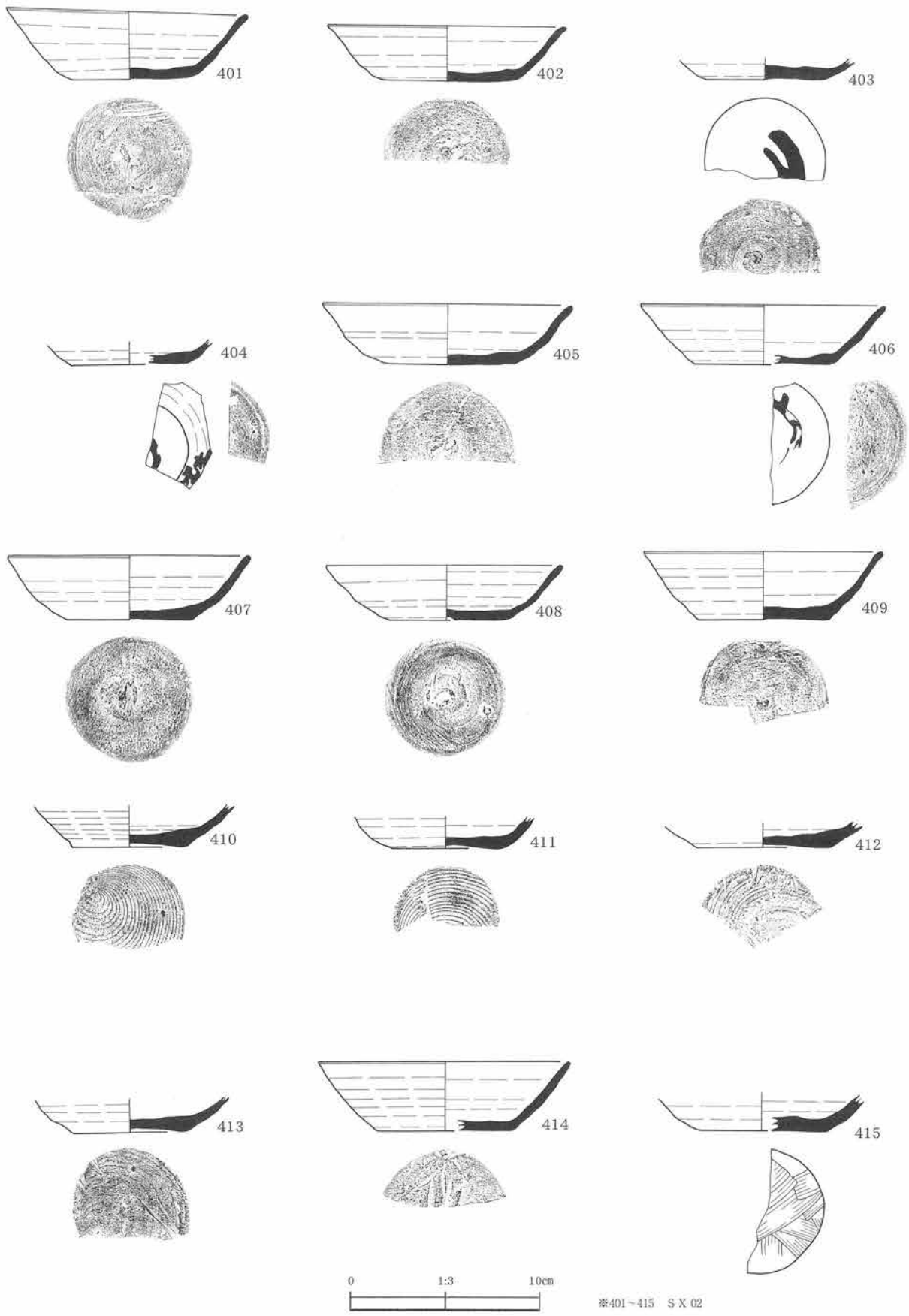


※385-392 S X 02

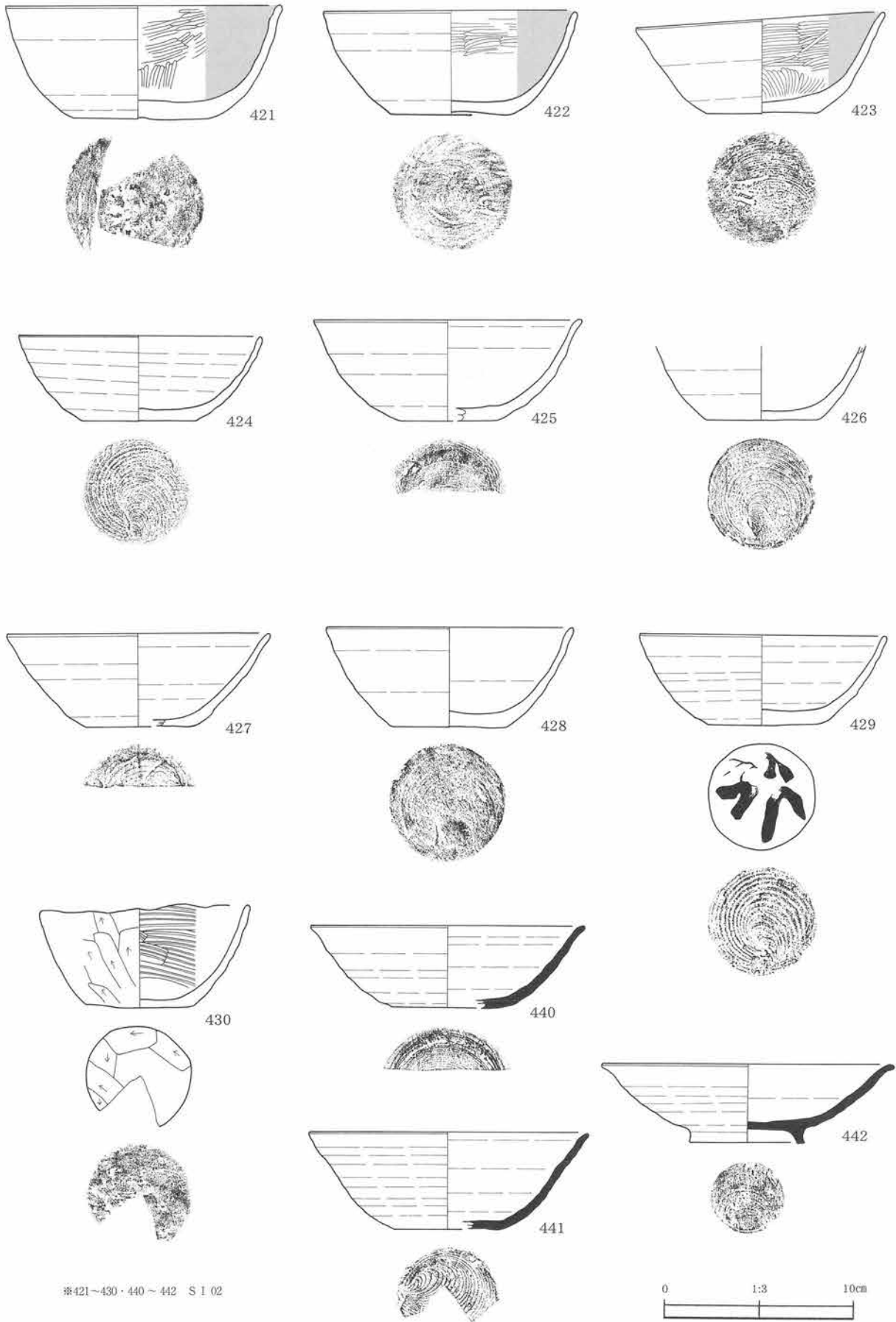
第 133 図 土師器・須恵器 385 ~ 392



第 134 図 土師器・須恵器 393 ~ 400 ・ 417 ~ 420

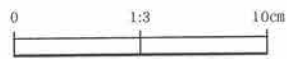
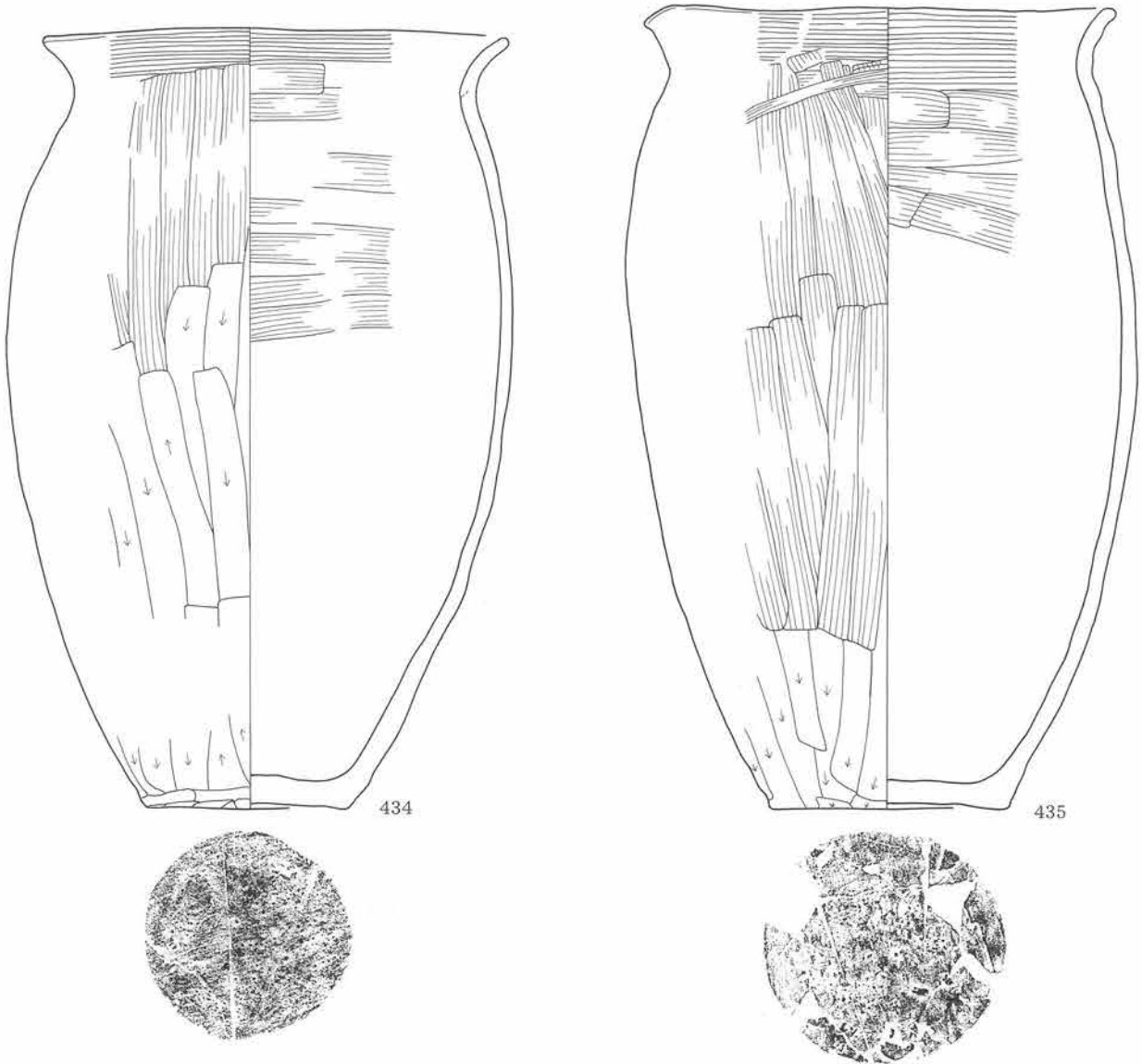
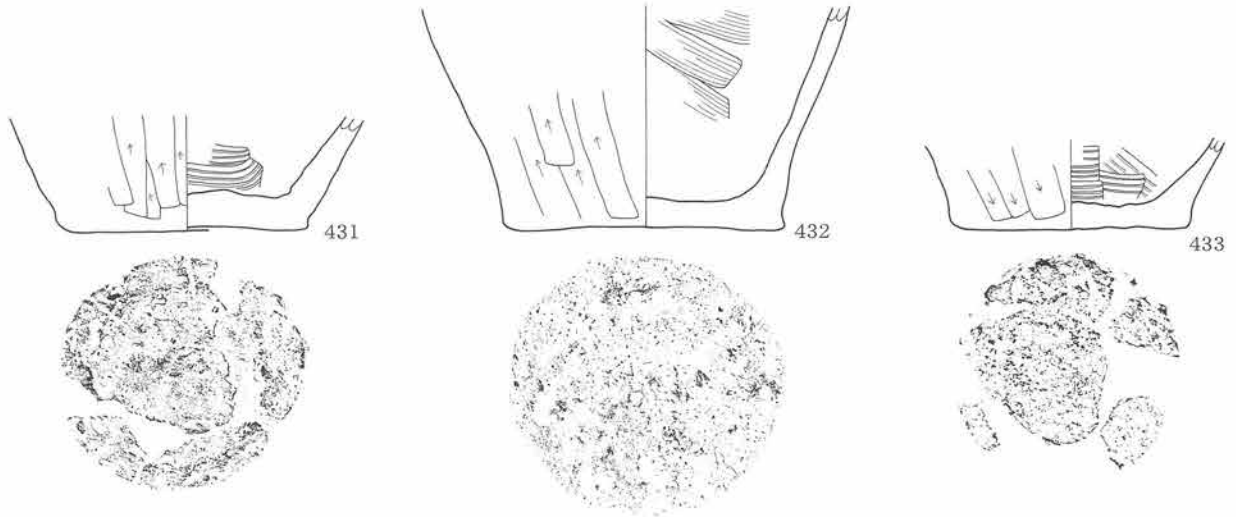


第 135 図 土師器・須恵器 401 ~ 415



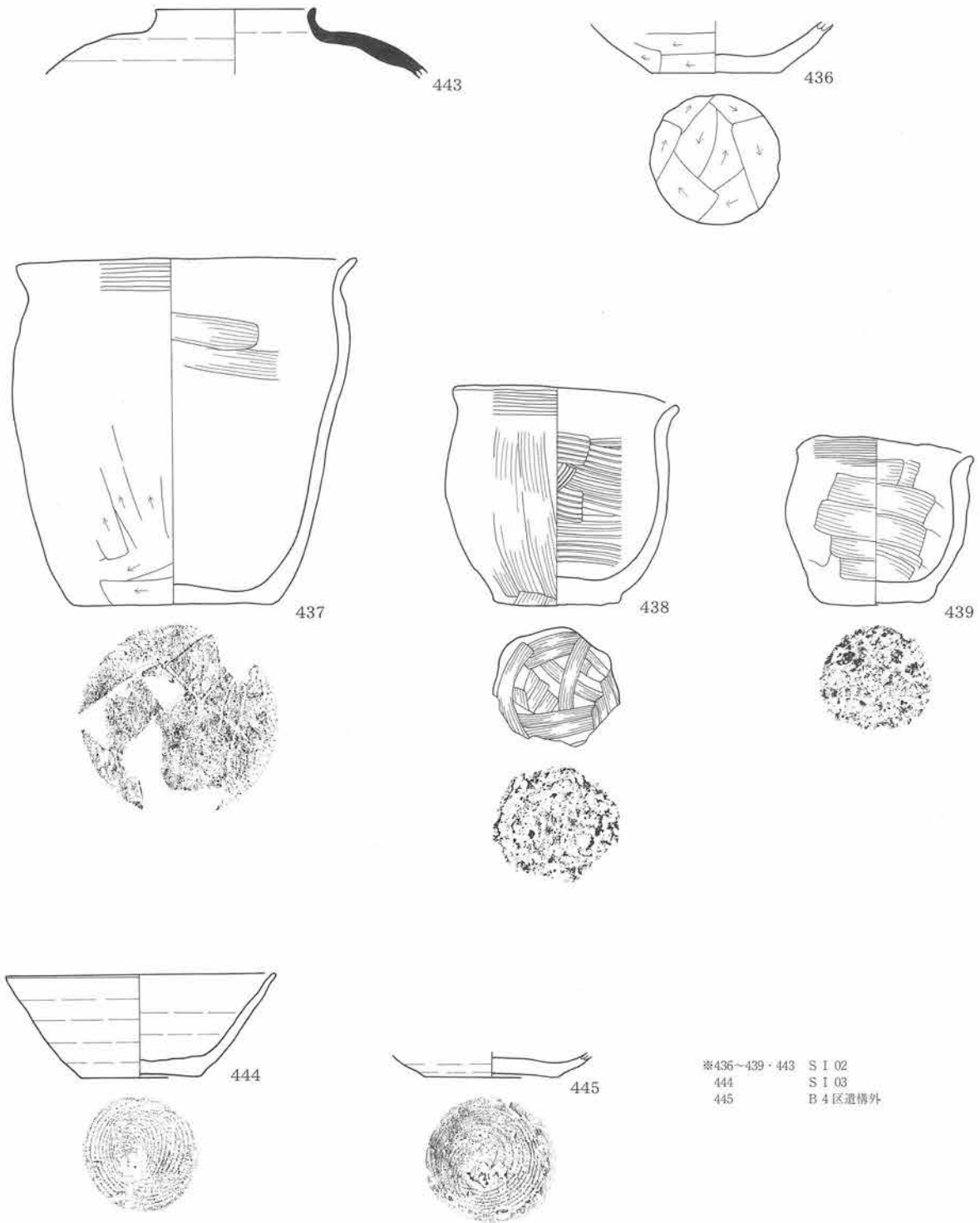
※421~430・440~442 S I 02

第 136 図 土師器・須恵器 421 ~ 430・440 ~ 442



*431-435 S I 02

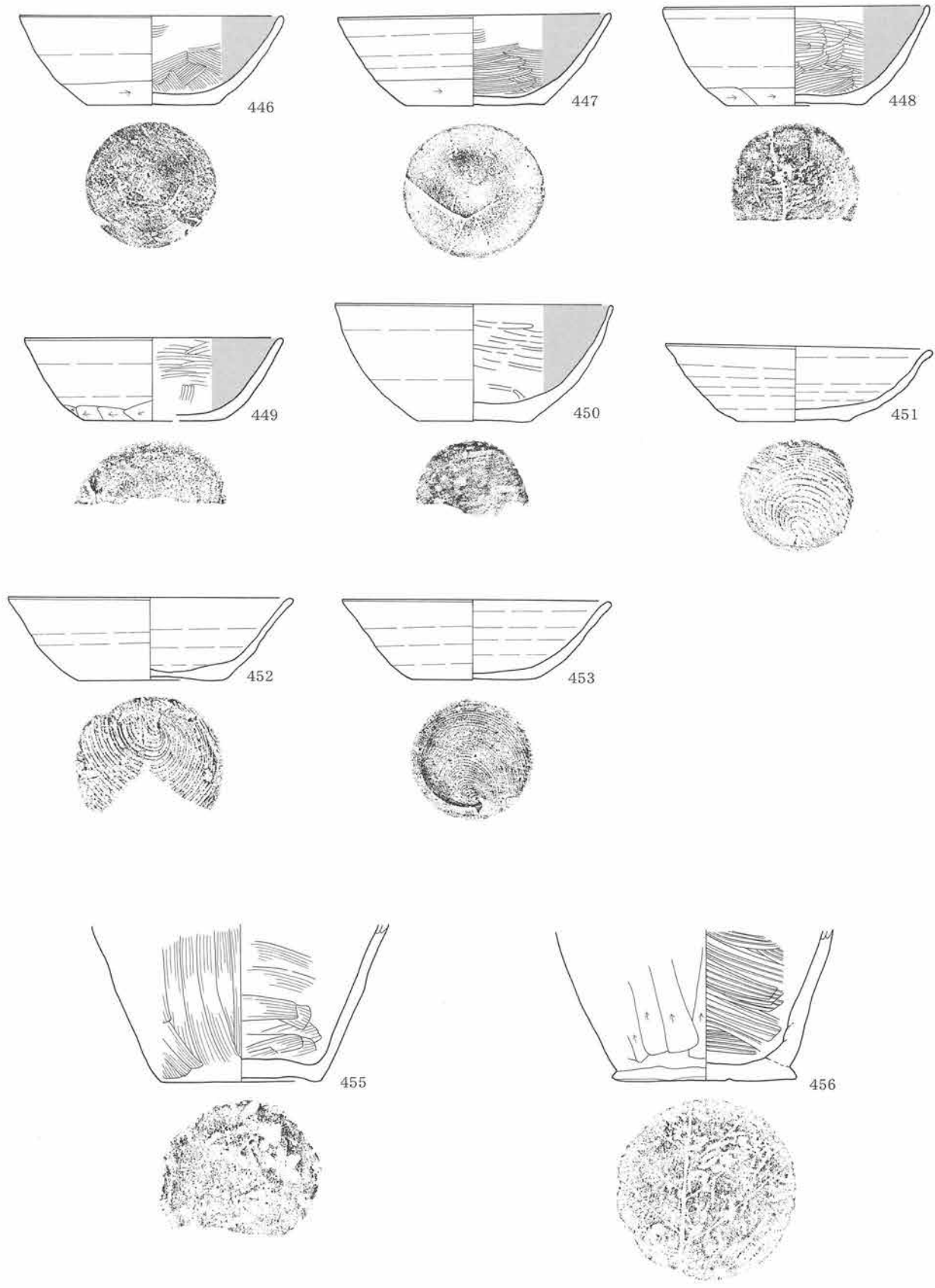
第 137 図 土師器・須恵器 431 ~ 435



※436~439・443 S I 02
 444 S I 03
 445 B 4 区遺構外

0 1:3 10cm

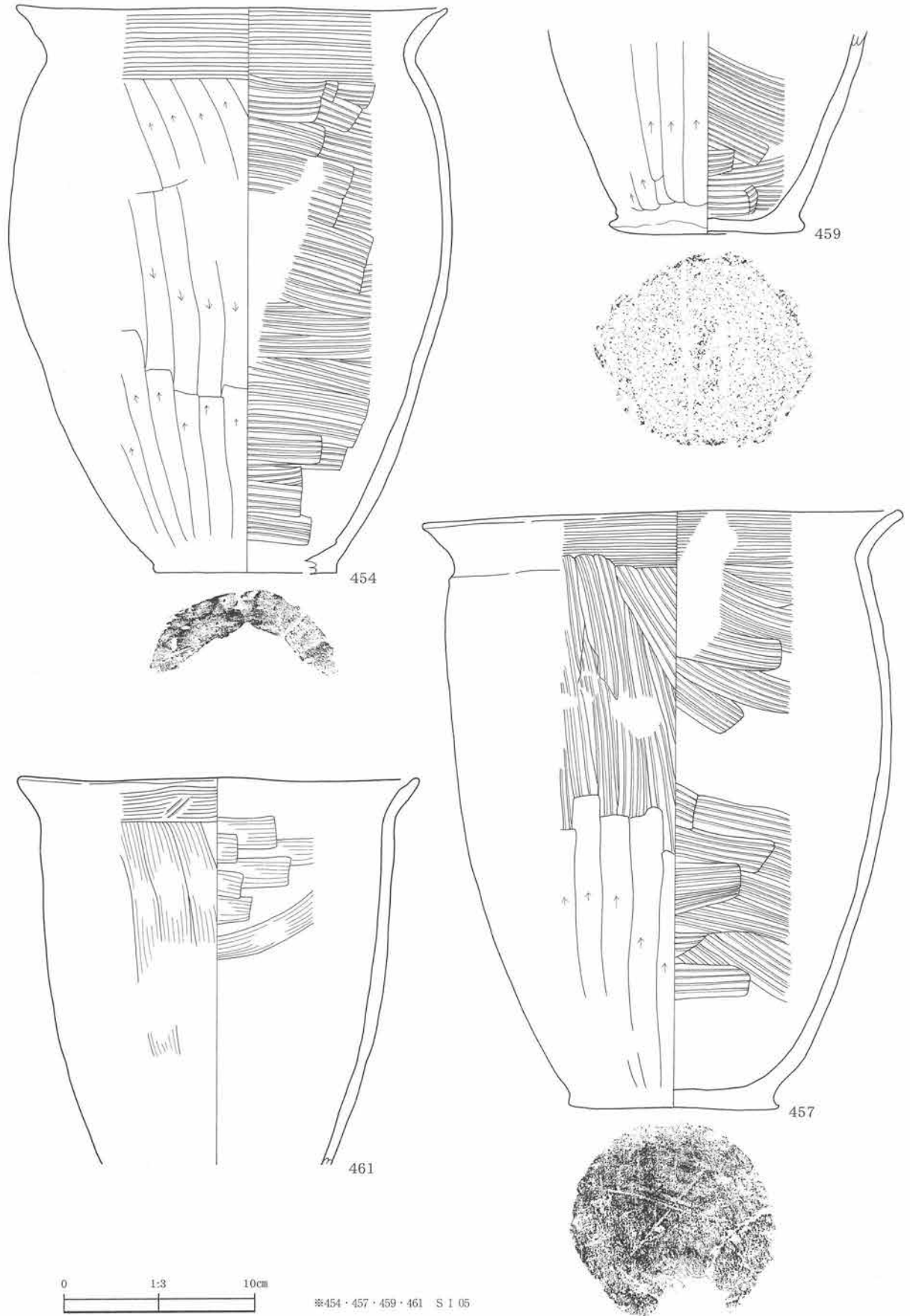
第 138 図 土師器・須恵器 436 ~ 439・443 ~ 445



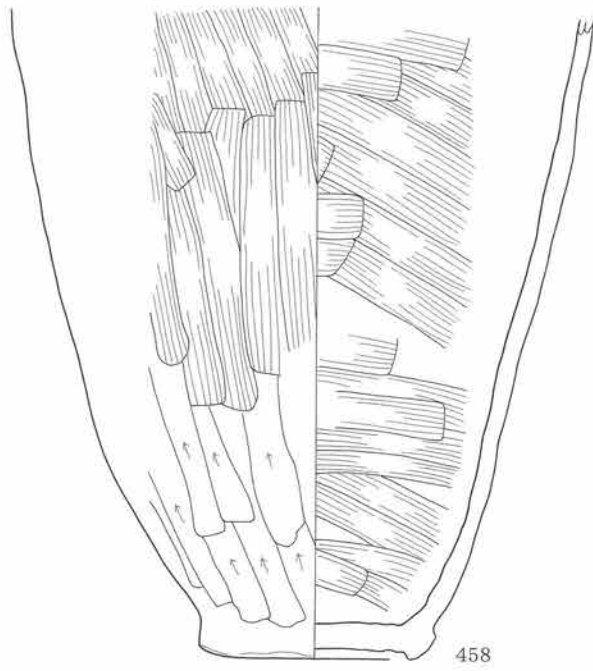
0 1:3 10cm

※446・453・455・456 S 1 05

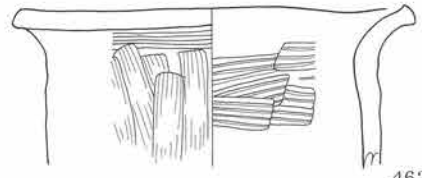
第 139 図 土師器・須恵器 446 ~ 453・455・456



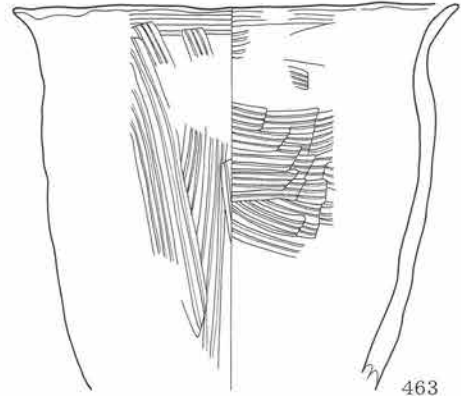
第 140 図 土師器・須恵器 454・457・459・461



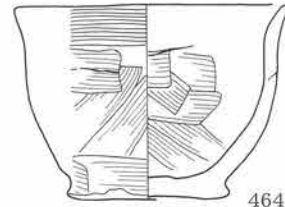
458



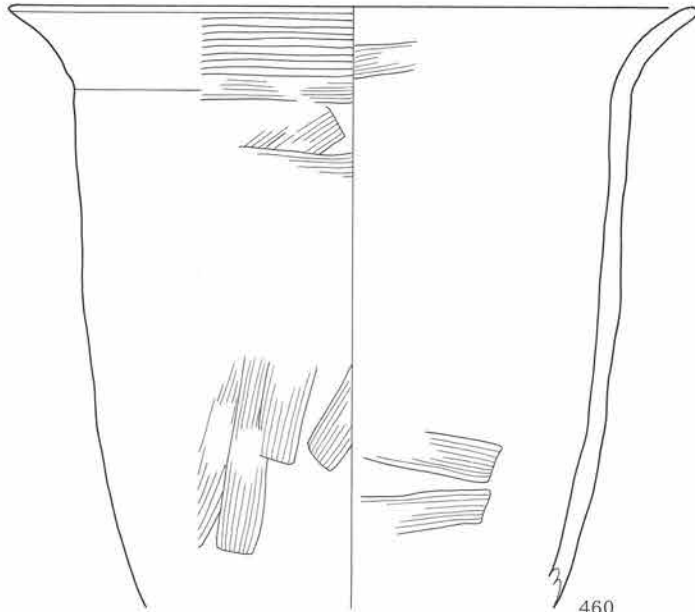
462



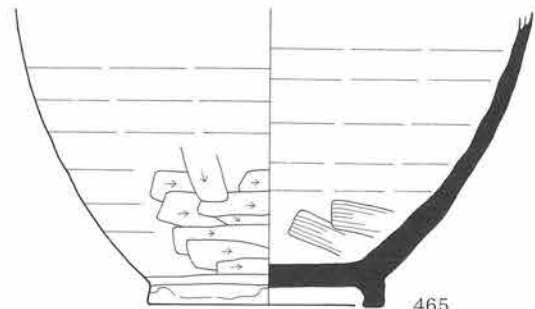
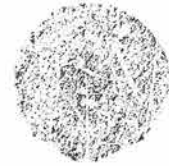
463



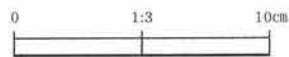
464



460

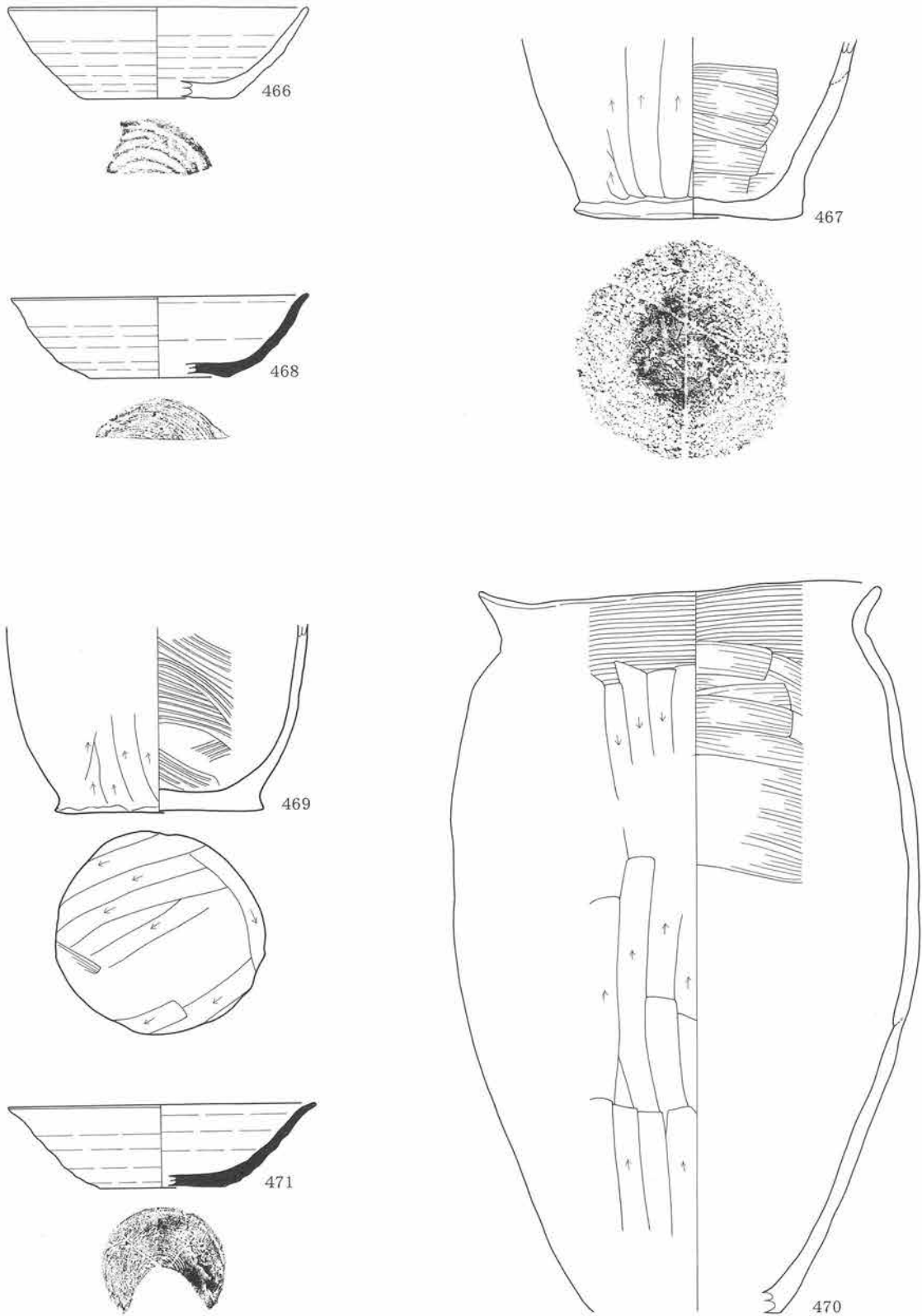


465



*458・460・462～465 S I 05

第 141 図 土師器・須恵器 458・460・462～465



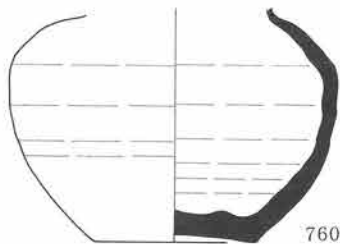
※466 S K 34
 467・468 S I 06
 469～471 S K 28

0 1:3 10cm

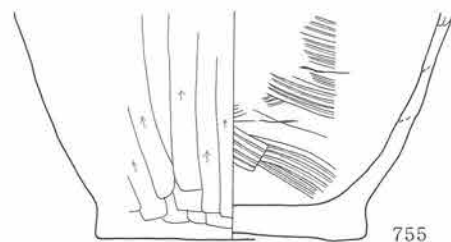
第 142 図 土師器・須恵器 466～471



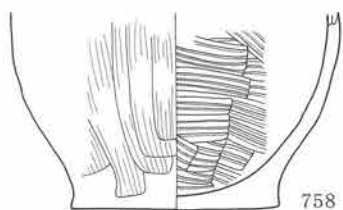
753



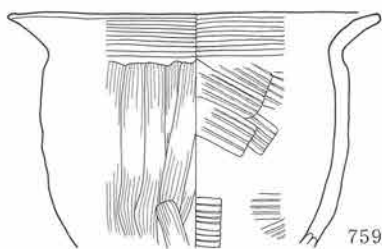
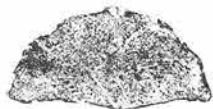
760



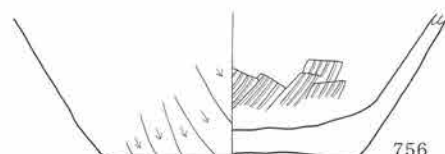
755



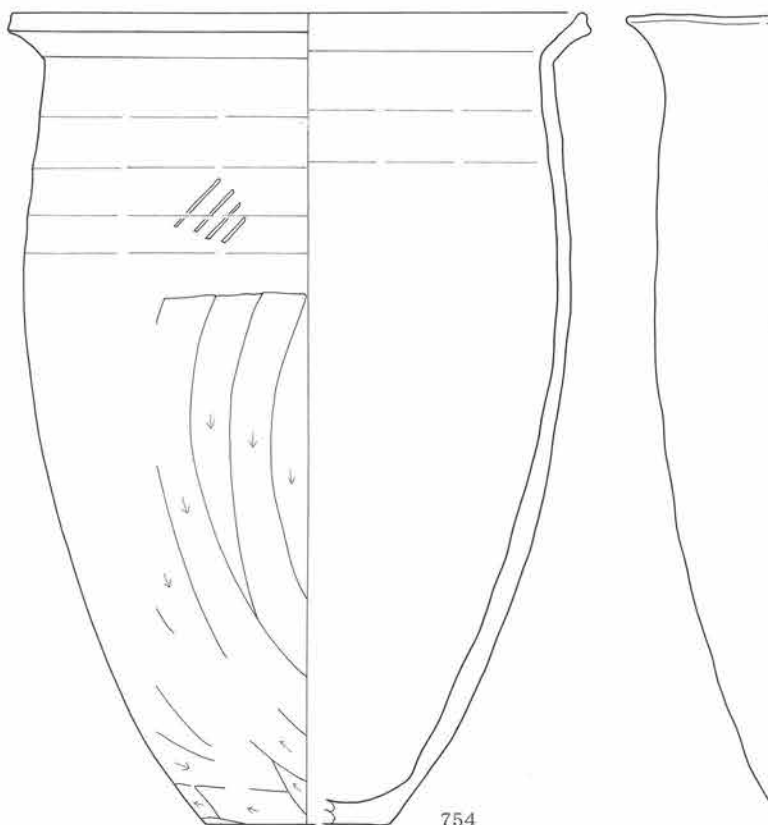
758



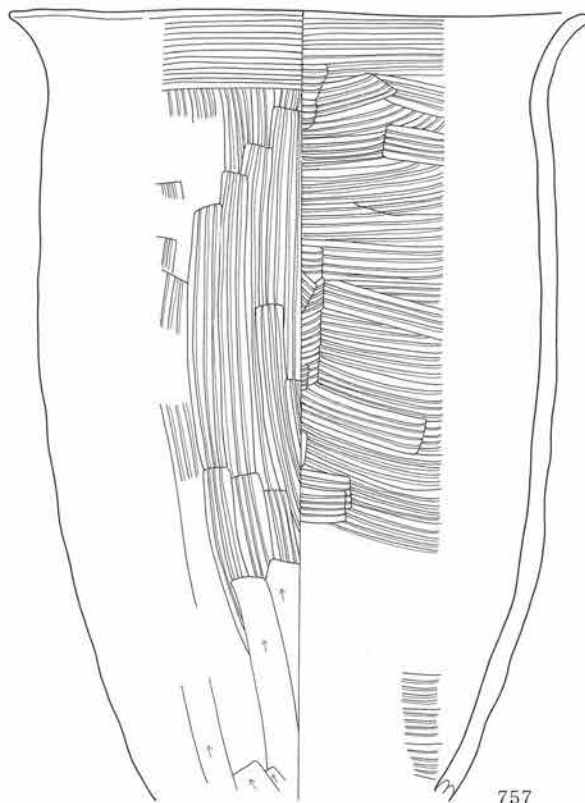
759



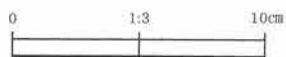
756



754

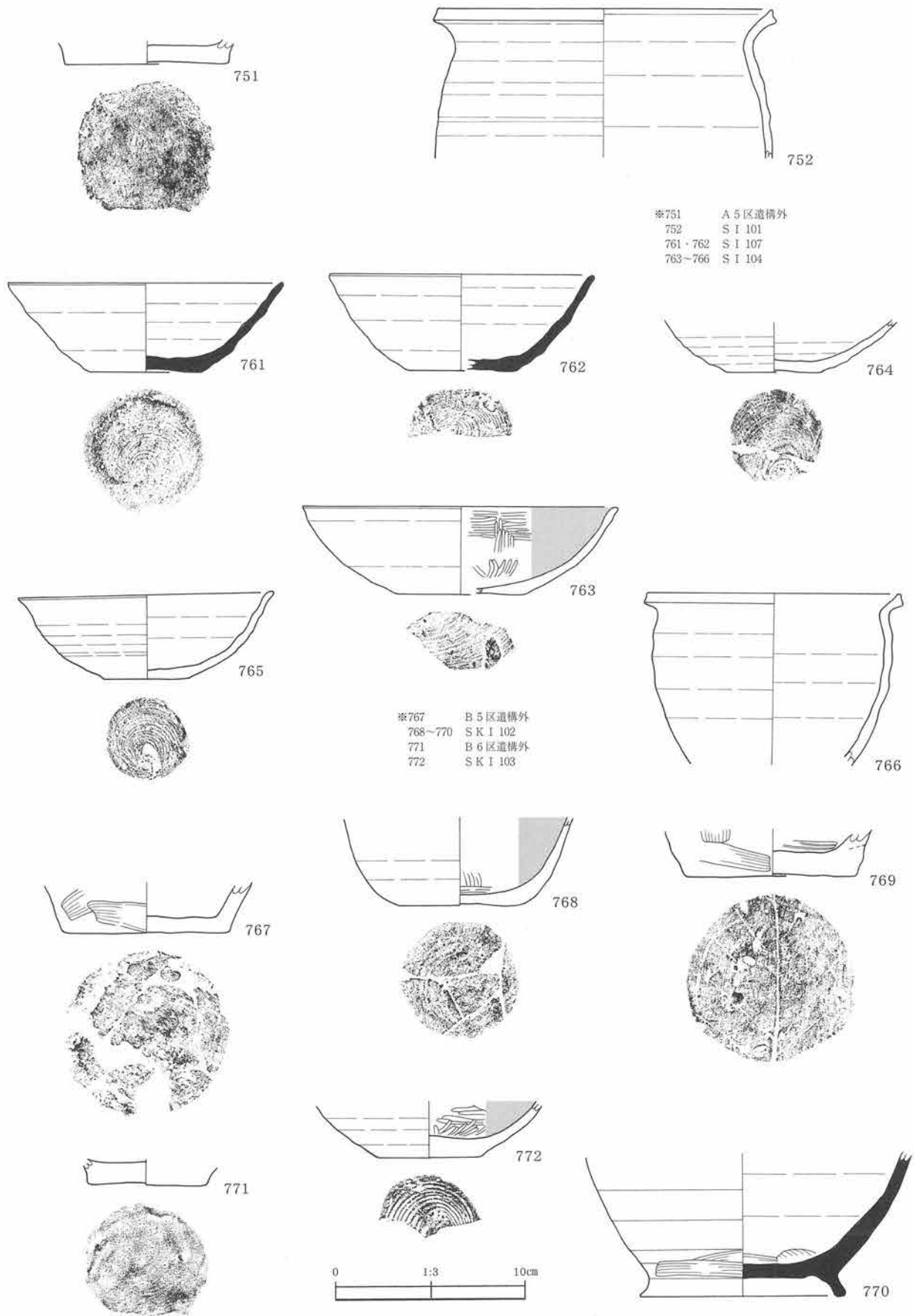


757

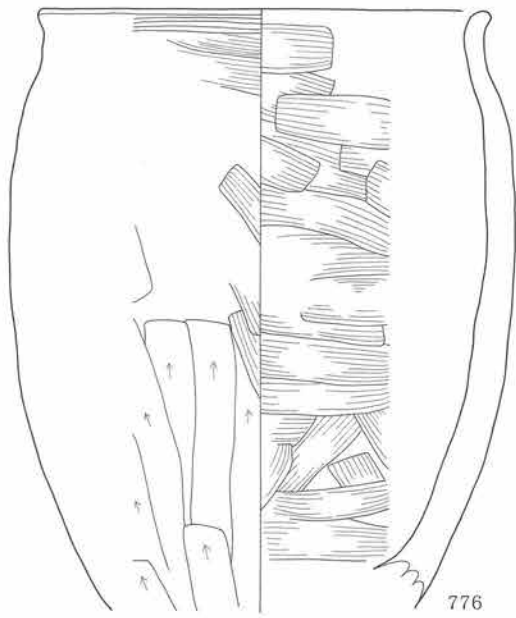


※753~760 S I 03

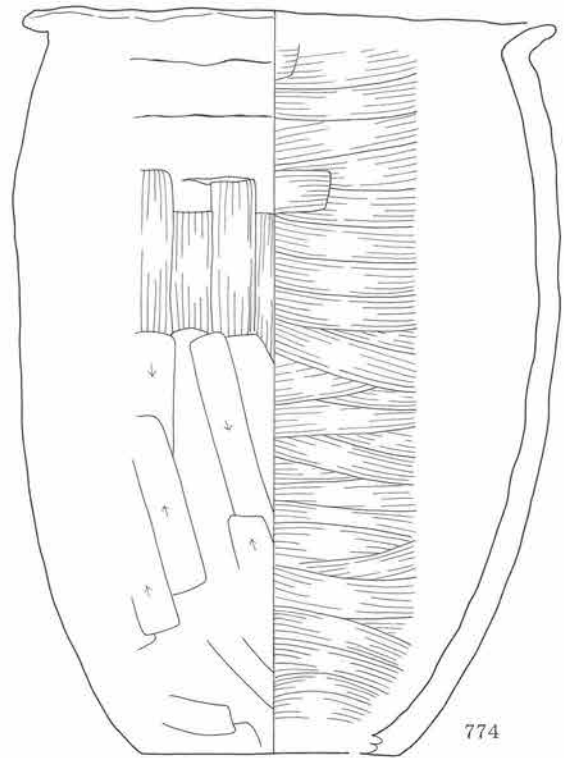
第 143 図 土師器・須恵器 753 ~ 760



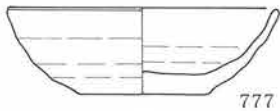
第 144 図 土師器・須恵器 751・752・761～772



776



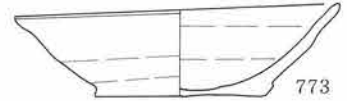
774



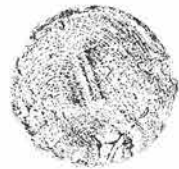
777



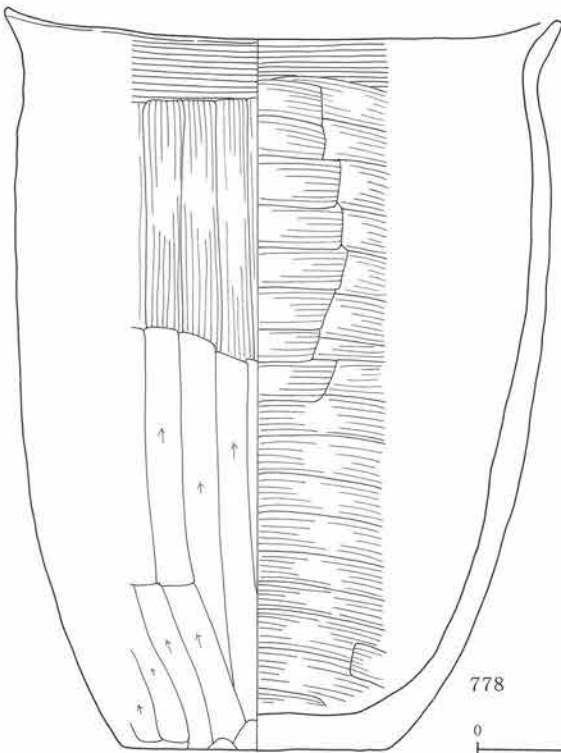
775



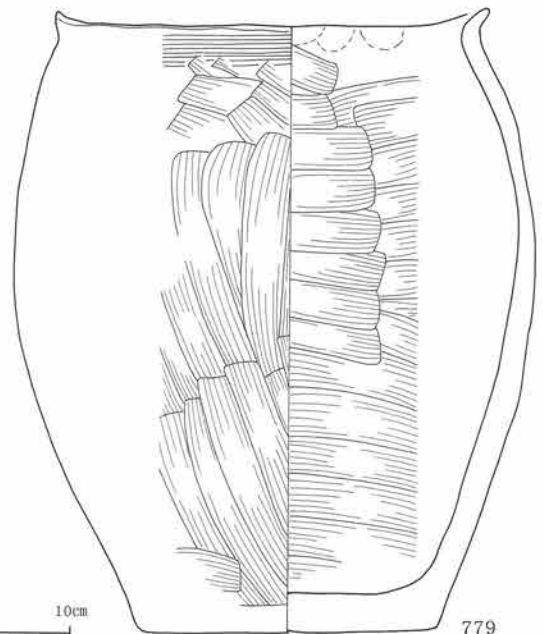
773



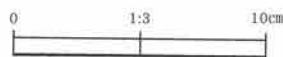
※773~775 S X 106
 776 S K 128
 777 S K 133
 778・779 S K I 101



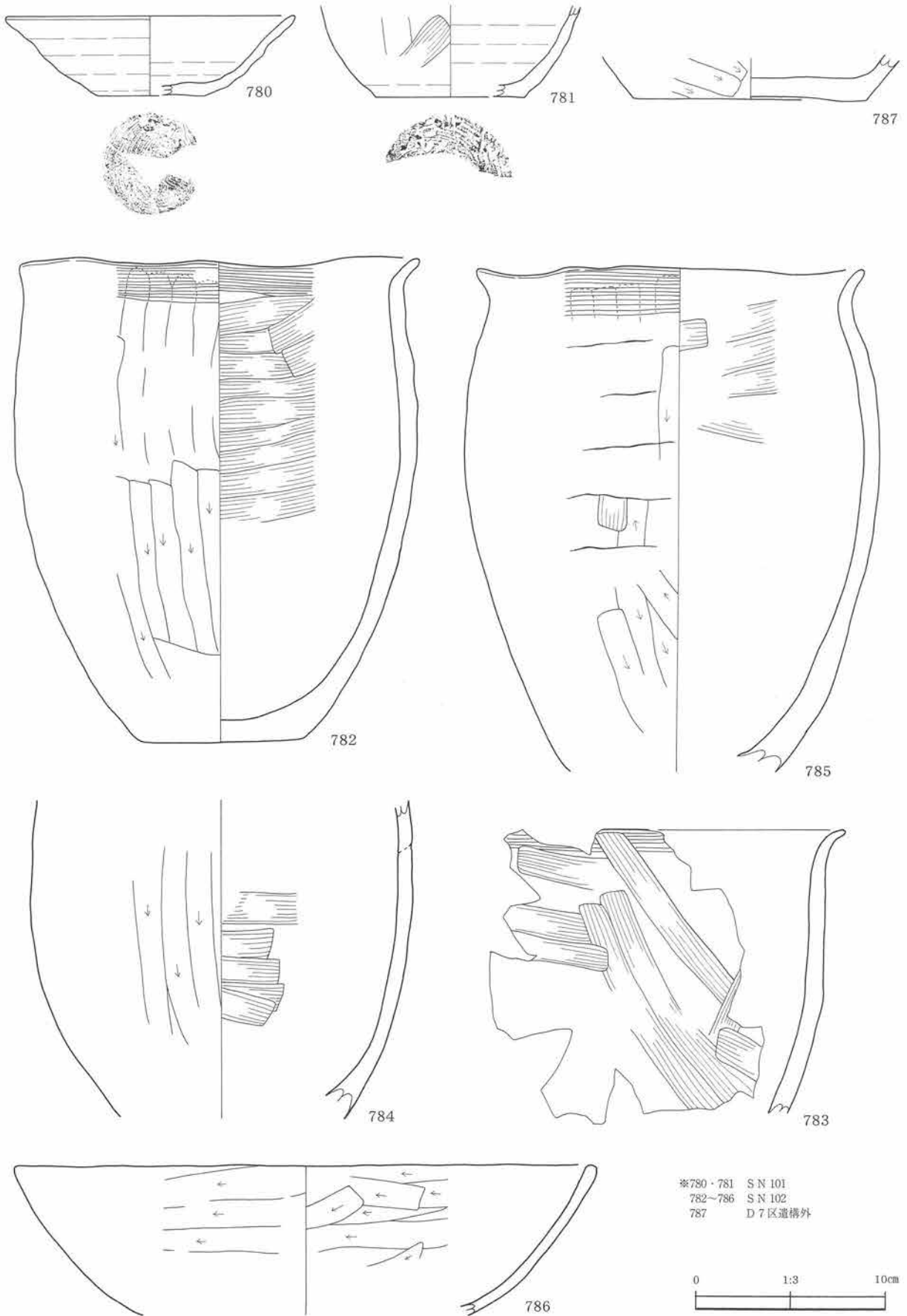
778



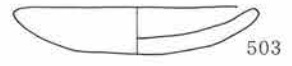
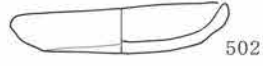
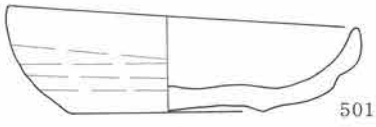
779



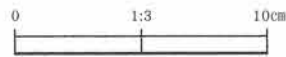
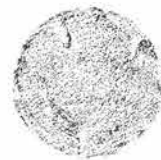
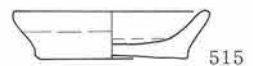
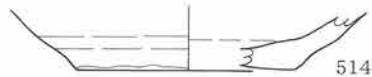
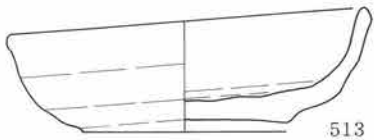
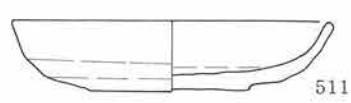
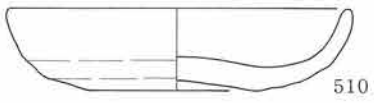
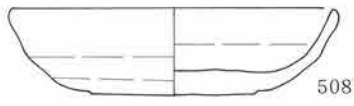
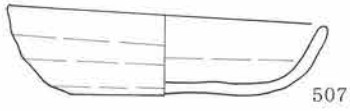
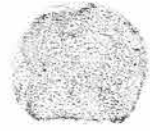
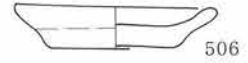
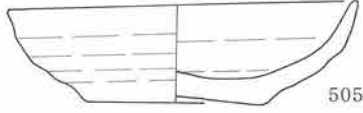
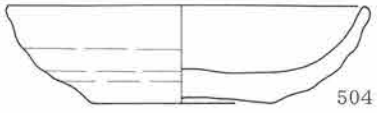
第 145 図 土師器・須恵器 773 ~ 779



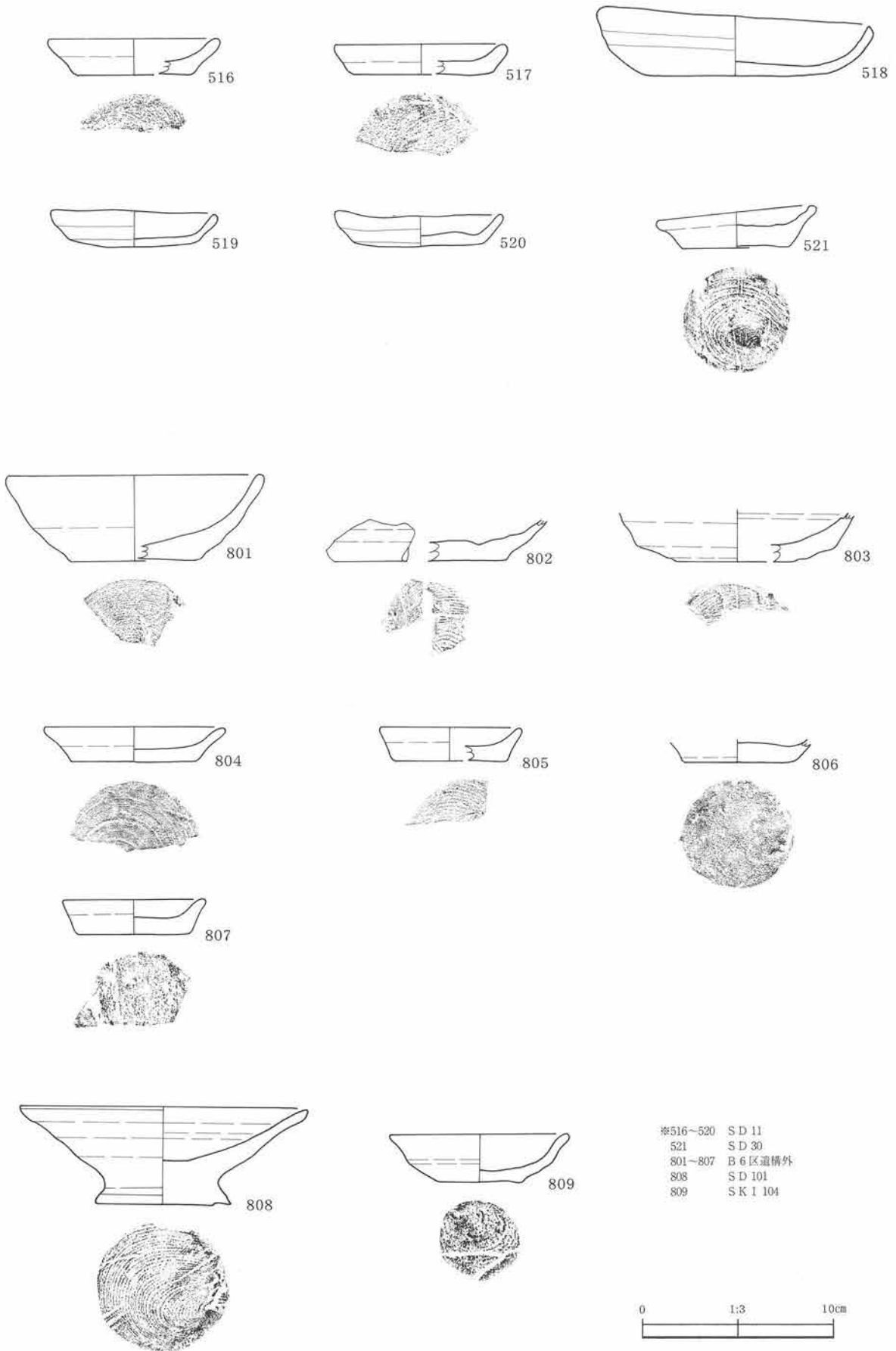
第 146 図 土師器・須恵器 780～787



※501~503 B3区遺構外
504~506 P 241
507~515 P 242



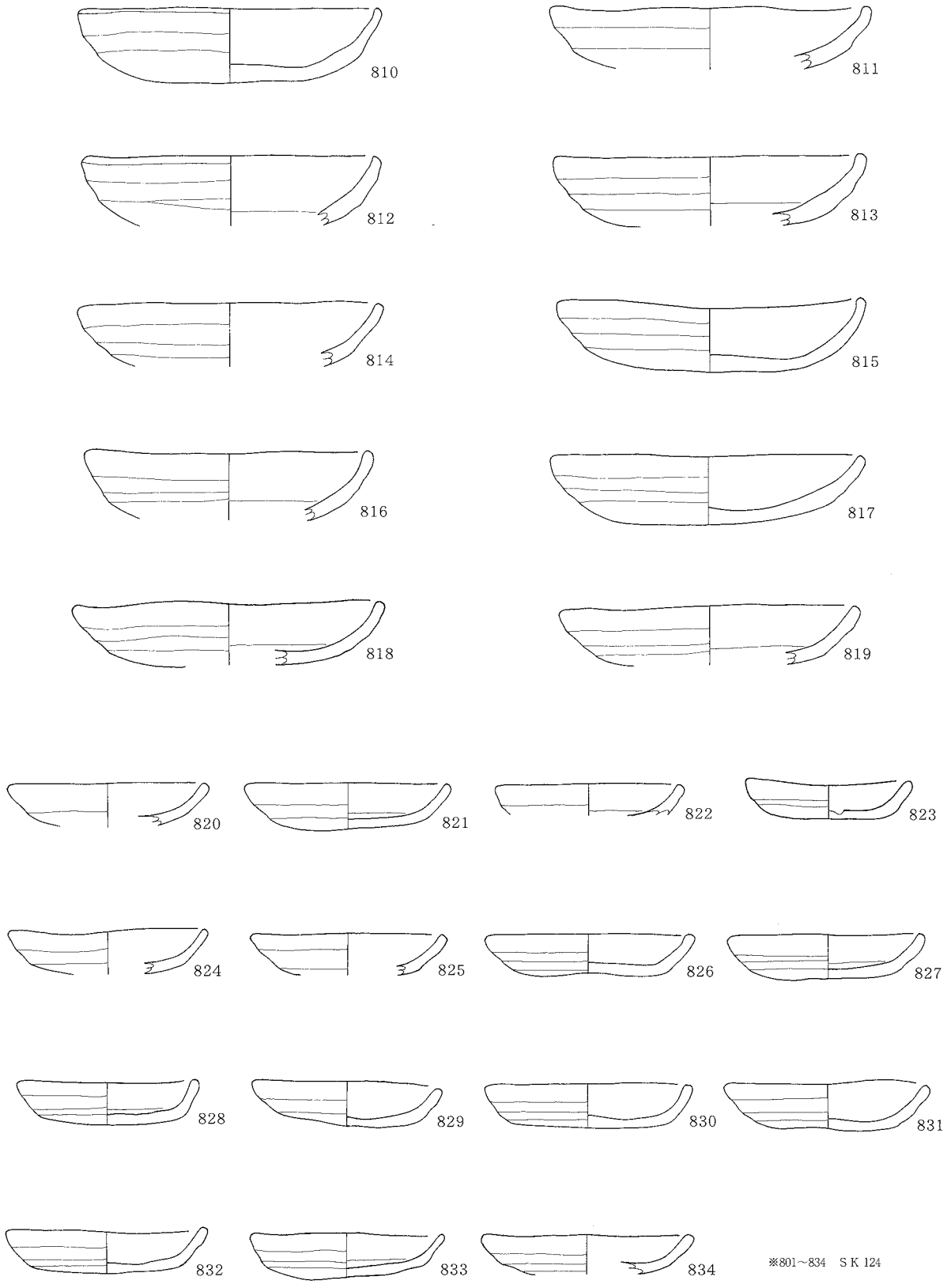
第 147 図 中世土器 501 ~ 515



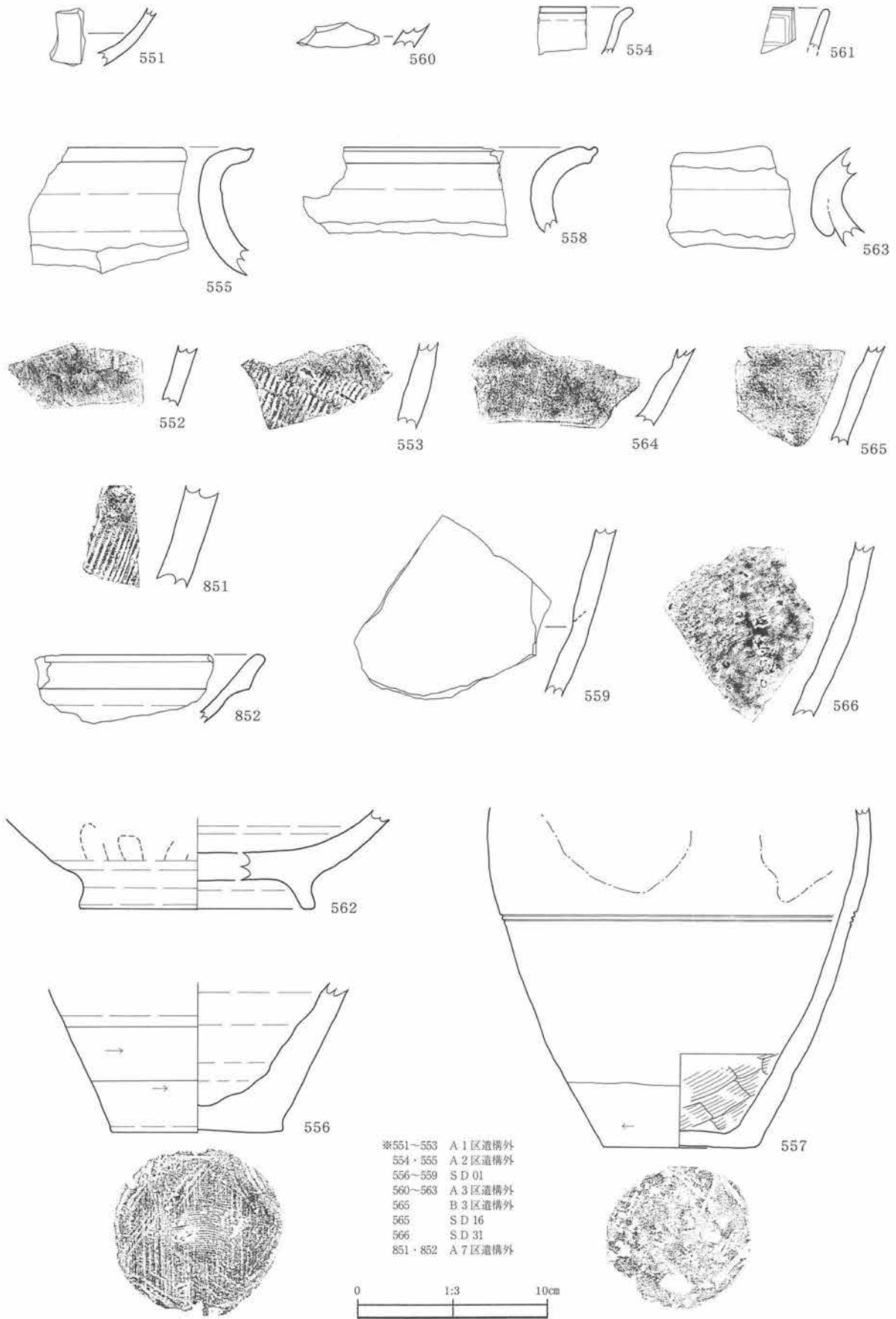
※516~520 S D 11
 521 S D 30
 801~807 B 6 区遺構外
 808 S D 101
 809 S K I 104

0 1:3 10cm

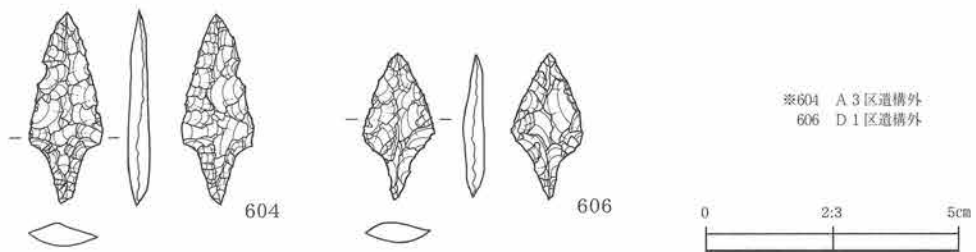
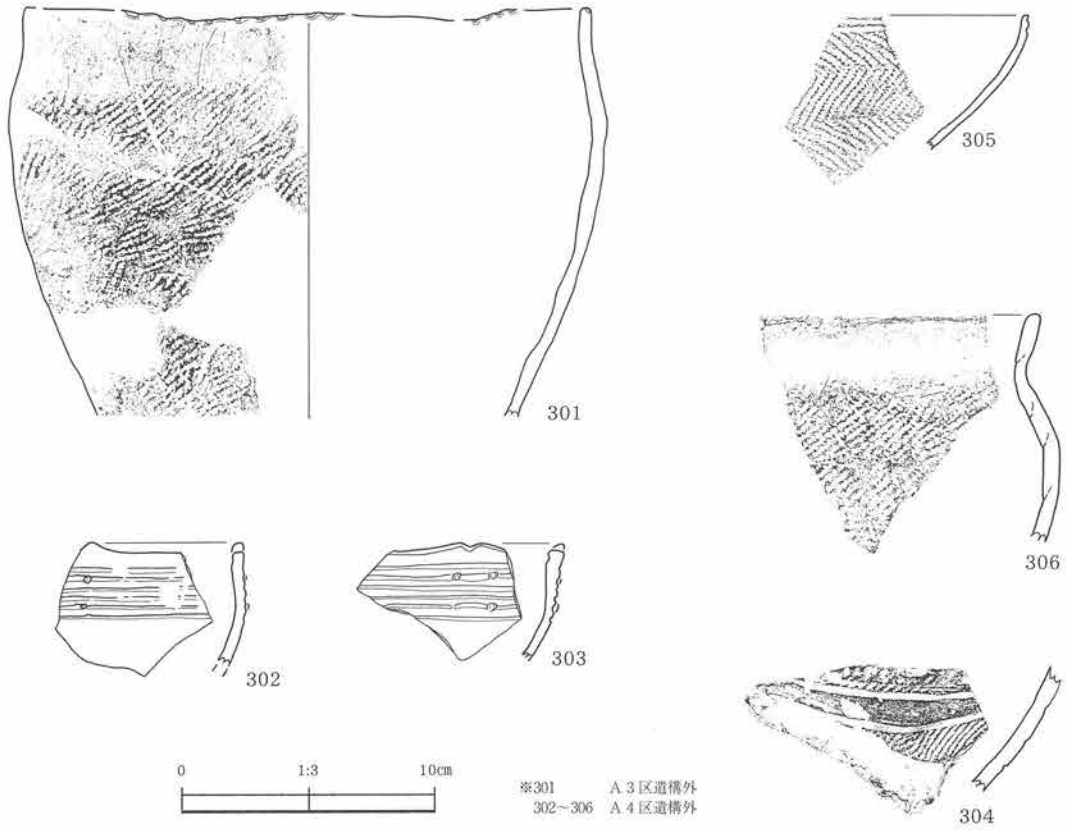
第 148 図 中世土器 516 ~ 521 ・ 801 ~ 809



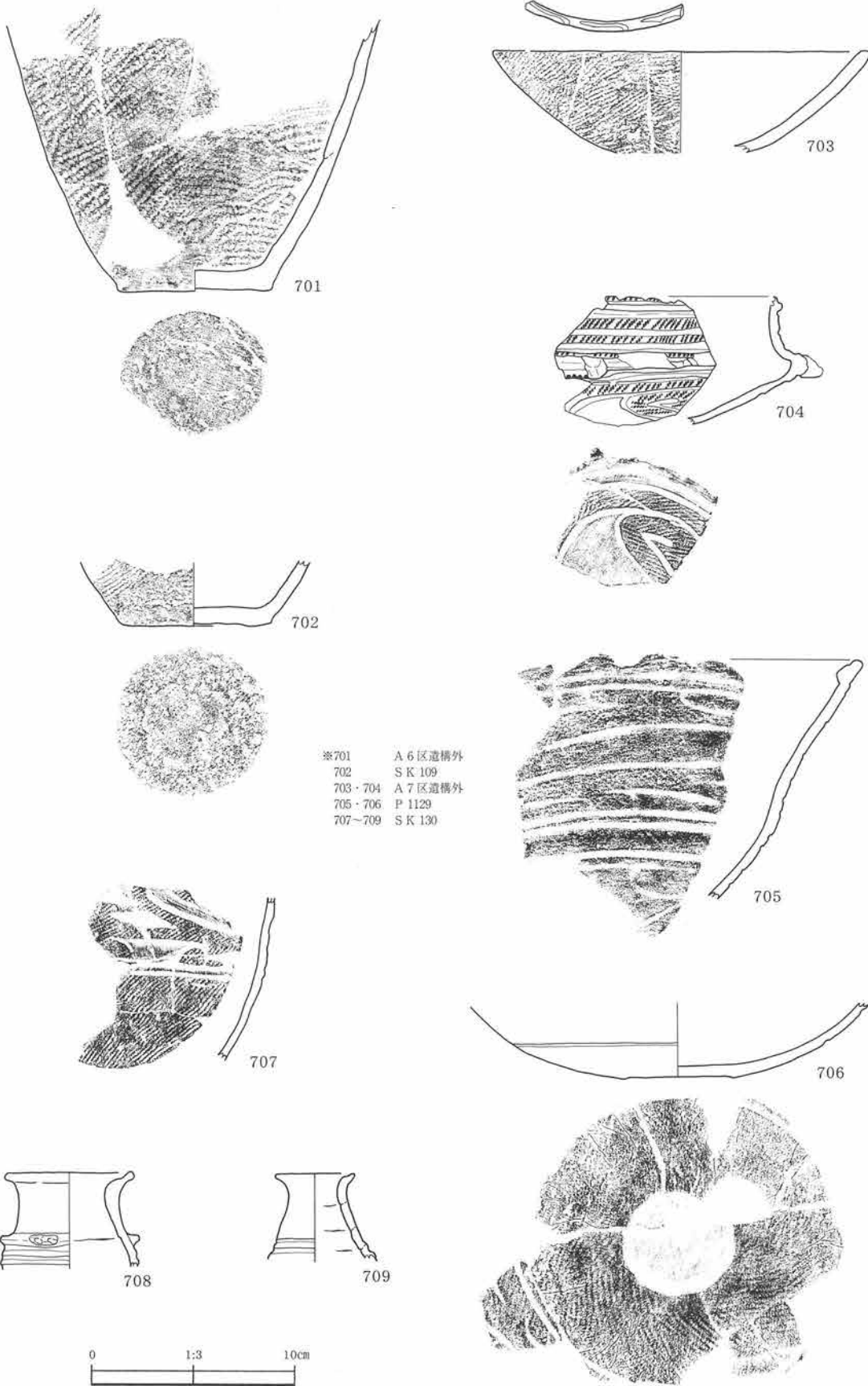
第 149 図 中世土器 810 ~ 834



第 150 図 陶磁器 551 ～ 566 ・ 851 ・ 852

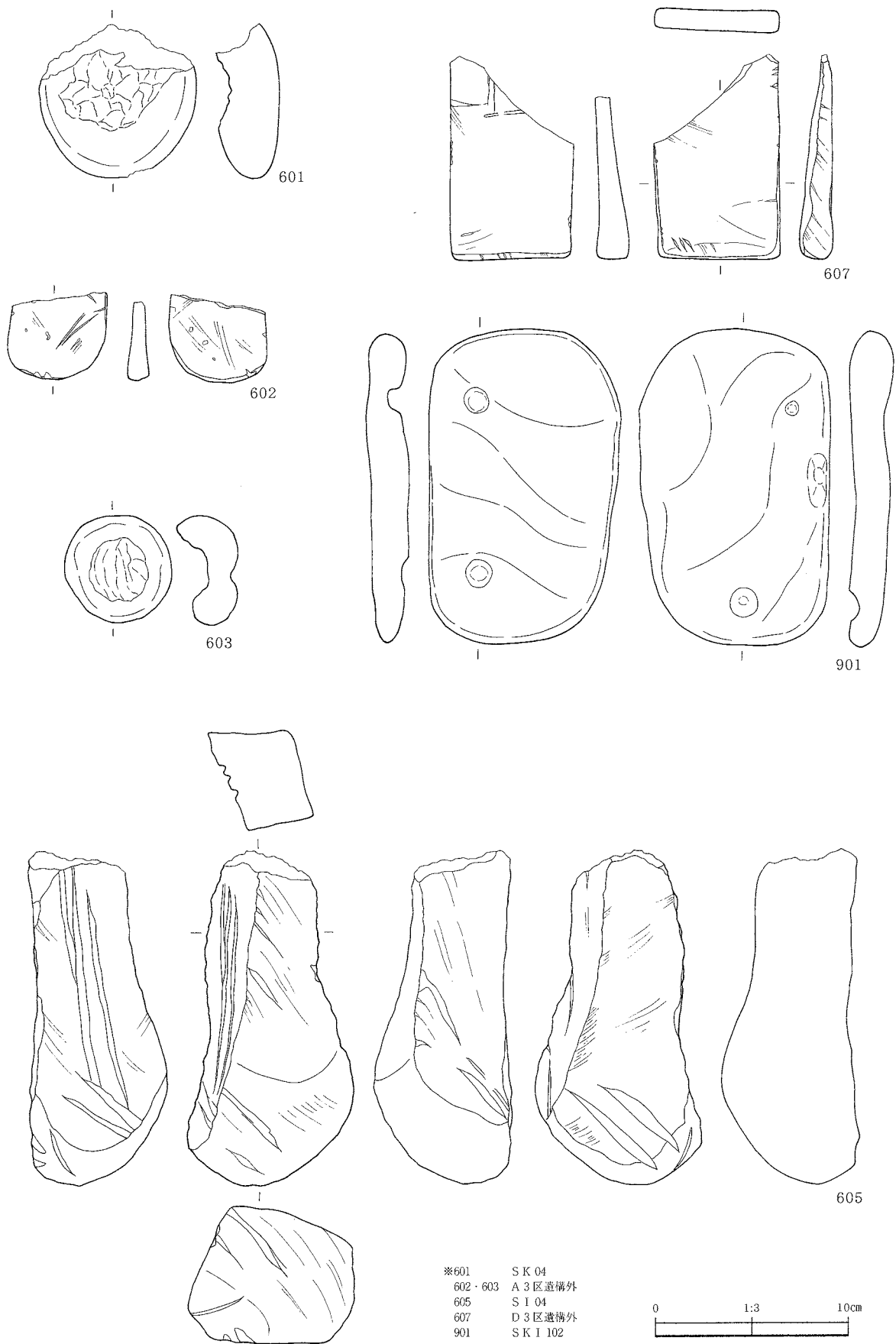


第 151 図 縄文土器 301 ~ 306、石器 604・606

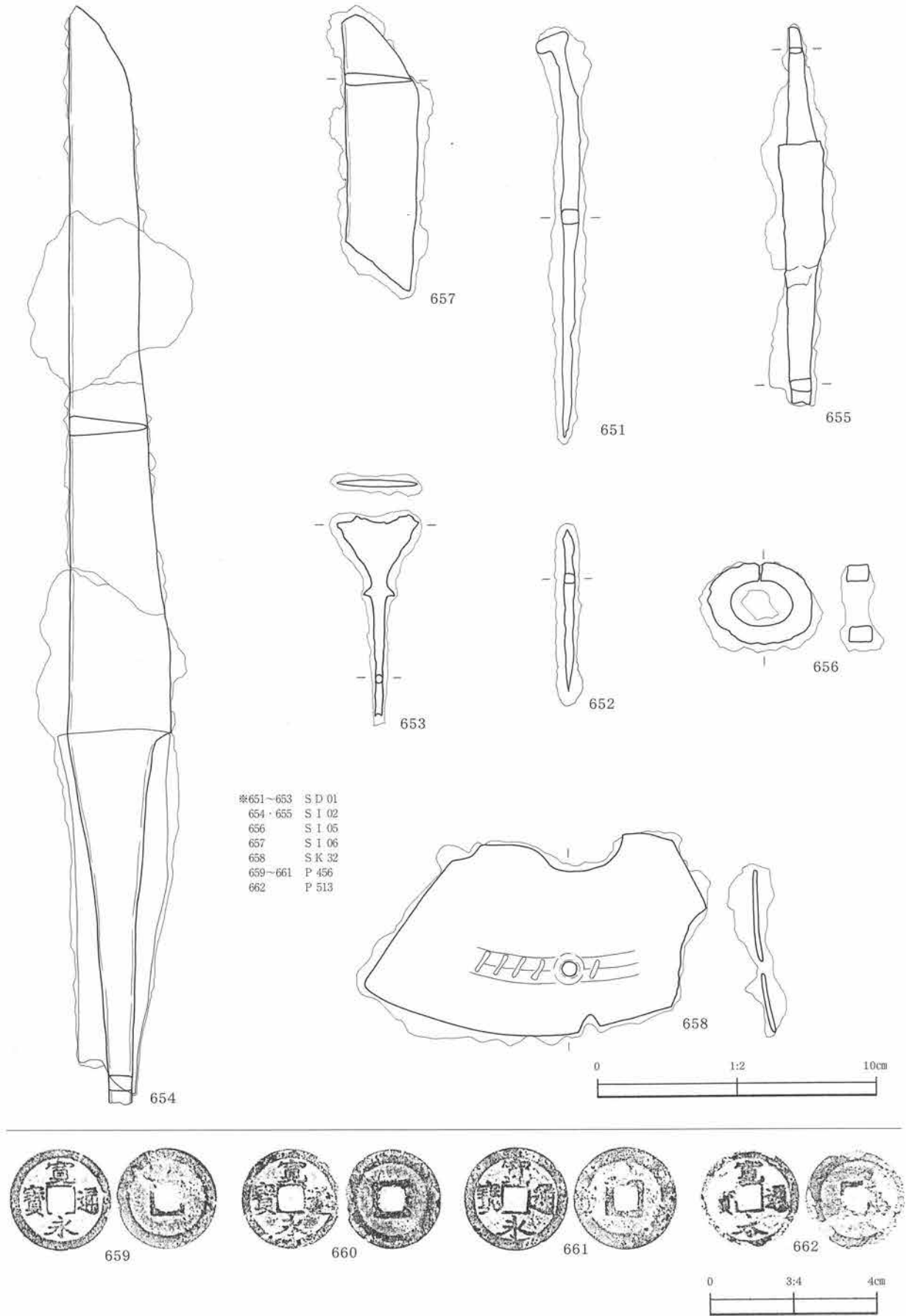


※701 A 6区遺構外
 702 S K 109
 703・704 A 7区遺構外
 705・706 P 1129
 707～709 S K 130

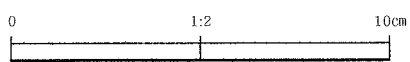
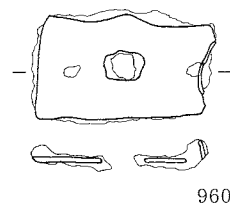
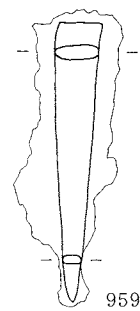
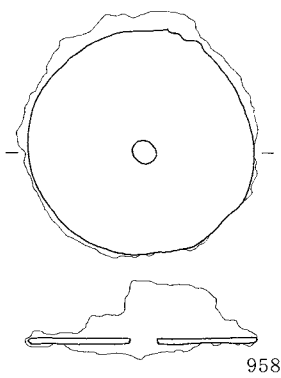
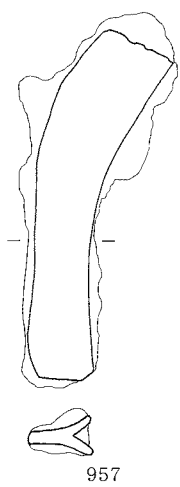
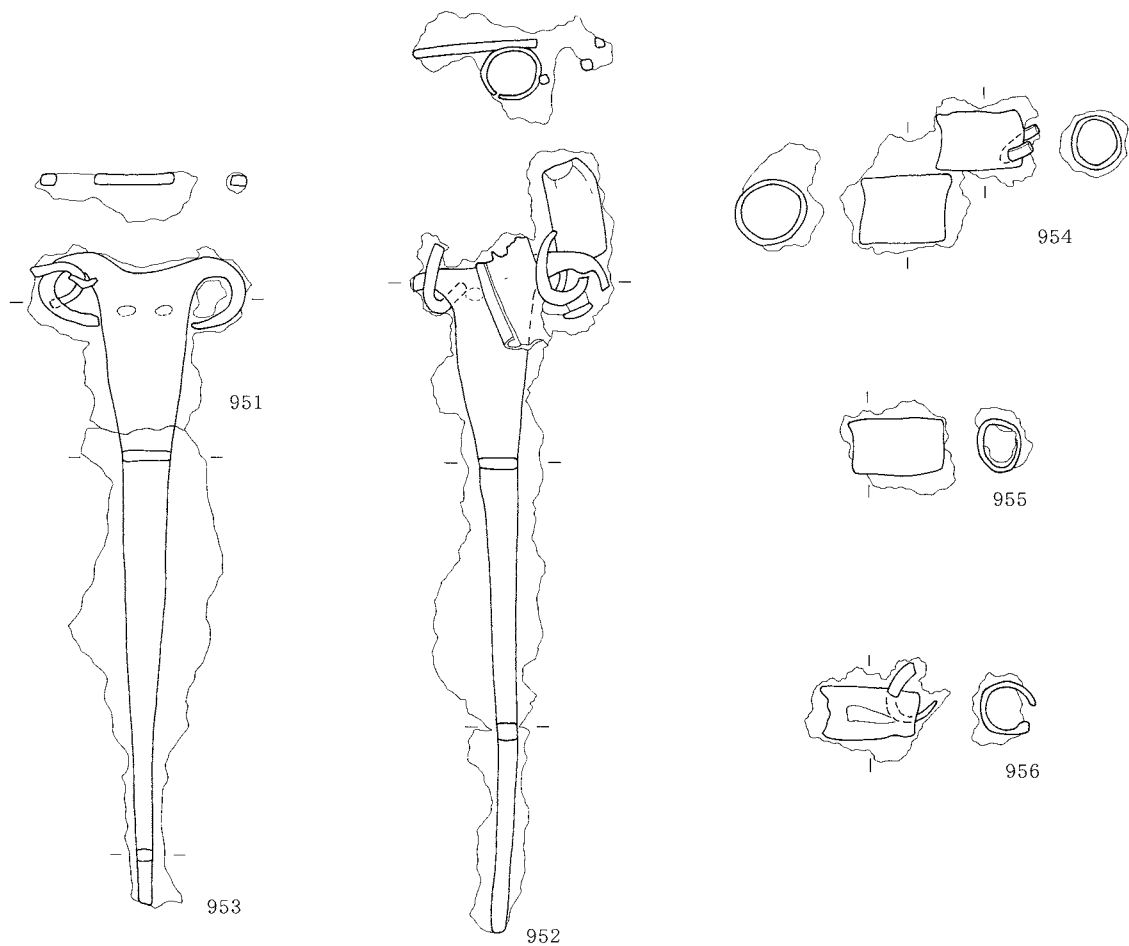
第 152 図 縄文土器 701 ～ 709



第 153 図 石器・石製品 601 ~ 603・605・607・901



第 154 図 金属製品 651 ~ 662



※951~956 S K 132
 957 S K 133
 958 S K 134
 959 S K I 101
 960 S N 102

第 155 図 金属製品 951 ~ 960

VI 自然科学分析

1 目的と方法

下川原 I 遺跡においてそれぞれ行った自然科学的見地からの分析・同定について本章でまとめて報告を行う。まず、ここでは各種分析・同定の目的と方法について述べ、次節より各分析・同定の報告を行うこととする。なお、次節以降の分析・同定の報告は項目毎となっているが、表題に分析・同定を行った機関名を表記している。

(1) 植物化石同定

下川原 I 遺跡第 1 次調査では、12 世紀のかわらけが重なって出土した 2 号溝跡が墓域を区画する可能性があることを明らかにした。この 2 号溝に沿って、内部空間に多数の植物根痕跡と考えられる小ピット群が確認されたことから、植物による生垣の痕跡と想定した。では、この垣根を構成する植物は何であったのか、小ピットからサンプリングした土壌を古代の森研究舎に依頼して、洗浄、残渣植物化石の同定を行っていただいた。その最終的な目的は、景観復原にある。

(2) 土壌理化学分析

下川原 I 遺跡では中世墓関連遺構が多数確認された。1・2 号堂跡、1 号中世墓壙、1～8 号土坑がそれで、このうち墓壙と土坑からは、12 世紀の遺物、焼土粒、白色粒子、炭化物が出土している。これらは、葬送儀礼に利用された遺物や茶毘に伏された遺体の残渣ではないかと考えた。明確な焼骨片は出土しなかったため、人骨粉を由来と想定される白色粒子が最も良好に残存していた 8 号土坑の土壌をサンプリングし、パリオ・サーヴェイ株式会社依頼して理化学分析を行っていただいた。リン酸とカルシウムの残留濃度から、白色粒子が植物質起源によるものか、あるいは動物質起源によるものか検証することによって、各遺構が葬送関連施設であるかどうか検討するうえで一助となると考えた。

(3) 土器・陶器胎土分析

下川原 I・II 遺跡は 12 世紀の資料が豊富に出土した。これらの出土遺物の胎土を検討することで、平泉町内出土資料と差異が現れるのか検討をする必要性を感じていた。平泉町内出土土器（かわらけ類）と紫波町内出土土器（かわらけ類）では、採取地や粘土素地が異なるか検討することで、少なくとも紫波郡に平泉町周辺とは異なる土器製作集団（工人組織）が存在したか判断できると考えた。陶器類については、肉眼分類以外の手法の実践と、周辺窯元のデータ蓄積を目的とした。なお、陶器・土器の胎土分析結果報告書は紙面の都合上、編集した。分析結果報告書の一部を抜粋して本報告書に掲載した。図版・表番号は分析結果報告書記載をそのまま使用している。

(米田)

(4) プラントオパール分析

下川原 I 遺跡第 2 次調査において、畝間状遺構 1 箇所（S X 01）が確認された。複数の細かい溝がほぼ等間隔に並行する。遺構の形状と検出層位から、古代以降の畑跡であることを想定した。同じ検

出面で確認した遺構は、竪穴住居（9世紀頃）、柱穴・溝（12世紀）であり、S X 01はこのいずれかの時期に構築された遺構の可能性が高いと考え、株式会社火山灰考古学研究所に依頼し、6点の試料（試料1～6）について、プラントオパール分析を実施した。（川又）

2 下川原 I 遺跡墓域堆積物の分析

吉川純子（古代の森研究舎）

（1）はじめに

下川原 I 遺跡は紫波町の北上川河岸に位置し、藤原氏が栄えた12世紀代の堂、溝などがみつまっている。本遺跡F区の2号溝で区画された墓域内に植物根で形成されたと考えられる穴（Pit群）が検出された。この穴が形成された時期の植生を推定する目的で堆積物の分析を行った。水洗に充てた堆積物はP57が189g、P64は75gで、いずれも0.25mm目の篩で水洗し、残渣を実体顕微鏡で観察し同定可能な植物遺体を選び出した。

（2）結果と考察

P57からは、シロザ近似種の種子を1個出土した。P64からは同定可能な植物遺体を出土しなかった。以下に出土した種子の形態記載を行う。

シロザ近似種（*Chenopodium cf. album* L.）：種子は扁平な円形で一端が唇状にくぼみ、中央に向かってすじが入る。表面は鈍い光沢があり、黒色である。シロザはやや乾燥した比較的日当たりの良い場所に生育するアカザ科の草本である。

本遺跡F区墓域の堆積物からはシロザ近似種のみ出土し、他の植物質の残渣は微量な炭化材片のみであった。堆積物中には砂の粒子も少なく、当時の環境としては微生物活性がある分解が進みやすい土壌であったと推測される。したがって植物根の痕跡があるものの落下した植物の葉や種実がほとんど分解して化石として残らなかったと考えられる。



第156図：下川原 I 遺跡より出土した種子 シロザ近似種、種子（Pit57 径 1.0mm）

3 下川原 I 遺跡F区8号土坑の内容物について

パリノ・サーヴェイ株式会社

（1）はじめに

今回の分析調査では、下川原 I 遺跡F区で検出された12世紀の火葬に伴うとみられる土坑を対象に、墓関連遺構の可能性を検証することを目的として、土坑覆土のリン酸、カルシウム含量の調査を実施する。なお、リン酸の由来としては、動物の体組織や骨のほか、植物遺体の可能性もあることから、本調査では腐植含量の調査も実施し、リン酸含量の評価を行う。

（2）試料

調査対象とされた遺構は、F区8号土坑1基である。土坑からは炭化物、焼土、かわらけなどが出土しているほか、骨粉のような白色粒子も検出されている。

試料は、火葬骨が溶け込んでいると予想される 8 号土坑内の土壌 1 点、および比較対照試料として遺構を覆う包含層に相当する、基本層序Ⅱ層の土壌 1 点、計 2 点である。なお 8 号土坑土壌試料は、発掘調査担当者により、骨粉の可能性が考えられている白色粒子が多く見られる部分が採取されている。

(3) 分析 方 法

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法、腐植含量はチューリン法（土壌標準分析・測定法委員会,1986）でそれぞれ行った。以下に各項目の操作工程を示す。

①分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して 2 mm の篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm 篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で 4 時間乾燥し、分析試料水分を求める。

②リン酸、カルシウム含量

粉碎土試料 1.00 g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸 (HNO₃) 約 5 ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸 (HClO₄) 約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸 (P₂O₅) 濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム (CaO) 濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりのリン酸含量 (P₂O₅ mg/g) とカルシウム含量 (CaOmg/g) を求める。

③腐植含量

粉碎土試料 0.100 ~ 0.500 g を 100ml 三角フラスコに正確に秤りとり、0.4N クロム酸・硫酸混液 10ml を正確に加え、約 200℃ の砂浴上で正確に 5 分間煮沸する。冷却後、0.2% フェニルアントラニル酸液を指示薬に 0.2 N 硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの有機炭素量 (Org-C 乾土%) を求める。これに 1.724 を乗じて、腐植含量 (%) を算出する。

(4) 結 果

土壌理化学分析結果を第 21 表に示す。

第 21 表 土壌理化学分析結果

試料名	土性	土色	腐食含量 (%)	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO (mg/g)	備考
F 区Ⅱ層土壌サンプル	CL	10YR2/2 黒褐	7.97	2.12	8.49	
F 区 8 号土坑土壌サンプル	CL	10YR3/3 暗褐	4.11	2.61	7.35	

注. (1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帳（農林省農林水産技術会議監修, 1967）による。

(2) 土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編, 1984）の野外土性による。

CL・・・堆積土（粘土 15～20%、シルト 20～45%、砂 3～65%）

基本層序Ⅱ層における腐植含量は 7.97%、リン酸含量は 2.12P₂O₅ mg/g である。一方、8 号土坑の腐植含量は 4.11% と基本層序Ⅱ層の半量程度であるが、リン酸含量は 2.61P₂O₅ mg/g とやや多い傾向にある。ただし、カルシウム含量は基本層序Ⅱ層で 8.49CaOmg/g、8 号土坑で 7.35CaOmg/g であり、大差は見られない。

(5) 考 察

土壤中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが (Bowen,1983; Bolt・Bruggenwert,1980; 川崎ほか,1991; 天野ほか,1991)、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約 $3.0\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 程度である。また、人為的な影響 (化学肥料の施用など) を受けた黒ボク土の既耕地では $5.5\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ (川崎ほか,1991) という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壤では $6.0\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ を越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通 $1\sim 50\text{CaOmg/g}$ (藤貫,1979) といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。

調査対象である 8 号土坑では、基本層序 II 層と比べて僅かにリン酸が多い特徴は見られるが、天然賦損量を超えるリン酸は検出されていない。基本層序 II 層と 8 号土坑のカルシウム含量が同程度であることを考慮すれば、8 号土坑覆土に遺体成分が残留している可能性は低いと判断される。

しかし、8 号土坑試料の腐植含量が基本層序 II 層の半量程度と少ないことに注目すると、土坑内では土壤腐植の元となる植物体以外に由来するリン酸が含まれていることが示唆される。考古学的所見から、この土坑は火葬に伴うゴミの投棄場としての用途が想定されていることもあり、リン酸を相対的に富化させる物質が存在した可能性は十分に有り得るが、今回の調査結果のみから言及することは難しい。

以上の通り、今回の分析結果からみると、8 号土坑が墓関連遺構ではないことを断定出来ないことから、今後脂質分析や微細遺物鑑定等他の調査手法による調査結果を把握した上で、土坑の性格についてさらに検討されることが望まれる。

引用文献

- Bowen,H.J.M. 1983 環境無機化学-元素の循環と生化学-。浅見輝男・茅野充男訳,博友社,297p.
- Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M 1980 土壤の化学。岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽 捷行訳,学会出版センター,309p.
- 天野洋司・太田健・草場敬・中井信 1991 中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,28-36.
- 川崎弘・吉田滯・井上恒久 1991 九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量。農林水産省 農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,23-27.
- 土壤標準分析・測定法委員会編 1986 土壤標準分析・測定法。博友社,354p.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修 1967 新版標準土色帖。
- 藤貫 正 1979 カルシウム。地質調査所化学分析法,52,57-61.
- ペドロジスト懇談会 1984 野外土性の判定。ペドロジスト懇談会編 土壤調査ハンドブック,博友社,39-40.

4 下川原 I・II 遺跡の土器・陶器胎土分析

(株)第四紀 地質研究所 井上 巖

X線回折試験及び化学分析試験

(1) 実験条件

1-1 試料

分析に供した試料は第 22 表胎土性状表に示す通りである。X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製 JDX-8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°, 計数時間: 0.5 秒。

1-3 化学分析

元素分析は日本電子製 5300 LV型電子顕微鏡に 2001 型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15 kV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200 倍、分析有効時間: 100 秒、分析指定元素 10 元素で行った。

(2) X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第 22 表胎土性状表に示す通りである。第 22 表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

2-1 組成分類

1) Mont-Ch,Mica-Hb 三角ダイヤグラム

第 157 図に示すように三角ダイヤグラムを 1～13 に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。Mont, Mica, Hb の三成分の含まれない胎土は記載不能として 14 にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb) のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント (%) で表示する。モンモリロナイトは $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb}) \times 100$ でパーセントとして求め、同様に Mica, Hb も計算し、三角ダイヤグラムに記載する。三角ダイヤグラム内の 1～4 は Mont, Mica, Hb の 3 成分を含み、各辺は 2 成分、各頂点は 1 成分よりなっていることを表している。位置分類についての基本原則は第 157 図に示す通りである。

2) Mont-Ch,Mica-Hb 菱形ダイヤグラム

第 158 図に示すように菱形ダイヤグラムを 1～19 に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は 20 として別に検討した。モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch) の内、a) 3 成分以上含まれない、b) Mont, Ch の 2 成分が含まれない、c) Mica, Hb の 2 成分が含まれない、の 3 例がある。

菱形ダイヤグラムは Mont-Ch, Mica-Hb の組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-Hb のそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、 $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Ch}) \times 100$ と計算し、Mica, Hb, Ch も各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイヤグラム内にある 1～7 は Mont, Mica, Hb, Ch の 4 成分を含み、各辺は Mont, Mica, Hb, Ch のうち 3 成分、各頂点は 2 成分を含んでいることを示す。位置分類についての基本原則は第 158 図に示すとおりである。

3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（10 元素全体で 100%になる）で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいて $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 図、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$ 図、 $\text{K}_2\text{O-CaO}$ 図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

(3) X線回折試験結果

3-1 タイプ分類

第 22 表胎土性状表には下川原 I・II 遺跡、柳之御所跡、無量光院跡、志羅山遺跡、花立 I 遺跡、エヒバチ長根窯跡、水沼窯跡、熊狩窯跡、百々間窯跡より出土したかわらけ、須恵器、陶器などの土器が記載してある。第 24 表タイプ分類表に示すように土器と原土は A～I の 9 タイプが検出された。

A タイプ：Hb, Ch の 2 成分を含み、Mont, Mica の 2 成分に欠ける。

B タイプ：Hb 1 成分を含み、Mont, Mica, Ch の 3 成分に欠ける。

C タイプ：Mica, Hb の 2 成分を含み、Mont, Ch の 2 成分に欠ける。

D タイプ：Mica, Hb, Ch の 3 成分を含み、Mont 1 成分に欠ける。

E タイプ：Mica, Hb の 2 成分を含み、Mont, Ch の 2 成分に欠ける。組成的には C タイプと類似するが、検出強度が異なる。

F タイプ：Mica, Ch の 2 成分を含み、Mont, Hb の 2 成分に欠ける。

G タイプ：Mica 成分を含み、Mont, Hb, Ch の 3 成分に欠ける。

H タイプ：Mont, Mica, Hb, Ch の 4 成分にかける。高温で焼成されているために鉱物が熱で分解し、ガラスに変質しているために 4 成分が検出されない。

I タイプ：Ch 1 成分を含み、Mont, Mica, Hb の 3 成分に欠ける。

第 24 表タイプ分類表に示すように、最も多いタイプは H タイプの 28 個について B タイプの 9 個、G タイプの 7 個、E タイプの 7 個、I タイプの 3 個、A タイプの 2 個、C と D タイプの各 1 個である。

3-2 石英 (Qt) - 斜長石 (Pl) の相関について

土器胎土に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。第 161 図 Qt-Pl 図に示すように Qt の強度が小の領域から大の領域にかけて 6 グループと“その他”に分類された。

Qt 1—Qt が 330～1600、Pl が 0～150 の領域で、下川原 I 遺跡の須恵器系陶器と水沼窯跡の陶器、エヒバチ長根窯跡の須恵器系陶器が集中する。

Qt 2—Qt が 1950～3500、Pl が 0～100 の領域で、百々間窯跡の陶器が集中し、下川原 S-16 が共存する。

Qt 3—Qt が 800～1300、Pl が 200～400 の領域で、花立 I 遺跡の陶器類が集中する。

Qt 4—Qt が 1150～2200、Pl が 210～660 の領域で、下川原 I 遺跡の土壁、柳之御所跡の手づくねかわらけ、無量光院跡の手づくねかわらけ、志羅山遺跡のロクロかわらけか、熊狩窯跡の陶器が混在する。

Qt 5—Qt が 2200～2750、Pl が 150～500 の領域で、下川原 I 遺跡の手づくねかわらけとロク

ロかわらけが集中する。

Qt 1—Qt が 1750～2350、PI が 850～1300 の領域で、柳之御所跡の手づくねかわらけが集中する。“その他”—S-40（花立 I）の陶器で、焼成温度が低いために斜長石がガラスに変化せずに残存したもので、高温になると斜長石の強度が下がり Qt - 3 の領域に入るものである。このように各領域はそれぞれ類似する系統の土器が集中しており、明瞭に分類されることが分かる。

（4）化学分析結果

第 23 表化学分析表には下川原 I・II 遺跡、柳之御所跡、無量光院跡、志羅山遺跡、花立 I 遺跡、エヒバチ長根窯跡、水沼窯跡、熊狩窯跡、百々間窯跡より出土したかわらけ、須恵器、陶器などの土器が記載してある。分析結果に基づいて第 162 図 SiO₂-Al₂O₃ 図、第 163 図 Fe₂O₃-TiO₂ 図、第 164 図 K₂O-CaO 図を作成した。

4-1 SiO₂-Al₂O₃ の相関について

第 162 図 SiO₂-Al₂O₃ 図を基準として分析試料を I～V の 5 タイプと“その他”に分類した。

I タイプ：SiO₂ が 51～56%、Al₂O₃ が 22～25% の領域で、下川原 I 遺跡の土壁が集中する。

II タイプ：SiO₂ が 59～68%、Al₂O₃ が 21.5～26% の領域で、柳之御所跡の手づくねかわらけ、無量光院の手づくねかわらけ、志羅山遺跡のロクロかわらけ、花立 I 遺跡の陶器が混在する。

III タイプ：SiO₂ が 66～71%、Al₂O₃ が 19.5～24.5% の領域で、エヒバチ長根窯跡の須恵器系陶器が集中し、百々間窯跡の陶器、下川原 I 遺跡の須恵器系陶器・陶器が共存する。

IV タイプ：SiO₂ が 61～66.5%、Al₂O₃ が 19～22.5% の領域で、下川原 I・II 遺跡の手づくねかわらけ、ロクロかわらけが集中する。

V タイプ：SiO₂ が 62.5～67.5%、Al₂O₃ が 18～20.5% の領域で、水沼窯跡の陶器が集中する。“その他”—S-60（百々間窯跡）、S-51（水沼窯跡）、S-40（花立 I）はどの領域にも属さず異質である。

4-2 Fe₂O₃-TiO₂ の相関について

第 163 図 Fe₂O₃-TiO₂ 図に示すように、Fe₂O₃ の領域によって 3 グループと“その他”に分類した。

Fe₂O₃:1-Fe₂O₃ が 3.0～9.5%、TiO₂ が 0.5～2.0% の領域で、下川原 I・II 遺跡、柳之御所跡、無量光院跡、志羅山遺跡、花立 I 遺跡、エヒバチ長根窯跡、水沼窯跡、熊狩窯跡、百々間窯跡より出土した須恵器系陶器、陶器などが共存する。

Fe₂O₃:1-Fe₂O₃ が 8.5～13%、TiO₂ が 0.85～1.5% の領域で、下川原 I・II 遺跡の手づくねかわらけ、ロクロかわらけが集中する。

Fe₂O₃:1-Fe₂O₃ が 15～18%、TiO₂ が 0.85～2.2% の領域で、下川原 I 遺跡の土壁が集中する。S-40（花立 I）の陶器が混在する。

“その他”—S-37（花立 I）はどの領域にも属さず異質である。

4-3 K₂O-CaO の相関について

第 164 図 K₂O-CaO 図に示すように K₂O の値によって 4 グループと“その他”に分類した。

K₂O:1-K₂O が 1.1～1.85%、CaO が 0.4～1.0% の領域で、下川原 I 遺跡の土壁と花立 I 遺跡の陶器が共存する。

K₂O:1-K₂O が 1.6～2.5%、CaO が 0.25～0.85% の領域で、下川原 I・II 遺跡の手づくねかわらけ、ロクロかわらけが集中する。柳之御所跡の手づくねかわらけ、無量光院跡の手づくねかわらけが共存する。

$K_2O:1-K_2O$ が 2/6 ~ 3.6%、 CaO が 0.2 ~ 1.3% の領域で、水沼窯跡の陶器、エヒバチ長根窯跡の須恵器系陶器が集中し、下川原 I 遺跡の須恵器系陶器が共存する。

$K_2O:1-K_2O$ が 1.4 ~ 2.3%、 CaO が 0.85 ~ 1.8% の領域で、志羅山遺跡のロクロかわらけが集中し、S-42 (花立 I) 42 の陶器、水沼窯跡の陶器が混在する。

(5) ま と め

X線回折試験と蛍光X線分析の結果に基づいて、分類した。第24表タイプ分類表と第25表組成分類表に示す。

1) 下川原 I・II 遺跡、柳之御所跡、無量院跡、志羅山遺跡、花立 I 遺跡、エヒバチ長根窯跡、水沼窯跡、熊狩窯跡、百々間窯跡より出土したかわらけ、須恵器、陶器は A~I の 9 タイプが検出された。第24表タイプ分類表に示すように、最も多いタイプは H タイプの 28 個について B タイプの 9 個、G タイプの 7 個、E タイプの 7 個、I タイプの 3 個、A タイプの 2 個、C と D タイプの各 1 個である。

2) 第 161 図 Qt-Pl 図に示すように、

Qt1-Qt が 330 ~ 1600、Pl が 0 ~ 150 の領域で、下川原 I 遺跡の須恵器系陶器と水沼窯跡の陶器、エヒバチ長根窯跡の須恵系陶器が集中する。

Qt2-Qt が 1950 ~ 3500、Pl が 0 ~ 100 の領域で、百々間窯跡の陶器が集中し、S-16 (下川原) が共存する。

Qt3-Qt が 800 ~ 1300、Pl が 200 ~ 400 の領域で、花立 I 遺跡の陶器が集中する。

Qt4-Qt が 1150 ~ 2200、Pl が 210 ~ 660 の領域で、下川原 I 遺跡の土壁、柳之御所跡の手づくねかわらけ、無量光院跡の手づくねかわらけ、志羅山遺跡のロクロかわらけ、熊狩窯跡の陶器が混在する。

Qt5-Qt が 2200 ~ 2750、Pl が 150 ~ 500 の領域で、下川原 I・II 遺跡の手づくねかわらけとロクロかわらけが集中する。

Qt6-Qt が 1750 ~ 2350、Pl が 850 ~ 1300 の領域で、柳之御所跡の手づくねかわらけが集中する。“その他” —S-40 (花立 I) の陶器で、焼成温度が低いために斜長石がガラスに変化せずに残存したものの、高温になると斜長石の強度が下がり Qt-3 の領域に入るものである。

3) 第 25 表組成分類表に示すように、分析試料の X線回折試験と化学分析の結果に基づいて第 161 図 Qt-Pl 図、第 162 図 $SiO_2-Al_2O_3$ 図、第 163 図 $Fe_2O_3-TiO_2$ 図、第 164 図 K_2O-CaO 図を作成し、各相関により分類したもので組成分類をおこなった。第 4 表に示すように化学分析した結果のうちの「 SiO_2 」と鉍物分析した結果のうちの「Qt」による分類では 61 試料で 12 タイプに分類された。「 SiO_2 」と「Qt」による分類的特徴を以下に示す。

A) 「I タイプ・Qt-1」は「下川原 I 遺跡の土壁」

「II タイプ・Qt-1」は「下川原 I 遺跡の須恵器系陶器とエヒバチ長根窯跡の須恵器系陶器」

「II タイプ・Qt-3」は「花立 I 遺跡の中世陶器の壺・甕・鉢類と中世陶器の碗」

「II タイプ・Qt-4」は「志羅山遺跡のロクロかわらけ、柳之御所跡と無量光院跡の手づくねかわらけ」3 遺跡のかわらけ胎土が同じで関連性が高い。

「II タイプ・Qt-6」は「柳之御所跡の手づくねかわらけと志羅山遺跡のロクロかわらけ」

「III タイプ・Qt-1」は「エヒバチ長根窯跡の須恵器系陶器と下川原 I 遺跡の須恵系陶器」土器胎土は同じ組成を示しエヒバチ長根窯跡と下川原 I 遺跡の関連がみられ

る。

「Ⅲタイプ・Qt-2」は「百々間窯跡の陶器と下川原 I 遺跡の陶器」渥美の百々間窯跡の陶器と下川原 I 遺跡の陶器が同じ組成を示し、関連性がみられる。

「Ⅲタイプ・Qt-4・6」は「柳之御所跡の手づくねかわらけ」

「Ⅳタイプ・Qt-4」は「熊狩窯跡の陶器」

「Ⅳタイプ・Qt-5」は「下川原 I・II 遺跡の手づくねかわらけと、ロクロかわらけ」

「Ⅴタイプ・Qt-1」は「水沼窯跡の陶器」

「Ⅵタイプ・その他のタイプ」は「水沼窯跡の陶器、百々間窯跡の陶器、花立 I の陶器」

これらの3点は個々がどの胎土とも対比されず異質である。

以上の結果から、

1. 下川原 I・II 遺跡の手づくねかわらけとロクロかわらけは胎土が同じである。柳之御所跡、志羅山遺跡、無量光院跡のかわらけとは、組成が異なり関連性はない。
2. 柳之御所跡、志羅山遺跡、無量光院跡のかわらけは胎土の組成が同じで関連性がある。柳之御所跡のかわらけには、もう一種類のかわらけがある。
3. 下川原 I 遺跡の土壁はすべて同じ組成を示し、独自の組成である。
4. 下川原 I 遺跡の S-17・18・20 の3個の須恵器系陶器は、エヒバチ長根窯跡の須恵器系陶器の組成と一致し、関連性が認められる。
5. 下川原 I 遺跡の S-16 は渥美の百々間窯跡の陶器と組成が同じで、関連性が認められる。
6. 花立 I 遺跡、熊狩窯跡、水沼窯跡の各窯跡の陶器類は、窯ごとに統一性があり、窯ごとに胎土の組成が異なる。下川原 I 遺跡の陶器との関連性はない。

参考文献

- 神尾明正 1954 「土器の顕微鏡薄片」古代第 1,2 合併号 早稲田大学考古学会
- 山田忍・近藤祐弘・1957 「土器胎土中の鉱物組成について」古代学 6-3 古代学協会
- 山崎一雄 1958 「篠岡第 5 号窯出土の緑釉陶片の分析」愛知県猿投山西南麓古窯址群 愛知県教育委員会
- 三辻利一 1972 「土器の放射化分析」考古学と自然科学 第 5 号
- 河西 学 1982 「緑山遺跡出土遺物の化学分析」(勸埼玉県埋蔵文化財調査事業団)
- 三辻利一 1983 「古代土器の産地推定法 考古学ライブラリー」ニューサイエンス社
- 清水芳裕 1983 「縄文時代の集団領域について」考古学研究 第 19 巻第 4 号
- 奥田 尚 1983 「砂礫の分析、山賀 (その 2)」近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書、140-142
- 井上 巖 1983 「若宮台遺跡出土土器の胎土分析結果報告」若宮台 (勸埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 28 集、250-259)
- 井上 巖 1993 「日置荘遺跡中世瓦・土器胎土分析」日置荘遺跡 (勸大阪文化財センター 201-216)
- 井上 巖 1997 胎土分析法と分析例 一大阪府下の埴輪窯跡出土埴輪の産地同定一 日本考古学 第 4 号 91-107
- 井上 巖 1999 胎土分析法から見た須恵器生産体制に対する考察、考古学と自然科学 第 37 号 37-69
- 井上 巖 2008 近畿・東海地方古窯跡データ集

第 22 表 胎土性状表

試料 No	タイプ	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物													備考		
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch.Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mull	K-fels	Hal	Kaol	Au	器種名	時期	遺跡名
S-1	G	8	20		68				2553	378	114						手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-2	G	8	20		68				2385	188	159						手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-3	I	14	20				103		2583	476	182						手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-4	G	8	20		104				2483	258	133						手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-5	G	8	20		75				2552	421	146						手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-6	H	14	20						2232	318	162						ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡
S-7	G	8	20		75				2546	281	71						ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡
S-8	F	8	8		75		118		2357	245	63						ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡
S-9	F	8	8		82		100		2714	326	130						ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡
S-10	F	8	8		79		123		2581	421	71						ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡
S-11	H	14	20						1656	232	153						土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-12	B	5	20			127			1551	651	148	40					土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-13	B	5	20			67			1166	398	186						土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-14	H	14	20						1485	406	229						土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-15	B	5	20			69			1389	452	229						土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-16	H	14	20						3470	57	87	92					陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-17	H	14	20						854	103	431	106					須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-18	H	14	20						562	76	619	126					陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-19	H	14	20						1438	58	352	148					須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-20	H	14	20						1017	70	363	163					須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-21	H	14	20						1783	332	123						手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-22	B	5	20			55			1817	219	144						手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-23	E	7	20		105	57			2155	1157	173						手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-24	B	5	20			68			1800	861	186						手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-25	G	8	20		100				2336	945	155						手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-26	A	5	11			56	215		1676	631	111						手づくねかわらけ	12世紀後半	無量光院跡
S-27	I	14	20				167		1473	306	174						手づくねかわらけ	12世紀後半	無量光院跡
S-28	E	7	20		75	56			1881	1294	116						ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-29	D	7	9		76	57		82	1922	239	105						ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-30	B	5	20			54			2151	280	109						ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-31	B	5	20			53			1618	290	119						ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-32	H	14	20						1700	555	156						ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-33	I	14	20				141	77	811	337	320						中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-34	E	7	20		85	74			983	249	230						中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-35	H	14	20						950	222	164						中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-36	A	5	11			75	146		1221	254	187						中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-37	E	7	20		102	78			1171	366	135						中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-38	G	8	20		98				1036	265	160			54			中世陶器碗	12世紀前半	花立I遺跡
S-39	E	7	20		110	66			1118	280	151						中世陶器碗	12世紀前半	花立I遺跡
S-40	E	7	20		112	64			1103	1206	344						中世陶器碗	12世紀前半	花立I遺跡
S-41	E	7	20		62	59			964	264	153						中世陶器碗	12世紀前半	花立I遺跡
S-42	B	5	20			79			1019	255	193						中世陶器碗	12世紀前半	花立I遺跡
S-43	H	14	20						520	96	312	145					須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-44	H	14	20						332	75	191	162					須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-45	H	14	20						650	99	307	125					須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-46	H	14	20						799	69	464	122					須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-47	H	14	20						878	73	307	111					須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-48	H	14	20						1288	68	149	70					須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-49	H	14	20						1567	62	100	113					陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-50	H	14	20						1062	107	99	98					陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-51	B	5	20			55			433	74	289	141					陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-52	H	14	20						1258	137	101	89					陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-53	H	14	20						805	70	119	100					陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-54	H	14	20						1096	74	103	113					陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-55	H	14	20						897	74	180	146					陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-56	H	14	20						1874	407	208	63					陶器壺	13世紀	熊狩窯跡
S-57	C	6	20		56	125			1803	432	96						陶器壺	13世紀	熊狩窯跡
S-58	H	14	20						2293	60	134	150					陶器壺	12世紀後半	百々間窯跡
S-59	H	14	20						1971	72	294	166					陶器壺	12世紀後半	百々間窯跡
S-60	H	14	20						2007	62	585	165					陶器壺	12世紀後半	百々間窯跡
S-61	H	14	20						2937	47	97	85					陶器鉢	12世紀後半	百々間窯跡

Mont: モンモリロナイト Mica: 雲母類 Hb: 角閃石 Ch: 緑泥石 (Ch:Fe 一次反射, Ch:Mg 二次反射) Qt: 石英 Pl: 斜長石 Crist: クリスタバライト
Mullite: ムライト K-fels: カリ長石 Halloy: ハロイサイト Kaol: カオリナイト Pyrite: 黄鉄鉱 Au: 普通輝石 Py: 紫蘇輝石

第23表 化学分析表

試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	器種名	時期	遺跡名
S-1	1.23	0.00	20.11	62.73	2.09	0.36	1.26	0.88	11.16	0.18	100.00	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-2	0.89	0.00	20.38	63.05	2.00	0.40	1.49	0.64	11.08	0.06	99.99	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-3	1.49	0.00	20.58	62.84	1.72	0.52	1.22	1.04	10.59	0.00	100.00	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-4	1.13	0.00	21.64	64.22	1.67	0.30	1.25	0.58	9.23	0.00	100.02	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-5	1.03	0.00	20.34	62.36	1.66	0.34	0.98	1.25	12.04	0.00	100.00	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-6	0.96	0.00	19.59	63.35	1.89	0.49	1.27	0.35	11.40	0.70	100.00	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-7	1.29	0.00	20.03	61.97	2.31	0.67	1.11	0.25	12.20	0.18	100.01	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-8	1.26	0.00	22.52	59.71	2.00	0.67	0.97	0.21	12.60	0.07	100.01	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-9	0.99	0.00	20.68	62.13	1.93	0.55	1.13	0.35	11.97	0.25	99.98	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-10	0.93	0.00	20.52	66.36	1.82	0.53	0.75	0.46	8.17	0.46	100.00	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-11	0.79	0.00	24.26	52.84	1.52	0.66	1.29	1.36	17.17	0.09	99.98	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-12	1.01	0.00	22.60	54.94	1.43	0.95	1.04	0.79	16.86	0.37	99.99	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-13	0.94	0.38	23.29	56.16	1.80	0.93	0.87	0.50	15.13	0.00	100.00	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-14	0.81	0.42	24.53	51.47	1.53	0.87	1.36	0.80	17.98	0.22	99.99	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-15	0.89	0.00	22.19	55.98	1.41	0.79	2.06	1.03	15.57	0.09	100.01	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-16	0.73	0.00	20.04	68.30	3.12	0.31	1.13	0.85	5.51	0.00	99.99	陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-17	1.45	0.00	20.55	67.18	3.10	0.74	1.92	0.00	4.98	0.07	99.99	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-18	1.11	0.00	19.88	67.32	2.78	0.90	1.02	0.29	6.70	0.00	100.00	陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-19	1.17	0.27	22.10	63.80	1.88	0.36	1.15	0.96	8.30	0.00	99.99	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-20	0.61	0.00	20.15	70.05	2.77	0.29	1.53	0.31	4.28	0.00	99.99	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-21	1.27	0.00	23.40	64.36	2.81	0.94	1.08	0.81	4.89	0.44	100.00	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳の御所跡
S-22	0.50	0.77	21.58	67.45	2.34	0.53	0.61	0.18	6.03	0.00	99.99	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳の御所跡
S-23	0.74	0.00	23.24	66.07	1.75	0.68	1.26	0.50	5.76	0.00	100.00	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳の御所跡
S-24	0.98	0.05	20.62	67.18	2.28	0.75	1.08	0.39	6.67	0.00	100.00	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳の御所跡
S-25	1.05	0.00	23.40	65.87	2.49	0.66	1.09	0.41	5.03	0.00	100.00	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳の御所跡
S-26	0.86	0.88	20.06	61.47	2.33	0.72	1.26	0.89	11.49	0.04	100.00	手づくねかわらけ	12世紀後半	無量光院跡
S-27	1.06	0.96	24.49	61.19	2.17	0.68	0.94	0.46	8.04	0.00	99.99	手づくねかわらけ	12世紀後半	無量光院跡
S-28	1.36	0.00	22.74	64.97	1.47	1.24	1.13	1.22	5.64	0.22	99.99	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-29	1.15	0.00	25.68	62.30	1.58	1.00	0.81	0.81	6.67	0.00	100.00	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-30	1.71	0.00	21.73	63.98	1.76	1.66	0.94	0.48	7.56	0.18	100.00	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-31	1.30	0.00	22.46	62.16	2.39	0.62	1.49	0.34	7.91	1.32	99.99	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-32	1.16	0.00	22.79	64.57	1.79	1.38	0.90	0.80	6.61	0.00	100.00	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-33	0.84	0.00	24.96	61.67	1.33	0.58	1.25	0.69	8.69	0.00	100.01	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-34	1.01	0.00	23.34	66.21	1.28	0.49	1.06	0.11	6.19	0.33	100.02	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-35	0.89	0.00	22.46	65.37	1.34	0.60	1.19	0.39	7.61	0.15	100.00	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-36	1.15	0.00	24.74	64.50	1.12	0.66	0.78	0.32	6.72	0.01	100.00	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-37	0.85	0.00	22.40	60.90	1.38	0.76	1.88	1.44	10.23	0.17	100.01	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-38	1.20	0.00	23.47	65.09	1.34	0.55	0.58	0.80	6.97	0.00	100.00	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-39	0.82	0.00	22.79	66.71	1.40	0.71	1.13	0.46	5.81	0.15	99.98	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-40	1.34	0.00	20.53	57.62	1.93	0.65	1.81	0.58	15.23	0.31	100.00	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-41	1.44	0.00	24.06	63.04	1.54	0.65	1.18	0.29	7.79	0.00	99.99	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-42	1.12	0.00	23.08	60.77	1.88	1.52	1.12	1.33	9.18	0.00	100.00	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-43	1.32	0.00	21.12	68.68	2.73	0.33	1.14	0.00	4.57	0.12	100.01	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-44	1.03	0.00	22.58	66.55	3.22	0.33	1.60	0.94	3.74	0.00	99.99	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-45	1.65	0.00	20.78	67.76	3.01	0.37	0.95	0.00	4.94	0.53	99.99	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-46	1.14	0.00	24.17	67.35	2.67	0.20	0.79	0.00	3.46	0.22	100.00	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-47	1.18	0.00	22.77	66.85	2.94	0.43	1.21	0.28	4.07	0.26	99.99	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-48	1.24	0.00	25.06	62.68	3.09	0.41	1.04	0.20	6.27	0.00	99.99	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-49	1.93	0.00	18.82	66.34	3.37	0.49	0.80	0.58	7.17	0.50	100.00	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-50	1.68	0.37	19.35	62.59	2.97	0.87	0.86	0.68	10.25	0.38	100.00	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-51	1.33	0.27	24.63	58.95	2.24	1.53	1.16	0.68	9.21	0.00	100.00	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-52	1.83	0.37	18.06	67.37	2.71	0.93	0.86	0.23	7.62	0.02	100.00	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-53	1.55	0.00	20.12	64.51	3.58	0.43	1.13	0.00	8.19	0.49	100.00	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-54	1.51	0.00	19.21	65.48	3.24	0.34	1.08	0.52	8.33	0.29	100.00	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-55	1.51	0.00	20.30	64.14	3.01	1.23	1.47	0.50	7.83	0.00	99.99	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-56	2.11	0.00	20.89	64.27	2.01	1.74	0.74	0.59	7.04	0.61	100.00	陶器壺	13世紀	熊狩窯跡
S-57	1.06	0.00	20.25	65.34	1.82	0.72	1.46	0.82	8.54	0.00	100.01	陶器壺	13世紀	熊狩窯跡
S-58	0.63	0.00	22.76	67.13	3.09	0.48	1.02	0.22	4.67	0.00	100.00	陶器壺	12世紀後半	百々間窯跡
S-59	0.42	0.00	19.88	70.10	2.94	0.29	0.74	0.64	4.89	0.10	100.00	陶器壺	12世紀後半	百々間窯跡
S-60	0.82	0.00	26.99	60.11	1.70	0.60	0.94	0.63	8.06	0.15	100.00	陶器壺	12世紀後半	百々間窯跡
S-61	0.38	0.00	22.08	68.70	2.29	0.41	0.94	0.00	5.00	0.19	99.99	陶器鉢	12世紀後半	百々間窯跡

第24表 タイプ分類表

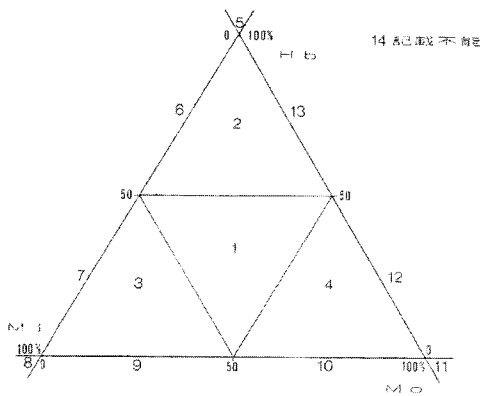
試料 No	タイプ 分類	備 考		
		器種名	時期	遺跡名
S-26	A	手づくねかわらけ	12世紀後半	無量光院跡
S-36	A	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-12	B	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-13	B	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-15	B	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-22	B	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-24	B	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-30	B	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-31	B	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-42	B	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-51	B	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-57	C	陶器甕	13世紀	熊狩窯跡
S-29	D	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-23	E	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-28	E	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-34	E	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-37	E	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-39	E	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-40	E	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-41	E	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-8	F	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-9	F	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-10	F	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-1	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-2	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-4	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-5	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-7	G	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-25	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-38	G	中世陶器壺	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-6	H	ロクロかわらけ	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-11	H	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-14	H	土壁	12世紀	下川原Ⅰ遺跡
S-16	H	陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-17	H	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-18	H	陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-19	H	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-20	H	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原Ⅰ遺跡
S-21	H	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-32	H	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-35	H	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡
S-43	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-44	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-45	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-46	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-47	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-48	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-49	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-50	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-52	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-53	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-54	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-55	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S-56	H	陶器甕	13世紀	熊狩窯跡
S-58	H	陶器甕	12世紀後半	百々間窯跡
S-59	H	陶器甕	12世紀後半	百々間窯跡
S-60	H	陶器甕	12世紀後半	百々間窯跡
S-61	H	陶器鉢	12世紀後半	百々間窯跡
S-3	I	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原Ⅱ遺跡
S-27	I	手づくねかわらけ	12世紀後半	無量光院跡
S-33	I	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立Ⅰ遺跡

第25表 組成分類表

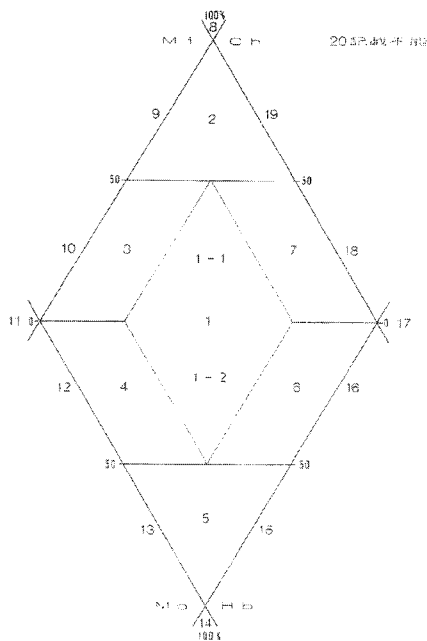
試料 No	タイプ 分類	備 考		
		器種名	時期	遺跡名
Iタイプ・Qt-4				
S-11	H	土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-12	B	土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-13	B	土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-14	H	土壁	12世紀	下川原I遺跡
S-15	B	土壁	12世紀	下川原I遺跡
IIタイプ・Qt-1				
S-19	H	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-48	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
IIタイプ・Qt-3				
S-33	I	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-34	E	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-35	H	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-36	A	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-37	E	中世陶器壺・甕・鉢類	12世紀前半	花立I遺跡
S-38	G	中世陶器壺	12世紀前半	花立I遺跡
S-39	E	中世陶器壺	12世紀前半	花立I遺跡
S-41	E	中世陶器壺	12世紀前半	花立I遺跡
S-42	B	中世陶器壺	12世紀前半	花立I遺跡
IIタイプ・Qt-4				
S-21	H	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-26	A	手づくねかわらけ	12世紀後半	無量光院跡
S-27	I	手づくねかわらけ	12世紀後半	無量光院跡
S-29	D	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-30	B	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-31	B	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
S-32	H	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
IIタイプ・Qt-6				
S-23	E	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-25	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-28	E	ロクロかわらけ	12世紀中～後半	志羅山遺跡
IIIタイプ・Qt-1				
S-17	H	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-18	H	陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-20	H	須恵器系陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-43	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-44	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-45	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-46	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
S-47	H	須恵器系陶器・甕	12世紀	エヒバチ長根窯跡
IIIタイプ・Qt-2				
S-16	H	陶器・甕	12世紀後半	下川原I遺跡
S-58	H	陶器甕	12世紀後半	百々間窯跡
S-59	H	陶器甕	12世紀後半	百々間窯跡
S-61	H	陶器鉢	12世紀後半	百々間窯跡
IIIタイプ・Qt-4・6				
S-22	B	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
S-24	B	手づくねかわらけ	12世紀後半	柳之御所跡
IVタイプ・Qt-4				
S-56	H	陶器甕	13世紀	熊狩窯跡
S-57	C	陶器甕	13世紀	熊狩窯跡
IVタイプ・Qt-5				
S-1	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-2	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-3	I	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-4	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-5	G	手づくねかわらけ	12世紀後半	下川原II遺跡
S-6	H	ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡
S-8*	F	ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡
S-7	G	ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡
S-9	F	ロクロかわらけ	12世紀	下川原I遺跡

4 下川原 I・II 遺跡の土器・陶器胎土分析

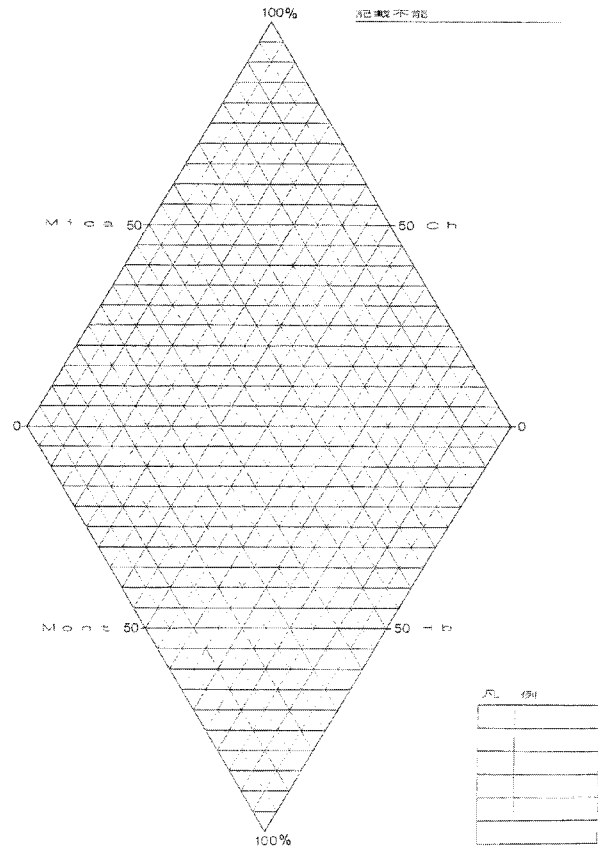
S - 10	F	ロクロかわらけ	12世紀	下川原 I 遺跡
Vタイプ・Qt-1				
S - 49	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S - 50	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S - 52	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S - 53	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S - 54	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S - 55	H	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
VIタイプ・その他のタイプ				
S - 51	B	陶器壺・甕	12世紀	水沼窯跡
S - 60	H	陶器甕	12世紀後半	百々間窯跡
S - 40	E	中世陶器碗	12世紀前半	花立 I 遺跡



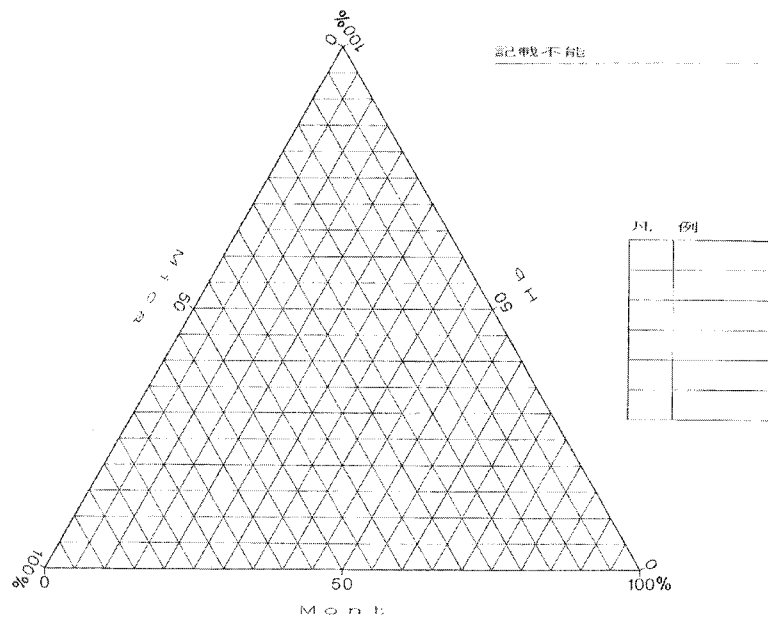
第157図 三角ダイヤグラム位置分類図



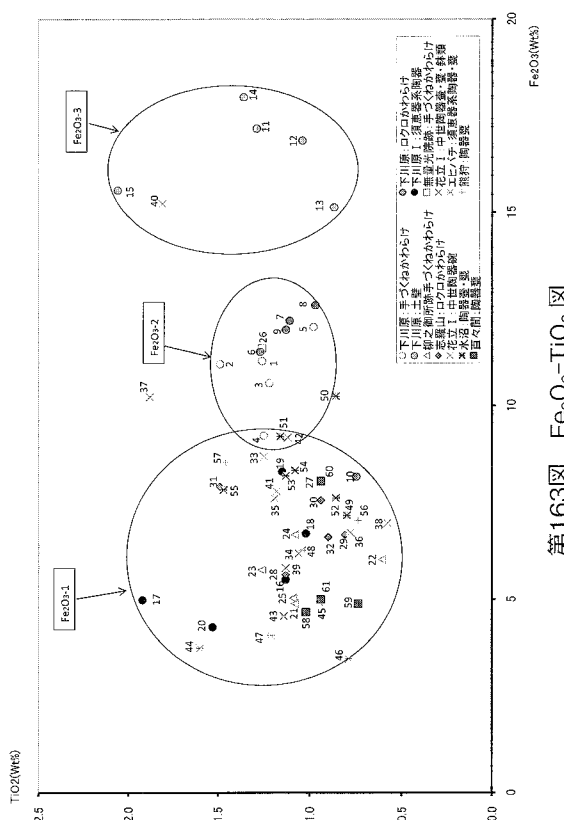
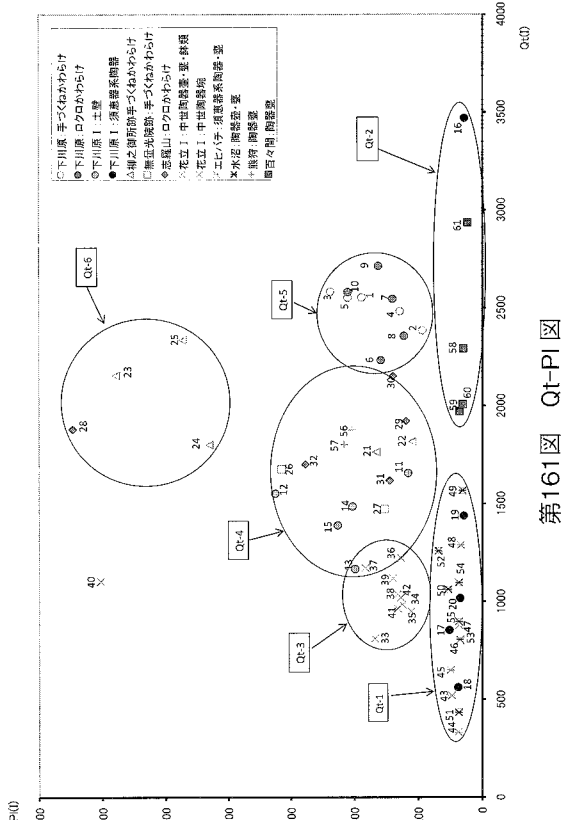
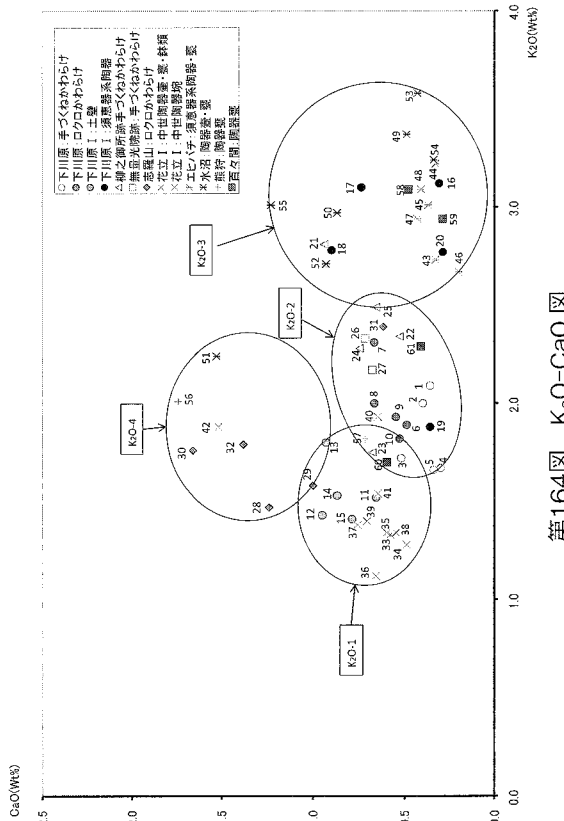
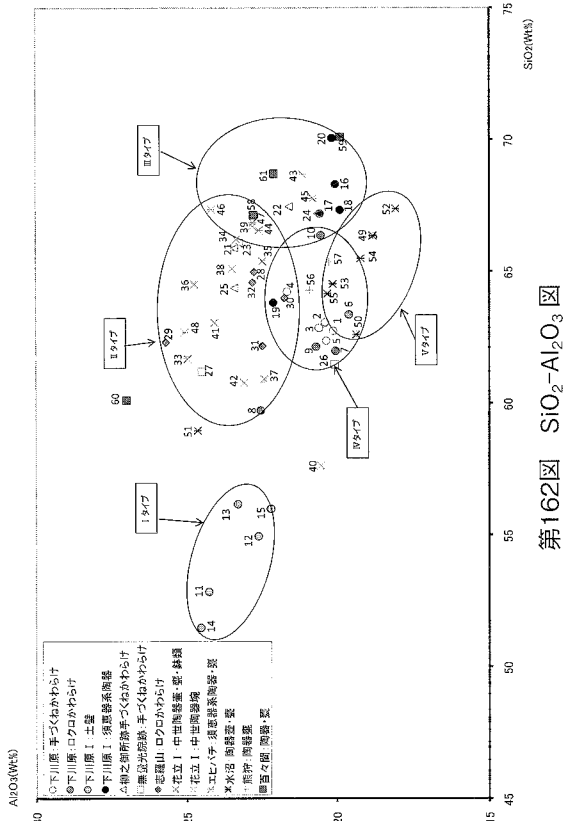
第158図 菱形ダイヤグラム位置分類図



第160図 Mo-Ch, Mi-Hb 菱形ダイヤグラム



第159図 Mo-Mi-Hb 三角ダイヤグラム



5 下川原 I 遺跡第 2 次調査のプラント・オパール分析

株式会社火山灰考古学研究所

(1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 2000)。

(2) 試料

分析試料は、下川原遺跡の SX01 断面から採取された 6 点である。各試料の層位およびその特徴は、送付された資料によれば次の通りである。

試料 1 : 1 層 (しまりの良い暗褐色盛土)。

試料 2 : 3 層 (黒色土が混在した暗褐色土)。

試料 3 : 4 層 (黒色土)。

試料 4 : 1 層 (しまりの良い暗褐色盛土)。

試料 5 : 2 層 (黄褐色土ブロックを多く含む暗褐色の溝の埋土)。

試料 6 : 4 層 (黒色土)。

(3) 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原, 1976) を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥 (絶乾)。
- 2) 試料約 1 g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法 (550°C · 6 時間) による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射 (300W · 42KHz · 10 分間) による分散。
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位: 10 - 5 g) をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる (杉山, 2000)。

(4) 分析結果

同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な7分類群について実施した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第26表に示した。第166図に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

(5) 考察

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネ、ムギ類、ヒエ属型が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

(i) イネ

イネは、1層の盛土層（試料1および試料4）、2層の溝埋土（試料5）、3層の畝部（試料2）から検出された。このうち、盛土層（試料1および試料4）では密度が5,600個/gおよび6,800個/gと高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準とされる5,000個/gを上回っている。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

畝間状遺構の溝埋土（試料5）と畝部（試料2）では、密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、さらに上層や他所からの混入などが考えられる。また、畑稲作（陸稲栽培）の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休閑期間をおく必要があるため、イネの密度は水田跡と比較してかなり低くなり、1,000～2,000個/g程度である場合が多い（杉山, 2000）。

(ii) ムギ類

ムギ類（穎の表皮細胞）は、盛土層（試料1）から検出された。密度は700個/gと低い値であるが、穎（籾殻）が栽培地に残される確率は低いことから、少量が検出された場合でもかなり高く評価する必要がある。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

(iii) ヒエ属型

ヒエ属型は、盛土層（試料1および試料4）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点ではプラント・オパールの形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか, 1988）。また、密度も700～800個/gと低い値であることから、ここでヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野草・雑草である可能性も否定できない。

(iv) その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、キビ族型などその他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

(6) ま と め

下川原 I 遺跡におけるプラント・オパール分析の結果、盛土層ではイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、同層ではムギ類やヒエ属（ヒエ）が栽培されていた可能性も認められた。畝間状遺構の溝埋土と畝部では少量ながらイネが検出され、稲作が行われていたと考えられる。

参考文献

杉山真二・松田隆二・藤原宏志・1988 機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追究のための基礎資料として－. 考古学と自然科学, 20, p.81-92.
 杉山真二 2000 植物珪酸体（プラント・オパール）. 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
 藤原宏志 1976 プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
 藤原宏志・杉山真二・1984 プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

第 26 表 SX 01 断面におけるプラント・オパール分析結果

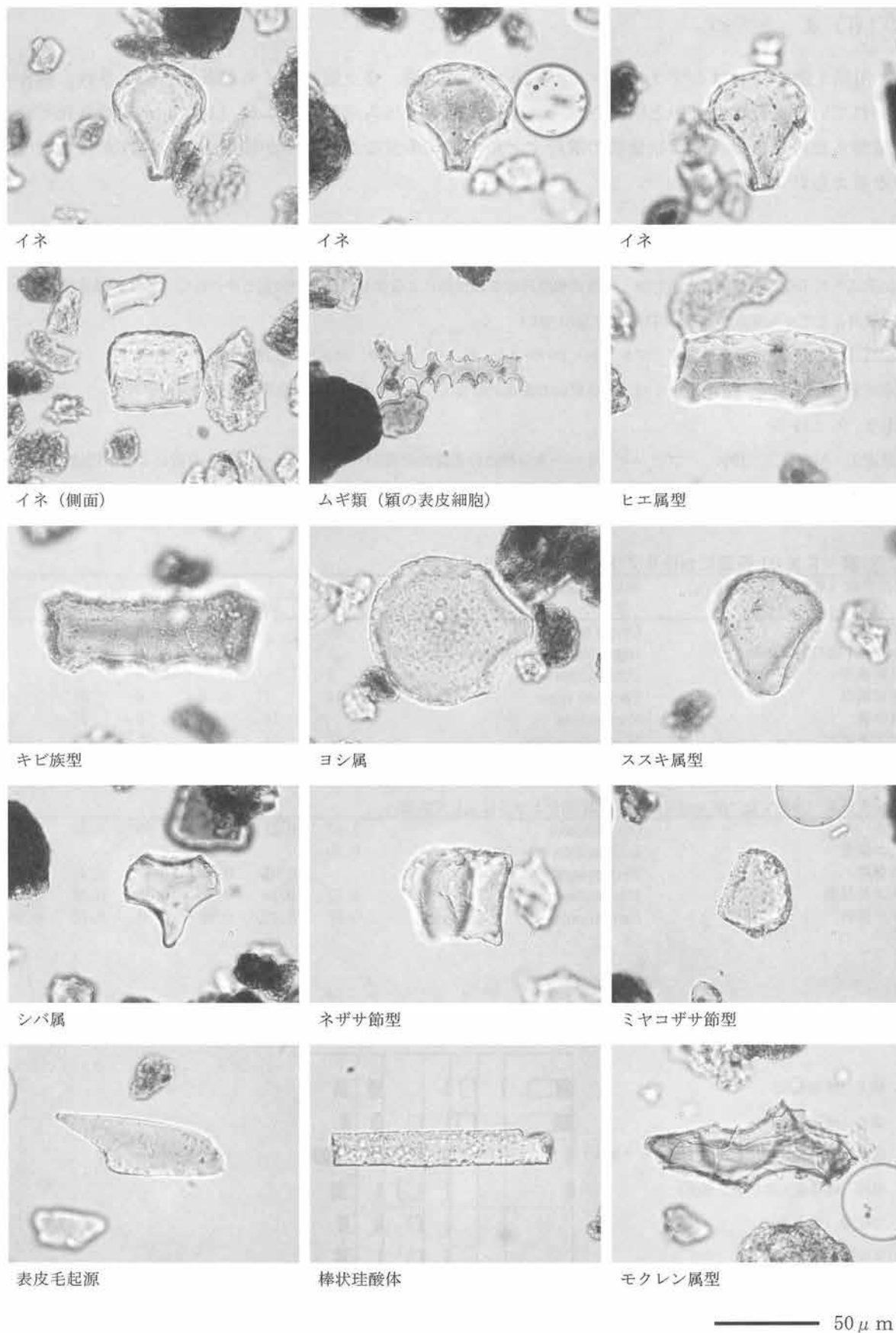
検出密度 (単位: × 100 個 / g) 分類群	地点・試料 学名	SX01 断面					
		1	2	3	4	5	6
イネ	Oryza sativa	56	7		68	7	
ムギ類 (穎の表皮細胞)	Hordeum-Triticum (husk Phytolith)	7					
ヒエ属型	Echinochloa type	7			8		
キビ属型	Panicum type	14	7	8	8	21	15
ヨシ属	Phragmites		14	8	8	21	8
ススキ属型	Miscanthus type	42	14	23	30	34	15
タケ亜科	Bambusoideae	77	87	60	53	157	75

推定生産量 (単位: kg / m² · cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出

イネ	Oryza sativa	1.65	0.21		1.99	0.21	
ヒエ属型	Echinochloa type	0.59			0.63		
ヨシ属	Phragmites		0.91	0.48	0.47	1.30	0.47
ススキ属型	Miscanthus type	0.52	0.18	0.28	0.37	0.42	0.19
タケ亜科	Bambusoideae	0.37	0.42	0.29	0.25	0.76	0.36



第165図 SX 01 断面におけるプラント・オパール分析結果



第166 図 植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真

6 評 価

各節で報告された自然科学的分析・同定によって多くの知見を得た。これらの結果を考古学的見地に立脚し再度評価することは重要であると考えられることから、その評価を行う。

(1) 植物化石同定

2号溝に沿って、内部空間に多数の植物根痕跡と考えられる小ピット群が確認され、それを植物による垣根の痕跡と想定した。結果はシロザ近似種がと微量な炭化材片が検出された。今回の目的である景観復原にはサンプルデータが少なすぎた。より多くの土壌サンプリングを行うべきであった。

(2) 土壌理化学分析

焼骨粉の可能性を追求すべく8号土坑内の白色粒子を含む土壌のリン酸、カルシウムの残留濃度分析を依頼した。結果は、リン酸残留濃度が高く、カルシウム残留濃度が基本層序Ⅱ層と大差なかった。このことから植物質以外の物質に由来するものが土坑内に堆積したとは言えるが、その物質が人骨に由来するものかどうかは判別できないとのことであった。「植物化石同定報告」における「植物化石が残留し難い土壌である」との評価は、この「土壌理化学分析」にも当てはまるものと考えられる。すなわち、土坑内土壌から、リン酸やカルシウムが流出しやすい環境であった可能性も考えられる。白色粒子を含む土壌が植物質以外に由来するとの解釈は、焼骨粉の存在を否定するものではない。

(3) 陶器・土器の胎土分析

下川原Ⅰのロクロかわらけ、陶器類、土壁、下川原Ⅱの手づくねかわらけ、平泉町柳之御所跡の手づくねかわらけ、平泉町無量光院跡の手づくねかわらけ、平泉町志羅山遺跡のロクロかわらけ、平泉町花立Ⅰ遺跡の陶器類、宮城県石巻市水沼窯跡の陶器、宮城県築館町熊狩窯跡の陶器、秋田県二ツ井町エヒバチ長根窯跡の須恵器系陶器、愛知県渥美半島百々間窯跡の陶器の分析結果を得た。

今回の胎土分析結果は、産地を推定する手掛かりとはなるが、産地そのものではない。発注した資料によるグルーピングの提示であり、今後、分析データを蓄積していけば、今回分析していない別窯元の陶器・土器に近い分析値が得られる可能性もある。例えば、分析No.16（下川原Ⅰ出土陶器）は渥美半島百々間窯と近似値との結果を得たが、釉薬、胎土など肉眼レベルで典型的な常滑産と認識できる。これは、胎土の点で、常滑産の一部と渥美百々間窯産が類似することを意味し、分析No.16が渥美産であることを直ちに指示するものではない。

主な成果として、

①下川原Ⅰ・Ⅱのロクロかわらけ手づくねかわらけは、同胎土であること、それらは、平泉町内のかわらけとは明らかに異なると判明した。紫波郡内に独自の中世土器製作に関わる工人組織が存在していたと考えられる。

②平泉町内資料の分析で、手づくねかわらけが2つのタイプに分離できた。このことは、平泉町内の粘土採取地が最低でも2カ所あるか、手づくねかわらけ用の粘土素地が2種類以上あることを示す。

③陶器は、エヒバチ長根窯産、熊狩窯産、水沼窯産、花立Ⅰ産、百々間窯産の各窯元資料について分析し、明確に分離できた。

④下川原遺跡出土資料で、エヒバチ長根窯産に近似値の陶器が下川原から4点（分析No.17・18・

19・20) 出土している。肉眼分類で、分析No.17は東北産須恵器系陶器、No.18は渥美産、No.19はエヒバチ長根産、No.20は常滑産と認識していたが、No.18・20については再検討を要する結果を得た。常滑産・渥美産の分析データを蓄積したうえで、改めて検討する必要がある。

なお、試料によってはエヒバチ長根窯産と近似値が得られたが、現段階ではデータ蓄積が不十分であり、即座にエヒバチ長根窯産とする必要はないだろう。しかし、下川原遺跡は、エヒバチ長根窯産陶器の流通圏内にあり、窯の存在する秋田県北域に比較的近く、この地域との交流も盛んであることは想像に難くない。

(4) プラントオパール分析

6点の試料のうち、イネが試料1と4から多量、試料2(畝)と5(畝間)から少量検出された。ムギが試料1、ヒエが試料1と4から検出された。

試料1と4については、近年の造成時の盛土であり、調査区内が水田であることから、近年のものである可能性があるが、その他の試料については、畝間状遺構内からの検出であり、過去に稲作が行われたことを示唆する結果となった。ただし遺構内からの出土遺物はなく、時期については不明である。(川又)

第Ⅵ章に収録した「分析委託報告書」は、本書の体裁基準に従って一部体裁等を変更させていただいた。ただし、分析内容に関わるような加筆や修正は行っていない。また、分析委託発注時の遺構名は、整理作業を得て変更したため、本書報告の名称に振り替えてある。

Ⅶ 総 括

1 平成 19 年度調査成果

(1) 概 要

遺跡範囲を通る排水路・用水路・農道予定区域 4,437㎡について調査を行った。全体での検出遺構は、竪穴住居跡 2 棟、掘立柱建物跡 4 棟、中世墓壇 1 基、柱穴列 2 列、陥し穴 3 基、土坑 12 基、柱穴状土坑 151 個、溝跡 6 条（うち 2 条は同一遺構）、遺物包含層約 500㎡で、12 世紀を主体とする。

出土遺物は、土師器・須恵器小コンテナ 2 箱、国産陶器小コンテナ 0.5 箱、中世土器小コンテナ 1.5 箱、白磁 3 点、青磁 2 点、金属製品 9 点、縄文土器 9 号 1 袋、礫石器小コンテナ 1 箱である。

(2) 遺 構

下川原Ⅰ遺跡 19 年度調査区で確認された遺構は 3 時期に大別される。縄文時代中期以降の狩猟関連遺構（1～3 号陥し穴）と、10 世紀代の集落跡関連遺構（1・2 号竪穴住居跡、12 号土坑）と、12 世紀代の中世墓関連遺構（1・2 号堂跡、1 号中世墓壇、1～8 土坑、2 号溝跡等）である。また、「場としての遺構」は G 区に廃棄場と認定可能な遺物密集範囲が確認された。ここでは 12 世紀の遺物が主体を占める。

(i) 竪穴住居跡

2 棟検出した。9～10 世紀代の集落は下川原Ⅱ遺跡においても確認されており、今回の調査で北上川と滝名川に挟まれた高位の低地面のほぼ全域に古代集落が広がっていることが判明した。

1 号竪穴住居跡は残存状況が悪く、検出面がほぼ住居床面付近であった。内部施設として東カマド、土坑 2 基を有し、支柱穴 3 個が確認された。床面積は 8.11㎡と小規模である。貼床の明確な痕跡はない。2 号竪穴住居跡も耕作による削平を被り残存状況が悪く、検出面がほぼ床面で、床面積が 11.13㎡と小規模である。1 号竪穴住居跡は平安時代に一般的な東カマドを持つ浅い掘りこみの住居施設で、2 号竪穴住居跡は北東隅のカマドと土坑 1 基をもつ住居施設である。壁溝はなく、内部施設は少ない。しかし、2 号竪穴住居跡は 12 号土坑と隣接し、遺物の接合関係を有する。12 号土坑は 2 号竪穴住居跡に付属する施設である可能性が高い。2 棟とも床面に硬化面が形成されていたが、貼床痕跡は確認できなかった。

2 号竪穴住居跡カマド付近出土甕片と 1 号竪穴住居跡土坑 1 出土甕片が接合することから、1・2 号竪穴住居跡はほぼ同時期の所産で、年代は 10 世紀前半と考えられる。出土遺物の特徴は、坏では時代が下るにつれ、皿状の浅い器形が増加していくこと、甕では口縁部の屈曲が緩く、もしくは不明瞭な資料が増加していくことが挙げられる。下川原Ⅱ遺跡 1993 年度調査区では平安時代の住居跡が 21 棟確認されているが、これら 21 棟の住居出土資料と比較してみると、下川原Ⅱ遺跡 1993 年度調査区の 1・2・6・7・8・15 号住などが近い時期と考えられる。

(ii) 中世墓関連遺構

A 施設概要

①中世墓壙と葬送儀礼関連土坑

1号中世墓壙と1～8号土坑が該当する。1号中世墓壙は墓壙底面から出土した刀子2点の並列出土状態から埋葬の意識が読み取れたため、墓と認定した。一方、1～8号土坑については埋葬意識が読み取れないため、墓に準ずる遺構として登録したものである。1～8号土坑には以下3つの特徴がある。

1) 焼土、炭化物、白色粒子、かわらけ片が堆積土内にモザイク状に見られる。人為的堆積層である。

2) 遺物が遺構底面からではなく、堆積土中から不規則に出土する。すなわち副葬品として認識し難い。

3) 堆積土を掘り返した痕跡が見られない。すなわち追葬もしくは墓荒らしの痕跡が確認できない。土坑については墓の可能性もないわけではないが、これらの特徴から、茶毘所で葬送儀礼後に残った骨片や供物の残渣を一括廃棄した穴と認識した。今回確認できたのは、焼土や炭化物の存在から、火葬儀礼に関連する施設と言える。

②堂関連遺構

1・2号掘立柱建物跡を12世紀第3四半期に営まれた堂と認識した。4隅が太い柱穴で構成されている。平面形はほぼ正方形である。なお、本報文では掘立柱建物跡と付属施設を含めて、広義の堂跡として取り扱っている。

1号堂跡は外側が柵と考えられる1号柱穴列で囲まれ、1号柱穴列の配置から、入口が東側にある可能性が高い。1号堂跡の内部空間に中世墓壙1基（かわらけ小皿、刀子、炭、焼土、白色粒子出土）と葬送儀礼関連土坑5基（白磁壺類、かわらけ小皿、炭、焼土、白色粒子出土）がある。なお、1・2号土坑は柵内、3～5号土坑は堂内にある。

2号堂跡は内部空間に6号土坑が存在する。その周辺には7・8号土坑がある。6・7号土坑は1～5号と比べて大形である。6号土坑からは白磁碗、かわらけ、炭、焼土、白色粒子が出土している。野外調査段階では、現代で言えば無縁仏を入れる納骨所のような機能を有する施設か、あるいは集団墓ではないかと想定した。すなわち、2号堂跡が納骨施設ではないかと考えていた。明確な人骨片が回収できず根拠に欠けたため、6号土坑は、1～5号土坑同様に葬送儀礼関連の廃棄穴と解釈した。なお、7・8号土坑は2号堂跡の脇に存在する。葬送儀礼後の人骨・供物を堂空間周辺に廃棄するために構築されたと考えられる。

今回の調査で、1号堂跡周辺と2号堂跡周辺という2カ所の葬送儀礼空間が認識できた。

さて、6号土坑からは供物のほかに粘土塊も出土した。粘土塊は1・2号堂跡内部空間と3号掘立柱建物跡を構成するP124からも出土している。壁材と考えられる。一部の粘土塊には化粧土と考えられる白土が付着している。このような粘土塊は平泉町柳之御所跡で大量に出土しているほか、下川原I遺跡20年度調査区P228でも確認されている。P228は調査区の狭さから判断できなかったが、12世紀の大型建物跡の構成要素である可能性が考えられる。柳之御所跡出土資料の一部にも白土が付着しており、御所内に化粧土を塗布した壁に囲まれた建物群の存在が想定される。これら粘土塊の出土をもって、土壁を有する建物跡の証拠と考えたい。したがって、1・2号堂跡は、神社境内などにある土俵の上に屋根をかけただけの壁のない施設ではなく、化粧土が塗布された壁によって囲まれた施設であり、墓堂であったと考えられる。

③ 2号溝跡

八坂神社に至る道路脇の調査で東西に延びる推定約 100 m の溝跡を、部分的に確認した。底面から遺物が出土しなかったが、12 世紀代のかかわりが堆積土から出土した。中でも 75～79 のかわらけは重なった状態で出土し、一括廃棄の痕跡といえる。従って、12 世紀代に 2 号溝跡は埋まりきっておらず、少なくとも溝としての機能を有し、かわらけ等を廃棄可能な空間と認識されていたと言える。この溝は南北方向にも類似の規模と底面標高で延びている。2 号溝跡で区切られた空間は、その内部に墓堂や葬送儀礼関連土坑をもつ墓域であり、2 号溝は墓域の区画溝と考えられる。

B 墓堂の検討

① 墓堂について

一般化している名称は「墳墓堂」であるが、発掘調査においては、後世の削平により墳墓と認識できない場合が大半であるため、本書ではより広義の「墓堂」として報告してきた。文献史学で扱っている墳墓堂は「堂内部に遺体や蔵骨器を安置するもの」（日野 1979）である。一方、考古学的に検証される「墳墓堂」は、「埋葬された墓壙などの痕跡を内部にもつ堂」（関口 2007）という定義で、文献史学に比べてやや意味合いが異なる。

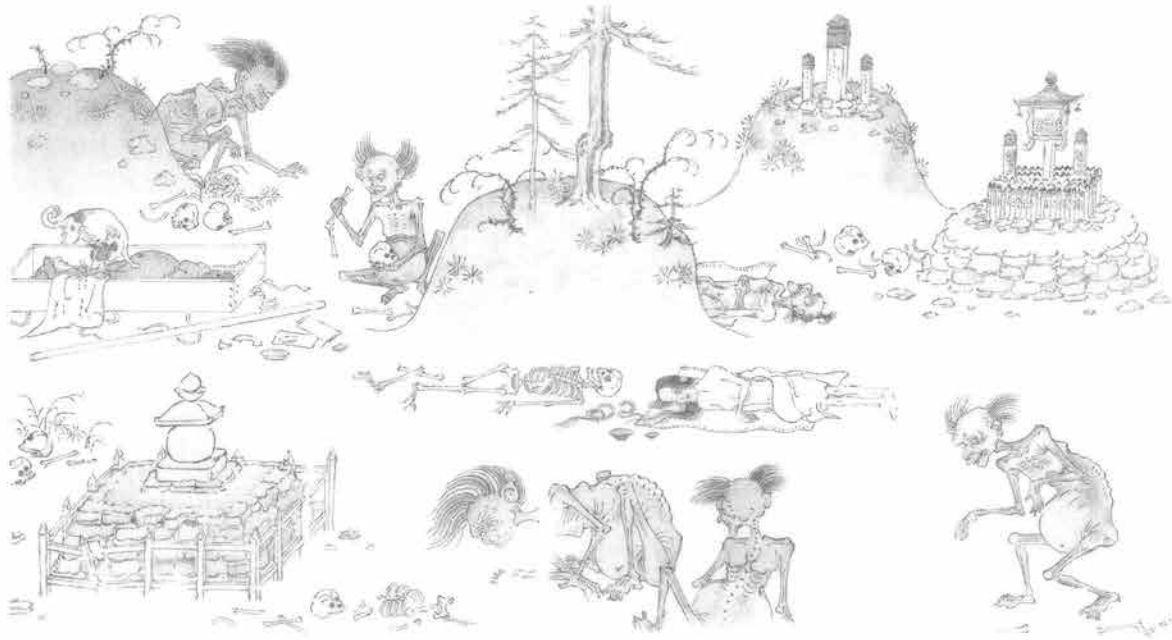
墓堂内への埋納は、平安時代の浄土思想の広まりとともに、貴族や上級武士など社会的地位が上位の階層で行われた葬送儀礼の一つである。墓堂にも法華堂、阿弥陀堂など諸形式あるが、12 世紀代の墓堂として全国的に有名なものは、平泉町中尊寺金色堂である。中尊寺金色堂は本尊を阿弥陀如来とする阿弥陀堂で、須弥壇や組物、螺鈿細工や蒔絵を施した柱などが特徴的である。須弥壇下に平泉藤原氏の遺体が安置され、それぞれミイラ化している。また、阿弥陀堂には池が付随するなどの特徴があり、宮城県仙台市王ノ壇遺跡において阿弥陀堂と想定される遺構配置が確認されている。なお、下川原 I では、調査区幅の関係上、明瞭な付属施設を確認できなかったため、堂の諸類については不明である。

第 167 図に、中世前期の埋葬儀礼考察にたびたび引用される『餓鬼草紙』に描かれる川原の墓場のあり方を示した。第 167 図の左下に石を積み上げた塚を柵で囲み、五輪塔を据えている墳墓が描かれている。他の墳墓に比べ、やや高貴な人の墳墓と想定されている（小松編 1987）。同じ墓所内においても、他の墓と区別する意識が働いていることが読み取れる。このことは、身分差や貧富差を越えて、河原が墓所設置の共有空間であることを示す一方で、個々の葬送については、ある程度の身分差や貧富差が反映するものであることを表している。下川原 I 遺跡においては、1 号堂跡は、墓域内で他の施設と区別する意識が柵の存在によって明確である。

第 168 図に元亨 3 年（1323 年）の裏書きがある『称名寺結界図』にみられる骨堂の描写を示した。柱配置は 3 × 3 間の正方形であろうか。奥に卒塔婆、右側に五輪塔が描かれている。中世前期の骨堂の一形態を示していると考えられる。第 167・168 図を参考として、1 号堂跡の復原を試みた。外観は第 169 図のような施設ではないかと想定している。屋根は第 168 図を、壁は『餓鬼草紙』に見られる土壁の建物跡を参考とし、堂内部に埋葬している様子を描いた。

② 下川原 I 遺跡の墓堂の造営

下川原 I 遺跡の 1 号堂跡は南北の軸線がほぼ真北を向いているが、1 号中世墓壙の長軸は北東を向いている。また、1 号掘立柱建物跡範囲外に 1・2 号土坑が存在している。これらの関連施設が同一時期に帰属するのか検討を要する。1・2 号土坑は、



第167図 餓鬼草紙にみる墳墓形態 ※小松茂美編『日本の絵巻7』所収を模写



第168図 中世の骨堂
※(田代 1993)掲載の「称名寺結界図」を模写



第169図 下川原 I 遺跡の墓堂想定図

a: 堂の設置後に堂外の狭い範囲に土坑を構築した。

b: 堂設置前に土坑が構築されていた。

の2者の解釈が可能である。aの場合、柵の機能が、塚墓構築時の土盛り作業によって結果的に形成される周溝の解釈と同様に、生者と死者の空間を区分する結界的意味合いを有し、葬送儀礼の残渣を死者の空間に置くことが目的と考えられる。ただし、本事例では、堂内に類似の性格の土坑が存在するにも関わらず、あえて堂外に残渣を捨てたのはなぜか、すでに柵や堂が失われた後に構築された土坑であったのか、あるいは堂外と堂内の区分が若干の身分差を反映するものなのか判断しがたい。bの場合、土坑群に切り合い関係がないことや、土坑の設置場所を考慮すると、aに比べて自然である。

2号堂跡については、2号掘立柱建物跡範囲から6号土坑がはみ出すことと、P12が6号土坑範囲

内に位置することから、6号土坑構築後に2号掘立柱建物跡を設置したと考えられる。

下川原Ⅰでは荼毘所（葬所）と墓所が一致しないが、このような例は当時の葬送儀礼に乗っ取った行動を反映しているものと考えられる。一例として、時代はやや下るが、元仁元年（1224年）に執権北条義時の死後、6日目に葬送が行われ、墳墓の地を決定し、49日を経た後に墳墓堂での葬送が行われている（水藤1991）。つまり、死去後に、まず葬送（火葬や土葬）を行い、その後、墓堂を造営し、納骨するのが葬送儀礼のひとつとして確立していたことを示している。もし仮に北条義時例に沿うような形で、下川原Ⅰ遺跡1号中世墓壇が構築されたとすれば、最初に遺骸が火葬され、その残渣が1号堂跡設置予定空間に廃棄された（1～5号土坑のいずれかが形成）。その場を墓堂設置空間と定め、その後、1号堂が建立構築され、柵を廻らし、49日を経て、1号中世墓壇に鉄製品を含めて納骨されたとの解釈が可能である。なお、第169図はその時の様子を想定したものである。

③中世墓壇類例

中世墓壇は形態分類のほかに、墓壇内器物を主軸として、いくつかのタイプに分けられる。ここでは便宜的に下記の5タイプに設けた。

- I：人骨と輸入陶磁器を完形のまま埋納するタイプ。
- II：人骨と輸入陶磁器の破片を埋納するタイプ。
- III：人骨と国産陶器を埋納するタイプ。輸入陶磁器をとまわらない。
- IV：人骨と黒色土器、かわらけなどの素焼きの土器を埋納するタイプ。輸入陶磁器や国産陶器を伴わない。
- V：人骨のみ出土し、器物を埋納しないタイプ。

副葬品は多種多様であるが、鉄製品、特に太刀や鎌などの武具の存在によっても被葬者の身分をある程度推定できる場合がある。各時代や各地域における社会背景によって、各類型から想定される社会階層は流動する。輸入陶磁器は輸送コストの関係上、奥州のほうが西日本よりも相対的に高価と予想される。したがって、法的規制ばかりでなく、経済的な制約で、西日本に比べて上位の階級や富裕層にのみ利用され続けた可能性はあるだろう。なお、上記の類型の中で、下川原Ⅰの1号中世墓壇や1～8号土坑はII・IV類に該当する。

周辺地域での下川原Ⅰ中世墓壇と類似例として、花巻市高木中館遺跡SK02がある。長方形プランで、焼骨片、白磁壺類（太宰府C期）、刀子、鉄鎌、炭化種子（オオムギ、イネ）などが出土している。12世紀前半の構築で、II類に該当する。掘立柱建物などの付属施設は伴わない。焼骨片の一部が組織形態学的分析によって、オステオンの形状と葉状骨の存在からヒトではなく、ニホンジカ、イノシシ、ブタ、カモシカなどの中型偶蹄類と特定された（澤田・奈良2007）。副葬品や葬祭における供物のあり方を考える上で多くの情報が得られた事例といえる。分析可能であった焼骨片がわずかであったため、ヒトの骨が特定されなかったことがSK02を直ちに墓ではないと断言することにならない。中型偶蹄類を埋葬するのに、白磁片、鉄鎌などを副葬したとは考え難い。むしろ、中型偶蹄類は供物であろう。

報告書によれば、SK02の焼土層は遺構底面ではなく、堆積土中央に形成されている。また、壁面の赤化は確認されていない。このことから、SK02が荼毘所（葬所）ではなく、下川原Ⅰと同様に荼毘所での祭事で使われた器や被葬者の所持品を火葬骨とともに埋納した火葬骨埋納施設と考えられる。

④ 12 世紀墓堂施設の発掘調査事例

平泉町本町Ⅱ遺跡（第 170 図 1）

12～13 世紀を主体とする 45 基の墓壇が確認され、墓堂と考えられる施設も存在する。墓壇には、火葬と土葬があり、火葬については葬所と墓所が一致しない事例が多いが、茶毘墓のような葬所と墓所が一致する事例もわずかながら確認されている。建物群は近世の施設と重複しているが、12 世紀の墓堂もある。11 号建物跡がそれで、4 本の支柱で構成され、建物跡内部に 1 号墓壇が存在する。柱間寸法は約 12 尺で、規模は下川原Ⅰの 1・2 号堂跡を構成する 1・2 号堀立柱建物跡に近い。焼骨片、国産陶器、手づくねかわらけ、土師器甕片、鉄釘、焼土粒、炭化物が出土している。鉄釘は棺材の留め具と考えられる。焼骨を棺桶に入れて墓壇内に安置したと考えられる。1 号墓壇周辺に小土坑が巡り、卒塔婆の痕跡と推定されている。なお、1 号墓壇はⅢ類に該当する。11 号建物跡は卒塔婆の分布の見られない東側が入口部と想定されている。12 世紀第 4 四半期の構築である。

各墓壇からは骨片、輸入磁器、国産陶器、中世土器、土師器、須恵器、鉄製品などが出土している。また、11 世紀の炭素年代が得られた 20 号墓壇からはモモ、オオムギが検出されており、供物と考えられている。

報告書によれば「支配者層である藤原氏に次ぐ階層にあるものが造営し」、「かなり高位の社会階層が主体となって埋葬」されていると想定している。その根拠として、青磁・白磁・国産陶器など当時の上流階級が好んで使用した器が多数墓壇から出土している点を強調する。

本町Ⅱの事例と下川原Ⅰの 1・2 号堂跡は規模の点で極端な差はない。本町Ⅱでは卒塔婆痕の配置から、下川原Ⅰは柵の柱穴配置から、それぞれ入口が東側の可能性が高い。

青森県十三湊遺跡第 9 次調査（第 170 図 5）

十三湊遺跡で 12 世紀～14 世紀の 1 間四方の掘立柱建物跡と周溝からなる「墓堂」が報告されている。ただし、遺構の残存状況は良くなく、根拠に欠けるとの意見もある（中世墓資料集成研究会 2004）。1 間 4 面の堂と、それを囲むと想定される溝と遺構の周辺に骨片の集積が数か所確認されている。

山形県鶴岡市勝楽寺遺跡（第 170 図 4）

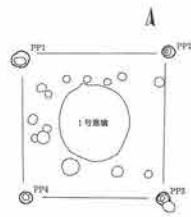
13 世紀ではあるが、山形県勝楽寺遺跡で六角形の墓堂が確認されている。堂内の墓壇底部に骨片様の遺物が確認されている。下川原Ⅰの 2 号堂跡に類似する骨堂としての機能があるものと考えられる。

山形県遊佐町大楯遺跡第 3・4 次調査（第 170 図 6）

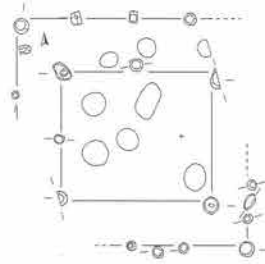
12～13 世紀の墓堂が確認されている。在地有力者の屋敷に伴う私的な墓堂で、SB 401 が阿弥陀堂タイプの「墳墓堂」と解釈されている（中世墓集成研究会 2004）。東側の張り出し部は入口か。

宮城県仙台市王ノ壇遺跡（第 170 図 7）

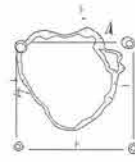
池跡を伴う阿弥陀堂タイプの墓堂が 13 世紀後半以降に建てられている。北条得宗被官の屋敷地内の浄土庭園内に設けられたと推定されている（中世墓集成研究会 2004）。SB101 が墓堂で、SA103・104・112 の柵に囲まれている。SB101 周辺や SD110 に散骨されている。柵と池の配置から、入口は東側と推測される。



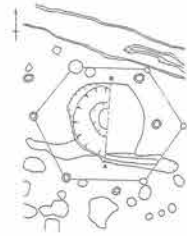
1. 岩手県平泉町本町Ⅱ遺跡 (12c)



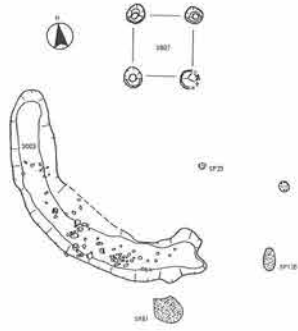
2. 岩手県紫波町下川原Ⅰ遺跡
1号堂跡 (12c)



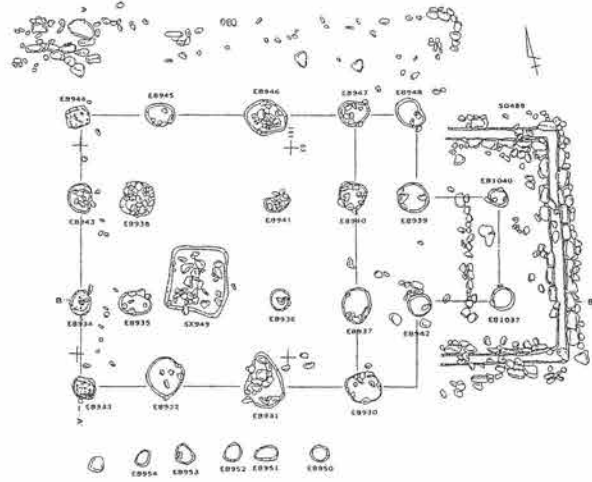
3. 岩手県紫波町下川原Ⅰ遺跡
2号堂跡 (12c)



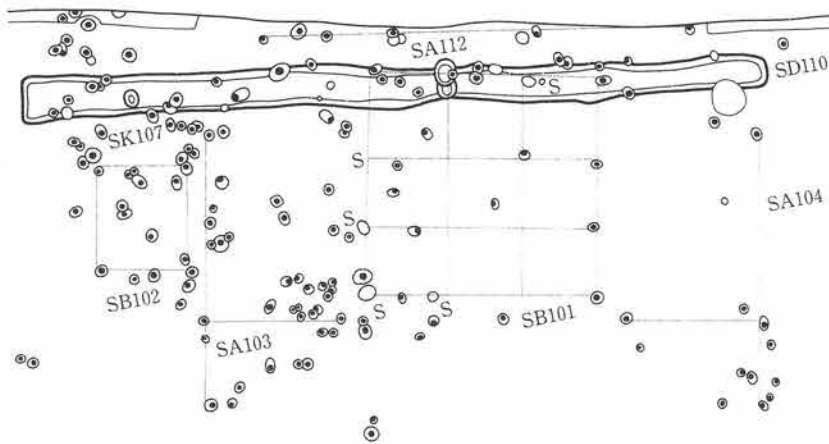
4. 山形県鶴岡市
勝楽寺遺跡 (13c)



5. 青森県五所川原市十三湊遺跡 (12~14c)



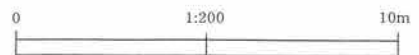
6. 山形県遊佐町大樋遺跡 (12~13c)



7. 宮城県仙台市王ノ壇遺跡 (13~14c)



8. 王ノ壇遺跡の浄土庭園



東北地方の墓堂と考えられる施設を見てきた。これらと比較すると、下川原 I 例は規模の点においては標準的なサイズであり、どちらかと言えば簡素なタイプであろうと思われる。また、墓堂の入口は東側に設置されるのが一般的であったと言える。

C 被葬者の検討

墓は本来、被葬者にとって重要なだけでなく、残された被葬者の関係者にとって必要なものであって、被葬者のいる位置を明確にし、祭事を継続的に行うことで、被葬者の関係者であること、さらには、被葬者の生前の権利・財産を継承するものであることを知らしめるための装置と考えられている。そのため、視覚に訴える墓堂形式での葬祭は、それを継続的に行うことが可能な階層、すなわち、富裕な階層に選択されることは必然である。当時の葬送には、火葬、土葬、水葬、風葬などがあり、このうち最も労力のかかる葬送儀礼は火葬で、富裕層でない執り行う余力はない。茶毘墓や火葬骨埋納墓には高価な器（輸入陶磁器・国産陶器類）や鉄器が副葬される事例が多いことから、火葬は、支配者、在地有力者など富裕層が行う葬送であると言える。一方、土葬は、それ自体では貧富差を反映しないが、副葬品によって、階層差を識別できる可能性がある。また、水葬、風葬などは、当時の庶民の一般的な葬送である。

下川原 I 遺跡の 1・2 号堂跡範囲内の出土遺物で目を引くのは白磁壺片、刀子、かわらけ小皿片である。これらは富裕層でないと入手・維持・管理が難しい。また、火葬という当時最も労力と費用のかかる葬送が行われていること、墓堂で葬祭の行える環境を維持・管理していることから、被葬者は富裕層であろう。被葬者の候補として、在地の有力者（例えば農業経営者たる上級農民・武士）や、在地化した商工人などが挙げられる。G 区廃棄場からは鍛冶工人の存在を示す羽口片、木材加工を行う工人の存在を示す手斧、商行為を媒介として非在地系の器物をもたらした商人の存在を示す国産陶器や輸入磁器の破片が出土している。また、本遺跡の位置は比爪館を居館とし、紫波郡を治めていた樋爪氏との関係性が強く意識される場所であり、物流の動脈である北上川と、五郎沼から流れる山吹川との合流点付近に位置する。この地を管理する人物は、紫波郡の物流の拠点のひとつを掌握していることになり、おそらくは樋爪氏から、紫波郡の交易・物流の管理を任されていた有力者で、商工人とも積極的な取引、あるいは彼らを従えていた人物と想定される。その有力者が下川原の地に屋敷を構え、次世代にまで墓と認識し続けられる施設を必要とした。そしてその有力者の一族が 1・2 号堂跡の設置・維持・管理に関与していたと考えたい。

(iii) 廃棄場

G 区の低湿地帯で中世土器、国産陶器、輸入磁器、鉄製品、羽口などが出土した。

周辺に墓域があることから、廃棄場出土の器物が、葬送儀礼に利用された残滓である可能性も否定できない。調査成果としては、職能民（網野 1978）の存在を示す資料が確認されたことである。

①羽口破損品の存在

鍛冶工房跡が周辺にあることを想定できる。すなわち、鍛冶工人の存在が想定され、本遺跡出土鉄製品の製作を担っていた可能性もあろう。

②刀子、釘、手斧破損品の存在

破損した刀子、折れ曲がった釘、手斧破損品の存在は、その使用が付近で行われた可能性を指摘で

きる。出土した手斧はそのサイズから、現在でも伝統工芸の木製椀製作工程で使用されているものに近い。工具としては一般的なものであり、木材加工に携わる工人の存在が想定される。

③中世土器・国産陶器・輸入磁器破損品の存在

少なくとも商品搬入者として商人の存在が想定される。一方、廃棄行為としては、

- (a) 日常生活で出たゴミとして捨てた。
- (b) 葬送儀礼で使用した器をゴミとして捨てた。
- (c) 商人が比爪館等に納入、あるいは売買のために輸送してきた器物のうち、売り物にならない破損品を捨てた。

を想定できる。(a) であるとすれば、下川原 I 遺跡周辺に 12 世紀代の器物を使用する有力者の館があると想定されるとともに、儀礼用と考えられてきたかわらけが日用品としても利用されていると解釈される。(b) であるとすれば、墓域内での葬送儀礼後に、廃棄場を使用した器物を持ってきて捨てた。あるいは湿地帯でも葬送儀礼を行っていたと想定される。この場合は、かわらけは従来どおり儀礼用と解釈される。(c) であるとすれば、各器物の接合率は高い傾向になるはずであるが、廃棄場出土資料の接合率は低く、個々の遺物は別個体が大半を占める。現状でもっとも妥当なのは、(b) の解釈であろう。(b) が成り立つならば、廃棄場とその周辺の湿地帯で水葬が行われた可能性も考えられる。

以上のように、廃棄場出土遺物から、商工人の活動の場として賑わったであろう下川原 I 遺跡の様相が想定される。

(iv) 小 結

下川原 I・II 遺跡は平泉藤原氏の分家である、樋爪氏の支配領域内にあり、12 世紀の遺構・遺物が多数出土した。以下、12 世紀の下川原 I 遺跡についてまとめる。

- ・北端部に 12 世紀代の墓域が確認された。そのなかで、墓堂を 2 棟確認した。堂内部の被葬者は富裕層で、在地の有力者であろう。
- ・墓域は約 100 m の長さの区画溝で囲まれていたと考えられる。
- ・本遺跡には鍛冶工人、木材加工を行う工人、商人など職能民の存在を示す資料が確認された。
- ・課題として文献に見られる樋爪氏との関係について検討を要する。本遺跡が 13 世紀にまで継続して利用されていた証拠は今のところない。下川原 I 遺跡の存立時期は、その出土遺物から文治 5 年 (1189 年) 源頼朝に高齢であることを理由に、所領安堵された比爪入道俊衡が活躍した時期と重なる。13 世紀には俊衡の勢力が失われた、あるいは没したために本遺跡での活動が衰退するのだろうか。すなわち、新しい支配者層が比爪館付近以外に居館を構えたため、それに伴い職能民たちの活動地も移転したと想定すべきか、それとも 13 世紀代の遺構・遺物を未だ発見するに至っていないだけなのか今後の発掘調査によって新知見が得られることが期待される。

(3) 遺 物

(i) 中世土器

①かわらけ

儀礼用具として、大型と小型の二種類に分けられるのが一般的であるが、本書では、器種名に、小皿、碗などを記載した。碗形には、12 世紀前半代の特徴である、底部が厚く胴下半で段をもつもの

が数点出土した。2号堂跡、2号溝跡で出土している。

胎土分析によって、手づくねとロクロかわらけは同じ粘土で製作していることが確認された。また、平泉町出土かわらけとも異なることが明らかとなった。本遺跡とその周辺には平窯跡と考えられるマウンド状の施設があり、現状保存されているとのお話を、地元住民から窺っている。これについては紫波町教育委員会に通報済みとのことであった。構築年代は定かではないが、窯の存在そのものが、粘土採掘と土器焼成に適した環境であったことを裏付けるものである。本遺跡の発掘調査においては、土器焼成遺構、窯跡、ロクロピットを伴う建物などの土器製作関連遺構を確認していないが、本遺跡は紫波郡内に流通した中世土器製作候補地のひとつに上げられるだろう。

②鉢類

口縁部が内湾するタイプが出土した。仏鉢のような儀礼用具であれば、かわらけと認識してよいだろう。

(ii) 国産陶器

愛知県渥美産と常滑産が多い。大半が12世紀第3四半期の製作年代が与えられている。出土した陶器はほぼ甕類であるが、片口も1点出土した。一方、数こそ少ないものの、須恵器系陶器が出土し、そのなかには、肉眼・理化学の別手法でエヒバチ長根窯産と識別できた個体もある。エヒバチ長根窯跡の操業は珠洲陶器編年のI期にあたる12世紀後半である。流通については秋田県下のほか、山形県大楯遺跡でも出土しているという(高橋 2003)。一方、平泉町柳之御所跡出土陶器の理化学産地推定ではエヒバチ長根窯産は確認されていない(岩手埋文 1999)。したがって、本遺跡での出土は、エヒバチ長根窯産陶器が出羽のみではなく、陸奥においても流通していることを示す事例となった。

(iii) 輸入磁器

龍泉窯系の白磁碗・壺、青磁碗が出土した。中世墓関連土坑と1号廃棄場から出土したことから、葬送儀礼に用いられた可能性がある。

(iv) 鉄製品

刀子、火打ち金、釘、手斧が出土した。1号廃棄場と1号中世墓壙から出土した。

(v) 製鉄関連遺物

羽口片、炉壁片が出土している。1号廃棄場から出土した。

(vi) 土偶

2号溝跡堆積土から出土した。扁平な頭部は、縄文時代晩期末～弥生時代に多いようである。付近では弥生時代の遺構・遺物が確認されていないため、晩期と捉えた。

2 平成 20 年度調査成果

(1) 縄文時代

溝状の陥し穴 42 基を確認した。出土遺物は少ないが、形状から縄文時代の陥し穴としている。分

布に粗密はない。3基（S K T 10・116・125）では縄文土器が出土している。縄文時代の竪穴住居は確認していない。

縄文時代の遺物は、縄文土器 3,860 g（小コンテナ 1 箱）、石鏃 2 点が出土した。縄文土器は、主に晩期のものである。縄文土器が出土した遺構は、P 1129・1131、S D 29・37、S K 28・109・130・133、S K I 101・104、S K T 10・125、S N 102 である。

遺構外では、調査区東側 A 3～A 7 区、中央 B 6 区等で多く出土した。

（2）平安時代前半

（i）竪穴住居跡

〔調査状況〕 12 棟確認した。遺構全体を完掘調査したのは 5 棟である。それ以外は、部分的な調査である。

〔規模〕 規模が計測できるのは 5 棟である。開口部径の大きい順に並べると、S I 05（8.96 m）、S I 04（7.59 m）、S I 02（6.88 m）、S I 103（4.93 m）、S I 101（3.37 m）となる。

〔占地〕 開口部径 6 m 以上の大形住居は、調査区北側中央の B 2～B 4 区に確認され、その他の区域には見当たらない。B 2～B 4 区にあるのは大形住居のみで、小形住居は確認されていない。小形の住居は周辺に散在し、集中はみられない。

〔カマド〕 カマドを調査したのは 8 棟（S I 07 は煙道のみ）で、それ以外は調査区外にカマドがあるものとみられる。

掘り込み式は、S I 05・S I 06 で、煙道が石組みである。S I 06 は調査範囲がごく一部であるが、煙道の先端部に石組みが確認された。

刳り抜き式は、S I 02、S I 07、S I 103 である。S I 07 は煙道部のみであるが、巨大な煙道である。

〔床面施設〕 貼床はすべての住居跡において確認された。柱穴は、S I 02 で主柱穴が 4 個確認された。S I 03・S I 04・S I 103 でも、主柱穴とみられるものが一部確認されている。周溝は、S I 02・S I 03・S I 05・S I 103 で確認された。

〔遺物〕 S I 01 以外の 11 棟で遺物が出土している。ロクロ使用の土師器甕が出土したのは、S I 101、S I 103、S I 104 のみである。カマド付近を調査し、かつ遺存状態も良く、良好な資料を得られたのは、S I 02、S I 05、S I 103 の 3 棟である。S I 105 では、須恵器坏が 1 点も出土していない。

（ii）竪穴住居跡以外

竪穴住居跡以外で、土師器・須恵器が出土したのは、竪穴住居状遺構 5 基（S K I 01・02・101・102・104）、土坑 17 基（S K 02～04・12・27・28・31・33・34・103・112・115・128・130・132～134）、S K T 116、溝 15 条（S D 01・04・06・11～14・16・17・20・29～31・101・102）、焼土遺構 2 基（S N 101・102）、柱穴状土坑 14 個である。特殊な遺構として、S X 106 土器埋設遺構では、逆位に埋設された土師器甕（774）内から、土師器坏（773）が出土している。

（iii）遺構外出土遺物

S X 02 遺物包含層、37.5（= 5 × 7.5）m²で、土師器・須恵器 16,403 g が出土した。

(3) 平安時代末

12 世紀のかわらけが出土した遺構は、竪穴住居状遺構 1 基 (S K I 104)、土坑 1 基 (S K 124)、溝 5 条 (S D 11・16・17・30・110)、柱穴状土坑 18 個 (P 227～229・231・232・234～239・241・242・269～272・824) である。12 世紀の陶磁器が出土した遺構は、溝 3 条 (S D 01・16・31) である。

上記の柱穴状土坑は、すべて B 3 区柱穴群に属する。かわらけの他、壁土が出土しており、壁土も 12 世紀のものと考えられる。掘立柱建物と推定されるが、規模など詳細は不明である。P 242 では、かわらけが重なった状態で出土した。P 228 では、1 個の柱穴から 937 g の壁土が出土した。

B 3 区 S D 16 溝は、柱穴群に隣接する。底面に小穴の配列が確認できたこと、方向が柱穴の配列と直交することから、掘立柱建物に伴う塀跡と推測される。

B 3 区 S D 11 溝は、S D 16 と並行する。埋土上位に、かわらけが並んで出土した。

A 2・A 3 区の S D 01 は、幅 3 m の広い溝である。

D 2 区の S D 30・31・32 は、3 条の溝が並行している。上記のとおり、このうちの S D 30・31 で 12 世紀の遺物が出土している。

D 3 区 S D 17 は、深くしっかりした溝である。かわらけと土師器が出土しているが、埋土中からの少量の出土であり、遺構の時期を確定させる材料としては弱い。隣接する D 4 区の S D 19 と同一遺構の可能性があり、大規模な区画が想定されるが、全容については不明である。

B 6 区 S D 110 溝では、12 世紀初頭の台付かわらけが出土し、付近の遺構外では、碗型かわらけも出土している。

D 9 区 S K 124 土坑では、かわらけ 3,502 g が出土した。すべて 12 世紀の手づくねかわらけで、口径は大と小の 2 種類がある。他の遺物の混入はなく、良好な一括資料である。

(4) その他、時期不明

中世は、15 世紀の青磁碗 2 点が出土しているが、概期の遺構と認定できるものはない。

近世は、掘立柱建物跡 1 棟 (S B 01) を確認しており、古寛永 4 点が出土している。遺構外で 19 世紀の陶器播鉢 1 点 (852) が出土している。

出土遺物が全くない遺構は、竪穴住居 1 棟 (S I 01)、竪穴住居状遺構 2 基 (S K I 03・103)、土坑 43 基 (S K 01・08～11・13～26・29・30・32・101・104・105・108・110・111・113・114・116～123・125～127・129・131・132)、溝 30 条 (S D 07・08・10・15・19・21～28・32～36・103～109・111～115)、陥し穴 39 基 (S K T 01～05・07～09・11～17・101～124)、畝間状遺構 1 箇所 (S X 01)、焼土遺構 12 基 (S N 01～12) である。

(5) 平成 3 年度調査遺構との関連

平成 3 年度調査区は、平成 20 年度 C 7～10 区の西側に隣接する。第 51・52 図を参照して頂きたい。関連する可能性のあるものについて述べておく。配置図において図面を合成してみたが、2 つの調査区の間隙があり、若干の未調査部分が生じているとみられる。平成 3 年度調査遺構の中には、平成 20 年度に調査した遺構の続きとみられるものも存在するが、今回は別遺構として報告する。

以下、平成 3 年度を H 3、平成 19 年度を H 19、平成 20 年度を H 20 と略記する。

H 3 - 5 号溝と H 20 - S D 105 溝は、方向と規模がほぼ一致することから、同一遺構と考えられる。

同様に、H 3 - 8号溝とH 20 - S D 113溝は同一遺構と考えられる。

H 3 - 1号溝のすぐ東側にH 20 - S D 104溝が位置する。方向が90°近く異なるのだが、屈曲する同一の溝である可能性が高い。H 3 - 6・7号溝のすぐ東側にH 20 - S D 115溝が位置する。この3条の溝も方向が異なるが、幅が近く、未調査部分で合流する可能性が高い。同様に、H 3 - 2号溝とH 20 - S D 101・102も未調査部分で合流する可能性がある。

H 3 - 3・4号陥し穴、6・16号住は、東側部分が未調査で、20年度調査区に続くものとみられたが、続きは確認できなかった。未調査部分で途切れているとみられる。

H 20 - S D 103・106溝、S K 126・130、S K T 102、S K I 101・103は、西側の調査区外へ続くが、3年度調査報告には記録がない。これらも未調査部分で途切れているとみられる。

平成3年度調査区では平安時代の竪穴住居跡21棟が確認されており、隣接する平成20年度調査区にも竪穴住居跡がある程度存在することが予想されたが、予想に反し、隣接地区での竪穴住居の検出はなかった。

3 平成19・20年度調査概略

主な調査成果を時代順に羅列する。

(1) 調査面積

下川原Ⅰ遺跡第1次調査(H 19)で4,437㎡、下川原Ⅰ遺跡第2次調査(H 20)で6,693㎡、下川原Ⅱ遺跡第2次調査(H 20)で11,354㎡、合計で22,484㎡を調査した。

なお、下川原Ⅱ遺跡は、平成3年度に第1次調査として10,460㎡を調査しているが、その成果も含めて記載する。

(2) 縄文時代

溝状の陥し穴は54基を調査した。ほぼ調査区全域に分布し、分布の特徴などは見出せない。縄文時代の遺構とみられるものは陥し穴のみで、竪穴住居跡は1棟も確認されていない。

縄文時代の出土遺物は少ない。H 20調査区では、縄文時代晩期中～後葉の土器が出土している。

(3) 平安時代前半(9～10世紀)

平安時代の竪穴住居跡は35棟を調査した。土師器の坏・甕、須恵器の坏・壺・甕、鉄製品などが出土した。下川原Ⅰの南側(H 20 - B 2～4区)に、1辺6m以上の大形住居群を確認した。また、下川原Ⅱの南西部、滝名川沿い(H 3調査区)に中～小形の住居21棟が確認されている。分布の集中がみられたのはこの2か所であるが、この他の場所にもあちこちに点在する。

下川原Ⅰの南東(H 20 - A 3区)では、この時期の遺物包含層(S X 02)が確認された。南西部(H 20 - C 9区)では、土器埋設遺構(S X 106)が確認されている。

(4) 平安時代末(12世紀)

遺構内外から、12世紀のかわらけ、中国産白磁、常滑産・渥美産などの国産陶器が出土した。

下川原Ⅰの北側(H 19 - C区)で、掘立柱建物、墓関連施設が確認された。下川原Ⅰの北東(H 19 - B区)では、12世紀の廃棄場が確認された。

下川原Ⅰの南側（H20 - B3区）では大形の柱穴群を確認した。壁土とみられる土塊が出土し、付近に塀とみられる溝跡も見つかっており、掘立柱建物と推定される。柱穴列の北側および東側には同時期とみられる溝が複数確認されている。建物の規模や構造など、詳細は不明である。

下川原Ⅱの南端（H20 - D9区）のSK124土坑で、12世紀の手づくねかわらけ一括資料が出土した。かわらけは、ロクロ・手づくね大小の皿の他、12世紀初頭の高台付かわらけや、12世紀前葉の碗型かわらけも出土している。後続する13世紀の遺物は確認していない。

（5）そ の 他

土坑73基、溝63条、焼土16基、畝間状遺構1箇所、近世の掘立柱建物1棟を確認している。

参考・引用文献

- 助岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1988 『伝善知鳥館・南日詰遺跡』岩文振調査略報第126集
 助岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989 『南日詰遺跡』岩文振報告書第136集
 助岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『西田東遺跡発掘調査報告書』岩文振報告書第221集
 助岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『山屋館経塚・山屋館跡』岩文振報告書第225集
 助岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003 『本町Ⅱ遺跡第二次』岩文振報告書第410集
 助岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006 『高木中館遺跡・下通遺跡』岩文振報告書第471集
 紫波町教育委員会 1992 『比爪館 第9・10次発掘調査報告書』紫波町報告書第24集
 紫波町教育委員会 2002 『比爪館 第11～18次発掘調査報告書 - 赤石小学校施工関連 -』
 紫波町教育委員会 2004 『比爪館 第8次・19～22次発掘調査概報』
 紫波町教員委員会 2007 『北日詰東ノ坊Ⅰ遺跡発掘調査報告書・町内遺跡有無確認調査略報』
 紫波町史編纂委員会 1972 『紫波町史』紫波町
 仙台市教育委員会 2000 『王ノ壇遺跡』仙台市文化財調査報告書第249集
 網野善彦 1978 『無縁・公界・楽 - 日本中世の自由と平和 -』平凡社
 小松茂美編 1987 『日本の絵巻7 - 餓鬼草紙 地獄草紙 病草紙 九相詩絵巻』中央公論社
 関口慶久 2007 「墳墓堂」『季刊考古学』97号
 羽柴直人 2006 「比爪館をめぐる諸問題」『第35回研究大会発表資料』岩手考古学会
 田代郁夫 1993 「鎌倉の「やぐら」 - 中世葬送・墓制史上における位置づけ -」『中世社会と墳墓』名著出版
 日野一郎 1979 「墳墓堂」『葬送墓制研究集成 第三卷 先祖供養』名著出版
 中世土器研究会 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
 中世墓資料集成研究会 2004 『墳墓遺跡及び葬送墓制研究の観点から見た中世 中世墓資料集成 - 東北編 -』
 高橋 学 2003 「(1) エヒバチ長根窯跡」『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院

写 真 图 版



写真図版1 下川原地区遠景（昭和23年米軍撮影）



平成19年度調査区と遺跡周辺



平成19年度調査区遺構密集地区全景



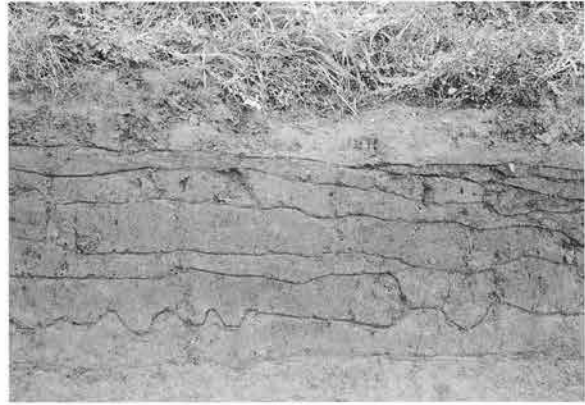
F・G区調査前現況



E区南西調査区完掘状況



F区基本土層



G区基本土層



1号竪穴住居跡全景



1号竪穴住居跡断面 (A-A')



1号竪穴住居跡断面 (B-B')



1号竪穴住居跡カマド近景



カマド断面 (J-J')



カマド断面 (I-I')



カマド袖部断面



1号竪穴住居跡土坑2遺物出土状況



1号竪穴住居跡 P2 断面



2号竪穴住居跡全景



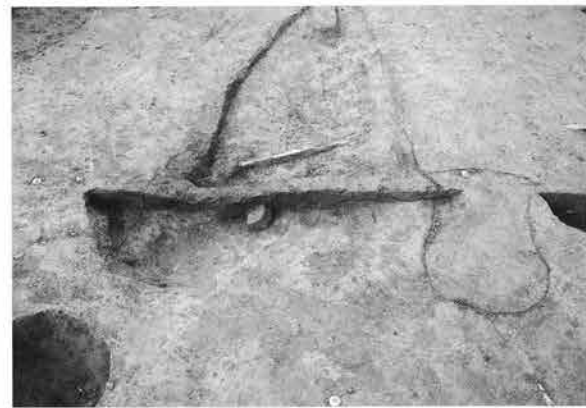
2号竪穴住居跡断面 (A - A')



2号竪穴住居跡カマド近景



2号竪穴住居跡遺物集中部



2号竪穴住居跡カマド断面 (B - B')



1号堂跡全景



P 6 断面



P101 完掘



P106 断面



P128 断面



1号中世墓壇断面



1号中世墓壇完掘



1号中世墓壇遺物出土状況



1号中世墓壇底面出土の鉄製品



1号土坑断面



1号土坑遺物出土状況



1号土坑完掘



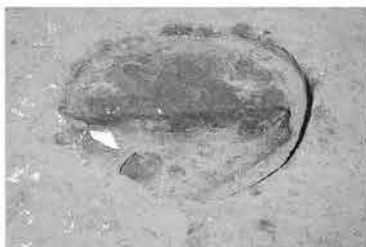
2号土坑断面



2号土坑遺物出土状況



2号土坑完掘



3号土坑断面



3号土坑遺物出土状況



3号土坑完掘

写真図版7 1号中世墓壇、1～3号土坑



中世墓関連施設調査風景



4号土坑遺物出土状況



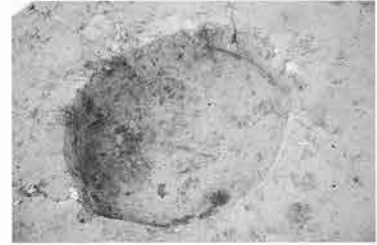
4号土坑完掘



5号土坑断面



5号土坑遺物出土状況



5号土坑完掘



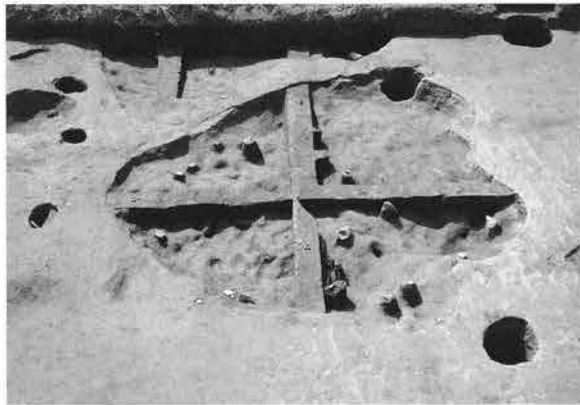
8号土坑断面



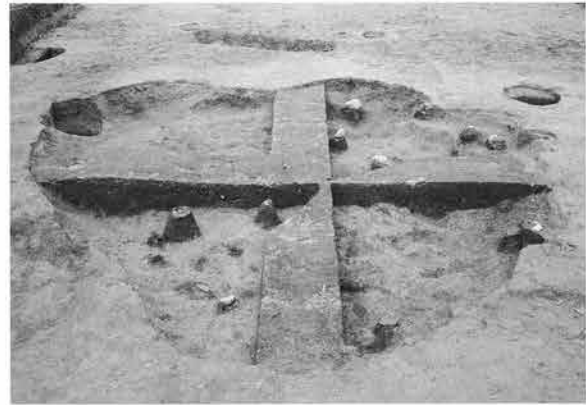
8号土坑遺物出土状況



8号土坑完掘



6・7号土坑遺物出土状況



6号土坑断面 (A - A')



6号土坑断面 (B - B')



7号土坑断面



2号堂跡全景



6・7号土坑全景



3号掘立柱建物跡全景



4号掘立柱建物跡全景



1号溝跡断面



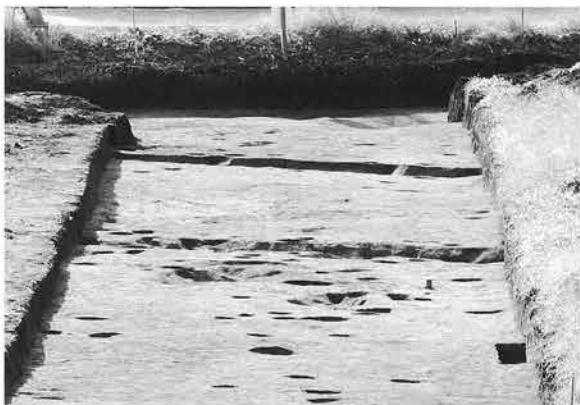
1号溝跡全景



3号溝跡断面 (A - A')



3号溝跡全景



2号溝跡Ⅰ区・4号溝跡遠景



2号溝跡Ⅱ区全景



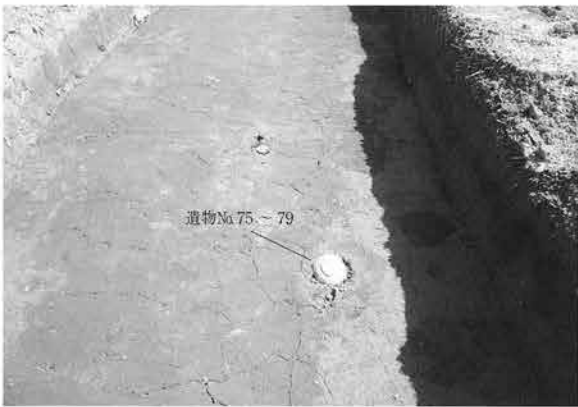
2号溝跡Ⅲ区断面 (C - C')



2号溝跡Ⅲ区断面 (F - F')



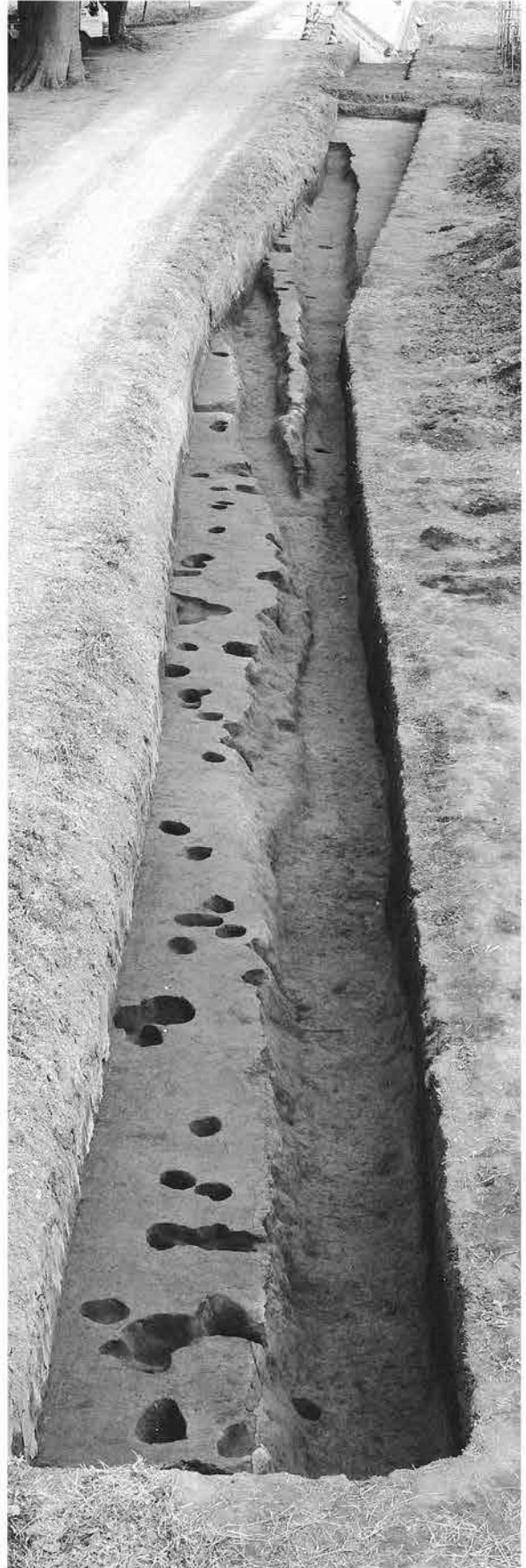
2号溝跡Ⅲ区遺物出土状況



2号溝跡内重なって出土した口クワかわらけ



2号溝跡確認調査区検出状況



2号溝跡Ⅲ区全景



1号陥し穴状土坑断面



2号陥し穴状土坑断面



3号陥し穴状土坑断面



1号陥し穴状土坑全景



2号陥し穴状土坑全景



3号陥し穴状土坑全景



1号カマド状土坑断面



9号土坑断面



10号土坑全景



1号カマド状土坑全景



9号土坑全景



11号土坑全景



12号土坑断面



12号土坑遺物出土状況



12号土坑全景

写真図版 13 1～3号陥し穴状土坑、1号カマド状土坑、9号～12号土坑



1号廃棄場遺物出土状況



青磁碗 (211) 出土状況



国産陶器 (201) 出土状況



洪水で水没した1号廃棄場



F区北側完掘



F区西側完掘



洪水で水没したG区



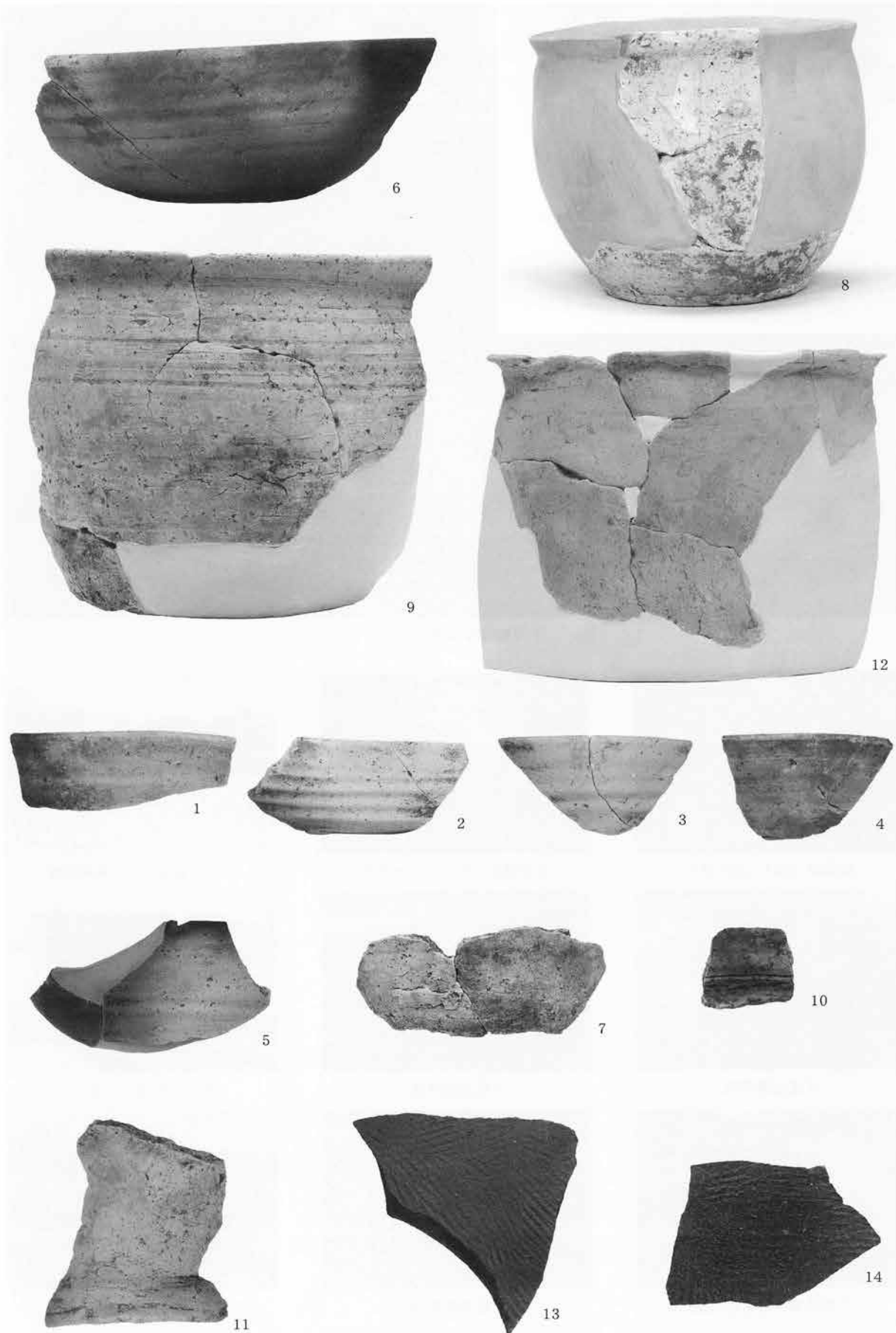
F区八坂神社付近完掘



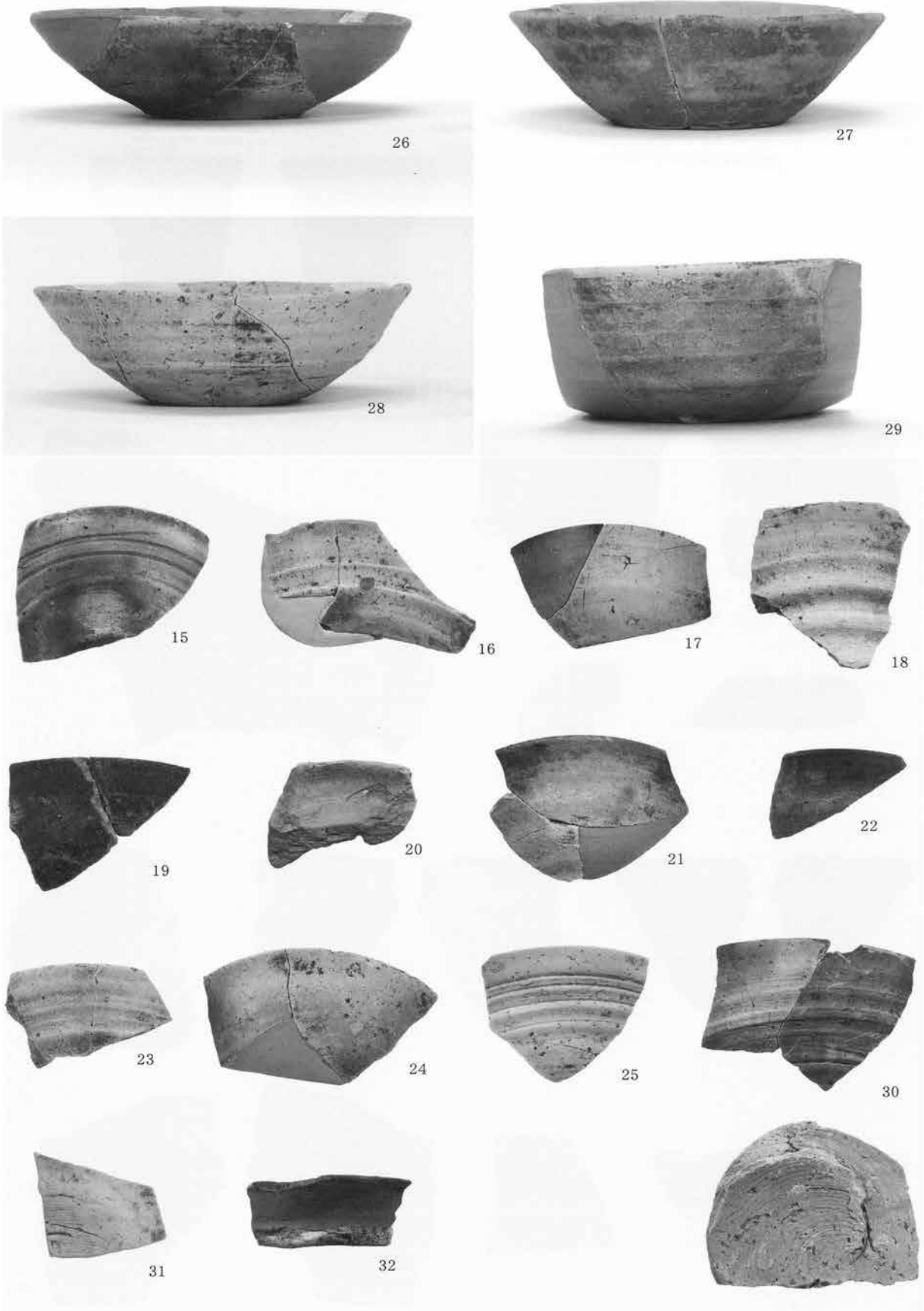
H区西側完掘



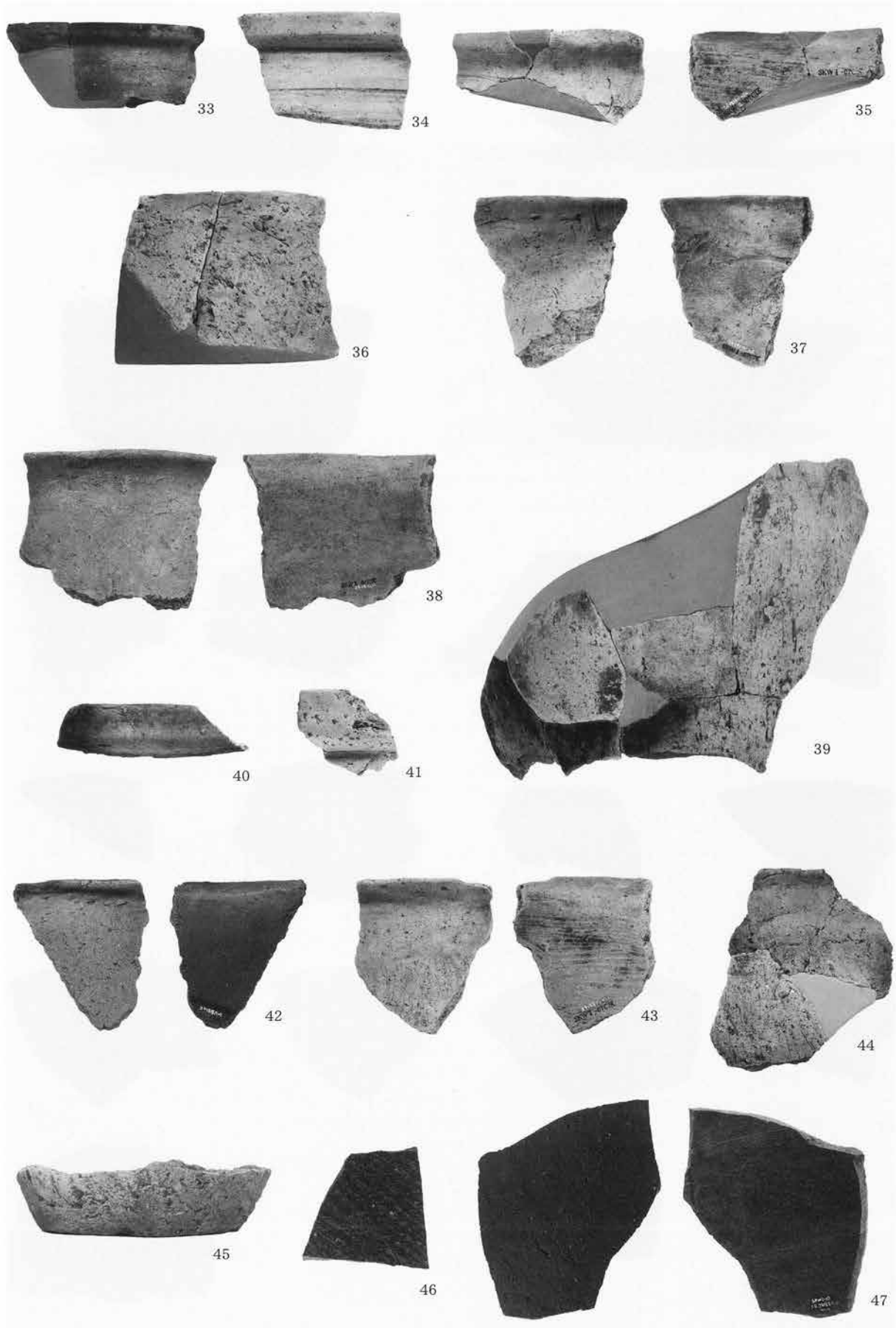
現地公開風景



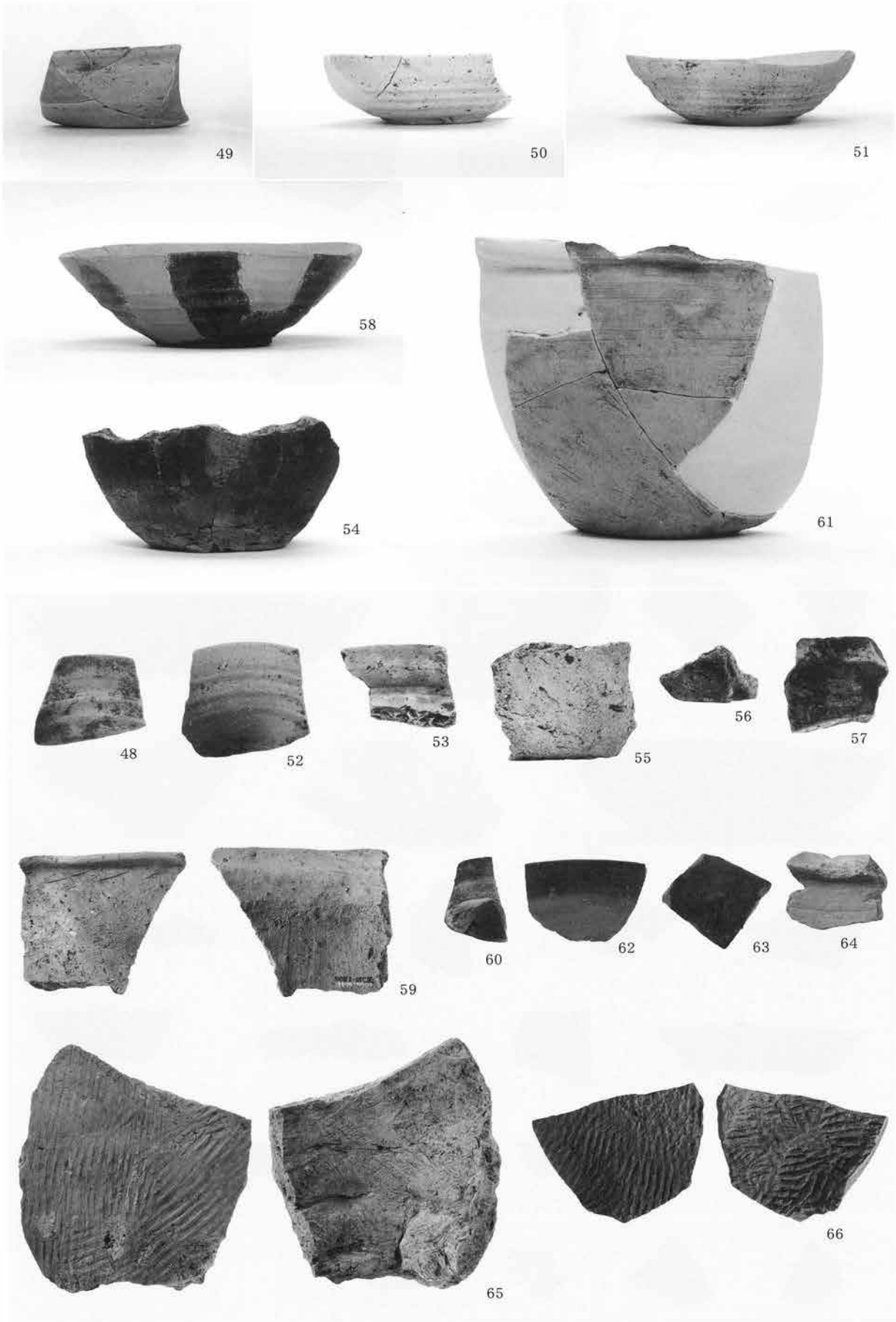
写真図版 15 土師器・須恵器 1～14



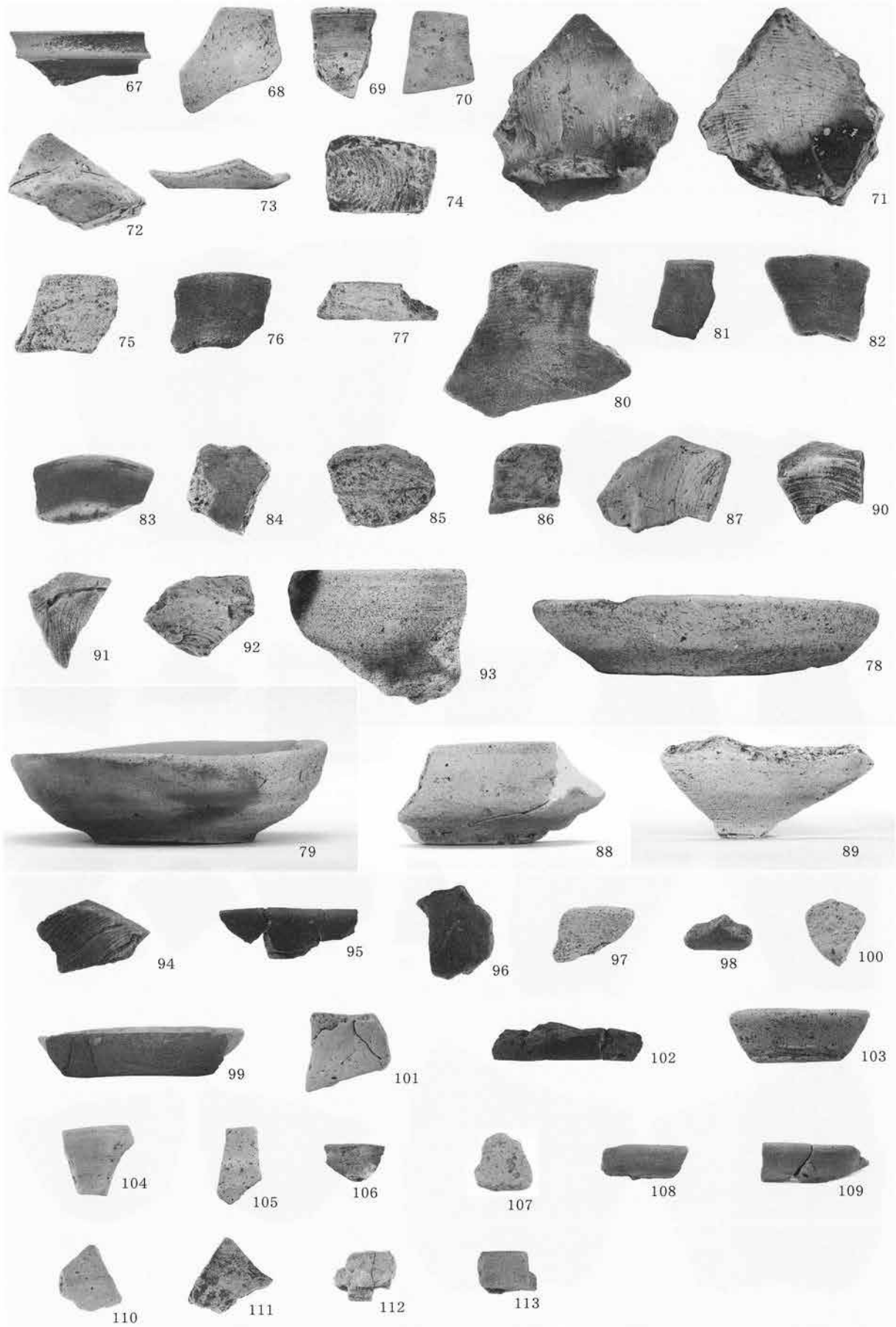
写真図版 16 土師器・須恵器 15～32



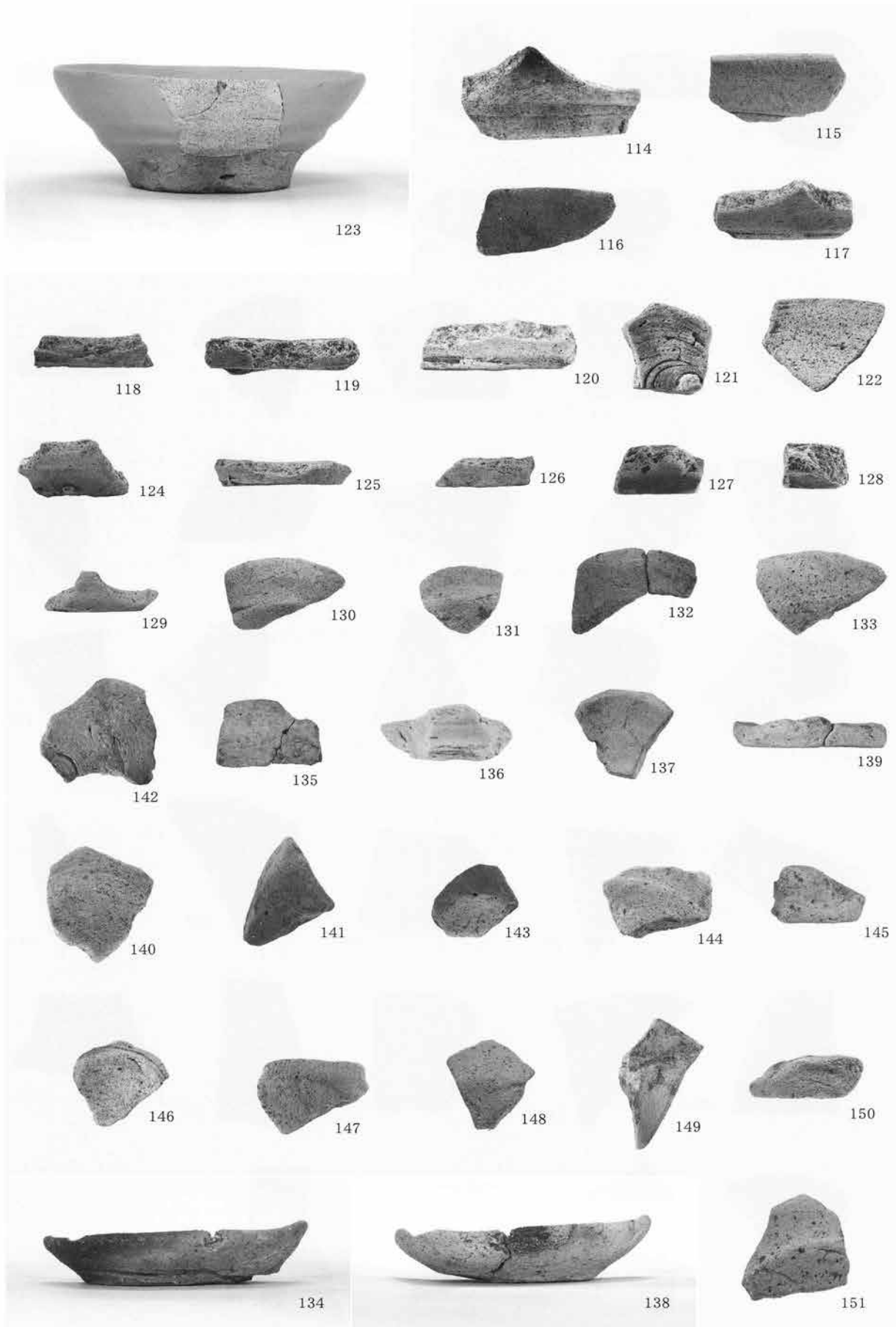
写真図版 17 土師器・須恵器 33～47



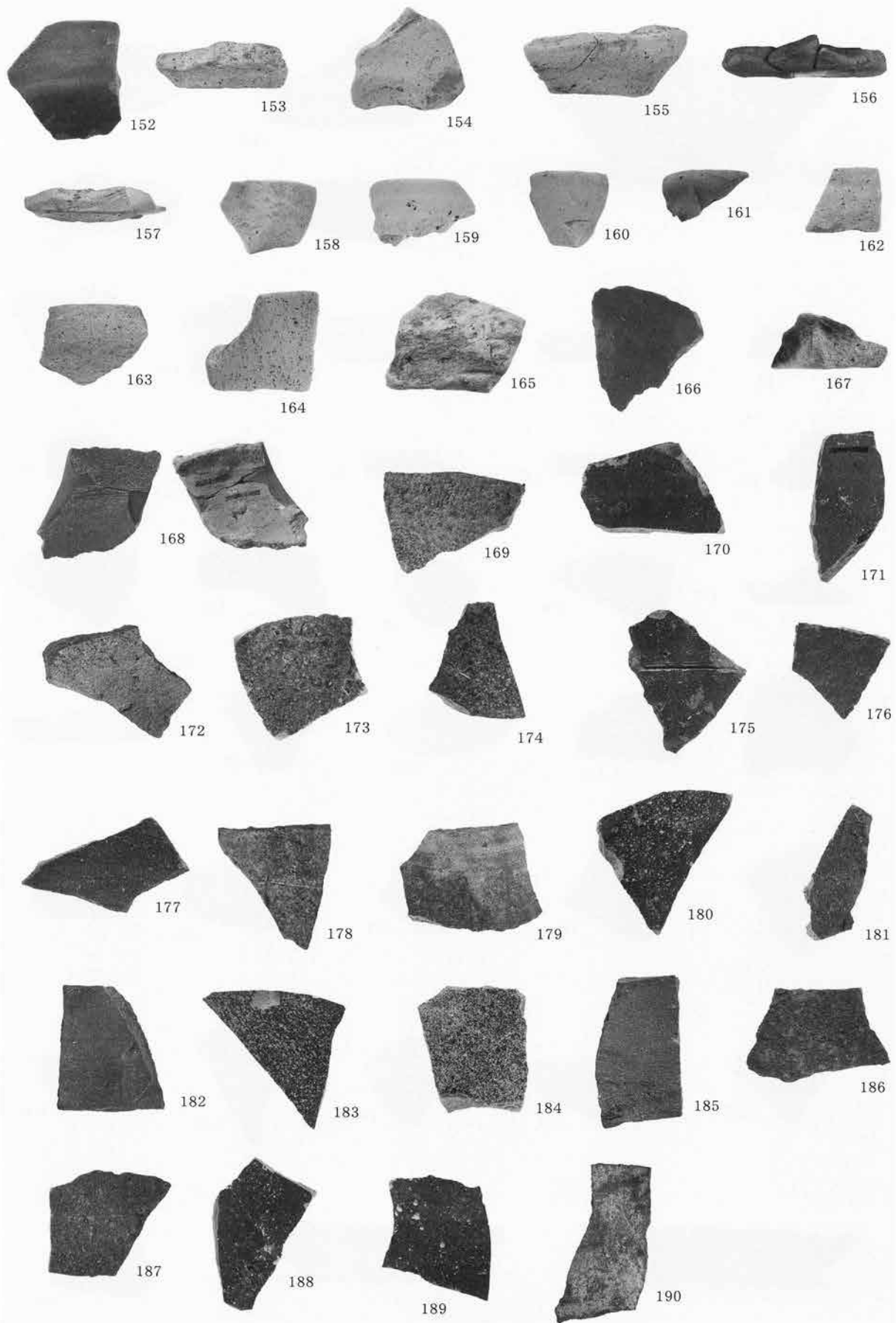
写真図版 18 土師器・須恵器 48～66



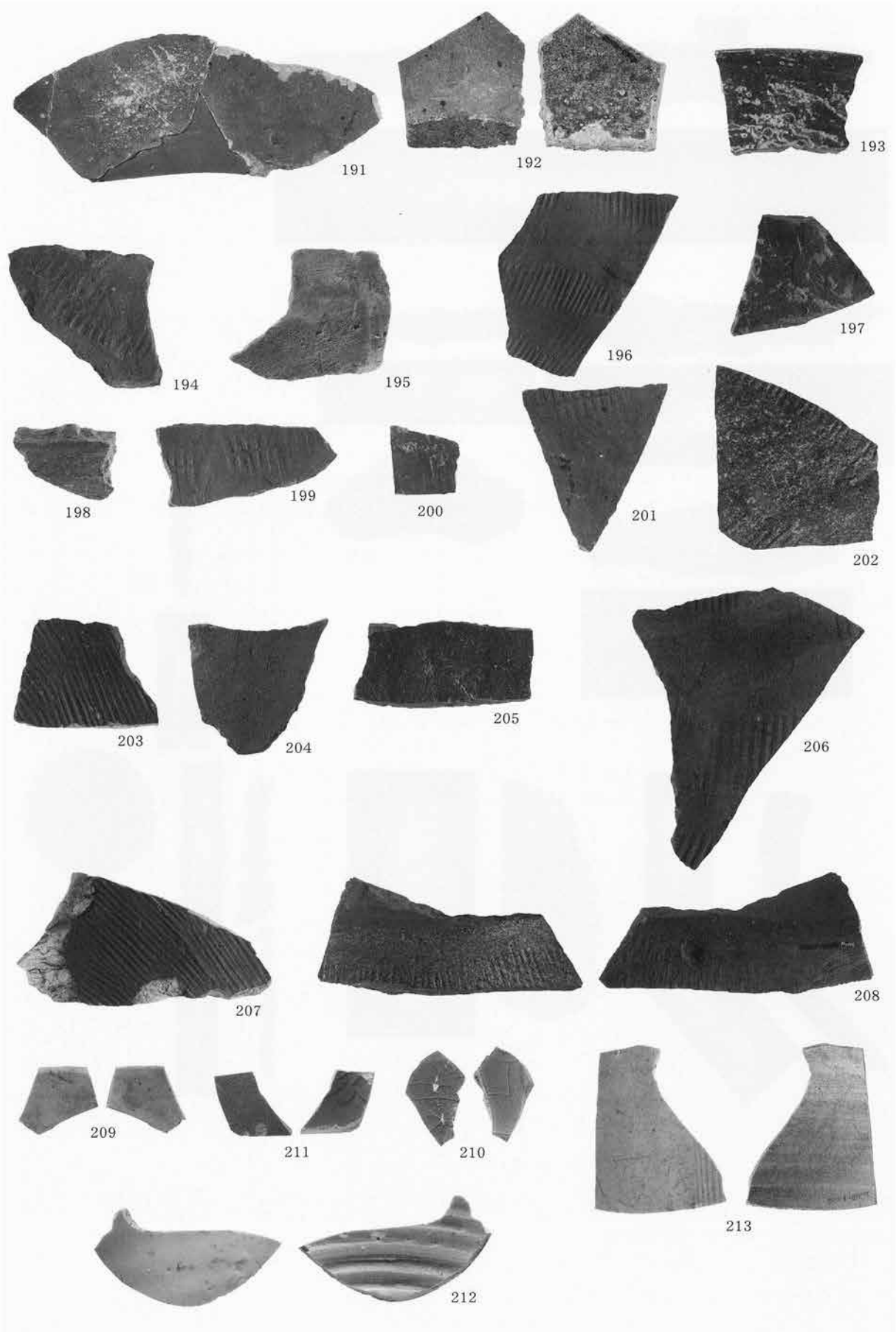
写真図版 19 土師器・須恵器 67～74、中世土器 75～113



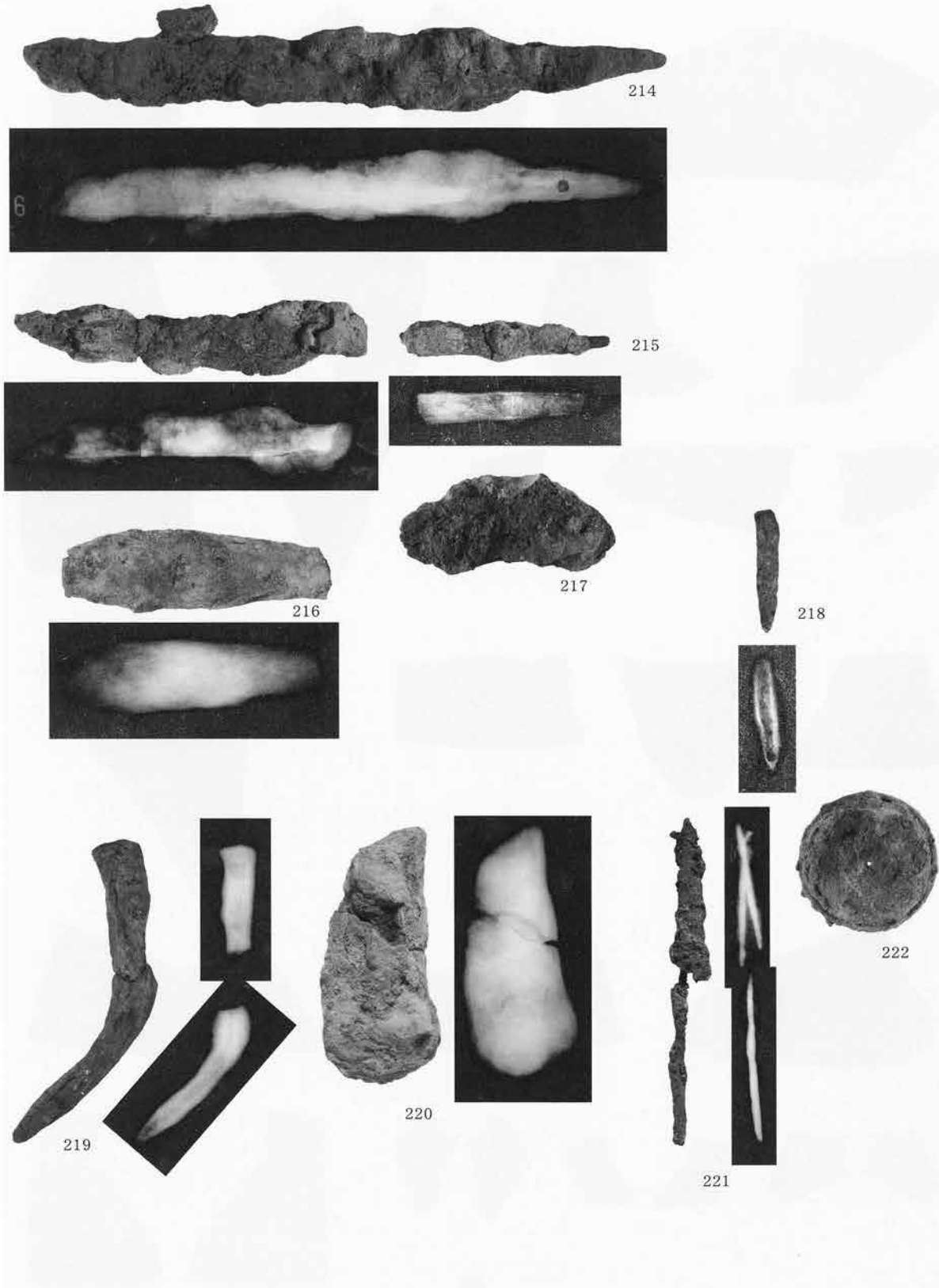
写真図版 20 中世土器 114 ~ 151



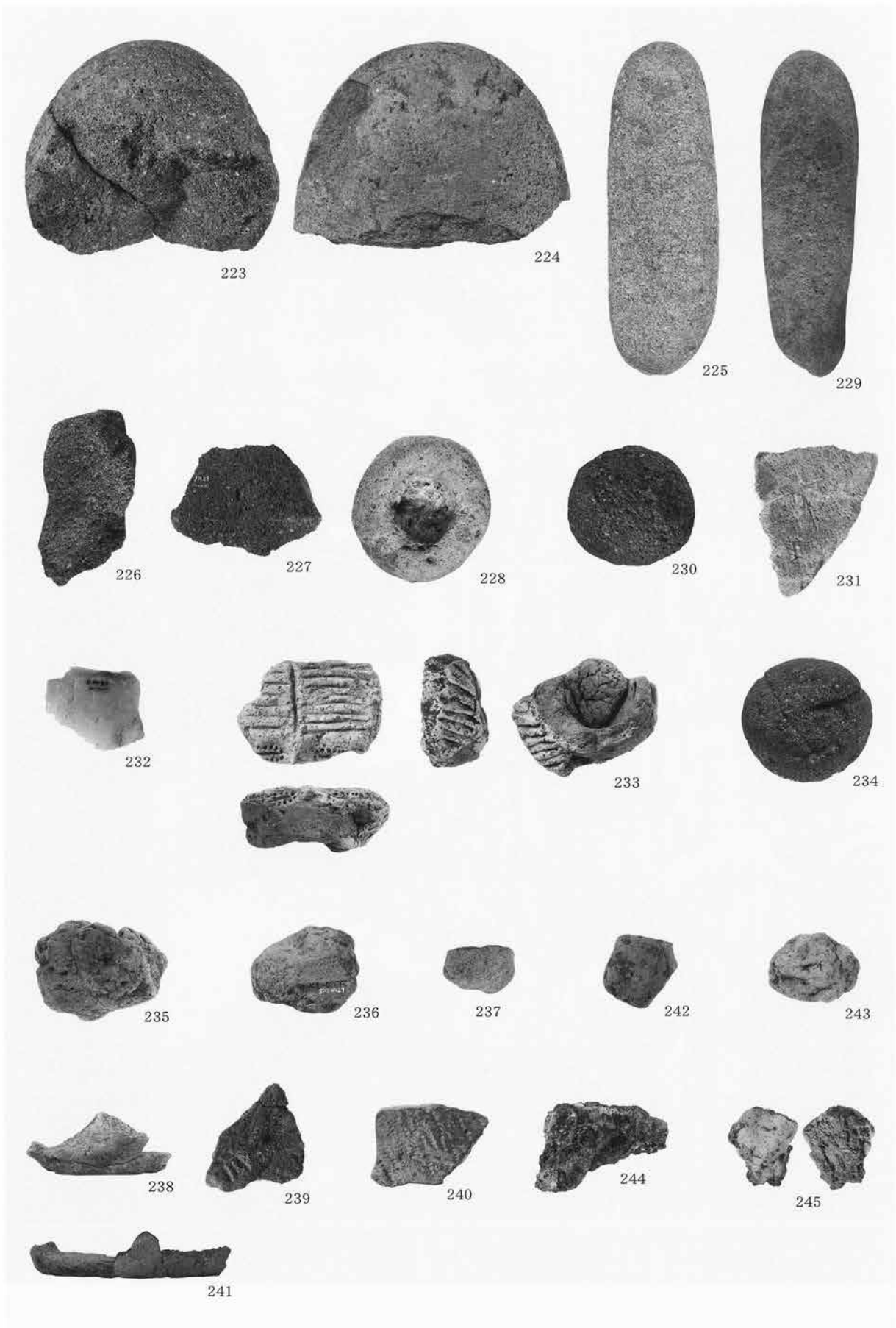
写真図版 21 中世土器 152 ~ 167、陶器 168 ~ 190



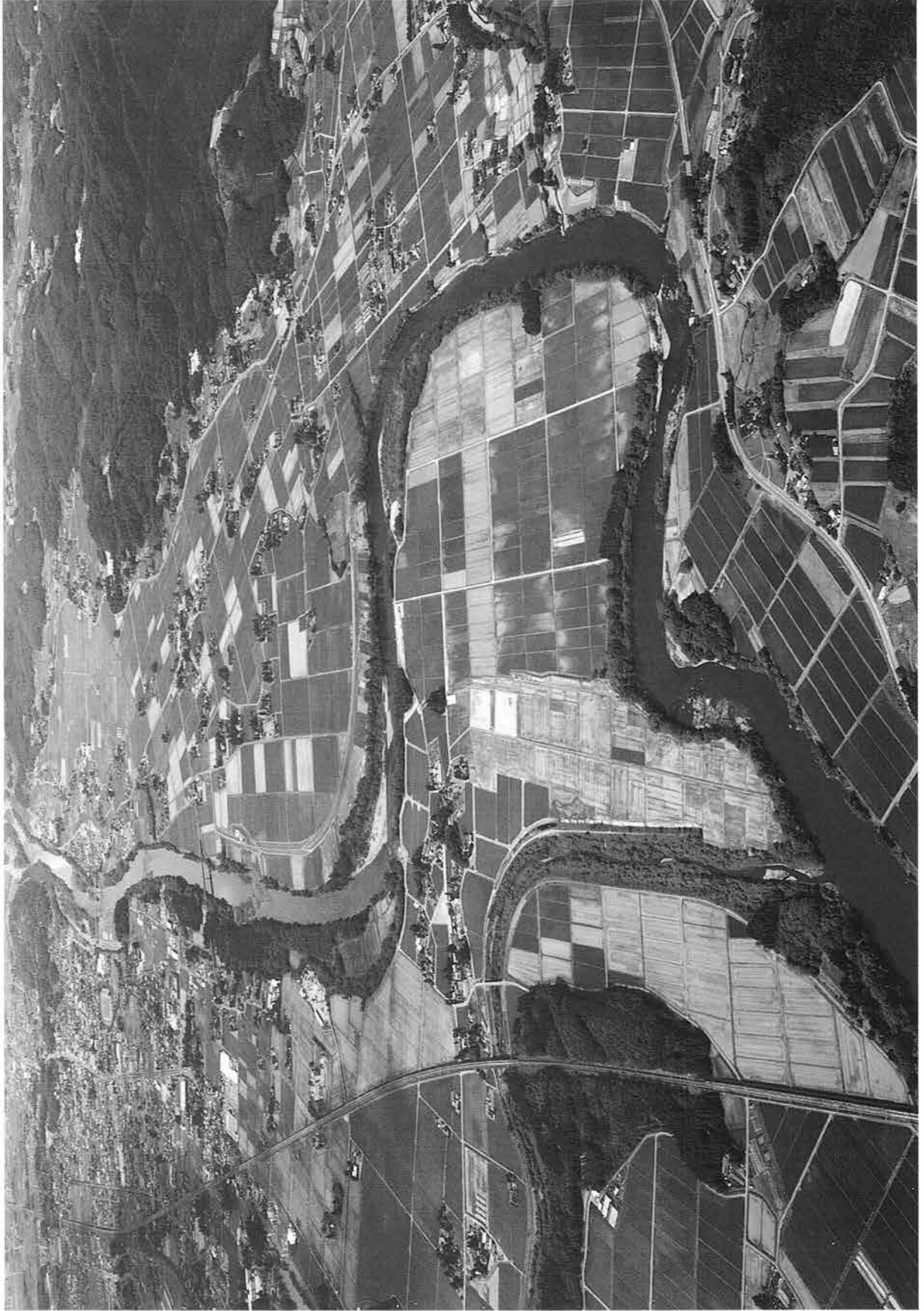
写真図版 22 陶器 191 ~ 208、磁器 209 ~ 213



写真図版 23 金属製品 214 ~ 222



写真図版 24 石器・土製品・線刻礫・粘土塊・縄文土器 223～245



写真図版 25 遺跡と周辺



写真図版 26 調査区全景



写真図版 27 調査区北側



写真図版 28 調査区中央



写真図版 29 調査区南側



A1区全景 (南から)



基本土層 A1区 (西から)



A2区全景 (北から)



A3区北側（北から）



A3区中央（西から）



A4区全景（北から）



B1区全景（北から）



B2区全景（北から）



B3区全景（北から）



B4区全景（北から）



C1区全景（東から）



D1区全景（西から）



D2区全景（東から）



D4区東側（西から）



現地公開（平成20年10月10日）



A5区全景（南から）



A6区全景（北から）



A6区中央（北から）



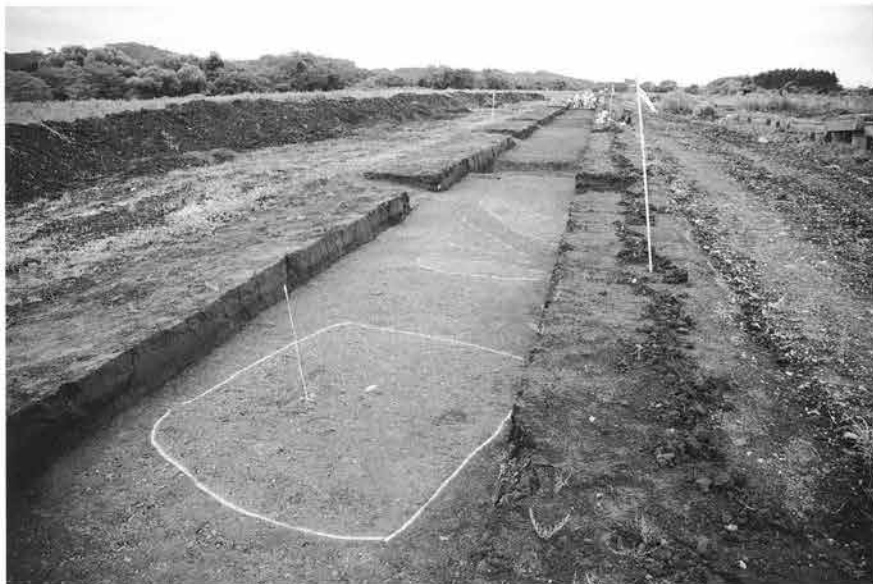
A7区全景（南から）



基本土層 A7区（東から）



A8区全景（北から）



B5区全景（北から）



B6区全景（北から）



B7区北側（北から）



B7区南側（南から）



B8区全景（南から）



C5区全景（南から）



C6区全景（南から）



C7区全景（南から）



C8区全景（北から）



C1区北側（南から）



C9区南側（北から）



C10区南側（北から）



D5区全景（東から）



D8区全景（東から）



基本土層 D9区（南から）



完掘 (西から)



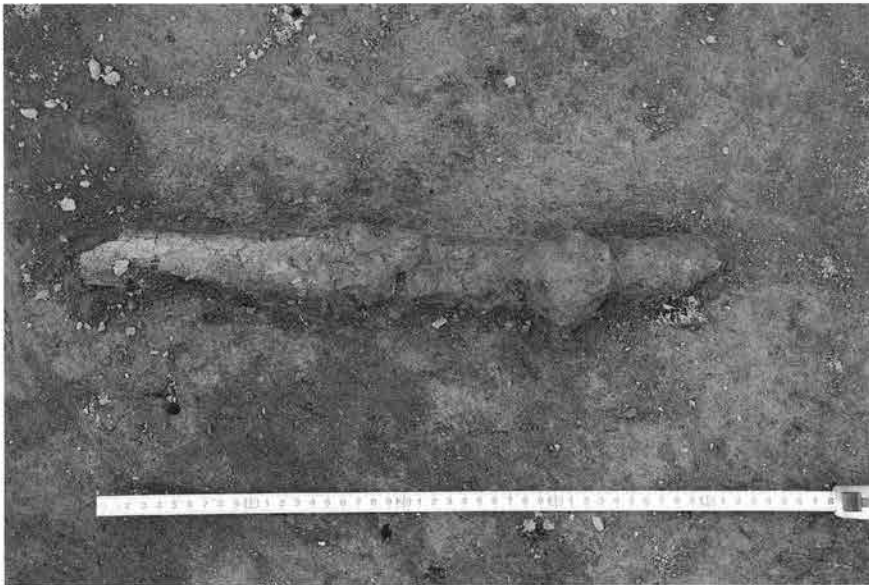
完掘 (西から)



カマド (西から)



遺物出土状況（南から）



出土遺物状況



断面（西から）



遺物出土遺物状況（北から）



断面（南から）



完掘（南から）



断面（南から）



完掘（南から）



完掘（南から）



遺物出土状況（西から）



断面（西から）



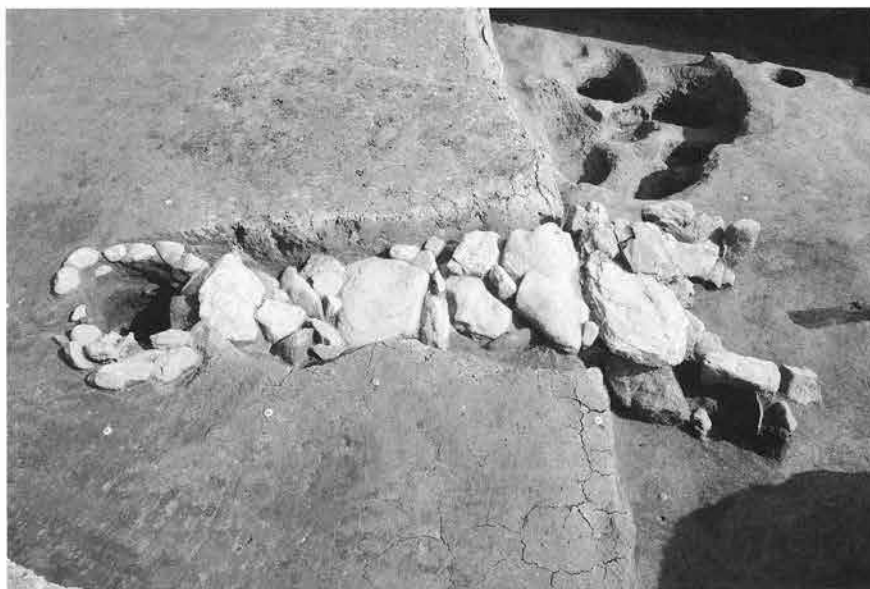
完掘（北から）



カマド (南から)



カマド (南から)



カマド (西から)



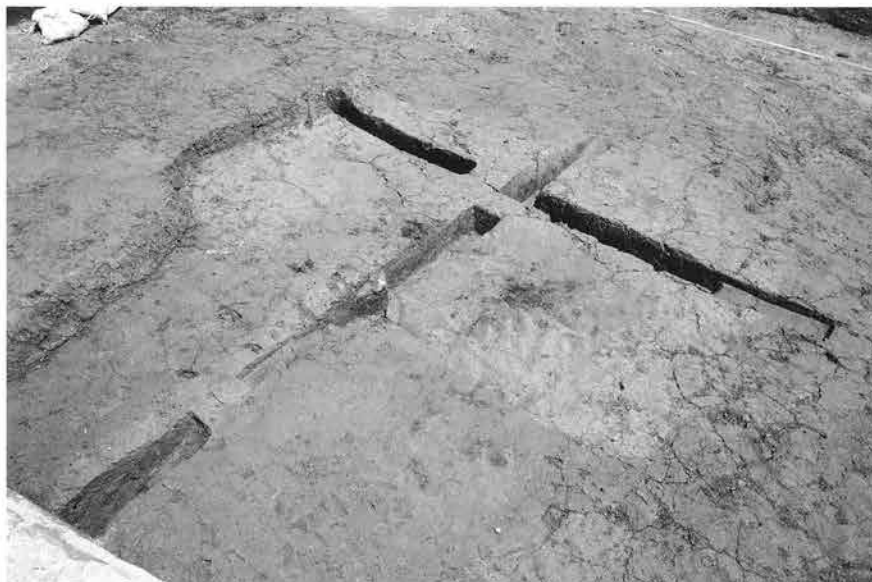
カマド (南から)



カマド (南から)



カマド (西から)



SI01 検出 (西から)



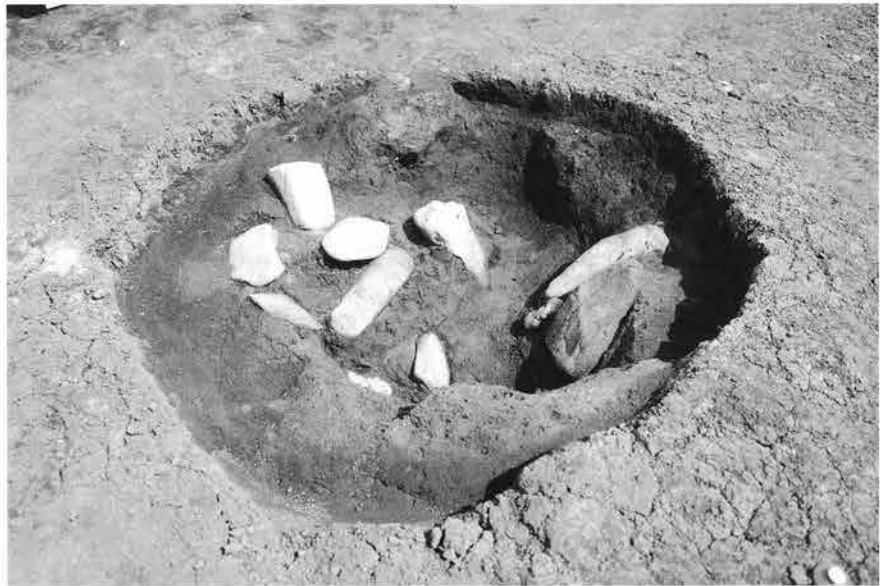
SI01 カマド (南から)



SI06 検出 (南から)



SI06 カマド (東から)



SI07 煙道部検出 (南から)



SI07 煙道部完掘 (南から)



煙道部断面（南から）



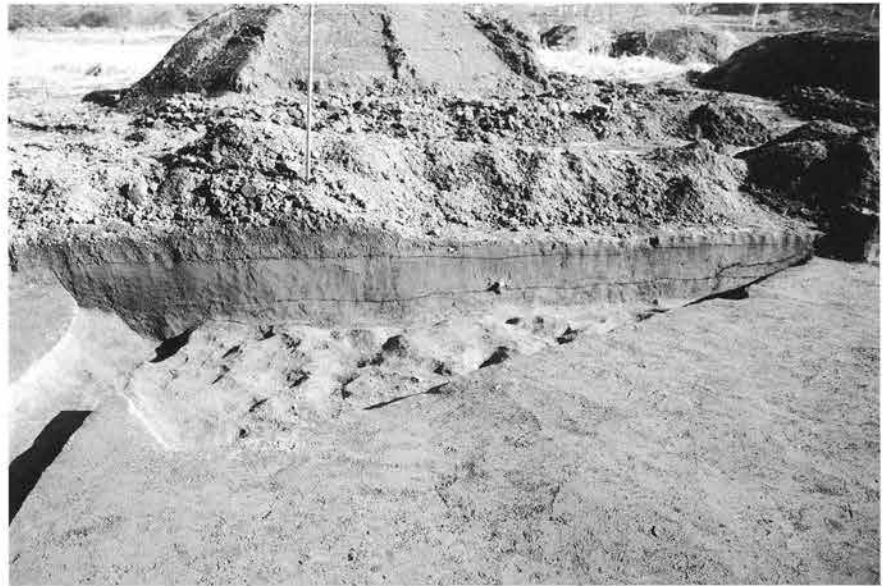
煙道部断面（東から）



煙道部完掘（南から）



SI101 検出 (南から)



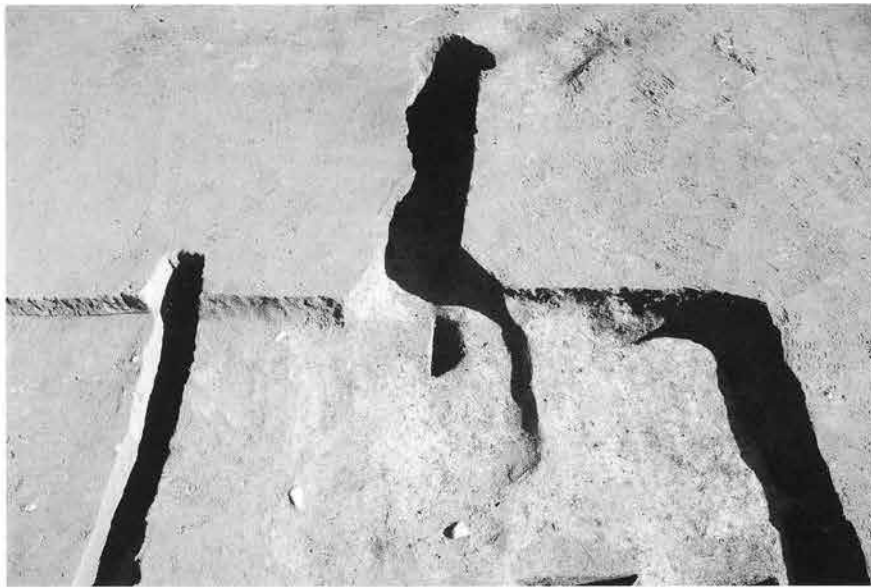
SI105 断面 (西から)



SI105 完掘 (北から)



断面（東から）



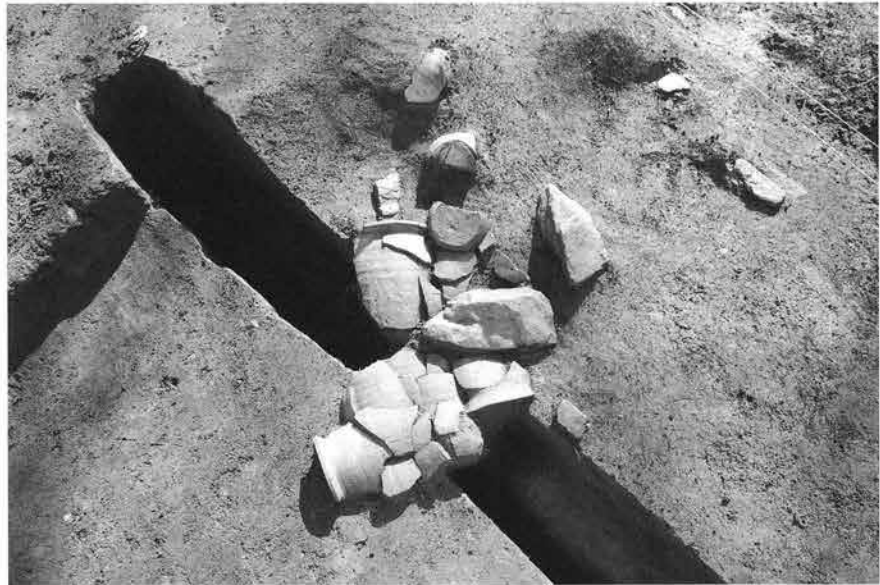
カマド（西から）



完掘（西から）



遺物出土状況（西から）



遺物出土状況（南から）



遺物出土状況（南から）



検出（西から）



遺物出土状況（西から）



焼土（西から）



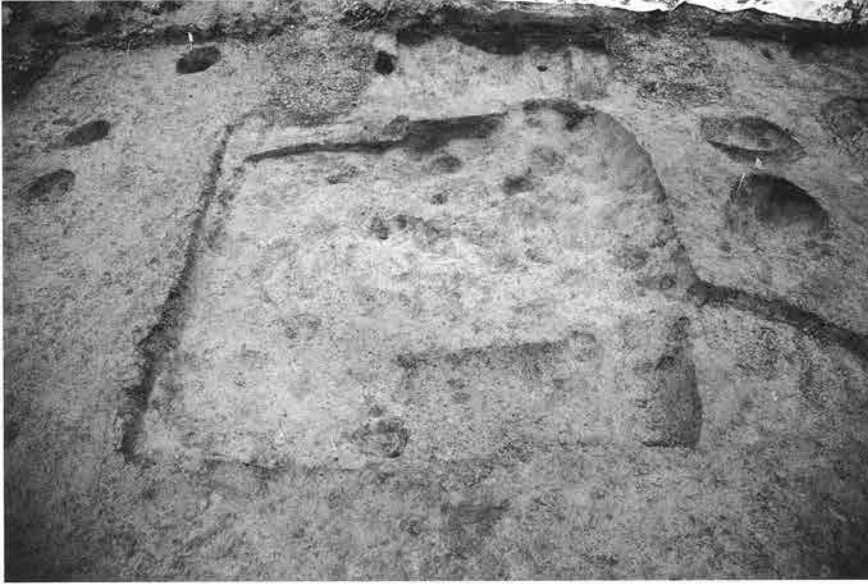
検出 (南から)



カマド (南から)



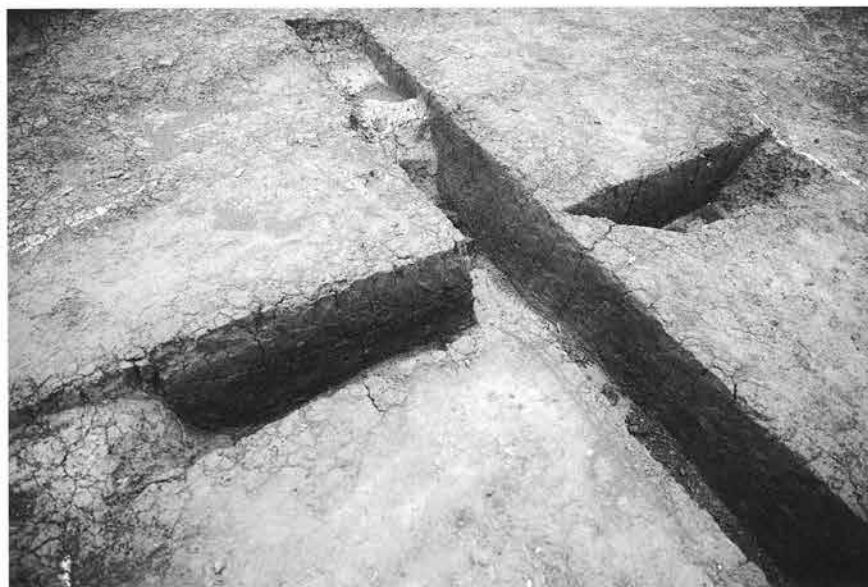
カマド断面 (西から)



SK101 完掘 (西から)



SK102・03 検出 (東から)



SK102 断面 (南から)



断面（南から）



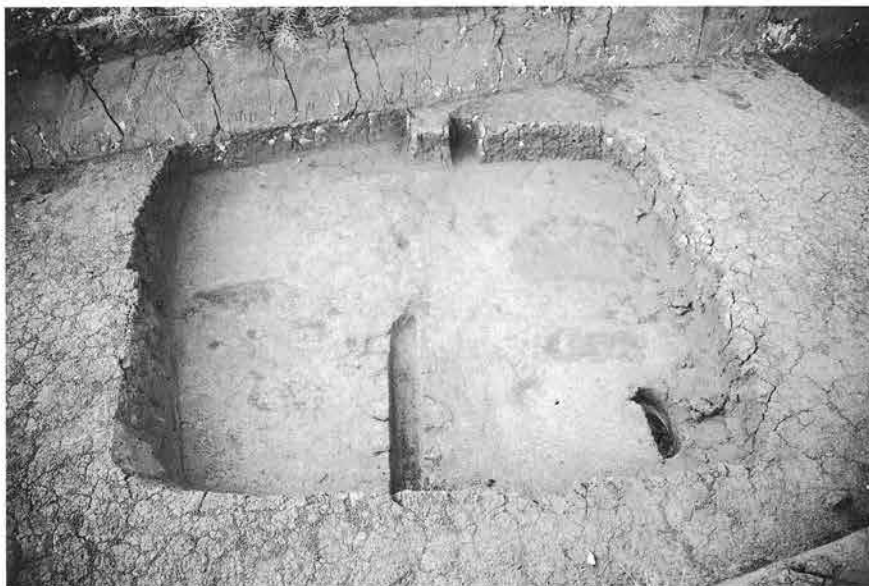
遺物出土状況（東から）



完掘（東から）



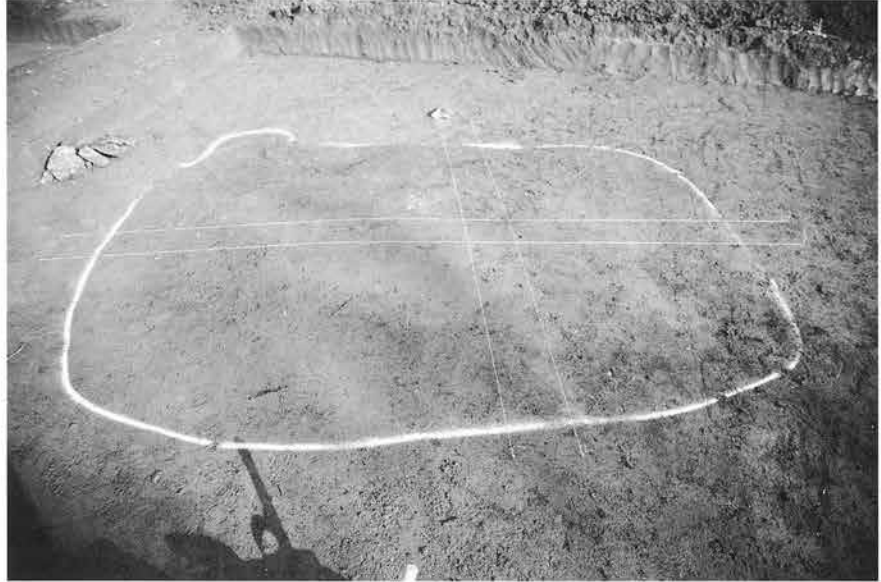
SKI102 断面（北から）



SKI102 完掘（東から）



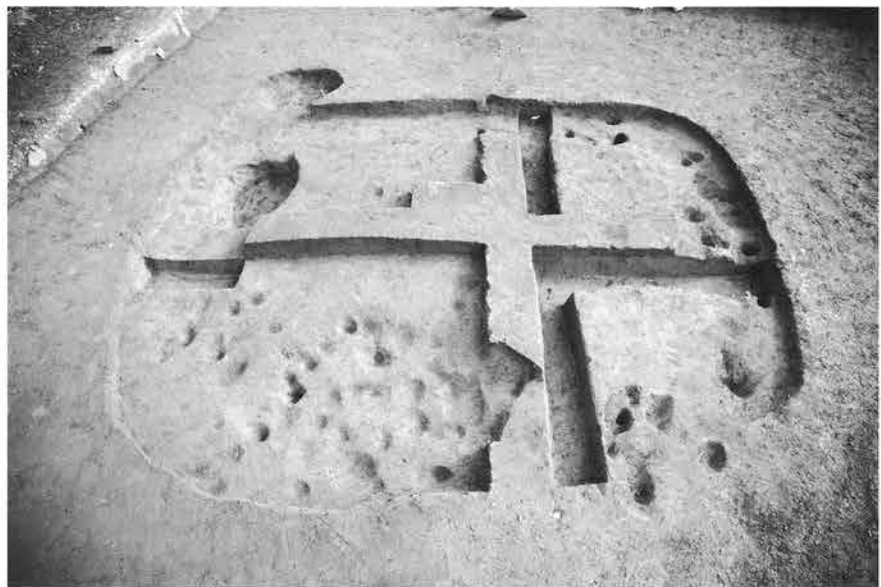
SKI103 完掘・断面



検出 (西から)



断面 (西から)



完掘 (西から)



柱穴群全景（北から）



柱穴群全景（南から）



柱穴群北側（南から）



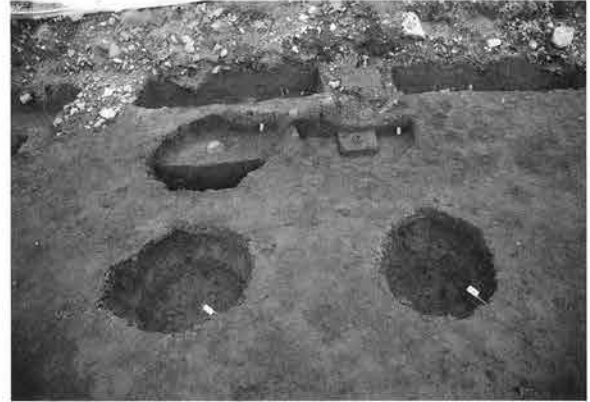
P242 遺物出土状況 (西から)



P242 遺物出土状況 (北から)



P242 遺物出土状況 (南から)



P241・242・232・231 (西から)



P241・242 (西から)



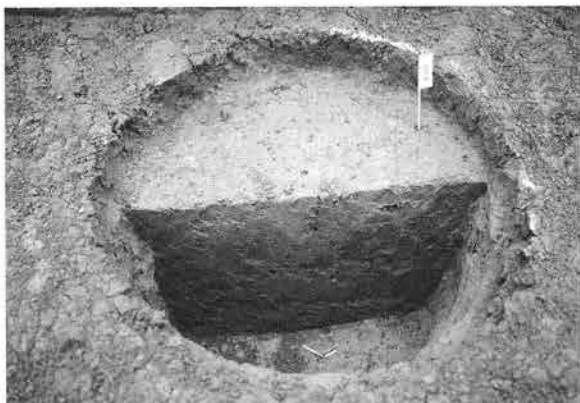
P241 遺物出土状況 (西から)



P241 完掘 (西から)



P242 完掘 (西から)



P227 断面



P228 断面



P231 断面



P232 断面



P235 断面



P821 断面



P269 礫出土状況



P270 礫出土状況



SK01 断面 (南から)



SK02 断面 (南から)



SK03 断面 (南から)



SK04 断面 (南から)



SK08 断面 (南から)



SK09 断面 (西から)



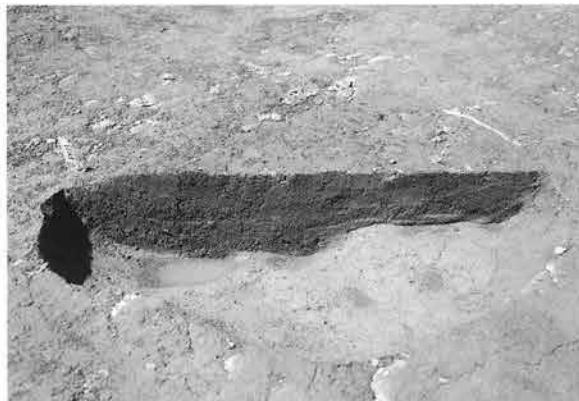
SK10・16 断面 (東から)



SK11 断面 (西から)



SK12 断面 (南から)



SK13 断面 (南から)



SK14 断面 (南から)



SK15 断面 (北から)



SD17 断面 (東から)



SD18 断面 (東から)



SK19 断面 (南から)



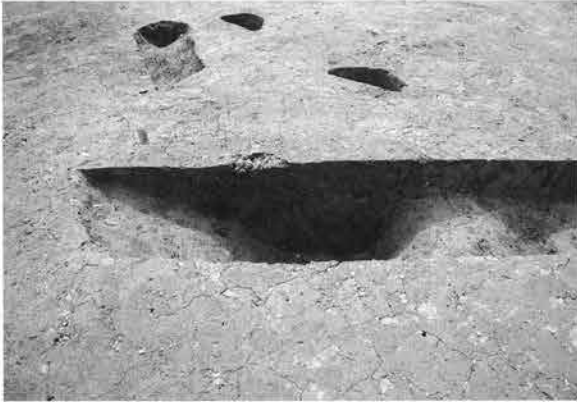
SK20 断面 (西から)



SK22 断面 (南から)



SK22 断面 (南から)



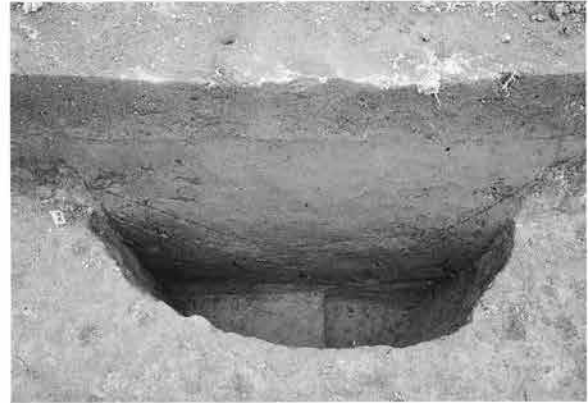
SK23 断面 (北から)



SK24 断面 (南から)



SK25 断面 (北から)



SK26 断面 (南から)



SK27 完掘 (北から)



SK27 断面 (北から)



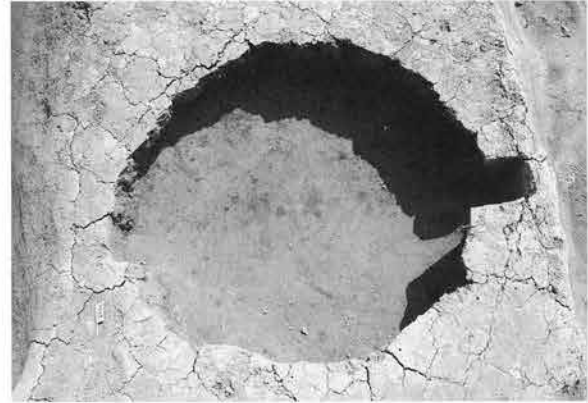
SK28 遺物出土状況 (北から)



SK28 遺物出土状況 (北から)



SK29 完掘 (北から)



SK30 完掘 (南から)



SK31 断面 (西から)



SK32 断面 (西から)



SK33 断面 (西から)



SK34 完掘 (東から)



SK101 断面 (東から)



SK103 断面 (東から)



SK104 断面 (南から)



SK105 断面 (南から)



SK108 断面 (西から)



SK109 断面 (東から)



SK110 断面 (南から)



SK113 断面 (東から)



礫出土状況（西から）



断面（東から）



断面（東から）



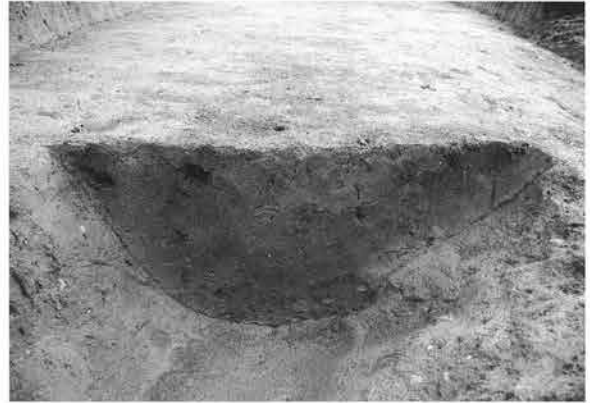
SK115 完掘 (南から)



SD115 断面 (南から)



SK116 完掘 (西から)



SK116 断面 (西から)



SK114 断面 (西から)



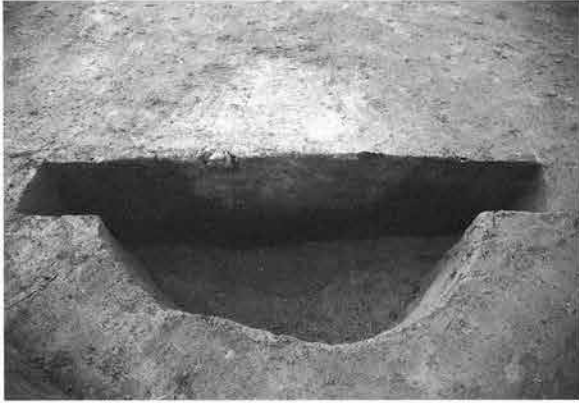
SK117 断面 (東から)



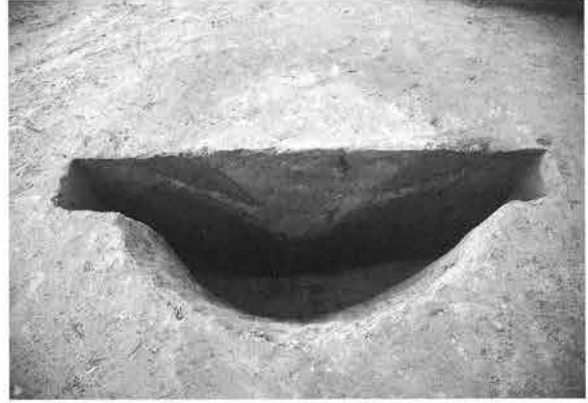
SK118 断面 (西から)



SK119 断面 (西から)



SK120 断面 (南から)



SK121 断面 (南から)



SK122 断面 (南から)



SK123 断面 (南から)



SK118～123 (西から)



遺物出土状況（西から）



炭化物出土状況（西から）



断面（南から）



SK125 断面 (南から)



SK126 断面 (東から)



SK127 完掘 (東から)



SK127 断面 (東から)



SK128 完掘 (東から)



SK128 断面 (南から)



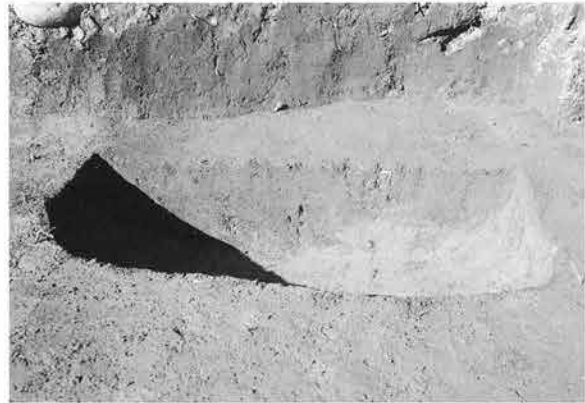
SK129 完掘 (南から)



SK129 断面 (南から)



SK130 完掘 (東から)



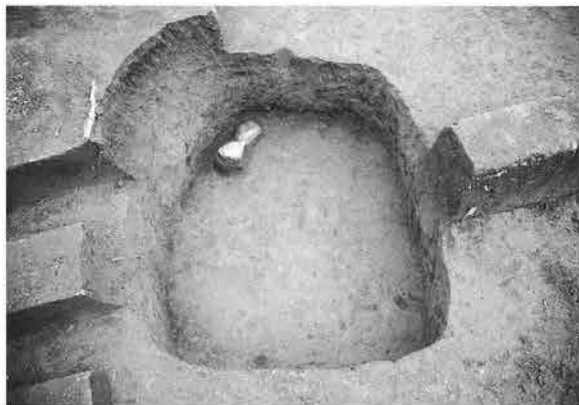
SK130 断面 (東から)



SK132 完掘 (北から)



SK132 断面 (南から)



SK133 完掘 (西から)



SK133 断面 (東から)



SK134 完掘 (南から)



SK134 断面 (南から)



SN102 遺物出土状況 (北から)



SN102 遺物出土状況 (東から)



SK131・133 断面 (東から)



SN102 遺物出土状況 (北から)



SN102・SK131 (東から)



SN102 断面 (東から)



SN102・SK131 (北から)



SK131 完掘 (北から)



SN03 断面 (南から)



SN04・05 断面 (南から)



SN06 断面 (南から)



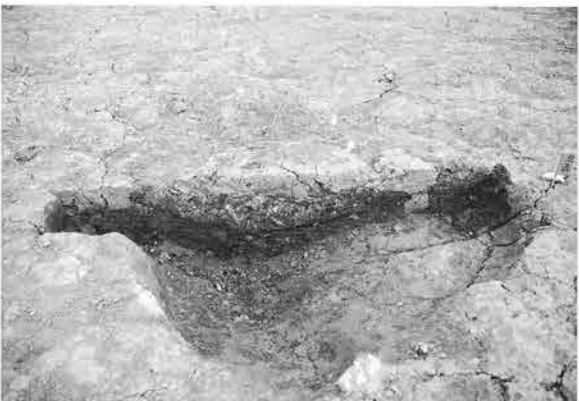
SN07 断面 (南から)



SN08 断面 (南から)



SN09 断面 (南から)



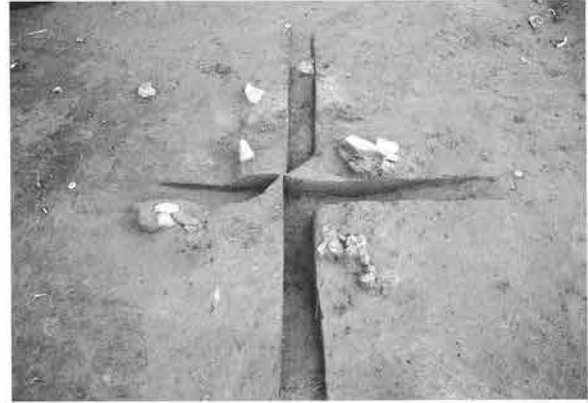
SN10 断面 (南から)



SN12 断面 (南から)



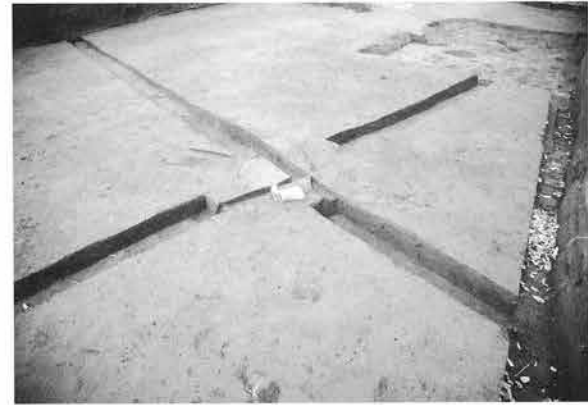
SN101 遺物出土状況 (西から)



SN101 断面 (西から)



SN101 検出 (西から)



SN101 周辺 (東から)



SX106 検出



SX106 断面 (東から)



SX106 断面 (東から)



SX106 完掘 (東から)



断面（南から）



完掘（南から）



完掘（北から）



SKT01 完掘 (南から)



SKT01 断面 (南から)



SKT02 完掘 (東から)



SKT02 断面 (東から)



SKT03 完掘 (西から)



SKT03 断面 (西から)



SKT04 完掘 (西から)



SKT04 断面 (西から)



SKT05 完掘 (西から)



SKT05 断面 (西から)



SKT06 完掘 (東から)



SKT06 断面 (東から)



SKT07 完掘 (西から)



SKT07 断面 (西から)



SKT08 完掘 (南から)



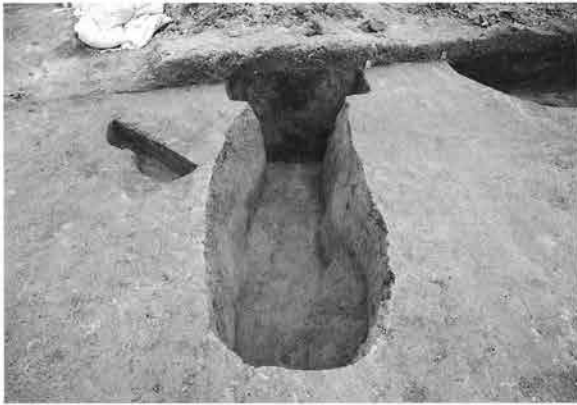
SKT08 断面 (南から)



SKT09 完掘 (東から)



SKT09 断面 (東から)



SKT10 完掘 (北から)



SKT10 断面 (北から)



SKT11 完掘 (東から)



SKT11 断面 (東から)



SKT12 完掘 (東から)



SKT12 断面 (東から)



SKT13 完掘 (南から)



SKT13 断面 (南から)



SKT14 完掘 (東から)



SKT14 断面 (東から)



SKT15 完掘 (東から)



SKT15 断面 (東から)



SKT16 完掘 (北から)



SKT17 断面 (東から)



SKT101 完掘 (南から)



SKT101 断面 (南から)



SKT102 完掘 (北から)



SKT102 断面 (北から)



SKT103 完掘 (南から)



SKT103 断面 (南から)



SKT104 完掘 (東から)



SKT104 断面 (東から)



SKT105 完掘 (東から)



SKT105 断面 (東から)



SKT106 完掘 (北から)



SKT106 断面 (北から)



SKT107 完掘 (南から)



SKT107 断面 (南から)



SKT108 完掘 (東から)



SKT108 断面 (東から)



SKT109 完掘 (南から)



SKT109 断面 (南から)



SKT110 完掘 (東から)



SKT110 断面 (東から)



SKT111 完掘 (東から)



SKT111 断面 (東から)



SKT112 完掘 (西から)



SKT112 断面 (西から)



SKT113 完掘 (南から)



SKT113 断面 (南から)



SKT114 完掘 (南から)



SKT114 断面 (南から)



SKT115 完掘 (西から)



SKT115 断面 (西から)



SKT116 完掘 (北から)



SKT116 断面 (北から)



SKT117 完掘 (北から)



SKT117 断面 (北から)



SKT118 完掘 (西から)



SKT118 断面 (西から)



SKT119 完掘 (西から)



SKT119 断面 (西から)



SKT120 完掘 (東から)



SKT120 断面 (東から)



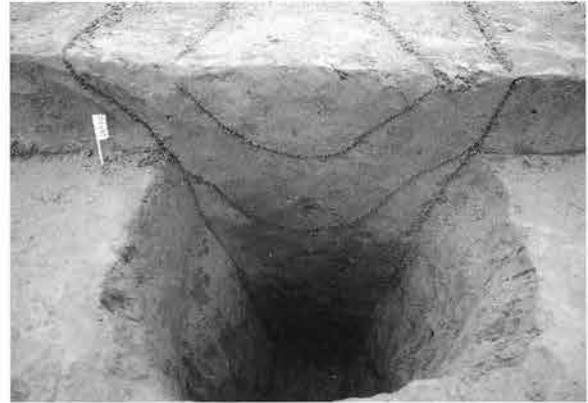
SKT121 完掘 (東から)



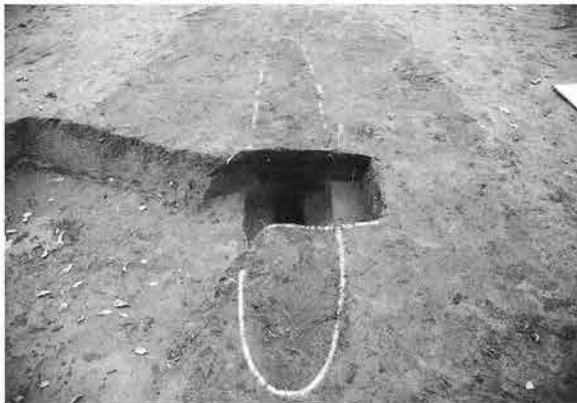
SKT121 断面 (東から)



SKT122 完掘 (西から)



SKT122 断面 (西から)



SKT123 完掘 (東から)



SKT123 断面 (東から)



SKT124 完掘 (東から)



SKT124 断面 (東から)



北側（南から）



中央断面（南から）



南側（南から）



SD04 断面 (南から)



SD06 断面 (南から)



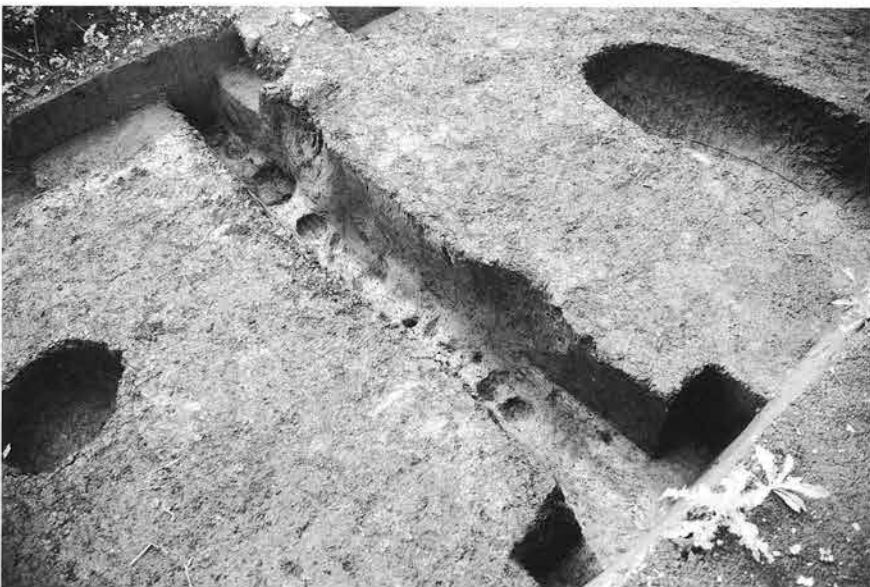
SD07・08 断面 (東から)



副穴検出（南から）



副穴断面（西から）



完掘（西から）



SD10・11 完掘 (東から)



SD11 遺物出土状況 (東から)



SD11 遺物出土状況 (北から)



SD12 完掘 (西から)



SD13 完掘 (西から)



SD14 完掘 (西から)



SD12～14完掘（北から）



SD16完掘（東から）



SD16周辺（北から）



断面（西から）



断面（東から）



断面（東から）



SD17 (東から)



SD19 (西から)



SD23 (南から)



SD24・25 (東から)



SD27 (東から)



SD26・29 (西から)



SD30～32 (西から)



SD33 南側完掘 (北から)



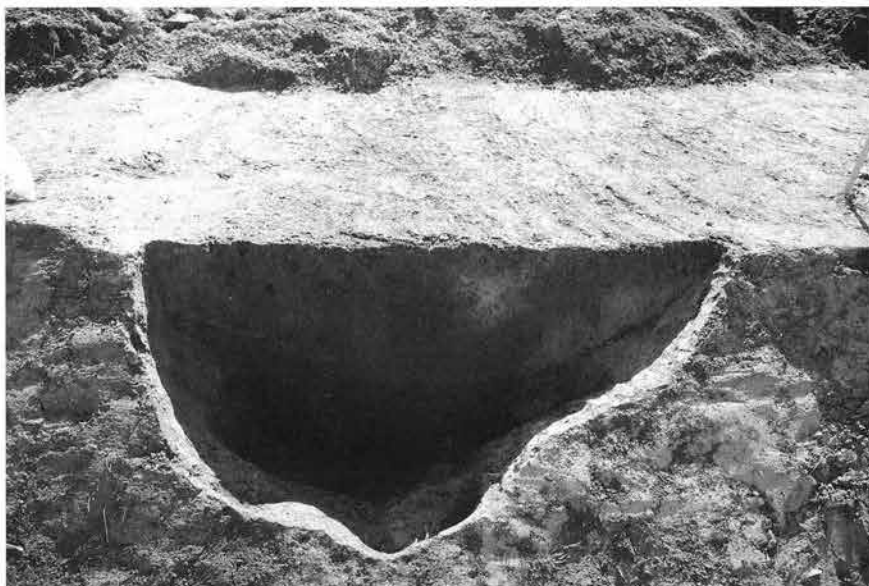
SD34 南側完掘 (北から)



SD36 検出 (北から)



SD36 断面 (西から)



SD37 断面 (西から)



SD101・102 検出 (北から)



SD103 検出 (西から)



SD104 検出 (南から)



SD105 検出 (東から)



SD106 検出 (東から)



SD108 完掘 (南から)



SD109 完掘 (西から)



SD110 完掘 (西から)



SD111 完掘 (東から)



SD113 完掘 (南から)



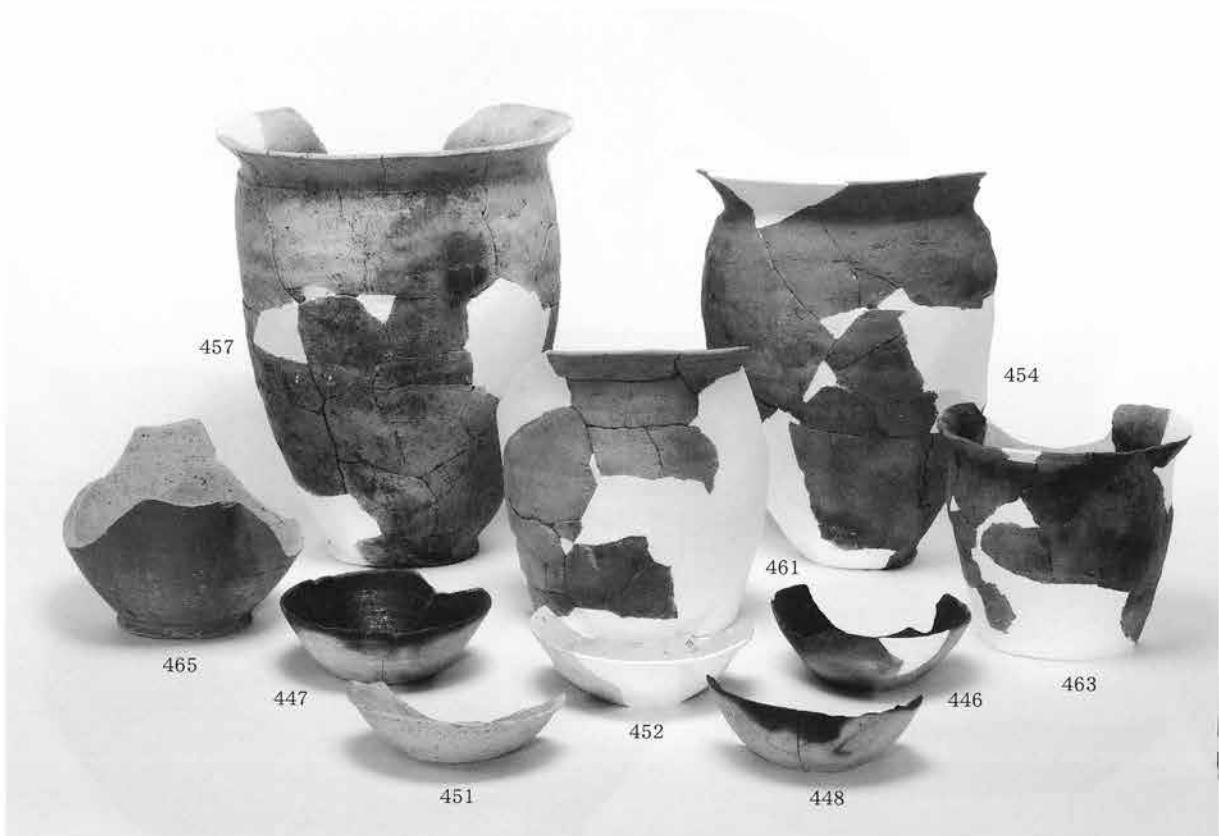
SD114 完掘 (北から)



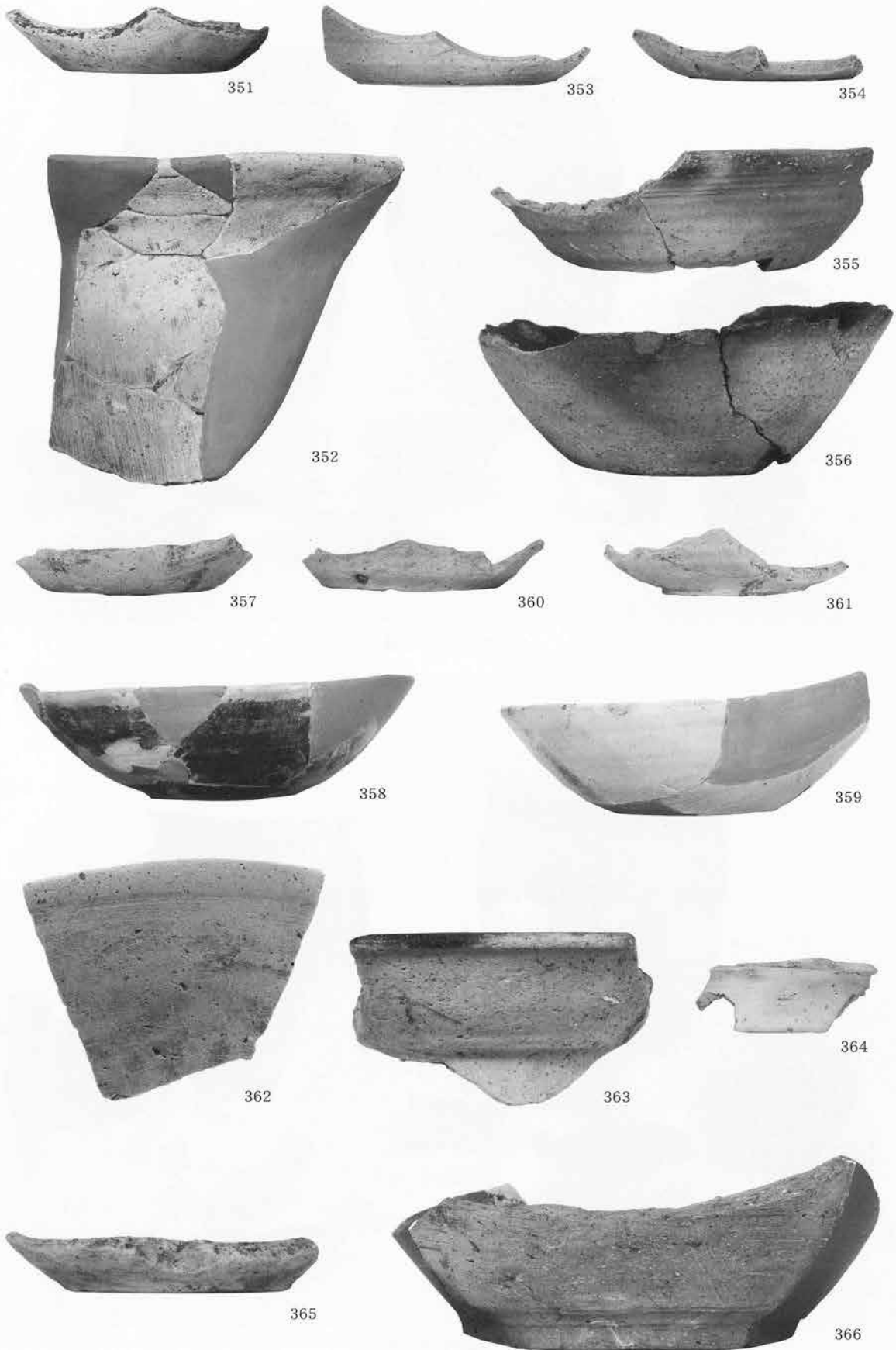
SD115 検出 (東から)



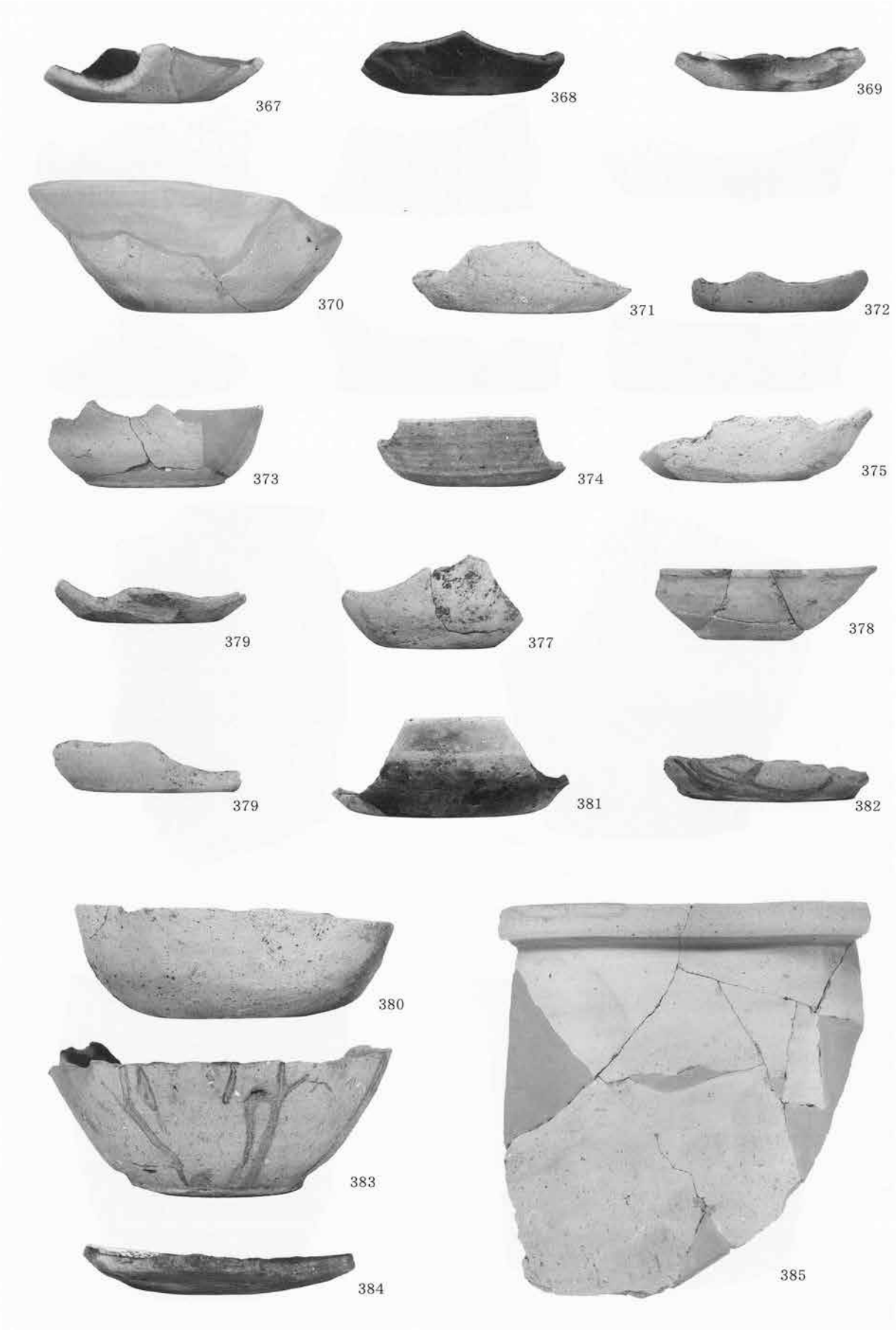
SI02 出土土器



SI05 出土土器



写真図版 105 土師器・須恵器 351 ~ 366



写真図版 106 土師器・須恵器 367 ~ 385



386



387



388



390



391



394



389



392

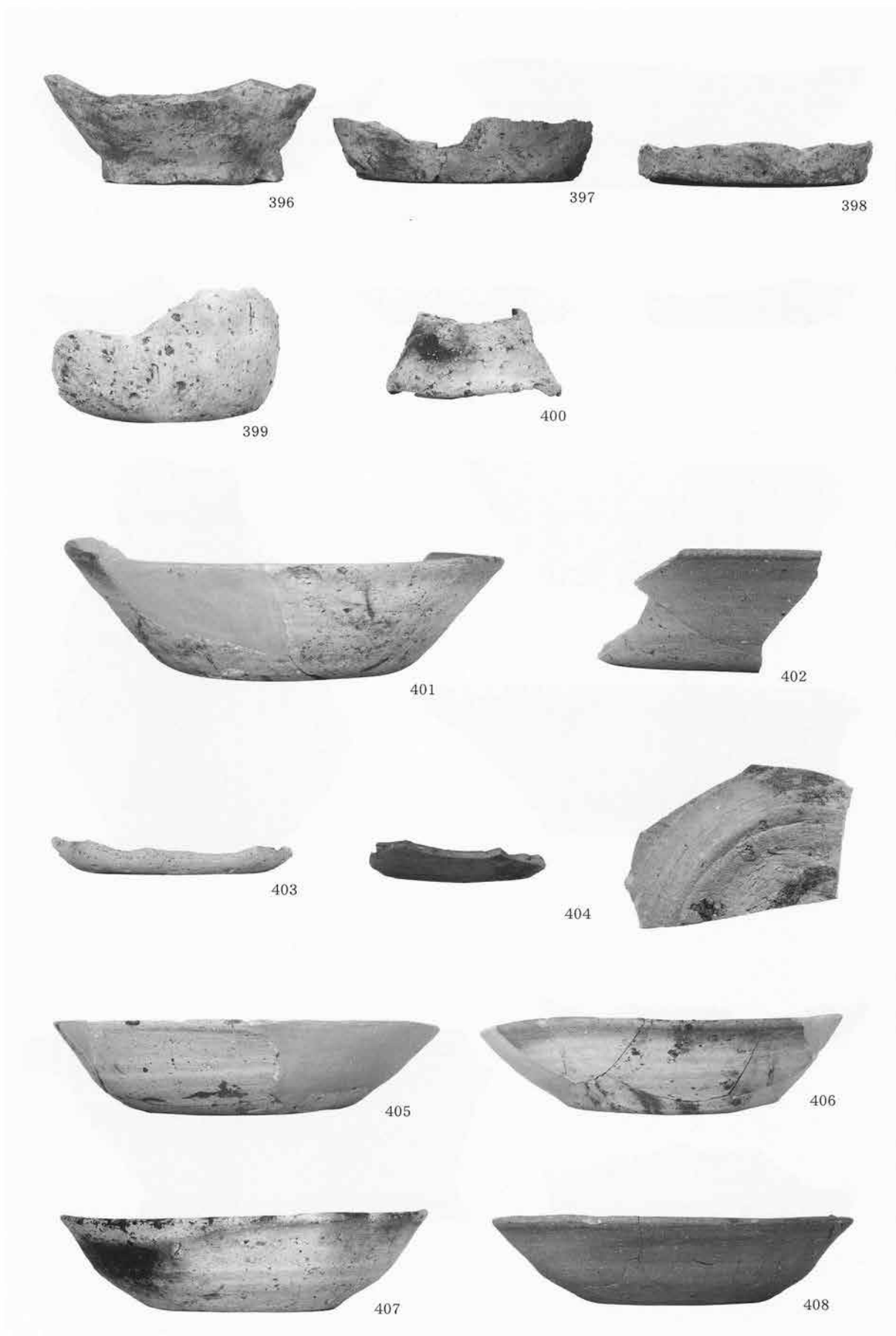


393



395

写真図版 107 土師器・須恵器 386～395



写真図版 108 土師器・須恵器 396～408



409



410



411



412



415



414



417



418



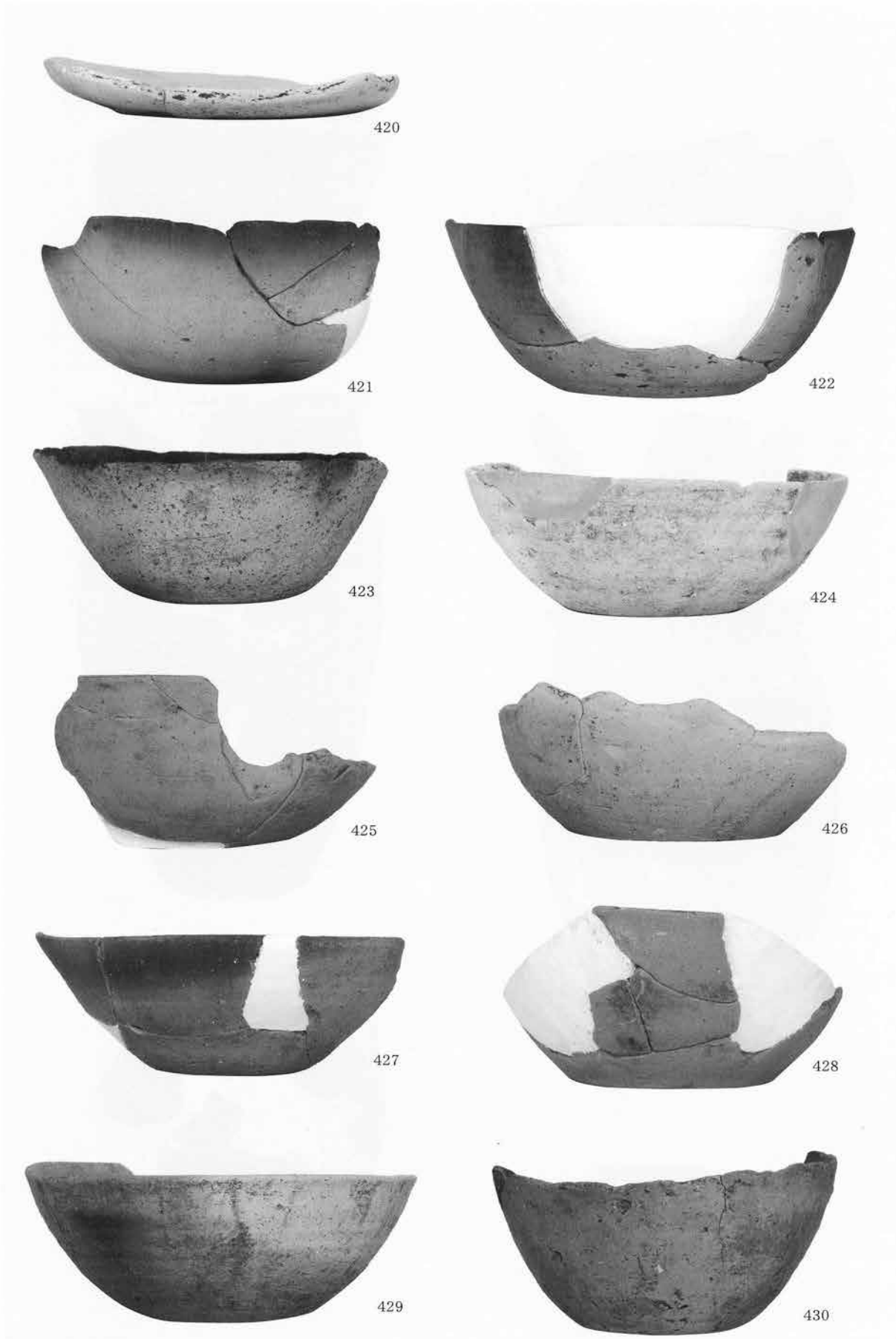
413



416



419



写真図版 110 土師器・須恵器 420～430



431



432



433



434



435

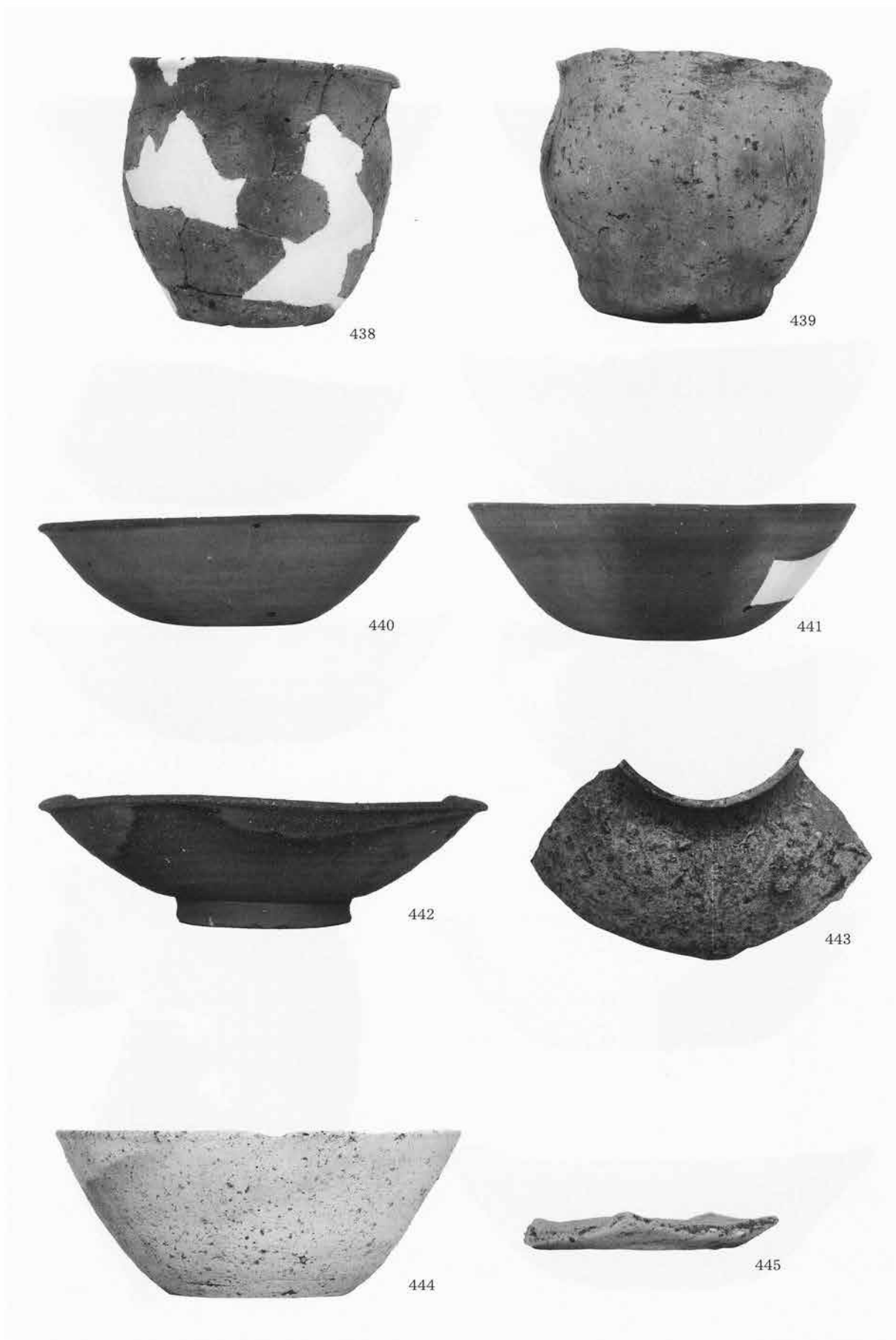


436



437

写真図版 111 土師器・須恵器 431～437



写真図版 112 土師器・須恵器 438 ~ 445



446



447



448



449



450



451



452



453



454

写真図版 113 土師器・須恵器 446 ~ 454



455



456



457



458



459



460

写真図版 114 土師器・須恵器 455～460



461



462



463



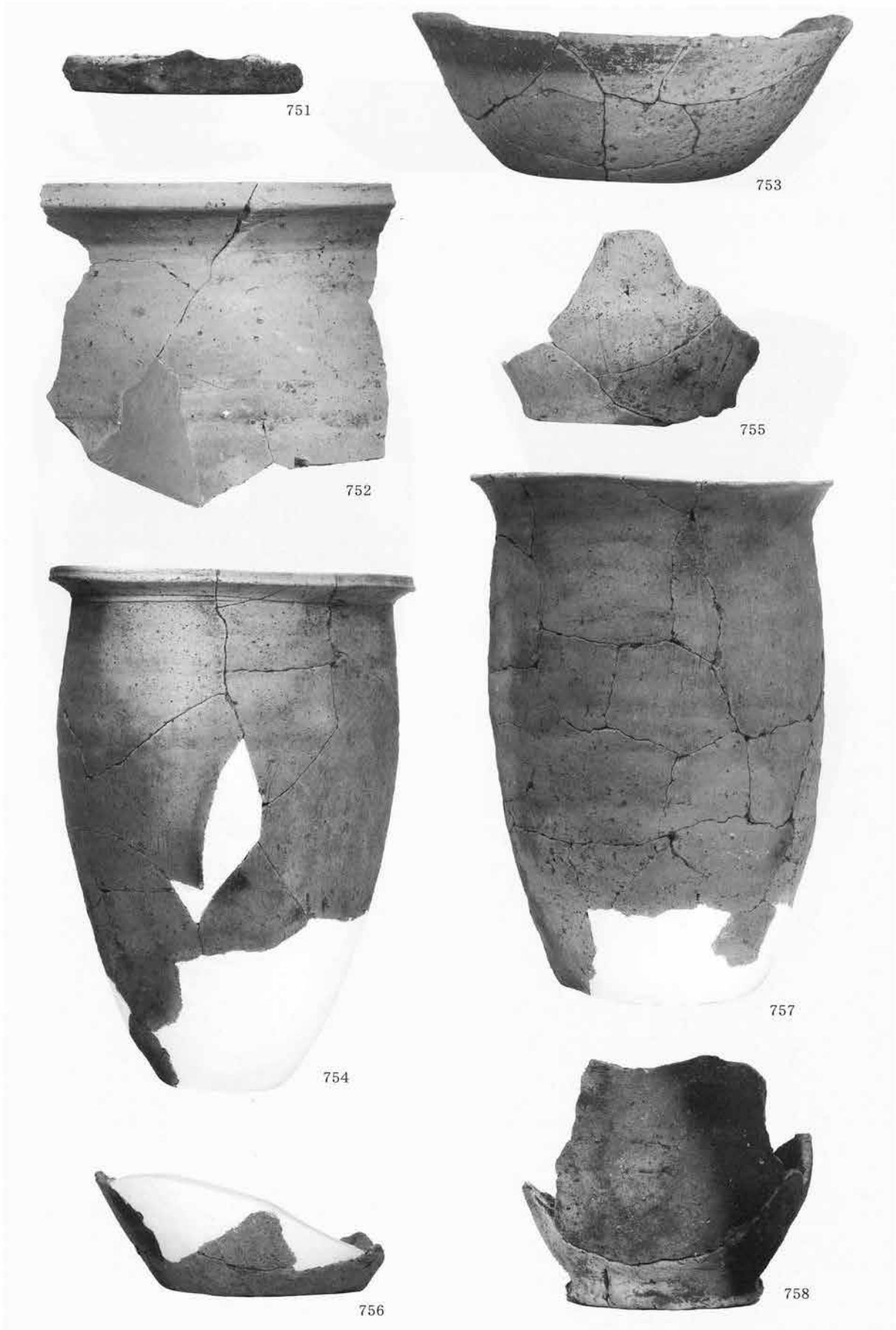
465



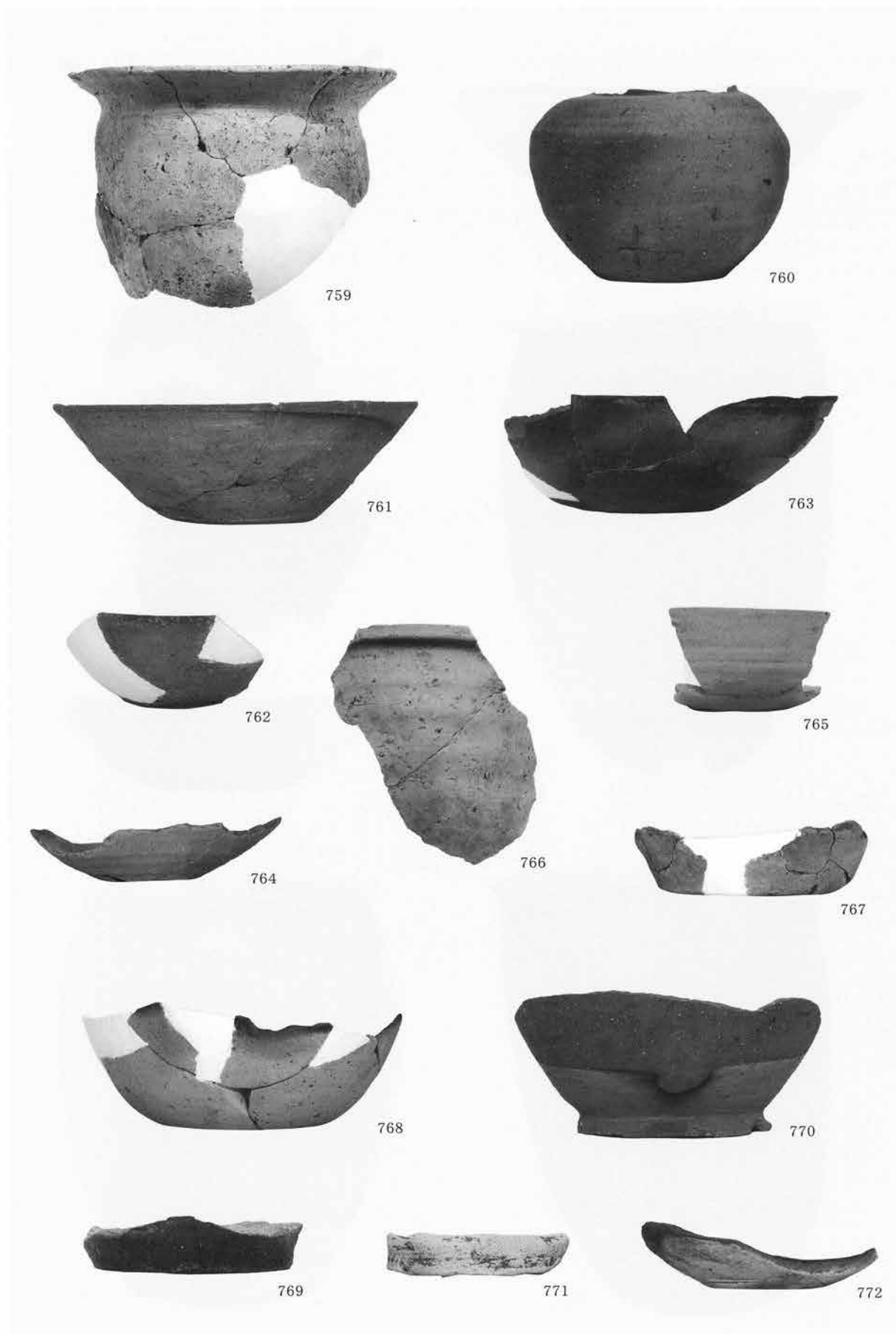
464



写真図版 116 土師器・須恵器 466～471



写真図版 117 土師器・須恵器 751 ~ 758



写真図版 118 土師器・須恵器 759～772



773



775



774



776



777



778



779

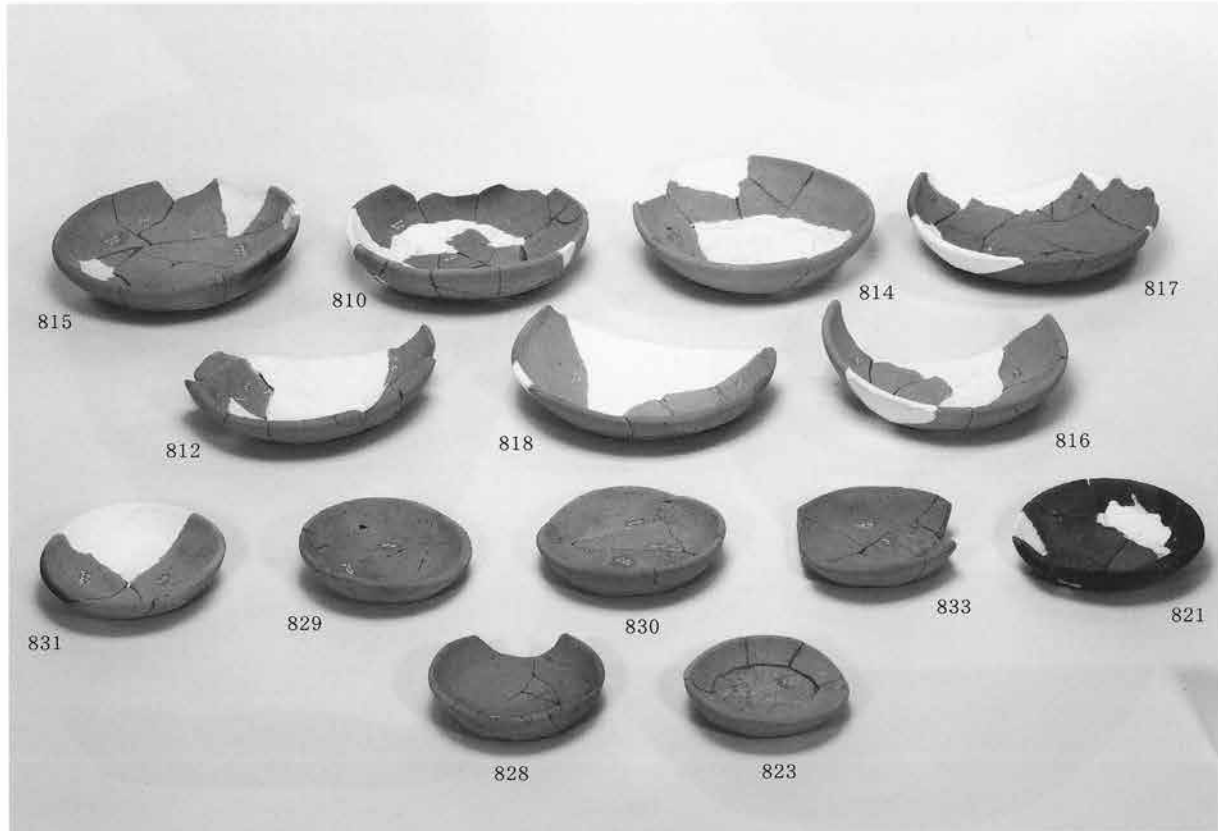
写真図版 119 土師器・須恵器 773～779



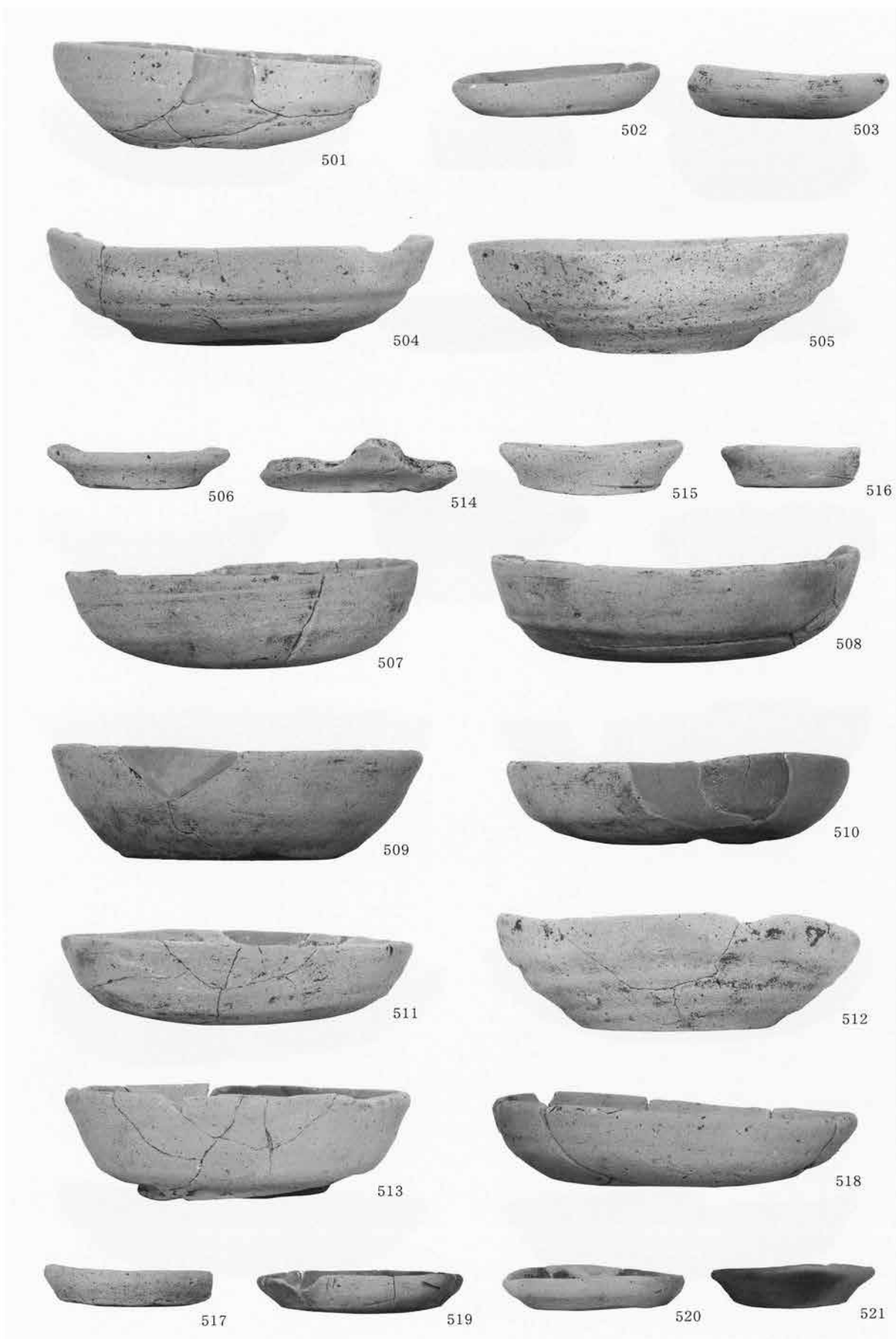
写真図版 120 土師器・須恵器 780～787



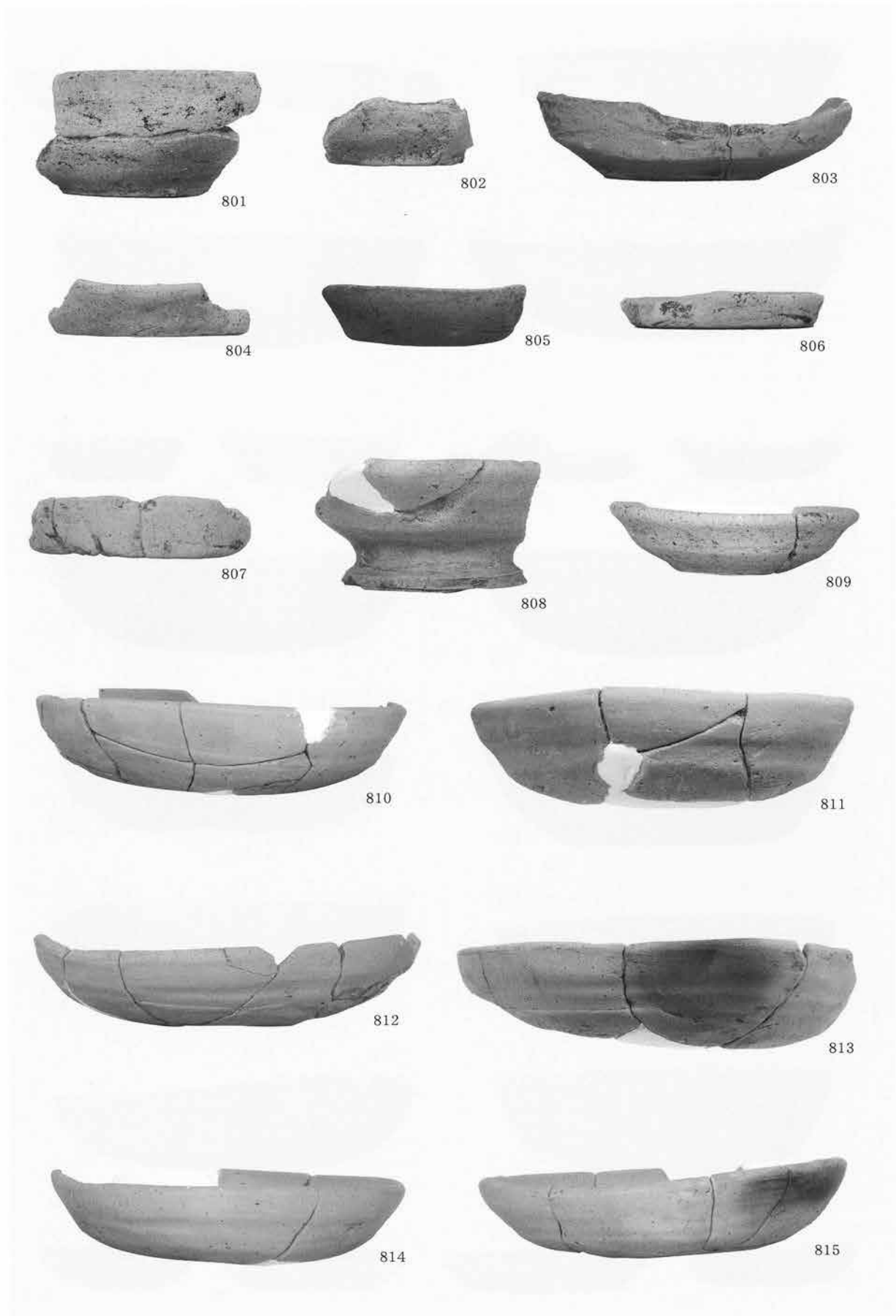
P242 出土土器



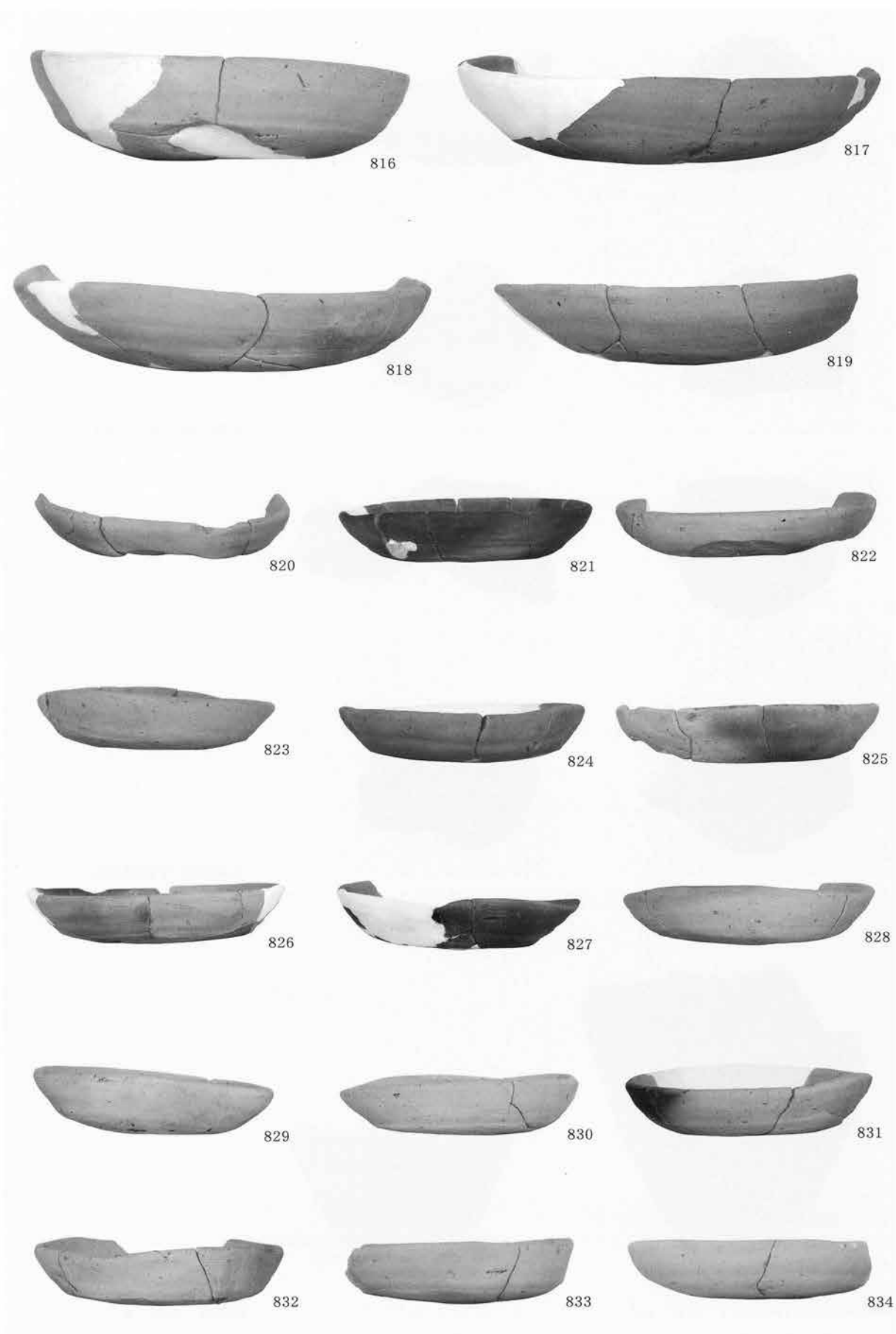
SK124 出土土器



写真図版 122 中世土器 501 ~ 521



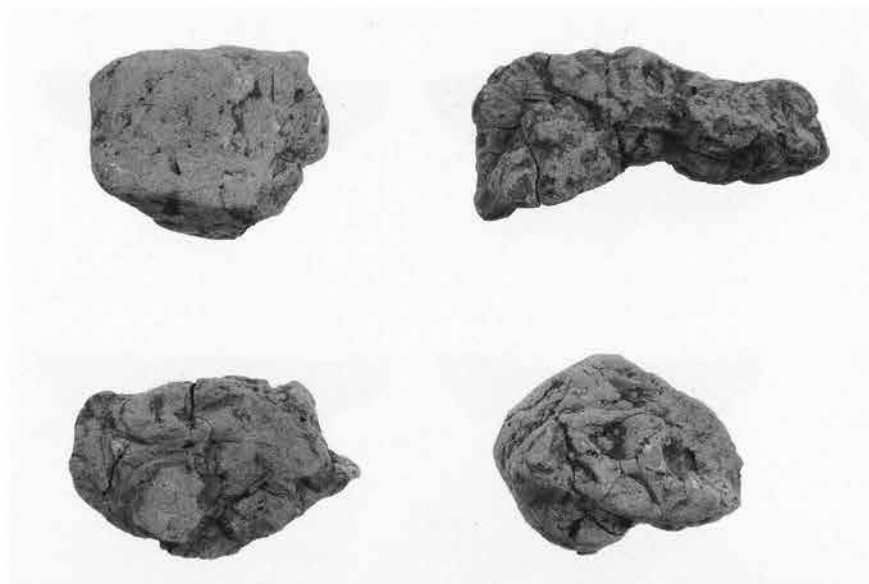
写真図版 123 中世土器 801 ~ 815



写真図版 124 中世土器 816 ~ 834



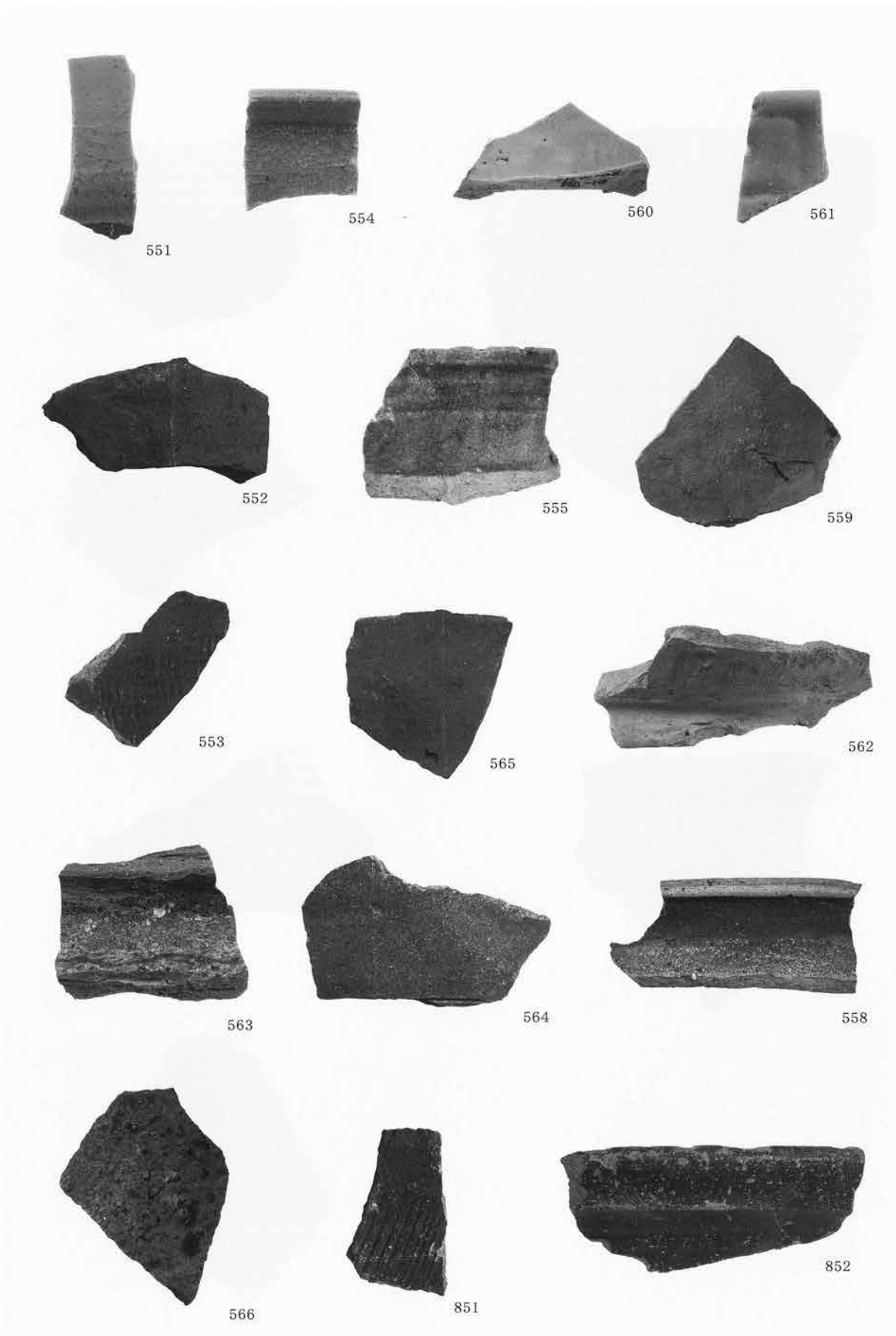
土壁外面 (P228 出土)



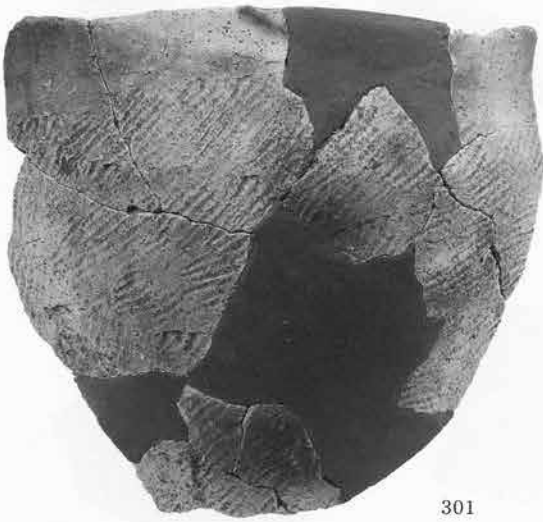
土壁内面 (P228 出土)



陶器壺 (SD01 出土)



写真図版 126 陶磁器 (551 ~ 555・558 ~ 566・851・852)



301



302



303



306



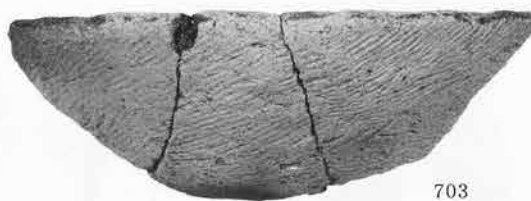
304



305



701



703



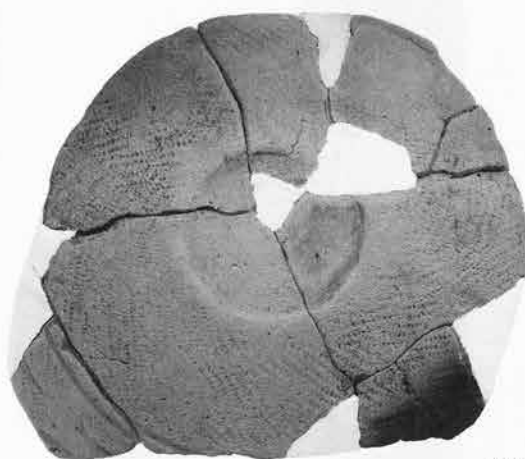
702



704



705



706



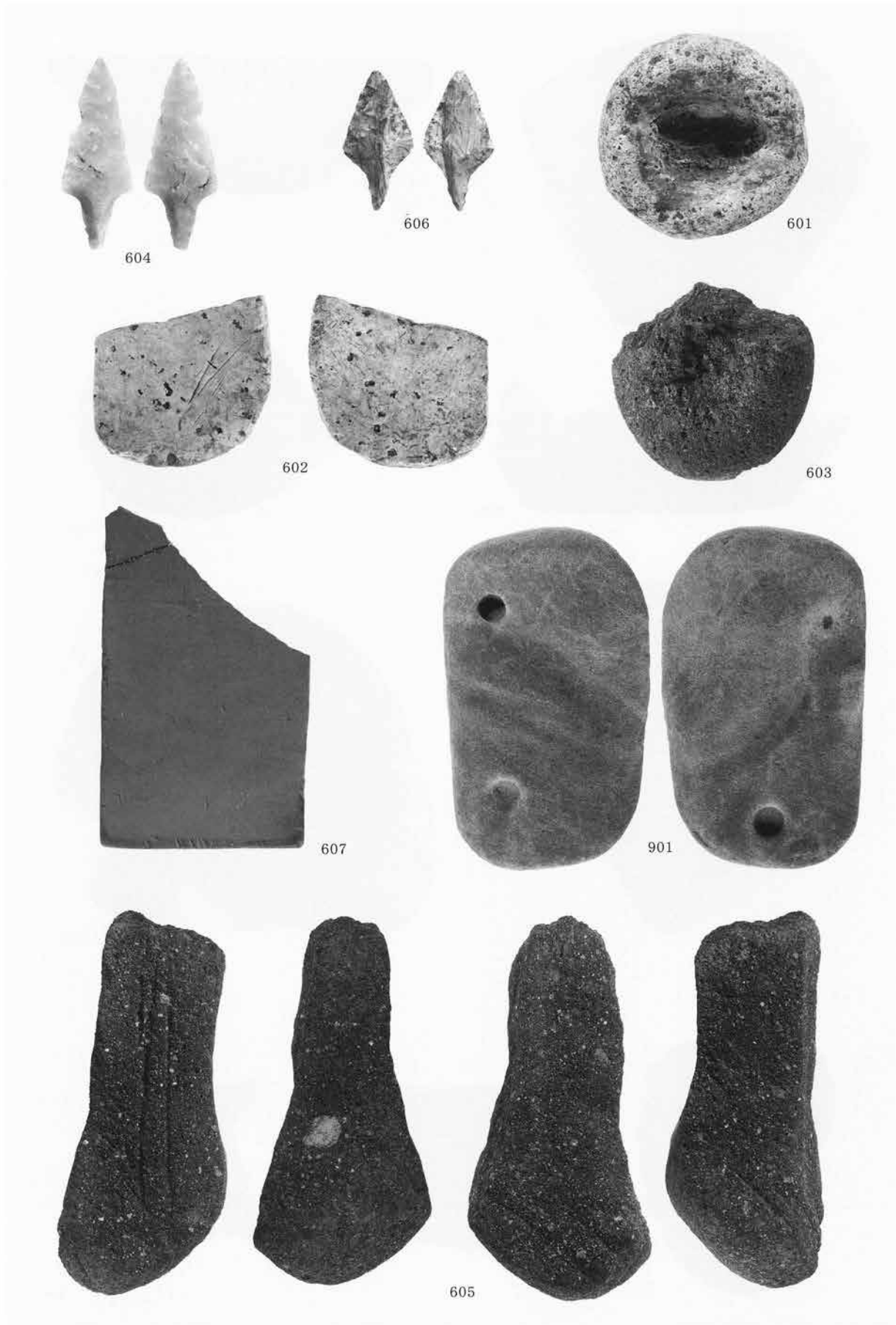
707



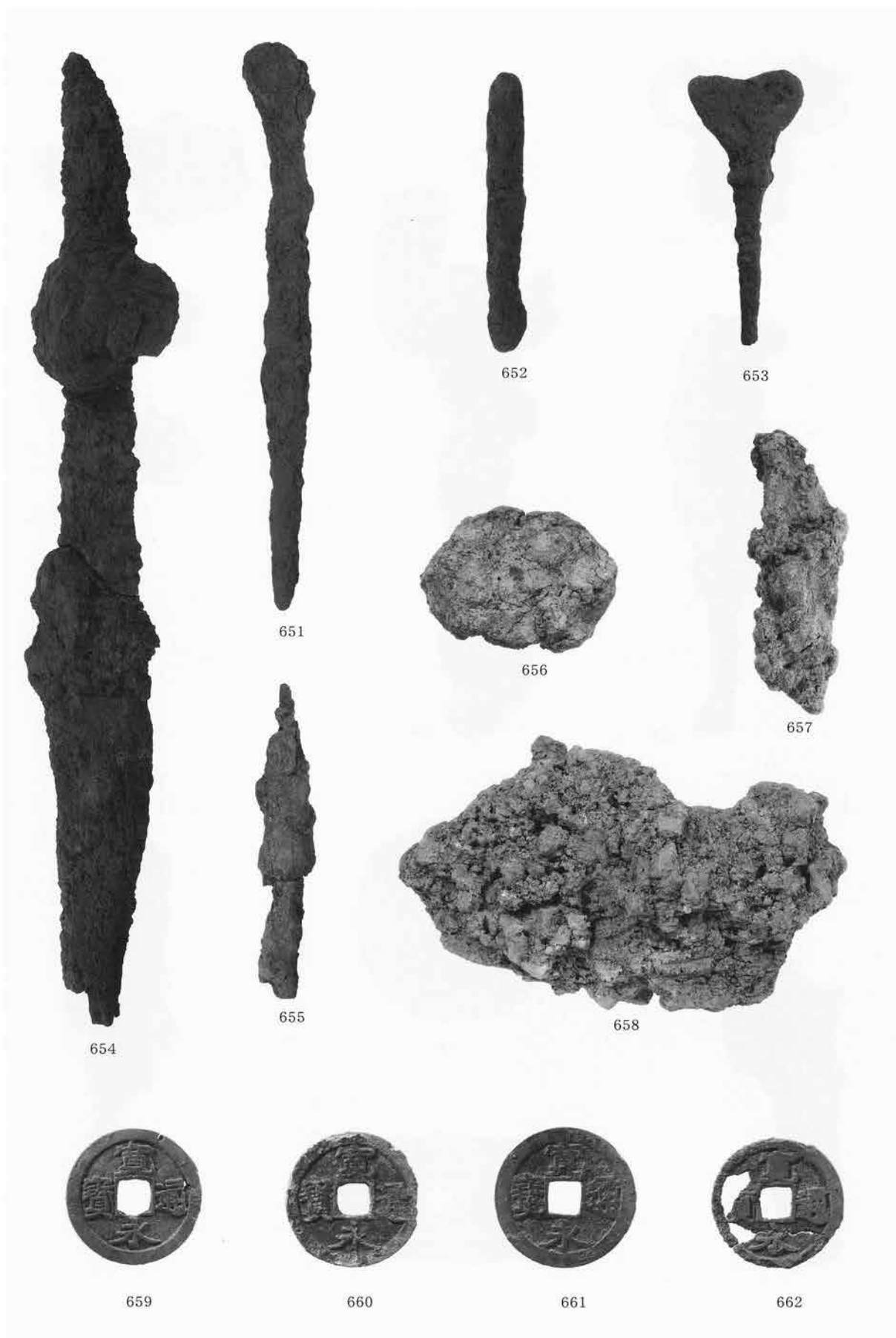
708



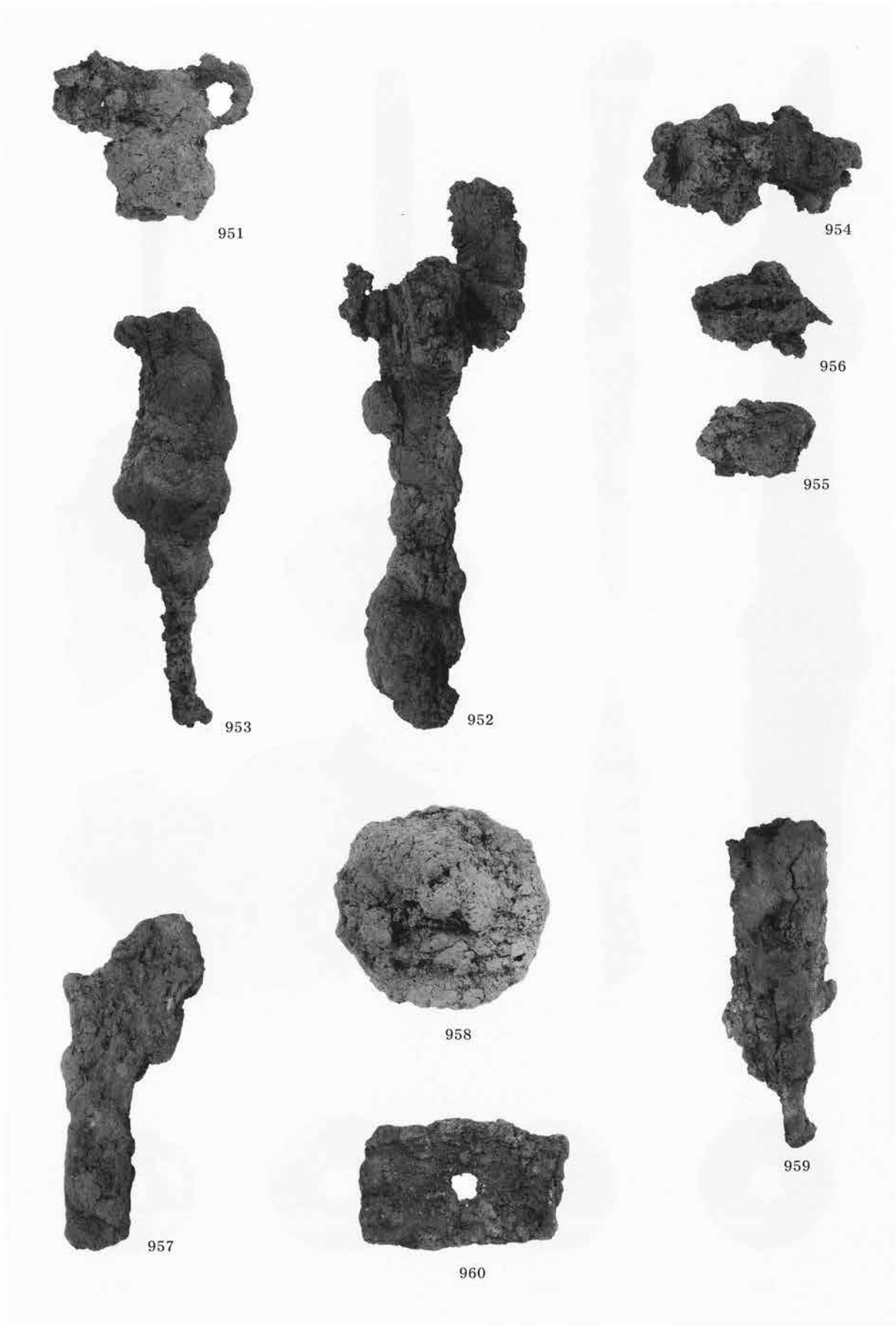
709



写真図版 129 石器・石製品 601～607・901



写真図版 130 金属製品 651 ~ 662



写真図版 131 金属製品 951 ~ 960

報告書抄録

ふりがな	しもかわら1・2いせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第564集							
編著者名	米田 寛・川又 晋・吉田泰治・八重畑ちか子							
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2011年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃	東経 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下川原Ⅰ遺跡 (第1次)	岩手県紫波郡 紫波町南日詰 字八坂208 ほか	03321	LE77-2159	39度 31分 22秒	141度 10分 44秒	2007.07.30 ～ 2007.10.31	4,437㎡	経営体育成基盤 整備事業南日詰 地区に伴う緊急 発掘調査
下川原Ⅰ遺跡 (第2次)	岩手県紫波郡 紫波町南日詰 字八坂44-1 ほか		LE77-2159	39度 31分 22秒	141度 10分 44秒	2008.04.10 ～ 2008.07.15	6,693㎡	
下川原Ⅱ遺跡 (第2次)	岩手県紫波郡 紫波町南日詰 字下川原 118-3ほか		LE77-2198	39度 31分 00秒	141度 10分 40秒	2008.07.16 ～ 2008.11.21	11,354㎡	
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
下川原Ⅰ遺跡 (第1次)	狩猟場 集落跡	縄文 古代 中世 近世	陥し穴3基 竪穴住居跡2棟 カマド状土坑1基 堂跡2棟 墓壙1基 墓関連土坑8基 掘立柱建物跡2棟 柱穴列2条 溝4条 廃棄場500㎡ 墓壙1基	縄文土器、土偶 須恵器、土師器 12世紀のかわらけ 12世紀の国産陶器 (常滑・渥美) 12世紀の中国産青 磁・白磁(龍泉窯系) 鉄製品 (刀子・手斧ほか) 簀	12世紀の堂跡を含む墓域 廃棄場			
下川原Ⅰ遺跡 (第2次)	狩猟場 集落跡	縄文 古代 中世以降	陥し穴17基 竪穴住居跡7棟 溝33条 土坑31基 畝間状遺構1箇所 柱穴状土坑798個	縄文土器・石鏃 須恵器・土師器 鉄製品(小刀ほか) 12世紀のかわらけ 12世紀の国産陶器 12世紀の中国産白磁	古代の大形竪穴住居 12世紀の建物跡・溝			
下川原Ⅱ遺跡 (第2次)	狩猟場 集落跡	縄文 古代 中世以降	陥し穴25基 竪穴住居跡5棟 溝14条 土坑30基 柱穴状土坑134個	縄文土器 須恵器・土師器 鉄製品(紡錘車ほか) 12世紀のかわらけ	12世紀の土器埋納土坑			
要約	下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡は、岩手県紫波郡紫波町南日詰に所在する。平成19・20年度の調査で、縄文時代から近世に至る遺構と遺物が数多く確認された。 特筆すべき成果は、平泉藤原氏の支配した12世紀の遺構と遺物である。確認した遺構は、堂跡・墓跡、柱穴、溝跡、廃棄場、土器埋納土坑などで、遺物は、土師質土器(かわらけ)、国産陶器、中国産磁器等が出土した。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 564 集

下川原 I・II 遺跡発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業南日詰地区関連遺跡発掘調査

印 刷 平成 23 年 2 月 23 日

発 行 平成 23 年 2 月 28 日

編 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地
電話 (019) 638-9001

発 行 岩手県盛岡広域振興局農政部農村整備室
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 11 番 1 号
電話 (019) 629-6697

(財) 岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話 (019) 654-2235

印 刷 永代印刷株式会社
〒020-0811 岩手県盛岡市川目町 23 番 10 号
電話 (019) 623-0111

